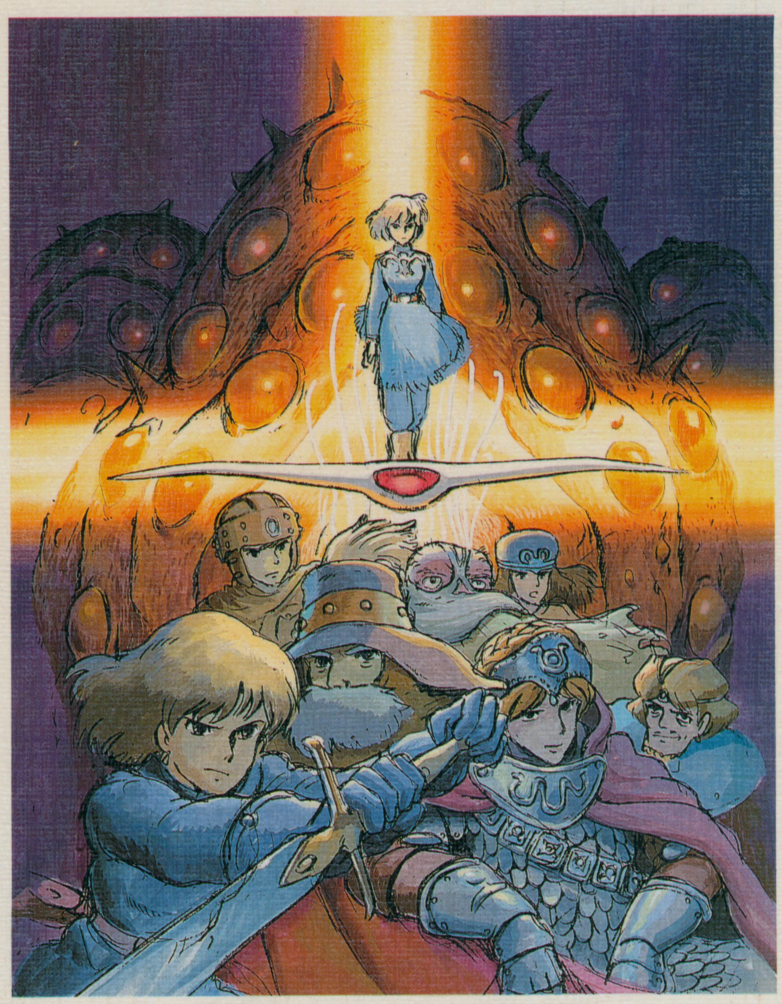
ジ・アート

THE ART OF JAPANESE ANIMATION II
70 YEARS OF THEATRICAL FILMS
劇場アニメ70年史



アニメージュ編集部編

劇場アニメ70年史

THE ART OF JAPANESE ANIMATION II
70 YEARS OF THEATRICAL FILMS

1917年(大正6年)、日本初のアニメーション映画といわれる「芋川椋三玄関番之巻」が公開されてから、70年の歳月が流れました。その間、製作された作品は教育用やPRフィルム等も含めると膨大な量におよび、劇場公開され、話題となる大作も続々と生まれています。

質、量ともにその発達ぶりには目を見張るものがあり、近年では海外にも広く輸出されて、好評を得ているようです。

このような状況の中、当アニメージュも創刊以来10周年を迎えることが出来ました。そこで、10周年記念として、劇場アニメ70年の歴史をふりかえる意味で、いままで制作された日本の劇場アニメ作品を集大成した本を出版させていただくことにいたしました。

この本を心からアニメを愛してやまないファンの方々へお届けしたいと思います。

It has been 70 years since "Imokawa Mukuzo genkanban no maki (a doorkeeper Imokawa Mukuzo)", which is said the first Japanese animation film, came out in 1917. During the past 70 years, the vast amount of animation works including educational films, P.R. films and so on, have made and have come out.

And still now, great works in the public eye have come into being one after another.

Both quantity and quality of animation films have developed strikingly, so in recent years many Japanese animation films are exported to foreign countries, and these seem be well received.

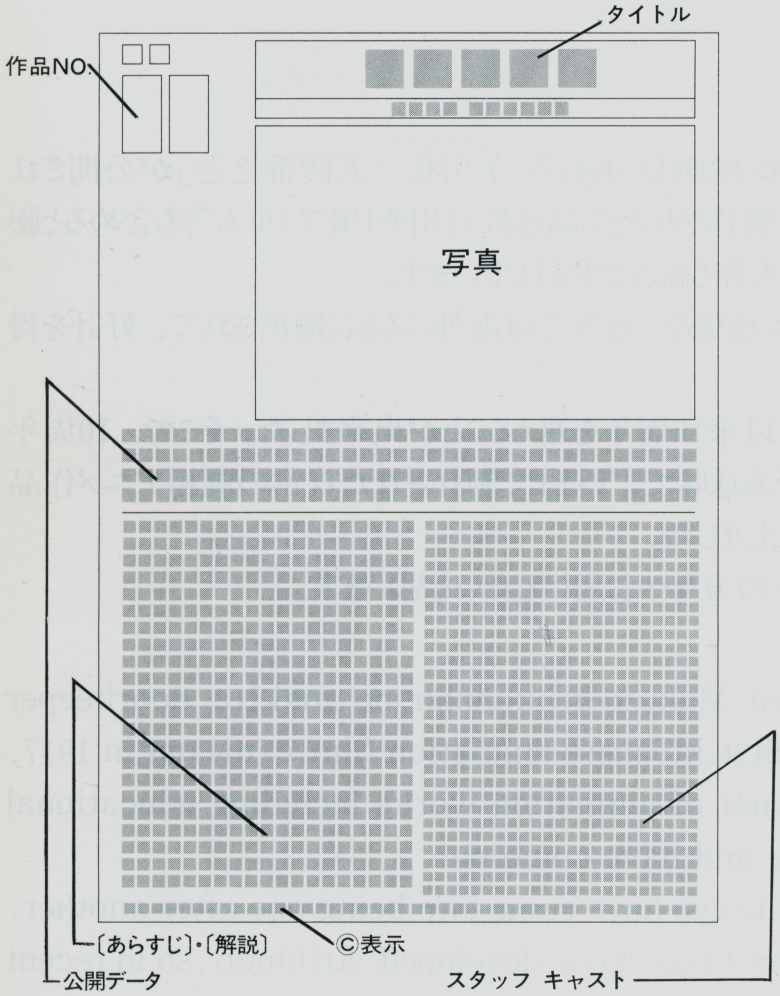
Under such situation, our "Animage" celebrates its 10th anniversary. Accordingly in memory of its 10th anniversary, we would like to publish a book in which we compiled the various Japanese animation films for theaters for the purpose of looking back on past 70 years history of animation works for theaters.

We dedicate this book to the fans who really love animations.

Thank you.

CONTENTS

こ　の　本　の　見　方



各作品の劇場封切日(公開日)、封切館の会社系統または配給会社名、分数(巻数)、公開時の併映作品名などを記載したデータ。なお、封切日は原則として東京地方を基準とし、地方のみの公開作品に限り、その地域での封切日を記してある。

各作品の製作、制作に携わった主要スタッフ及びキャストのデータ。原則として、すべてオープニング、エンディングのタイトルクレジット表記にしたがっている。誤字についてもなるべく原版のままにしてある。ただし主題歌のデータは、「アニメソングうたう会」所蔵の資料に基づき曲名などを補足してあり、キャストも編集部の判断で役名を若干補っている。なお、フィルム以外の資料を参照してデータを作成した場合には、その旨を末尾に記載した。

本書は、日本の劇場用アニメーション全作品を対象とした百科事典として編集されたものである。表題は「劇場アニメ70年史」と銘うたれているが、内容は〝通史〟というよりも、むしろ1作1作をアニメーション史的観点からとらえなおし、その作品的意義と相互間の影響とを大系的に網羅しようとした資料性重視の「作品辞典」の体裁をとっている。

劇場用アニメーションの分野は広範囲に及び、商業用、教育用、ＰＲ用と、その用途や公開方法もさまざまである。また、古い作品のなかには、現存しないものを含め製作年や公開形式が定かではない作品が多数存在している。そこで本書では、対象とする作品をその性格、公開形式に基づいて3種に分け、それぞれを第一部～第三部として紹介することにした。

第一部では、1917年（大正6年）に製作された「芋川椋三玄関番之巻」から1958年（昭和33年）の「ペンギンぼうやルルとキキ」までの全劇場用作品のうち、商業用、教育用などの別にかかわらず、アニメーション史的観点から見て重要と思われる132作品を選びだし、入手可能なものはその写真を掲載、さらに詳細なあらすじと解説、スタッフとキャストのデータを付記した（あらすじ不掲載のものは現存しない作品）。

第二部では、大規模商業用アニメーション時代の出発点となった1958年の「白蛇伝」から、1988年11月現在まで、商業館で封切公開された全アニメーション作品を紹介、第一部と同様に、その写真、あらすじ、解説、データと掲載した。

第三部では、非商業用作品全般を対象にし、1950年代から現在に至る主要な教育用作品、ＰＲ用作品、個人作家作品を紹介。同時にそれらを上映した各上映会、フィルムフェスティバルの大まかな流れについてもまとめてある。

なお、第一部で特に注記のないものは、全部白黒作品、逆に第二部では全部カラー作品である。第一部、第二部ともに作品はその公開（封切）日順に並べてあるが、封切日が不祥のものは作品完成の期日を基準に掲載順を決定した。ただし、作品配置の都合上、番号が前後している箇所もある。タイトルの下の英字は、海外輸出時のタイトル。斜体文字は、各製作会社の資料によるもの。正体文字は、海外在住のファンからの報告による。

●各作品の著作権表示©については、可能なかぎり、権利者に連絡をとりましたが、権利の主体がどうしても不明なものもありました。不明なものについては、©部分は空欄となっています。版権所有の方は編集部まで御連絡下さい。なお、©表示は'88年11月現在のものとなっています。

第一部

誕生と発展

――大正6年より昭和32年(白蛇伝以前)まで――

（渡辺　泰）

'17～24（大正6～14年）

日本で最初に活動写真（映画）が輸入公開されたのは1896年11月、神戸でのこと。以来、映像メディアとして映画の関心は急速に高まり、数多くの外国映画が公開され、撮影機が輸入されるや国産映画が作られ、発展の途をたどる。

日本の映画館で線画のアニメが初めて上映された記録(註＝コマ撮りによるトリック映画は除く）は、1914年4月15日、東京浅草の帝国館で封切られた「凸坊の新画帳」(原題"Isn't It Wonderful?")である。英国製のアニメであった。以来、外国アニメは「凸坊新画帳」のタイトルと副題がつけられ公開された。〝凸坊〟とは、日本の近代漫画の父といわれる北沢楽天（1876～1955）が時事新報の日曜版「時事漫画」に連載していた〝茶目と凸坊〟の漫画に人気が出ていたところから、つけられたものらしい。

外国アニメは面白かったのか、評判で、同年は計6本、翌'15年22本、'16年18本も公開されている。なかでも、アメリカのJ・R・ブレイ（1879～1978）制作の〝ヒーザ・ライア大佐〟シリーズは傑作だったとみえ、3年間で8本も公開されている。

日本の映画製作者たちが、外国アニメの人気を見逃すはずがなく、'15年ごろから研究に乗り出した。トップバッターは日活向島撮影所。洋画家だった**北山清太郎**を嘱託として、研究させていた。一方、天活でも'16年、楽天門下の漫画家**下川凹天**と契約し、アニメ製作を依頼した。当時はおそらく外国の文献もなにもなく、外国アニメのフィルムを手にとって研究するより方法はなかったと思われる。全く手探りの状態でのスタートであった。これら他社のアニメ製作のニュースをキャッチしたのか、小林商会を設立した辣腕プロデューサー小林喜三郎が漫画誌「東京パック」の売れっ子漫画家の**幸内純一**を引き抜き、独自にアニメを作らせた。

3社競作の形となったが、日本公開第1作は下川の「芋川椋三玄関番之巻」で、'17年1月の公開。ついで北山の「猿蟹合戦」が5月公開。幸内は少し遅れて、6月に「塙凹内名刀之巻」が公開され、3人の創始者によって国産アニメの歴史はスタート。次いで**山本早苗**、**木村白山**、**大藤信郎**らが登場することとなる。

NO. 1 芋川椋三玄関番之巻（いもかわむくぞう）



'17年1月（公開日不詳）東京・浅草キネマ倶楽部封切　1巻

〔解説〕日本で最初のこのアニメを作った下川凹天(本名・貞矩、1892年沖縄生まれ)は1900年上京。'06年小学校卒業、日本の近代漫画の生みの親、北沢楽天に弟子入り、漫画を学ぶ。'05年に北沢が創刊した大型漫画雑誌「東京パック」の編集を手伝うとともに同誌に漫画を描いた。激しい気性のため楽天の怒りにふれ破門される。'16年天活(天然色活動写真株式会社)が国産アニメ製作を企画。当時、東京パック社勤務だった下川に白羽の矢が立てられた。同社広告部が天活へ下川を推薦。天活太田専務と下川の間で、専属契約が成立。当時、日本ではアニメ制作の資料が全くなく、苦労したらしい。最初は黒板にチョークで描き、撮影したが失敗。次いで、三種類くらい書いた背景を印刷、その上に人間や動物のキャラクターを描いた。トレスする電球の直射光で眼を悪くし、下川は一年半の間に5本を作っただけで同社を辞した。以後新聞漫画を描く。'13年死去。アニメの作風は武骨な固さのなかにユーモラスな味があったと伝えられる。

製作・天活(天然色活動写真株式会社)　作画、演出・下川凹夫

NO. 2 猿蟹合戦



'17年5月20日　浅草オペラ館封切　1巻92m 5分

〔解説〕北山清太郎（1889年生まれ、号は紫巒）は水彩画家の大下藤次郎に師事し洋画を学んだ。岸田劉生や木村荘八らが所属していた美術団体〝ヒューザン会〟のメンバーで、美術雑誌「現代の美術」の編集も担当していた。日活(日本活動株式会社＝1912年吉沢商店、横田商会、エム・パテー商会、福宝堂の4社が合併設立。現在の〝にっかつ〟の前身）向島撮影所考案係の新海文次郎の企画で同社でも国産アニメを製作することになった。北山が日活入りしたのは同社専務の鈴木要三郎の知己を得たからで、当初は字幕タイトルを描いていた。北山の所属は漫画及び字幕撮影部で、主任であった。北山は'15年秋ころから研究を開始。実際に撮影を開始したのは'16年1月で、天活に先を越された。北山の門弟として嶺田弘、戸田早苗、山川国雄が入社。撮影は高城泰策で助手に金井喜一郎がいた。'21年独立し「北山映画製作所」設立。数多くのアニメを製作したが'23年9月の大震災で全てを失い、弟子たちを残し関西へ移住。アニメから足を洗った。

製作・日活向島(日本活動写真株式会社向島撮影所)
企画、作画、演出・北山清太郎　撮影・高城泰策

NO. 3 塙凹内名刀之巻（はなわへこない）

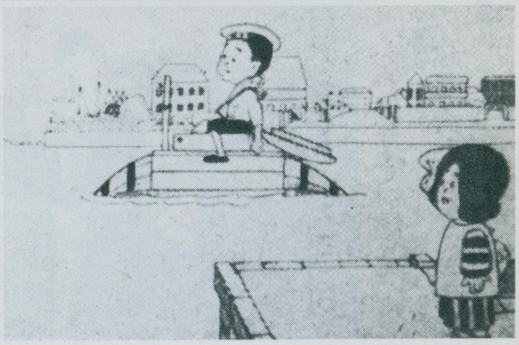


'17年6月30日　浅草帝国館封切　1巻

〔解説〕作者の幸内純一は1886年岡山生まれ。上京し、太平洋洋画会で絵画を学ぶ。1907年12月、下川凹天もいた東京パック社入社。北沢楽天門下生として政治漫画を描く。'16年10月、小林喜三郎が映画製作の小林商会設立。小林が幸内をトレード、アニメ製作を依頼。試行錯誤の末に第1作「なまくら刀」を作る。劇場公開時には「塙凹内名刀之巻」と改題公開されたが、日活の第1作より遅れ6月30日であった。内容は名刀とだまされて鈍刀を買わされた凹内という主人公が、河岸で按摩を試し斬りしようとして、反対に馬鹿にされる。この作品の映画評が当時の映画雑誌「活動之世界」（'17年9月号）に載った。文献でのアニメ評はこれが最初だろう。評は、天活、日活作品より一段と良いとほめている。'18年小林商会が経営難で映画製作は中止。幸内は毎夕新聞で政治漫画を描く。'23年再度アニメ製作を開始。'30年の「ちょん切れ蛇」を最後にアニメを離れ、'70年死去。弟子が大藤信郎である。

製作・小林商会　作画、演出・幸内純一

NO. 4 太郎の番兵・潜航艇之巻

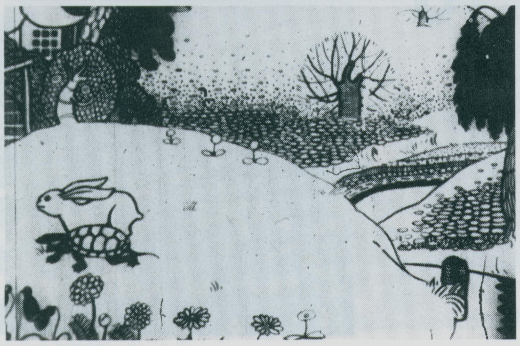


'18年8月4日　浅草オペラ館封切　1巻

〔解説〕北山作品はおとぎ話に題材をとったものが多かったが、現代物アニメ「太郎の番兵」が好評だったので、第2作ができた。太郎という名の少年が主人公で、兵隊ごっこのまねごとをするアニメだったらしい。この作品もビヤ樽を改造したような木製潜水艇に乗り組んで活躍するアニメらしく、ガール・フレンドも登場する。

製作・日活向島　作画、演出・北山清太郎

NO. 5 兎と亀



'24年完成（公開日、上映館不詳）1巻

〔解説〕1921年、日活から独立した北山清太郎は自分のスタジオ・北山映画製作所を設立。北山の門下生として、木村白山、金井喜一郎、嶺田弘（のち挿絵画家として大成）、山本早苗らがいた。'23年9月の関東大震災で東京は大被害を受け、アニメ製作どころではなく、主宰者の北山は関西へ引きあげた。残されたスタッフは北山不在のまま、山本早苗をリーダー格に、震災後、最初に作ったのが「兎と亀」。文部省唱歌の「もしもし亀よ」の歌をもとに、忠実にアニメ化した作品だが、背景がグラフィック・デザイン調で非常にモダンな感覚である。

製作・北山映画製作所　作画、演出・山本早苗

NO. 6 塩原多助



'25年完成（公開日、上映館不詳）2巻

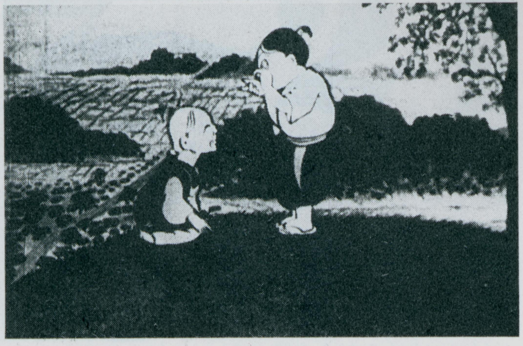
〔あらすじ〕初代三遊亭円朝の人情噺「塩原多助一代記」のアニメ化で、不幸な生いたちにもかかわらず、人一倍働く多助は成功する。勤倹貯蓄をテーマとした教訓アニメ。

〔解説〕作者の木村白山は、生年も詳しい経歴も不詳だが、大正時代から映画館の看板絵や博覧会場の背景画を描いていた職人だったらしい。外国アニメを見て以来、北山清太郎に弟子入り。先輩の橋口寿からアニメ製作の技法を学ぶ。1924年、朝日キネマ社長は木村の腕を見こんでアニメ製作を依頼。当時のアニメは児童教育用作品が多かったが、木村は現在の劇画調の大人向きアニメを多く作った。作品も浪曲や講談の世界から題材を得ている。'32年彼の作と伝えられる、我国初（？）のポルノ・アニメ「すずみ船」を製作。本人もフィルムも小石川署に検挙され、アニメ作家の道を閉ざされたらしい。有能な作家だっただけに、その才能が惜しまれる。

製作・朝日キネマ　作画、演出・木村白山

NO. 7

姥捨山



'25年完成（公開日、上映館不詳） 3巻

〔あらすじ〕昔、老人を捨てる掟のある国のこと。若者は年老いた母を捨てるにしのびず、かくまう。隣国から難題が持ちこまれ、殿様は困り果てる。それを聞いた若者は、こっそり老母の智恵を借り、難題を解き、国の危機を救う。殿様は深く反省し、以後、老人を大切にするようになった。
〔解説〕山本早苗（本名・戸田善次郎、山本姓は1924年から。1898年千葉県生まれ）は横浜に住み、東京本郷の川端画学校で日本画を学ぶ。1918年、北山映画製作所にアルバイト学生として入り、北山清太郎よりアニメ製作を学ぶ。'25年独立し、山本漫画製作所を設立。文部省委託の教育アニメを多く作る。戦時中は国策アニメを作る。戦後、日動映画社を作り、'56年東映に買収され東映動画の取締役となる。'68年勲5等瑞宝章受章。'81年死去。第1作「姥捨山」は東北に伝わる説話を切紙アニメ化。敬老精神がテーマ。

製作・東京漫画倶楽部　作画、演出・戸田（山本）早苗　撮影・近藤正志　字幕・樺山栄司　12分

NO. 8

ノンキナトウサン竜宮参り



'25年完成（公開日、上映館不詳） 1巻

〔あらすじ〕ノンキナトウサンは働くのが嫌いで遊び好き。ある日、亀のタクシーに乗って竜宮へ遊びに行く。遊びあきて、我家が恋しくなり、乙姫にお土産の玉手箱をもらい、帰って箱を開けると、なかから鬼が出てきて竜宮のツケの借金を返せとせめられるが、夢だった。目覚めたトウさんは、よく働くようになった。
〔解説〕1923年9月の関東大震災は大衆に大打撃を与えたが、その痛手をやわらげるような愉快な漫画が登場した。「ノンキナトウサン」である。麻生豊が'24年1月から報知新聞「日曜版」に連載したナンセンス漫画で、主人公は団子鼻、鉄ぶち目鏡、ドジョウひげをはやし、絣の着物に、黒羽織のスタイル。性格は底抜けに明るく、お人好し。この漫画は一躍人気を集め、日曜版から日刊紙への連載と昇格、好評で5年間続いた。当時は、漫画のキャラクターに版権もなく、主人公の人形や浴衣、手拭まで作られ、〝ノントウ〟なる新語まで流行した。マスコミの人気者がアニメ化された第1号である。子供より大人向きのアニメ。

製作会社不詳　作画、演出・木村白山

NO. 9

馬具田城の盗賊





'26年6月10日　新宿武蔵野館封切　3巻686m38分

〔解説〕大藤信郎（本名・信七郎1900～74）は浅草生まれの江戸っ子。アニメに興味を持ち、幸内純一に弟子入り、技術を学んだ。アニメ製作の素材として、江戸時代から伝わる千代紙の使用を考案。背景、キャラクターに応用したアイデアはユニークであったが、元来千代紙の美しさはカラーで見てこそ価値がある。モノクロの画面では千代紙を使用した効果が半減されてしまったのは惜しまれる。第1作は時代劇で、内容はアメリカで大評判だったダグラス・フェアバンクス主演の活劇映画「バグダッドの盗賊」（1924年、日本公開は'25年）を日本向けに翻案したといわれる。詳細なストーリーはフィルムが残存せずわからない。

製作・自由映画研究所　配給・中央映画社　作画、演出・大藤信郎

NO. 10

孫悟空物語



'26年10月29日　新宿武蔵野館封切　3巻

〔あらすじ〕第1作「馬具田城の盗賊」が好評で第2作も千代紙アニメで製作された。物語は「西遊記」の話で、昔、中国に一匹の猿が生まれた。雲に乗り、魔法の棒を使い、猿仲間から〝孫悟空〟と呼ばれ、人気者となった。人気が出てくるにつれ増長し、いたずらがすぎて観世音菩薩の怒りにふれ、石のなかに閉じこめられる。ちょうどその時、天竺へ経文をもらいに行く三蔵法師に助けられ、弟子となる。途中、猪八戒、沙悟浄と出会い、三蔵法師を狙う妖怪・悪魔を退治し、困難の末に天竺にたどり着く。

製作・自由映画研究所　配給・中央映画社　作画、演出・大藤信郎

'26～35（昭和2～10年）

1926年、アメリカのワーナー映画がトーキー開発研究に着手。翌'27年、世界初の発声映画「ジャズ・シンガー」を公開、トーキー時代を迎えた。アニメは'28年、ウォルト・ディズニーがミッキー・マウス主演の「蒸気船ウィリー」を公開。日本では'29年５月、アメリカのトーキー劇映画「南海の唄」「進軍」が初公開されたが、トーキーはやがて多くの弁士や伴奏楽士たちの死活問題となってゆく。国産トーキーは'31年、松竹が土橋式トーキー「マダムと女房」を公開。アニメ界でもトーキー研究を開始したが、個人企業が多く、遅々として進まなかった。

一方、'23年９月の関東大震災により、映画界は打撃を受けたものの、アニメ業界は小人数の企業だったため、再開も早かった。だが創始者の一人北山は、自身の北山映画製作所を捨てて関西へ移住。大阪毎日新聞社でニュース映画の撮影を担当し、アニメ界から足を洗った。しかし残された門下生の山本早苗、**金井喜一郎**らの人材が活躍しはじめた。

'25年ごろから文部省が児童の社会教育用の映画制作に力を入れはじめた。もちろん、アニメも制作し、視聴覚教育の一環として利用した。独立した山本は山本漫画製作所を設立、もっぱら文部省委託の教訓的なアニメを多く作った。

震災後に創立した横浜シネマ商会は、教育用映画に重点を置き、数多くの教材映画を制作。同社でタイトルを描いていた**村田安司**は才能を見込まれ、アニメ制作を命じられた。村田の作品は子供たちが喜ぶ動物もののキャラクターが多く、人気が出て同社の看板となった。村田は従来の手工業的なアニメ撮影を、モーターを利用し、正確なコマ撮り撮影の出来る装置を開発。制作の合理化にも貢献している。

千代紙アニメ、影絵アニメと、全くのワンマン制作ながらユニークな作品を発表して注目された大藤信郎は、'29年レコードを使用したトーキー作品「黒ニャゴ」を公開。一方、京都では新人の**政岡憲三**の処女作「難船ス物語・猿ヶ島」が話題となり、松竹は'32年、政岡に国産初のトーキー・アニメ「力と女の世の中」を作らせた。**瀬尾光世**、**大石郁雄**らの活躍も目立った。'34年頃から全作品がトーキーに移行した。

NO. 11 みかん船

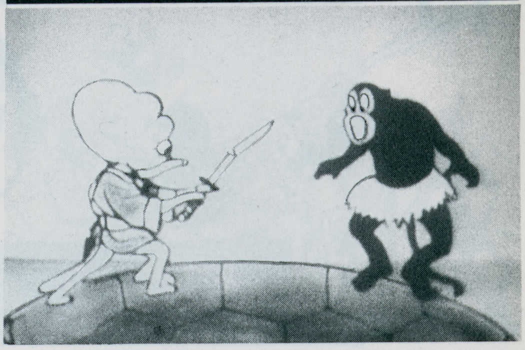


'27年２月11日　新宿武蔵野館封切　２巻

〔あらすじ〕千代紙映画第３作。嵐の海をはるばる紀州から江戸へ、みかんを積んで運ぶ豪商・紀伊国屋文左衛門が活躍するアニメ。ラストはかっぽれの総おどりとなるにぎやかな作品

製作・大藤信郎プロダクション　配給・中央映画社　作画、演出・大藤信郎

NO. 12 蛸の骨



'27年11月完成・発売（公開日、上映館不詳）１巻367m20分

〔あらすじ〕竜宮城の乙姫が重病にかかり、病気をなおすには、生きた猿の肝が必要とわかる。魚の重臣たちは協議の結果、家来の蛸に猿を生け捕りせよと使者を命ずる。蛸は目的地で猿をだまし、つかまえて亀の背中に乗せ竜宮へ向かう。途中、つい調子にのって、猿に目的を話す。かしこい猿に逃げられ、蛸は失敗の責任をとって自ら体の骨を抜きとってお詫びし、竜宮から立ち去る。以来、蛸には骨がなく、ぐにゃぐにゃの体になったという昔話のアニメ化。

〔解説〕村田安司（1896～1966年）は横浜に生まれ、画家になりたくて映画館の看板描きののち横浜シネマ入社。タイトル字幕を描きながら外国アニメのフィルムを見て研究。同社でアニメの自主製作を開始。切紙アニメを専門にしたが、従来の手動撮影の職人芸を、モーター使用のコマ撮り撮影の技術を開発して作業能率を高めた功績も大。切り紙アニメの本格的な作品が「蛸の骨」で、村田安司の名を高めた。

製作・横浜シネマ商会　原案、脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司　撮影・上野行清

NO. 13 鯨



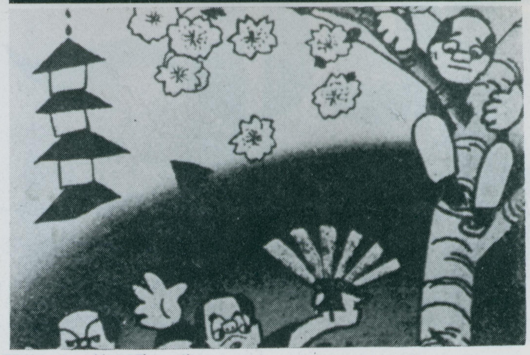
'27年11月完成（公開日、上映館不詳） I 巻

〔あらすじ〕商人、武士、美しい娘を乗せた船が嵐にあい難破。翌朝、船の破片にすがった3人の男と娘が生き残っていた。助かった男たちは、漂流中も娘目当に醜い争いを起こす。突然、大鯨が現れ4人をのみこむ。鯨の腹の中では、男たちは娘のことも忘れ、自分だけ助かろうと必死になる。鯨が潮を吹いた拍子に4人は吹き上げられ鯨の背中へ投げ出される。男たちは助かり、娘も生き残ったのがわかると、またもや争いをはじめる。見守っていた海神の怒りにふれて男たちは海中に沈められる。静かに泳ぎ去る鯨の背の上で、娘は一人眠り続ける。

〔解説〕1924年に日本で初公開されたドイツの影絵アニメ「カリフの鶴」(1923年E・M・シューマッハ製作)は、後年のロッテ・ライニガーの「アクメッド王子の冒険」の前身ともいえる秀れた作品で、日本のアニメ製作者たちに衝撃を与えた。大藤もこの作品を見て影絵アニメに挑戦。第1作は成功し、ソビエトにも輸出された。'52年、色セロファンを使いカラーで再製作している。

製作・大藤信郎プロダクション　作画、演出・大藤信郎

NO. 14 お江戸の春



'28年2月完成（公開日、上映館不詳） I 巻

〔あらすじ〕東亜キネマの第1回作品。お江戸の名物男・八公は、お花見の散りゆく桜の下で踊っていた人が忘れた扇子のなかから生まれ出た。八公は兄貴分の熊さんと知り合い、花見見物に出かけた。酒に酔いしれた2人は2人の若い娘を追いかけ、反対にひどい目にあわされる。途中、仇討ちの娘を助けるため協力する。最後に美しい娘の踊り子と会って喜ぶが、夢からさめてみると、踊り子は石のお地蔵様だった。

製作・東亜キネマ(京都)　原作・玉の浦人　作画、撮影、演出・柾木統三

NO. 15 珍説・吉田御殿



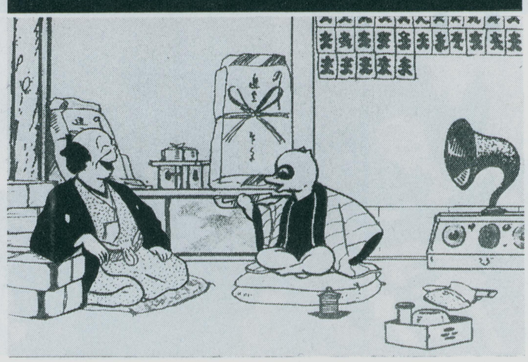
'28年4月27日　帝国館、新宿松竹館、武蔵野館封切　3巻

〔あらすじ〕百姓の子、団子兵衛は出世しようと武者修行の旅に出る。山中で狼の群に出あい、辻堂に逃げこむ。狼が去ったあと、腰元がきて、城の姫君の危機を救ってくれと祈願。立ち聞きした団子兵衛は、神様の声色でお城に団子兵衛という勇士が姫を助けに行くと告げる。翌日、城下へ行くと、城内に妖怪変化が出るという名高い吉田御殿だった。おそれをなした団子兵衛は逃げ帰ろうとするが、迎えの者に見つかり、殿様から姫を救ってくれと頼まれる。しかたなく化物の住む洞穴に入ると、横取右衛門という武士が捕まっていたので助けてやる。団子兵衛が化物と闘っている間に、武士は姫を救出し、殿様に自分が姫を助けたと報告。やっと化物を退治し、御殿へ帰り、ことの次第を説明するが、信じてもらえず、城中から放り出され、失意のまま故郷へ帰り、武士になる野望を捨て、元の百姓に戻る。

〔解説〕この作品の副題は「呑気放亭」とあり、外国のドン・キホーテを日本版時代劇に翻案・アニメ化したもの。

製作・大藤信郎プロダクション　作画、演出・大藤信郎

NO. 16 文福茶釜

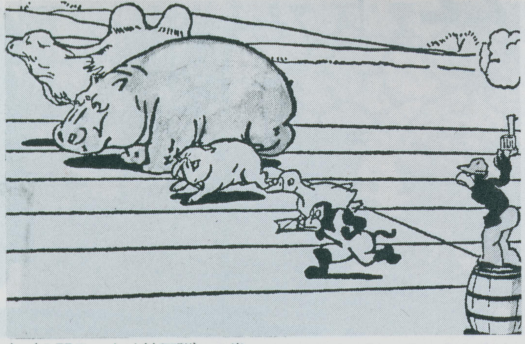


'28年7月完成・発売（公開日、上映館不詳） I 巻

〔あらすじ〕昔、ワナにかかった狸を通りがかりの屑屋がかわいそうに思い、助けてやる。狸はお礼代わりに茶釜に化けて屑カゴに入りこむ。茶釜を見つけた屑屋は、近くのお寺の和尚に売りつける。和尚の昼寝のすきを狙い、おそなえの菓子を食べようと小僧たちが本堂に入ると、お腹をすかせた茶釜姿の狸が先に食べている。驚いた小僧たちは大騒動して茶釜をつかまえる。気味悪がった和尚は、茶釜を屑屋に返す。屑屋に戻った狸はお礼返しに、見世物で綱渡りの曲芸を演じ、大入り満員の盛況。おかげで屑屋は大金持となった。

製作・横浜シネマ商会　原案、脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司

NO.
17 動物オリムピック大会

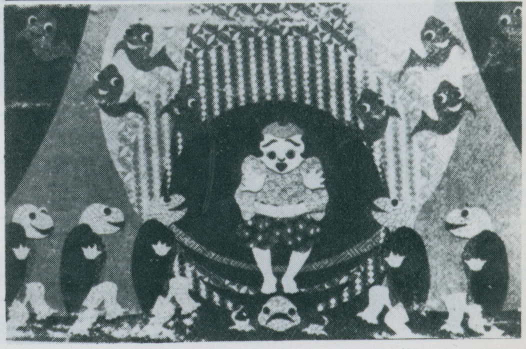


'28年9月完成・発売（公開日、上映館不詳） I 巻

〔あらすじ〕動物たちのオリンピックが開かれ、象、カバ、猿、豚、兎、ブルドッグ、アヒルの各選手が出場。棒高飛びは猿の優勝。円盤投げは象の投げた円盤がＵＦＯみたいに山を越え雲の中に消える。800m決勝で大接戦の猿とブルドッグはレース途中でケンカをやりだす。その結果、アヒルに優勝をさらわれる。１等の象に優勝カップが渡され、皆が胴上げして祝福するが、重たい象の下敷きになってしまう。
〔解説〕村田作品は、おとぎ話の忠実なアニメ化で、ギャグが少なく面白味に欠けていた。この作品はオリジナルで、オリンピックをテーマに、動物の擬人化もうまく、ギャグも見られるようになった。

製作・横浜シネマ商会　原案・青地忠三　作画、演出・村田安司　撮影・飯田光治

NO.
18 きりぬき浦島



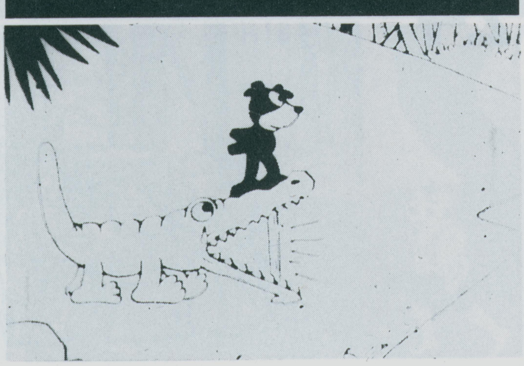
'28年完成（公開日、上映館不詳） 3 巻

〔あらすじ〕主人公の団子兵衛は活動のスターとして成功しようと、恋人のおそでといっしょに撮影所に勤務した。彼はついに主役でレビュー映画「浦島太郎」に出演することになった。亀を助けた浦島が竜宮城のお客となるまでの話を面白い踊りを入れた映画にしようと、萬里監督はじめ撮影隊の一行は大はりきり。浦島の大役は団子兵衛、ヒロインの乙姫役はおそでの名コンビ。最初は亀をいじめる悪太郎の踊り。ついで竜宮城内の踊りのシーンの撮影が開始。にぎやかな音楽のリズムにのって人魚の一団がバレーを踊る。蛸のかっぽれ、フグのダンス、海老のワルツ、鯨のチャールストン。浦島組の撮影が面白く、役者、監督、さては隣りの撮影組の連中まで浮かれ、仕事を放置し踊りだす。そのすきに悪者がおそでを誘拐しかけるが、団子兵衛が格闘の末につかまえる。撮影の連中は踊りながら海岸から海中へ入って行く。
〔解説〕千代紙アニメだが、背景が実写のスチールの上に千代紙をはりつけたアイデアがユニークな作品。

製作・大藤信郎プロダクション　配給・中央映画社
作画、演出・大藤信郎

NO.
19 吃驚仰天真珠大王

びっくりぎょうてん



'28年完成（公開日、上映館不詳） I 巻

〔あらすじ〕黒犬のトム公は、海賊の宝探しに飛行機ででかけ、ワニや猛獣と闘い、真珠入りの宝物の箱を見つけて持ち帰る。
〔解説〕大石郁(1901年東京生まれ、本名・郁雄）は葵橋の黒田清輝画塾で絵を習う。ここで後年、松竹監督となった鈴木重吉と知り会い、アニメに興味を持つ。鈴木の持っていたドイツ製カメラを借り、アニメを自主製作後プロとなる。「吃驚仰天真珠大王」はアメリカのアニメ「猫のフェリックス」に似たキャラクターが主人公となっている。ついで「二つの太陽」を発表。'30年大石線画映画社を設立し独立。大日本山林会委託の「植林美譚・凸坊の成功」で植林ＰＲのアニメを製作。'31年、大石光彩映画社と社名変更し、レコード・トーキーによる「凧の留守番」を製作。のちＰ・Ｃ・Ｌ漫画部で傑作「動物狐狸の達引」を発表。戦争中、東宝社員として海軍航空研究本部に出向。'44年カロリン群島より帰国途中、船が撃沈され、43歳の早死は日本アニメ界にとって損失であった。

製作・伴野貿易　作画、演出・大石郁

NO.
20 孫悟空

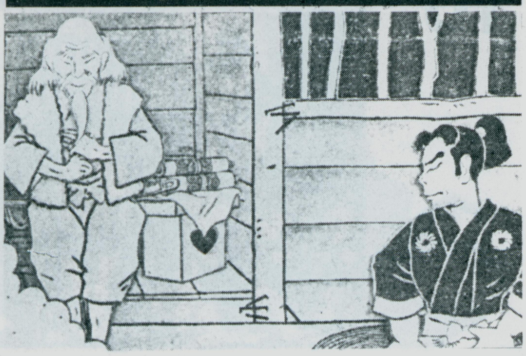


'28年7月完成（公開日、上映館不詳） 2 巻

〔あらすじ〕大昔、中国華果山の頂に黒胎石という大石があり、ある日、大音響とともに石が割れ、石猿が生まれ出た。仲間の猿と山中で遊び回っていた時、大滝を見つけた。「この滝へ飛びこんだ者が王様だ」と皆がいい出し、石猿は飛びこんで王となる。王の暮しにあきた石猿は、永遠の生を求め旅に出る。13年目に須菩提仙人と出合い、そこで千日の苦行の末、変身術を学び、孫悟空の名をもらう。故郷の水簾洞へ戻ると、家来の猿たちが混世魔王にさらわれている。孫悟空は猿たちを救出に行き、自分の口から何百匹もの豆猿を吹き出し、魔王をやっつける。その後、竜宮城で如意棒をもらい、自ら斉天大聖と名乗り、天下を取った気分になる。玉帝の怒りにふれるが、釈迦に救われ、乱暴をいましめるため五行山へ封じこめられる。後日、三蔵法師に助けられ、弟子となって三蔵の道中を護る。
〔解説〕撮影の石川隆弘は木村白山と同じように博覧会などの看板を描いていたが、北山映画製作所に入り、北山に師事。「西遊記」をアニメ化。

製作・アクメ商会　演出、撮影・石川隆弘

NO. 21 出世忍術・松之助再来



'28年8月10日　富士館、みやこ座封切　3巻

〔あらすじ〕昔、ある城下町に獅子飛松之助という浪人がいた。なんの刺激もない世のなかの人生にあきていた。食料もつきはてたのに働く気がなく寝てばかりのぐうたら者。ついに空腹にたえかねて米びつをあけると、鼡のすみか。庭の木の鳥までがバカにしてからかう。怠け者のくせに短気な松之助は鳥を追いかける。鳥と思ったのは実は烏天狗で、追いかける途中、古井戸に転落。この井戸は地獄まで続き、落ちた所は閻魔大王の前。大王にさんざん説教され、改心した松之助は文武両道にはげむ。呑空仙人の教えを受け、忍術の達人となり、古寺に住む妖怪の古狸を退治したり、親の仇討ちをする孝子金之助の助太刀をして仇の黒沢典膳をやっつけ、武名を高める。

〔解説〕監督の中山呑海（1893〜1950九州生まれ。本名・森三、のち盛光）は日活の時代劇を数多く監督し、かつ俳優として活躍。アニメはこれ1本のみで、突然変異的に出来た作品である。

製作・日活　原案、脚色、操作、絵画、字幕、監督・中山呑海　撮影・出口昌友

NO. 22 四十人の盗賊



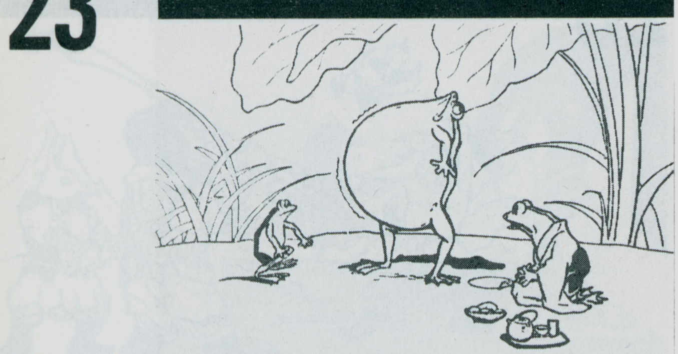
'28年9月14日　邦楽座、東京館、電気館封切　3巻　17分

〔あらすじ〕昔、アラビアの国にアリババという貧しい青年がいた。偶然、盗賊が宝物をかくしていた岩屋を見つけ、金貨を持ち帰る。欲張りの兄・カシムはそれを見つけ、アリババに岩屋の場所を聞き、宝物を手に入れるが、出る時の呪文を忘れ、盗賊に見つかり殺される。兄を探しに行ったアリババは盗賊につけ狙われるが、お手伝いのモリギアナの知恵で危機を救われ、逆に盗賊たちを滅ぼす。

〔解説〕この作品も「カリフの鶴」に刺激を受けて製作されたものだが、本来の影絵の技法ではなく、切紙を黒く塗って影絵の感じをだして製作されたもの。内容も「カリフの鶴」と同様にアラビアンナイトの話となっている。

製作・銀映社　配給・スターフィルム社　製作担当・鈴木俊夫　脚色・東浦康介　操者・東浦潔　作画・上野武夫　撮影・米原広　17分

NO. 23 蛙は蛙



'29年2月完成・発売（公開日、上映館不詳）1巻282m 15分

〔あらすじ〕動物園の猿舎のお話。いたずら好きの子猿が、見物の大人が捨てた葉巻を拾い、得意そうに吸うが、とうとう目を回してしまう。やっと気づいた子猿に親猿は、イソップ物語の「蛙と牛」の話を聞かせ、蛙は蛙、猿は猿だから、人間のまねなんかしてはいけないよと諭す。

〔解説〕毎日新聞社主催の全日本活映教育研究会が行った教育映画コンクール「1929年度優秀学校推薦作品・漫画の部」第1位入賞。文部大臣賞受賞の作品。

製作・横浜シネマ商会　原案、脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司

NO. 24 アルキメデスと黄金の王冠



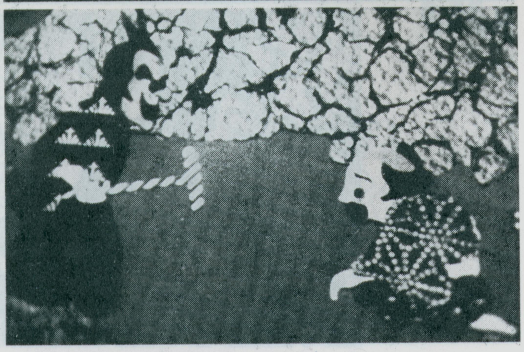
'29年3月完成（公開日、上映館不詳）1巻

〔あらすじ〕紀元前250年、イタリアのシシリー島シラキューズの都にヒーローという王がいた。王の相談相手にギリシャの学者アルキメデスがいた。王の王冠を作ることになり、鍛治屋を募集。1人の鍛治屋が10ポンドの金塊を渡され、王冠を造る。90日後、王冠が完成。王は喜んだが、アルキメデスは金の燭台と冠の色の違いに気づく。王に報告すると、冠をこわさず純金かどうか調べよとの命令。アルキメデスはよい考えが浮かばず困った。ある日、浴槽の湯がこぼれたのにヒントを得て、冠と同じ重量の金を水に入れ、こぼれる量を計った。次に冠を計ったところ、金と他の金属が混ぜられているのがわかった。悪い鍛治屋は処刑された

〔解説〕制作の金井木一路（本名・喜一郎、1903年生まれ）は北山清太郎の書生をしながら山本早苗のアニメ制作の助手をつとめる。主として撮影に従事し、のち東京線画フィルム製作所を設立。さらに東京録音現像会社の社長となる。'61年死去。

製作・東京線画フィルム製作所　作画・金井木一路、山本早苗　演出・金井木一路

NO. 25 黄金の花



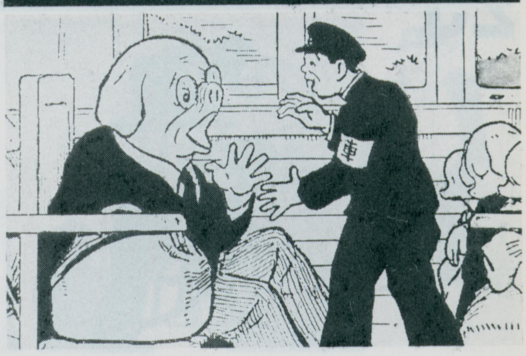
'29年２月完成、５月公開（公開日、上映館不詳）１巻122m ７分

〔あらすじ〕昔、田能木の里に団子兵衛という神楽師が母親と貧しく暮していた。ある日、隣り村の祭に招かれ、神楽を舞い、お礼をもらって夜道を急ぎ帰宅。途中で道に迷い、山中へ。突然目の前に、この山に住む大蛇が現れ団子兵衛を食べようとする。驚き「私は田能木生まれの団子兵衛という者。命だけはお助けを」というと、大蛇は聞き違え「狸（田能木）は七化けと聞く。化けてみせろ」と迫る。団子兵衛はとっさに神楽のおかめや、ひょっとこの面をつけ踊って許してもらう。一安心と煙草を一服吸ったが、大蛇は煙草のヤニが一番嫌いだと怒る。そして「お前は何が嫌いか」と聞く。団子兵衛はもめごとの原因となるお金が嫌いという。村中総出で煙草のヤニを集め大蛇を退治するが、亡霊が仕返しにきて団子兵衛の家を金貨で埋めつくす。

〔解説〕シネカラー、レコード・トーキーとして試作されたが、一般上映ではモノクロのサイレント版となった。題材は落語の「田能久」を千代紙アニメ化。

製作・千代紙映画社　作画、演出・大藤信郎

NO. 26 太郎さんの汽車



'29年６月完成・発売（公開日、上映館不詳）１巻

〔あらすじ〕太郎さんは汽車が大好き。学校から帰ると、友だち集め汽車ごっこ。ある日、父が買ってくれたおもちゃの汽車の夢を見る。太郎さんは動物が乗客の列車の車掌。列車内は弁当を食べちらかしたり、バナナの皮を通路に捨て、滑ったお客がケンカしたりでさんざん。窓から空きびんを捨てる乗客がいて、それが線路工事の猿に当たる。怒った猿は、軌道車で列車を追いかけ、車内で大ゲンカがはじまる。太郎さんは仲裁役で大忙し。このケンカで列車は脱線し、夢からさめる。列車内でのモラルを守りましょうというメッセージのアニメ。

製作・横浜シネマ商会　原案、脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司　撮影・上野行清

NO. 27 黒ニャゴ

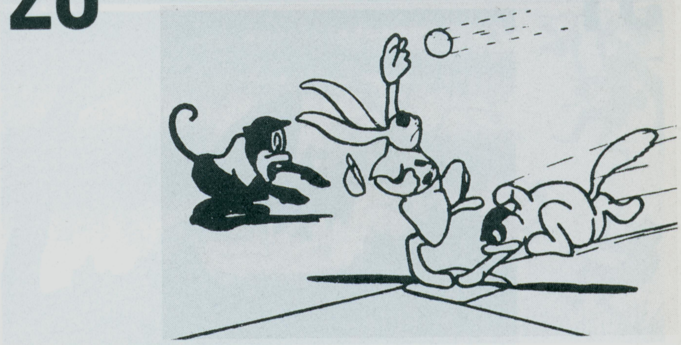


'29年完成、'31年１月公開（公開日、上映館不詳）１巻25m１.4分　レコード・トーキー

〔解説〕パイオニア精神あふれる大藤信郎は、新しいシステムはなんでもとり入れた。レコード式トーキーの試作第１号。形式は東条式イーストフォンと呼ばれるもの。レコードはビクターの児童向けジャズ「黒ニャゴ」を使用。レコードの回転数を１分間80回転とし、フィルムは１分間20m（１秒２回転16コマ）で映写すると、トーキーと同じ効果が得られる。内容はレコード音楽にあわせて、黒猫と虎猫と４人の子どもが踊るアニメ。

製作・千代紙映画社　作画、演出・大藤信郎

NO. 28 おいらの野球



'30年３月完成・発売（公開日、上映館不詳）１巻277m 15分

〔あらすじ〕狸公チームとウサ公チームの野球試合。狸軍優勢のうちに試合は進み、５回の攻撃で狸軍キャプテンは走者一掃の大ホームラン。ボールは森のなかに落ち、ヒキ蛙が卵と間違えて呑みこむが腹のなかで溶けないので苦しみだす。ボール探し中の兎たちがこれを見つけ、ボールを吐き出させるが、ボールは使いものにならず、ついにドロンゲームとなる。

製作・横浜シネマ商会　原作、脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司

NO. 29 煙突屋ペロー



'30年4月13日京都・華頂会館公開　2巻153m21分　16ミリ

〔あらすじ〕トム・タム国の煙突屋ペローは、小鳥を助け、お礼に兵隊を産み出す魔法の卵をもらう。やがて外国と戦争になる。負け戦になりかけるが、ペローは卵から兵隊を産み出して国を救う。王様からほうびをもらい故郷へ帰る途中、荒れ果てた市街を見て戦争の残酷さに驚き、卵を壊す。田舎に帰ったペローは畑を耕し平和に暮す。
〔解説〕1929年4月、京都在住の映画好きの10人の青年たち（田中喜次、中野孝夫、舟木俊一、柴田五十五郎、浅井牧夫、村上英一ら）が集まり、子どもたちのための映画作りをはじめた。童映社と名づけ、影絵アニメ「アリババ物語」「一寸法師」につぎ、第3作「煙突屋ペロー」は'30年2月完成。京都では子ども映画会で上映されたが、東京ではプロキノの上映会で上映され、反戦アニメとされた。'86年童映社同人宅で56年ぶりに発見されたフィルムはラスト1/3が切れて紛失していた。当時の検閲でカットされたのか不明だが、復元を志す同人たちの努力でシネマ・ワーク、グループ・タックの協力で復元され、'87年10月完成。

製作・童映社（京都）　配給・深田商会　原作、脚色、演出・田中喜次　作画・中野孝夫　撮影・舟木俊一

NO. 30 村祭



'30年10月完成（公開日、上映館不詳）1巻30m4分　16ミリ　レコード・トーキー

〔解説〕ビクター・レコードの文部省唱歌「村祭」とシンクロナイズする、画面に歌詞がでてくるアニメ。アメリカのフライシャー兄弟が'30年代に製作公開した〝スクリーン・ソング〟シリーズ（小唄漫画映画）をまねた日本版。
〔歌詞〕村の鎮守の神様の　今日は目出たいお祭日　ドンドンヒャララ　ドンヒャララ　朝から聞ゆる笛太鼓
　今年も豊年満作で　村は総出の大祭り　ドンドンヒャララ　ドンヒャララ　夜までにぎはう宮の森
　治る御代に神様の　めぐみ仰ぐや村祭り　ドンドンヒャララ　ドンヒャララ　きいても心が勇み立つ。

製作・千代紙映画社　作画、演出・大藤信郎

NO. 31 かうもり

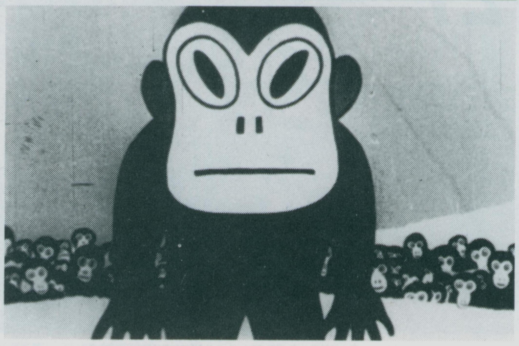


'30年12月完成（'31年1月発売、公開日、上映館不詳）1巻114m6分

〔あらすじ〕昔、鳥たちと獣たちが戦争をした。激しい戦だったが、利口なコウモリは双方の旗色の良い時だけ味方した。やがて戦争は和睦に終ったが、利口なようでずるいやり方をしたコウモリだけは、どちらからも仲間はずれにされる。それ以来、コウモリは夜の世界を飛び回らなければならなくなったという教訓を含んだアニメ。

製作・横浜シネマ商会　作画、演出・村田安司

NO. 32 難船ス物語・第一篇 猿ヶ島

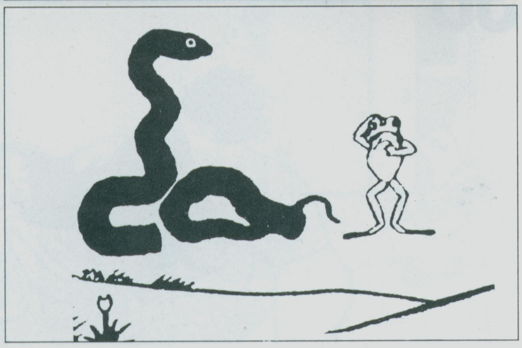


'30年12月完成（'31年1月公開、公開日、上映館不詳）2巻 18分

〔あらすじ〕航海中の船が暴風にあい難破。箱に乗った赤ん坊が猿だけの住む島に漂着。猿たちは仲間と思い育てるが、成長しても尻尾もなく毛もない。人間の子だけあって頭がよく、他の猿たちとは何かにつけて異なる。ある日、椰子の木をパチンコ代りにして実を飛ばしていたところ、運悪く猿のリーダーの老猿に当たる。怒った猿の群は少年を追いかける。少年は島を去る決心をし、崖から海へ飛びこみ、イカダを作って新天地をめざす。
〔解説〕政岡憲三（1898年大阪生まれ）の記念すべき第1作。1917年京都市立美術工芸学校絵画科卒。上京して黒田清輝主宰の葵橋研究所で絵画を学ぶ。京都に戻り絵画専門学校で洋画を学ぶ。'25年マキノ映画で美術監督。'27年自主製作劇映画「貝の宮殿」を演出。'29年日活教育映画部へ入社、技術課主任となる。同部の廃止で独立、アニメ製作をはじめる。'30年8月から4カ月がかりで製作した第1作は日活系で公開され、スピーディな動きが好評で、続編が'31年に作られた。

製作・日活太秦漫画映画部　原作、脚色・清水秀雄　漫画制作、監督・政岡憲三　操作、撮影・葭屋映治　漫画助手・島森卓二、原田誠一、熊川正雄

NO. 33 ちょん切れ蛇

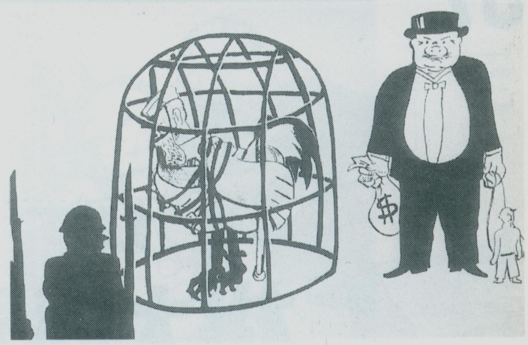


'30年12月完成（'31年公開、公開日、上映館不詳） 1巻122m 4分　トーキー

〔あらすじ〕春、冬眠の穴からはい出た烏蛇の胴は、なぜか真中から二つに切れていた。切口から蛙がとび出す。蛇は蛙に穴に残された尻尾のほうの片われを呼びにやる。尻尾の蛇の腹のなかから、先にのみこまれた蛙が4～5匹とび出す。蛇は空腹のあまり自分の尻尾をのみこむと、うまく胴体がつながる。
〔解説〕1923年に自宅をスタジオにして〝スミカズ映画創作社〟を設立した幸内純一は'24年から'27年にかけ，政治や政党のPRアニメを製作した。その後の空白期間は、新聞漫画などを描いていた。'30年、再びアニメ製作にカムバックし、インターナショナル録音装置を使用したトーキー・アニメを製作。原案は当時の売れっ子漫画家の前川千帆。幸内はこの作品を最後にアニメ界から足を洗い、'32年1月読売新聞に入社（のち時事新報絵画部長）新聞に諷刺漫画を描いた。'34年に建設社から発行された「漫画講座」第2巻に、幸内は26頁にわたって〝トーキー漫画の作成法〟と題して、詳細なアニメ制作のテクニックを執筆している。

製作・スミカズ映画創作社　配給・第一映画社　原作・前川千帆　作画、撮影、演出・幸内純一　科白吹き込み・大辻司郎

NO. 34 奴隷戦争

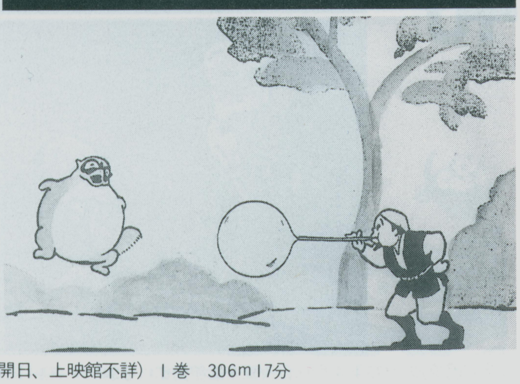


'31年3月完成（公開日、上映館不詳） 3巻　16ミリ

〔あらすじ〕帝国主義ブルジョアは新市場と原料供給地を探し、中国、インド、インドシナ、フィリッピンが彼らの植民地となった。イギリスがそこに資本投下し搾取を開始。日本やフランスも黙っていない。そこへアメリカが大資本で割りこむ。こうして独占競争が激化。この競争のあおりを受け圧迫されるのが労働者や一般民衆。植民地のプロレタリアートの同志たちは立ち上る。中国の広東からはじまった労働者の革命は弾圧され、労働者、農民の奴隷化が進められる。だが中国のプロレタリアートは弾圧に屈せず、各国の同志と手を結んで立ち上る。
〔解説〕童映社製作の「煙突屋ペロー」を社会主義思想のPR映画として上映したところ、アニメが予想以上に受けた。プロキノでは自主アニメを独自で企画制作したが、そのうちの一本。アニメの技術的なレベルは低かった。

製作・プロキノ（日本プロレタリア映画同盟）　脚本・北川鉄夫　撮影・並木晋、篠勝三　作画・室順治、松本滋、武藤鎮、土井保作

NO. 35 タヌ吉のお話



'31年6月完成（公開日、上映館不詳） 1巻　306m 17分

〔あらすじ〕おとぎ話のおじいさんがシャボン玉を吹くと、シャボン玉に手足が生え、たくさんの狸になる。手をつないだ狸は証城寺の庭で狸囃子をはじめる。最後に吹き出されたタヌ吉のお腹が小さいので、皆のようにうまく腹鼓が打てない。悲しんだタヌ吉はその場を去る。途中で自転車の空気入れを拾い、お腹をふくらませているうちに、空気を入れ過ぎ、空中へ浮かび上る。とうとう月までやってくる。お月さんの忠告も聞かず、自分の立派なお腹を世界中に見せびらかそうと空を飛び回り、腹鼓を打ち続け、ついにお腹が破裂。証城寺の庭に墜落したタヌ吉を、おじいさんはストローに吸いこんで、やさしく諭す。他人をうらやんで、つまらぬまねをするなという教訓アニメ。

製作・横浜シネマ商会　文部省委託　原案、脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司　撮影・上野行清

NO. 36 商人と猿の群



'31年10月完成（日比谷公会堂公開） 1巻　レコード・トーキー

〔あらすじ〕室町時代のお話。夏の夜、ある峠路で猿酒をたたえた岩のくぼみの回りで、猿の群れが踊っていたが、やがてえさを取りに行った。その時、お供を連れた烏帽子商人が通りかかる。都の高貴な方の注文の金の烏帽子を届けに行く途中である。猿酒の近くで一服していると、ある奥方のために檜扇を作った扇商人がやってくる。そして一服しながら、お互いに烏帽子と檜扇を見せ合う。一同は猿酒に気づき、その酒を飲んでしまう。そして酔いしれて踊るが、疲れて寝こむ、猿たちが戻ってくると、猿酒がない。怒った猿たちは烏帽子や扇をボロボロにする。商人らは物音に目をさますと、金の烏帽子をかぶり、檜扇を持った小猿が木の上にいるので、うまくだまして無事に取り戻すことができた。
〔解説〕文豪の坪内逍遥は児童演劇や映画にも理解があり、自ら児童劇「烏帽子折と猿の群」の脚本も書いた。この児童劇を影絵アニメ化し、脚色、鑑修も行った。作品は日比谷公会堂で公開された。

製作・帝国教育映画社　原作、脚色、監修・坪内逍遙　原画・細木原青起　作画・金井木一路　作曲・吉原規　踊振付・花柳珠実

NO. 37 空の桃太郎



'31年11月完成（公開日、上映館不詳） 1巻292m 16分　トーキー

〔あらすじ〕南極に近いある平和な島に、一羽の猛鷲が突如現れ、ペンギンやアホウドリに襲いかかった。大騒ぎの末、この島の代表者が桃太郎に猛鷲退治を依頼してきた。桃太郎は快く引き受け、お供に犬、猿、キジを連れ、勇ましく飛行機に乗って鷲退治に出かけた。途中、大亀の背中でガソリンを給油、二度目は浮上する鯨の背中の特設石油スタンドから給油に成功し、やっと南極に到着した。猛鷲は突然、飛行機を襲撃し、大空中戦が展開。しかし日本一の桃太郎にはかなわず捕まった。桃太郎の飛行機は猛鷲をお土産がわりにぶら下げて、祖国日本へ向かう。リンドバーグの大西洋横断飛行がヒントとなって制作された。

製作・横浜シネマ商会　原作、脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司　伴奏版音楽・日本ビクターオーケストラ

NO. 38 難船ス物語・第二篇 海賊船

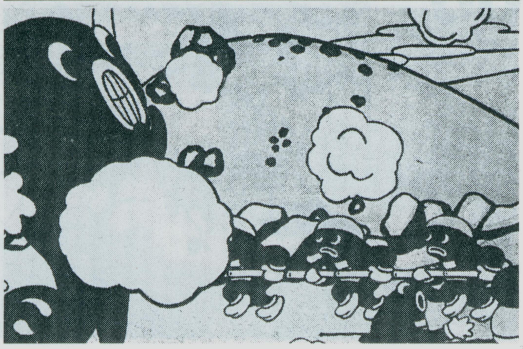


'31年完成（公開日、上映館不詳） 2巻

〔あらすじ〕第1作「猿ケ島」の続編。大海のなかをイカダで漂流していた少年は、ある日、水平線上に一隻の帆船を発見。だが猿ケ島育ちの少年には、それが船であることがわからなかった。帆船も少年を発見し、救助しようと近寄るが、少年は怖がって逃げようとする。やっと救助するが、少年は船員たちとなじまない。ある日、海賊船が帆船を襲い、船員や乗客のお姫様も捕まる。少年はすばやく海賊船の帆かげにかくれ、この騒ぎを見守る。お姫様がさらわれたのに憤慨、海に飛びこみ、海賊島へ乗りこむ。島の館では奪った積荷と姫をお土産に、海賊たちの酒盛りがはじまる。少年は館の門番のライオンに一のみにされるが、腹のなかでライオンの骨を一本ずつ抜き取って殺し、皮をかぶって宴会場へ。驚いた海賊たちが弓や刀で追いかけるが、まず姫や囚われていた女子どもを逃がす。姫とともに館の屋上から海辺まで敷かれたレールをトロッコで逃げる。館に仕かけた爆薬で海賊たちは全滅。海上には海賊船を分捕った船員たちが姫と少年を迎え待つ。

製作・日活太秦漫画映画部　原作、脚色・清水秀雄　作画、監督・政岡憲三

NO. 39 蛙三勇士

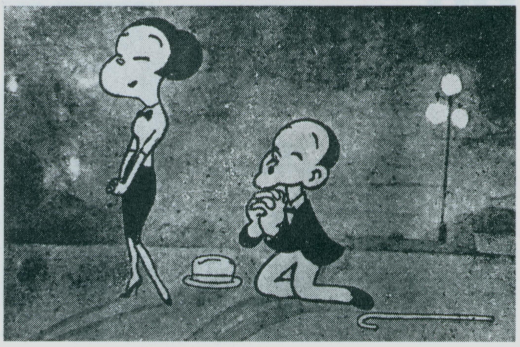


'32年完成（公開日、上映館不詳） 1巻　トーキー

〔あらすじ〕蛙大隊の部隊長ぴょん七は、妹のおそでと柳の木の上に住んでいる。ある日、ドンドロ沼のナマズのナマ公に妹をさらわれる。驚いた兄は部隊をひき連れ、妹救出に向かうが、ナマ公にさんざんやられる。この時蛙のなかから勇敢な三勇士が志願し、爆弾を背負い突進。見事ナマ公を退治して妹を救出する。日中戦争の時、3人の兵隊が爆弾をかかえ敵陣に突入、自爆し敵陣地を破壊した軍国美談があるが、三勇士をモデルにアニメ化したもの。

製作・千代紙映画社　作画、演出・大藤信郎　録音・新田発声映画研究所　配給・日本音画配給所

NO. 40 力と女の世の中



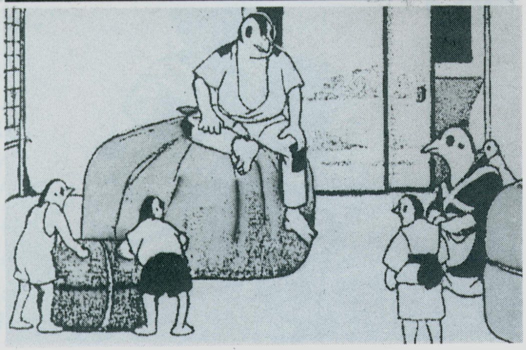
'32年10月完成（'33年4月15日浅草帝国館封切） 2巻　トーキー

〔あらすじ〕サラリーマンの主人は4人の子の父親だが恐妻家。なにしろ奥さんは180cm,120キロの超グラマー。ある夜、妻は夫が会社のタイピストと浮気している寝言を聞き、怒りだす。証拠をつかもうと、会社まで弁当を届けに行くと、案の定、夫とタイピストは廊下で仲よく立ち話の最中。妻は荒れ狂うが、夫の申しでで、妻と彼女はボクシングで決着をつけることになる。力では勝ち目のない彼女は、くすぐり戦術で勝負には勝つが、現役の妻が実質的には勝利を得る。

〔解説〕1927年、アメリカ映画「ジャズ・シンガー」（ワーナー作品）が世界初のトーキー映画として公開され、映画界はトーキー時代に突入した。日本でも各社が研究を開始し、'31年8月、松竹は土橋式トーキー「マダムと女房」を公開。好評に気を良くした当時の松竹社長・城戸四郎は、国産アニメのトーキー化を政岡憲三に依頼。'33年4月、本格的なトーキー・アニメが誕生。声優は当時の人気スターを起用し話題となった。作品は完全に大人を意識したもの。

製作・松竹蒲田映画（城戸四郎）、政岡映画製作所　原作、脚色・池田忠雄　原画、監督・政岡憲三　動画・瀬尾光世、原田誠一、山本三郎　撮影・木村角山　発声監督・野村浩将　擬音・福田宗吉　録音・土橋晴夫　音楽指揮・今沢将矩　声の出演・主人…古川緑波　妻…沢蘭子　タイピスト…村島洋子　子供（太郎）…磯野秋雄　（次郎）…三井秀男　花子…藤田房子　とし子…藤田陽子

NO. 41 雲雀の宿替

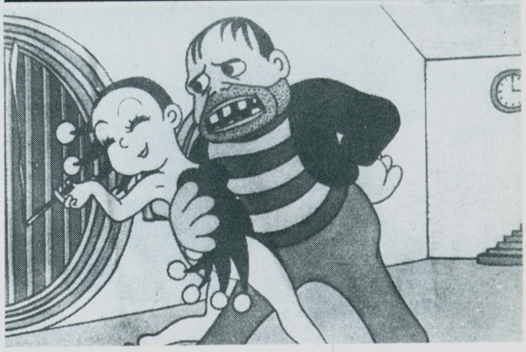


'33年２月完成・発売（公開日、上映館不詳） 1巻292m 16分

〔あらすじ〕イソップ物語の「雲雀とその子」から題材を得ている。麦畑に住むひばり一家は、麦の刈り入れ期がきたので引越しの準備。麦畠の持主が近所の人を刈り入れの手伝いに頼むが断わられる。今度は親類の人を頼むがこれもだめ。他人を当てにせず、明日は主人と息子で雨が降ってもやると相談。これを聞いていたひばり一家は、引越しの決心をする。他人の力を頼るなというイソップの教訓をアニメで描いたもの。

製作・横浜シネマ商会　原案、脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司

NO. 42 ギャングと踊り子



'33年２月完成（'34年３月21日松竹系封切） 1巻166m ６分　トーキー

〔解説〕「力と女の世の中」のトーキー化が好評だったので、松竹は第２作の製作を依頼。タイトルは「ギャングと踊り子」で、原作は松竹の名監督で、シナリオライターでもあった島津保次郎が書いている。1832年12月から'33年２月にかけて２巻物として完成した。しかし配給元の松竹の都合で、前後篇の１巻ずつに分けられ、１年間もオクラ入りのあげく、'34年３月21日に前篇「仇討ち鳥」後篇「ギャングと踊り子」（封切月日不明）と２作に分けて上映されるはめとなった。なお、'32年に政岡憲三に弟子入りした瀬尾光世は、たちまち頭角を現し、他のアニメーターは１日10枚くらいの動画を描くペースだったが、瀬尾は猛スピードで作業し、動画枚数は積み重ねると何寸もの厚さになったというエピソードがある。「仇討ち鳥」「ギャングと踊り子」の80%を瀬尾自身が作画したというが、作品はナンセンス・ギャグのアニメであった。

製作・松竹蒲田（城戸四郎）、政岡映画製作所　原作・島津保次郎　原画、監督・政岡憲三　動画・瀬尾光世、原田誠一、桑田良太郎、熊川正雄　撮影・木村角山　録音・蒲田トーキー部　伴奏指揮・島田晴誉

NO. 43 お猿三吉・防空戦の巻



'33年10月公開（上映館不詳） 1巻221m ８分　トーキー

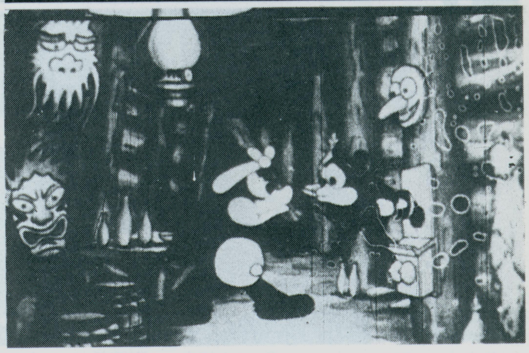
〔あらすじ〕平和な猿の国に三吉という元気な猿がいて人気者だった。ある日、海をへだてた白熊の国から、侵略のため白熊空軍の大編隊が三吉の国を空襲するという知らせが入った。森の猿たちは三吉をリーダーとして、日ごろの訓練ぶりを発揮。海上で白熊軍を待ち伏せ、大激戦の末に敵機を撃破する。

〔解説〕京都の政岡スタジオでチーフ・アニメーターとして才能を発揮した瀬尾は1933年スタジオを辞し上京。念願の独立プロ「日本漫画フィルム研究所」を設立。独立したといっても高橋幸次郎が会社の事務上の責任者であった。瀬尾は制作を担当し、第１作のトーキー・アニメ「お猿三吉・防空戦」を完成。

製作・日本漫画フィルム研究所　配給・東和商事映画部　作画、監督・瀬尾光世、川口長八　撮影・杉田三郎　作曲・西垣鉄夫　録音・杉井幸一（ＰＣＬ）

NO. 44 動絵狐狸の達引

（うごきえこりのたてひき）



'33年12月31日　邦楽座封切　1巻312m 11分　トーキー

〔あらすじ〕ある荒れ寺に狐がやってきて、武者修行の侍の姿に化け、一夜の宿を乞う。古寺には先住の狸親子がいて、狐vs狸親子の一大化かし試合が延々と展開。化けかたの未熟な子狸がドジばかり踏み、そのたびに親の助けを借りる。狐のとりだした機関銃で、親狸危機一髪の時、子狸が狐をやっつける。

〔解説〕1931年Ｐ・Ｃ・Ｌ（写真化学研究所）が設立され、映画科学分野の研究を進める一方、アニメの分野にも着目。当時、松竹映画の線画部門を主に製作していた大石郁雄のグループをＰ・Ｃ・Ｌに集め漫画部を発足させたのは、Ｐ・Ｃ・Ｌ入りした松竹の現像部長・増谷麟であった。第１作は「動絵狐狸の達引」という歌舞伎調の古めかしいタイトルだが、作品の内容はモダンでスピーディなギャグを連発する傑作であった。なかでも狐と狸の化かし合いのシークェンスで、お寺の本堂の俯瞰描写など斬新な構図が見られた。アメリカのフライシャー兄弟の作風に似た泥臭さのあるギャグ・アニメである。

製作・ＰＣＬ漫画部　配給・東和商事映画部　作画・大石郁雄、市野正二、藤田浩、山口淳　録音・杉井幸一

NO. 45 お猿の大漁



'33年完成（'34年１月発売、公開日、上映館不詳）１巻270m10分　トーキー

製作・横浜シネマ商会　原案、脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司　音楽・コロムビアオーケストラ　指揮・杉田良造

〔あらすじ〕冬の湖、凍った湖面に狸が穴をあけ魚釣りするが、全く釣れない。猿がアイススケートしている。ナマズのような魚の王様がかかるが、魚が２人をにらみつけたので驚いて逃げ帰る。くやしがった猿は水中へ潜り怪魚をさがす。魚の王様は部下の小魚を弾丸代りに猿めがけて発射、またもや猿の負け。今度は頭を使い、狸に手伝わせて湖面に大きなカゴ、ゴム風船、空気入れを用意。猿はチョンマゲ姿で水底で魚たちを集め、ゴム風船で地上見物すると面白いと口上をのべる。面白がった魚たちは空気の入った風船をくわえ、次々と水面へ上る。待ちかまえていた狸は浮かび上った魚をカゴのなかへ。怪魚に見つかった猿は追いかけられるが、空気入れの管を怪魚の口へ押しこみ、空気を入れる。フグのようにふくれ氷上へとび出した怪魚に魚の入ったカゴを引かせ、猿と狸は大漁を喜ぶ。

〔解説〕村田安司の本格的なトーキー第１作。続編「続く大漁」が1947年に作られた。

NO. 46 黒猫萬歳



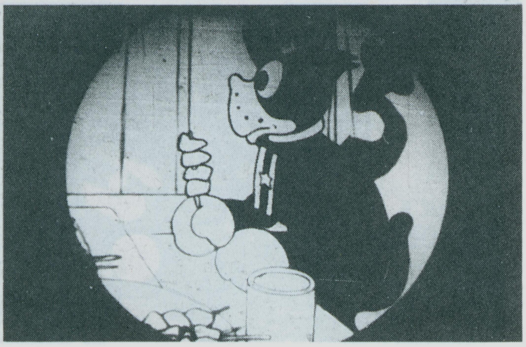
'33年完成（'34年４月公開、上映館不詳）１巻218m８分　トーキー

製作・ＪＯトーキー漫画部　作画・中野孝夫、田中喜次、舟木俊一、永久博郎　撮影・平秦陣　録音・ＪＯトーキー

〔あらすじ〕オモチャの国のオモチャたちが楽しみにしていたお正月がやってきた。オモチャの軍隊のマーチで鏡餅を先頭にパレードがはじまった。その時、天井裏の悪黒猫がお餅を奪って逃げる。オモチャ軍と黒猫軍の戦闘が開始され、最後にオモチャ軍が勝利。

〔解説〕1933年３月、京都のカメラ輸入の貿易商・大沢善夫とアメリカの録音システム会社ジェンキンスが提携し、ＪＯスタジオを設立、映画制作に乗りだした。京都の政岡憲三の活躍に刺激された旧童映社のグループがＪＯ社長の大沢を説得し、ＪＯ漫画部を６月に発足。本格的なトーキー漫画作品を〝オモチャ箱〟シリーズとして製作。「黒猫萬歳」は'33年９月から12月にかけて制作された。プレ・スコアリングに改良を加え、音楽にも力を入れ、初めてシンフォニー・オーケストラが使用された。

NO. 47 のらくろ伍長



'34年完成（公開日、上映館不詳）１巻291m11分

製作・横浜シネマ商会　原作・田河水泡　脚色・青地忠三　作画、演出・村田安司

〔あらすじ〕猛犬連隊の兵営。今日は休日で、のらくろ伍長は焼鳥が食べたくなり、近所の屋台へ。焼鳥屋のおやじのお世辞で、のらくろは山猿連隊との銃剣術の試合で勝った武勇伝を一席。話に夢中で焼鳥を５人前たいらげ、連隊長へお土産の一折を持って公園まできたると急に眠くなる。付近の屑入れのなかで寝こむ。山猿連隊の兵士２名が猛犬連隊の重要書類を盗み、気球で逃げる。これを見つけたのらくろは、花火工場から花火を持ちだし、気球めがけて打ち上げるが当たらない。最後の手段と、自ら花火の筒に入って気球にとびこみ、書類を奪い返しパラシュートで着陸。夢からさめると、奪い返した書類と思い、しっかり抱きしめていたのは焼鳥の折詰。時計を見ると門限まであと５分。営門目ざして一目散にかける。

〔解説〕田河水泡が「少年倶楽部」に好評連載した野良犬ののらくろが軍隊に入り出世する漫画のアニメ化。

NO. 48 茶釜音頭



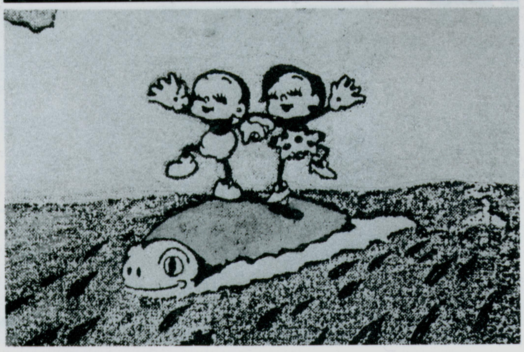
'34年完成（松竹系公開、公開日不詳）１巻304m11分　トーキー

製作・政岡映画美術研究所　原作・榎本三郎　脚色、監督・政岡憲三　作画・熊川正雄、桑田良太郎、川島正義　撮影・原田誠一　選曲・日立二郎　伴奏・政岡映画音楽部　囃子・堅田新十郎、堅田喜三四郎

〔あらすじ〕十奇山萬華寺では和尚と小僧が月見の宴。蓄音機のメロディに浮かれて踊っている。そのメロディが近くの山のクモの巣のアンテナにキャッチされ、狸の茶釜一家のラジオに通じる。狸一家も総出で月見踊り。山寺では和尚も小僧も踊り疲れて眠りこむ。レコードは止まったまま。狸一家は、せっかく興に乗りかけたところでメロディがストップし、皆がっかり。長男のポン吉は仲間から抜けだし、裏山の老木の根元にある倉庫から〝あの手この手箱〟（元祖「ドラえもん」！）を取りだし、蓄音機を寺から持ちだす〝手〟を選び寺へ出発。ポン吉は欲ばりすぎて寺の奥へ入りすぎ、仕掛けられた落し穴にはまる。茶釜一家ではポン吉がいないので望遠鏡でさがすと、いましも狸汁にされる寸前。一家総出で救出に向かい、化け戦術でポン吉を救いだし、裏山へ引きあげる。

〔解説〕東京時事新報社が募集した映画脚本の漫画の部１等当選作を政岡憲三の演出でアニメ化したもの。全面的にセルが使用された作品。

NO. 49 ターチャンの海底旅行

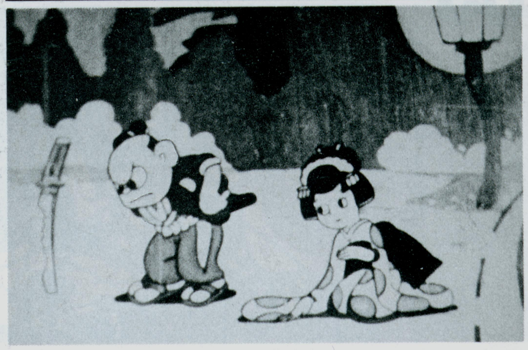


'34年完成（公開日、上映館不詳） 1巻224m 8分 トーキー

〔あらすじ〕ターちゃんとミーちゃんの2人は豆潜水艇で海上を散歩。鯨が泳いでいるので、飛魚を捕えて鯨に投げる。鯨は餌を追って海中に潜り、潜水艇も海底へ。潜水艇を見て驚いたカニは潜望鏡をハサミでちょん切る。ターちゃんは怒って魚雷を発射。カニは魚雷をはさんだままはるか向こうへ。潜水艇を出て海中散歩の途中、沈没船を発見。すると船の扉が開き、大きな手がミーちゃんをつかむ。船に住む怪人がミーちゃんをさらったのだ。驚いたターちゃんがミーちゃんを助けに向かうが扉は閉じてしまう。ターちゃんは竜宮城にSOSを発した。竜王の命令一下、魚軍の出撃。クラゲ、サメ、蛸のオートジャイロなどの応援で、ついに沈没船の怪人をつかまえ、ミーちゃんを無事救出。竜宮の使者の亀の背に乗り、2人は海上へ。魚たちが見送ってくれる。なぜかターちゃんのスタイルはミッキー・マウス。ミーちゃんは、ミニー・マウスのスタイルそっくりに描かれている。

製作・政岡映画美術研究所 原作、編曲・日立二郎 監督・政岡憲三 作画・熊川正雄、桑田良太郎、川島正義、竹内幸人 撮影・原田誠一 伴奏・政岡映画音楽部 録音・JOトーキー・スタジオ

NO. 50 元祿恋模様・三吉とおさよ

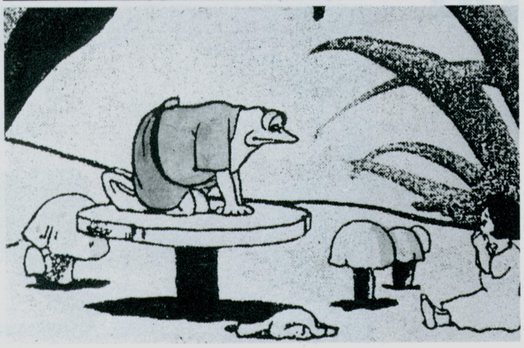


'34年6月完成（公開日、上映館不詳） 1巻274m 10分 トーキー

〔あらすじ〕桜満開の春。足軽の三吉も花見としゃれこむ。ある旗本の花見の宴で、一人娘のおさよが踊っている。美しいおさよをさらいにギャング団がきて大騒動。三吉が登場し、ギャング団からおさよを奪い返し花見の宴は再開される。
〔解説〕お猿の三吉シリーズ第4作。1933年に公開されたRKOの「キングコング」のパロディ版。

製作・日本マンガフィルム研究所 配給・東和商事映画部 作画、監督・瀬尾光世 音楽・西垣鉄雄

NO. 51 月の宮の王女様

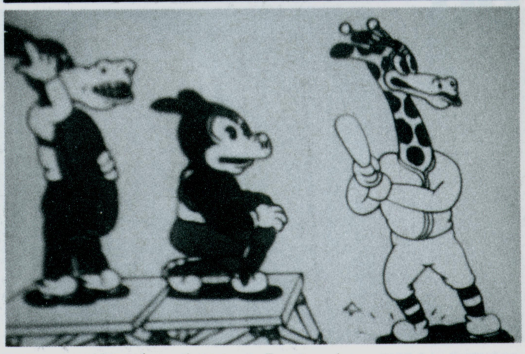


'34年8月完成（公開日、上映館不詳） 1巻318m 12分 トーキー

〔あらすじ〕平和な美しい花畑のなかにリスの町があった。町はずれのリスの家で、いつのころからか可愛いい女の子が親切なおばあさんに育てられて住んでいた。皆はこの子がどこからきたのか誰も知らなかったが、可愛がっていた。ある日、おばあさんの留守中、近所の悪蛙の大将が女の子をさらって逃げる。それを見た隣家のリスの非常警報で、リスたちは蛙を追いかける。リスの大軍にかなわぬと悪蛙は池にとびこみ、子分の応援を頼む。リスたちは船で池へ向かうが、水上では蛙軍優勢。一方、この近くへ雁がきて、アヒルに「私は月の宮の使者だが、女の子を見かけなかったか」とたずねる。女の子は実は月の宮の王女で、お守りの兎がうっかりして、雲の間から落としたのだ。アヒルから蛙にさらわれたことを聞き、雁はリス軍に加勢。蛙軍をやっつけ王女を救う。王女とリスのおばあさんは月の宮殿へ向かう。
〔解説〕村田安司の切り紙アニメの最高傑作といわれる作品。セル・アニメのようになめらかにアニメートされている。

製作・横浜シネマ商会 原案、脚色・青地忠三 作画、演出・村田安司 音楽・コロムビアオーケストラ 指揮・杉田良造 歌・伊藤久男、村山雪子 解説・関谷五十二

NO. 52 森の野球団

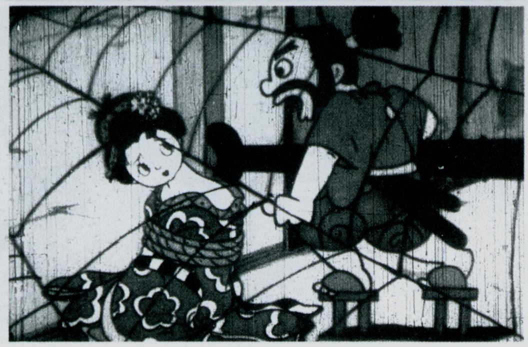


'34年10月完成（公開日、上映館不詳） 1巻227m 8分 トーキー

〔あらすじ〕森の動物たちの野球試合。ライオンチームとピョン吉主将のウサ公チームの対戦。クモがバックネットを張り、森の元老の羊の始球式。猫がサイレン役。試合はずる賢いライオン軍優勢で、9回裏に入る。ピョン吉のガール・フレンドのウサ子はたまらず応援団長を買ってでる。ピョン吉の打った大ホーマーで、試合は兎チームの逆転勝ち。
〔解説〕このアニメに脇役でディズニーのミッキー・マウスやミニー・マウス、それにベティ・ブープまで登場。1988年のディズニー・スピルバーグ共同製作の実写アニメ合成の「ロジャー・ラビット」の先祖？版権問題は？ 野球の試合の途中で狐がお姫様に、狸が奴に化け歌舞伎調になる。狸の声は原画の政岡憲三本人、狐は同夫人が受け持った。主題歌はなんと〝神田小唄〟。

製作・政岡映画美術研究所 原作・日立二郎 監督・原田誠一 音楽指揮・日立二郎 伴奏・政岡映画音楽部 録音・JOトーキー・スタジオ

NO.
53 塙団右衛門化物退治の巻



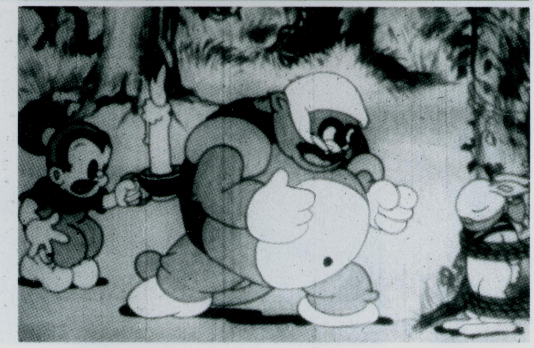
'35年完成（公開日、上映館不詳）１巻 10分

〔**あらすじ**〕武者修行の途中、ある城下町で「化物退治したものに金千両を与える」との高札を見た団右衛門は古寺に乗りこむ。美女に化けた狸の術中に陥り、目を回してしまう。してやったりと狸たちは首領狸を中心に無礼講の大酒盛りをはじめる。目をさました団右衛門は狸どもを鉄棒でなぎ倒し、丹下左膳に化けた首領狸と一騎打ち。ついに狸を退治して殿様から千両箱をもらう。

〔**解説**〕横浜シネマのアニメ作家は村田安司１人だったが、村田に続いて片岡芳太郎が頭角をあらわし、２人体制となった。のち片岡は横シネを出て、瀬尾光世が去ったあとの日本マンガフィルム研究所で働くが、数ある片岡の作品中「塙団右衛門」が最高傑作といわれる。

製作・日本マンガフィルム研究所　脚色、監督・魔須多和弘　作画監督・片岡芳太郎　原作、脚色・魔須田和光　作画監督・片岡芳太郎　作曲、指揮・西垣鉄雄　録音・日本ラジオトーキー製作所

NO.
54 新説カチカチ山



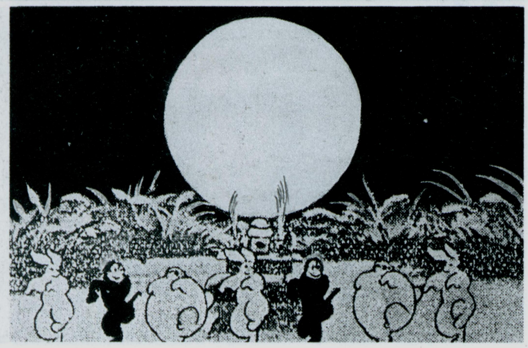
'35年完成（公開日、上映館不詳）１巻

〔**あらすじ**〕動物村の音楽会の演奏途中、見物席の兎のお嬢さんが狸の山賊にさらわれる。動物たちに加え、五月人形の金太郎、桃太郎、弁慶、加藤清正らが出動し狸軍と戦争。絵本のように狸の背中に火をつけて退治する。

〔**解説**〕若きアニメーター市川儀一（映画監督市川崑の本名）の作品。1933年、18歳になった市川は絵が好きだった。当時公開されていたディズニーのミッキー・マウスやシリー・シンフォニー・シリーズの作品を見てアニメ界入りを決意。アニメ制作を開始したばかりのＪＯスタジオに入社。７，８名しかスタッフはいなかったが、月給は当時で150円もの高給だった。のちスタッフが動画部門から離れてゆき、最後まで残ったのは市川１人。人手不足の時は脚本、動画、撮影、編集まで１人でやった。後年劇映画で名監督として才能を発揮するが、ＪＯスタジオでのアニメ作りの経験が役立ったそうだ。儀一を崑に変えたのはＰＣＬが映画脚本を募集した時、応募したペンネーム。ＪＯ漫画映画部解散後、劇映画入り。

製作・ＪＯトーキー漫画部　脚本、作画・市川崑　作曲・西山明男

NO.
55 ミー坊と狼

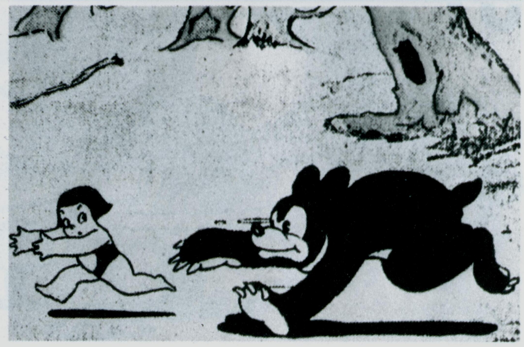


'35年完成（公開日、上映館不詳）１巻258m ９分

〔**あらすじ**〕今夜はお月見。小兎のミー坊は母親のいいつけで、おばあさんに月見ダンゴを届けに行く。途中出会った狸と猿にダンゴをあげる。狼が出てきて、やさしくしてくれるので、つい気を許し、おばあさんの家へ行くといってしまう。先回りした悪狼はおばあさんの家の戸をたたく。ミー坊がきたのかと思ったおばあさんが戸を開けると、狼が立っているので驚いたおばあさんは逃げだし、近くの木の穴にかくれる。ミー坊は狼がおばあさんに変装し寝ているのを知らず、狼に近づく。いきなりとびかかった狼に驚いたミー坊は救いを求める。狸と猿がかけつけ、狼と闘うが狼にはかなわない。狸は橋に化け、だまされた狼はその橋を渡る途中、谷川へ落ちてゆく。悪狼のいなくなった兎の村では、助けてくれた狸や猿も招待して、お月見の踊りがはじまった。童話「赤頭巾ちゃん」のパロディ・アニメ。

製作・横浜シネマ商会　作画、演出・村田安司

NO.
56 お山の大将



'35年完成（公開日、上映館不詳）１巻265m 10分

〔**あらすじ**〕足柄山の山奥に赤ちゃんの捨て子。猿のお母さんに拾われ、白猿と名づけられ、可愛がられて育てられた。ある日、山では猿軍対白兎軍の野球試合がはじまり、猿軍は敗けかけるが、ピンチヒッターの白猿が大ホームランを打つ。球はグングンのびて昼寝中の熊に当たる。怒った熊は白猿と勝負と相撲をとるが、白猿の勝ち。翌日から白猿は足柄山の大将となり〝金太郎〟と呼ばれるようになった。

製作・旭物産合資会社映画部　作画、演出・瀬尾光世　配給・東和商事映画部

NO. 57 忍術火の玉小僧・海賊退治の巻

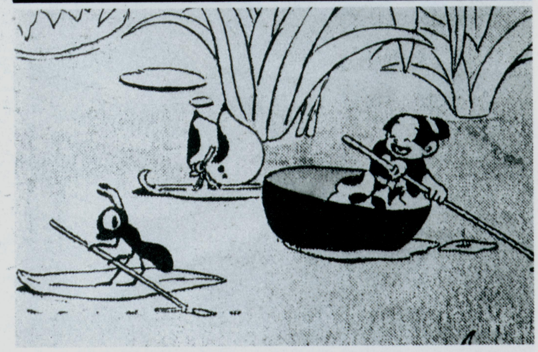


'35年5月完成（公開日、上映館不詳） 1巻

〔あらすじ〕火の玉小僧と娘を乗せた千石船〝N・K丸〟（〝日活〟の略か？）は海賊船の襲撃を受ける。火の玉小僧と娘は勇敢に戦うが、海賊は多勢。あわやの危機に、折よく航行中の日本連合艦隊の救援で海賊を撃滅することができた。
〔解説〕旧童映社のスタッフだった舟木俊一は日活京都撮影所に残り、日活漫画「島の娘」及び「忍術・火の玉小僧」シリーズ3部作を1934年春から'35年春にかけ製作したが、漫画部は同年6月解散した。この作品は、1905年5月、日本海軍とロシア海軍の間で日本海海戦がおきたが、それを記念して作られたもの。このシリーズは他に「江戸の巻」「山賊退治の巻」がある。作画の酒井七馬は'47年、若き手塚治虫との合作で「新宝島」を出版。今日の手塚治虫の生みの親でもある。戦前はアニメーターとして京都で活躍。戦後は漫画家としてアニメを離れた。

製作・日活京都撮影所漫画部　監督・田中与志　作画・酒井七馬、細井太郎、永久博郎、山添良巳　音楽・西悟郎

NO. 58 一寸法師ちび物語

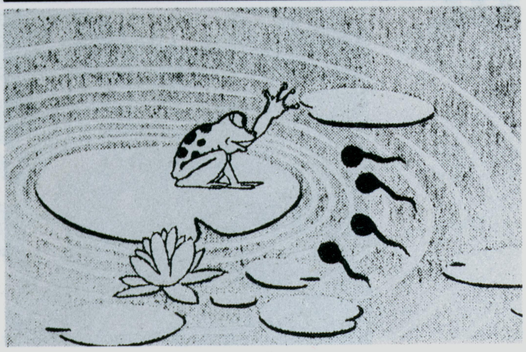


'35年6月完成（公開日、上映館不詳） 1巻274m 10分

〔あらすじ〕指に足りない一寸法師のちび助は、都に上って出世したいと、田舎からでてきた。おわんの舟に箸のカイで長旅の末、京の都の岸辺に着いた。土堤のつる草を縄ばしごにしてよじ登ったちび助。やっと都大路へきて、めざすは大臣の屋敷。お目通りが許され、手の平の踊りが気に入った大臣は、ちび助を家来に召しかかえる。ある春の日、姫の桜見物のお供で清水寺へ詣る途中、淋しい山道にさしかかると、かねて都の人々を苦しめていた大鬼が出てきて姫に襲いかかる。ちび助は腰の一針で鬼の足の甲を突き刺す。驚いた大鬼は姫を放し、ちび助をつかまえようとする。草むらにかくれたちび助は、スタンプを押して自分の姿の複製をたくさん作る。複製のちび助一隊はマッチの弾丸で大鬼を攻撃、やっつける。逃げ去った大鬼の忘れた打出の小槌で、ちび助は立派な若者になる。

製作・旭物産合資会社映画部　作画、演出・瀬尾光世

NO. 59 蛙の子

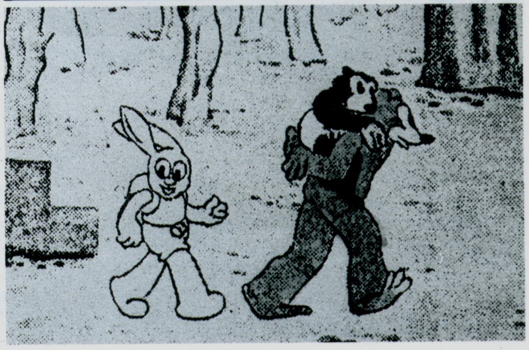


'35年7月完成（公開日、上映館不詳） 1巻

〔あらすじ〕蛙の家ではお母さん蛙の出産で大騒ぎ。アヒルの産婆さんがきて、やがてオタマジャクシの卵がたくさん産まれる。卵はオタマジャクシにかえるが、生みの親が誰なのかわからず、親探しの旅に出る。途中、金魚に出会い、親かとたずねるが、金魚は知らん顔。昼寝をしているナマズを見つけ、色が黒いから、きっと父親にちがいないとヒゲを引っぱり起こしてしまう。眠りをさまされたナマズは怒ってオタマジャクシをひとのみにし、一息で吐きとばす。今度は魚釣りしている子どものえさのミミズを見て食いつき、順に尻尾にぶら下がる。魚かとあわてて釣糸をひいた子どもは、行列でぶら下がるオタマジャクシを見て「なんだ、オタマか。蛙の子だ」といって放りだす。オタマたちはこの言葉で、初めて自分の親が蛙とわかり、水蓮の葉の上の親蛙を見つけだし、親子の対面をして喜ぶ。
〔解説〕1934年～35年にかけ、初期の松竹美術部に所属していた岩田酉介が、大阪の深田商会と提携し「蛙の子」「ピョンチャンと小熊」の2本のアニメを制作。

製作・深田商会映画部　作画、演出・岩田酉介

NO. 60 ピョンチャンと小熊



'35年11月完成（公開日、上映館不詳） 1巻

〔あらすじ〕子兎のピョンちゃんと子熊の熊吉は大の仲良し。ピョンちゃんの心配ごとは父の眼が見えなくなったこと。学校から帰ると、毎日、森の神社へ参拝し、全快祈願した。感心なピョンちゃんの行為に、神様は3つの願いがかなう宝の玉を与えた。ピョンちゃんが喜んで帰る途中、友だちの熊吉が泣いている。熊吉の母が猪の落し穴に落ちたのだ。ピョンちゃんは宝の玉の力を借り、熊吉の母を助け上げた。ピョンちゃんの父の眼も宝の玉のおかげで良くなった。熊吉母子はピョンちゃんの家へ引越し、仲良く一緒に住むことになった。
〔解説〕1934年～35年にかけ、初期の松竹美術部に所属していた岩田酉介が、大阪の深田商会と提携し「蛙の子」「ピョンチャンと小熊」の2本のアニメを制作。

製作・深田商会映画部　作画、演出・岩田酉介

’36〜45（昭和11〜20年）

映画の革命といわれた色彩映画は各国で研究されていたが、1932年、アメリカで三色法テクニカラーによる短編アニメ「森の朝」をディズニーが製作。色彩の美しさでアカデミー賞を得た。劇映画は’34年「クカラチャ」が公開され、アメリカではカラー時代を迎えた。日本では研究熱心な大藤が’29年「黄金の花」を二色法シネカラーで試作。’34年には政岡と合作の「三羽の蝶」を、やはり二色法のバイタカラーで試作したものの、一般公開はされていない。

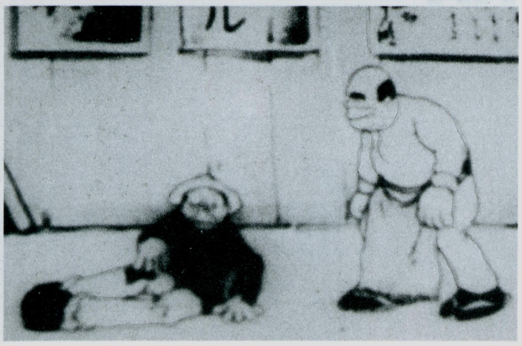
国際情勢では、’37年７月、日本軍と中国軍が衝突。日中戦争の幕がおとされ、国内に戦争ムードが起きつつあった。この年の12月、アメリカではディズニーが世界初のカラー長編アニメ「白雪姫」を公開。大ヒットとなって「風と共に去りぬ」の公開まで興行成績のトップを占めた。

日本のアニメ界においても、戦争に迎合するかのように、軍事色の濃い作品が台頭しはじめていた。またベテラン勢に加え、新人の**鈴木宏昌**（芦田巌）、**片岡芳太郎**、**佐藤吟二郎**、**西倉喜代治**らが登場した。影絵アニメの分野でも、本業は歯医者で、アニメ制作はアマチュアながら、医者仲間の**飛石仲也**と**荒井和五郎**のコンビが’39年に作った「黄金の鈎」が評判となり、劇場公開されたのも話題。のちに彼らは名作「お蝶夫人の幻想」を作る。

’41年12月８日、日本はついに、いまわしい太平洋戦争に突入、アニメも国策に沿った戦争物ばかり。’42年の日本初の長編アニメ「桃太郎の海鷲」は、ハワイ真珠湾攻撃のPRアニメだが、秀れた作品で、悪条件下で制作した瀬尾光世の努力が認められる。

翌’43年、戦時中の作品とは思えない詩情あふれる作品が登場した。政岡の「くもとちゅうりっぷ」である。可憐なテントウ虫を悪役のクモが誘惑する話だが、自然描写の素晴らしさに驚かされた。日本アニメ史に残る傑作が、激しい戦争の最中に作られたのは一つの奇蹟であった。そして日本中がB29の爆撃にさらされていた’44年４月「桃太郎・海の神兵」がひっそり公開された。これを観た若き学徒の手塚治虫は、内容、技術の素晴らしさに嬉し涙を流した。同年８月15日、長い戦争は終わった。

NO. 61 居酒屋の一夜



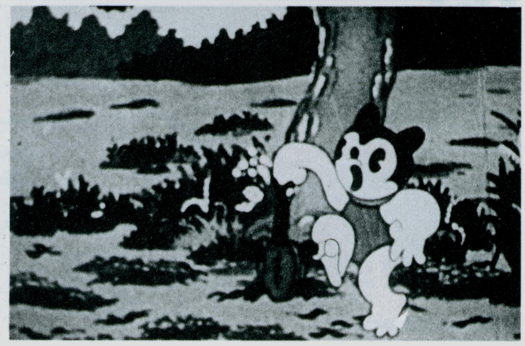
’36年５月完成（公開日、上映館不詳） 1巻 8分

〔あらすじ〕居酒屋で振舞酒に酔いつぶれた浮浪者。昼間、町で拾った「沈没船引揚げ資金募集」の広告チラシが気になっていて、その夢を見た。海底深く沈没船を探しに出かける。途中一人の武士に怪しまれるが、お互い日本人とわかり、一緒に宝物探しに行く。沈没船〝モノナイ号〟には敵国の兵士が番をして、近づけない。一計を案じ、味方の武士を先に船に乗りこませ、決闘させている間に宝物を奪おうとしたが、欲が出て独り占めしようとする。だが武士に見つかり首筋を押えつけられ、目が覚めた。武士と思ったのは居酒屋の親父で、店はもう看板だったのだ。浮浪者の哀感が出た大人向けのアニメ。

〔解説〕1935年５月、キネマ旬報創刊15周年記念に懸賞募集された〝トーキー漫画ストーリー〟当選第１作を横浜シネマでアニメ化したもの。ストーリー応募は総数357篇。作画、演出を担当した村田安司は自分のスタジオを設立するため、この作品を最後に横シネを去る。

製作・横浜シネマ商会　原作・今順太　作画、演出・村田安司　作曲・古賀政男　編曲、指揮・杉田良造　音楽・テイチク・オーケストラ

NO. 62 ちんころ平々玉手箱

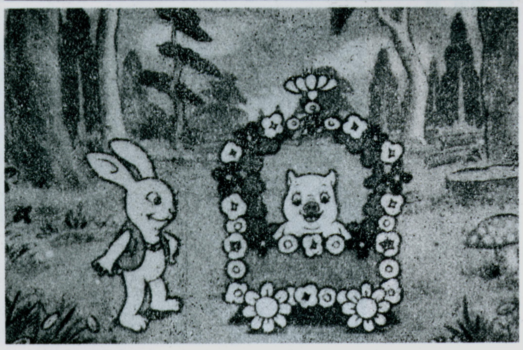


’36年完成（公開日、上映館不詳） 1巻233m 8分

〔あらすじ〕ある春の日、昼寝の夢を亀に破られた平々は、かんかんに怒って逃げる亀を追って竜宮城へ。竜宮では玉手箱の虫干し中。箱のなかからたくさんの小ガニが現れ、紙を切り抜き魚を作っていた。見ていた平々、面白そうなので城内に入ろうとするが、門番に陸の者は入れられないと阻止される。どうにかして入りたいと、一匹の魚の皮をはぎとり、魚に化けて城内に入りこみ、玉手箱を盗みだす。魚の追跡を振り切って逃げ帰る。玉手箱を開けてみると、出てきたのはタコ入道で、平々はさんざんな目にあわされ、玉手箱も奪い返される。

製作・千代紙映画社　作画、演出・大藤信郎

NO.
63
森の小兎



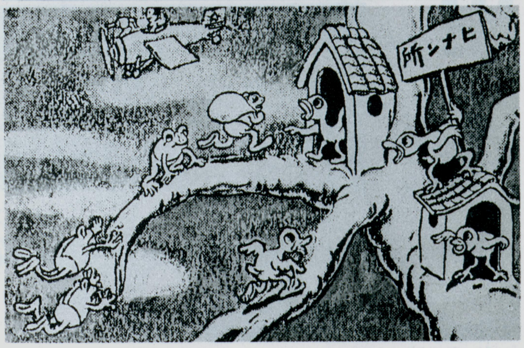
'36年完成（公開日、上映館不詳） I 巻

〔あらすじ〕森の朝、小兎は花園で草花とともにラジオ体操。朝の散歩にでかける途中、迷子の小豚を助ける。いたずら好きの小兎はある日、象のところへ行き、豚親子が沼に落ちて困っているから助けてくれと言葉巧みに頼む。象は小兎の言葉を信じ、豚を助けることを承知。小兎は今度は鯨のところへ行き、象が沼に落ちて困っているので助けてくれと頼む。鯨も象を助けることになり、小兎は用意した綱で象と鯨に綱引きさせた。森の動物総動員で象に加勢、一方鯨もたくさんの魚の応援を得る。象も鯨も小兎の言葉を信じたため、一生懸命に綱を引っ張るが、とうとう綱が切れてしまう。

〔解説〕東京学校巡回映画連盟伴奏委員の関猛が原作を書いた〝小兎シリーズ〟第1作

製作・オールキネマ社　原作、脚色・関猛　演出・西倉喜代治　作画・西倉喜代治、殿谷正文、加藤てい象

NO.
64
おいらの非常時



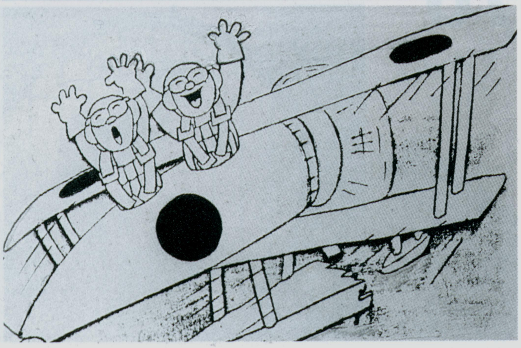
'36年完成（公開日、上映館不詳） I 巻226m 8分

〔あらすじ〕池の付近に住む動物の国へ、ある日、猫軍が飛行機で空襲。蛙軍の飛行機が応戦。水上では猫の海軍が攻撃をしかけるが、魚の海軍が撃退。夜になって、再び猫軍の空襲。兎の聴音機、ガチョウのサイレンが活躍。小動物たちはモグラの家へ避難。フクロウの目がサーチライトとなって敵機をやっつけたが、それは池で寝ていた蛙の夢だった。

〔解説〕製作の日本電報通信社というのは現在の電通の前身で、活動写真部が併設されたが、のちの電通映画社である。

製作・日本電報通信社活動写真部　作画、演出・山本早苗

NO.
65
空の上海戦線

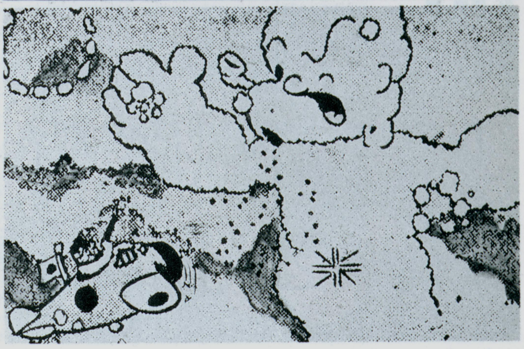


'38年 I 月完成（公開日、上映館不詳） I 巻238m 9分

〔解説〕製作は三幸商会だが、アニメ作家は不詳。サブタイトルが「ニュース漫画・支那事変に拾う第2集」となっていて、上海での空中戦のもようをアニメ化したもの。第1作は「爆弾二将校」。多分ニュース映画専門館用に安直に制作したものだろう。

製作・三幸ニュース　配給・三映社　作画、演出・不詳

NO.
66
空の荒鷲

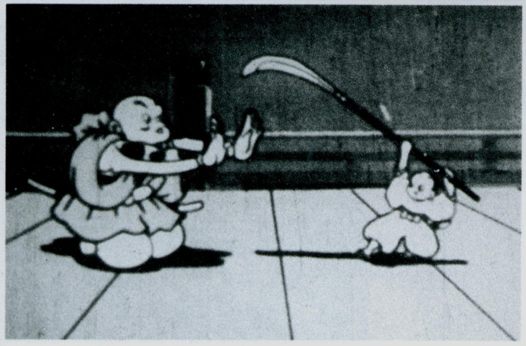


'38年完成（公開日、上映館不詳） I 巻255m 9分

〔あらすじ〕ちんころ平々は海の荒鷲の勇姿を見て、自分も飛行機に乗りたくなる。狸のタヌ助をお供に、車回しの小巣がエンジン代りの飛行機で敵地へ出発。わが海の荒鷲が敵の豚軍機と大激戦の最中。応援に行こうとするが、ポパイやスターリンの形をした雲が平々の機を妨害する。その雲をつき抜け敵機と出会うが、平々機には機銃がない。反対に敵機の機銃を奪い戦う。ついに弾丸がつき肉弾攻撃。敵機は退散しはじめるが、平々機は投縄で敵機を捕獲し、めでたく帰還する。

製作・千代紙映画社　作画、演出・大藤信郎

NO. 67 べんけい対ウシワカ

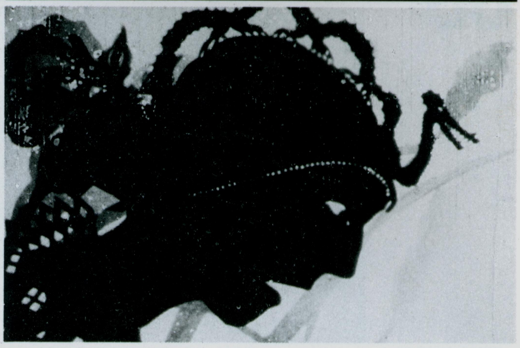


'39年7月公開（大阪・松竹映画劇場他4館、京都・京都座他3館） 2巻396m 14分

〔あらすじ〕京の鞍馬山で少年牛若丸が武術の稽古をしていると大天狗が現れ、森の木を傷つけたことをとがめる。牛若丸は武術修業の目的を話す。天狗はわかってくれ、木の葉を吹くと烏天狗がたくさん現れ、牛若丸相手に戦う。天狗は牛若丸に猛稽古をつけ、剣の腕をみがいた牛若丸に極意の一巻を授ける。京へ出た牛若丸は、ある夜、五条大橋の上で、刀剣千本を集める祈願をもつ弁慶と出会う。999本まで集めた弁慶はカモきたると牛若丸に挑戦するが、さんざんな目にあい弟子となり、主従のしるしに小刀をもらい千本となった。
〔解説〕1937年、政岡憲三は旧スタッフを集め「日本動画協会」を設立。〝動画〟という言葉を最初に使ったのは政岡憲三。松竹映画の協力で京都三条に小スタジオを設け「日本動画研究所」を発足、第1作を発表した。音楽は一部にプレ・スコアリングを採用。牛若の声は政岡夫人、弁慶の声は政岡憲三自身が吹きこんだ。京阪神12館の松竹系で一斉封切りされた。

製作・日本動画研究所　配給・日本短篇映画社　原画、監督・政岡憲三　動画・熊川正雄、桑田良太郎　仕上・木村角山　録音・日本科学研究所

NO. 68 黄金の鈎



'39年11月2日　新宿文化ニュース劇場封切　1巻283m 10分

〔解説〕作者の荒井和五郎は1907年東京生まれ。歯科医院を経営していた歯医者さんだが、ドイツのロッテ・ライニガーの長編影絵アニメ「アクメッド王子の冒険」（'27年、日本公開は'29年）を見て、影絵アニメ製作を決意。同業の医者の飛石仲也の協力で、アマチュアとして9.5ミリで処女作「黄金の鈎」を発表。東和商事（現在の東宝東和）映画の野口久光（現音楽評論家）のすすめで35ミリに制作し直し、同社の手で公開された。お話は日本神話の「海彦山彦」の物語を題材に兄弟愛を描いたもの。影絵の作風はジャワ地方に伝わる影絵芝居ワヤンの影響を受けている。

製作、作画切抜き、構成、撮影、演出・荒井和五郎、飛石仲也　配給・東和商事映画部

NO. 69 カチカチ山

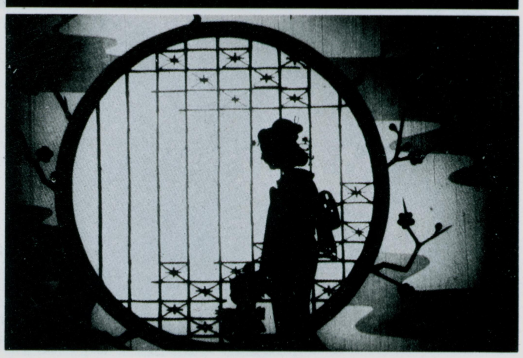


'39年12月28日完成（'40年1月5日公開、上映館不詳） 1巻279m 10分

〔あらすじ〕昔、ある農家で、おじいさんとおばあさんが兎を飼って可愛がっていた。ある日、悪狸が畑を荒し、怒ったおじいさんはワナを仕掛けて捕えた。悪狸はおじいさんの留守におばあさんをだまし縄をといてもらうが、反対におばあさんをくくり、狸の家へ連れて行く。兎はおばあさんを助けようと、ごちそうを用意し狸の家へ。それにつられた狸は、兎のかつぐ柴を運ぶ約束をする。柴をかついだ狸の背に、兎は火をつける。大やけどして苦しんでいる狸に薬だと、兎は唐がらしを背中に塗る。その間におばあさんを助けだそうとするが失敗。今度は狸を魚釣りに誘う。狸の乗った舟は泥舟で海の真んなかで溶けて溺れる。兎は狸を助けてやり、狸は改心。無事に戻ったおばあさんに喜ぶおじいさん。兎と狸はお祝いの餅つきの手伝いをする。

製作・日本動画研究所　脚色・政岡憲三　動画・柾木統三　彩画・木村実　音楽・高橋虎之助　音楽出演・劇団ドウゲキ

NO. 70 お蝶夫人の幻想

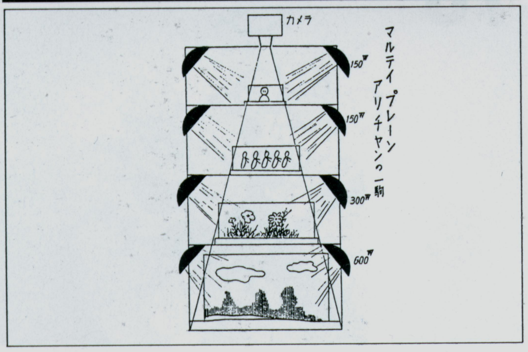


'40年5月16日　銀座映画、邦楽座、大勝館、武蔵野館、横浜オデオン座封切　1巻332m 12分

〔あらすじ〕新緑の季節がきて、燕が飛びかうころ、はるか水平線上に星条旗をなびかせたリンカーン号が見えた。恋しい夫ピンカートン大尉（従来は〝中尉〟の階級だったが、最近の発見で〝大尉〟に昇格）の来訪。だが幸福は束の間で、夢のように過ぎ去る。女の幸せを胸に秘め、桜のように散り果てた日本娘と米国士官の悲恋物語を描いた抒情的な影絵の佳作である。
〔解説〕処女作「黄金の鈎」が好評だったため、朝日映画社が専属契約で影絵を制作させることにした。第2作はプッチーニのあまりにも有名な歌劇「蝶々夫人」に挑戦。日本アニメ史の影絵映画の代表的名作となった。18000コマの撮影が終了し、録音の際に歌劇の著作権を持つプラーゲ博士から多額の上演料を要求され、資金的に支払いが困難となった。これを知ったプリマドンナ三浦環女史の全面的な支援で、新しい着想のもとに歌詞と新曲ができ、やっと完成したいきさつがあり、当時の新聞のニュース種（ＰＲくさいが）にもなった。

製作・朝日映画社　切抜き、構成、撮影、演出・荒井和五郎、飛石仲也　作詞、独唱・三浦環　合唱・三浦環声楽団

NO.
71
アリチャン

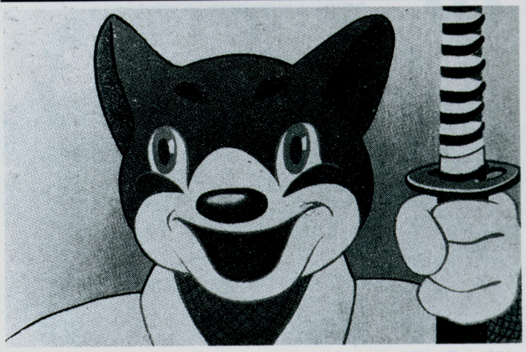


'41年完成（公開日、上映館不詳） 1巻309m 11分

〔あらすじ〕蟻の子どもアリチャンがコオロギのバイオリンを盗むが、楽器の持ち主が困っているだろうと反省し、持ち主に返しに行く。
〔解説〕1937年、芸術映画社に特殊映画部長として入社した瀬尾光世は、同社の文化映画の線画やタイトルを制作。一方、短編アニメ制作にも着手した。また同社ではＰＲアニメも５本制作している。消化剤〝わかもと〟のＰＲ作品が多かった。'37年12月、世界最初の長編カラー・アニメがアメリカで公開された。ディズニーの「白雪姫」である。この作品ではマルチプレーン・カメラ（多層式撮影カメラ）という７段の撮影装置でアニメを立体的に見せたが、試作品は'37年の「村の水車」で、アカデミー短編アニメ賞を受賞。「白雪姫」でマルチプレーンを使用したニュースはアメリカの映画技術雑誌で紹介され、日本では国産の４段マルチ撮影台が「アリチャン」で初めて使用されている。この作品の背景を担当したのが、後年、日本の人形アニメの基礎を作った持永只仁である。

製作・芸術映画社　委託・文部省映画製作課　作画、演出・瀬尾光世　音楽・服部正

NO.
72
こがね丸



'41年１月より制作開始。未完成作品

〔解説〕横浜シネマ商会では、1940年１月ごろから山本繁、浅野恵らを中心にアメリカ漫画映画〝ポパイ〟のフィルムを分析し、作画技術の研究を開始。一方、支配人の青地忠三が、海軍省後援の記録映画「揚子江」の中国ロケ中に、上海でディズニーの「白雪姫」を見て、その素晴しさに、日本でも長編アニメ制作ができないものかと佐伯社長に打診した。種々検討の結果、ＯＫが出て'41年１月より日本初の長編アニメ「こがね丸」の制作に着手。題材の「こがね丸」は児童作家の巌谷小波の古典童話で、犬の仇討ち物語。同年春、漫画映画専門の制作所として「横浜シネマ研究所」を設立。８巻の大作となる予定であったが、そのころから海軍航空本部の軍事教育映画のなかに挿入する線画（図解など）制作の需要が、しだいに多くなり、かんじんの長編アニメのほうは人手不足で、最後には浅野恵ただ一人が細々と続けている状態だった。'42年２月、約23分（630m）を制作した段階でストップ。幻の作品となったのは惜しまれる。

製作・横浜シネマ研究所　原作・巌谷小波　演出・山本繁、浅野恵　作画・山本繁、浅野恵、増田謙二、最上忠敬、下林数生　撮影・浅野恵、江崎正一　音楽・宮淳三

NO.
73
かぐや姫

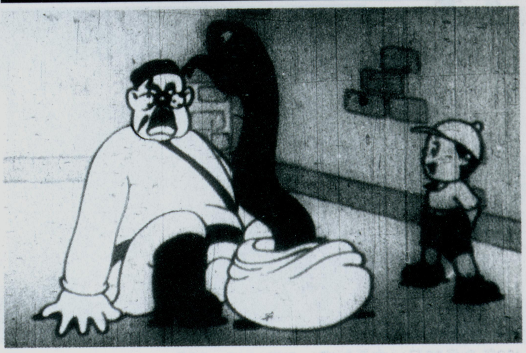


'42年２月24日　邦楽座　3巻718m26分

〔あらすじ〕昔、優しい老人がいて、大雪の日、折れた竹の下敷となって苦しむ兎を助けて連れて帰り、老婆と手厚く看病するが、死んでしまう。兎の魂は月の都に昇天する。春になり兎を埋めた場所にタケノコが生え、根元が光っているので老人が竹を切ると、なかに可愛い女の子がいた。かぐや姫と名づけ、可愛がって育てる。竹から黄金がでて、一家は豊かな暮しができた。七夕も過ぎ、秋近くなるころから、娘は元気なく泣き暮らす毎日が続く。十五夜の満月の夜、兎の道案内で、姫は老夫婦に別れを惜しみながら、月の都へ帰っていく。
〔解説〕「お蝶夫人の幻想」「ジャックと豆の木」を続けて発表し、技術的にも格段の進歩を示した荒井、飛石コンビの影絵アニメの４作目。この作品はＰＲ文では〝影絵による抒情映画詩の最高作品〟と書かれていた。事実、技術的には、影絵独特の濃淡を出すため、雲の降る竹藪のシーンでは五重露出が試みられたという。お話は原作にはない兎が発端となっている。

製作・朝日映画社　原案、構成、撮影、演出・荒井和五郎、飛石仲也　作詞・横尾三千代　作曲・小船幸次郎　独唱・葦原邦子　演奏・フィルハーモニー四重奏団

NO.
74
マー坊の大陸宣撫隊・後篇
匪賊退治の巻

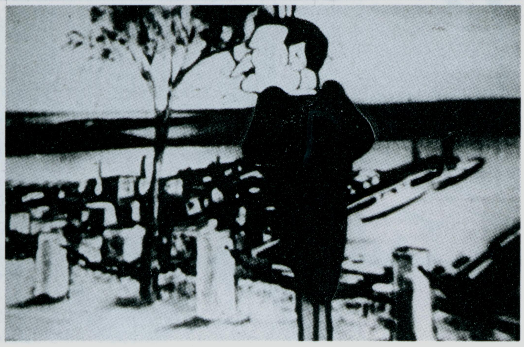


'42年３月26日　新宿朝日劇場封切　1巻281m 10分

〔あらすじ〕誘拐された少女を救出に、マー坊とお供の動物たちは匪賊の住む山塞へ出発。居眠り中の番兵をやっつけ、洞窟深く潜入。少女の身代金一万元と偽って、匪賊に袋を渡すが、なかからヘビが飛びだす。匪賊の首領は怒ってマー坊を落し穴へ突き落すが、ヘビをお菓子で操って脱出。合図のピストルで動物たちはいっせいに飛びこみ、匪賊は命からがら逃げだす。残された金銀財宝を、お供のカバが大砲につめ、大空へ打ち上げる。空から降る宝に領民たちは大喜び。少女も無事家族のもとに帰り、再び平和がくる。
〔解説〕マー坊の愛称の少年が主人公で、戦地でいろいろな冒険をして、軍に協力する国策アニメ。制作者の佐藤吟二郎は北山門下の金井喜一郎の実弟。この会社は再生フィルムを使用して玩具用フィルム等をたくさん製作していた。

製作・佐藤映画製作所　佐藤今二良　作画、演出・千葉洋路　解説・牧野周一

NO. 75 スパイ撃滅



'42年 7月16日　横浜朝日劇場封切　1巻333m 12分

〔**あらすじ**〕米、英洋上会談でルーズベルト、チャーチルは何の密談をしたのか、間もなくアメリカの飛行場から3人の男女が日本へ向け出発。太平洋を渡り、日本へ落下傘で降下した3人組を相手に、日本の大和一家は国土防衛の責任感から、鶏や犬までもが一家に協力し、3人組のスパイ活動を粉砕した。
〔**解説**〕太平洋戦争中、第三国人によるスパイ活動防止の〝防諜〟のスローガンがあちこちに目立った。スパイ活動防止を訴える国策アニメ。映画に登場する3人の男女は角が生えており、当時〝鬼畜米英〟の言葉があったが、文字通りの米英を示している。ラストに「真の日本人たれ、国を思う一億の団結、それが防諜だ！」の標語が出る。

製作・三幸商会　作画、撮影、演出・山本早苗　指導・防諜協会

NO. 76 くもとちゅうりっぷ

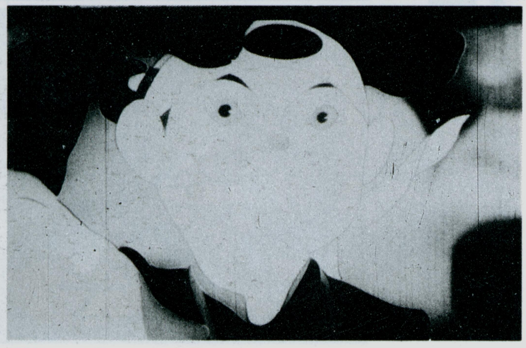


'42年 12月完成（'43年 4月15日白系封切、22日紅系封切）2巻426m 16分

〔**あらすじ**〕可愛らしいテントウ虫の女の子が歌いながら遊んでいる。カンカン帽に白マフラーの色男のクモがハンモックに乗らないかと誘う。断っても追いかけるので女の子はチューリップの花にかくれる。怒ったクモは糸で花を巻きつける。夜、暴風雨がきてクモは池へ落ちる。糸にまかれた花のなかのテントウ虫は無事に朝を迎える。
〔**解説**〕戦争中に作られた作品とは思えない詩情あふれる佳作。政岡憲三の最高傑作である。原作は、児童作家の横山美智子の「よい子つよい子」の童話集の一篇。ヒロインのテントウ虫の歌は、ビクター童謡歌手の杉山美子で、元新興映画の子役もしたが、のち大映女優となった。ヒロインのアニメの担当は熊川正雄。悪役のクモの歌は藤原歌劇団バス歌手の村尾護郎。アニメ担当は桑田良太郎。作曲、指揮の弘田竜太郎は「靴が鳴る」「叱られて」など多くの童謡を作曲した。暴風雨のシーンで雨滴が空から落ちてくる描写は、アニメーターが実際に降る雨をつぶさに研究して描いたもの。

製作・松竹動画研究所　企画・熊木喜一郎　原作、作詞・横山美智子　作曲、指揮・弘田竜太郎　演奏・松竹交響楽団　唄・村尾護郎、杉山美子　録音・東亜発声株式会社　動画・桑田良太郎、熊川正雄、土井研二、山本三郎、木村阿弥子　背景・村上博彬、岡本庚　編集・吉村祥　脚色、撮影、演出・政岡憲三　撮影補助・本庄吉雄

NO. 77 桃太郎の海鷲

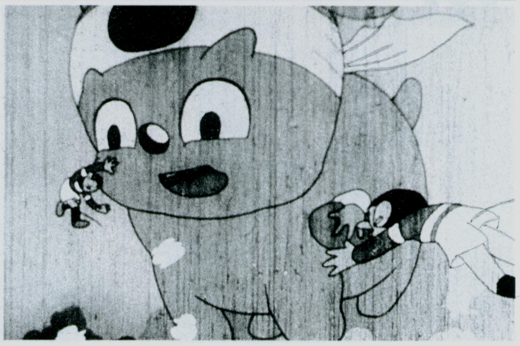


'43年 3月25日　白系封切　5巻1018m 37分

〔**あらすじ**〕航空母艦の艦長・桃太郎指揮のもと、犬、猿、キジ乗組の航空隊は魚雷を積んで鬼ケ島を目指す。敵の不意をついて攻撃は成功。味方機も被弾し傷つくが、全機無事母艦に着艦。記録映画「闘う護送船団」と2本立て公開された。
〔**解説**〕海軍省が太平洋戦争開幕のきっかけとなった12月8日のハワイ真珠湾攻撃をPRするためアニメで製作したもの。5巻37分は当時としては初の長篇アニメであった。作画枚数10万枚といわれるが、演出の瀬尾光世自身、アニメの早描きで有名で、撮影も兼務のなかで、かなりの動画を描き大活躍した。興行成績も劇映画の「ハワイ・マレー沖海戦」に次ぐ65万円という好成績をあげた。当時の雑誌広告の文面は「迷利犬（註＝アメリカ）製漫画映画撃滅」の大見出して、「昭和の桃太郎、大東亜戦下に敢然蹶起！悪鬼米国の要塞、鬼ケ島（ハワイ）真珠湾の大爆撃を敢行、赤鬼、青鬼共を震えあがらせる痛快、無類の鬼ケ島大海戦」と過激に書かれていた。

製作・芸術映画社　配給・映画配給社　大村英之助　後援・海軍省　企画・海軍省報道部　脚本・栗原有茂　技術、構成・持永只仁、田辺利彦、橋本珠子、塚本静世　撮影、演出・瀬尾光世　音楽・伊藤昇

NO. 78 闘球肉弾戦

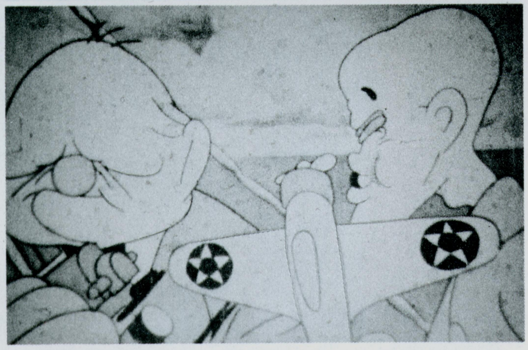


'43年完成（公開日、上映館不詳）

〔**解説**〕日本犬チームとギャング・タイプの猿チームのラグビー試合をアニメ化した作品。日本チームの犬のラガー全員が日の丸の鉢巻をしめているのが、何やら特攻隊を連想させるのも、戦局厳しい時局柄だろうか。猿チームは当然アメリカで、ずるい試合運びをするが、結局、正義の日本チームが勝つ設定である。作品のテーマは別として、技術的にはスピード感があって、よくできた作品。

製作・松竹動画研究所　脚本・高木一郎　演出・桑田良太郎　撮影・本庄吉雄　動画・熊川正雄　動画助手・土井研二、山室正雄、木村一郎、鎌田惣助　背景・高木一郎　作曲指揮・呉泰次郎　演奏・大東亜交響楽団、音楽効果・木村一　調音・大村三郎

NO. 79 ニッポンバンザイ



'43年5月27日　紅系封切　1巻　実写併用

〔**解説**〕海軍省が発注し制作させた戦意高揚のPR映画。南方地方における米、英、オランダの横暴ぶりを説明し、日本に対する圧力、その結果引き起こされた大東亜(太平洋)戦争。戦争の結果生まれた大東亜共栄圏の建設。反面、敵の反撃は物量作戦と大きな生産力で繰り返される。だが日本国民は、あくまで、この敵を撃滅しなければならないといった内容を、影絵、アニメ、ニュース、記録映画で構成した作品。なかでも圧迫され搾取され続けた南方民族の歴史をシルエットで表現した影絵アニメ（荒井和五郎、飛石仲也コンビ）が一番よくできていた。当時〝鬼畜米英〟と呼び、あからさまな日本国民の対敵感情が画面で強調され、ルーズベルト米大統領、チャーチル英首相、蒋介石総統などの似顔絵がアニメでふんだんに出てくる。ラストに「戦時下の海軍記念日」のタイトルで「我々は決して敵を馬鹿にしたり、あなどってはならない、若人よ海へ行け、海こそ我等の決戦場である」とメッセージが出る。

製作・朝日映画社　委託・海軍省　原案・米山忠雄　構成・三上良二、永富映次郎　影絵・荒井和五郎、飛石仲也　漫画作画・前田一、木村一郎、浅野匠、線画・志賀友易　編集・有松義正　お話・関屋五十二　音楽・飯田景応、若松巌

NO. 80 お猿三吉・闘ふ潜水艦

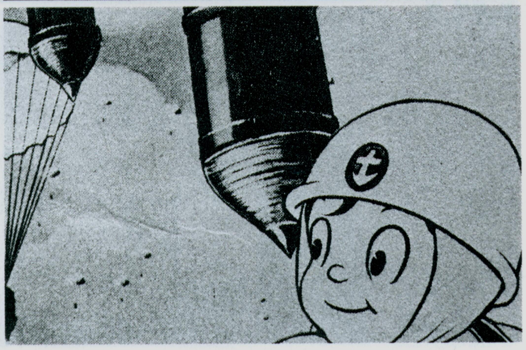


'43年7月1日　白系封切　1巻　12分

〔**あらすじ**〕海軍潜水学校に入学したお猿たちは授業で潜水艦の仕組みや、圧縮空気による潜水、浮上の原理を学ぶ。いよいよ潜水艦で戦場へ。お猿の三吉の乗った潜水艦も大活躍。三吉は特攻隊の一員となり、軍刀にとびのり敵陣へ。刀は一人で部屋のなかに突進、壁にかかったルーズベルト大統領の肖像画の入った額の前まで進む。ルーズベルトの絵が手を合わせて命乞いするギャグもあった。なお、この作品を含め「フクちゃんの増産部隊」「お山の防空陣」「マー坊の落下傘部隊」「ナカヨシ行進曲」（アニメでなく普通の動かない漫画）のアニメ4本と文化映画「仔馬」の計6本立てで「マンガ映画決戦大会」のタイトルで、記録映画「大陸新戦場」を併映、公開された。

製作・日本マンガフィルム研究所　海軍省後援　企画・高橋幸次郎　作画、演出・片岡芳太郎　音楽・西垣鉄雄　演出・山根幹人　企画、編集・高橋幸次郎　作画・撮影・片岡芳太郎　同助手・北村義雄　録音・日本ラジオトーキー製作所

NO. 81 マー坊の落下傘部隊

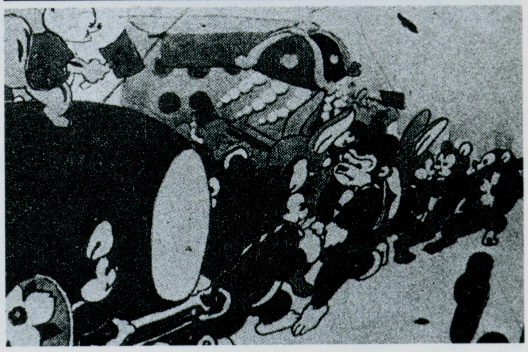


'43年7月1日　白系封切

〔**あらすじ**〕マー坊シリーズの1篇で、「マンガ映画決戦大会」の1本。マー坊は苦心の新発明の爆弾落下傘、超強電波放射落下傘、上昇兼用落下傘などの新兵器を使って敵軍を撃破する。アメリカがベトナム戦で使用したボール爆弾と同型の兵器が、すでに日本の新兵器として、アニメであるが登場している。海軍省後援の国策アニメ。

製作・佐藤映画製作所　海軍省後援　指導・米山忠雄　演出・千葉洋路　作画、撮影・佐藤吟二郎　解説・牧野周一

NO. 82 お山の防空陣



'43年7月1日　白系封切

〔**あらすじ**〕動物村の秋祭りがやってくるが、カラスの大軍の空襲にあう。翼を持たない動物たちは会議を開き、再度の空襲の際に反撃し、カラス軍を撃破。「マンガ映画決戦大会」で上映された5本立ての1本。

製作・加治商会　原案・木村利一　撮影・佐藤清美　演出、音楽・木村一

NO. 83
上の空博士



1985年1月31日付、毎日新聞家庭面〝隆一コーナー〟より転載

'44年完成（公開日、上映館不詳） 1巻305m11分

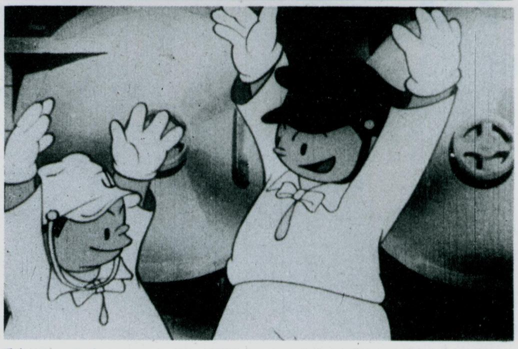
〔あらすじ〕発明家の上の空博士は助手と一緒に新型ヘリコプターのテスト飛行に失敗し、墜落。負傷してベッドで寝ている博士だが、アイデアが浮かぶと、起き上って新型機を改良。見事成功する。

（参考文献＝'63年2月号「映画評論」森卓也〝動画映画の系譜④〟第2部・戦中篇）

〔解説〕戦時中の国策アニメは、海軍省委託や後援作品が多かったが、なぜか陸軍省のスポンサー作品は少なかった。この作品は珍しく陸軍省航空本部が後援である。原作は戦争末期の新聞連載漫画を作者の横山隆一がアニメ用に改作。シナリオ担当の前田一と横山が銀座の小料理屋で一杯飲みながら案を練ったそうだ。結局18人のスタッフが8カ月がかりで制作したが、オリジナルのフィルムが焼失し、スチールも残らず幻の作品となった。制作裏話が'85年1月31日付け毎日新聞の「隆一コーナー」の横山隆一の連載エッセイに〝上の空博士〟の題名で掲載された。

製作・朝日映画社　原案・横山隆一　脚本・前田一、演出・前田一、浅野恵　動画・浅野恵　音楽・服部正　撮影・下村八三　陸軍省航空本部後援

NO. 84
フクちゃんの潜水艦

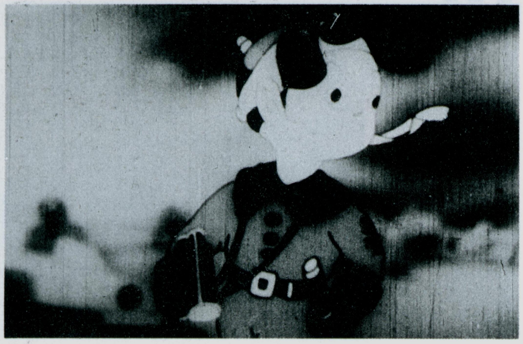


'44年11月9日　紅系封切　5巻

〔解説〕横山隆一の人気連載漫画のレギュラーが潜水艦の乗組員。一致団結して敵輸送船団を撃沈させる国策アニメ。アラクマさんの声を古川緑波が担当。〝潜水艦の台所の歌〟が人気をよんだ。撃沈される敵艦船が擬人化されているが、当時としての精一杯のギャグだったのだろう。スタッフタイトルに演出・関屋五十二と出るが、実際の演出は、原画を描いた横山隆一である。

製作・朝日映画社　海軍省後援　原作・横山隆一　脚色・滋野辰彦　動画・前田一　撮影・持永只仁　演出・関屋五十二、横山隆一　唄・古川緑波

NO. 85
桃太郎・海の神兵

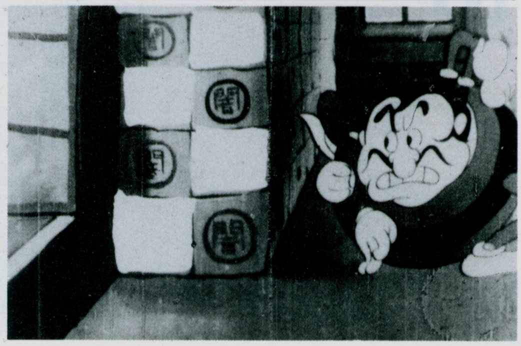


'45年4月12日　白系封切　9巻2027m74分

〔解説〕太平洋戦争末期、空襲も激しくなり、人々は映画を観るどころではなかったが、戦前のアニメの集大成ともいえる傑作がひっそりと公開された。1943年、恩師の政岡憲三のいる松竹動画研究所入りした瀬尾光世は、海軍省から長編アニメ制作の依頼を受けた。'42年1月11日、海軍空挺部隊のセレベス島メナド進攻で、日本の軍事史上初の落下傘部隊による降下作戦が成功した。この功績をアニメで少国民（当時の学童）たちに見せたいという海軍省の意向であった。瀬尾は制作スタッフ50名（一説では70名）、総製作費27万円(現在では約4億円くらい)、製作期間1年2カ月をかけ、9巻の大作を完成した。この時のスタッフは25名。男子は軍隊、女子は軍需工業へ動員されたのだ。大阪・松竹座で公開されたこの作品を見て、感動して泣いた青年がいた。若き日の手塚治虫で、後年アニメ制作を志すきっかけとなった。終戦のどさくさで戦争映画のフィルムは焼却されたが、幸運にもネガが発見され、'84年4月6日、39年ぶりに試写公開された。

製作・松竹動画研究所　後援・海軍省　指導・大本営海軍報道部　構成・熊木喜一郎　脚本、撮影、演出・瀬尾光世　影絵・政岡憲三（原画・政岡憲三　動画・中島喜美）動画・桑田良太郎、高木一郎、小幡俊治、木村一郎　美術構成、背景・黒崎義介、田中武重　音楽・古関裕而　作詞・サトウ・ハチロー　演奏・大東亜交響楽団、松竹軽音楽団　合唱・ニッチク合唱団

NO. 86
昆虫天国



'45年完成（公開日、上映館不詳） 1巻259m9分

〔解説〕終戦の混乱期にあって最初に作られたアニメ。闇屋商売でもうけた悪いクモは立派な屋敷に住んでいる。このクモが蝶をつかまえたので、昆虫たちが協力して蝶を助け出す。邸内の壁紙の模様がローマ字で〝YamiだKumo〟と描かれていたが、当時の駐留米軍（ＧＨＱ）の映画担当係の検閲で、アメリカを諷刺したととられてチェックされたためか、ローマ字の部分のフィルムが一コマずつ墨で塗りつぶされていたというエピソードもあった。

製作・三幸映画社　作画、演出・芦田巌　音楽・斉藤一郎

’46〜58 昭和21〜33年

戦争は終わったものの、国民は食料調達に四苦八苦。だが、映画は唯一の娯楽で、アメリカ映画は長蛇の列。国産アニメは’45年に一本だけ芦田巌の「昆虫天国」が作られている。

ベテラン政岡は’46年、音楽とアニメが見事に融合した日本情緒あふれる「桜」を作り、健在ぶりを発揮。影絵アニメの分野も’46年「蜘蛛の糸」’47年「雪の夜の夢」と大藤の健闘ぶりが目立つ。一方、片腕の飛石を戦争で失った荒井は’47年「椰子の実」’48年「おやゆび姫」を作ったものの、質的低下が見られた。ベテランの大石郁雄は戦争の犠牲者となった。

戦後はアニメ製作会社の集合離散が多かった。アメリカと対照的に、日本では戦前から個人的な製作者が家内工業的に製作していて、集団で製作するシステムは少なかった。従って優秀なスタッフを養成するシステムもなく、集合離散はマイナス面ばかりが多かった。そんな混乱期の’47年に日本動画社で作られた「すて猫トラちゃん」は、オペレッタ形式のアニメとして成功。数多くの傑作を作った瀬尾は５巻の大作「王様のしっぽ」を’49年に作ったが、配給先の東宝社長の「内容がアカがかっている」の鶴の一声でオクラ入りとなってしまい、瀬尾はアニメ界に嫌気がさしたのか引退。政岡、村田という先覚者たちも相次いでリタイアしてしまった。

国産のカラー劇映画「カルメン故郷へ帰る」が公開されたのは’51年３月。アニメでは劇映画より早く’47年には浅野恵が二色のフジカラーで「花と蝶」の試作品を、翌年には三色カラーで「僕の野球」を作ったが、あくまで試作品にすぎなかった。

’52年、影絵の大藤信郎がコニ・カラーで色セロファンを使用し、’27年に作った「鯨」を再製作。’53年カンヌ映画祭で短編部門２位に入賞、話題となった。

’55年、日動映画で作られたコニ・カラーによる「うかれバイオリン」は、現在の東映動画誕生のきっかけとなる作品であった。原画を**大工原章**、**森康二**、**古沢日出夫**、演出を**藪下泰次**が担当。好評だったことから東映社長の故・大川博の決断で、日動映画を買収。’56年８月、「東映動画」として発足した。

漫画家の**横山隆一**が独力で作ったスタジオ「おとぎプロ」から16ミリの処女作「おんぶおばけ」が試写会で公開され、好評だったが、一般公開されず惜しまれている。

’56年は、瀬尾門下の**持永只仁**が中国で学んだ人形アニメの技術を生かし、帰国後、第１作「瓜子姫とあまのじゃく」を制作。門下生として**川本喜八郎**、**岡本忠成**らが育っている。

NO. 87 桜

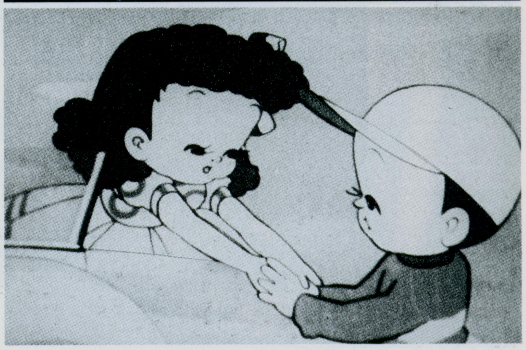


’46年完成（一般公開なし） l 巻

〔**解説**〕終戦の1945年11月、山本早苗、政岡憲三らは日本漫画映画社を設立。第１作として「桜」を製作した。ウェーバーのクラシック音楽をバックに展開する日本の春、京都の春をファンタジックに描いたシネ・ポエジーである。ポックリ下駄の京の舞子さんのあでやかさ、春らんまんと舞い散る桜の花吹雪の下でたわむれる２匹の子犬、そのなかを２人の擬人化された蝶が飛び回る。まさに日本画の世界そのものの雰囲気があった。蝶の顔は当時の少女雑誌の売れっ子挿絵画家の辰巳まさえが描いた。また、風に舞う桜の花びらは童画家の黒埼義介が、屋形舟は乗り物絵本の画家の安井小弥太が原画を描いていたとのこと。映画の雰囲気はディズニーの「ファンタジア」(’42)の日本版ともいわれるが、政岡憲三は戦時中、軍部が外地で押収した「ファンタジア」のフィルムを試写で見ていた可能性は大である。この作品は内容が地味だったせいかオクラになってしまい、一部で公開されたのは16ミリ版で、トップ・タイトルもない。

製作・日本漫画映画社　山本早苗　演出・政岡憲三　原画・辰巳まさえ、黒崎義介、安井小弥太　音楽・ウェーバー作曲〝舞踏への勧誘〟（ストコフスキー指揮、フィラデルフィア・オーケストラ演奏、ビクター・レコードより）

NO. 88 魔法のペン



’46年完成（公開日、上映館不詳） l 巻295m l l 分

〔**あらすじ**〕戦災孤児のスッちゃんは街で青い目の人形を拾い、破れた服を縫ってやる。スッちゃんは眠って夢を見る。夢のなかで人形が動きだし、人形の持つ魔法のペンでリンゴを描くと、それは本物のリンゴとなってスッちゃんは大喜び。人形は缶詰など食物を机の上いっぱいに描きだしてくれる。ついで、スッちゃんの住む掘立小屋を立派な家にしてくれる。スッちゃんは、この不思議なペンをもらい、焼けた街々に立派なビルを描いて、戦災都市を復興してゆく。

〔**解説**〕原作、脚色の寿々喜多呂九平はマキノ省三門下の時代劇の名シナリオライター。時代劇の大スター阪妻（阪東妻三郎）を無名の端役から発掘した功績者でもある。演出の熊川正雄は政岡憲三に師事し、のち東映動画入りした。作品のテーマは食物も衣料も何もなかった戦後の混乱時代で、アメリカの援助物資で日本は息をつけたが、そんな時代をリアルに反映して作られたアニメである。

製作・京都映画社　配給・新世界映画社　企画・木村角山　原作・脚色・寿々喜多呂九平　演出・熊川正雄　動画・宇野一路、浜江蓉　彩画・林芳子　背景・熊川美一　撮影・山口別弘

NO. 89 雪の夜の夢



'47年完成（公開日、上映館不詳） 1巻261m 10分

〔あらすじ〕雪の降る夜のお話。貧しい孤児の少女はロウソクを売り歩くが、誰一人買ってくれない。金持の家の窓からのぞくと、親子が幸福そうにだんらんの光景。空腹と寒さでついに力つき道ばたに倒れてしまう。夢のなかで幻の母が現れ、やさしく抱いてくれる。ふと気づくと親切な人に助けられていた。
〔解説〕アンデルセン童話「マッチ売りの少女」の中国版の影絵アニメ。二重露出のテクニックを使い幻想的な作品となった。

製作・千代紙映画社　配給・三幸映画社　作画、演出・大藤信郎

NO. 90 椰子の実



'47年5月6日　弘前国民劇場封切　1巻285m 10分

〔解説〕名も知らぬ　遠き島より流れよるやしの実ひとつ…。詩人・作家の島崎藤村作詞の歌の影絵アニメ。民俗学者の柳田国男が愛知県渥美半島伊良湖岬の宿屋で、南洋の島からはるばる漂着した椰子の実に感動した話を聞き、島崎が詩にしたもの。ＮＨＫ大阪の〝国民歌謡〟番組がこの詩に注目。音楽学校教師の大中寅二に作曲依頼。1936年ラジオ放送。国民歌謡は全200曲あるが、「やしの実」はリクエストが多く、一番のヒット曲となった。飛石仲也とコンビで影絵を作ってきた荒井和五郎だが、飛石を戦争で失い、単独製作となり、質的な低下が見られた。

製作・新世界映画社　作画、演出・荒井和五郎　音楽・大中寅二　独唱・四家文子

NO. 91 すて猫トラちゃん

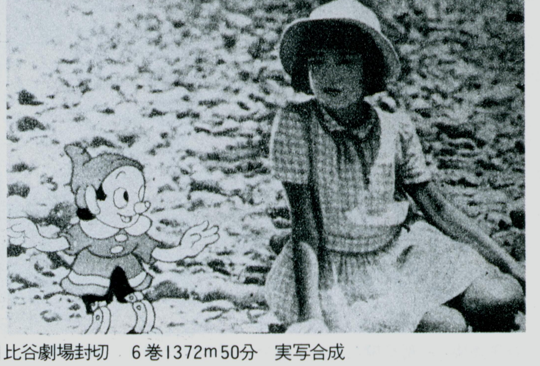


'47年9月25日　日比谷劇場封切　2巻648m 24分

〔あらすじ〕トラちゃんは捨て猫。お腹をすかせ泣いているのを3匹の子猫を連れた母猫に助けられる。一緒に連れられて帰りミルクをもらい家族の一員となる。3匹の子猫のうち、末のミケちゃんは、トラちゃんに優しい母猫にジェラシーを抱き、家出。一家はミケちゃんを探し回る。これを見たトラちゃんは、自分が原因と思い、ミケちゃんを探しだして、自分は家を出ようと思う。やっとミケちゃんを見つけるが、ミケちゃんは家に帰ろうとしない。川に落ちたりさんざんな目に会うが、トラちゃんはミケちゃんを無事に連れ戻し、母猫は2匹を暖かく迎える。
〔解説〕1947年4月、日本漫画映画社が発足したが、間もなく山本善次郎、政岡憲三らが退社、日本動画社を新たに設立。同社の第1作がこの作品であった。物資も不足している混乱期にフル・アニメで制作された苦心を買いたい。技術的にも画面の180度回転という背景動画を試みたり、セリフのかわりに歌でオペレッタ形式に構成した意欲作であった。

製作・日本動画社、東宝教育映画部　井関輝雄　配給・東宝　脚色・佐々木富美男　作画・日本漫画映画ＫＫ　撮影・西倉喜代治　演出・政岡憲三　作詞・佐伯孝男　作曲・指揮・服部正　演奏・東宝交響楽団　録音・岡崎三千雄　音響効果・園田芳竜　現像・東宝ラボラトリィ

NO. 92 ちどり



'47年9月25日　日比谷劇場封切　6巻1372m 50分　実写合成

〔解説〕実写映画とアニメの合成された珍しい作品。「或日の干潟」など多くの記録映画の名作を作った下村兼司の演出。少女が河原に産みつけられた千鳥の卵を見つけ、親鳥の愛情に感動。生態を観察するもの。セル・アニメのピノキオ人形が合成で小鳥たちと遊ぶ。アニメ部分は全体の三分の一くらいで、実写の背景とアニメ部分が透けて見えたりで合成技術はうまくないが、アニメ史の上では貴重な作品といえよう。映画世界社賞受賞。

製作・東宝教育映画部　湯原甫　脚本、演出・下村兼史　撮影・浦島進　アニメ製作・不詳

NO. 93 ムクの木の話



'47年９月25日　日比谷劇場封切　２巻610m22分

〔あらすじ〕広野に１本の年老いたムクの木が立っている。秋、虫たちの音楽会がはじまり、やがて椋鳥がやってきて秋も終わる。鶴とともに冬の訪れ。悪魔のような冬将軍の到来とともに全てが凍りつく。やがて春の訪れ。暖かい陽光に、さすがの冬将軍も勝てない。再び椋鳥たちが飛来し、ムクの木は平和を感じる。
〔解説〕シェリーの詩「冬来たりなば春遠からじ」を題材に、「七人の侍」ほか黒沢明作品の映画音楽を担当した鬼才・早坂文雄がアニメの音楽を作曲。演奏は上田仁指揮する東宝交響楽団（現、東京交響楽団）で、51名のフルオーケストラ。広野に立つ１本のムクの大木を中心に、四季の移り変わりをアニメ化したシネ・ポエム。映画世界社賞受賞。

製作・東宝教育映画部　湯原甫　脚本、演出・丸山章治　動画・若林敏郎、上野武雄　撮影・上野耕造　作曲・早坂文雄　演奏・東宝交響楽団　指揮・上田仁　背景・田中秋男　仕上・堀内好夫　造型・村主彦　録音・東宝サウンドデパートメント　現像・東宝フィルムラボラトリー

NO. 94 釈　迦

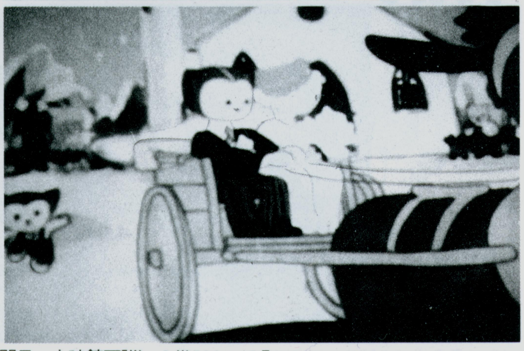


'48年完成（'49年「大聖釈尊・前編」と改題、６巻52分の短縮版公開）公開日、上映館不詳

〔あらすじ〕2500年の昔、インドの花園に眠るマヤ夫人は白象の夢を見て王子を産む。12歳になった王子は世の無常を感じ苦悩の日々を送る。美しい姫が王子の妃となるが、王子の悩みは続き、ついに王城をあとに修道者となり苦業の旅に出る。菩提樹の下で悟りを開き、釈迦牟尼仏となる。長い伝導の果て、娑羅双樹の下に横たわり、入滅の日まで迷える人々を導く一代記。
〔解説〕お釈迦様が苦行して得度するまでを長編影絵アニメにした未完成作品。９巻物として制作されたが、1949年に「大聖釈尊・前編」と改題し、６巻52分の短縮版が公開された。後篇は'50年に４巻物として制作されたが未完成のまま。'61年７月、作者の大藤信郎の死去により、未完成部分を製作会社の三幸スタジオが引きついで制作。'61年11月前後篇を全10巻72分の大作として完成した。タイトルを「釈迦の生涯」と改題。'61年11月17日、銀座のヤマハホールの「大藤信郎をしのぶ会」で「くもの糸」「くじら」「幽霊船」と併せて上映された。

製作・三幸映画社　原島延行　後援・日本仏教連合会　作画、演出・大藤信郎　合唱・サーラ合唱団

NO. 95 トラちゃんと花嫁



'48年２月完成（公開日、上映館不詳）２巻533m19分

〔あらすじ〕子猫のトラちゃんとミケちゃんは姉さん猫の結婚準備を手伝っている。そこへ田舎からおじいさん猫が出てくるとの知らせ。２匹は頑固者のおじいさんは、この結婚に絶対に反対するに違いないと考える。そこでおじいさんを式場の教会に行かせまいとあの手この手で苦心する。結局、おじいさんも、なんでも反対しているわけでもないことがわかり、姉さんは、めでたく結婚することができた。結婚の自由を描いたアニメ。

製作・日本動画社　山本早苗　配給・東宝教育映画部　演出・政岡憲三

NO. 96 まさかりかついで

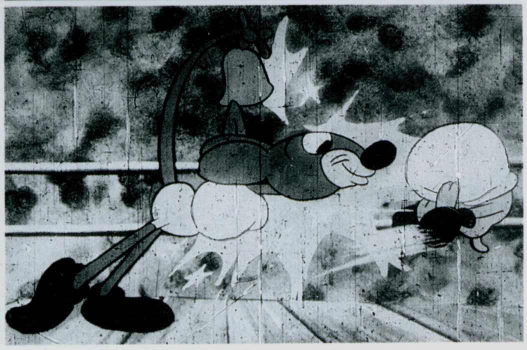


'48年４月完成（公開日、上映館不詳）１巻187m７分

〔解説〕水害に見舞われた山の熊さんが、植林の重要性を知る話で、山の木の濫伐によって引き起こされる災害と森林愛護がテーマのアニメ。

製作・日本漫画映画社　原作・上金好裕　演出・古沢秀雄　撮影・喜多村保　作曲、指揮・伊藤宣二　演奏・コロムビア・オーケストラ

NO. 97 ネズミの拳闘



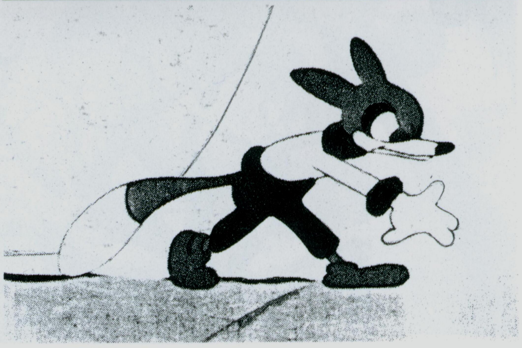
'48年7月完成（公開日、上映館不詳）1巻305m 11分　フジ・カラー

〔あらすじ〕いつも猫にいじめられる鼡たちだが、力自慢の鼡がいた。猫に勝ってやろうと猛練習にはげむ。成果を見せようと、仲間の鼡を集め、猫とボクシング試合。子猫の頭に紙袋をかぶせてリングで闘うが、袋が破れる。子猫でもさすがは猫で、あまりの強さに鼡たちは逃げだしてしまう。

〔解説〕富士フィルム研究所は1948年3月、16ミリの映画用リバーサル・カラー・フィルムを開発。国産のカラー・フィルムの試作品は新映画社と共同で、まずアニメで制作された。国産初の長編カラー劇映画「カルメン故郷へ帰る」(松竹）は'51年3月に公開されたが、アニメの試作品が劇映画のカラー・フィルムの発色テストの基礎となった。一方、小西六（現在のコニカ）は、'46年に早くも16ミリの実写カラー「夢」を発表。'49年に16ミリ用のコニ・カラー・フィルムを発売。35ミリの長編劇映画は'53年11月「日輪」（東映）を第1回作品として公開。いずれにせよ16ミリのカラー・アニメが劇映画より早く制作されていた事実は面白い。

製作・新映画社、フジ・フィルム研究所　原作、脚本・増田謙二　演出・森野佐登志　撮影・浅野恵　動画・里見修

NO. 98 きつねとサーカス



'48年完成（公開日、上映館不詳）1巻277m 10分

〔あらすじ〕きつねシリーズの一篇。悪がしこい狐が盗んできた金塊を埋めておく。そこへサーカスの一座がきて、金塊を間違えて掘りだし、どこかに放置する。驚いた狐は金塊を取り戻すために、とうとうサーカスで空中の曲芸をさせられる。

製作・近代映画社　鳥羽和一、月村正雄　原作・小柳耕二　作画・里見修　美術・加藤喜友　監督・森野佐登志

NO. 99 蛙と狐

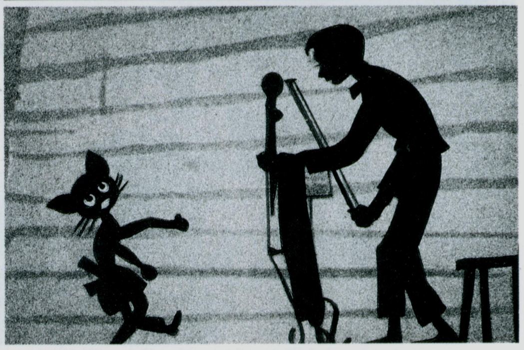


'49年2月完成（公開日、上映館不詳）1巻312m 11分

〔解説〕狐の不注意から引き起こされた災難をアニメにしたもの。鳥獣戯画の様式をアニメにとり入れ、毛筆タッチで描かれているのがユニークな作品。

製作・東宝教育映画部　湯原甫　原作、演出・西尾善行　動画監督・上野武夫　撮影・山田耕造　作曲、指揮・安倍盛　脚本、演出・西尾善行　原画・山田順治　作画・琴寄金二、鈴木淳夫、奈良次雄　線描・田中浅男、阿部夏樹　造型・村主彦　演奏・東宝交響楽団　音響効果・園田芳竜

NO. 100 セロひきのゴーシュ

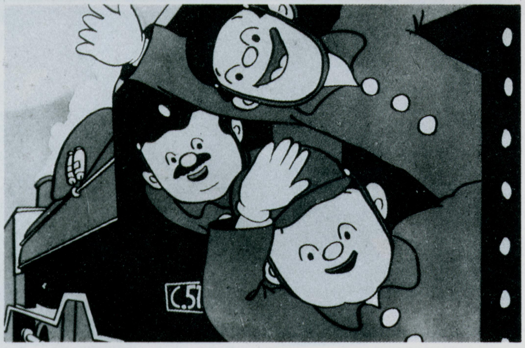


'49年5月完成（公開日、上映館不詳）2巻520m 19分

〔解説〕宮沢賢治の名作童話を影絵アニメで制作したもの。1954年度東南アジア映画祭非劇映画部門特別賞受賞。

製作・日映（日本映画社）田中喜次、小野一郎、原作・宮沢賢治　脚色、演出・田中喜次　作画・黒田外喜雄　撮影・鈴木喜代治　音楽・坂本義隆　チェロ独奏・鈴木聡　台詞・劇団東童　演奏・コロムビア管弦楽団　録音・東宝発声

NO. 101 ポッポやさん・のんき機関士



'49年6月完成（公開日、上映館不詳） 2巻343m 13分

〔あらすじ〕「のんき駅長」に次ぐ2作目の、鉄道をテーマにしたアニメ。のんき機関士の運転する列車の進行方向に雷の子が落ちてくる。やっと列車は止まり、雷の子は助かる。機関士が雷の子を捕まえようとすると、やけどを負わせて逃げてしまう。鉄道事故防止の目的で作られたアニメ。

製作・日本動画映画社　藪下泰次　配給・東宝教育映画部　脚本・松崎与志人　動画・浜桂太郎、安部幸毅、古沢秀雄、福井栄一、もりやすじ、背景・中山正美　撮影・藪下泰次　音楽・坂本良隆　録音・保坂友明　効果・成田梅吉

NO. 102 王様のしっぽ



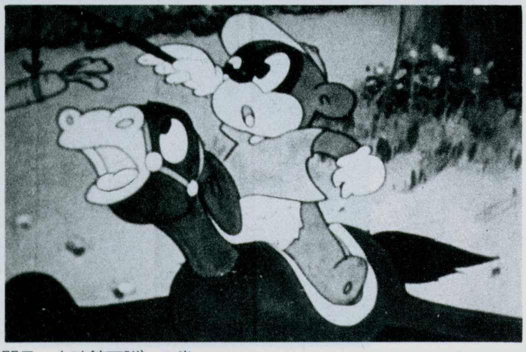
'49年10月完成（一般公開されず） 5巻915m 33分

〔あらすじ〕狐王国に世継ぎの王子が誕生したが、尻尾がない。王様はじめ重臣協議の末、国民に王子の前で尻尾を見せるなとおふれをだす。王子は王となるが、尻尾の事実は知らない。演奏会の日、指揮者が熱演のあまり、尻尾をかくしたズボンが破れて尻尾がとびだす。事実を知った王様は、国民に尻尾をだせと布告。国民は大喜びだった。

〔解説〕1948年1月、日本漫画映画社入りした瀬尾光世は、大作アニメに着手。アンデルセンの「裸の王様」をアレンジし、尻尾のない狐を題材にアニメ化。アニメーター延べ40人。作画枚数10万枚（使用枚数3万数）を要し、制作資金不足で何度も中断しながらも、'49年10月に総費用600万円をかけて完成した。47分が長すぎると33分にカットし、東宝系で公開予定だったが、当時の東宝社長の「内容が赤がかっている」との鶴の一声でキャンセル。会社まで倒産の羽目となり、失意の瀬尾は立ち直れずアニメ界から足を洗った。ミュージカル仕立ての大作だが、不遇の作品であった。

製作・日本漫画映画社　企画・鈴木康文　原作：いわさき・たろ（岩崎太郎）　脚色・いわさき・たろ、瀬尾光世　動画・福井英一、小幡俊治、古沢日出夫　演出・瀬尾光世　撮影・喜多村保　作曲・高木東六　演奏・コロムビア・オーケストラ　コーラス・ＮＨＫ東京放送合唱団　声・ＮＨＫ東京放送劇団（小山源喜・七尾玲子・加藤道子他）

NO. 103 スポーツ子狸・競馬篇

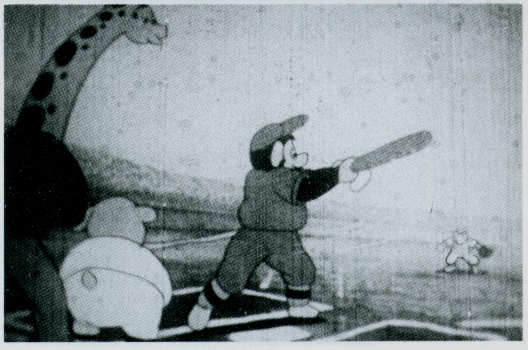


'49年11月完成（公開日、上映館不詳） 1巻

〔解説〕製作会社の「日本短篇映画社」は旧「日本マンガフィルム研究所」の改名で、社長の高橋幸次郎が死亡して、事業を引継いだ夫人の高橋喜代江が社長となり、社名変更したもの。作品は子狸が主人公で、いろいろなスポーツや遊びを通じて成長してゆくアニメ。演出の古沢日出夫（秀雄、1920年生まれ）は、戦後初期のアニメ界でアニメーターとして活躍。のち学童社から出版された名高い雑誌「漫画少年」などに児童漫画を執筆。アニメ界から足を洗った福井英一らとともに児童漫画家としても有名になった。東映動画発足後、作画監督として活躍し、のちにＴＶアニメを制作。

製作・日本短篇映画社　作画、演出・古沢日出夫

NO. 104 動物大野球戦

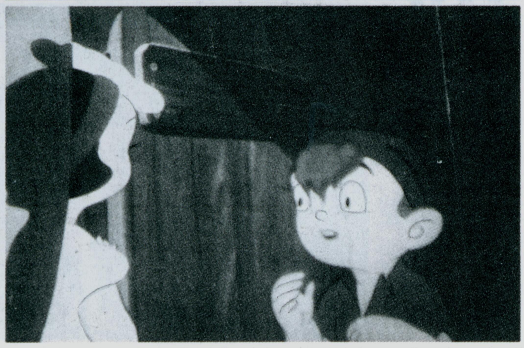


'49年12月完成（公開日、上映館不詳） 1巻305m 11分

〔あらすじ〕ゴリラ軍と動物混成チームの野球試合。ゴリラ軍は毎回得点、混成軍は毎回0点に終わる。9回の裏、客席にいたアメ屋が投げたアメを食べたゴリラ軍。アメがグラブやボールにくっつき守備は大混乱。ヒットに次ぐヒット、4球などで、動物混成軍は大逆転で勝つ。

製作・日本動画社　山本善次郎　配給・東宝教育映画部　脚本・桑木良三　演出・藪下泰次、熊川正雄　録音・小沼渡　効果・園田芳竜　現像・東宝現像所　音楽・坂本良隆　声帯模写・木下華声

NO. 105 小人と青虫

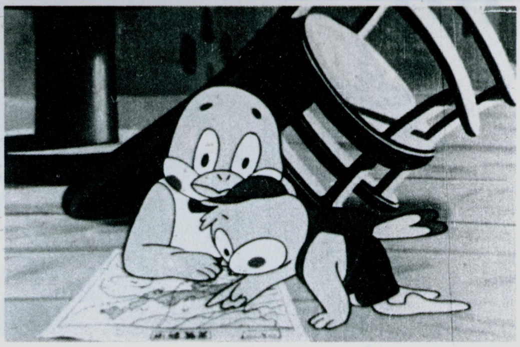


'50年12月完成（公開日、上映館不詳） 2巻476m 17分

〔あらすじ〕食物がなくて死にかけていた青虫を小人が助けてやる。王様選びの日がきて、蝶の引く車に乗った小人は優勝する。この蝶は以前助けてやった青虫の成長した姿だった。ミュージカル風の演出のアニメ。

製作・日本動画社　山本早苗、東宝教育映画社　原作・肥塚あきら　脚本・松崎与志人　演出・古沢秀雄　撮影・東理仁朗　作画・熊川正雄、浜康雅、もりやすじ、北島道雄、小幡俊治　背景・大工原章　録音・東宝撮影所、岡崎三千雄　音楽・坂本良隆

NO. 106 お天気学校



'52年完成（公開日、上映館不詳） 2巻499m 18分

〔あらすじ〕小鳥の雲吉一家が天気予報を無視して引っ越す。途中、台風にぶつかり、さんざんな目にあって、ラジオや新聞の天気予報の大切さがわかる。
〔解説〕中央気象台の天気相談所の指導で、気象台の仕事、気象観測の話、季節風、不連続線、温暖前線、寒冷前線などをアニメや線画のイラストで低学年の児童にも理解できるように解説した一種のＰＲ映画。

製作・東宝教育映画社、日本動画社　山本早苗　監修・中央気象台　脚本・藪下泰次　演出・古沢日出夫　線画製作・東宝図解映画社

NO. 107 くじら

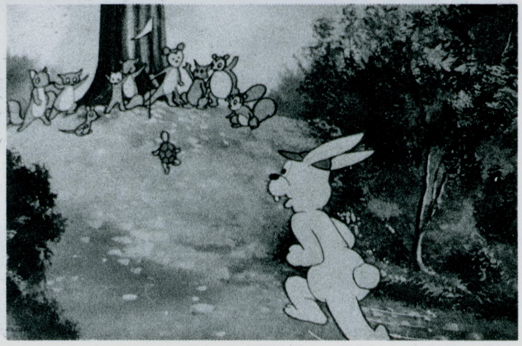


'52年12月完成（公開日、上映館不詳） 1巻　コニ・カラー

〔解説〕国産カラー・フィルムがやっと使えるようになり、大藤は教会のステンド・グラスにヒントを得て、色セロファンを利用して色彩影絵アニメを試作。題材は1927年に製作した〝鯨〟のストーリーをそっくり再使用。コニ・カラーの色彩は、いささか派手であったが、'53年度カンヌ映画祭短篇部門の２位に入賞。海外で〝大藤〟の名が一躍有名となった。

製作・大藤スタジオ　作画、撮影、演出・大藤信郎　作曲・塚原哲夫

NO. 108 兎と亀の決勝戦



'52年12月完成（公開日、上映館不詳） 2巻

〔あらすじ〕兎と亀は何回競争しても兎が勝ち、兎は大いばり。亀をかわいそうに思った動物たちは決勝戦を計画。コースの途中に大きな川があって、泳げない兎は渡ることができず、一足の差で亀が勝つ。イソップ物語を少しひねったアニメ。
〔解説〕1952年９月、従来の社名の日本動画映画株式会社を変更し、日動映画株式会社として新発足した。社長は山本（早苗）善次郎。スタッフは旧社と同じ。新会社として製作した第１作である。

製作・日動映画社(旧・日本動画社)　演出・藪下泰次　撮影・高城泰策

NO. 109 森の音楽会

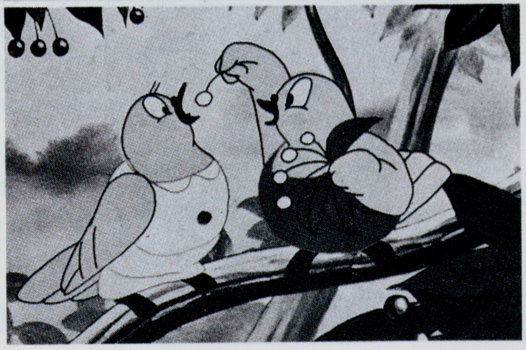


'53年3月完成（公開日、上映館不詳） 1巻 カラー

〔あらすじ〕今日は森の音楽会。行儀の悪い狼は森の嫌われもの。それでも音楽会に行こうとする。途中、道路にゴミの山を作ってはしかられ、電車のなかでタバコを吸い禁煙だと注意される。タバコを窓から捨てた途端、そばのガソリンスタンドのガソリンに引火。会場の庭園で摘んではいけない花を摘むが、蜜蜂の大襲撃にあう。開演ベルが鳴り、コンサートの開幕。お調子ものの狼の投げた帽子が指揮者の頭に乗っかり、リズムが狂ってしまう。歌手が怒りだし、会場は大混乱。狼は聴衆から袋だたきにあう。公衆道徳を守ろうというテーマのアニメ。なお1957年アメリカのＣＢＳＴＶから、制作の芦田漫画映画制作所にアニメの注文がきて、「森の音楽会」のほか「一本足のきりぎりす」('55年)「水っ子の旅」('56年) の３本が輸出された。

製作・芦田漫画映画製作所　配給・奥商会　原作、脚色・西尾善介　監督・芦田いわお　動画・福田里三郎　補助動画・西島行雄　背景・右田利朗　色彩効果・日本色彩ＫＫ　作曲・尾崎義雄　音楽指揮・山本浩久　演奏・日本フィルハーモニー　独唱・楠トシエ

NO. 110 ありとはと

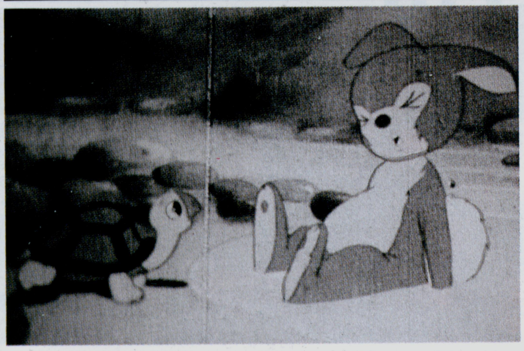


'53年8月完成（公開日、上映館不詳） 2巻 16分

〔あらすじ〕大雨で押し流されているアリの親子を、木の上で見つけたハトの夫婦がかわいそうに思い、助けてやる。ある日、狼の猟師がハト夫婦を銃で狙っているのを目撃したアリは、狼の足に思いきりかみついてハトの危機を救い、恩返しをする。イソップ物語のアニメ化。

製作・日動映画　山本早苗　脚本、演出・湯原　甫　撮影・高城泰策、石川光明　作画・古沢日出夫、森やすじ　動画・進藤　進、新城　一、長沼寿美子、本所茂雄、市野正二、彩画・進動光子、岡田弥生、伊藤澄子、増井和弘　背景・大工原章　音楽・坂本良隆　配給・教育映画配給社

NO. 111 子うさぎものがたり



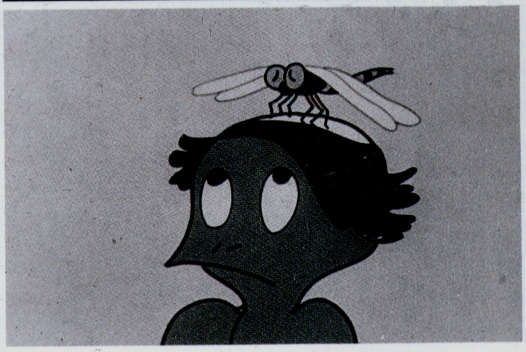
'54年3月完成（公開日、上映館不詳） 2巻

〔あらすじ〕ある森に２匹の子兎と母兎が住んでいる。母兎は子兎たちに森のなかでの生き方について教える。兄兎は母の教えをよく守るが、やんちゃな弟兎は母の教えを聞こうとしない。森の悪狐は、すきあらばと子兎をつけ狙う。ある日、油断していて狐に襲われ、子兎たちは必死に逃げるが、あわやという時、捨身の母兎が子兎の危機を救う。

〔解説〕原画、演出を担当した森康二のアニメのキャラクターは、いずれも可愛らしく品があるので定評。この作品でも登場する兎たちの描写が実に生きている。1951年初公開されたディズニーの「バンビ」('41年作) の影響を受けた作品でもある。

製作・日動映画社　山本早苗　脚本・藪下泰司　演出、原画・森康二　作画協力・古沢日出夫　動画・長沼寿美子、若松一、岡田弥生、背景・中島清　撮影・高城泰策、石川光明　音楽・坂本良隆　歌・三枝喜美子　解説・加藤幸子　録音・槇田金弥　効果・ＥＴグループ

NO. 112 かっぱ川太郎



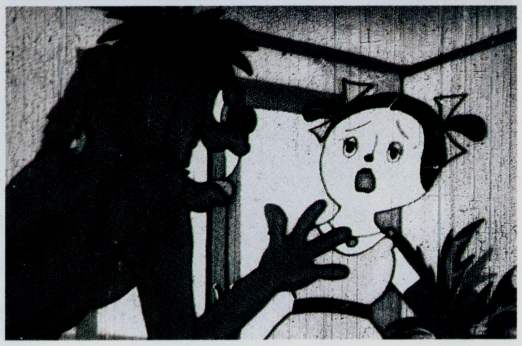
'54年4月完成（公開日、上映館不詳） 2巻508m 19分

〔あらすじ〕清水崑の直筆で可愛い子どものかっぱが筆で描かれ、映画ははじまる。子どもの川太郎が水中で大ウナギを捕まえたとたん、投網をかぶせられる。引き上げたのは両親がっぱ。親子でかっぱ相撲を見物したり、かっぱ村は平和そのもの。嵐がきてから川に魚が１匹もいなくなり、村では食糧対策に頭をいためる。川太郎は友だちの女の子とトンボ捕りにでかけるが、野犬に追われ山奥へ。上流の川には魚がたくさんいる。嵐のため山崩れで川がせき止められていたのだ。川太郎の知らせで村中総出で修復、再び魚が戻った。

〔解説〕1951年１月から朝日新聞の小学生向け週間新聞「小学生朝日」に連載され、好評だった清水崑原作漫画をアニメ化したもの。子ども向けのかっぱ漫画の評判がよく、のち週間朝日に「かっぱ天国」を連載するきっかけとなった。なお、アニメ作品は、原作の清水崑の絵が筆描きの流麗なタッチであったが、セルにペンでトレスされると、原画の毛筆のやわらかさが失われてしまったのは、惜しまれる。

製作・三井芸術プロダクション　三井高孟、吉岡憲司　配給・ＮＣＣ　企画、提供・朝日新聞社　原作清水崑　脚本・飯沢匡　背景協力・六浦光雄　音楽・服部正　詩・サトウ・ハチロー　解説・阿里道子　効果・江口孝男　録音・寺尾幸男　録音所・国際ラジオセンター　製作進行・西原春人　作画、動画・日動映画社（作画演出・藪下泰司　作画主任・古沢日出夫　動画・森康二、市野正二、近藤進、諸橋一、長井泰治、岡田弥生　背景協力・大工原章、笹森圭）　撮影・高城泰策、石川光明、山田耕三

NO. 113 シンデリヤ嬢の花婿

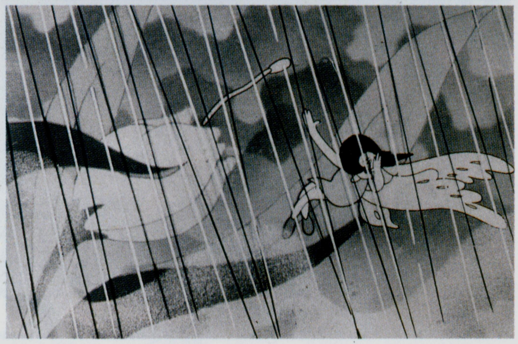


'54年７月完成（公開日、上映館不詳）２巻465m17分　実写併用

〔解説・あらすじ〕狂犬病予防のＰＲアニメ。実写の犬の子からアニメとなって、ヒロインの美犬（？）が登場。彼女をめぐる犬たちのなかに狂犬が１匹いる。この狂犬を退治にきた医者の犬とヒロインが結ばれハッピーエンド。狂犬の実写もある。犬の登録と予防注射で狂犬病を防ごうという目的で作られた実写併用のアニメ。厚生省も協力している。作画の森川信英は現在も古参アニメーターとして「まんが日本昔ばなし」で活躍中。

製作・モーション・タイムズ社　吉田美彦　協力・厚生省　脚本・爪生武　実写監督・八木進　撮影・小林幹夫、窪田晃一　音楽・青木暢男　効果・ＥＦグループ　録音・目黒スタジオ　編集・内堀寿　進行・飛沢謙三　作画・森川信英　彩色・持永綾子、武井啓二郎　声優・瀬能礼子、牟田悌三、沖順一郎、深見発、島美弥子

NO. 114 花と蝶



'54年10月完成（公開日、上映館不詳）１巻272m10分　コニ・カラー

〔解説・あらすじ〕大藤信郎が影絵でなく、セル・アニメをコニ・カラーで製作。擬人化された３匹の蝶が赤、白、黄と色分けされていた。カラー効果を考えた結果だろうが、かえって逆効果に思える。

白い蝶、赤い蝶、黄色の蝶の仲良し３人組が、春の光を浴びて遊んでいて巣から落ちて泣いている小鳥のヒナをみつけ、助けてやる。やがて大雨となり、蝶たちは白百合の花に雨宿りをさせてと頼むが、白い蝶だけしか入れてやれないといわれる。仲良しの３匹は、しかたなく紅バラを見つけて頼みこむが、ここでも赤い蝶しかだめと断られる。今度は黄色のチューリップを見つけ、最後のお願いと頼むが、黄色の蝶だけと断られ途方にくれる。３匹一緒に雨宿りできる場所を探すが、風雨は強くなり、羽は雨水をすって、しだいに重くなる。それを見つけた小鳥のヒナは恩返しに木の葉を落としてやる。蝶たちは木の葉をかぶり雨宿り。やがて雨もあがり、お日様が輝き、３匹の蝶は元気を取り戻す。

製作・千代紙映画社　配給・奥商会　作画、演出・大藤信郎　背景・宮義ふみを　音楽・紙恭輔　台詞・七曜会

NO. 115 一本足のきりぎりす

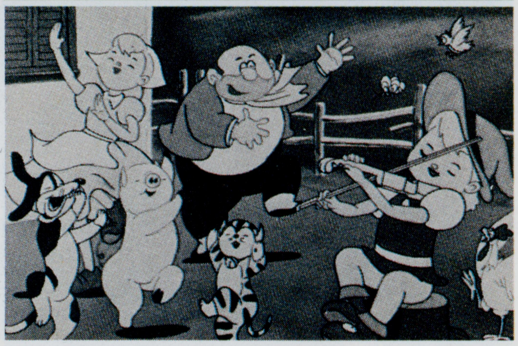


'55年３月完成（公開日、上映館不詳）１巻367m10分

〔あらすじ〕大事な片足をなくしたキリギリスが、道端のお地蔵さんに片足のありかを教えられ、松葉杖をつきながら、遠い山をめざし片足をさがしに行く。やっとたどり着くが、何もない。だまされたと怒ったキリギリスは猛スピードで山を下り、お地蔵さんに文句をいう。しかし、お地蔵さんは、苦労したおかげで、一本足でも二本足と変りなく歩けるようになったと諭す。

製作・芦田漫画映画製作所　配給・奥商会　脚色、演出・芦田いわを　動画・庵原和夫　背景・福村林平　撮影・芦田豊　音楽・尾崎美雄

NO. 116 うかれバイオリン



'55年10月完成（公開日、上映館不詳）２巻432m16分　コニ・カラー

〔あらすじ〕ある牧場で働く少年はバイオリンを弾くのが楽しみ。音色は牧場の動物たちの心まで楽しくさせる。欲深で怒りっぽい牧場主はこれが気に入らず、些細なことからバイオリンを壊し、少年を追いだす。失意の少年は森をさまようが、であったロバがお腹をすかせているので、たった一つの食物のパンを与える。ロバは森の女神で、心の優しい少年に新調の服とバイオリンを与える。牧場に戻った少年がバイオリンを弾くと、動物たちは愉快に踊りだす。制止しようとする牧場主や村人たちまでもが浮かれて踊りだす。

〔解説〕東映は1955年１月、教育映画部を発足させ、教育映画の一環として日本動画社にアニメ制作を委託。第１作が「うかれバイオリン」だった。外国童話をミュージカル風にアレンジし、コニ・カラーで作られたこのアニメは好評だった。このため大川社長は動画スタジオ設立を決断。日動映画を母体とした東映動画の誕生のきっかけを作ったのが、このアニメである。

製作・日動映画社　委託・東映教育映画部　企画・山崎季四郎、山本早苗　脚本、演出・藪下泰司　原画・大工原章、森康二、古沢日出夫　動画・市野正二、長沼寿美子、若松一、岡田弥生、内山孝　描線彩画・進藤美津子、伊藤澄子、寺千賀雄他、田島実、山田みよ子　色彩監督、背景・中島清　撮影・高城泰策、石川光明　音楽・坂本良隆　独唱・三枝喜美子　効果・ＥＦグループ　録音・中野倫治

NO. 117 おんぶおばけ



'55分12月26日　文春会館で試写会のみ（一般公開されず）　1巻244m25分16ミリ　フジ・イーストマンカラー

〔あらすじ〕昔、風の神が風袋を落とし、地面に穴があいた。そこの石が精気を帯びお化けとなり、通りかかった鍛冶屋の背中にとり着く。困り果てた鍛冶屋だったが、このお化けに愛情を抱くようになる。村にお化けショーの一座がきて、親分はおんぶお化けが欲しくなり鍛冶屋を襲うが、反対に風袋で撃退される。おんぶお化けはいつの間にか鍛冶屋の背中から離れ、青い宝石と変わっていた。
〔解説〕漫画家横山隆一の夢は自分でアニメを作ることだった。1955年1月、自宅8畳間をスタジオとして、念願のアニメ製作に着手。おとぎプロの前身「たたみプロ」は全スタッフ8名でスタート。隆一御大は原案、脚本、演出、撮影、作画と大活躍。フジカラー、イーストマンを使った16ミリ25分の処女作「おんぶおばけ」は、同年12月23日、文春クラブで試写公開された。出席者は大仏次郎、小林秀雄、永井竜男、大岡昇平、三島由紀夫、高峰秀子ら知名士が多かった。「おんぶおばけ」のキャラクターは'72年TVアニメとなって放映された。

製作・横山隆一　作画、演出・横山隆一　動画・町山光弘

NO. 118 瓜子姫とあまのじゃく



'56年1月完成（公開日、上映館不詳）　2巻475m18分

〔あらすじ〕昔、川から流れてきた瓜を拾ったおじいさんとおばあさんは、なかからでてきた可愛い女の子を瓜子姫と名づけ大事に育てた。瓜子姫は成長し、機を織りながら歌を唄うと、村人や小動物も聞きほれる。だが村に住む嫌われ者の小鬼のあまのじゃくは瓜子姫に反抗する。村の欲張り金持は瓜子姫の織る美しい織物に目をつけ、姫をさらうよう、あまのじゃくに命ずる。姫の家に入ったあまのじゃくは、反対に姫に諭され、やさしくされて改心し、姫の手伝いをはじめる。業をにやした金持は自分で姫をさらう。あまのじゃくは姫をとり戻し、村人とも仲よくなった。
〔解説〕演出の持永只仁は戦前、瀬尾光世に師事。セル・アニメを制作する。中国に渡り敗戦後、中国でアニメを指導。その時、1コマ撮りの人形アニメの技術を開発。戦後帰国し、日本で初めてともいえる1コマ撮りの人形アニメを制作。その記念すべき第1作である。

製作・電通映画社、人形映画製作所　稲村喜一　脚本・田中喜次　演出・田中喜次、持永只仁　撮影・岸次郎

NO. 119 幽霊船

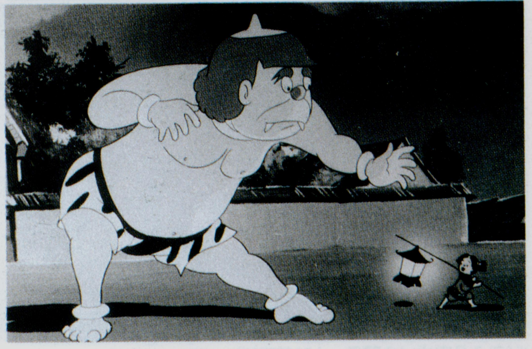


'56年4月完成（公開日、上映館不詳）　1巻305m11分　フジ・カラー

〔あらすじ〕昔、海賊船が貴族の乗った船を襲い、金品を略奪。男は皆殺し、女たちは捕るが、姫は自殺する。何年かたち、海賊船は貴族の亡霊たちが操る幽霊船に遭遇。亡霊たちに悩まされ、ついに味方同士の相討ちで全員死ぬ。
〔解説〕カラー・セロファン使用の影絵アニメ第2作。1956年度ベニス世界記録映画祭特別賞受賞。

製作・大藤スタジオ　作画、演出、撮影・大藤信郎　音楽・平井康三郎　合唱・響友会合唱団筝、中島靖子社中　録音・目黒スタジオ

NO. 120 一寸法師



'56年5月完成（公開日、上映館不詳）　2巻421m15分

〔あらすじ〕お椀の舟に箸のカイの一寸法師は川下りの途中、いたずらっ子に石を投げられるが、水辺の動物たちに助けられる。やっと町へでると、夜な夜な出没して悪事をはたらく大鬼の話でもちきり。これを聞いた一寸法師は大鬼退治に向かう。大鬼と対決となるが、豆粒みたいな一寸法師が大鬼の足の周りをチョロチョロ走り回り、大鬼も手がでない。一寸法師の計略で酒蔵に誘導された大鬼は、しこたま酒を呑んで酔いつぶれてしまい、ついに捕えられて、一寸法師は大手柄をたてる。
〔解説〕日動映画の作品だが、昔話の一寸法師の鬼退治の話を改変し、鬼を酒で酔わせて捕まえるアイデアが面白い。

製作・日動映画社　山本早苗　脚本、演出・藪下泰司　原画・大工原章　動画・市野正二、長沼すみ子、岡田弥生、内山孝、寺千賀雄　猫線彩色・進藤美子、伊藤澄子、本田敏郎、山田みよ子　背景・中島清　撮影・石川光明、田島実　音楽・横田昌久　効果・木村一　録音・中野倫治（アオイスタジオ）

NO. 121 五匹の子猿たち



'56年6月完成（公開日、上映館不詳） 2巻463m 17分

〔あらすじ〕第1作が好評で第2作が作られた。5匹の仲良し子猿たちの遊び場所の森が意地悪狼によって焼かれてしまう。悪狼は倒れてきた大木の下敷きとなって死ぬ。遊び場がなくなり困っている子猿たちに、山鳥が向こうの山を三つ越すと美しい森があり、そこの山の木の実をとってきて植えると、森は元通りになると教える。しかし、途中に恐しい大蛇がいると注意される。5匹は勇んで出発。5匹のなかでも一番小さい子猿は疲れ果て、ベソをかき泣きだす。やっとのことで山にたどり着くが、そこは絶壁。猿バシゴをかけて登ると、大蛇が待ちかまえていて襲われる。5匹は力を合わせ、大岩をころがし大蛇を撃退。森の木の実をお土産に帰途につく。第1作は試作のぎごちなさが目についたが、第2作は完成度が高かった。1956年度教育映画祭最高賞受賞。

製作・電通映画社、人形映画製作所　稲村喜一　脚本・田中喜次　演出・持永只仁、田中喜次　撮影・岸次郎　美術・吉田謙吉　音楽・加藤三雄

NO. 122 黒いきこりと白いきこり



'56年7月完成（公開日、上映館不詳） 2巻409m 15分　フジ・カラー

〔あらすじ〕雪深い山奥の昔話。大雪で食物のなくなったリス、狐、熊の3匹が山小屋のきこりの家に食物をもらいにやってくる。心が冷たいので黒いきこりと呼ばれるきこりは3匹を殺してしまう。3匹の魂は死体から抜けでて雪山をさまようが、哀れに思った山の神様が元の姿に戻してくれる。3匹は、心が暖いので白いきこりと呼ばれるきこりの家を訪ねるが、きこりは3匹を暖く迎え入れてやる。そのころ、山は猛吹雪となり、吹雪に乗って雪女が現れ、山じゅうを凍らせる。黒いきこりの小屋にきた雪女はいろりの火を凍らせ、驚いて雪女めがけて銃を撃つきこりも凍らせてしまう。雪女は白いきこりの小屋も襲うが、小屋全体の暖かさで雪女もついに退散し、吹雪もやむ。

〔解説〕日動映画社作品でフジ・カラー使用のアニメ。浜田広介の童話を森康二が脚色、原画も担当した。森の小動物たちが可愛く描かれ、吹雪の描写も迫力があった。1956年度教育映画祭入賞。同年度ベニス映画祭出品。

製作・日動映画社、教育映画配給社　原作・浜田広介　脚色・森康二　原画・森康二、熊川正雄　演出・藪下泰司　動画・熊川正雄、大工原章、市野正二、長沼寿美子、進藤　進、内山　孝、寺千賀雄　描線、彩画・笹森　圭、進藤美津子、田島　実、岡田弥生、山田みよ子、伊藤澄子、川端康子　背景・中島　清　撮影・石川光明、佐倉紀行　音楽・斉藤高順　効果・木村　一　録音・中野倫治

NO. 123 ビールむかしむかし



'56年7月完成（公開日、上映館不詳） 1巻320m 12分　イーストマン・カラー

〔あらすじ〕CMのキャラクター人形がビール博物館へ案内。人類誕生とともにアルコールの歴史もはじまる。世界で初めてビールを飲んだ古代バビロニア人のハニワ人形の踊り。エジプトの壁画の人物がビールを飲む。中世ドイツでは僧院がビール製造の中心となる。1850年ペルリの来航（この部分が大藤信郎のセロファン影絵）とともに日本にビールが渡来。日本で最初にビールを飲んだのはチョンマゲの武士であった。そして明治年間、北海道で最初の国産ビールが生産され、今日の大企業による量産体制になった経過が説明される。

〔解説〕朝日ビールの創業50周年記念のPR映画。セル・アニメ、人形アニメ、影絵アニメをミックスしたデラックスな大作。作家の飯沢匡が脚色、演出に当たった。1956年度第2回全日本PR映画コンクール通産大臣賞、最優秀作品及び色彩部門第1位。'56年度キネマ旬報文化映画ベストテン第9位。'56年度教育短篇映画ベストテン第4位。

製作・電通映画社、人形芸術プロダクション　小畑敏一、稲村喜一　委託・朝日麦酒ＫＫ　脚色、演出・飯沢匡　撮影・岸次郎　人形デザイン・土方重巳　人形製作・川本喜八郎　人形操作・持永只仁　セロファン影絵　大藤信郎　動画・日本アニメーション映画社　美術・江口準次　照明・鈴賀隆夫　録音・加藤一郎　音楽・服部正

NO. 124 ちびくろさんぼのとらたいじ



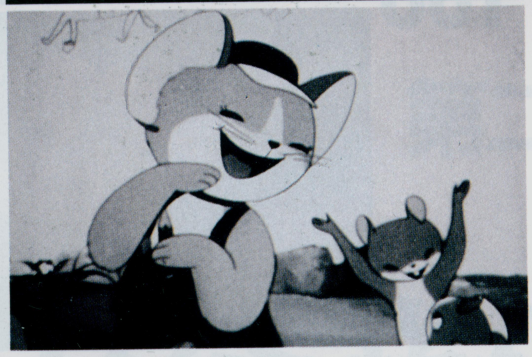
'56年11月完成（公開日、上映館不詳） 2巻475m 18分

〔あらすじ〕両親から新しい洋服と日傘を買ってもらったサンボは嬉しそうにジャングルを歩く。3匹の虎が現れ、次々に食べようとするが、サンボは1匹ずつに上衣、ズボン、傘と与え、難をのがれる。上衣を着ていばる虎。ズボンをはいて我こそはジャングルの王だという虎。傘をもらった虎は尻尾に結ぶ。そして自分こそ王様だと争いになる。力で勝負をつけようとヤシの木の周辺で大格闘。ついに3匹は木の周りを猛スピードで追っかけ合い、とうとう3匹とも溶けてバターになる。そのバターで揚げたドーナツには虎のシマ模様が入っていた。バターになるのは遠心分離機のギャグ。

〔解説〕3作目の人形アニメ。スタッフにも余裕ができ、楽しんで作っている。ラストの虎がバターになるギャグは秀逸。人形製作に川本喜八郎が参加。1957年度教育映画祭最高賞。'56年度文部省特選。'57年度キネマ旬報文化映画ベストテン10位。'57年度第1回カナダ・バンクーバー国際映画祭最優秀賞。'57年度アジア映画祭参加作品。

製作・電通映画社、人形映画製作所　稲村喜一　原作・ヘレン・バーマン(文)、フランク・ドビアス(絵)、光吉夏弥訳「ちびくろさんぼ」(岩波こどもの本)より　脚本・村治夫　演出・持永只仁　撮影・岸次郎　美術・江口準次　人形製作・川本喜八郎　音楽・加藤三雄

NO. 125 こねこのらくがき



'57年５月13日完成（公開日、上映館不詳） ２巻357m 13分

〔あらすじ〕子猫が熊さんの家の白壁に鉛筆で自動車の落書き。自動車が走り回って衝突し、混乱。子猫が交通巡査を描くと交通整理をはじめる。２匹の子熊がこれを見て感心。騒ぎで熊さんが出てきて落書きを消すように注意する。熊たちは鉛筆を持って落書きの汽車に乗り逃げだす。追いかける子猫。熊たちは鉛筆で落書きし、子猫の追跡を妨害。子猫と熊たちの攻防戦が展開するが、ラストは仲直りする。
〔解説〕東映に買収され東映動画となった旧日動映画のスタッフが、新スタジオで作った記念すべき第１作。原画をベテランの森康二が担当。モノクロームの小品だが、スタッフが自由にのびのびと楽しんで作ったアニメ。13分の作品のデータは総作画枚数３万9872枚、原画2506枚、動画１万910枚、トレス１万3052枚、彩色１万3255枚、背景149枚。製作費は1957年当時で340万7000円を要したという。作品は同年度の教育映画祭第４位入賞。続編が'59年にカラーで「こねこのスタジオ」のタイトルで作られている。

製作・東映教育映画部　原作・木下秋夫　企画・赤川孝一、山本早苗　演出・藪下泰次　音楽・伊藤宣二　撮影・石川光明　効果・木村一　作画・森やすじ、大工原章、市野正二、長沼寿美子、内山孝、寺千賀雄、田島実、中島清、進藤みつ子、山田順治

NO. 126 ふしぎな太鼓

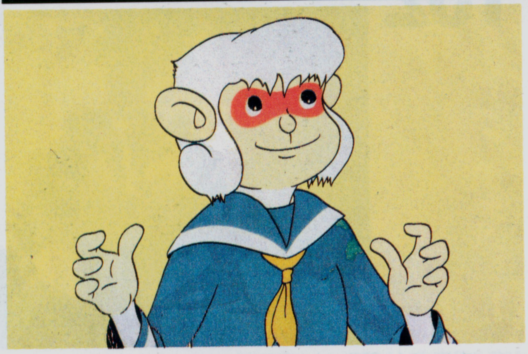


'57年８月20日完成（公開日、上映館不詳） ２巻520m 19分

〔あらすじ〕琵琶湖特産の源五郎鮒の伝説を人形アニメ化したもの。昔、薬売りの源五郎は天狗の子どもを助けてやったお礼に大天狗から不思議な太鼓をもらう。その太鼓は人間の鼻を自由にのびちぢみさせる力を持っていた。鼻を高くしてもらいたい人は、その人の名前をいって太鼓をたたくと高くなり、反対側を打つと低くなる。その話を聞きつけた殿様が実演せよと命じる。殿様の前で自分の鼻をのばすが、調子にのって、鼻は高くなりすぎ、ついに天までのびてしまう。雲の上の雷様がその鼻先をくくりつけたので、雲の上まで引き上げられ、雷と源五郎は雲の上で太鼓合戦を演じる。はずみで雲から転落した源五郎は湖へ落ちる。その湖は琵琶湖で源五郎はフナになってしまった。

製作・電通映画社、人形映画製作所　稲村喜一　原作・石井桃子　絵・清水崑（岩波こどもの本「ふしぎなたいこ」より）　脚本・村治夫　演出・持永只仁、田中喜次　撮影・岸次郎　人形製作・川本喜八郎

NO. 127 ハヌマンの新しい冒険

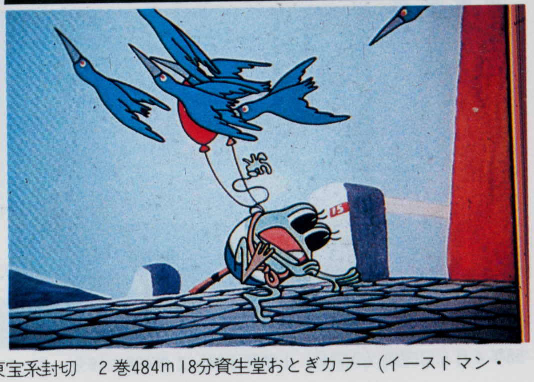


'57年10月14日完成（アメリカ大使館委託作品、非公開） ２巻398m 14分　カラー

〔解説〕アメリカ大使館が、海外の大使館を通じて現地の人々に見せるために製作委託したPR用アニメ。インドに昔から伝わる民話ラーマヤーナのなかのラーマ・キエンの説話に登場する白い猿ハヌマンをヒーローのキャラクターに設定。ジャングルを舞台にハヌマンの活躍を描く。お話は、外国から侵略者たちがやってくるが、ジャングルの平和を守るため、仲間の猿たちを集め、リーダーとなったハヌマンが先頭に立って悪と闘う。外注作品なので一般公開はされなかった。動画を若き日の大塚康生が描いている。

製作・東映　委託・アメリカ大使館　演出・藪下泰司

NO. 128 ふくすけ

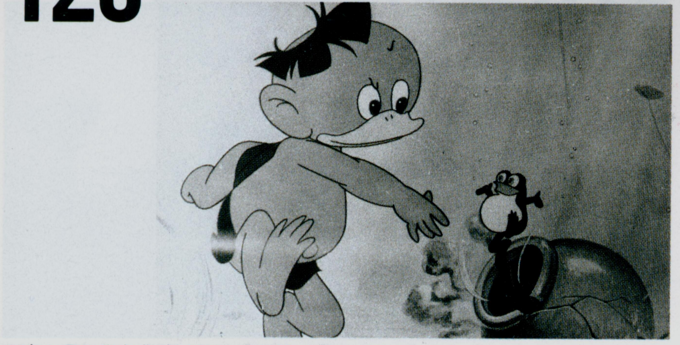


'57年10月29日　東宝系封切　２巻484m 18分資生堂おとぎカラー（イーストマン・カラー）

〔あらすじ〕蛙の家に待望の赤ちゃん誕生。成長するにつれ頭ばかり大きくなり、ひっくりかえる始末。医者の治療で体が軽くなり、雷親子に捕まるが、心の優しいふくすけに同情した雷親子は体を元に戻してやる。
〔解説〕「フクちゃん」の漫画家・横山隆一が「おんぶおばけ」「ひょうたんすずめ」について作った短編アニメ。前２作は16ミリの試作品だったが、３作目は35ミリで制作、東宝系で公開された。社名も「おとぎプロ」と決まり、スタッフのなかに、後年ユニークなアニメを作った鈴木伸一も登場。主人公は"ふくすけ"という名の頭でっかちの蛙の子。"ふくすけ（福助）"は福助足袋の商標にもあるが、水頭症である。そういう題材にもかかわらず、暗い内容にならず明るい作品となったのは、作者の横山隆一の人柄であろう。1957年度第５回キネマ旬報文化映画ベストテン第８位、同年度毎日映画コンクール教育文化映画賞、第８回ブルー・リボン特別賞受賞。

製作・おとぎプロ　原作、演出、撮影、編集・横山隆一　動画・町山充弘、鈴木伸一、秦泉寺博、前田一　音楽・服部良一

NO. 129 かっぱのぱあ太郎



'57年11月25日完成（公開日、上映館不詳） 2巻385m 14分

〔あらすじ〕いたずら好きのかっぱの子ぱあ太郎は沼に住んでいる。ある日、蛙を追いかけるが、空きカンに逃げこんだのを捕える。缶詰と間違えた猿が横取りするが、蛙がとびだしたので驚く。悪さをするので遊び仲間がいないぱあ太郎はモグラにまで馬鹿にされる始末。いたずら子狸はリモコンの模型飛行機を使ってぱあ太郎をいじめる。猿と子狸が仲良く遊んでいるのを見て、仲間はずれにされたぱあ太郎は計略を使い、仲間げんかをさせる。これを見ていたモグラの告げ口で、怒った猿と子狸は、ぱあ太郎を追いかける。逃げかえったぱあ太郎、あわてて沼にとびこみ、水底の石で頭をうち、天罰の大きなコブができる。
〔解説〕戦後の児童雑誌にディズニー・タッチの動物漫画を数多く発表した花野原芳明が東映動画に招かれ、初めて制作した動物アニメ。

製作・東映教育映画部　企画・赤川孝一　原画、演出・花野原芳明　補佐・熊川正雄　背景・六郷僚一　撮影・森武雄　録音・森武　音楽・伊藤宣二　動画・笹山茂、喜多真佐武、野沢和夫、坂本雄作、内山孝、紺野修司、寺千賀雄、中村和子

NO. 130 こぶとり



'58年1月完成（公開日、上映館不詳） 2巻573m 21分

〔あらすじ〕昔々、2人のおじいさんがいた。ある日、山へ行った人の良い太郎じいさんは、夜になり鬼たちの踊りを目撃。あまり面白いので、つられて踊りの輪に加わる。おじいさんの踊りのうまさに感心した鬼たちは明晩もこいと頼み、おじいさんのほほについていた大きなコブを預かる。それを聞いた次郎じいさんは夜、山へ行く。鬼たちの踊りに加わるが、踊りが下手で失敗し、鬼たちの怒りを買い、預かっていたコブをくっつけられてしまう。だが親切な太郎じいさんの機転で、次郎じいさんのこぶもとってもらうことができた。
〔解説〕昔話のこぶとり物語を人形アニメ化。美術を担当した水谷浩は「西鶴一代女」「近松物語」など溝口健二監督作品のセット美術で有名。鬼たちの踊りがプレスコで音楽とマッチし、ミュージカル風の人形アニメとして成功した。

製作・電通映画社、人形映画製作所　稲村喜一　脚本・田中喜次　演出・持永只仁、田中喜次　撮影・岸次郎　美術監督・水谷浩　人形製作・川本喜八郎　照明・上村栄喜　音楽・加藤三雄　録音・田中啓次

NO. 131 夢見童子



'58年4月5日完成（公開日、上映館不詳） 2巻438m 16分　イーストマン・カラー

〔あらすじ〕夢見童子が梅の木の下で昼寝をしながら夢を見ている。村の子どもたちがやってきて、夢の支配者の童子に自分のほしい夢をかなえてくれと頼む。戦いの好きな男の子は金の太刀を、美しくなりたい少女は銀の鏡がほしいと願う。だが童子は、欲の深い子供たちには夢を授けてくれない。ある日、心のやさしい少女が、寝ている童子に、お腹がすくだろうと大切な卵を与えて去る。童子は少女の親切でやさしい心にうたれ、少女の夢の願いをかなえてやる。
〔解説〕大正末期から昭和初期にかけ、少女雑誌に美少女のイラストを発表して一世を風靡した蕗谷虹児（1898～1979）が製作した唯一のファンタジックな短編アニメ。題材は江戸時代の伝承童話だが、作品の気品を高めるため天平時代の話にされた。セリフはなく、歌で物語が展開する。静的な場面が多く、アニメ本来の動きの面白さには欠けていたが、ユニークな作品であった。この作品から求林堂製の国産のセル用カラーペイントが試験的に使用された。

製作・東映教育映画部　企画・赤川孝一、山本早苗　構成、原画、演出・蕗谷虹二　背景・糸井俊二　撮影・石川光明　音楽・伊藤宣二　録音・森武　動画・大塚康生、寺千賀雄、紺野修司、中村和子、喜多真佐武、内山孝

NO. 132 ペンギンぼうやルルとキキ



'58年9月完成（公開日、上映館不詳） 2巻461m 17分

〔あらすじ〕ペンギン夫婦に待望の赤ちゃんが誕生。なんと双子だった。よくくしゃみする子にルル、寒がりやの子はキキと名づけられた。ルルは小さいのに冒険好き、ある日、遠出して迷子になりかけるが、観測隊員の人間のセイさんに救われる。ルルの両親が探しに行き、大事にされているのを見る。ルルは別れを惜しむ隊員（原作では捕鯨船の船員）から記念のネッカチーフをもらって、両親と仲間のもとに帰る。
〔解説〕1956年11月、戦後初の南極観測船"宗谷"が日本を出港。翌年1月、南極予備観測隊は昭和基地を設営。南極観測のニュースと、いぬいとみこ原作の児童小説「ながいながいペンギンの話」をからませて、観測隊員と双子のペンギンの愛情物語に構成。人形アニメ化した。いぬいの原作は3部作（第1話"くしゃみのルルとさむがりやのキキ"、第2話"ルルとキキのうみのぼうけん"、第3話"さようならにんげんさん"）からなり、第1話は'54年11月、同人誌「麦」5号に発表。'56年2月3部作完成。単行本は理論社刊。

製作・電通映画社、人形映画製作所　稲村喜一　脚本・村治夫、中江隆介　演出・持永只仁　撮影・岸次郎　音楽・林光　原作・いぬいとみこ

第二部

大企業化の時代

——昭和32年以降現在まで——

'58〜59

昭和33〜34年

昭和31年8月1日、東映が日動映画を買収し、傍系会社として「東映動画株式会社」が設立された。社長は大川博。従来、教育用等の限られた市場しか持てなかった動画制作が初めて一般娯楽を目的とした大きな市場を獲得し、戦前からの伝統を継承すると同時に、零細かつ職人芸的な動画制作から脱却したことを意味する。戦後の混乱期はこうして終わりを告げた。一方、その前年、漫画家の横山隆一が自宅の離れを改造して「おとぎプロダクション」を設立した。このことも「戦後」のはじまりを意味している。「おとぎプロ」は、のちに手塚治虫の「虫プロダクション」設立にも少なからず影響を与えることになる。

東映動画は東京練馬に新スタジオを建設、32年1月に移転した。マルチプレーンカメラ等の最新鋭機材を揃え、大川社長のいう「東洋のディズニー」の実現に一歩近づいた。が、制作体制はまだ安定していたとはいえず、この当時、長編制作ではまだ「食えなかった」ため、CMやPR映画の受注で食いつないでいたというのが実情であった。

NO. 1 白蛇伝



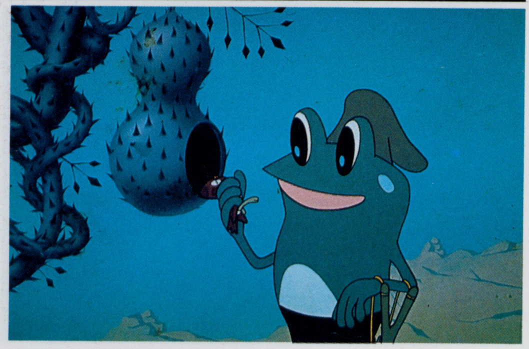
58年10月22日（水）東映系封切　1時間18分
併映作品／一心太助　天下の一大事

〔あらすじ〕白蛇の精白娘（パイニャン）と許仙（シューシェン）との純愛物語。少年のころ、許仙は白蛇を助けたことがあった。助けられた白蛇は美女の姿(白娘)で、成長した許仙の前に現れ、２人は愛し合うようになる。が、高僧法海和尚が白娘の正体を見破り、２人の仲を引きさいてしまった。罪をうけて流罪にされた許仙の苦しみを救うため、白娘は再び法海和尚に戦いを挑む。戦ううち、和尚は白娘の愛が強いことを知り、２人の愛を認めるようになった。

〔解説〕記念すべき東映長編漫画映画第１作。が、作画スタッフのうち原画マンは大工原章と森康二の２人だけ。42名の動画マンはほとんどが経験１年未満の新人。そこで、比較的経験と技術のある６名を〝セカンド〟として、能力の向上と新人教育を図ったのである。また、製作開始にもたついたため演出の藪下泰司がコンテをきりながら、作画に入るという方法がとられた。声の出演は森繁久弥と宮城まり子の２人。この２人だけで全ての役を演じきった。

原案／上原　信■製作／大川　博■企画／高橋秀行、赤川孝一、山本早苗■進行／稲田伸生■構成／岡部一彦、橋本　潔■脚本、演出(監督と同義)／藪下泰司■台詞構成／矢代静一■原画／大工原　章、森康二■動画／大塚康生、坂本雄作、喜多真佐武、紺野修司、中村和子、寺　千賀雄、楠部大吉郎、長沼寿美子、藤井　武、加藤洋子、松隈玉江、赤坂　進、（中谷恭子、永沢　詢、奥山玲子、小田克也、石井元明、野沢和夫、杉山　卓、桜井百合緒、大田朱実、生野徹太、堰合　昇、市村純子、島村達雄、烏丸軍雪、山室正雄、勝田稔男、元藤郁子、笠井晴子、高松新八郎、相磯嘉雄、石野佳子、福島信行、渡辺保三郎、関口正子、高尾研三、市堀千恵子、太宰真知子、杉井儀三郎、吉田迪彦、堀川豊平、江藤昌治）■美術／岡部一彦、橋本　潔■背景／草野和郎、前場孝一■トレース、彩色／進藤みつ子、山田みよ、伊藤澄子、本橋文枝、宮崎正子■撮影／塚原孝吉、石川光明■編集／宮本信太郎■音楽／木下忠司、池田正義、鏑木　創■録音／森　武、小松忠之■音響効果／吉武富士夫■風俗考証／杉村勇造■製作／東映動画■声の出演　（森繁久弥）（東宝）　（宮城まり子）（東宝）ほか　※動画（　）内は資料より補充

NO. 2 ひょうたんすずめ



59年2月10日（火）東宝系封切　55分
併映作品／女ごころ

【あらすじ】平和なカエルの村に、パチンコの早撃ちガンマンのダンベエとケロ八の親子がやってきた。彼らによって殺された雀のお墓を、ピョンスケとピョン子の親子が作ってやった。すると、墓からひょうたんの芽がでて実がなった。その実のなかには、お米がざくざく入っていて、ピョンスケ親子は金持ちになった。ダンベエがそれをまねてみると、トゲのある気味悪いひょうたんがなり、そこから黒いスミのお化けがでてきた。

【解説】民話「不思議なひょうたん」にヒントを得た「ふくすけ」に続く、おとぎプロが製作した作品で、16ミリの同名試作品の35ミリリメイクである。

監督、原画／横山隆一■動画／鈴木伸一、町山みつひろ、秦泉寺　博、山本栄一、山田幸弘、永田敏郎、伊藤征史■背景／中原健喜■彩色／長井克子　田口恵美子、木村協子、内山絢子、市原妙子、小山照子、関根スミ子■撮影、編集／小松義孝、岡田英美子、大久保　宏■音楽／宅　孝二■製作／おとぎプロダクション

NO. 3 少年猿飛佐助



59年12月25日（金）東映系封切　1時間23分
併映作品／雪之丞変化

〔あらすじ〕信濃の山奥で姉と暮らす佐助は、友達の鹿が妖術使い夜叉姫に殺されたことから、戸隠山に住む戸沢白雲斎の下で忍術を修業する。一方、山では夜叉姫の手下で山賊の権九郎一味が暴れまわり、人々を苦しめていた。領主真田幸村は山賊を退治しようと苦心していたが、夜叉姫の妖術のためうまくゆかない。その時、彼は佐助の姉おゆうと知り合う。そこへ、忍術修業を終えた佐助が戻り、真田幸村とともに山賊一味と夜叉姫をやっつけるのだった。

〔解説〕東映長編漫画映画第２作。初のシネマスコープ(東映スコープといった)。東映京都撮影所の影響をたっぷり受けた忍者時代劇で、漫画映画向きとはいえない。大工原章のキャラクターデザインも時代劇を意識してか、歌舞伎風の隈取りが施されており、アニメ的とはいえない。制作面では、大量の新人を迎えて、原画６名、セカンド11名と強化された。反面、作画スタッフの構成にもいろいろと難点がでて、のちに問題を残した。

原作／檀　一雄　読売新聞連載■製作／大川　博■企画／高橋秀行、山本早苗■進行／茂呂清一■脚本／村松道平■演出(監督と同義)／藪下泰司、大工原　章■原画／大工原　章、古沢日出夫、大塚康生森　康二、熊川正雄■動画／楠部大吉郎、寺　千賀雄、中村和子、紺野修司、喜多真佐武、杉山　卓、奥山玲子、太宰真知子、永沢　詢、吉田迪彦、堀川豊平、（杉井儀三郎、勝田稔男、彦根範夫、大田朱美、武内留吉、吉田茂承、児玉喬夫、小田部羊一）■美術／進藤誠吾、小山礼司■背景／横井三郎、浦田又治、伊藤主計■色彩／前場孝一■仕上／進藤みつ子■撮影／大塚晴郷、石川光明、山本明生■編集／宮本信太郎、井草寛二郎■音楽／船村　徹■主題歌作詩／星野哲郎、岩瀬ひろし　佐助の唄／上高田合唱団　おゆうの唄／久城啓子　山賊の唄／フォア・コインズ　和楽／玉藻会連中■録音／加瀬寿士、森　武■擬音／山本　諭■造型／佐藤文則■振付／花柳啓之■殺陣／足立伶二郎■時代考証／佐多芳郎■製作／東映動画■声の出演　真田幸村（中村賀津雄）おゆう　（桜町弘子）　猿飛佐助　（宮崎照男）　おけいちゃん　（松島トモ子）　戸沢白雲斎　（薄田研二）夜叉姫おもん（赤木春恵）　山嵐の権九郎（吉田義夫）　ばったの三次（堺　駿二）　おけらの金太（伊藤亮英）　門番（岸田一夫）　その他（杉山徳子、岸井　明、麻生みつ子、香椎くに子、木下華声）　※動画（　）内は資料より補充

'60~62

昭和35～37年

初期の東映動画には二つの異なる流れがあった。戦前からの技術的な伝統を継承した旧日動系のスタッフ（山本早苗・藪下泰司・大工原章・森康二ら）と、東映教育映画部の意向を受けた岡部冬彦・花野原芳明・蕗谷虹二といった畑違いの童画家・漫画家らの流れである。結局、後者の成果は上がったとはいえず、この時期には旧日動系のスタッフのもとで新しい伝統が築かれていくことになる。

しかし同時に、多くの新人を採用し、彼らを教育しつつ毎年１本の長編を作りだしていくことは容易なことではなく、必然的に制作体制の合理化と労働強化につながった。また、会社側も企画に迷いがあり、この時期、京都撮影所的劇映画志向の作品が多い。こうした、労働環境の問題や企画に対する不満・反感からスタジオを去る者もでてきた。

こうしたなかで37年１月、漫画家の手塚治虫が念願の動画スタジオを設立した。これが「虫プロダクション」であり、東映脱退組の一部も加えて、アニメーション界に新たな潮流を作りだしていくことになる。

NO. 4

西遊記



60年8月14日（日）東映系封切　1時間28分
併映作品／水戸黄門

〔あらすじ〕中国の華果山の石から生まれた石猿は、親がいないことで仲間から馬鹿にされていた。しかし少女猿燐々の励ましで誰も試みたことのない滝壷へダイビング、水蓮洞を発見してからは猿たちの王に。だが石猿は一介の王では満足せず、人間よりえらくなろうと仙人に入門、仙術を修めた。その名も孫悟空。ところが慢心した悟空を釈迦は五行山に封じてしまう。やがて助けてくれた三蔵法師のため、悟空は八戒、沙悟浄とともに天竺へと旅立つことになった。

〔解説〕手塚治虫原作「ぼくの孫悟空」をベースに、手塚自身が構成、コンテを担当。手塚の参加は、ベテラン藪下とともに演出に起用された白川大作の主張による。また、月岡貞夫が入社、早くもその才能を発揮した。新しい血の導入により、従来の東映にないアップテンポなギャグをちりばめた演出・作画に成功、好評を博する。手塚はこの体験を契機に、虫プロ設立へと向かった。なお、黒沢映画で知られた植草圭之助が脚本を担当している。

製作／大川　博■企画／高橋秀行、渾大坊五郎■製作進行／茂呂清一■構成／手塚治虫■脚本／植草圭之助■動画監修／山本早苗■演出（監督と同義）／藪下泰司、手塚治虫、白川大作■原画／森　康二、熊川正雄、大塚康生、大工原　章、吉沢日出夫■動画／紺野修司、喜多真佐武、楠部大吉郎、奥山玲子、寺千賀雄、吉田迪彦、永沢　詢、杉山　卓、太宰真知子、中村和子、長沼寿美子、（杉井儀三郎、彦根範夫、林　重行、小田部羊一、月岡貞夫、平田敏夫ほか）■美術／矢野雅章、沼井　肇■色彩／前場孝一■背景／杉本英子、小沢和子、斎藤君子、浦田又治、横井三郎■トレース／進藤みつ子、本橋文枝、宮崎正子、吉田信子■彩色／川島純子、林　富喜江、岡迫亘弘■仕上検査／新納三郎■撮影／大塚晴郷、石川光明、杉山健児■編集／宮本信太郎、井草寛二郎■音楽／服部良一■ＯＰ「孫悟空の歌」作詩／西沢爽　歌／ダークダックス　協力／コロムビアレコード■録音／空閑昌敏、森　武■音響効果／加納米一■考証／邱　永漢■製作／東映動画■声の出演／東京放送劇団　孫悟空（小宮山　清）燐々（新道乃里子）　猪八戒（木下秀雄）　沙悟浄（篠田節夫）　三蔵法師（関根信昭）　釈迦如来（武田国久）　観世音菩薩（尾崎勝子）　小竜（白坂道子）　牛魔王（巌　金四郎）　羅刹女（加藤玉枝）金角大王（川久保　潔）　銀角大王（風祭修一）ほか　※動画（　）内は資料より補充

NO. 5

安寿と厨子王丸



61年7月19日（水）東映系封切
併映作品／水戸黄門　助さん格さん大暴れ　1時間23分

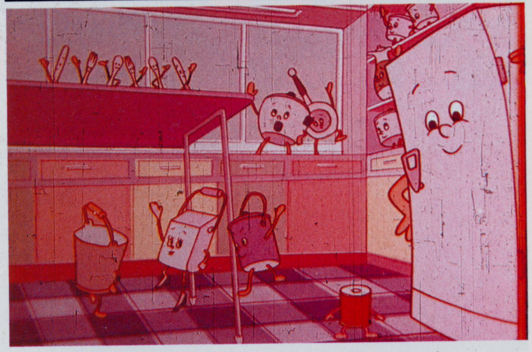
【あらすじ】陸奥の国、岩木判官の娘・安寿は、弟・厨子王丸と父母の家族４人で幸せに暮らしていた。しかし、父を失い流浪の旅に出ることになる。旅の途中で人買いにだまされ、母と死別し、安寿は弟と共に山淑太夫という長者の所に売られてしまった。そこでは、彼女たちに辛い労働が待っていた。優しくしてくれるのは、太夫の息子の三郎だけだった。安寿は、弟だけでもと思い、厨子王丸を国分寺に逃がしてやるのだった。

【解説】森鴎外の「山椒太夫」を原作に田中澄江が脚色した、東映創立10周年記念作品。東北、北陸ロケハンに出かけ、東映スターを登場人物のモデル兼声優として配するなど意欲をみせた。作画などの参考のためライブアクションを撮影しており、そのフィルムへの出演が、佐久間良子（安寿役）の映画界での初仕事だった。ただ、物語が映画的になってしまい、アニメーション本来の変幻自在な見せ場がなく、平坦な作品になってしまった点が惜しい。

製作／大川　博■企画、構成／高橋　勇■製作進行／茂呂清一■脚本／田中澄江■動画監修／山本早苗■演出（監督と同義）／藪下泰司、芹川有吾■原画／大工原　章、森　康二、大塚康生、古沢日出夫、熊川正雄、楠部大吉郎■動画／紺野修司、喜多真佐武、奥山玲子、永沢　詢、寺　千賀雄、吉田迪彦、杉山　卓、堀川豊平■美術／鳥居塚誠一■背景／浦田又治、横井三郎、千葉秀雄■色彩設計／小山礼司■トレース／進藤みつ子、本橋文枝、宮崎正子、吉田信子■彩色／林　富喜江、川島純子、中島祥子■仕上検査／新納三郎■撮影／大塚晴郷、中村一雄、東　喬明■編集／宮本信太郎、稲葉郁三■音楽／木下忠司、鏑木　創■主題歌　作詩／木下忠司　歌／松島トモ子、能沢佳子、コーロステルラ合唱団■録音／空閑昌敏、森　武■音響効果／木村　一■考証／蕗谷虹児■製作／東映動画■声の出演　安寿（佐久間良子）　厨子王丸（少年時代）（住田知仁）（青春時代）（北大路欣也）　父（宇佐美淳也）　母（山田五十鈴）　山椒太夫（東野英治郎）　次郎（平幹二朗）　三郎（水木　襄）　関白（山村　聡）　あや姫（松島トモ子）　鬼倉陸奥守（三島雅夫）　安藤左内（花沢徳衛）　菊乃（利根はる恵）　権六（富田仲次郎）　山岡太夫（永田　靖）　甚八（清村耕次）　辰公（潮　健児）　門番（織田政雄）　和尚（明石　潮）　あや姫の侍女（新井茂子）　ならず者（森　弦太郎）　使者（増田順司）　チョン子（武藤礼子）　モク（大平　透）

NO. 6

たのしい文明史
鉄ものがたり



62年4月22日（日）日活系封切　23分
併映作品／宍戸　錠の大氷原、週末屋繁昌記

【あらすじ】台所の鉄の仲間たちと楽しく暮らしていたカンヅメのカン坊や。ある日役目を終えて空きカンとなった坊やは、捨てられた箱の底で夢をみた。昔、山火事で溶けて流れ出し、固まった鉄。人間に発見され、刃物に、鎧に、歯車に姿をかえ、乗り物となって世界中を結んだ鉄。しかし恐ろしい兵器ともなり、一面を焼け野原に変えてしまった。驚いて目を覚ました坊やは、製鉄所に運ばれた。そこでセン鉄と混ぜられて、新しい鉄として生まれ変わるのだ。

【解説】「日本の鉄鋼」「新しい鉄の時代」などの産業PR映画を発表してきた鋼材倶楽部の企画により、岩波映画が製作、東映動画が実制作を担当した作品。漫画家の岡部冬彦がキャラの原案を作り、東映動画CM部所属の市野正二と、フリーの前田一が作画を担当した。冒頭にある鉄製品のダンスシーンをはじめ、ていねいな作りだが、演出のテンポが遅く、全体に成功作とはいいがたい。なお、入社３年目の高畑勲がこの作品で演出助手をつとめている。

製作／小口禎三、坊野貞男■構成、脚本／伊勢長之助■監修／岡部冬彦■演出（監督と同義）／前田　一■演出助手／高畑　勲■作画／市野正二ほか■撮影／石川光明■作曲／団　伊玖磨■企画／社団法人・鋼材倶楽部■動画制作／東映動画■製作／岩波映画製作所

NO. 7 アラビアンナイト シンドバッドの冒険

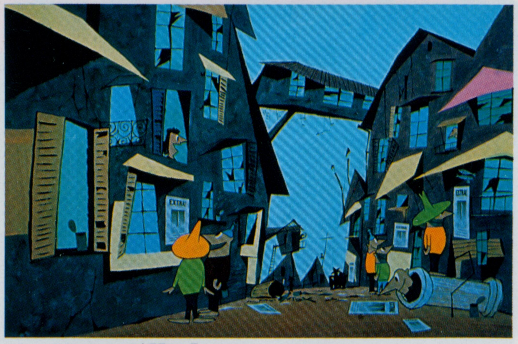


62年7月21日（土）東映系封切　1時間21分
併映作品／水戸黄門

〔あらすじ〕ある日シンドバッドとアリーは、海岸に漂着した老人から宝島の地図をもらう。2人はこの地図をもって船に乗りこみ、宝島をめざす。途中、寄港した国で船員たちは喧嘩騒ぎを起こし、牢屋に入れられてしまう。が、王女サミール姫のおかげで脱出し、姫とともに船出する。一方、シンドバッドの持つ宝島の地図を狙う悪大臣は、宝を狙って追跡を開始。宝島にたどり着いたシンドバッドたちは、追ってきた悪大臣をやっつけ、ついに宝を手に入れた。
〔解説〕この作品は、いろいろな意味で問題を抱えていた。脚本は手塚治虫と北杜夫、さらに高橋勇所長までが参加。手塚や北の起用にもかかわらずストーリーは平板なものだった。また、当時労組の結成に伴ってロックアウトが行われたり、作画スタッフの間でも相互不信から原画・セカンド・動画の各パートの連携が阻害されるなど、作業能率が極度に低下した。その結果、技術的には進歩が見られたものの（大塚康生の波の作画は逸品）、散漫な印象を残した。

製作／大川　博■企画／高橋　勇、吉田　信、籏野義文■製作進行／茂呂清一■脚本／手塚治虫、北杜夫■演出／藪下泰司、黒田昌郎■動画監修／山本早苗■原画／大工原　章、古沢日出夫、熊川正雄、大塚康生、楠部大吉郎、奥山玲子、喜多真佐武、勝井千賀雄■動画／竹内留吉、堰合　昇、小田克也、生野徹太、中谷恭子、大田朱美、小田部羊一、月岡貞夫、勝田稔男、吉田茂承、相磯嘉雄、菊地貞雄、児玉喬夫、小林和子、長沼寿美子、（堀川豊平、石井元秋、笠井晴子、福島信行、山田みよ、成形昌代、菊地勝子、窪田勝子、斎藤　賢、高木　厚ほか）■美術／進藤誠吾、沼井　肇■色彩設計／浦田又治■背景／福本智雄、片倉和子、杉本英子、伊藤主計、影山　勇、千葉秀雄■トレース／進藤みつ子、滝川紀子、坂本洋子、佐野信子■彩色／小野弘子、渡部益子、林　富喜江、高橋佳子■仕上検査／新納三郎■撮影／杉山健児、中村一雄■編集／稲葉郁三■音楽／富田　勲、米山正夫■録音／空閑昌敏、森　武■効果／木村　一■記録／鈴木安津子■（製作／東映（東映動画））■（声の出演）　シンドバッド（木下秀雄）　アリー（黒柳徹子）　船長ハムディ（滝口順平）　アブダラ（太宰久雄）　カシム（辻村真人）　アーマッド王（永井一郎）　王妃アミーナ（新道乃里子）　サミール姫（里見京子）　トルファ大臣（川久保　潔）ほか／東京放送劇団　※（）内の動画スタッフは、画面に表示されないもの。

NO. 8 おとぎの世界旅行



62年8月25日（土）東宝系封切　1時間16分
併映作品／キングコング対ゴジラ、私と私

【あらすじ】ソーラン老人とオケサ青年、そしてチョイナ少年の3人は、蒸気自動車ヨサコイ号に乗り、世界各地を漫画映画上映しながら旅をする。その作品――「ロケット・フクちゃん」「ぴっくるちゃん」「竜巻に好かれた赤いシャツ」「勇敢な煙突号」「プンプンおやじ」「ベガー・キング」
【解説】おとぎプロの劇場公開3作目で、最後の作品でもある。短編7本のオムニバス形式の作品として1960年に完成していたが、公開されたのは1962年。7本のうち、「へいちゃんのゴルフ」「プンプンおやじ」の2本は、上映時間の関係でカットされて上映された。徳川夢声が特別出演している。

製作／横山隆一■監督／横山隆一■監督助手／鈴木伸一■動画（原画および動画と同意）／鈴木伸一、町山充弘、秦泉寺博、山本栄一、甲藤征史、山田幸弘、滝口明治、斎藤　博、島村幸重、壬生　理、岡田英美子■背景／中原健喜、鈴木伸一■トレース／永田敏郎■トレース、彩色／長井克子、関根スミ子木村協子、玉井縫子、前田道子、佐藤松子、小山昭子、市原タイ子、太田喜美子、赤塚イシ子、塩野千鶴子■撮影／小松義幸■音楽／団伊玖磨■録音／国島正男■台詞演出／佐分銅也■製作／おとぎプロダクション■声の出演　（木下秀雄）（辻村真人）（上田敏也）（関根信昭）（真野　純）（堀　絢子）（牧村右子）　声の特別出演（徳川夢声）

'63〜65 昭和38〜40年

昭和36年9月末、東映動画に労働組合が結成された。当然、会社側との間にかなりのごたごたがあって、作品の完成にも影響が出た。が、組合活動のなかで動画課や演出課とその他のパートとの交流が盛んになり、従来円滑を欠いていた各パート間の一体化につながったといえるだろう。その成果は長編「わんぱく王子の大蛇退治」に現れている。

しかし、同時に38年1月、アニメーション界に画期的な事件が起こった。虫プロによって30分のTV用シリーズアニメーション番組「鉄腕アトム」が制作されたのである。従来の技術様式では不可能と考えられたことを敢えて成しとげたのである。無論、東映動画やディズニー作品とは、その完成度において比較にはならないが、視聴者からは大歓迎された。もはや、アニメーションは劇場で見るだけのものではなくなったのである。東映動画にしてみれば、ほとんど独占市場であったところへ、今でいうベンチャー企業に殴りこみをかけられた恰好になったわけであり黙っているわけにはいかない。「わんぱく王子の大蛇退治」の時点で、東映動画は長編2本体制に入っていたが、加えてTV用シリーズ作品をも制作するとなれば、完全に従来の制作体制を変えなければならない。そのためかどうか、東映動画は38年をもって正社員の採用を打ち切っており、以後は作品契約、あるいは年間契約の形でスタッフを採用することになる。ちなみに最後の正式採用組のなかに宮崎駿がおり、最初の契約採用組のなかに小林治や芝山努らがいる。

ともかく、東映動画も、TV用シリーズ作品の制作にとりかかった。が、2コマ作画を当然としてきた長編スタッフには3コマ作画自体が常識をはずれたものでしかなかったため、会社の要求に応えようとする者はなかなかいなかった。この状況のなかで、この難題に応えたのが月岡貞夫だった。彼はほとんど一人で脚本・作画・演出をこなす奮闘ぶりを見せた。が、それには当然限界があり、まもなくTVシリーズ独自の制作体制を作らざるを得なくなった。

その影響で、39年には東映動画は新作長編を発表することができず、「まんが大行進」の名目で、すでに放映されたTV作品と「西遊記」の再映でお茶をにごし、のちの「東映まんがまつり」の先駆となる上映形態を作りだした。

NO.
9

わんぱく王子の大蛇退治



63年3月24日（日）東映系封切　1時間16分

〔あらすじ〕イザナギとイザナミの子・スサノオは、腕白だがみんなに好かれていた。ある日突然母を亡くしたスサノオは、その母への思慕から、仲良しのウサギのアカハナを連れて、母がいるという〝幸の国〟を捜しに旅立つ。海に乗り出したスサノオはさまざまな困難に出会いながらも、これに立ち向かい、あるときは兄ツクヨシの助けを借りて旅を続ける。そして姉アマテラスの高天原を去ったスサノオは、クシナダヒメを救うために最後の敵ヤマタノオロチに挑む。

〔解説〕昭和30年代の東映動画を代表する作品であると同時に、日本のアニメ史上に残る傑作。平面性を重視した日本画的キャラクター、造形的な背景美術など、日本のアニメーションとしてのオリジナリティーを確立した。テレビアニメ界に人材が流出する直前の時期であったため優秀なスタッフが数多く参加。日動時代からの森康二、東映生え抜きの大塚康生ら、新旧の感性がうまくマッチした作品となった。また、この作品ではじめて作画監督制度が敷かれた。

日本神話より■製作／大川　博■企画／吉田　信、高橋　勇、飯島　敬■製作進行／松下秀民■脚本／池田一朗、飯島　敬■演出（監督と同義）／芹川有吾■演出助手／高畑　勲、矢吹公郎■動画監修／山本早苗■原画監督／森　康二■原画／古沢日出夫、熊川正雄、大塚康生、楠部大吉郎、永沢　詢、奥山玲子、喜多真佐武、勝井千賀雄■動画／月岡貞夫、小田部洋一、竹内留吉、彦根範夫、小田克也、生野徹太、堰合　昇、大田朱実、中谷恭子、小林和子、吉田茂承、勝田稔男、児玉喬夫、相磯嘉雄、菊池貞雄、斎藤　賢、福島信行、森　英樹、平田敏夫、（香西隆男、木村圭市郎、小泉謙三、我妻　宏、羽根章悦、林　静一ほか）■舞踊振付／籏野恵美■考証／路谷虹児■美術／小山礼司■背景／福本智雄、杉本英子、影山　勇、千葉秀雄■色彩設計／横井三郎■仕上検査／佐藤章二■トレース／進藤みつ子、坂本洋子、刈屋貞子、湯沢加代子■彩色／中村富美子、戸塚房江、関　一江、伊藤滋子■撮影／石川光明、菅原英明■編集／稲葉郁三■音楽／伊福部　昭■挿入歌「母のない子の子守唄」作詞／もりしまたかし　作曲／伊福部　昭　歌／渡部節子■録音／森　武、石井幸夫■効果／岩藤龍三■記録／上山英子■製作／東映動画■声の出演　スサノオ（住田知仁）　クシナダ姫（岡田由記子）　アカハナ（久里千春）　（山内雅人）　（川久保　潔）　（木下秀雄）　（巌　金四郎）　※動画（　）内は資料より補充

NO.
10

わんわん忠臣蔵



63年12月21日（土）東映系封切　1時間21分
併映作品／狼少年ケン、柳生武芸帳　片目の忍者

〔あらすじ〕平和で静かな森で、母のシロと楽しく暮らしていた小犬のロック。だが、母は無法者の虎のキラーや狐のアカミミに殺されてしまう。町に出たロックは野良犬ゴローらの協力を得て力をつけていくが、復讐を恐れたアカミミの計略により海に流される。島の灯台守の少女に助けられたロックは彼女のもとで成長。ある日、渡り鳥からキラーが森の仲間たちとともに動物園にいると聞いたロックは、立ち上がる。そして大雪のなか、ついに仇討ちの時はきた。

〔解説〕「わんぱく王子の大蛇退治」のあとの、東映〝長編２班体制〟の第１作。三たび東映長編に起用された手塚治虫が、忠臣蔵に基づき原案、コンテを担当。ロックは大石内蔵助、キラーは吉良上野介というように、劇中の名前も忠臣蔵をもじってつけられている。初の長編単独演出の白川大作は、月岡貞夫と組んだ新人育成用短編「ねずみのよめいり」で認められ参加した。マーチに合せたＯＰも秀逸な出来で、のちにタックで活躍する児玉喬夫が担当している。

原案構成／手塚治虫■製作／大川　博■企画／吉田　信、渾大坊五郎、飯島　敬■脚本／飯島　敬、白川大作■監修／山本早苗、藪下泰司■演出（監督と同義）／白川大作■演出助手／池田　宏、山本寛巳■作画監督／大工原　章■原画／熊川正雄、森　康二、楠部大吉郎、奥山玲子、喜多真佐武、勝井千賀雄、彦根範夫、小田部羊一■動画／生野徹太、堰合　昇、勝田稔男、吉田茂承、福島信行、小林和子、斉藤智、香西隆男、森　英樹、金山通弘■タイトルデザイン／児玉喬夫■美術／鳥居塚誠一、沼井　肇■背景／千葉秀雄、片倉和子、山崎　誠、伊藤英治■色彩設計／浦田又治■仕上検査／小椋正豊■特殊仕上／藤井　武■撮影／杉山健児、吉村次郎■編集／稲葉郁三■音楽／渡辺浦人■ＯＰ、ＥＤ「わんわんマーチ」作曲／中村八大　歌／デューク・エイセス　挿入歌「わんわん子守唄」作曲／渡辺浦人　歌／松尾和子　以上、作詞／佐伯孝夫　ビクターレコード■録音／森　武、石井幸夫■製作／東映動画■声の出演　キラー（西村　晃）　野良犬の大将ゴロ（佐藤英夫）　（大村文武）　ロック（木下秀雄）　野良犬Ａ（花沢徳衛）　野良犬Ｂ（海野かつを）　野良犬Ｃ（西　桂太）　赤耳（加茂喜久）　（本間千代子）　幼少年期のロック、燈台の少女（堀　絢子）　子兎ラビ（伊藤牧子）　子鹿ロン（吉川和子）　子栗鼠リマ（山本喜代子）　キラーの用心棒（中川謙二、永山一夫）　ロックの母シロ（水木蘭子）ほか　かかしプロダクション

NO.
11~19

狼少年ケンと「まんが大行進」Ⅰ

〔解説〕'63年12月、東京地方の「わんわん忠臣蔵」の公開に、同年10月よりＮＥＴ系で放映されていた、東映動画の初のテレビシリーズ「狼少年ケン」の再編集版が同時上映された。この興行は予想以上のヒットをおさめ、東映は〝劇場長編〟プラス〝テレビ作品〟のプログラムを続けることになり、またのちの〝まんがまつり〟の原形ともなった。
　さらに'64年には、「狼少年ケン」「風のフジ丸」に他社作品の「鉄人28号」「エイトマン」を加えて、４本のテレビシリーズのみで構成された〝まんが大行進〟が上映された。

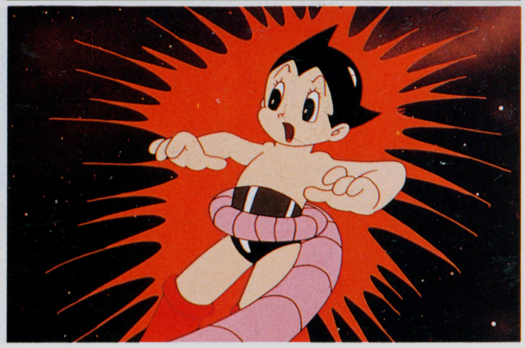




封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督（原画）	美術
'63.12.21(土)	狼少年ケン	25分	芹川　有吾 大野　寛夫	月岡　貞夫	（月岡　貞夫）	児玉喬夫
		2話「白銀のライオン」、3話「魔法使いタマタン」の編集版 「わんわん忠臣蔵」に併映（東京地区のみ）				
'64.3.22(日)	狼少年ケン	50分	芹川　有吾	月岡　貞夫 芹川　有吾	（月岡　貞夫）	児玉　喬夫
	アラビアの怪人、魔の岩の決闘	5話「アラビアの怪人」、8話「魔の岩の決闘」の編集版 「西遊記」（リバイバル）に併映				
'64.3.28(土)	狼少年ケン	50分	押川　国秋	池田　宏 矢吹　公郎	（月岡　貞夫）	沼井　肇
	トーテムポールの魔人、ピストル騒動	9話「トーテムポールの魔人」、13話「ピストル騒動」の編集版 「隠密剣士」に併映				
'64.5.3.(日)	狼少年ケン	50分	飯島　敬	黒田　昌郎 高畑　勲	（月岡　貞夫）	横井　三郎 沼井　肇
	おばけ嫌い、ジャングル最大の作戦	12話「おばけ嫌い」、14話「ジャングル最大の作戦」の編集版 「少年猿飛佐助」（リバイバル）に併映。				
'64.6.14.(日)	狼少年ケン	25分	芹川　有吾	池田　宏	喜多真佐武	沼井　肇
	月夜の出来事	16話「月夜の出来事」を上映。「路傍の石」、「おふくろ」に併映				
'64.7.21(火)	まんが大行進					
	狼少年ケン	24分	飯島　敬	山本　寛己	喜多真佐武	
	サーカスから来た仲間	23話「サーカスから来た仲間」を上映				
	少年忍者風のフジ丸	53分	飯島　敬 志原　弘	白川　大作 矢吹　公郎	小田部羊一 生野　徹太	浦田　又治
		「謎のアラビヤ人形」と称して、初期エピソードを編集				
	鉄人28号	47分	岡本　欣三	庵原　和夫 渡辺　米彦	小室　常夫 若林　忠夫	星　俊六
	ミラクル魔術団、海底基地	31話「ミラクル魔術団」、32話「海底基地」の編集版				
	エイトマン	46分	平井　和正 豊田　有恒	大西　清 佐々木浩次	高恒　幸蔵 藤原万秀ほか	小関　俊之 泉谷　実
	ロボット007、光線銃レーザー	10話「ロボット007」、9話「光線銃レーザー」の編集版				

NO. 20

鉄腕アトム
宇宙の勇者



64年7月26日（日）日活系封切　（パート・カラー）　1時間27分
併映作品／ぼくらの冒険旅行（～31日）、度胸一番（8月1日～）

〔あらすじ〕「ロボット宇宙艇」……ロボット宇宙艇のレバー部分のロボットが盗まれた。取り返しに向かったアトムは、悪者が造った偽アトムと対決する。「地球防衛隊」……地球防衛隊の前進基地。地球征服を企む宇宙人にお茶の水博士が誘拐されてしまった。　「地球最後の日」……地球に迫る赤い星。衝突すれば、地球は崩壊してしまう。ニコロ星からにげてきた超高性能のロボット爆弾ベムは、アトムの強くやさしい心に触れ、自ら赤い星に向かって行く。
〔解説〕テレビで抜群の人気を得た「鉄腕アトム」の劇場用再編集版。放映済みの3話を新作書きドろし部分でつないだ。またオープニング部分も新作である。また、カラー放送実験用の色彩濃度を試すテスト作品として、「地球防衛隊」は全編カラー、「地球最後の日」は一部のみカラーとなっている。なお配給権は、当初松竹が獲得していたが、社長交代による製作方針の変更が影響し、結局日活に変更となっている。

原作、構成／手塚治虫■製作助手／もりまさき■製作協力／別所孝治（フジＴＶ）■企画進行／石津嵐■作画進行／明田川　進、岸本吉功、若尾博司、諏訪武夫■技術進行／田代敦巳、箭内　進■脚本／山本暎一、林　重行、鈴木良武■演出／山本暎一、林　重行、高木　厚■原画／山本　繁、瀬山義文、北野英明、青木　茂、岡迫亘弘、田中英二、赤堀幹治■動画／沼本清海、上梨壱也、正延宏三、森　安夫、出崎　統、渡辺邦男、西牧秀雄■美術／松本強、八村博也、大脇章子、半藤克美■仕上／杉井正子、松本双葉、進藤八重子、日高皎子、大内允子、朝戸澄子、鶴田淑子、黒田亜紀子■特殊効果／安斎儀之、久保礼子、磯野雅子、島野昌子、中西瓔子、石井マヤ、沢井裕之、林　広美、西田　稔、光延幸子、近藤和枝、藤井和子■撮影／佐倉紀行、清水達正、広川和行■編集／古川雅士■編集協力／鈴木寛■音楽／高井達雄■録音／アオイ・スタジオ■音響／大野松雄■資料／野崎欣宏、飯塚正夫■製作／虫プロダクション■声の出演　アトム（清水マリ）　お茶の水博士（勝田　久）　ヒゲおやじ（矢島正明）（水垣洋子）（高塔正康）（今井和子）　ナレーション（谷津　勲）

NO. 21

ガリバーの宇宙旅行



65年3月20日（土）東映系封切　1時間20分
併映作品／少年忍者風のフジ丸　まぼろし魔術団、狼少年ケン　おく病なライオン

〔あらすじ〕孤独な毎日を送っていたみなしごの少年テッドは、迷いこんだ森でガリバー老博士と出会う。ふたりは〝青い希望の星〟へ旅立つこととなり、野良犬マック、人形の〝大佐〟、カラスのクローらとともにガリバー号で宇宙へ出発。途中、可逆的星雲に巻きこまれピンチに陥ったところを紫の星の王女に救われ、青い希望の星がロボットに支配されていることを聞かされる。ボスロボットを倒し王女を救いだしたテッドが知った真の幸せとは……。
〔解説〕東映動画〝長編2班体制〟の1本として、「わんわん忠臣蔵」と同時期に製作が開始された作品。だが、「狼少年ケン」の製作がはじまった関係で一時中断されるなど、テレビアニメ時代の余波を最初に受けた作品となった。その影響からか、ロボットのデザインなどに工夫が見られる反面、全体としては散漫な印象がある。王女の殻が割れて人間の姿が現れる、というラストシーンは、初参加の宮崎駿の意見により、この形に変更されたのだという。

製作／大川　博■企画／小野沢　博、旗野義文■製作進行／古沢義治■脚本／関沢新一■監修／山本早苗、藪下泰司■演出（監督と同義）／黒田昌郎■演出助手／設楽　博、山口康男■原画監督／古沢日出夫■原画／大塚康生、永沢　詢、竹内留吉、月岡貞夫、小田克也、菊池貞雄、大田朱実、松原明徳、森　康二■動画／中谷恭子、堰合　昇、相磯嘉雄、柴田圭子、長尾雅子、黒沢隆夫、板野隆雄、薄田嘉信、藤本芳弘、斎藤瑛子、花田玲子、阿久津文雄、石井基子、阿部　隆、堀池義治、倉橋孝治、笠井春子、富永　勤、坂野勝子、草間真之助、宮崎　駿、村松錦三郎、竹内大三、長沼寿美子■美術／横井三郎■「地球の歌」美術／児玉喬夫■背景／杉本英子、遠藤重義、土田　勇、辻　忠直■仕上検査／佐藤章二■彩色／渡辺益美、中林伸子■トレース／風間和子、湯沢紀久子、入江三帆子■特殊効果／山本千秋■撮影／篠崎文男、林　昭夫■編集／稲葉郁三■音楽／富田　勲■主題歌　作詞／関沢新一　作曲／富田　勲　歌／西六郷少年合唱団、ダニー飯田とパラダイスキング■録音／石井幸夫■効果／岩藤竜三■記録／菅原節代■製作／東映動画■声の出演　テッド（坂本　九）　王女（本間千代子）　ガリバー博士（宮口精二）　マック（堀　絢子）　大佐（大泉　滉）　科学者たち（パラダイスキング）　ロボット（今西正男）　クロー（伊藤牧子）

NO. 22~30

狼少年ケンと「まんが大行進」II

〔解説〕「まんが大行進」は、東映動画のテレビ作品に、ＴＣＪ作品の「スーパー・ジェッター」「宇宙少年ソラン」、東京ムービー作品の「オバケのＱ太郎」を加え、まさしくテレビアニメのオンパレードとなっていった。
また、'72年７月の「まんが大行進」の１本として公開された「狼少年ケン」の72話「誇りたかきゴリラ」は、のちに「ホルスの大冒険」などの作品を手がけることになる高畑勲の作品。毎回やられている悪者のゴリラ一族の、ケンたちへの逆襲をユーモアたっぷりに描いた秀作である。ドキュメンタリー調の仰々しいナレーションが印象的だった。高畑勲は、同シリーズの14話で初演出をつとめたばかりだった。





封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'65. 3 .20(土)	少年忍者風のフジ丸	50分	志原　弘	白川　大作 矢吹　公郎	大工原　章	浦田　又治
	まぼろし魔術団	29話～34話「南蛮邪法変」篇の編集版。「ガリバーの宇宙旅行」に併映				
	狼少年ケン	24分	浜田　稔	芹川　有吾	喜多真佐武	千葉　秀雄 穂積　勝義
	おく病なライオン	56話「おく病なライオン」を上映「ガリバーの宇宙旅行」に併映				
'65. 7 .24(土)	まんが大行進					
	スーパー・ジェッター	25分	加納　一郎	大西　清	不詳	不詳
		1話「未来からきた少年」を上映				
	狼少年ケン	25分	中村　一郎	高畑　勲	彦根　範夫	不詳
	誇りたかきゴリラ	72話「誇りたかきゴリラ」を上映				
	宇宙パトロールホッパ	24分	高橋　二三	藪下　泰次	熊川　正男	不詳
		17話「大あばれ金属人間」を上映				
	少年忍者風のフジ丸	44分	谷井　敬	白川　大作 村上　鎮雄	大工原　章	不詳
	大猿退治	51話「甲賀鉄甲術」、52話「忍法火炎竜」の編集版				
	宇宙少年ソラン	25分	福本　和也	瀬古　常時	不詳	不詳
		「百万ドルのどくろ」を上映。詳細不明				
'65.12.25(土)	まんが大行進					
	オバケのQ太郎	25分	吉田　史郎 田代　淳二	山口　逸郎 大隅　正秋	不詳	不詳
		6話「台風がくるぞの巻」、15話「忍者修業の巻」を上映。「わんわん忠臣蔵」（リバイバル）に併映				
	狼少年ケン	48分	浜田　稔 池田　宏	芹川　有吾 池田　宏	不詳	不詳
		83話「地底の女王」、86話「わんぱく作戦」の編集版				

'66~68

（昭和41～43年）

41年、東映動画は年間に、輸出を重点においた80分程度のいわゆるＡ作１本と、１時間もののいわゆるＢ作２本を制作公開する方針を立てた。そのＢ作第一号が「サイボーグ009」であるが、経費削減のために、この作品からゼロックス（呼称はゼログラフィ）によるトレスが正式に採用された。

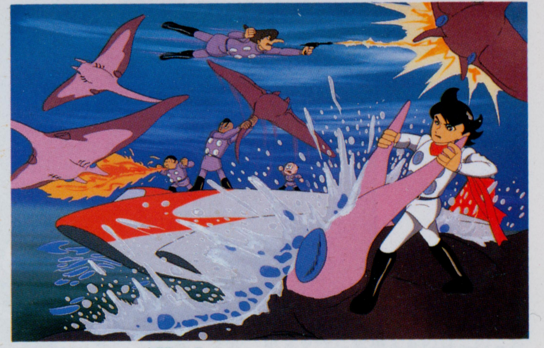
翌42年、創立10周年記念作品「少年ジャックと魔法使い」の併映は、折からの怪獣ブームを受けたＢ作「サイボーグ009怪獣戦争」、７月にはＮＨＫで人気の人形劇を長編アニメ化したＢ作「ひょっこりひょうたん島」と、企画にも、台頭するＴＶの力を無視するわけにはいかなくなったのである。そして第一作「白蛇伝」以来演出の柱であった藪下泰次は、この作品を最後に退社している。

会社は合理化を進めていたが、それに抗する労組を中心とする若いスタッフは闘争のなかで、長編史上屈指の傑作を完成させた。43年の「太陽の王子ホルスの大冒険」がそれである。しかし興行成績は振るわず、多額の負債を残す結果となった。

同年８月、長編動画育ての親・東映社長大川博死去。

NO. 31

サイボーグ009



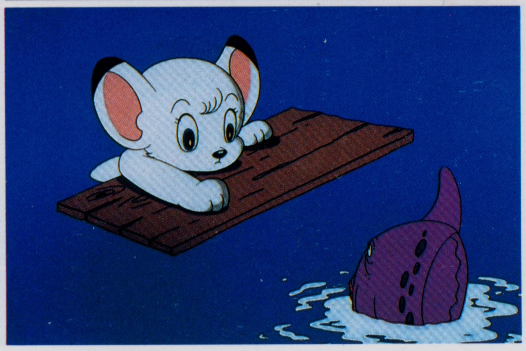
66年7月21日（木）東映系封切　１時間４分
併映作品／大忍術映画ワタリ、なかよし合奏団

〔あらすじ〕レース中の事故で重傷を負った、世界的なトップレーサー・島村ジョーは、世に混乱をもたらす悪の組織・ブラックゴーストに連れ去られる。しかしもっとも優れた９番目の武器・サイボーグ009として蘇ったジョーは、各国から集められたほかの８人のサイボーグのリーダーとして、組織を脱したギルモア博士のもと、悪と戦うことを決意。ブラック・ゴーストの副首領・ビーグルは、博士と９人のサイボーグに制裁を加えるため、作戦を開始する。
〔解説〕東映動画が「ガリバーの宇宙旅行」以来１年ぶりに発表した劇場用中編。社内でＢ作と呼ばれた１時間以内の作品の１本目とされるが、実際は１時間４分ある。石森（現・石ノ森）章太郎の原作をもとに、その初期のストーリーをアニメ化。だが、キャラクターデザインはかなりアレンジされている。スタッフは、テレビの「レインボー戦隊ロビン」で編成されたチームをそのまま起用。また、一部だがゼロックスが劇場版としては初めて採用されている。

原作／石森章太郎　週刊「少年キング」連載■製作／大川　博■企画／関　政治郎、平沢　明、飯島　敬、旗野義文■製作進行／堤　四四三■脚本／飯島　敬、芹川有吾■演出（監督と同義）／芹川有吾■演出助手／宮崎一哉■作画監督／木村圭一郎■原画／上村栄司、若林哲弘、森下圭介、高橋信也、大橋　学、椛島義夫■動画／桜井　勇、平村文男、鹿島恒保、山田一広、岩塚美子、玉沢　武、榎本有也、大崎道泰、内田君子■美術／沼井　肇■背景／佐々木耕成、篠田洋子、渡辺俊児■色彩設計／辻　忠直■仕上検査／小椋正豊、西元敦子■トレス／植木知子、市村和子■彩色／赤荻永江、古屋純子■特殊効果／岡田良明、高橋佳子■ゼログラフィー／加藤　稔■撮影／平尾三喜■編集／千蔵　豊■音楽／小杉太一郎■録音／小西　進■音響効果／大平紀義■記録／中垣禧代■製作／東映動画■声の出演　００９（太田博之）　００８（内海賢二）００７（曽我町子）００６（藤村有弘）　００５（増岡　弘）　００４（大竹　宏）　００３（ジュディ・オング）　００２（石原　良）　００１（島山京子）　ギルモア博士（八奈見乗児）　ブラック・ゴースト団首領（山内雅人）　副首領ビーグル（川久保　潔）　ビーグルの手下・エーゼル（はせ・さんじ）　ナレーター（黒沢　良）

NO. 32

ジャングル大帝



66年7月31日（日）東宝系封切　１時間15分
併映作品／フランケンシュタインの怪獣　サンダ対ガイラ、つるのおんがえし

〔あらすじ〕ジャングルの王様・白いライオンのパンジャが人間に倒された。身ごもっていたその妻・エライザは、動物園に運ばれる途中の船上で、一子・レオを産み落とす。父に代わってジャングルの平和を守るため、幼いレオは母と別れ、船より脱出。荒海を泳ぎ、一路アフリカを目指す。パンジャ亡きあとのジャングルは、乱暴者が幅をきかす無法地帯となっていた。レオはパンジャ２世として迎えられ、仲間とともにジャングルの平和のため立ち上がる。
〔解説〕テレビアニメ「ジャングル大帝」の劇場版。テレビシリーズを１本の長編用に再編集した、初の作品である。再編集ものながら、技術の優秀さでベネチア映画祭の〝銀獅子賞〟を獲得している。「ジャングル大帝」は、当初からアメリカ輸出を目的とし、アメリカ側の条件がカラーであることであったためにカラー制作された。しかし当時、日本国内にカラー受信機が少なかったため、映画館ではじめて色のついたレオを見た人も多かった。

原作／手塚治虫■製作担当／もり・まさき■脚本／辻　真先■監督／山本暎一■演出／林　重行、永島慎二、勝井千賀雄、瀬山義文、北野英明、平田敏夫■作画技術／沢井裕之■原画／斎藤　博、彦根範夫、赤堀幹治、上口照人、正延宏三、林　政行、内田有紀彦、坂口尚三、石井元明■動画／沼本清海、進藤満尾、杉野昭夫、良知由敬、上梨壹也、神宮　慧、小川隆雄、猿山二郎、西村　宏、溝山憲司、木内真文、新田雅利、牛越和夫、川端　宏、荒木伸吾、金山昭博、白畠豊彦、新田敏夫、内海武雄、若林常夫、三浦晃志、樋口雅一、岡崎邦彦、山田和夫■美術／伊藤信治、八村博也、阿部幸次、吉原一輔、大野静子■背景／鈴木森繁、大脇章子、平林　茂、片岡淳子、太中正子、鈴彭いそ、田島和加子、渡辺　毅、水谷　昇、田口一夫、石井　顕、渡部　孝、渡辺英博、中橋　進■トレス／鶴田淑子、田口和子、西牧道子ほか■彩色／松本双葉、福永雅子、大石悦子ほか■特殊技術／安田隆亘、橋爪朋二ほか■技術（撮影と同義）／清水達正、三沢勝治、原屋楯男、大岩久剛、島　敏之、高橋　武、辻本幸七■編集／古川雅士、島田羨子、尾形治敏■音楽／冨田　勲■演奏／森田吾一■音響／田代敦巳、明田川　進、内田かほる■録音、効果／岩田広一■資料／野崎欣宏、清水武彦■動物監修／小原秀雄■製作／虫プロダクション■声の出演　レオ（太田淑子）　マンディ（勝田　久）　ココ（田村錦人）　トミー（明石　一）　ライヤ（松尾佳子）　パンジャ（緑川　稔）

NO. 33

つるのおんがえし

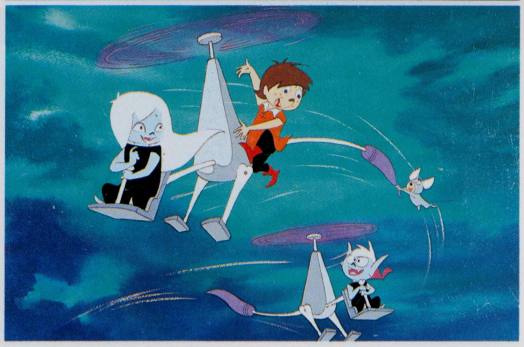


66年7月31日（日）東宝系封切　17分
併映作品／フランケンシュタインの怪獣　サンダ対ガイラ、ジャングル大帝

【内容・解説】有名な民話の人形アニメ化。学研映画局製作の教育映画。第20回毎日映画コンクール教育文化映画賞など、多数の映画賞を受賞。

製作／原　正次■製作担当／森下博美■脚本／神保まつえ■演出／渡辺和彦■人形／佐々木　章■人形アニメーター／秋山純子、和田京子■装置／中川涼■撮影／平井　寛、阿部行雄■効果／園田芳竜■録音／アオイスタジオ■企画／日本勧業銀行■製作／学研映画局■声の出演　（増山江威子）（内村軍一）　（加藤玉枝）　（内山森彦）　（山本喜代子）　（芳川和子）

NO.
34
少年ジャックと魔法使い



67年3月19日（日）東映系封切　1時間20分
併映作品／サイボーグ009　怪獣戦争、マグマ大使、たぬきさん大当り（東映まんがまつり）

〔**あらすじ**〕森でヘリコプターに乗った少女キキに会った、いたずら者の少年ジャックは、ネズミのチュウ公とともに悪魔の城へ連れこまれる。そこには〝悪魔製造機〟で子どもたちを子悪魔に変えてしまう魔女グレンデルがいた。悪魔の子キキは逃げだしたジャックを捕らえるのに失敗、空から墜落したところをジャックに介抱される。ジャックは悪魔にされたチュウ公を救うため、イヌのプー公たちと再度悪魔の城に向かい、グレンデルに立ち向かう。
〔**解説**〕東映動画設立10周年記念作品。中世英国の叙事詩「ベオウルフ」を下敷きにしたオリジナルストーリーで、製作段階のタイトルは「不思議な世界の大冒険」であった。全編に西洋的な怪奇色が漂い、とくに魔女の国に入る前後の描き分けなど色彩設計と美術が見事。ニューヨークでモダンアートを学んできた小山礼司が健闘を見せている。音楽の宇野誠一郎は、この作品で毎日映画コンクールの音楽章を受賞。アニメ作品の音楽が受賞したのは初めてである。

製作／大川　博■企画／関　政次郎、茂呂清一、有賀　健■脚本／関沢新一、高久　進■演出（監督と同義）／藪下泰次■演出助手／村山鎮雄、葛西　治■作画監督／大工原　章■原画／古沢秀雄、小田克也、森　英樹、平川謹之介、竹内留吉、金山通弘、木野達児、松原明徳■動画／斎藤　智、藤本芳弘、笠井晴子、花田玲子、篠原征子、小林敏明、飯田銈一、斎藤瑛子、柴田圭子、白石基子、阿久津文雄、浅田清隆、富永　勤、正井　融、佐々木　章、小川明弘、堀池義治、田村真也、草間真之介、長沼寿美子■美術／小山礼司■背景／杉本英子、遠藤重義、片倉和子、小林七郎■仕上検査／新納三郎、新開甫■撮影／菅原英明■編集／千蔵　豊■音楽／宇野誠一郎■挿入歌　作詞／井上ひさし、山元護久　作曲／宇野誠一郎　唄／中村メイコ、黒柳徹子、熊倉一雄、大竹　宏、水垣洋子、ボーカルショップ、ボーチェアンジェリカ■録音／石井幸夫■音響効果／大平紀義■製作／東映動画■声の出演　ジャック、キキー（中村メイコ）　シバリ（久里千春）　ネズミ（黒柳徹子）　子熊（熊倉一雄）　キツネ（大竹　宏）　子犬（水垣洋子）　グレンデル（山岡久乃）　子悪魔Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅ、Ｆ（伊藤牧子、湯浅　実、中川謙二、山本喜代子、芳川和子）（八奈見乗児）（野沢雅子）（山本圭子）（増岡　弘）（栗　葉子）（北川真理）（山岸比呂美）（近藤高子）（三十人会）

NO.
35
サイボーグ009 怪獣戦争

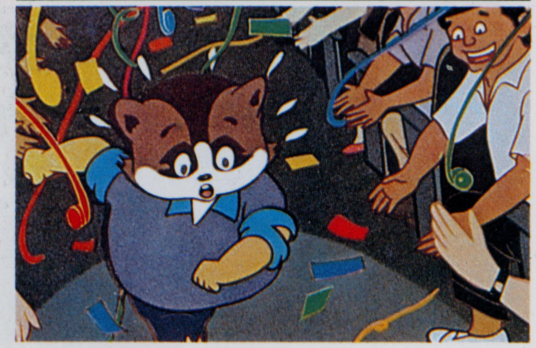


67年3月19日（日）東映系封切　1時間
併映作品／少年ジャックと魔法使い、マグマ大使、たぬきさん大当り（東映まんがまつり）

〔**あらすじ**〕世界中を荒し回る怪獣プレシオザウルスの陰に、死の商人・ブラックゴーストの存在を感じたギルモア博士は、9人のサイボーグに集合を命じた。9人は新鋭艦ドルフィン号で太平洋グルガ島近海に向かうが、艦には怪獣に両親を殺されたという美少女ヘレナも乗っていた。怪獣を追って海底洞窟に侵入したサイボーグたちをブラックゴーストが狙う。ジョーを襲うサイボーグ0011プラス・マイナス。そしてスパイサイボーグ0010の正体とは……。
〔**解説**〕前作「サイボーグ009」の好評により製作された続編で、ほぼ同じスタッフが参加している。内容は、原作の「暗殺者編」「ミュートスサイボーグ編」「地底帝国〝ヨミ〟編」らをもとに、怪獣ブームを意識した要素も加えて構成。本編中には、「レインボー戦隊ロビン」のキャラたちがカラーで出演する遊びのカットもある。木村圭市郎の小気味よいアクション作画、活劇のなかに叙情的なシーンをうまくとり入れた芹川有吾の演出も成功している。

原作／石森章太郎■製作／大川　博■企画／関　政次郎、平沢　明、旗野義文■製作進行／堤　四四三■脚色／飯島　敬、芹川有吾、白川大作■演出（監督と同義）／芹川有吾■演出助手／宮崎一哉■作画監督／木村圭一郎■原画／若林哲弘、高橋信也、上村栄司、大橋　学■動画／桜井　勇、玉沢　武、榎本有也、白川忠志、鹿島恒保、平村文男、山田一広、玉沢君子、岩塚美子、谷口公子■美術／福本智雄■背景／辻　忠直、牧野光成、小林七郎■色彩設計／西山英子■仕上検査／小椋正豊、西元敦子■ゼログラフィ／松本寿夫■トレース／谷口恭子、市村和子■彩色／関口雅子、高橋永江■特殊効果／林　富喜江、岡田良明■撮影／池田重好■編集／千蔵　豊■音楽／小杉太一郎■主題歌　作詞／漆原昌久　作曲／小杉太一郎　唄／マイスター・ジンガー■録音／小西　進■音響効果／大平紀義■記録／中垣禧代■現像／東映化学工業ＫＫ■製作／東映動画■声の出演　００９（太田博之）　００１（島山京子）　００２（石原　良）　００３（ジュディ・オング）　００４（大竹　宏）　００５（増岡　弘）　００６（藤村有弘）　００７（曽我町子）　００８（内海賢二）　ギルモア博士（八奈見乗児）　ブラック・ゴースト（山内雅人）　ヘレナ（市原悦子）ほか

NO.
36
たぬきさん大当り

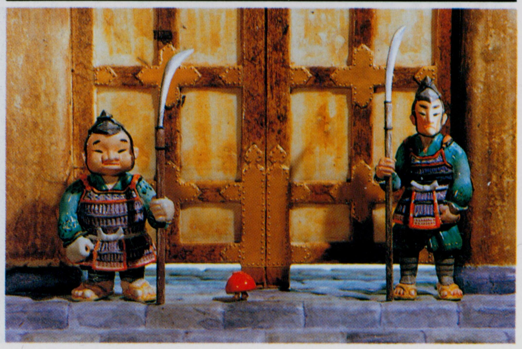


67年3月19日（日）東映系封切　15分
併映作品／少年ジャックと魔法使い、サイボーグ009　怪獣戦争、マグマ大使（東映まんがまつり）

〔**あらすじ**〕お金のないたぬきさんは、大家さんに文句をいわれ、家賃を払うため働くことにするが、どうもうまくいかない。しょんぼりと町を歩いていると、ダンス・コンテストの看板が目についた。会場でダンスを見ているうちズボンのおしりについたチョコレートをアリがかじりはじめ、痛がって暴れる。ところがいつしかマンボの音楽にのつてステージへと上がったたぬきさんは、その身振りが大受けで、みごと入賞、トロフィーと賞金10万円をもらったのだった。
〔**解説**〕輸出用作品の制作を、設立当時からの目標としていた東映動画が、その検討のため、日本へ映画研究にきていたアメリカの青年ジョージ・M・リードを構成、演出に迎えて作った短編。日本の風俗描写などがカルチュアギャップ丸出しで、内容もきわめて評価が低い。そのため一般公開は8年後と遅く、「少年ジャックと魔法使い」と併映された。

企画／山本早苗■進行／山本寛己■構成／ジョージ・Ｍ・リード■演出（監督と同義）／ジョージ・Ｍ・リード、熊川正雄■原画／熊川正雄■動画／山室正男■背景／六郷僚一■撮影／佐倉紀行■音楽／服部公一■録音／森　武■製作／東映動画■声の出演　狸（富士山竜）　大家（沢　彰謙）　司会者（轟　謙二）　百姓、酒屋、おじさん（福知悟郎）　蟻のおばさん（山本　緑）　蟻のおかあさん（田中知子）　委員（三升家小勝）

NO.
37
一寸法師

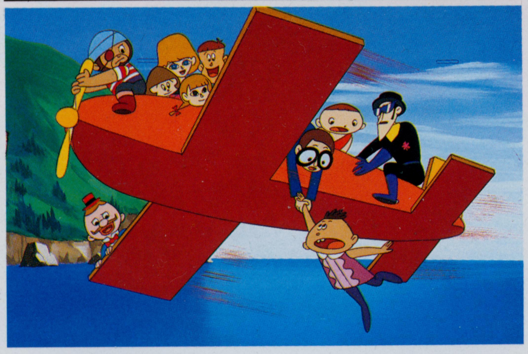


67年3月25日（土）日活系封切　14分
併映作品／陽のあたる坂道、私は泣かない

【**内容・解説**】東京中央人形劇製作の人形映画。有名な日本民話の人形アニメ化。第14回キネマ旬報文化映画ベストテン10位。

企画／石川孝寿、庄司　洵■脚本、監督／高橋克雄■監督助手／野田　実、箱根妙子■人形／上田悌三■アニメーション／那須誠代■装置／飯沼佐和子■美術助手／吉川寿々子■音楽／菊川迪夫■録音／銀座スタジオ■現像／東洋現像所■製作／東京中央人形劇場■声の出演　お話（桑山正一）

NO. 38 ひょっこりひょうたん島



67年7月21日（金）東映系封切　1時間1分
併映作品／魔法使いサリー、黄金バット、キャプテンウルトラ

〔あらすじ〕火山の噴火で本土から離れたひょうたん岬は、ひょうたん島となって流れだした。住民は、ハイキングにきていたサンデー先生と子どもたち、パラシュートで降りてきたダンディ、いかだで上陸したトラヒゲ、テレビから押しだされた大統領ドン・ガバチョたち。ある日島は、人間を憎む犬の国・ブルドキアにぶつかり、戦争になってしまう。誇り高いピッツ国防長官の率いる犬の軍に、交渉に向かったガバチョは捕らえられ、銃殺刑をいい渡された。
〔解説〕原作は、NHKで人気を博したひとみ座の人形劇である。テレビの人気番組を単純に劇場化した安易な企画だが、3次元のものを2次元に置きかえたため、どうしても平板な印象の画面構成となり、完成度が高いとはいいにくい。演出の藪下泰次は、日動以来かずかずの作品を手がけ、東映動画においても長編のメイン演出家であったが、この作品を最後に東映動画を辞職、専門学校の講師となって後進の指導にあたったが、惜しくも77年に鬼籍の人となった。

原作、脚本／井上ひさし、山元護久（NHKTV番組〝ひょっこりひょうたん島〟より）■製作／大川　博■企画／関　政次郎、浦田郁也、旗野義文■製作進行／久保田弘男■演出（監督と同義）／藪下泰次■演出助手／蕪木登喜司■キャラクター原案、監修／片岡　昌（ひとみ座）■作画監督／喜多真佐武■原画／細田暉夫、国保　誠、林　正史、品川丈夫、若林哲弘、佐藤秀則、堀田　誠、鈴木欽一郎■動画／前田英美、広田　全、小林康男、定本哲也、井上等、明珍秀子、中山敦子、芝山　栄、丹治道雄、小曽根　巴■美術／千葉秀雄■背景／牧野光成、山本敏明、渡辺俊児■色彩設計／遠藤重義■仕上検査／西元敦子、小椋正豊■トレース／谷口恭子、坂野園江■彩色／関口雅子、加々宮喜美代■特殊効果／林　富喜江、岡田良明■撮影／平尾三喜■編集／千蔵　豊■音楽／宇野誠一郎■OP「ひょっこりひょうたん島の歌」　作詩／井上ひさし、山元護久　作曲／宇野誠一郎　歌／前川陽子■録音／石井幸夫■音響効果／大平紀義■記録／前野美代子■製作／東映動画■声の出演　博士（中山千夏）（東宝）　キッドテケ（増山江威子）　チャッピ（江美京子）　ダンプ（伊藤牧子）　ライオン（滝口順平）　サンデー先生（楠トシエ）　ダンディ（小林恭治）　トラヒゲ（熊倉一雄）　ドン・ガバチョ（藤村有弘）　ピッツ国防長官（山崎　唯）　ブル元帥（武田国久）　ダックス刑事（雨森雅司）　ノラ（和久井節緒）ほか

NO. 39~40 夏休み 東映まんがまつり



〔解説〕〝東映まんがまつり〟のネーミングが、ポスターに登場するのはこのころから。新作劇場アニメ1本に、テレビアニメ作品数本という〝まんがまつり〟の初期パターンが、ここで確立したといっていいだろう。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'67.7.21㊎	ひょっこりひょうたん島	No.38参照				
	魔法使いサリー	45分	井石　悟人 後藤　陽	新田　義方 池田　宏	古沢日出夫 羽根　章悦	横井　三郎 山崎　誠
		24話「謎の幽霊館」、26話「魔法の風船旅行」の編集版				
	黄金バット	25分	島内　三秀	若林　忠雄	森川　信英	草野和郎
		4話「危機一髪」を上映				
	＊実写併映作品：「キャプテンウルトラ」					

NO. 41 アンデルセン物語

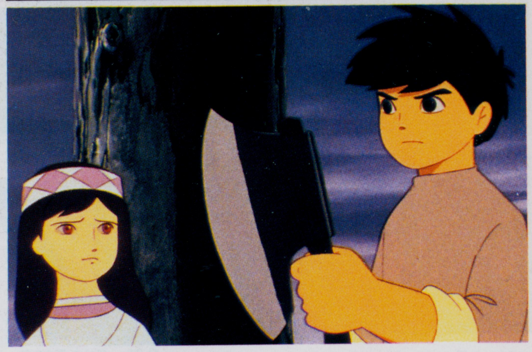


68年3月19日（火）東映系封切　1時間20分
併映作品／アラビアンナイト　シンドバッドの冒険（リバイバル）、怪獣王子（東映こどもまつり）

［あらすじ］人に物語を語ってきかせるのが好きな靴屋の息子・ハンスは、町の劇場で公演される王立劇場のオペラが見たくてしかたがない。そんなとき彼の家に眠りの精オーレおじさんがやってきて、ハンスの父に靴をなおしてもらった。ハンスの父は、クツをなおした謝礼にアラビア革をもらった。これを使えば今度開かれる〝赤い靴コンクール〟に参加することができるのだ。オーレおじさんは、その革で作った靴は、はく人の心まで動くというのだった。
［解説］最後にハンスは物語の才能を認められ、それを伸ばすためにコペンハーゲンに旅立つ。彼こそのちに多くの童話を残す童話作家H・C・アンデルセンであり、この作品は彼の少年時時代の、代表作である「赤い靴」「おやゆび姫」「マッチ売りの少女」などを交えて描いたもの。矢吹公郎が、彼の伝記のなかの「私の人生は一編の童話であった」という言葉に出会ったのがきっかけで、この作品の原案を作った。そのセリフは、そのままラストタイトルを飾っている。

製作／大川　博■企画／関　政次郎、茂呂清一、有賀　健■製作進行／古沢義治■脚本／井上ひさし、山元護久■演出（監督と同義）／矢吹公郎■演出助手／及部保雄、佐々木勝利■作画監督／大工原　章■原画／竹内留吉、小田克也、金山通弘、森　英樹、木野達児、松原明徳、平川　智、平川謹之介■動画／小林敏明、藤本芳弘、小川明弘、笠井晴子、飯田銈一、富永　勤、斎藤瑛子、花田玲子、柴田圭子、田村真也、篠原征子、阿久津文雄、浅田清隆、堀池義治、正井　融、草間真之介、佐々木　章■美術／小山礼司■背景／小林七郎、池田　準、西山英子■色彩設計／辻　忠直■検査／小椋正豊、西元敦子■調色／谷口洋平■トレース／植木知子、谷口恭子■撮影／林　昭夫、白根基万■編集／千蔵　豊■音楽／宇野誠一郎■主題歌　作詞／井上ひさし、山元護久　作曲／宇野誠一郎　歌／高島忠夫、藤田淑子、鈴木やすし、久里千春、ボーカルショップ■録音／神原広巳■音響効果／松下喜郎■記録／河島利子■製作／東映動画■声の出演　オーレおじさん（高島忠夫）（東宝）　ハンス（藤田淑子）　マッチ売りの少女エリサ（杉山佳寿子）　赤い靴の少女カレン（増山江威子）　ゴロ（鈴木やすし）　ブル（三波伸介）　ミミ（三輪勝恵）　ケケ（久里千春）　町長（玉川良一）　地方監督官（藤村有弘）　ハンスの父（富田耕吉）　ハンスの母（平井道子）　ハインリッヒ（永井一郎）　靴屋（ボーカルショップ）　子鼠（岡田修一、児島みゆき、滝上秀子）

NO. 42 太陽の王子 ホルスの大冒険



68年7月21日（日）東映系封切　1時間22分
併映作品／ゲゲゲの鬼太郎、魔法使いサリー、ウルトラセブン（東映まんがパレード）

〔あらすじ〕岩男のモーグから〝太陽の剣〟を授かった少年ホルスは、悪魔グルンワルドの誘いを断り、フレップたちの村に落ち着いた。長年村人を苦しめていたグルンワルドの手下の大カマスを単身退治したホルスは、一躍英雄になる。さらに、怒った悪魔が村を襲わせた狼の群れも、ホルスと村人たちの協力で退けられた。翌日、銀色の狼を追ってきたホルスは、水辺で謎の美少女ヒルダと出会う。だが、彼女はグルンワルドの妹であった……。
〔解説〕アイヌ・ユカルを原案とする深沢一夫の戯曲「チキサニの太陽」を、北欧に舞台を変えてアニメ化。演出の高畑勲のもと、人間の内面が抱える善と悪の葛藤、団結の尊さなどが描きだされている。同時に、従来の東映長編漫画映画とは趣を異にする、笑いのほとんどない作品にもなった。スケジュールやコストの問題から何回も制作が中断されたが、スタッフの熱意によって完成。興業的には失敗したが、後年広いファンの支持を受けることとなった。

■製作／大川　博■企画／関　政次郎、相野田　悟、原　徹、齋藤　侑■脚本／深沢一夫■演出（監督と同義）／高畑　勲■演出助手／竹田　満、笠井由勝■場面設計／宮崎　駿■作画監督／大塚康生■原画／森　康二、奥山玲子、小田部羊一、宮崎　駿、大田朱実、菊池貞雄、喜多真佐武■動画／生野徹太、堰合　昇、吉田茂承、相磯嘉男、山下恭子、坂野隆雄、薄田嘉信、坂野勝子、黒澤隆夫、阿部　隆、的場茂夫、池原昭治、服部照夫、角田紘一、村松錦三郎、石山毬緒、長沼寿美子、山田みよ■美術／浦田又治■背景／土田　勇、井岡雅宏、内川文広■検査／新納三郎■調色／谷口洋平■撮影／吉村次郎、片山幸男■編集／千蔵　豊■音楽／間宮芳生■OP「ホルスのうた」作詞／深沢一夫　作曲／間宮芳生　合唱／調布少年少女合唱隊、日本合唱協会　■録音／神原広巳■製作／東映動画■声の出演　グルンワルド（平幹二郎）　ヒルダ（市原悦子）　ガンコじいさん（東野英治郎）　村長（三島雅夫）　ドラーゴ（永田　靖）　ホルス（大方斐紗子）　村人B（神山　寛）　ホルスの父、トト（横森　久）　チャハル（杉山徳子）　モーグ（横内　正）　ピリア（赤沢亜沙子）　若い女（阿部百合子）　村人A（立花一男）　ルサン（津坂匡章）　村の女（檜よしえ）　マウニ（水垣洋子）　チロ（小原乃梨子）　コロ（朝井ゆかり）　フレップ、ポトム（堀　絢子）

NO. 43~44 夏休み 東映まんがパレード



〔解説〕人気の特撮テレビシリーズ「ウルトラセブン」では、ベル星人の登場する18話「空間X脱出」を上映した。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'68. 7 .21(日)	太陽の王子ホルスの大冒険	No.42参照				
	ゲゲゲの鬼太郎	44分	辻　真先	設楽　博	田島　実	山崎　誠
		5話、6話「大海獣(前・後篇)」の編集版				
	魔法使いサリー	24分	辻　真先	設楽　博	小田部羊一 奥山　玲子	山崎　誠
		77話「小さな魔法使い」を上映				
	＊実写併映作品：「ウルトラセブン」					

NO. 45 海ひこ山ひこ



68年8月1日（木）東宝系封切　18分
併映作品／怪獣総進撃、海底軍艦

【内容・解説】有名な日本民話の人形アニメ化、学研映画局製作の教育映画。第15回教育映画祭最高賞などを受賞している。

製作／原　正次■企画／石川茂樹■製作担当、脚本／神保まつえ■演出(監督と同義)／渡辺和彦■人形／佐々木　章■人形アニメーション／和田京子、見米　豊、尾崎　良、関口正子■美術／上田悌三、中村貞雄■撮影／平井　寛、阿部行雄■音楽／三善　晃■録音／アオイスタジオ■現像／東洋現像所■企画、提供／日本勧業銀行■製作／学研映画局■声の出演（清水マリ）（大山のぶ子）（増山江威子）（田上和枝）（家弓家正）ほか

NO. 46 殺生石(九尾の狐と飛丸)

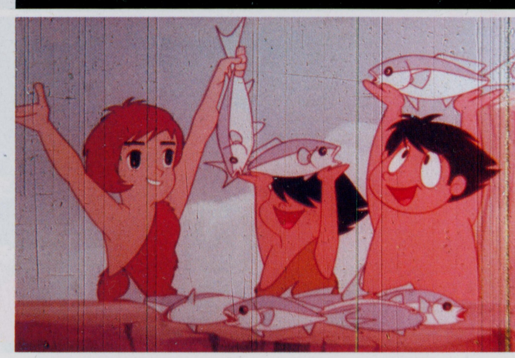


68年10月19日（土）大映系封切　1時間21分
併映作品／母と子の交通教室、日本人ここに在り　南北アメリカ大陸縦断

〔あらすじ〕平安時代の末。山奥に住む純真な少女・玉藻は、中国から飛来した九尾の狐の化生だった。魔王に操られて上洛した玉藻は、その美貌で左大臣忠長に取り入り、世を乱す。一方、幼なじみの飛丸は京の僧・白雲に拾われた。今も飛丸を想う玉藻だが、魔王の最後の命令で、日本中の仏像をつぶそうとする。炎上する寺と運命をともにする白雲。飛丸は魔王を破るが、狐に戻った玉藻は〝殺生石〟に変えられる。飛丸はいつまでも、石の傍を離れなかった。
〔解説〕絵巻調の画面と、丁寧な色トレスを多用した日本動画製作の長編。製作者は、富士重工監査役と日本動画KK代表取締役を兼ねていた中島源太郎で、山本富士子主演による同名の実写映画も提案されていたという。脚本は、劇映画のベテラン鈴木英夫と増村保造の両監督の協力で、第7稿まで書き改められた。物語は、岡本綺堂の小説「玉藻の前」と栃木県那須高原の〝殺生石〟伝説を中心に構成。活劇的な要素ももつ意欲作だが、興業的には低調に終わった。

原作／岡本綺堂（玉藻の前より）■製作／中島源太郎■製作主任／千田　隆■進行主任／加藤米三郎■進行／上野寿夫、佐々木光雄、長谷美千代、長田千鶴子、大場伊紘■構成／鈴木英夫、増村保造■脚本／吉岡道夫■演出（監督と同義）／八木晋一■演出助手／藤　巴博■作画監督、キャラクター／杉山　卓■作画主任／西谷克和、永沢　詢■動画／木村光雄、福田　皖、倉橋孝治、波多正美、彦根範夫、月川秀茂、山岡洋司、関　修一、横井千鶴子、村田保之、神　寿一、岡野正明、竹内大三、白石基子■美術監督、色彩設計／影山　勇■背景／小関俊之、伊藤雅人、鈴木勝久、山本善之、襟立智子、井出智子、大月　宏、伊藤主計■検査／中川圭三、武田　昭、上山憲二■トレス／一色タエ、田村政江、江川範子■彩色／吉田光子■特殊効果／内山久美子■撮影監督／岸本政由■撮影／柳田久次郎、池田仁男■編集／矢倉沢　始■音楽／池野　成■録音／吉田庄太郎■効果／御法川清一■製作／日本動画KK■声の出演　玉藻（東　恵美子）　飛丸（内山彰夫）　忠長（小沢忠臣）　頼道（大塚国夫）　高虎（溝井哲夫）　泰成（森塚　敏）　佐平治（成瀬昌彦）　白雲（弥富光夫）　千草（丹羽たかね）　鎮西（平田　守）　魔王（中台祥浩）　ナレーター（中田浩二）ほか

NO. 47 人のくらしの百万年



68年12月19日（木）東映系封切　18分
併映作品／ガンマ第3号宇宙大作戦、ピノキオの宇宙大冒険、河童の三平　妖怪大作戦（東映ちびっ子まつり）

【あらすじ】必要なときだけ食物をとっていた太古の人々。やがて状況に応じて食料を貯蔵し、植物を育て、動物を飼う者が現れた。各土地での産物が決定されて村ができると、お互いの利益のための物々交換の習慣が定着、交渉の複雑化につれ、何とでも交換できる共通のものとして貨幣が生まれた。同じ価値観で結ばれた人々は、大勢でいると大きな仕事ができ、大きな買物ができることに気づく。現在の文明も、大昔からの人々の知恵と努力の貯蓄の結晶なのだ。
【解説】貯蓄増強中央委員会の企画したPR映画作品。太古からの人間の歴史を追いながら、物を蓄え、殖やすことの大切さを強調している。藪下泰次の東映動画退社後、最初の演出作品である。作画監督の高橋信也は「魔法使いサリー」とかけもちで参加。そのためか、美形の男の子の顔などに絵柄の影響が現れている。富田勲の希望に満ちたテーマ音楽も効果的で、少年たちが宇宙旅行に出発する未来図を描くラストシーンを盛りあげている。

脚本／村山節子■演出（監督と同義）／藪下泰次■作画監督／高橋信也■美術／横井三郎■音楽／富田　勲■企画／貯蓄増強中央委員会（■アニメーション制作／東映動画）■製作／東映商事■声の出演
解説（大沢嘉子）　※（）内は資料より補充

'69〜70 昭和44〜45年

'69年春に公開された「長靴をはいた猫」は、前年の「ホルス」とほぼ同じスタッフの手になるものであったが、「ホルス」で蓄えられた力を一気に放出した、東映長編漫画映画史上最高の出来栄えとなった。興業的にも大ヒットし、'72年、'76年と二つの続編が作られており、作画監督森康二の生んだ主人公のネコ・ペロは東映動画のシンボルマークともなって親しまれている。また、前年4月に退社した大塚康生の最後の作品となった。なおこの年から「東映まんがまつり」の呼称が定着、現在に至っている。

一方、TVでは41年からはじまった「ウルトラQ」「ウルトラマン」によって怪獣ブームが巻き起こり、必然的にTVアニメは縮小を余儀なくされ、アニメキャラクターの商品化権を有力な収入源にしていた製作会社は、一様に苦しい時期を迎えていた。

6月、虫プロがアニメラマと銘打った大人のための2時間8分の大作「千夜一夜物語」を発表する。これは洋画の配給会社ヘラルドが、輸出用に長編アニメを企画、怪獣ブームの中でTVアニメ制作に行き詰まっていた虫プロが制作にあたったもの。これが大ヒットし、柳の下のドジョウを狙ってか、半年後に「㊙劇画・浮世絵千夜一夜」という怪作（製作レオプロ）が東映系で公開されたりもした。

夏「東映まんがまつり」で「空飛ぶゆうれい船」公開。一方、東宝では特撮映画「緯度0大作戦」の併映として、当時TVでスポーツ根性ものブームを呼んでいた「巨人の星」を1時間28分の長編に再編集して公開。これが成功して、この方式は、以後「チャンピオンまつり」として定着。「巨人の星」はシリーズ化され、2年間に4本作られ、また女の子向けには、やはりTVの再編集もの「アタックNo.1」が4本作られた。こうして、子どもたちにとっては春、夏の休みに東映・東宝で子ども向けの映画まつりが競合するという夢の時代を迎えた。しかし、爆発的に普及するTVに押され、映画の観客人口は減少し続け、映画界は凋落の一途をたどらざるを得なかった。

「千夜一夜物語」の大ヒットで、ヘラルド・虫プロは第二作の製作に取りかかった。'70年9月に公開した「クレオパトラ」がそれであるが、これは評判も芳しくなく、また興業的にも前作に及ばず、増加した製作費をカバーするに至らなかった。

NO. 48 長靴をはいた猫

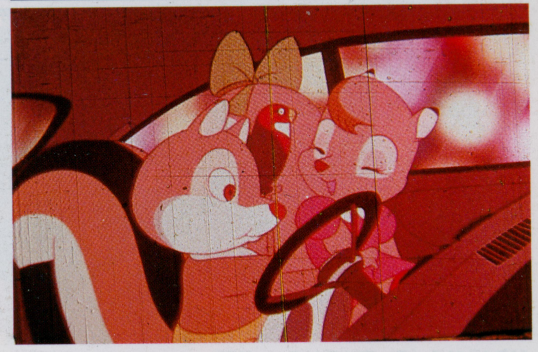


69年3月18日（火）東映系封切　1時間20分
併映作品／怪物くん、ひみつのアッコちゃん、チャコとケンちゃん、ひとりぼっち（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕農家の気のやさしい3男坊・ピエールは、長靴をはいた猫・ペロと友だちになる。ネズミを助けた罪でネコボスの手下の殺し屋に追われるペロと、父の死後ふたりの兄にじゃけんに扱われていたピエールは、ともに旅に出た。知恵の回るペロは、ピエールをカラバ公爵という貴族に仕立て、魔王ルシファとの結婚を嫌うお城の美しいローザ姫の婿候補にする。しかしルシファは満月の晩に姫をさらっていき、ペロと姫を想うピエールは魔王の城に向かう。
〔解説〕東映動画製作による傑作長編。重厚な作品「ホルス」を終えた作画、演出スタッフの解放感が、いい意味で反映されて演出の矢吹公郎のもとに個々の実力と創意が結集。脚本の井上、山元コンビによる各キャラのとぼけた魅力、宮崎駿による場面設定の奇抜なアイデア、浦田、土田両名の洗練された美術、そして森康二のシンプルで愛らしいキャラクターが作品の魅力を倍加させた。興業的にも成功で、以後猫のペロは東映動画のマスコットキャラとなった。

原作／シャルル・ペロー■製作／大川　博■企画／関　政次郎、有賀　健、渋谷幹雄■脚本／井上ひさし、山元護久■ギャグ監修／中原弓彦■演出（監督と同義）／矢吹公郎■演出助手／及部保雄、蕪木登喜司■作画監督／森　康二■原画／大塚康生、奥山玲子、菊池貞雄、小田部羊一、大田朱美、宮崎　駿、大工原　章■動画／堰合　昇、吉田茂承、斎藤　智、坂野隆雄、小林敏明、小川明弘、藤本芳弘、松原明徳、飯田鉎一、坂野勝子、田村真也、黒沢隆夫、浅田清隆、篠原征子、阿久津文雄、正井　融、池原昭治、堀池義治、服部照夫、角田紘一、草間真之介、長沼寿美子、山田みよ■美術／浦田又治、土田　勇■背景／内川文広、伊藤英治、牧野光成、城戸　求■特殊効果／平尾千秋■調色／谷口洋平■検査／新納三郎、森川桂士■撮影／平尾三喜、高梨洋一■編集／千蔵　豊■音楽／宇野誠一郎■OP「長靴をはいた猫」作詞／井上ひさし、山元護久　作曲／宇野川　進、水垣洋子、ボーカルショップ、トリオ・ボワン　コロムビア・レコード、朝日ソノラマ■録音／神原広巳■音響効果／大平紀義■記録／河島利子■声の出演　ペロ（石川　進）　鼠のチビ（水垣洋子）　殺し屋（水森亜土）　王様（益田喜頓）　鼠の首領（熊倉一雄）　ピエール（藤田淑子）　ローザ姫（榊原ルミ）　ダニエル（内海賢二）　殺し屋の首領（愛川欽也）　レーモン（八代駿）　魔王ルシファ（小池朝雄）ほか

NO. 49 ひとりぼっち



69年3月18日（火）東映系封切　25分
併映作品／長靴をはいた猫、怪物くん、ひみつのアッコちゃん、チャコとケンちゃん（東映まんがまつり）

【あらすじ】学校では口をきかず、通学のときはわざと危ない車道を歩くリスのケン。ひとりぼっちの部屋で、レーシングカーを衝突させては壊し続ける彼は、両親の過大な愛情と信頼にますます苛立つ。そんなとき、夢のなかでレーシングカーを運転していたケンは不思議な少女リス・ジュンと出会う。そして夢からさめたケンのところへ、ジュンは約束通り遊びにきた。ケンははじめて友だちといることの喜びを知る。しかし、彼女の姿はケンにしか見えないらしい。
【解説】トヨタ自動車の企画により東映動画が制作したPR映画。交通安全キャンペーンを目的としながらも、物語の中核は、親から過度の信頼を受けている子どもの精神的な圧迫感と、そこから生ずる二重人格性という、暗部を描いている点が異色。脚本の柴田夏余は、テレビ「ゲゲゲの鬼太郎」などでも社会派テーマのエピソードを数多く手がけており、その特徴はここにも表れている。作監は月岡貞夫だが、どこか「ねずみのよめいり」を思わせるものがある。

進行／佐藤哲雄■脚本／柴田夏余■演出（監督と同義）／高見義雄■演出助手／小湊洋市■作画監督／月岡貞夫■美術／伊藤信治■撮影／菅谷正昭■編集／花井正明■音楽／小林亜星■録音／小西　進■効果／大平紀義■現像／東映化学工業KK■記録／高野ヒサ子■製作／日本産業映画センター、東映動画■声の出演　ケン（清水マリ）　ジュン（水垣洋子）　パパ（石原　良）　ママ（増山江威子）　先生（永井一郎）　太陽（北川国彦）　（野田圭一）　（田の中　勇）　（坪井章子）　（小串容子）　（山口奈々）　（佐藤遙子）ほか

NO. 50~51 春休み 東映まんがまつり



〔解説〕傑作「長靴をはいた猫」を中心としたこのプログラムから、〝東映まんがまつり〟のネーミングが定着することになる。

同時上映の実写作品「チャコとケンちゃん」は、テレビ人気ホームコメディシリーズの一編。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'69.3.18(火)	長靴をはいた猫	No.48参照				
	怪物くん	24分	草川　隆 浪井　志摩	大隅　正秋 秦泉寺　博	乳井　紀夫 甲藤　征史	不詳
		22回Aパート「砂魔人をやっつけろ」、3回Bパート「怪物くんとハニワ怪神」の編集版				
	ひみつのアッコちゃん	24分	安藤　豊弘	高見　義雄	羽根　章悦	横井　三郎
		3話「サーカス団がやってきた」を上映				
	ひとりぼっち	No.49参照				
	＊実写併映作品「チャコとケンちゃん」					

NO. 52 千夜一夜物語



69年6月14日（土）日本ヘラルド映画配給　2時間8分

〔あらすじ〕水売りアルディンは、バグダッドの奴隷市場で売られていた美少女ミリアムに魅せられ、彼女をさらう。ふたりは愛し合うが、アルディンは殺人容疑で連れ去られ、傷心のミリアムは彼の子を産み落としてこの世を去る。一方脱獄したアルディンは40人の盗賊の富を奪い、シンドバッドと名を変えてかずかずの不思議な冒険を体験。15年後バグダッドに戻り、王となったアルディンは、ミリアムの面影のある少女ジャリスを娘とは知らず愛しはじめる。

〔解説〕虫プロの〝アニメラマ〟第1作。アニメラマとは、アニメーションのシネラマ化、ドラマとの結合という意味の新語である。当時、出版界でブームだった「千夜一夜物語」を素材に「ホルス」の深沢一夫が脚色。おとな向けの劇場アニメ作品第1作というので、話題作りのため主人公アルディン役の青島幸男をはじめ、多くの著名人を声の出演に起用した。また構成協力には大宅壮一、北杜夫、小松左京などの名が見え、この作品への意気込みがうかがわれる。

原作／河出書房刊〝千夜一夜物語〟より■総指揮／手塚治虫■製作／富岡厚司■脚本、構成／手塚治虫、深沢一夫、熊井宏之■構成協力／大宅壮一、北　杜夫、小松左京■監督／山本暎一■作画監督／宮本貞雄■原画／中村和子、赤堀幹治、金山明博、松山マヤ、渡辺佳子、朝戸澄子、進藤満尾、樋口雅一、牛越則与、佐々門信芳、鈴木正俊、上口照人、北野英明、波多正美、瀬山義文、出崎　統、平田敏夫、山本　繁、坂本雄作、月岡貞夫、杉井ギサブロー、正延宏三、村野守美、奥田誠治、杉山　卓、日本アニメーション・センター、杉野昭夫、森田浩光、小川隆夫、古沢日出夫■美術監督／やなせたかし■背景／阿部幸次、槻間八郎、渡部　孝、明石貞一、竹内俊英、宮本清司、阿土延子、鈴木森繁、八村博也、西田　稔■技術監督／山浦栄二■撮影監督／土屋旭■特殊撮影／水野　寛■編集／古川雅士■合成編集／伊藤　叡■音楽／富田　勲■挿入歌「アルディンのテーマ」演奏、歌／ヘルプフル・ソウル、フール・サンズ　レコード／日本ビクター、ワールドグループ■音響監督／田代敦巳（グループ・タック）■製作／虫プロダクション■声の出演　アルディン（青島幸男）　バドリー（芥川比呂志）　ミリアム、ジャリス（岸田今日子）（遠藤周作）（吉行淳之介）（北　杜夫）（筒井康隆）（小松左京）（大宅壮一）（佐賀　潜）（大森　実）（前田武彦）（野末陳平）（立川談志）（大橋巨泉）（スマイリー小原）（劇団〝雲〟）ほか

NO. 53 空飛ぶゆうれい船



69年7月20日（日）東映系封切　1時間

併映作品／飛びだす立体映画　赤影、ひみつのアッコちゃん、もーれつア太郎、ニホンザル　その群れと生活（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕人気清涼飲料水ボア・ジュースの輸入で有名な黒汐物産の輸送船が、最近次々に幽霊船の襲撃を受けていた。そんなとき、自動車事故を起こした黒汐会長夫妻を助けた嵐山隼人少年は、担ぎこんだ館で幽霊船長と出会う。翌日、幽霊船の使いと名乗る巨大ロボット・ゴーレムが都心の破壊を開始。だが、隼人は黒汐邸の地下にその基地を発見し、黒幕が黒汐であること、背後にはボアという謎の存在があることを知る。幽霊船の真の目的とは何か？

〔解説〕前年の「ホルス」の影響を受け、アンチ子ども向け作品の傾向をもって作られたB作長編。石森章太郎の原作「幽霊船」をもとに、池田宏が〝社会派〟的テーマを強調した演出を展開。しかしそのため、テレビ放送時には、スポンサーへの配慮からボア・ジュースCMのくだりがカットされる事件も起きた。全体の作画枚数は少ないが、小田部羊一らによって迫力ある画面が生みだされ、とくに宮崎駿が描いたゴーレム出現シーンは、のちにファンの話題をさらった。

原作／石森章太郎（コダマプレス刊〝幽霊船〟より）■製作／大川　博■企画／関　政次郎、茂呂清一、旗野義文■製作進行／古沢義治、岸本松司■脚本／辻　真先、池田　宏■演出（監督と同義）／池田　宏■演出助手／奥西　武、佐々木勝利■作画監督／小田部羊一■原画／奥山玲子、菊池貞雄、金山通弘、大田朱実、森　英樹、宮崎　駿、阿部　隆■動画／堰合　昇、相磯嘉雄、吉田茂承、松原明徳、坂野隆雄、薄田嘉信、笠井晴子、坂野勝子、斎藤瑛子、長谷川玲子、黒沢隆夫、篠原征子、池原昭治、的場茂夫、正井　融、村松錦三郎、角田紘一、服部照夫、石山毬緒、佐々木　章、長沼寿美子、山田みよ■美術／土田　勇■背景／伊藤英治、池田秀雄、城戸求■色彩設計／秦　秀信■仕上検査／小椋正豊、西元敦子■ゼログラフィ／松本寿夫■トレース／奥西紀美代、植木知子■調色／中込綾彦■彩色／中林伸子、小島博美■特殊効果／林　富喜江■撮影／片山幸男、武田　寛■編集／古村　均■音楽／小野崎孝輔■ED「隼人のテーマ」作詞／辻　真先　作曲／小野崎孝輔　歌／泉谷　広、ハニー・ナイツ■録音／波多野　勲■音響効果／大平紀義■現像／東映化学工業KK■記録／的場節代■声の出演　嵐山　隼人（野沢雅子）　黒汐会長（田中明夫）　同夫人（里見京子）　ルリ子（岡田由紀子）　嵐山（名古屋章）　幽霊船船長（納谷悟朗）　埴輪長官（里見京子）

NO. 54~55 夏休み 東映まんがまつり



〔解説〕「飛び出す冒険映画　赤影」は〝東映まんがまつり〟史上初の立体映画。入場者に赤影の仮面を模した立体メガネが配られ、本編中盛りあがる場面にさしかかると、赤影が立体メガネをかけるよう指示するといった具合いであった。劇場用オリジナル版として製作されたため、幻妖斎の死はテレビシリーズと違う描かれ方になった。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'69.7.20(日)	空飛ぶゆうれい船	No.53参照				
	ひみつのアッコちゃん	24分	三木瀬たかし	池田　宏	高橋　信也	山崎　誠
		9話「わたしのパパはどこ？」を上映				
	もーれつア太郎	35分	辻　真先	西沢　信孝 永樹　凡人	国保　誠 永樹　凡人	横井　三郎 下川　忠海
		3回Aパート「デコッ八のもーれつ子分」、同Bパート「男の中のもーれつ男」、7回Bパート「ア太郎のもーれつマチガイ」の編集版				
	＊実写併映作品「飛びだす冒険映画 赤影」、「ニホンザル　その群れと生活」					

NO. 56、58

東宝チャンピオンまつり・前史





〔**解説**〕12月20日の、このプログラムで〝東宝チャンピオンまつり〟のネーミングが初めて使われることになった。以後〝チャンピオンまつり〟は、長編特撮映画をメインに、数本のテレビ作品という構成で定着し、長編アニメ映画をメインにした〝東映まんがまつり〟と並んで、春、夏休みの子どもたちのお楽しみプログラムとなる。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督（原画）	美術
'69. 7 .26(土)	巨人の星	1時間28分	松岡　清治 佐脇　徹 辻　真先 斎藤　次郎	長浜　忠夫	楠部大吉郎	影山　勇
		「血ぞめの決勝戦」を中心としたエピソードの編集版				
	＊実写併映作品「緯度0大作戦」					
'69.12.20(日)	東宝チャンピオンまつり（第1回）					
	巨人の星 行け行け飛雄馬	1時間10分	長浜　忠夫 松岡　清治 佐脇　徹 斎藤　次郎 山崎　晴哉	長浜　忠夫	楠部大吉郎	影山　勇
		巨人軍に入団までのエピソードをまとめた編集版				
	＊実写併映作品「ゴジラ・ミニラ・ガバラ オール怪獣大進撃」、「コント55号 宇宙大冒険」					

NO. 57

㊙劇画・浮世絵千一夜



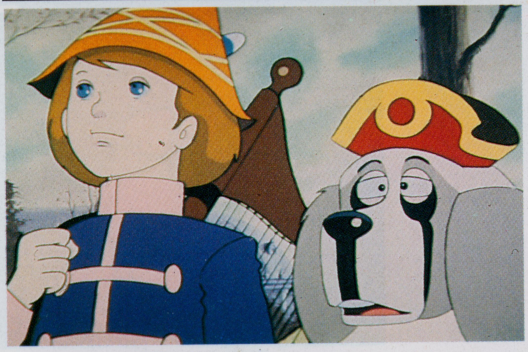
69年10月29日（水）東映系封切　1時間10分
併映作品／江戸川乱歩全集　恐怖奇形人間

［**あらすじ**］江戸の下町。長屋暮らしの浮世絵師・春斎は、隣の家の駆け落ち夫婦を覗きつつ、一心込めて秘画を描いた。しかし、この枕屏風の絵に描かれた2人は、毎夜抜けだして殺人を行うようになる。それを追うのは幻術を使う女同心のお流だった。
［**解説**］虫プロの「千一夜物語」の大ヒットを受けて、レオプロダクションが製作したポルノアニメーション。映倫審査を通ってからの公開中に、警視庁防犯部の警告により、ワイセツ箇所6場面をカットすることになった。

脚本、演出（監督と同義）／レオ・ニシムラ■原画監修／上野春楽■原画、動画／熊沢年男、小松原宏、村田秀男、金沢幸男■美術／勝又譲治■背景／赤保谷愛花■撮影／荒牧国繁、佐藤るみ子■編集／中島照雄■音楽／カナリ良則とファイブサンズ■録音／東音スタジオ■製作／レオプロダクション■声の出演　幻お流（滝かおる）　福助（大久保　伸）　梅の幻斎（妻木一平）　浮世絵師春斎（山田卓司）　重藤左次馬（野坂竜太）　春信（若山昌夫）　おたま（三浦由紀子）　江戸屋ゆき（原みちよ）　おなみ（藤原けい子）　おとよ（牟永君代）　仁吉（町田日出男）　江戸屋勘助（桂　太郎）　頓兵衛（秋山連作）

NO. 59

ちびっ子レミと名犬カピ



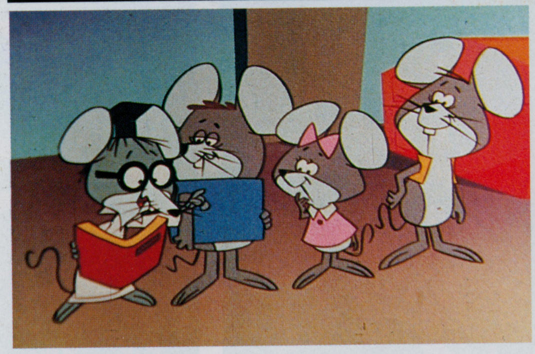
70年3月17日（月）東映系封切　1時間21分
併映作品／タイガーマスク、ひみつのアッコちゃん、チュウチュウバンバン（東映まんがまつり）

〔**あらすじ**〕シャバノン村のレミは、育ての母バルブランの夫ジェロームによって旅芸人ビタリスに売られた。レミと愛犬のカピは、サルのジョリクールや犬のゼルビノ、ドルチェら一座の仲間とともに苦しくも楽しい巡業の旅を続ける。しかし旅の途中で一座の仲間は次々と命を落とし、ビタリスも意地悪な警官に牢に入れられてしまう。ひとりぼっちになったレミは、富豪のミリガン夫人と娘のリーザに出会う。このミリガン夫人こそが、レミの実の母であった…。
〔**解説**〕エクトル・アンリー・マローの名作「家なき子」をもとにした東映動画の長編アニメ。ヨーロッパの風景を再現するために、モネやミレーなどの名画を美術に生かしている。また「家なき子」と改題されて、この作品の53分の短縮版が、'75年にまんが祭りで公開されている。

エクトル・マロー原作　〝家なき子〟より■製作／大川　博■企画／山梨　稔、伊藤企義、飯島　敬■進行／吉岡　修■脚本／瀬川昌治■演出（監督と同義）／芹川有吾■演出助手／勝田稔男、笠井由勝■作画監督／大工原　章■原画／森　康二、喜多真佐武、小田克也、木野達児、円山　智、小川明弘■動画／森　英樹、相磯嘉雄、小林敏明、笠井晴子、飯田鉎一、堰合　昇、山下恭子、坂野隆雄、坂野勝子、富永　勤、生野徹太、松原明徳、藤本芳弘、金山圭子、田村真也、黒沢隆夫、浅田清隆、服部照夫、阿久津文雄、池原昭治、草間真之介、阿部　隆、堀池義治、長沼寿美子、山田みよ■美術／福本智雄■背景／内川文広、伊藤英治、土田　勇■色彩設計／遠藤重義■検査／新納三郎■トレース／入江三帆子、松崎令子■調色／森田良一■彩色／宮本慶子、吉村和子■特殊効果／平尾千秋、林　富喜江■撮影／林　昭夫、池田重好■編集／千蔵　豊■音楽／木下忠司■ＯＰ「レミの歌」作詞／堀内道子　作曲／木下忠司　歌／フォンテーヌ・ハーモニー、市原悦子、朝井ゆかり、友竹正則■録音／神原広巳■声の出演　レミ（朝井ゆかり）　バルブラン（市原悦子）　ジェローム（富田耕生）　ミリガン夫人（馬淵晴子）　リーザ（桂　玲子）　ジェームズ（内海賢二）　ビタリス（三島雅夫）　カピ（フランキー堺）　ペペ（高橋和枝）　ジョリクール（久里千春）　ゼルビ（坪井章子）　ドルナエ（千々松幸子）　ベアトリーチェ（白石冬美）

NO. 60

チュウチュウバンバン



70年3月17日（月）東映系封切　25分
併映作品／ちびっ子レミと名犬カピ、タイガーマスク、ひみつのアッコちゃん（東映まんがまつり）

【**あらすじ**】なにやら人相の悪い男たちの住む家のガレージの下。そこではオーナードライバーに憧れる5匹のネズミが、ネコのドラゴローに邪魔されながらも自分たちの自動車を作ろうと一生懸命。夢は特別免許証の取得だ。ある日、実地訓練に階上の男たちの自動車にもぐりこみ、彼らが銀行ギャングであることを知った五匹。シート下に隠された盗金ごと、警察署まで自動車を運転していくネズミたちと、それを追うギャングたちとの珍レースがはじまる。
【**解説**】トヨタ自動車の企画による、交通安全キャンペーンをかねたPR映画。東映動画で合作を多く手がけた窪詔之が、バタくさいキャラクターを作りあげ、動きもリミテッド手法を積極的に生かしたメリハリのあるものに仕あげている。キャラが物にぶつかると、三角や丸など幾何学的な模様が浮かんでは消えるという表現や、実写の情景を効果的に挟む演出など、実験精神も豊富な佳作。なお、劇中には「ひとりぼっち」のケンも1カット友情出演する。

製作進行／豊島勝義■脚本／山元護久■演出（監督と同義）／矢吹公郎■演出助手／山吉康夫■作画監督／窪　詔之■作画／熊田　勇、吉田忠勝■美術／辻　忠直■背景／伊藤岩光、山口俊和■撮影／高橋宏固■編集／古村　均■録音／小西　進■音響効果／原　尚■記録／多野田文恵■企画／トヨタ自動車販売■製作／日本産業映画センター、東映動画■声の出演　ブン（滝口順平）　博士（松島みのり）　ドラゴロウ（大竹　宏）　バックミュラー（坂本新兵）

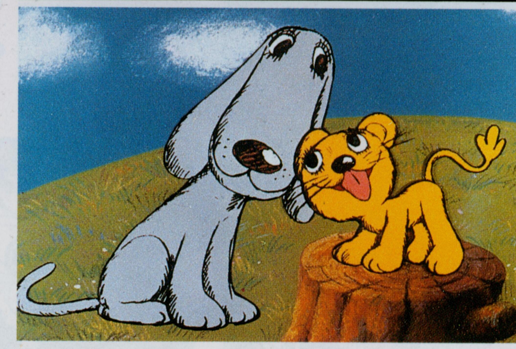
NO. 61~62 春休み 東映まんがまつり



〔解説〕「タイガーマスク」は、虎の穴からの第2の使者・野生のゴリラに育てられた獣人ゴリラマンとタイガーマスクとの試合を描いた9、10話の編集版。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'70.3.17(月)	ちびっ子レミと名犬カピ	No.59参照				
	タイガーマスク	47分	辻　真先 三芳　加也	矢吹　公郎 勝間田具治	森　利夫 村田　耕一	秦　秀信 浦田　又治
		9話「飢えたゴリラマン」、10話「肉弾メガトンおとし」の編集版				
	ひみつのアッコちゃん	24分	鈴樹三千夫	山本　寛巳	森　利夫	山崎　誠
	ばんざいペットくん	39話「バンザイ！ペット君」を上映				
	チュウチュウパンパン	No.60参照				

NO. 63 やさしいライオン



70年3月21日（土）東宝系封切　27分
併映作品／キングコング対ゴジラ（リバイバル）、巨人の星　大リーグボール、アタックNo.1（東宝チャンピオンまつり）

〔あらすじ〕ある動物園、孤児のライオンのブルブルは、牝犬のムクムクに育てられた。ムクムクは優しい母親だったが、ブルブルは〝ワン〟と鳴く、犬のようなライオンとして育ってしまった。月日は流れ、大人になったブルブルはサーカスに移され、そこの花形スターとなった。ある街に巡業中、ブルブルの耳にムクムクの子守歌が届いた。懐かしさのあまりブルブルは、オリを破って街へ飛びだした。そして、母親ムクムクのもとへ一心に走る……。

〔解説〕ラストは、再会した2匹が非情な警官隊によって銃殺されてしまうアンハッピーなものとなっている。虫プロが'70年に製作したミュージカルアニメ映画で、原作はやなせたかしの絵本。やなせ自身が演出をつとめている。姉が弟に物語を語ってきかせるという形をとっているが、姉弟の姿は登場しない。あたたか味のある画面作りと、ボニー・ジャックスの歌が印象的な秀作。第24回大藤賞など、多くの映画賞を受賞している。

原作、演出（監督と同義）／やなせたかし　フレーベル館版■製作／手塚治虫■製作担当／富岡厚司■補佐／下崎　闊■動画（原画および動画と同義）／赤堀幹治、中村和子、上口照人、金山明博、松山マヤ、渡辺佳子、内海武雄、山守博昭■背景／阿土延子、西村邦子、田辺めぐみ■トレス／島野昌子■彩色／阿部マリ子■ブラシ／橋爪朋二■撮影／森　昭彦■編集／松浦典良■音楽　作詞／やなせたかし　作曲／磯部　俶　編曲／寺島尚彦　演奏／寺島尚彦とリズムシャンソネット＋ストリングス　歌／ボニー・ジャックス、久里千春（ブルブルの子守唄）■音響／田代敦巳（ＴＡＣ）■効果／石田サウンドグループ■録音／東京スタジオセンター■現像／東洋現像所■企画協力／西北プロダクション■製作／虫プロダクション■声の出演　弟（久里千春）　姉（増山江威子）

NO. 64~65 春休み 東宝チャンピオンまつり





〔解説〕「巨人の星　大リーグボール」はテレビ版総集編の第3弾で、巨人軍に入団した飛雄馬が大リーグボール1号を開発、左門を打ちとるまでを描く。「アタックNo.1」はテレビシリーズ初期の中学編を編集したもの。リバイバルの「キングコング対ゴジラ」は'62年公開のオリジナルの短縮版が上映されたが、かなりひどいカットが加えられていた。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'70.3.21(土)	巨人の星 大リーグボール	1時間10分	松岡　清治 山崎　晴哉 伊東　恒久 辻　真先 さわきとおる 斎藤　次郎	長浜　忠夫	楠部大吉郎	影山　勇
		大リーグボール完成までのエピソードをまとめた編集版				
	アタックNo.1	1時間3分	田村多津夫 辻　真先 小沢　洋 出崎　哲	岡部　英二 黒川　文男	竹内　留吉	池田　準
	やさしいライオン	No.63参照				
	＊実写併映作品「キングコング対ゴジラ」(リバイバル)					

NO. 66 "いそっぷ"のおはなしより 牛とかえる、よくばった犬

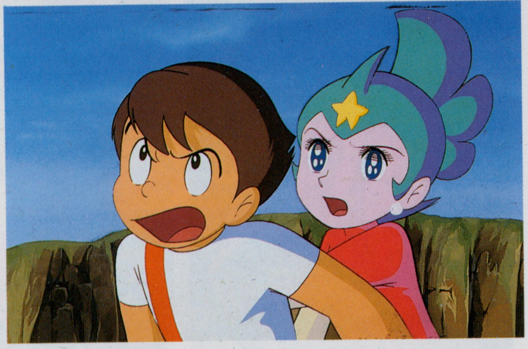


70年3月21日（土）大映系封切　12分
併映作品／ガメラ対大魔獣ジャイガー、透明剣士

【内容・解説】東京中央プロダクション製作の人形アニメ。「牛とかえる」と「よくばった犬」の2本立て。

企画／石川孝寿■脚本、演出（監督と同義）／高橋克雄■人形アニメーション／藤森誠代■美術／原　武、吉川寿々子■撮影／中野好偉■音楽／田中利光■製作／東京中央プロダクション■声の出演　（増山江威子）　（小原乃梨子）

NO.
67
海底3万マイル



70年7月19日（日）東映系封切　1時間
併映作品／タイガーマスク　ふく面リーグ戦、もーれつア太郎　ニャロメの子守歌、ひみつのアッコちゃん　涙の回転レシーブ、柔道一直線（東映まんがまつり）

［あらすじ］海底見学を楽しんだ帰り、イサムは火山島で少女エンジェルと出会った。そこへ突如火焔竜が出現。シースルー号で逃れたイサムとエンジェルは、一路海底王国アトラスへ向かう。エンジェルはアトラスの王女だった。大歓迎を受けるイサム。だが地上へ戻る途中、一行は地底国の王・マグマ7世に捕らえられる。彼は火焔竜を使って地上を支配しようと企んでいたのだ。なんとか脱出に成功したイサムとエンジェルは、海底王に地底王の野望を伝える。

［解説］東映動画の石森章太郎原作のＳＦ映画４作目。前作「空飛ぶゆうれい船」のような社会風刺やリアル指向はなく、ロマンチックな海洋ＳＦ作品となった。冒頭の火焔竜と戦闘機の戦闘シーンは大変に迫力あるものになっているが、他に同じくらいの見せ場がないのが残念。作画監督の奥多貞弘とは、奥山玲子、喜多真佐武、菊池貞雄、金山通弘の４人の合作ペンネームで、それぞれ主人公、敵役、魚類、アクションと仕事を分けて担当。

原作／石森章太郎■製作／大川　博■企画／山梨稔、茂呂清一、横山賢二■脚本／岡本克巳■演出（監督と同義）田宮　武■演出助手／宮崎一哉、笠井由勝■作画監督／奥多貞弘■原画／喜多真佐武、奥山玲子、菊池貞雄、金山通弘、小田克也、的場茂夫、森　英樹、角田紘一、木野達児、池原昭治、阿部隆■動画／生野徹太、山下恭子、相磯嘉雄、飯田銈一、円山　智、富永　勤、堰合　昇、笠井晴子、長谷川玲子、金山圭子、坂野勝子、斎藤瑛子、草間真之介、黒沢隆夫、松原明徳、田村真也、小林敏明、坂野隆雄、篠原征子、小川明弘、藤本芳弘、薄田嘉信、阿久津文雄、村松錦三郎、浅田清隆、堀田義治正井　融、服部照夫、石山毬緒、佐々木　章、長沼寿美子、山田みよ■美術／山崎　誠■背景／伊藤英治、伊藤岩光、海老沢一男、城戸　求■色彩設計／内川文広■仕上検査／小椋正豊、森田　博■トレース／植木知子、市村和子■撮影／高梨洋一、山田順弘■編集／花井正明■音楽／渡辺岳夫■ＯＰ「海底３万マイル」歌／ザ・ココナッツ　挿入歌「大騒ぎのタンゴ」歌／水森亜土、ボーカル・ショップ　以上、作詞／岡本克己　作曲／渡辺岳夫■録音／波多野　勲■声の出演　イサム（野沢雅子）　エンジェル（小鳩くるみ）　タトル（人見　明）　地底王（納谷悟朗）　オクトパス（海野かつお）　海底王（北川国彦）　イサムの母（瀬能礼子）　イサムの父（梶　哲也）　船長（村越伊知郎）　アナウンサー（野田圭一）

NO.
68~70
夏休み　東映まんがまつり



〔解説〕「タイガーマスク　ふく面リーグ戦」は、ザ・ライオンマン、ミスター・ノー、吸血鬼ドラキュラ、黄金仮面らの登場する〝覆面ワールドリーグ戦〟の総集編。ジャイアント馬場が、覆面レスラーのザ・グレートゼブラとして登場する有名なエピソードだ。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'70.7.19(日)	海底３万マイル	No.67参照				
	タイガーマスク ふく面リーグ戦	53分	安藤　豊弘 辻　真先 三芳　加也	設楽　博 黒田　昌郎 白根　徳重 田中　亮三	森　利夫 国保　誠 小松原一男	秦　秀信 沼井　肇 浦田　又治
		23話「命を賭ける虎」、24話「開幕覆面リーグ戦」、25話「黄金仮面との死闘」、26話「栄光の彼方に」の編集版				
	もーれつア太郎	24分	雪室　俊一	勝田　稔男	落合　正宗	福本　智雄
	ニャロメの子守歌	63回「ニャロメの子守歌」を上映				
	ひみつのアッコちゃん	24分	浪江　志摩	山本　寛巳	江藤　文男	遠藤　重義
	涙の回転レシーブ	77話「涙の回転レシーブ」を上映				
	＊実写併映作品「柔道一直線」					

NO.
71
みにくいあひるの子

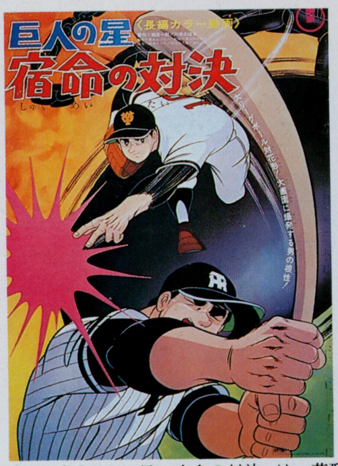


70年8月1日（土）東宝系封切　20分
併映作品／ゲゾラ・ガニメ・カメーバ　決戦！南海の大怪獣、巨人の星　宿命の対決、アタックNo.1　涙の回転レシーブ（東宝チャンピオンまつり）

【内容・解説】有名童話をもとにした人形アニメ。学研映画局製作の教育映画。第23回大藤賞など多くの映画賞を受賞している。

製作／原　正次、石川茂樹■製作担当／神保まつえ■脚本、演出（監督と同義）／渡辺和彦■人形／佐々木　章■人形アニメーター／和田京子、見米　豊、尾崎　良■美術／上田悌三、中村貞雄■撮影／平井　寛、阿部行雄■音楽／斎藤高順■効果、録音／アオイスタジオ■現像／東洋現像所■企画、提供／日本勧業銀行■製作／学研映画局■声の出演　（中村メイ子）

NO.
72~73
夏休み 東宝チャンピオンまつり

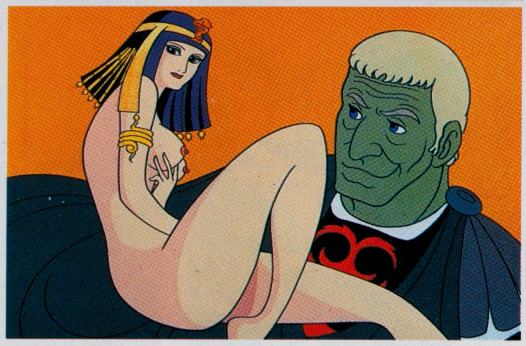




〔解説〕「巨人の星　宿命の対決」は、花形満の特訓によって大リーグボール１号が打たれるまでを描く総集編第４弾。「アタックNo.1　涙の回転レシーブ」は、前作の続きを描いた中学全国大会の総集編。「決戦！南海の大怪獣」は、これまでの東宝特撮怪獣映画と趣きを異にする意欲作であり、円谷英二が特技監修として冠されている最後の作。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'70.8.1.(土)	巨人の星　宿命の対決	1時間1分	松岡　清治 山崎　晴哉 伊東　恒久 辻　真先 さわきとおる 斎藤　次郎	長浜　忠夫	楠部大吉郎	影山　勇
		「大リーグボールの死」を中心としたエピソードの編集版				
	アタックNo.1	59分	斎藤　次郎	岡部　英二 黒川　文男	竹内　留吉	池田　準
	涙の回転レシーブ					
	＊実写併映映画「ゲゾラ・ガニメ・カメーバ 決戦！南海の大怪獣」					

NO. 74 クレオパトラ (CLEOPATRA)



70年9月11日（金）日本ヘラルド映画配給　1時間52分

〔あらすじ〕21世紀の3人の若者が、意識を紀元前30年のエジプトの人物や動物に転送、真実の歴史を見る。外部の侵略からエジプトを守るため、醜女であったクレオパトラは、エジプト5000年の秘法により絶世の美女に生まれ変わった。シーザーにとりいり、その死後はアントニウスに接触。だが次第に、ひとりの女としての幸せを望むようになる。色仕掛けが通じないホモのオクタビアンが敵となったとき、クレオパトラは絶望し、自ら死を選んだのだった。

〔解説〕虫プロの〝アニメラマ〟第2作。前作「千夜一夜物語」のヒットを受けての製作だったが、出費がかさみ、虫プロ倒産の契機となった。クレオパトラを中心に古代史が描かれるが、随所に散りばめられた手塚らしい楽屋オチ（当時の人気漫画キャラの友情出演、シーザー凱旋シーンの名画の競演、シーザー暗殺の〝松の廊下〟的演出など）は、作品の印象を散漫にしてしまった感もある。また、キャラデザインに漫画家の小島功を起用し、成功を納めている。

原案、構成／手塚治虫■製作／米山安彦■脚本／里吉しげみ■監督／手塚治虫、山本暎一■キャラクター・デザイン／小島　功■作画（原画）／中村和子、波多正美、赤堀幹治、上口照人、杉井ギサブロー、島村達雄、古沢日出夫、木下蓮三■作画（動画）／北野英明、進藤満尾、佐々門信芳、小川隆雄、渡辺佳子、牛越則与、小林準治、谷沢　豊、上梨壱也、牛越和夫、新田雅利、札木幾夫、吉村昌輝、木口準、海老沢幸男、芦田豊雄、野部駿夫、朝戸澄子、堀越新太郎、川尻善昭、太田佐秩子、加藤誠一ほか■美術／伊藤主計■背景／槻間八郎、伊藤攻洋、宮川一男、西村邦子、田辺めぐみ、清水勝江、下道文治、横瀬直士、門屋達郎、川奈部広次、浜谷由紀子、稲葉富恵、水野尾純一、西　芳邦、平林　茂、椋尾　篁、加藤　清、工藤剛一、小関俊之■色彩設計／山本義也■撮影／三沢勝治ほか■実写演出／佐藤肇■実写撮影／本田　毅■実写合成／堀口忠彦ほか■編集／古川雅士ほか■音楽／冨田　勲■主題歌「クレオパトラのテーマ」作詞／中山千夏　作曲／冨田　勲　歌／由紀さおり　挿入歌「ゲリラの歌」作詞／能　加平　作曲／小室　等　歌／六文銭　演奏／六文銭、フール・サンズ■音響／田代敦巳、明田川進、柏原　満ほか■考証／カセム・アリー■製作／虫プロダクション■声の出演　クレオパトラ（中山千夏）　シーザー（ハナ肇）　アントニウス（なべおさみ）　オクタビアン（野沢那智）ほか

NO. 75~76 冬休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「アタックNo.1　涙の世界選手権」は、全日本ジュニアに選抜されたこずえやみどりが、世界選手権の決勝でシェレーニナやボルチンスカといった強剛がひしめくソ連チームと雌雄を決するもの。公開初日と二日目は、ゴジラと雷門ケン坊が劇場に駆けつけ、子供たちを喜ばせた。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'70.12.19(土)	アタックNo.1	51分	田村多津夫	岡部　英二	竹内　留吉	山崎あきら
	涙の世界選手権					
	昆虫物語みなしごハッチ	25分	鳥海　尽三 陣野　修 吉田　喜昭 前里　元義	九里　一平	不詳	中村　光毅
		詳細不明				
	＊実写併映作品「モスラ対ゴジラ」(リバイバル)、「桜木健一の柔の星」					

'71 昭和46年

映画界全体の低迷、ますます高騰する制作コスト…悪条件のなかでも東映動画は久々の快作を生みだす。'71年に東映創立20周年記念として製作された「どうぶつ宝島」がそれである。これには、池田宏演出の快調なテンポとともに、アイデア構成・原画を担当した宮崎駿の力が大きい。宮崎は「太陽の王子ホルスの大冒険」「長靴をはいた猫」でも、部分的に同様の役割を果たしているが、この作品で、ストーリーボードから映画全体の基本構成を練り上げるという方式を確立したといえよう。のちに一時代を築くことになる宮崎アニメのほとんどのパターンが、ここで表れている。

しかし手間と経費を食う割に利益の上がらない長編アニメの製作は、次第に会社にとって負担になってゆき、ついにこの作品を最後に80分のＡ作は製作されなくなる。夏に公開された「アリババと40匹の盗賊」は55分の中編であった。「製作・大川博」のタイトルが出るのもこれが最後であり、名実ともに東映長編にとって、一つの時代が終わったのである。

一方ＴＶでは、'71年にはじまった「仮面ライダー」を始祖とする〝変身ブーム〟が燃え上がろうとしていた。「まんがまつり」の併映も、従来のＴＶアニメの焼きなおし版中心から、ＴＶアニメもの２本にＴＶの変身もの２本という構成となった。こうして、次第に「まんがまつり」は様変わりしてゆく。

また、この年、虫プロのアニメラマに刺激された東京テレビ動画は、雑誌でブームを巻き起こしていた谷岡ヤスジのマンガを原作にした長編ポルノアニメ「ヤスジのポルノラマ・やっちまえ!!」を製作。これはアニメラマ同様ヘラルドで配給されたが、結果は一週間で打切り、惨憺たるものだった。

なお、９月には、戦前の日本漫画映画の歴史を29分にまとめた貴重作「日本漫画映画発達史・漫画誕生」（第一部・戦前編）が東宝系で公開されたことも特筆しておきたいが、これは劇映画「裸の大将」と併映であったため、見る人も少なかったという。

NO. 77~80 春休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「アタックNo.1　涙の不死鳥」は、高校に進んだこずえとみどりが必殺戦法ダブルアタックを開発。インターハイに出場するまでを描く。「怪獣大戦争キングギドラ対ゴジラ」は、'65年公開「怪獣大戦争」を改題して公開したもの。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'71.3.17(水)	アタックNo.1	54分	田村多津夫	黒川　文雄	竹内　留吉	池田　準
	涙の不死鳥					
	ムーミン	25分	吉田　喜昭	大隅　正秋	大塚　康生	千葉　秀雄
		7話「さよならガオガオ」を上映				
	みなしごハッチ	25分	鳥海　尽三 前里　元義	鳥海　永行	原　征太郎	五十嵐忠司
	お月さまのママ	詳細不明				
	いなかっぺ大将	25分	城山　昇 伊東　恒久	市江　健二 案納　正美	不詳	新井　寅雄
		5回Aパート「ワンとも困るだス」、10回Bパート「かわいこちゃんニャよわいだス」を上映				
	＊実写併映作品「怪獣大戦争 キングギドラ対ゴジラ」（リバイバル）					

NO. 81 どうぶつ宝島



71年3月20日（土）東映系封切　1時間18分
併映作品／タイガーマスク　黒い魔神、魔法のマコちゃん、のりものいろいろ、キックの鬼（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕船出を夢みる少年ジムが猫船員から預かったのは、海賊フリント船長の宝のありかを示す地図だった。宝島めざして自作の樽船パイオニア号で出帆するジムとネズミのクラン。だが、ブタのシルバー船長率いる海賊船・ポークソテー号につかまり働かされるハメに。そこで出会った捕らわれの少女キャシーは、なんとフリント船長の孫娘だった。１枚の地図をめぐって山ほどの海賊たちを巻きこみ、海賊島、洋上、そして宝島へと冒険が広がっていく。
〔解説〕名作「宝島」を、主役の少年少女以外はすべて動物に変えてアニメ化したA作長編。「空飛ぶゆうれい船」を終えた演出の池田宏が、今度は徹底して子ども向けに、テンポのよい場面運びと会話による正統的な冒険漫画映画を作り上げている。また、「ホルス」や「長靴をはいた猫」で認められた宮崎駿もアイデア構成として参加。ポークソテー号内のドタバタや、湖の沈没船の設定など、随所にその独特の発想を持ちこみ、作品の楽しさを盛り上げていた。

原作／ロバート・L・スチーブンソン■製作／大川博■企画／山梨　稔、伊藤企義、飯島　敬■脚本／飯島　敬、池田　宏■演出（監督と同義）／池田　宏■演出助手／大谷恒清、小湊洋市■アイデア構成／宮崎　駿■作画監督／森　康二■原画／小田部羊一、宮崎　駿、奥山玲子、菊池貞雄、小田克也、大田朱実、金山通弘、阿部　隆、木野達児、的場茂夫、角田紘一、彦根範夫、香西隆夫■動画／生野徹太、山下恭子、堰合　昇、笠井晴子、飯田鉦一、円山　智、冨永　勤、金山圭子、長谷川玲子、森　英樹、松原明徳、篠原征子、長沼寿美子、山田みよほか■タイトル構成／彦根範夫■美術監督／土田　勇■背景／陶山尚治、山口俊和、海老沢一男、土屋婦美子■色彩設計／内山文広■仕上検査／小椋正豊、新納三郎■撮影／平尾三喜、藤橋秀行■編集／古村　均■音楽／山本直純■ＥＤ「ちっちゃい船だって」作詞／石井浩一　作曲／山本直純　うた／ヤングフレッシュ、メールハーモニー■録音／神原広己■音響効果／大平紀義■声の出演　ジム（松島みのり）　キャシー（天地総子）　シルバー（小池朝雄）　オットー（富田耕生）　オッサン（高木　均）　スパイダー（田村錦人）　グラン（増山江威子）　特別出演・ムッツリ（山本直純）　男爵（八奈見乗児）　カンカン（神山卓三）　猫の船員（柴田秀勝、北川国彦、田の中勇）　バブ（千々松幸子）　海賊会議議長（永井一郎）

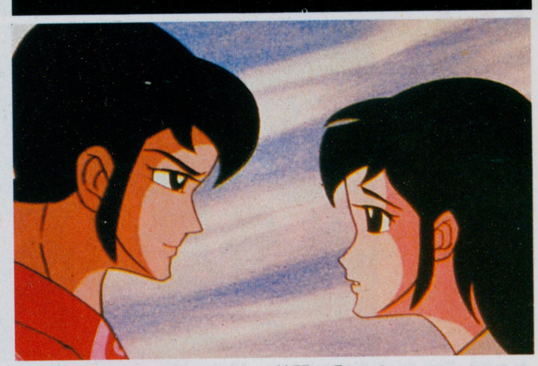
NO. 82~84 春休み 東映まんがまつり



〔解説〕「タイガーマスク　黒い魔神」は、ポポ・アフリカとタイガーマスクとの戦いを描いたエピソード。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'71.3.20(土)	どうぶつ宝島	No.81参照				
	タイガーマスク	21分	安藤　豊弘	及部　保男	森　俊夫	秦　秀信
	黒い魔神	56話「黒い魔神」の編集版				
	魔法のマコちゃん	24分	岡本　克己	芹川　有吾	細田　暉雄	山崎　誠
		3話「からたち学園」を上映				
	キックの鬼	25分	鈴樹三千夫	古沢日出夫	不破　八束	福本　智雄
		11話「男の涙が光る時」を上映				
	＊実写併映作品「のりもののいろいろ」					

NO. 85 忍風カムイ外伝 月日貝の巻



71年3月20日（土）（12月4日（土））東宝系封切　1時間28分
併映作品／日本一のワルノリ男、ドリフターズですよ！　前進前進また前進

【あらすじ】忍びとして掟に縛られることを嫌い、青年忍者カムイは忍者の世界から抜けた。抜け忍となった彼の前にその命を狙う追手が次々と現れる。命がけの逃亡の旅のなか、カムイと抜けくの一のスガルは、不動と名乗る男と、その一味に命を助けられた。不動たちとある浜辺の村にカムイとスガルはやってきた。そこで出会った少女・サヤカはカムイに想いをよせ、月と日が一つになるという月日貝をカムイに渡したのだった。
【解説】白土三平原作のテレビアニメ「忍風カムイ外伝」の21話以降最終回までを、25話の「月日貝」を中心にして再編成した作品。ちなみに、21話以降のエピソードは、原作のストックがつきたために、白土三平の原案をもとにしてつくられたアニメオリジナルエピソードである。

原作／白土三平■製作／村田英憲■監修／松本美樹■演出（監督と同義）／近藤啓祐■美術／大隅敏弘■撮影／西野正行■編集／矢吹敏明■音楽／水谷良一■製作／ＴＣＪ動画センター■声の出演　カムイ（中田浩二）　スガル（二階堂有希子）　サヤカ（栗葉子）　不動（家弓家正）　半兵衛（木村　幌）　大頭（小林清志）　語り手（城　達也）

NO. 86 アリババと40匹の盗賊



71年7月18日（日）東映系封切　55分
併映作品／宇宙猿人ゴリ対スペクトルマン、ゴーゴー仮面ライダー、アンデルセン物語　おやゆび姫、魔法のマコちゃん（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕40人の盗賊を征伐したアリババは大金持ちとなり、今やその子孫であるアリババ33世は王様として君臨していた。ところがこの33世、歴代中最低の王様。ランプの精を使ってごちそうを出させ、好き放題の暮らしをしている。一方、町の片隅に住む盗賊の首領の子孫アル・ハックは、すっかり落ちぶれながらも義侠心に富んだ少年だった。先祖の奪われた宝を取り戻すべく、アリババに虐待された40匹の猫とともに城に押し入り、大攻防戦を繰り広げる。
〔解説〕誰もが知っている「アリババと40人の盗賊」を土台に故・山元護久が脚色した作品。大工原章の手がけた異色のキャラクターや、劇中に影絵をとりいれる演出など意欲的な姿勢は見られたものの、B作長編としてのコストの低さや、ベテランスタッフの外部流出など諸問題が影響し、重厚なおもしろさには欠けた作品となった。宮崎駿、小田部羊一は本作を最後に東映動画を退社。また、長年東映動画社長をつとめた大川博も、この作品のあとに死去している。

製作／大川　博■企画／高橋　勇、茂呂清一、旗野義文■脚本／山元護久■演出（監督と同義）／設楽　博■演出助手／笠井由勝、浦上昭人■作画監督／大工原　章■原画／奥山玲子、小田克也、菊池貞雄、小田部羊一、森　英樹、木野達児、金山通弘、宮崎　駿、的場茂夫、阿部　隆、角田紘一、池原昭治、森　康二■動画／生野徹太、堰合　昇、笠井晴子、大田朱実、山下恭子、富永　勤、斎藤瑛子、坂野勝子、金山圭子、長谷川玲子、飯田鉦一、松原明徳、黒沢隆夫、坂野隆雄、田村真也、草間真之介、篠原征子、小林敏明、小川明弘、薄田嘉信、阿久津文雄、藤本芳弘、堀池義治、村松錦三郎、正井　融、服部照夫、浅田清隆、石山毬緒、佐々木　章、長沼寿美子、山田みよ■影絵／劇団かかし座（とう・たいりう他）■美術監督／横井三郎■背景／穂積勝義、山口俊和、城戸　求、原田謙一、■色彩設計／下川忠海■仕上検査／小椋正豊、新納三郎■撮影／井出昭一郎、町田賢樹■編集／千蔵　豊、花井正明■音楽／宇野誠一郎■ＥＤ「雲がおしえてくれる道」作詞／山元護久　作曲／宇野誠一郎　歌大山のぶ代、ボーカル・ショップ、ヤング・フレッシュ■録音／波多野　勲■製作／東映動画■声の出演　ハック（大山のぶ代）　カジル（滝口順平）　アリババ（大塚周夫）　ドラ（内海賢二）　ゴロ（納谷悟朗）　ランプの魔物（富田耕生）　警察署長（田の中　勇）（野村道子）（永井一郎）（今西正男）（青二プロ）ほか

NO. 87~88 夏休み　東映まんがまつり



〔解説〕「ゴーゴー仮面ライダー」は、テレビの特撮ヒーロー番組「仮面ライダー」の13話「トカゲロンと怪人大軍団」を上映。新怪人トカゲロンと、それまでライダーに倒された10人の再生怪人が登場するエピソードだ。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'71.7.18(日)	アリババと40匹の盗賊	No.86参照				
	アンデルセン物語	23分	藤川　敬三	吉良　敬三	竹内　俊英	波多　正美
	おやゆび姫	10話「親指姫・スキスキ花の王子さま」を上映				
	魔法のマコちゃん	24話	辻　真先	岡崎　稔	永樹　凡人	沼井　肇
		28話「グラウンドの天使」を上映				
	＊実写併映作品「宇宙猿人ゴリ対スペクトルマン」、「ゴーゴー仮面ライダー」					

NO. 89 わらしべ長者



71年7月24日（土）東宝系封切　18分
併映作品／ゴジラ対ヘドラ、帰ってきたウルトラマン、みなしごハッチ　傷だらけのバレリーナ、いなかっぺ大将　猛獣の中にわれ一人だス、オオ！ミステークだス（東宝チャンピオンまつり）

【内容・解説】有名昔話をもとにした学研映画局製作の教育人形アニメ。第1回東京都教育映画コンクール金賞など受賞。

製作／原　正次■企画／神林伸一■製作担当、脚本／神保まつえ■演出（監督と同義）／渡辺和彦■人形／佐々木　章■人形アニメーター／（乙丸）和田京子、（犬、若宮）秋山純子、（お供、老人、馬）遠藤映子■美術／酒向　満■撮影／平井　寛■撮影助手／矢島　勲■音楽／斎藤高順■効果／原　清康■録音／アオイスタジオ■製作／学研映像局■声の出演　（加藤玉枝）（杉田郁子）（木下喜久子）（内村軍一）（川久保　潔）（関根信昭）

NO. 90~91 夏休み 東宝チャンピオンまつり





〔解説〕「ゴジラ対ヘドラ」は、後期ゴジラ映画の異色作であり、このあと連綿と続いていく〝ゴジラ激闘編〟ともいうべき作品群の第1弾である。学園紛争、公害問題、サイケデリックといった世相が色濃く反映された内容となっている。「帰ってきたウルトラマン」は、第5、6話「二大怪獣東京を襲撃」「決戦！　怪獣対マット」が上映された。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'71.7.24(土)	みなしごハッチ	25分	多地　映一	九里　一平	不詳	中村　光毅
	傷だらけのバレリーナ	8話「傷だらけのバレリーナ」を上映				
	いなかっぺ大将	25分	陣野　修 桜井　京介	笹川ひろし	二宮　常雄	伊豆島君江
	猛獣の中にわれ一人だス オオ！ミステークだス	30回Bパート「猛獣の中にわれ一人だス」、28回Bパート「オオ！ミステークだス」を上映				
	＊実写併映作品「ゴジラ対ヘドラ」、「帰ってきたウルトラマン」					

NO.
92
日本漫画映画発達史　漫画誕生



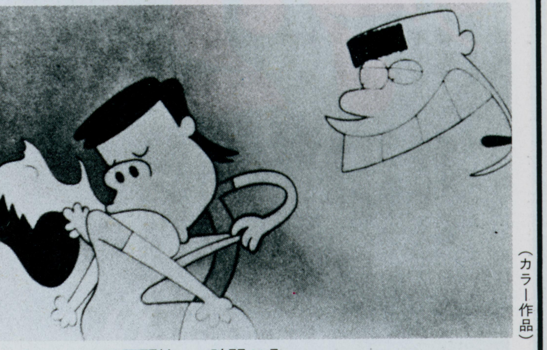
71年9月11日（土）東宝系封切　29分
併映作品／裸の大将、西のペテン師　東のサギ師

【内容】 戦前の日本のアニメーション作品を紹介する。主な作品——「兎と亀」「姥捨山」「塩原多助」「蛸の骨」「難船ス物語第一篇　猿ケ島」「黒猫萬歳」「動絵狐狸の達引」「お蝶夫人の幻想」「フクちゃんの潜水艦」「桃太郎の海鷲」「くもとちゅうりっぷ」など。

【解説】 70年に製作された作品。72年に公開される「アニメ新画帳」と2部構成で、日本のアニメの歴史を紹介する。2部併わせて1973年に第25回大藤賞の大藤賞委員会特別賞を受賞。

製作／中島源太郎■企画／飯田心美／斎藤宗岳、杉本五郎、田中純一郎、藪下泰次■脚本／飯田心美■■演出（監督と同義）／藪下泰次■撮影／岸本政由■音楽／宮下　滋■録音／深尾昌司■協力／松竹ＫＫ、芸術映画社、新世界映画社、千代紙映画社、横浜シネマ、杉本映画コレクション、朝日新聞社、日本大学芸術学部、千葉大学天然色工学研究施設■製作／日本動画ＫＫ■収録作品　兎と亀（Ｔ中期、北山清太郎）　うばすて山（Ｔ１３、山本早苗）　塩原多助（Ｔ末期、木村白山）　こがねの花（Ｓ５、大藤信郎）　蛸の骨（Ｓ２：村田安司）　難船ス物語・猿ケ島（Ｓ５、政岡憲三）　黒猫萬歳（Ｓ５、中野孝夫）　動絵・狐狸の達引（Ｓ５、大石郁雄）　お蝶夫人の幻想（Ｓ１５、荒井和五郎・飛石仲也）　フクちゃんの潜水艦（Ｓ１６、横山隆一）　桃太郎の海鷲（Ｓ１８、瀬尾光世）　くもとちゅうりっぷ（Ｓ１７、政岡憲三）

NO.
93
ヤスジのポルノラマ やっちまえ!!



（カラー作品）

71年9月24日（金）日本ヘラルド映画配給　１時間41分

【あらすじ】 主人公・ブス夫の、次々と女性を犯していく人生を「私生活」「経験」「めまい」の3部構成で描く。

【解説】 人気の漫画家・谷岡ヤスジの漫画をアニメにした東京テレビ制作のポルノアニメ。映倫のクレームにより11カ所がカット、ラストの主人公の割腹自殺シーンは、三島由紀夫事件を連想させるという理由でとり直しされた。各話のタイトルになっているのは辺見マリの歌。

原作漫画／谷岡ヤスジ■製作／渡辺　清■企画／吉沢京夫、土橋寿男■脚色／吉田喜昭■演出／三輪孝輝、高桑慎一郎■作画監督／鈴木　満■美術監督／梅野紀一、半藤克美■撮影監督／森泉正美■編集／石村武朗■音楽／橋場　清■主題歌　「ドバ・ドバ・ソング」浪曲／沢田敏子　曲師／吉野　静　歌／ザ・ラニアルズ　「ロンリー・ブルース」歌／杉かおる　以上、作詞／島村葉二　作曲／橋場　清■録音／森　武■効果／大野美信■製作／東京テレビ動画■声の出演　ブス夫（鈴木やすし）　ユキ子（鈴木弘子）　ムジ夫、ムジ鳥（南　利明）　オヤジ（雨森雅司）　社長（コロムビア・トップ）　課長（大塚周夫）

NO.
94
マッチ売りの少女



71年12月12日（日）東宝系封切　18分
併映作品／ゴジラ・モスラ・キングギドラ　地球最大の決戦、みなしごハッチ　忘れな草に願いをこめて、いなかっぺ大将　猫も歩けば雀に当るだス、当るも当らぬも時の運ダス（東宝チャンピオンまつり）

【内容・解説】 アンデルセンの有名童話の人形アニメ化。第15回キネマ旬報文化映画ベストテン2位など多くの賞を受賞。

原作／アンデルセン■製作／原　正次■企画／石川茂樹■製作担当、脚色／神保まつえ■演出（監督と同義）／渡辺和彦■人形／佐々木　章■人形アニメーター／見米　豊、武川和子■美術／中川　涼■撮影／平井　寛■撮影助手／阿部行雄■音楽／林　光■録音／アオイスタジオ■現像／東洋現像所■製作／学研映像局■声の出演　（内村軍一）（須永宏）（関根信昭）（加藤玉枝）（里見京子）（坂本和子）（伊島幸子）（新道乃里子）（飯田桂子）

NO.
95~96
冬休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「ゴジラ・モスラ・キングギドラ　地球最大の決戦」は、'64年公開の「三大怪獣　地球最大の決戦」の改題。「帰ってきたウルトラマン　竜巻怪獣の恐怖」は、テレビシリーズ中第13、14話「津波怪獣の恐怖　東京大ピンチ！」「二大怪獣の恐怖　東京大竜巻」を上映。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'71.12.12(日)	みなしごハッチ	25分	梅田　智江	富野　喜幸	不詳	中村　光毅
	忘れな草に願いをこめて	74話「忘れな草に願いをこめて」を上映				
	いなかっぺ大将	25分	吉田　喜昭 城山　昇	笹川ひろし 案納　正美	二宮　常雄	伊豆島君江
	猫も歩けば雀に当たるだス 当たるも当たらぬも時の運だス	48回Aパート「猫も歩けば雀に当たるだス」、33回Bパート「当たるも当たらぬも時の運だス」を上映				
	＊実写併映作品「ゴジラ・モスラ・キングギドラ 地球最大の決戦」（リバイバル）					
	「帰ってきたウルトラマン 竜巻怪獣の恐怖」					

'72 昭和47年

'72年春「まんがまつり」は、起死回生を狙ってか、最大のヒット作「長靴をはいた猫」のキャラクターを使った西部劇「ながぐつ三銃士」を送りだし、興業的には成功を収めた。

夏の「まんがまつり」には〝へんしん大会〟とサブタイトルがついている。ＴＶの変身ブームは社会現象とまでなり、目玉であるはずの新作中編のタイトルからして「魔犬ライナー0011変身せよ！」であり、中心は特撮変身ものの劇場用新作であった。また劇場内で変身ヒーローによるショーが行われたりもした。この傾向はしばらく続くことになる。

この年、東映動画に決定的な事態が起こった。登石新社長は人員整理と制作縮小を打ちだし、全従業員320名中150名にのぼる希望退職者の募集を開始した。労組は激しく反発し、ついに８月、会社側によるロックアウトという事態を迎えた。この状態は５カ月続き、その間に100余名のスタッフが去って行った。12月にはなんとか争議は収拾されたが、東映動画はこうして幾多の優秀な人材を失い、さらにスタジオの半分を東映本社に明け渡すこととなったのである。

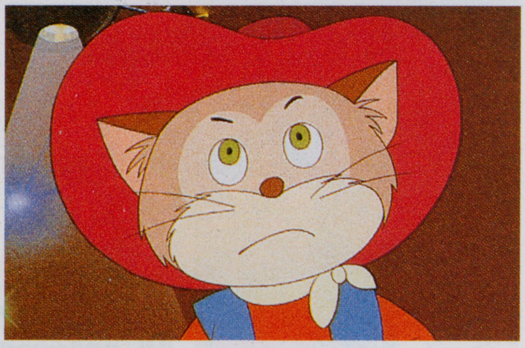
NO. 97~99 春休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「地球攻撃命令ゴジラ対ガイガン」は、ゴジラとアンギラスが宇宙からの侵略者に操られたガイガン、キングギドラの２大怪獣を迎え撃つもの。「帰ってきたウルトラマン　次郎くん怪獣にのる」は、テレビシリーズ29話をブロウ・アップして上映。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'72.3.12(月)	みなしごハッチ	25分	鳥海　尽三 滝　三郎	原　征太郎	不詳	中村　光毅
	ママにだかれて	90、91話「ママに抱かれて（前・後篇）」の編集版				
	かしの木モック	24分	鳥海　尽三	九里　一平	不詳	多田喜久子
		詳細不明				
	天才バカボン	14分	雪室　俊一	斎藤　博	芝山　努	影山　仁
		17回Aパート「夜まわりはこわいのだ」を上映				
	＊実写併映作品「地球攻撃命令ゴジラ対ガイガン」、「帰ってきたウルトラマン 次郎くん怪獣にのる」、「ミラーマン」					

NO. 100 ながぐつ三銃士



72年3月18日（土）東映系封切　53分
併映作品／仮面ライダー対ショッカー、スペクトルマン、ムーミン、さるとびエッちゃん（東映まんがまつり）

【あらすじ】 殺し屋に追われるネコのペロ、東部から帰郷してきたアニー、そしてジミー少年。この３人が駅馬車に乗って西部のゴーゴータウンへやってきた。だがアニーの父は何者かに殺されていた。アニーの力となって犯人を捜そうとするペロは、街を支配するボスが酒場の地下でニセ金を作っていることを知る。だが秘密を知ったペロとアニーは悪漢一味に捕えられてしまう。ふたりを救出するジミー、彼こそ連邦保安官ジミー・ディッケンズであった。

【解説】 名作「長靴をはいた猫」の人気キャラ・ペロと３匹の殺し屋を再び登場させた作品。最初、前作にも参加していた山元護久によって、デュマの「三銃士」を基本にしたシナリオが進められていたが、スケジュールの都合で挫折、最終的には布勢博一の脚本による西部劇となった。前作に比べると物語的にも時間的にも見応えのないものとなっている。死去した大川博に代わり、この作品と「魔犬ライナー」は、高橋勇が製作としてテロップされている。

製作／高橋　勇■企画／横山賢二■製作担当／茂呂清一、伊藤企義■脚本／布勢博一■演出（監督と同義）／勝間田具治■作画監督／森　康二■原画／奥山玲子、小田克也、大田朱実、菊池貞雄、森　英樹、金山通弘、的場茂夫、阿部　隆、角田紘一、篠原征子、小川明弘、薄田嘉信、池原昭治、大工原　章■動画／生野徹太、山下恭子、堰合　昇、笠井晴子、飯田鉦一、冨永　勤、円山　智、斎藤瑛子、金山圭子、長谷川玲子、坂野勝子、田村真也、松原明徳、黒沢隆夫、草間真之介、木野達児、坂野隆雄、小林敏明、阿久津文雄、村松錦三郎、正井　融、浅田清隆、藤本芳弘、服部照夫、石山毬緒、佐々木　章、佐藤有子、長沼寿美子、山田みよ■美術監督／遠藤重義■背景／伊藤岩光、小島喜八郎、松本健治■色彩設計／伊藤英治■撮影／白根基万、山根　恵■編集／花井正明■音楽／宇野誠一郎■ＯＰ「ながぐつ三銃士」作詞／井上ひさし、山元護久　作曲／宇野誠一郎　歌／鈴木やすし、青二コーラス■録音／荒川文雄■声の出演　ペロ（鈴木やすし）　ジミー（小宮山　清）　アニー（小鳩くるみ）　殺し屋Ａ（矢代　駿）　Ｂ（田の中　勇）　Ｃ（水森亜土）　ボス（島　宇志夫）　片目（柴田秀勝）　デカ（増岡　弘）　デブ（峰　恵研）　チビ（和久井節緒）　酋長（富田耕生）　子鼠（千々松幸子）　ジェーン（高橋和子）　町長（青木笑児）　馭者（矢田耕司）（青二プロ）

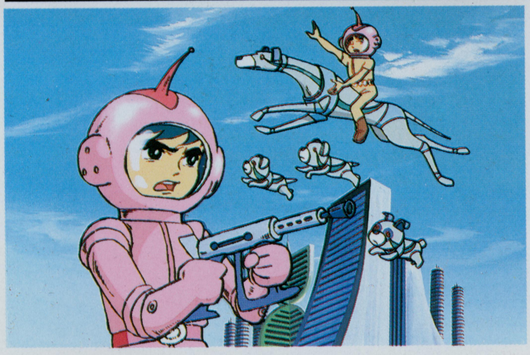
NO. 101~102 春休み 東映まんがまつり



〔解説〕このプログラムで上映された「さるとびエッちゃん」の１話は、「巨人の星」「アタックNo.１」などのパロディが登場する怪作。「仮面ライダー対ショッカー」は、当時人気絶頂だった「仮面ライダー」の初の劇場用新作。１、２号のダブルライダーとザンジオー率いる再生怪人軍団との戦いを描いた劇場版らしい豪華版。以後、〝仮面ライダーシリーズ〟は、〝まんがまつり〟の看板番組となり、再生怪人軍団のパターンもくりかえされることになる。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'72.3.18(土)	ながぐつ三銃士	No.100参照				
	ムーミン	25分	田代　淳二	上梨　満雄	森田　浩光	半藤　克美
		新シリーズ２話「春を呼ぶ火祭り」を上映				
	さるとびエッちゃん	24分	山崎　忠昭	芹川　有吾	高橋　信也	土田　勇
		１話「おかしな転校生」を上映				
	＊実写併映作品「仮面ライダー対ショッカー」、「スペクトルマン」					

NO. 103 魔犬ライナー0011変身せよ！



72年7月16日（日）東映系封切　50分
併映作品／仮面ライダー対じごく大使、超人バロム・1、変身忍者嵐、魔法使いチャッピー、国松さまのお通りだい（東映まんがまつり　へんしん大会）

〔あらすじ〕時は未来、昆虫から進化した凶悪な宇宙人・デビル星人が地球に襲来した。かねてからこのことを予告していた科学者・林博士のひとり息子・ツトムは、博士の造った4匹のサイボーグ犬・クィーン、エース、ジャック、ジョーカーとともにデビル星人に立ち向かう。敵はカマキリ型ロボ・マンデラスや小ロボ群団ダニンガーによる地上攻撃を開始。戦いの渦中で父を失ったツトムは、4匹の合体メカ・ライナー号でデビル星へ乗りこんでいく。
〔解説〕変身ヒーローブームのまっただなかで作られた50分のB作中編。笹川ひろしの原作がもとだが、大幅なアレンジが加えられている。東映京都撮影所の助監督出身で、それまでのテレビのアクション作品を手がけてきた田宮武が初の監督をつとめた。作画陣は大工原以下、奥山、菊池、森らの常連の長編スタッフが参加したが、絵柄はテレビ作品の影響を受けた劇画調のものとなった。なお、この作品の公開直後の8月、東映動画はロックアウトを行っている。

原案／笹川ひろし■製作／高橋　勇■企画／飯島敬■製作担当／茂呂清一■脚本／辻　真先、芹川有吾■演出（監督と同義）／田宮　武■演出助手／宮崎一哉、中込綏彦■作画監督／大工原　章■原画／奥山玲子、菊池貞雄、金山通弘、阿部　隆、木野達児、角田紘一、的場茂夫、篠原征子、森　康二■動画／生野徹太、山下恭子、堰合　昇、笠井晴子、飯田銈一、冨永　勤、円山　智、斎藤瑛子、金山圭子、坂野勝子、森　英樹、田村真也、松原明徳、黒沢隆夫、草間真之介、坂野隆雄、小林敏明、小川明弘、薄田嘉信、阿久津文雄、村松錦三郎、正井　融、池原昭治、浅田清隆、藤本芳弘、堀池義治、服部照夫、石山毬緒、佐々木　章、大田朱実、長沼寿美子、山田みよ■美術監督／辻　忠直■背景／小島喜八郎、伊藤岩光、山口俊和、越　園江、杉本　隆一、勝又激■色彩設計／内川文広■仕上検査／小椋正豊、森田　博■撮影／酒井寿一、清水政夫■編集／古村均■音楽／山下毅雄■ＯＰ「ゴー／ゴー／ライナー」作詞／辻　真先　作曲／山下毅雄　歌／笈田敏夫、コロムビアゆりかご会■録音／神原広巳■声の出演　ツトム（里見京子）　林博士（山内雅人）　クィーン（北浜晴子）　ジョーカー（曽我町子）　エース（野沢雅子）　ジャック（松島みのり）　アナウンサー（野田圭一）　富士山観測所員Ａ（北川国彦）　Ｂ（山田俊司）　エアカーの男（矢田耕司）　悪童Ａ（千々松幸子）　Ｂ（柳沢美知子）　ナレーター（小林　修）（青二プロ）

NO. 104~105 夏休み 東映まんがまつり



〔解説〕「仮面ライダー」の人気を受け、新作の「魔犬ライナー0011変身せよ！」「仮面ライダー対じごく大使」、テレビ作品の「変身忍者嵐」「超人バロム・1」と、変身ヒーロー作品を集めて〝へんしん大会〟と銘打ったプログラムを興行した。「超人バロム・1」は14話「魔人アリゲルゲと13のドルゲ魔人」を上映。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'72.7.16(日)	魔犬ライナー0011変身せよ！	No.103参照				
	魔法使いチャッピー	24分	辻　真先	金子　允洋	永樹　凡人	山崎　誠
		7話「栄光への500メートル」を上映				
	国松さまのお通りだい	24分	伊東　恒久	波多　正美	佐々門信芳	阿部　幸次
		8話「国松の見習いキャプテン」を上映				
	＊実写併映作品「仮面ライダー対じごく大使」、「変身忍者嵐」、「超人バロム・1」					

NO. 106~108 夏休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕'66年公開の東宝特撮怪獣映画の異色作「ゴジラ・エビラ・モスラ　南海の大決闘」のリバイバル公開。これは福田純が「電送人間」以来ひさびさにメガホンをとった怪獣映画である。「ミラーマン　生きかえった恐竜アロザ」は、テレビシリーズ18話をブロウアップして上映したもの。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'72.7.22(土)	赤胴鈴之助	54分	七条　門 山崎　晴哉	岡部　英二	楠部大吉郎	影山　仁
		詳細不明				
	天才バカボン	14分	吉田　喜昭	斎藤　博	芝山　努	影山　仁
	別れはつらいものなのだ	29回Bパート「別れはつらいものなのだ」を上映				
	かしの木モック	25分	酒井あきよし	九里　一平	不詳	多田喜久子
	ぼくはなかない	詳細不明				
	＊実写併映作品「ゴジラ・エビラ・モスラ 南海の大決闘」（リバイバル）、「ミラーマン 生きかえった恐竜アロザ」					

NO. 109 パンダ・コパンダ



72年12月17日（日）東宝系封切　33分
併映作品／ゴジラ電撃大作戦、怪獣大奮戦　ダイゴロウ対ゴリアス（東宝チャンピオンまつり）

【あらすじ】お婆ちゃんが旅行に行ってしまったため、竹林のなかの一軒家で1人暮らしをはじめたミミ子ちゃん。彼女の所にきた最初のお客様は可愛い子パンダのパンちゃんとノンキな性格のパパンダの親子だった。パパンダは親のいないミミちゃんのためにパパになり、ミミちゃんはそのかわりにパンちゃんのママになることにした。パパンダ親子が動物園から抜けだしてきたということがわかり、そしてパンちゃんが河に流されてしまったから、もう大変！
【解説】童話的なあたたかさと質の高いユーモアあふれた傑作。高畑勲、宮崎駿、小田部羊一が「長靴下のピッピ」をアニメ化するためＡプロに移籍したが、製作は中断。「ピッピ」にかけた情熱を注ぎこんだのがこの作品である。「ピッピ」で描かれるはずだった『日常性のなかにひそむ魅力を理想化してくっきりと取りだす』というテーマは、この作品を経て「ハイジ」「三千里」「赤毛のアン」で結実する。熊倉一雄のパパンダは一世一代の名演技。

原案、脚本／宮崎　駿■演出（監督と同義）／高畑勲■演出助手／向坪利次■画面設定／宮崎　駿■作画監督／大塚康生、小田部羊一■原画／河内日出夫、中村英一、近藤喜文、田中　勉、青木雄三、本多敏行、本木久年、北原健二、鈴木基司、宮崎　駿、香西隆男、小泉謙三、村田耕一、荒木伸吾、才田俊次、山口泰弘、我妻　宏■動画／有原誠治、山田道代、福富　博、春貴健二、前田みのる、窪田正史、島田和義、後上義隆、鈴木幸雄ほか■美術監督／福田尚郎■背景／現代制作集団　伊藤雅人、千葉康之、佐藤悦夫、谷　博次、野崎俊郎、藤崎明男、五十嵐広子、吉沢久美子、本間優美子、滝池　昇、北川公子■仕上監督／山浦浩子■撮影監督／清水達正■撮影／東京アニメーション・フィルム■編集／井上和夫■音楽／佐藤允彦■ＯＰ・ＥＤ「ミミ子とパンダコパンダ」挿入歌「ねんねんパンダ（本篇では未使用）」以上、作詞／真田　巌　作曲／佐藤允彦　唄／水森亜土■録音／田代敦巳■制作協力／Ａプロダクション■制作／東京ムービー■声の出演　ミミ子（杉山佳寿子）　パパンダ（熊倉一雄）　パン（太田淑子）　おまわりさん（山田康雄）　おばあちゃん（瀬能礼子）　先生（峰　恵研）　動物園長（和田文雄）　万屋のおじさん（堰　哲也）　ミミ子のクラスメート・ナナ（丸山裕子）　同カヨ（松金よね子）　同ダイ（山岡葉子）　いじめっ子（市川治）　八百屋のおばさん（沼波輝江）

'73 昭和48年

'72年10月、中国から日中友好親善使節として贈られたパンダはたちまち大ブームを巻き起こし、この人気にあやかるべく、早速パンダを主人公にした劇場用アニメーションの企画が立てられた。その先陣を切ったのが同年暮れの「東宝チャンピオンまつり」に併映された、東京ムービー製作の「パンダ・コパンダ」であった。原案・脚本・画面設定／宮崎駿、演出／高畑勲、作画監督／大塚康生・小田部羊一と、スタッフは東映動画から移ってきた（所属はAプロダクション）長編生え抜きのスタッフであった。33分の小品ながら、子供たちを引きこむ力は目覚ましく、この成功が、のちにＴＶアニメ、ひいては長編劇場アニメに新たな潮流を生むもととなるのである。

翌'73年、東宝は続編「パンダコパンダ雨ふりサーカスの巻」を公開。一方の「東映まんがまつり」でも「パンダの大冒険」が公開されたが、これは労働争議のあおりを受けて社内で作業することが出来ず、社外に仕事場をおいて外注スタッフを頼りに制作するという変則的な体制で作られた。両作ともブームに乗って興業的にはヒットした。

夏の「まんがまつり」において、その後の東映劇場用アニメーションをガラリと転換させる作品が登場した。この回、いわゆる名作ものは作られず、かわってメインをとった劇場用新作「仮面ライダーＶ３対デストロン怪人」と併映された「マジンガーＺ対デビルマン」がそれである。そのころＴＶでは「マジンガーＺ」を始祖とする巨大ロボットアニメが変身ブームのなかから台頭しつつあった。そのヒーロー・マジンガーＺと、同じくＴＶアニメヒーロー・デビルマンのワイド画面での競演は子供たちの心をつかんだ。この形式は〝ヒーロー対決シリーズ〟と名づけられる。また、この作品から東映社内班と下請けの外注プロとが分担して制作にあたる体制が定着した。すでに社内のスタッフだけでは作業をまかないきれなくなっていた上、会社側にしてみれば、同様の作業をこなしても人件費が安くすむ外注プロへのバラ出しは、都合のよいことだったのである。

一方、虫プロでは、経営悪化の責任をとって降板した手塚治虫のあとをうけた川畑栄一社長のもと、ヘラルドの大人向け長編第３作としてアニメロマネスク「哀しみのベラドンナ」を製作した。が、制作の大幅な遅れと予算オーバーは致命的で、興業成績も振るわず、結局これが虫プロ最後の作品となった。'73年11月、虫プロは倒産する。

また、この年、東映動画の支柱ともいうべき森康二が退社している。

NO. 110 パンダの大冒険



73年3月17日（土）東映系封切　50分
併映作品／飛び出す人造人間キカイダー、仮面ライダーＶ３、ひみつのアッコちゃん、マジンガーZ、バビル２世、シュッポと公安（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕コウノトリの手ちがいで、クマの国に王子として生まれたパンダのロンロン。パンダの王位継承に反対するヒグマのデモンを必死にとめる長老や王女様の思いに反し、ロンロンはクマの王様として勇気を試される滝のぼりに失敗、掟により国を追放される。悲しむ女王様を残し、コグマのピンチとともに旅に出たロンロンをさらにつけねらうデモンの手下・ポン太。ところがロンロンたちは、人間の罠にかかり、サーカスにいれられてしまう。

〔解説〕東映動画がロックアウトに揺れるなか、ほとんど外注作業により製作された長編作品。テレビの魔女っ子路線に多くかかわってきた高橋信也が、劇場作品として初の作画監督をつとめた。内容は、従来の長編に見られたようなドラマ性や舞台の工夫などが少なく、魅力の薄い作品となったが、パンダブームに便乗して作られたという背景もあり、興業的には成功を収めた。また、原画参加の森康二は、本作が東映動画での最後の劇場作品となった。

製作／登石雋一■企画／横山賢二■製作担当／茂呂清一■製作進行／井出昭一郎、白根基万、鳥本　武■脚本／山浦弘靖■演出（監督と同義）／芹川有吾■演出助手／中込綏彦■作画監督／高橋信也■原画／大工原　章、野田卓雄、細田暉雄、白川忠志、森康二■動画／田代和男、小林慶輝、長沼寿美子、山田みよ■美術監督／福本智雄■背景／内川文広、伊藤岩光、陶山尚治、杉本隆一■仕上検査／小椋正豊■トレース／宮沢あき子、長田幸子■彩色／下田広秋、梢　志津子■特殊効果／佐藤章二■撮影スタジオ珊瑚礁、森口洋輔■編集／千蔵　豊■音楽／小杉太一郎■ＯＰ「パンダの行進曲」作詞／山浦弘靖　作曲小杉太一郎　歌／コロムビアゆりかご会、サニー・シンガーズ■録音／神原広巳■音響効果／ＥＭプランニングセンター■現像／東映化学■声の出演　ロンロン（太田淑子）　フイフイ（平井道子）　女王（山本圭子）　ピッチ（野村道子）　トジナ（増山江威子）　長老（八奈見乗児）　デモン（富田耕生）　ポン太（大竹　宏）　ジャンボ（野沢雅子）　フーテンの虎（永井一郎）　モン次郎（田の中　勇）　座長（北川国彦）（青二プロ）

NO. 111～113 春休み 東映まんがまつり



〔解説〕「飛び出す　人造人間キカイダー」は、「赤影」に続く立体映画の２本目。物語も、新キャラのマダラスナトカゲを含むダーク新生破壊部隊20体を相手に大活躍する〝まんがまつり〟らしいもの。「仮面ライダーＶ３」は、テレビ放映２話「ダブルライダーの遺言状」を上映。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'73.3.17(土)	パンダの大冒険	No.110参照				
	ひみつのアッコちゃん	25分	安藤　豊弘	勝間田具治	森　利夫	横井　三郎
		34話「あしたの花園」を上映				
	マジンガーZ	25分	高久　進	白根　徳重	若林　哲弘	辻　忠直
		5話「ゴースト・マジンガー出現」				
	バビル２世	25分	安藤　豊弘	田宮　武	荒木　伸吾	浦田　又治
		2話「恐怖の岩石巨人ゴーリキ」				
	＊実写併映作品「飛び出す人造人間キカイダー」、「仮面ライダーＶ３」					

NO.
114 パンダ・コパンダ
雨ふりサーカスの巻



73年3月17日（土）東宝系封切　38分
併映作品／ゴジラ対メガロ、ジャングル黒べえ、飛び出せ！青春（東宝チャンピオンまつり）

【あらすじ】毎日楽しく暮らしているミミちゃんとパパンダとコパンダのもとに、サーカスからトラちゃんがやってきた。ミミちゃんはトラちゃんをはじめサーカスの人々と仲よくなり、サーカスに招待された。ところがその夜はものすごい雨。朝、起きるとあたりは一面、洪水のため湖のようになっていた。そして、サーカスの動物たちが水のため困っていることを知ったミミちゃんとパパンダとコパンダは、ベッドをボートにして、動物たちの救出に向かった。
【解説】先に公開された「パンダコパンダ」の続編。前作より宮崎駿の個性が発揮され、絵的なアイデアが画面にあふれた楽しい作品となった。童話的世界と日常性の中間だった前作よりも、より童話に近い作品となっている。また、水中の描写など小林七郎の美術にも見るべきところが多い。のちに「コナン」などの作品で宮崎駿が評価されるなかで、名画座などで公開され、前作とともに一種のカルト・ムービーとしてマニアに受け入れられることになる。

脚本／宮崎　駿■演出（監督と同義）／高畑　勲■演出助手／熊崎哲男■画面構成／宮崎　駿■作画監督／大塚康生、小田部羊一■原画／河内日出夫、近藤喜文、竹内留吉、中村英一、青木雄三、本多敏行、本木久年、大塚康生、宮崎　駿、小田部羊一、村田耕一、才田俊次、矢沢則夫、金沢比呂司■動画／平田珠代、有原誠治、山田道代、福富　博、春貴健二、上のめぐみ、大竹伸一、堀江孝男、大島　聡、田中ともこ、村田まり子、棚橋一徳、棚橋美智子、福原兼節、須田裕美子、千葉雅子、篠原　六■美術設定／宮崎　駿■美術監督／小林七郎■背景／小林プロダクション　中野一郎、平川栄治、水谷利春、男鹿和雄、清水一利、窪田順子、熊谷賢二■仕上監督／山浦浩子■撮影監督／清水達正■撮影／東京アニメーションフィルム■編集／井上和夫■音楽／佐藤允彦■ＯＰ・ＥＤ「ミミ子とパンダコパンダ」挿入歌「ねんねんパンダ」　以上、作詞／真田　巌　作曲／佐藤允彦　唄／水森亜土　東宝レコード■録音／田代敦巳■技術／新坂スタジオ■効果／石田サウンド・グループ■制作協力／Ａプロダクション■制作／東京ムービー■声の出演　ミミ子（杉山佳寿子）　パパンダ（熊倉一雄）　パン（丸山裕子）　トラ（太田淑子）　サーカス団員（山田康雄）　サーカス団長（和田文夫）　おまわりさん（安原義人）　ミミ子のクラスメート・ナナ（弥永和子）　同カヨ（松金よね子）　（テアトルエコー研究員）

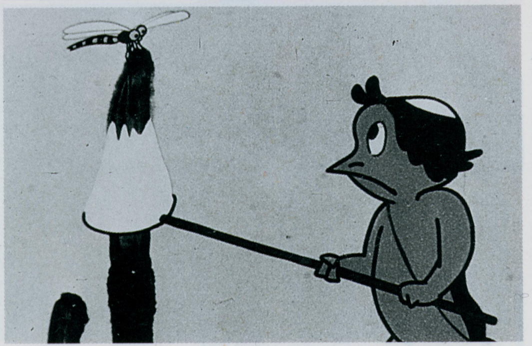
NO.
115 春休み　東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「ゴジラ対メガロ」は、地上の核実験のため領土の一部を破壊された海底王国シートピアが、怪獣メガロを地上に放った。ゴジラと正義のロボット・ジェットジャガーとメガロの死闘を描いた作品。前作に続き、人気の高いサイボーグ怪獣ガイガンも登場した。

封切日	タイトル	上映時間	脚　本	演　出	作画監督	美　術
'73.3.17(土)	ジャングル黒べえ	13分	吉田　喜昭	出崎　統	椛島　義夫	小林　七郎
		2回Bパート「神さまさかだちベッカンコ！の巻」を上映				
	パンダ・コパンダ 雨ふりサーカスの巻	No.114参照				
＊実写併映作品「ゴジラ対メガロ」、「飛び出せ！青春」						

NO.
116 日本漫画映画発達史 アニメ新画帖



73年3月31日（土）東宝東和配給　40分
併映作品／フリッツ・ザ・キャット

▲写真は「かっぱの川太郎」

【内容】戦後の日本のアニメーション作品を紹介する。主な作品――「かっぱの川太郎」「ふくすけ」「こねこのらくがき」「白蛇伝」「鉄腕アトム」「人間動物園」「池田屋騒動」「追跡」「幻影都市」「新・二匹のさんま」「新天地創造」「展覧会の絵」「プラス５万年」など。
【解説】「漫画誕生」に続き、72年に製作された第２部戦後篇。

企画／飯田心美、田中純一郎、斎藤宗岳、杉本五郎、藪下泰次■脚本／飯田心美■アニメーション／木下蓮三■撮影／岸本政由■音楽／愛場俊彦■録音／深尾昌司■協力／朝日新聞社、東映動画、虫プロダクション、ＴＣＪ、ピープロダクション、東京ムービー、フィルムアート社、東京コマーシャルフィルムほか■製作／日本動画ＫＫ■収録作品　かっぱ川太郎（27三井芸術プロダクション・日動映画：飯沢匡、藪下泰司）　ふくすけ（32おとぎプロダクション：横山隆一）　こねこのらくがき（32東映動画：藪下泰司、森　康二）　夢見童子（33東映動画：蕗谷虹児）　白蛇伝（33東映動画：藪下泰司、森　康二、大工原　章）　鉄腕アトム（39虫プロダクション：手塚治虫）　人間動物園（36　久里洋二）　池田屋騒動（37　柳原良平）　追跡（41　真鍋　博）　幻影都市（42　島村達雄）　新・二匹のさんま（43　久里洋二）　新天地創造（45　月岡貞夫）　展覧会の絵（41虫プロダクション：手塚治虫）　プラス５万年（35　鈴木伸一）

NO.
117 哀しみのベラドンナ

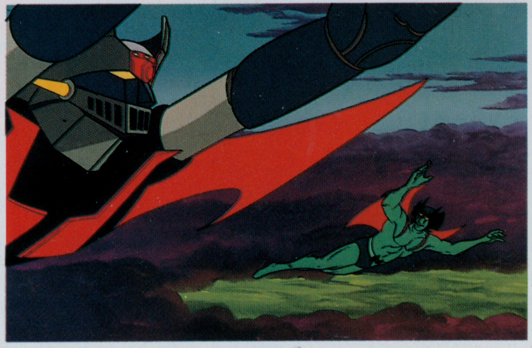


73年6月30日（土）日本ヘラルド映画配給　１時間29分

〔あらすじ〕中世フランスの農村。愛し合うジャンとジャンヌは、貧しいが幸せだった。だが婚礼の日、〝神の化身〟である領主は、貢物としてジャンヌを犯し、大勢の兵士たちに輪姦させる。また戦争の費用調達に失敗したジャンも左手首を切り落とされてしまった。そして次第につのる神への不信から悪魔と対話をはじめ、悪魔つきとして村人に追われるジャンヌをジャンは突き放す。傷ついたジャンヌは野に逃れ、ついにその全てを悪魔に委ねてしまうのだった。
〔解説〕原作は歴史学者ジュール・ミシュレの「魔女」。ベラドンナとはイタリア語で美女を意味する毒草の名前である。設定デザインをイラストレーターの深井国が担当。監督の杉井ギサブローにより、日常的場面は止め、幻想的・心理的描写の場面は動かすという演出手法がとられた。試写版、公開版、リバイバル版の３バージョンがあり、主としてラストが異なる。試写後の大幅なリテイクで制作費がかさみ、興業的にも不振で、虫プロはこの作品を最後に倒産。

原作／ジュール・ミシュレ（翻訳／篠田浩一郎）　現代思潮社刊「魔女」より■製作／渡辺忠美、吉田輝明、本橋　誠、小池桂子■脚本／福田善之、山本暎一■監督／山本暎一■作画監督／杉井ギサブロー■原画／前田庸生、辻　伸一、勝井千賀雄、野部駿夫、岡田敏靖、出崎　統、吉田忠勝、羽根章悦、福田きよむ、光延博愛、北川玲子、村田四郎、関　修一■動画／小林準治、牛越和夫、猿山二郎、千田幸也、吉橋　節、新井雅貴、岩崎治彦■作画協力／林　静一、ウノ・カマキリ■美術／深井　国■美術助手／児玉喬夫、下道文治、馬郡美保子、佐々木順子、吉佐小吉重、近井美穂■アニメ撮影／山崎　茂、月岡英生、柴田昌利、宮内征雄、熊谷愰史、藤田正明、宮坂光一郎ほか■編集／古川雅士■音楽／佐藤允彦■ＯＰ「哀しみのベラドンナ」作詞／阿久　悠　作曲／小林亜星　編曲／川口　真　歌／橘まゆみ　挿入歌「青い鏡のなかで」ほか　作詞／中山千夏　作曲／佐藤允彦　歌／中山千夏　サントラ盤／シネディスク■音響監督／田代敦巳■録音／岩田広一■製作／虫プロダクション■声の出演　ジャンヌ（長山藍子）　ナレーター（中山千夏）　領主（高橋昌也）　司祭（米倉斉加年）　ジャン（伊藤孝雄）　奥方（しめぎしがこ）　道化師（津坂匡章）　（山谷初男）（新村礼子）（林　昭夫）（山口　譲）（磯貝陽悟）（石橋雅史）（折尾吉郎）（伊東満智子）（後久　博）（菊池剣友会）　悪魔（仲代達矢）

NO.
118 マジンガーZ対デビルマン



73年7月18日（水）東映系封切　43分
併映作品／仮面ライダーV3対デストロン怪人、人造人間キカイダー01、バビル2世
赤ちゃんは超能力者、魔法使いサリー（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕マジンガーZ打倒に執念を燃やすDr.ヘルは、地球の先住民族で超能力を操るデーモン族を使ってZを倒そうと企んだ。ヘルの動きを察知したデビルマンは、不動明の姿で兜甲児のもとへ向かう。そのころ光子力研究所ではマジンガーZの翼ジェットスクランダーが完成した。だが、研究所に潜入した妖獣シレーヌによってスクランダーは大きな傷を受け、さやかとシローが連れ去られてしまう。デビルマンは2人を救出し、甲児とともに戦うことを誓った。

〔解説〕作品世界と放映局を異にするテレビの2大ヒーローが競演するという、かつてないスケールで、劇場アニメ史に残る革命的な作品となった。制作は主にマジンガー側のスタッフが担当。両作品で演出をこなしている勝間田具治が、シネスコサイズを縦横無尽に使った迫力ある画面を展開した。作画面では、枚数をかけた機械獣の重厚な動きやシレーヌら妖獣の残忍な表情は、劇場ならではのものとなった。なお、ジェットスクランダーはテレビに先駆けて登場。

原作／永井　豪とダイナミック・プロ■製作／登石雋一■企画　有賀　健、勝田稔男■進行／吉岡　修■脚本　高久　進■演出（監督と同義）／勝間田具治■演出助手　遠藤勇二■作画監督／角田紘一■原画　奥山玲子　菊池貞雄、木野達児、金山通弘、窪　詔之、小松原一男、白土　武、中村一夫■動画／森　英樹、小林敏明、小川明弘、坂野隆雄、薄田嘉信、服部照夫、阿部　隆、長沼寿美子、山田みよ■美術　浦田又治■背景／勝又　激、赤保谷アイ子、勝保公美子、柿沼雅人、福田和矢、牧野光成■仕上検査／小椋正豊、森田　博■ゼログラフ／高橋　章■トレース／入江三帆子、黒沢和子■彩色／矢部和子、宮城邦子■特殊効果／浜　桂太郎、佐藤章二■撮影／平尾三喜、目黒　宏■編集／古村　均■音楽／渡辺宙明、三沢　郷■ＥＤ「空飛ぶマジンガーＺ」作詞／高久　進　作曲／渡辺宙明　歌／水木一郎、コロムビアゆりかご会■録音／神原広巳■音響効果／畑　英彦■声の出演　兜　甲児（石丸博也）　デビルマン、不動　明（田中亮一）　ドクター・ヘル、魔将軍ザンニン（富田耕生）　マダム・シレーヌ（里見京子）　弓　弦之介、ポチ（八奈見乗児）　弓さやか（松島みのり）　あしゅら男爵（男女両性）（柴田秀勝、北浜晴子）　ボス、せわし博士　（大竹　宏）　兜シロー（沢田和子）　のっそり博士（矢田耕司）　ムチャ（田の中　勇）　妖獣ブゴ（青木笑児）　アルフォンヌ（永井一郎）　（青二プロ）

NO.
119~120 夏休み 東映まんがまつり



〔解説〕テレビの2大ヒーローを競演させた「マジンガーZ対デビルマン」のヒットは、それまで名作長編であった〝まんがまつり〟を、テレビ作品寄りにしていくことになる。新作「仮面ライダーV3対デストロン怪人」は、3人目の仮面ライダーであるV3とダブルライダーが、四国を舞台にタイホウバッファローたちデストロン怪人と戦う物語。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'73.7.18(水)	マジンガーZ対デビルマン	No.118参照				
	バビル2世	24分	雪室　俊一	田宮　武	荒木　伸吾	伊藤　英治
	赤ちゃんは超能力者	21話「赤ちゃんは超能力者」を上映				
	魔法使いサリー	24分	安藤　豊弘	芹川　有吾	羽根　章悦	山崎　誠
		89話「バンザイ！キャンプファイアー」を上映				
＊実写併映作品「仮面ライダーV3対デストロン怪人」、「キカイダー01」、「ロボット刑事」						

NO.
121~122 夏休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「ウルトラマンタロウ」は、第1話「ウルトラの母は太陽のように」を劇場公開。「科学忍者隊ガッチャマン」は、初期のエピソードのなかでも特に有名な「火の鳥対火喰い竜」が選ばれた。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'73.7.28(土)	科学忍者隊ガッチャマン	25分	不詳	鳥海　永行	宮本　貞雄	不詳
		22話「火の鳥対火喰い竜」を上映				
	山ねずみロッキーチャック	25分	久保田圭司	遠藤政治	岡迫　亘弘	伊藤　主計
		3話「ロッキーとポリー」を上映				
＊実写併映作品「怪獣島の決戦 ゴジラの息子」（リバイバル）、「レインボーマン」、「ウルトラマンタロウ」、「おもちゃ屋ケンちゃん」						

NO.
123~126 冬休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「ウルトラマンタロウ　燃えろ！ウルトラ6兄弟」は、テレビシリーズ第25話を上映。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'73.12.20(木)	侍ジャイアンツ	24分	松岡　清治	長浜　忠夫	大塚　康生	小林　七郎
		1話「ほえろ！バンババン」を上映				
	山ねずみロッキーチャック	25分	大川　久男	遠藤　政治	もりやすじ	伊藤　主計
	がんばれチャタラー	39話「がんばれチャタラー」を上映				
	エースをねらえ！	24分	田村多津夫	出崎　統	杉野　昭夫	龍池　昇
		1話「テニス王国のシンデレラ」を上映				
	科学忍者隊ガッチャマン	25分	不詳	鳥海　永行	宮本　貞雄	不詳
	電子怪獣レンジラー	37話「電子怪獣レンジラー」を上映				
＊実写併映作品「キングコングの逆襲」（リバイバル）、「ウルトラマンタロウ 燃えろ！ウルトラ6兄弟」						

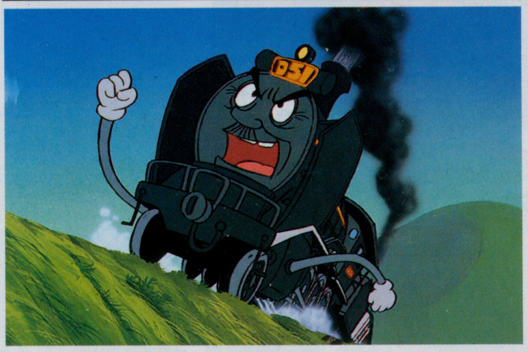
’74 昭和49年

’74年春の「まんがまつり」では、折からの機関車ブームにのって、小学校の国語の教科書にもとり上げられている児童文学を原作にした「きかんしゃやえもんD51の大冒険」が公開された。これは久々に1時間を越す長編だったが、実は全体の1/3に実写を使っているものだった。それでも会社側の締めつけは厳しく、予算をオーバーしたら、今後長編は作らないとまで申し渡されたそうである。

夏「まんがまつり」のメインは〝フィンガー5と遊ぼう！〟のサブタイトル通り、TVの人気グループを使った実写映画「フィンガー5の大冒険」であったが、併映として〝対決シリーズ〟第2弾「マジンガーZ対暗黒大将軍」が製作された。巨大ロボットアニメブームのなか、TV放映に先立って新シリーズのヒーロー・グレートマジンガーを登場させ、その交代劇を鮮烈に展開したこの作品は、究極のロボットアニメとまで謳われている。〝マジンガー対決シリーズ〟は子どもたちの圧倒的支持を受け、以後「まんがまつり」ごとに新作が作られ、それまでの名作長編中心の「まんがまつり」から、TV先導型の’70年代の「まんがまつり」を作りだしていくのである。また、この〝対決シリーズ〟は、会社側にしてみれば、スタッフがスタジオ内に集中して練り上げていく、かつての長編と違い、作業を各下請けプロに任せることができて、制作費もスケジュールも抑えのきく、しかも玩具メーカーと提携してのマーチャンダイジングのうまみもあり、なおかつ子どもの受けもいいと、願ったり叶ったりのものだったのである。

一方、虫プロの元スタッフが集まって’79年に結成したグループ・タックは、ヘラルドと組んで長編ミュージカル・アニメーション「ジャックと豆の木」を製作、7月に公開した。これは原画家が各々のキャラクターを分担して描くという珍しい方式がとられた。また、スタジオには、倒産した虫プロを借用してあてていた。

NO.127 きかんしゃやえもんD51の大冒険



74年3月16日（土）東映系封切　1時間2分
併映作品／飛び出す立体映画イナズマン、仮面ライダーX、マジンガーZ対ドクターヘル、ミラクル少女リミットちゃん、キューティーハニー（東映まんがまつり）

【あらすじ】踏切りで立ち往生してしまった年老いたD51蒸気機関車やえもん。彼は仲間の電気機関車のごんた、新幹線のマッハらにさんざんバカにされる。正少年やネズミのチュー兵衛一家らは、すっかり落ちこんだやえもんを励ますが、彼はとうとう田舎の機関区へと移される。しかも駅長たちは、彼をスクラップにしようとする。そんなとき、駅に押し入った3人組のギャングがディーゼル機関車ハイハイに乗って逃亡。やえもんは彼らを必死に追跡する。

【解説】SLブームの最盛期、阿川弘之の短編小説「きかんしゃやえもん」に原作を求めて製作した東映動画の漫画映画。1時間2分の本編の約3分の1が、蒸気機関車の実写フィルムという異色な構成の作品となっている。アニメ部分、実写部分ともに、実写出身の田宮武が演出を担当している。ネズミや犬などの動物キャラは、原作にないオリジナルキャラクター。

原作／阿川弘之（岩波子供の本）■製作／登石雋一■企画／有賀　健、横山賢二、加茂秀男■製作担当／茂呂清一■脚本／山本英明、松本　功■演出（監督と同義）／田宮　武■演出助手／宮崎一哉■作画監督／大工原　章■原画／奥山玲子、角田紘一、森英樹、木野達児、金山通弘、小田克也、阿部　隆、小松原一男、古沢日出夫■動画／小林敏明、坂野隆雄、小川明弘、服部照夫、薄田嘉信、山田みよ、長沼寿美子、鈴木英二、中村　明■美術監督／辻　忠直■背景／勝又　激、赤保谷アイ子、柿沼雅人■検査／小椋正豊、森田　博■トレース／坂野園枝、谷口恭子、入江三帆子■彩色／中林伸子、坂本好子、矢部和子、藤橋清美■特殊効果／岡田良明、林　富喜江■撮影／片山幸男、武井利晴■実写撮影／杉山君弘■編集／古村　均■音楽／渡辺岳夫■OP「きかんしゃやえもん」作詞／浦川しのぶ　歌／水木一郎、ロイヤルナイツ　作曲／渡辺岳夫■録音／二宮健治■声の出演　やえもん（熊倉一雄）　正くん（里見京子）　リンリン（平井道子）　タンタン（丸山裕子）キング（滝口順平）　ハイハイ（山下啓介）　マッハ（千々松幸子）　イサム（山本圭子）ドラ（峰　恵研）　ハナウタ（つかせのり子）　チュー兵衛（富田耕生）　ゴン太（柴田秀勝）　ジャンボ（八奈見乗児）　エントツ（山田順司）　キッド（田の中　勇）　チュー子（高橋和枝）　（青二プロ）

NO.128~130 春休み 東映まんがまつり



〔**解説**〕お色気アクションアニメ「キューティーハニー」は、シリーズ中の最高傑作といわれる12話「赤い真珠は永遠に」を上映。キャラデザインの荒木伸吾の流麗なキャラクターが美しい画面を作りあげていた。「飛び出す立体映画　イナズマン」は、「赤影」「キカイダー」に続く3本目の立体映画。「仮面ライダーX」は、テレビシリーズの3話「暗殺毒クモ作戦!!」を上映。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
’74.3.16(土)	きかんしゃやえもんD51の冒険	No.127参照				
	マジンガーZ対ドクターヘル	25分	藤川　桂介	芹川　有吾	中村　一夫	秦　秀信
		57話「Dr.ヘル日本占領」を上映				
	ミラクル少女リミットちゃん	24話	雪室　俊一	田宮　武	岡田　敏靖	土田　勇
		5話「ぼくのおヨメさん」を上映				
	キューティーハニー	23分	高久　進	設楽　博	荒木　伸吾	伊藤　英治
		12話「赤い真珠は永遠に」を上映				
	＊実写併映作品「飛び出す立体映画イナズマン」、「仮面ライダーX」					

NO. 131~133 春休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「ゴジラ対メカゴジラ」は〝ゴジラ誕生20周年記念映画〟として製作された作品で、沖縄ロケを敢行した。「ハロー！フィンガー５」は、大人気のグループ・フィンガー５の魅力が満載された映画。「ウルトラマンタロウ　血を吸う花は少女の精」は、テレビシリーズの11話（脚本　木戸愛楽　監督　山際永三　特殊技術　木平隆）を劇場公開。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'74.3.21(木)	新造人間キャシャーン	25分	鳥海　尽三	笹川ひろし	林　政行	中村　光毅
		1話「不死身の挑戦者」を上映				
	侍ジャイアンツ	24話	谷　あさこ	長浜　忠夫	大塚　康生	小林七郎
	殺生河原の決闘	14話「殺生河原の決闘」を上映				
	アルプスの少女ハイジ	25分	吉田　義昭	高畑　勲	小田部羊一	井岡　雅宏
		4話「もう一人の家族」を上映				
	＊実写併映作品「ゴジラ対メカゴジラ」、「ウルトラマンタロウ 血を吸う花は少女の精」、「ハロー！フィンガー５」					

NO. 134 ジャックと豆の木

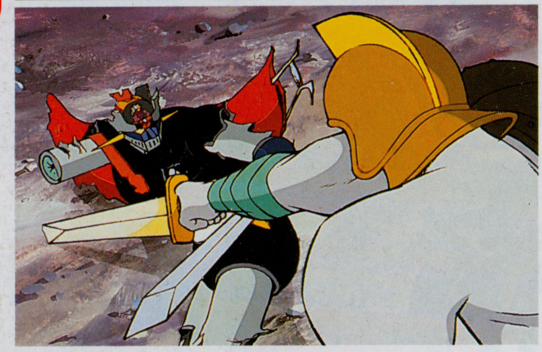


74年7月20日（土）日本ヘラルド映画配給　1時間38分

〔あらすじ〕農家のひとり息子ジャックは、乳の渇れた牝牛を、オルガン弾きの男の持つ〝奇跡を起こす豆〟と交換した。ジャックの愚行に腹をたてた母親に投げ捨てられた豆は、その夜芽をふき、蔓をのばして天まで届く大木となった。ネズミの案内で愛犬グロスビーとともに雲の上に登ったジャックは、悪魔ノワール夫人によって魔法をかけられた妖精のマーガレット姫に会う。夫人は息子のチューリップとマーガレットを結婚させて王国をのっとろうと企んでいた。
〔解説〕田代敦巳ら８人のメンバーを中心とするグループ・タックが自主製作したミュージカル風の作品。原画４万6000枚を要したフルアニメで、アニメーターの個性をキャラクターの芝居に反映させるため、各キャラクターをそれぞれひとりの原画マンが担当する〝キャラクターシステム〟が採用された。監督は劇場第１作になる杉井ギサブロー。シュールな画面と軽快なアクションを巧みに織りなした、虫プロ版「長猫」ともいうべき傑作に仕上がっている。

プロデュース／中田実紀雄■プロデュースアシスタント／加藤真人■製作デスク／松田和子、清水暁子■製作進行／福島信行■脚本／平見修二■監督／杉井ギサブロー■監督助手／はしもとなお■動画（原画と同義）／（ジャック）山本　繁、（マーガレット）前田庸生、（巨人）上口照人、（グロスビー）三輪孝輝、（ノワール夫人）中村和子、（ミイ、鼠たち）平田敏夫、（豆の木、竪琴）赤堀幹治、（タイトル・アニメーション）月岡貞夫■アシスタント・アニメーター（動画と同義）／小林準治、松山マヤ、森　安夫、岩崎治彦、多賀深美、半田輝雄、高橋春男、山守啓陽、阿部　明■美術／児玉喬夫、内田好之、阿部幸次、藤本四郎■背景／竹森佳史、青木　稔■色彩設定／馬郡美保子■セルワーク（仕上と同義）／新井正春、三宅敏博、清水　訓■撮影／ＶＡＣ、森山　一、河合　注、須崎博志、大石雅昭■編集／古川雅士■ミュージカルディレクター／渋谷森久■音楽構成／阿久　悠■作曲、編曲／三木たかし、都倉俊一、井上忠夫■音楽監督／田代敦巳■効果／柏原　満■製作／グループ・タック、日本ヘラルド映画■声の出演　ジャック（市村正親）　マーガレット姫（山本リンダ）　豆売りの老人（西村　晃）　ノワール夫人（悠木千帆）　司祭（日下武史）　巨人、チューリップ王子（水島　弘）　竪琴（一谷伸江）　お母さん（麻生美代子）　老犬グロスビー（上村一夫）　口上（左　とん平）

NO. 135 マジンガーZ対暗黒大将軍



74年7月25日（木）東映系封切
併映作品／フィンガー５の大冒険、五人ライダー対キングダーク、イナズマンF、ゲッターロボ、魔女っ子メグちゃん（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕ある夏の暑い一日。海水浴をしていたボスは、この世の終りを告げる予言者の姿を見た。そして、それを裏づけるかのように、世界中の各都市が謎のロボット軍団の襲撃を受けた。地底奥深くに潜むミケーネ帝国の支配者・暗黒大将軍が七つの軍団を率いて地上侵略を開始したのだ。甲児はマジンガーＺを駆って出撃するが、獣魔将軍、ダンテ、アンギモンら戦闘獣軍団の圧倒的な強さの前に、満身創痍となる。そのとき……。
〔解説〕マジンガーＺからグレートマジンガーへの、ヒーロー交代劇をテレビに先駆けて描いた作品。無敵を誇ったマジンガーＺは無残に破壊され、その窮地を救うグレートマジンガーの登場……といった内容は、他に例を見ない衝撃的かつ常識破りな展開となった。演出の西沢信孝、作監の角田紘一らが、長期のテレビシリーズで確立したスタイルを余すことなく注ぎこみ、世紀のヒーローの交代劇を力強く描いた。剣鉄也の声は正式キャスト未決定のため田中亮一が担当。

原作／永井　豪とダイナミックプロ■製作／登石雋一■企画／有賀　健、旗野義文■製作担当／茂呂清一■脚本／高久　進■演出／西沢信孝■演出助手／遠藤勇二■作画監督／角田紘一■原画／奥山玲子、森　英樹、木野達児、金山通弘、小田克也、阿部隆、小松原一男、森下圭介、小泉謙三、飯野　皓、津野二朗■動画／小川明弘、小林敏明、坂野隆雄、服部輝夫、薄田嘉信、田村晴夫、山田みよ、長沼寿美子、久保寺輝彦、白川忠志■美術監督／辻　忠直■背景／下川忠海、勝又　激、柿沼雅人、新井寅雄、遠藤重義、杉本隆一■トレース／奥西紀美子、五十嵐令子、谷口恭子■ゼログラフ／冨永　勤、林　昭夫■検査／森田　博、小椋正豊■特殊効果／林　富喜江、岡田良明■撮影／吉村次郎、相磯嘉雄■編集／千蔵　豊■音楽／渡辺宙明■ＯＰ「空飛ぶマジンガーＺ」作詞／高久　進　挿入歌「グレートマジンガー」作詞／小池一雄　以上、作曲／渡辺宙明　歌／水木一郎■録音／池上信照■選曲／賀川晴雄■音響効果／伊藤道広■録音スタジオ／タバック■記録／大橋千加子■現像／東映化学■（製作／東映（東映動画））■声の出演　兜　甲児（石丸博也）　剣　鉄也（田中亮一）　弓　さやか（江川菜子）　兜　シロー（沢田和子）　弓教授（八奈見乗児）　兜　剣造（大塚周夫）　ボス（大竹　宏）　ムチャ（田の中　勇）　ヌケ（富田耕生）　（小林清志）（内海賢二）（加藤　修）（野田圭一）／青二プロ

NO. 136~137 夏休み 東映まんがまつり



〔解説〕テレビに先がけてヒーローの交代劇を描いた「マジンガーＺ対暗黒大将軍」は、前年の「マジンガーＺ対デビルマン」に続いて、たいへんにインパクトの強い１本だった。
同時上映の実写作品「フィンガー５の大冒険」は、石森章太郎が監督をつとめ、仮面ライダーＶ３も登場した。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'74.7.25(木)	マジンガーZ対暗黒大将軍	No.135参照				
	ゲッターロボ	25分	田村多津夫	生頼　昭憲	野田　卓雄	辻　忠直
		6話「恐竜！東京ジャック作戦」を上映				
	魔女っ子メグちゃん	24話	山浦　弘靖	芹川　有吾	荒木　伸吾	土田　勇
		1話「すてきな魔女がやって来た」を上映				
	＊実写併映作品「五人ライダー対キングダーク」、「フィンガー５の大冒険」、「イナズマンF」					

'75〜76 昭和50〜51年

'75年春の「まんがまつり」は、アンデルセン没後100年記念と銘打った「にんぎょ姫」を公開。これはデンマークロケの実写部分を含むものの、68分と久々の新作劇場用長編であり、内容的にも、かつての長編のおもかげを持っていた。

併映には、完全に定着した〝ヒーロー対決シリーズ〟第3弾「グレートマジンガー対ゲッターロボ」と、実写併用の「これがＵＦＯだ！空飛ぶ円盤」の２本が新作されたが、これまでの原動画だけでなく、初めて作画監督にも外注プロのスタッフが起用された。

夏には長編の新作はされず、'70年の公開作「ちびっ子レミと名犬カピ」を「家なき子」と改題して再公開。このの ち、春に名作ものの新作、夏には過去の作品のリバイバルという形式が続くが、これはオイル・ショックによる制作縮小の方針のほかに、どうもＴＶ作品のブローアップだけでは、子どもは喜んでも、映画館に子どもを連れて行く親の側の受けが悪いからでもあったらしい。いずれにしても、この状態を打破するには、'77年の「宇宙戦艦ヤマト」にはじまる劇場用長編アニメブームを経て、上映作品全てを新作で固める'80年代の「まんがまつり」まで待たねばならなかった。

併映は「グレートマジンガー対ゲッターロボ空中大激突」と「宇宙円盤大戦争」の２本の新作中編。巨大宇宙ロボット・ガッタイガーが登場する「宇宙円盤大戦争」は、のちのＴＶシリーズ「ＵＦＯロボ・グレンダイザー」の母胎となったが、映画がＴＶ作品のパイロット版の役目を果たしたわけだ。

'76年春、三たび「長靴をはいた猫」のキャラクターを使用して、今度はジュール・ヴェルヌの世界名作の舞台に登場させた「長靴をはいた猫80日間世界一周」が製作された。が、第一作のキャラクターを作りだした森康二も、他のスタッフの多くも、すでに東映動画を去っており、これは全く別のスタッフの手になるものである。併映の新作は「ＵＦＯロボ・グレンダイザー対グレートマジンガー」。

この夏も新作長編は公開されず、'71年の「アリババと40匹の盗賊」をリバイバル。これに、併映としてＴＶシリーズ３本のヒーローが一同に会した新作「グレンダイザー、ゲッターロボＧ、グレートマジンガー、決戦！大海獣」、さらにＴＶ特撮ものの新作が２本、ＴＶの焼きなおしが３本ついて、計７本がひしめくという、史上最多のまんがまつりとなった。

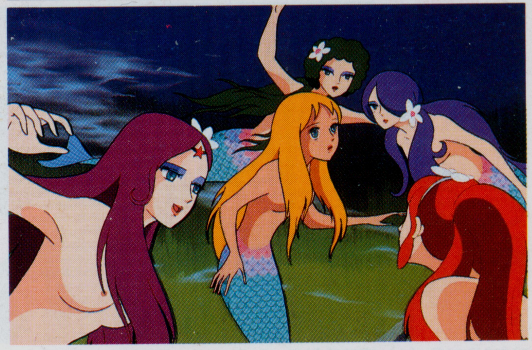
NO. 138〜140 春休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「メカゴジラの逆襲」は、長年続いたゴジラシリーズに一応終止符を打った作品。しばらくゴジラ作品から離れていた本多猪四郎が監督を担当、第１作「ゴジラ」で芹沢博士を演じた怪獣映画の名優・平田昭彦が、そのアンチテーゼともいうべき真船博士役に挑んでいる。「新八犬伝」は、故・坂本九の語りで絶大な人気を博したＮＨＫの人形劇の劇場用新作を上映。

封切日	タイトル	上映時間	脚 本	演 出	作画監督	美 術
'75.3.15(土)	アルプスの少女ハイジ	25分	佐々木 守	高畑 勲	小田部羊一	井岡 雅宏
		45話「山の子たち」を上映				
	はじめ人間ギャートルズ	14分	山崎 晴哉	岡部 英二	香西 隆男	小林 七郎
		1回Bパート「マンモギャーの巻」を上映				
	サザエさん	10分	雪室 俊一	村山 修	不詳	不詳
		76回Aパート「送辞をよむぞ！」を上映				
	＊実写併映作品「メカゴジラの逆襲」、「新八犬伝」、「アグネスからの贈りもの」					

NO. 141 アンデルセン物語 にんぎょ姫



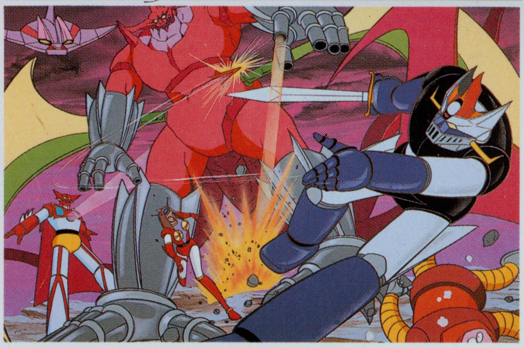
75年3月21日（金）東映系封切　1時間8分
併映作品／グレートマジンガー対ゲッターロボ、これがUFOだ！空飛ぶ円盤、仮面ライダーアマゾン、魔女っ子メグちゃん　月よりの使者、がんばれ!!ロボコン（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕６人姉妹の人魚の末の姫・金髪のマリーナは、ある月夜、海上で豪華船にたたずむ美しい王子の姿を見る。そのとき急な嵐で船は難破、姫は気を失った王子を助け、傷の手当をした。彼に心を奪われた姫は魔女に頼み、薬を飲んで人間となるが、その代償に美しい声を失ってしまう。人間の少女として王子と接することのできた姫は、しばし幸福にひたる。だが王子の心にあるのは、嵐の日、姫が運んだ浜辺で王子を見つけた黒髪の少女であった。

〔解説〕童話の父アンデルセンの没後100年を記念して製作された長編動画。沖縄海洋博の協賛作品でもある。テレビシリーズやロボット物のＢ作中編を多く手がけてきた勝間田具治が、はじめて春の本格長編作品の演出を担当。初の女性作画監督・奥山玲子もベテランらしい切れ味を見せ、悲恋物の佳作に仕上がった。始めと終わりにはデンマークでロケを行った実写部分があり、ベルイマンと組んだカメラマンのヘニング・クリスチャンセンが撮影を担当している。

原作／Ｈ・Ｃ・アンデルセン■製作／今田智憲■企画／有賀 健、高見義雄■製作担当／茂呂清一、白根徳重■脚本／大藪郁子、小山内美江子■演出（監督と同義）／勝間田具治■演出助手／森下孝三■作画監督／奥山玲子■原画／阿部 隆、金山通弘、角田紘一、小川明弘、森 英樹／的場茂夫、荒木伸吾、木野達児、小松原一男／野田卓雄、石黒 育、高橋信也、丹内 司■動画／小林敏明、柴田圭子、坂野隆雄、服部照夫、薄田嘉信、石山毬緒、田村晴夫、長沼寿美子、山田みよ、草間真之介、上梨一也、布告文、小林慶輝、大嶋 聡、長崎重信、藤田 登、小林正義、久保寺輝彦■美術監督／浦田又治、牧野光成■背景／勝又 激、山口俊和、遠藤重義、柿沼雅人、松本健治、海老沢一男■仕上検査／小椋正豊、森田 博■アニメ撮影／池田重好、山田順弘■実写撮影／ヘニング・クリスチャンセン■編集／千蔵豊■音楽／平吉毅州■主題歌「あこがれ」「待っていた人」以上、作詞／岩谷時子 作曲／平吉毅州 歌／大杉久美子■録音／波多野 勲■声の出演 にんぎょ姫マリーナ（樫山文枝） フリッツ（宮城まり子） 王子（志垣太郎） にんぎょの王（柴田秀勝） デューク（富田耕生） かに、ほらがい（肝付兼太） 笛奴（永井一郎） こばんざめ（緒方賢一） 魔女（北浜晴子） にんぎょの老妃（麻生美代子） マリーナの姉姫（杉山佳寿子） ジェミー（沢田和子） 王子の母（山口奈々） スオミの姫（吉田理保子）

NO. 142 グレートマジンガー対ゲッターロボ

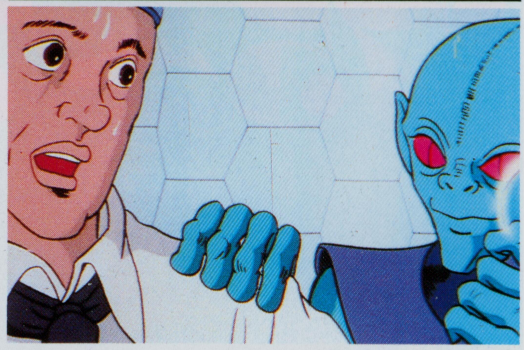


75年3月21日（金）東映系封切　30分
併映作品／アンデルセン童話　にんぎょ姫、これがUFOだ！空飛ぶ円盤、仮面ライダーアマゾン、魔女っ子メグちゃん　月よりの使者、がんばれ!!ロボコン（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕夜の港町に飛来した円盤から放たれた宇宙怪獣ギルギルガンは、周囲にある鉄を次々に食いながら成長をはじめた。グレートマジンガーとゲッターロボは互いへの競争心をむきだしにしながら出撃したが、宇宙からの侵略者を相手に苦戦する。宇宙怪獣を倒すためには2大ロボットの協力が必要と考える兜、早乙女両博士は、ギルギルガンを無人島に誘いこむ作戦を立てた。そして、そのオトリ役をボスボロットが買って出たが……。
〔解説〕永井豪の生みだした2大ヒーロー・ロボットが競演。「グレートマジンガー」の掲載権を持つ講談社と「ゲッターロボ」の掲載権を持つ小学館が、本作に限り提携することで実現化した。スタッフもマジンガー側から監督の明比正行、ゲッター側から作監の小松原一男をそれぞれ起用。互いへのライバル意識をむき出しにする剣鉄也と流竜馬が、共通の敵を前にしてチームワークに目覚めていく姿が印象深く描かれた。ギルギルガンのデザインも秀逸である。

原作／永井　豪、石川　賢、ダイナミックプロ■製作／今田智憲■企画／有賀　健、横山賢二■製作進行／吉岡　修■脚本／藤川桂介■演出(監督と同義)／明比正行■演出助手／遠藤勇二■作画監督／小松原一男■動画／森　利夫、富永貞義■動画／長崎重信、寺司重幸、渋谷早苗ほか■美術／福本智雄■背景／勝又　激、沼井信朗、阿部泰三郎■仕上／高橋達雄、中島正之、前田剛弘■撮影／菅谷信行■編集／本山　収■音楽／渡辺宙明、菊池俊輔■主題歌　作詞／小池一雄、永井　豪　歌／水木一郎、ささきいさお、コロムビアゆりかご会■選曲／宮下　滋■録音／池田信照■効果／石田サウンドプロ■録音スタジオ／タバック■現像／東映化学■記録／的場節代■製作／東映動画

NO. 143 これがUFOだ！空飛ぶ円盤



75年3月21日（金）東映系封切　16分
併映作品／アンデルセン童話　にんぎょ姫、グレートマジンガー対ゲッターロボ、仮面ライダーアマゾン、魔女っ子メグちゃん　月よりの使者、がんばれ!!ロボコン（東映まんがまつり）

〔内容・解説〕世界各地に飛来しているといわれる、謎の空飛ぶ円盤・ＵＦＯに関する事件を、実写、スチールも交えて紹介するドキュメンタリーアニメ。

製作／今田智憲■製作進行／三沢徹夫■監修、資料提供／南山　宏■脚本／辻　真先■演出（監督と同義）／茂野一清■演出助手／福島和美■作画監督／富永貞義■原画／山崎勝彦、山下征二■動画／渋谷早苗、寺司重幸、鈴木紀子、小野　忠■美術／秦　秀信■背景／勝又　激、柿沼雅人■検査／小椋正豊■ゼログラフ／高橋　章■トレース／五十嵐令子■彩色／佐藤道代■特殊効果／佐藤章二■撮影／大和田　享■編集／井関保雄■選曲／宮下　滋■録音／タバック、神原広巳■音響効果／Ｅ＆Ｍプランニングセンター■現象／東映化学■記録／黒石洋子■製作／東映動画

NO. 145 グレートマジンガー対ゲッターロボG 空中大激突

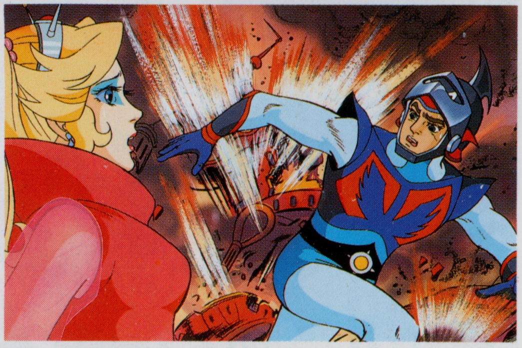


75年7月26日（土）東映系封切　24分
併映作品／ちびっ子レミと名犬カピより　家なき子、野生のエルザ、がんばれ!!ロボコン、宇宙円盤大戦争、秘密戦隊ゴレンジャー、仮面ライダーストロンガー（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕突如、謎の宇宙船が早乙女研究所を襲撃した。３機のゲットマシンが応戦したが、研究所は大破。そして、ムサシが命を落とした……。一方、宇宙船から出撃した結合獣ボングを倒すため羽田へ向かったグレートマジンガーも光波獣ピグドロンのくり出す光の矢に劣勢を強いられる。だが、そこに新隊員ベンケイを加えたニューマシン、ゲッターロボGが助けにきた。さらにグレートマジンガーの新兵器グレートブースターが到着。反撃が開始された。
〔解説〕前作「グレートマジンガー対ゲッターロボ」の続編的作品。引き続き宇宙からの侵略者との戦いを描いている。ゲッターロボGは映画初登場となったが、ムサシの死、研究所の壊滅のエピソードは、劇場用のオリジナルバージョンとして展開した。スタッフは前作とほぼ同様の布陣。今回は、空魔獣クランゲン、結合獣ボング、光波獣ピグドロンと３体の敵が出現したが、いささか魅力に乏しいものとなってしまった。グレートブースターはテレビに先駆け登場。

原画／永井　豪、石川　賢、ダイナミックプロ■製作／今田智憲■企画／有賀　健、横山賢二■脚本／藤川桂介■演出（監督と同義）／明比正行■演出助手／松浦錠平■作画監督／小松原一男■原画／友永和秀、葛岡　博、森　利夫■動画／長崎重信、山内昇寿郎、後藤紀子、東田久美子■美術／福本智雄■背景／阿部泰三郎、佐藤正行、沼井信朗、鳥本　武■検査（仕上検査と同義）／前田剛弘■トレース／前田峰子■仕上効果（特殊効果と同義）／岡田良明■仕上進行／高橋達雄■撮影／菅谷信行■編集／鳥羽亮一■音楽／渡辺宙明、菊池俊輔■選曲／宮下　滋■録音／池上信照■効果／石田サウンドプロ■現像／東映化学■記録／的場節代

NO. 146 宇宙円盤大戦争



75年7月26日（土）東映系封切　30分
併映作品／ちびっ子レミと名犬カピより　家なき子、グレートマジンガー対ゲッターロボG　空中大激突、野生のエルザ、がんばれ!!ロボコン、秘密戦隊ゴレンジャー、仮面ライダーストロンガー（東映まんがまつり）

【あらすじ】宇門宇宙科学研究所の宇門博士の１人息子、地球の自然を愛する青年・宇門大介。実は、彼の正体はヤーバン星に滅ぼされたフリード星の王子・デュークフリードだった。彼と、彼の持つ円盤とロボット・ロボイザーの合体メカ・ガッタイダーを求めて、ヤーバン星のテロンナ姫とヤーバン円盤部隊が地球へとやってきた。地球の各地を破壊する円盤部隊。しかし、テロンナはデュークの幼なじみであり、今も彼を愛しているのだった。
【解説】空飛ぶ円盤をとりいれたロボットアニメ。この作品のキャラやメカの基本設定はそのままに、その野暮ったいデザインをシャープなものに変更して「マジンガーZ」の兜甲児と「キューティーハニー」の団兵衛をレギュラーに加えたのが、テレビシリーズ「UFOロボグレンダイザー」である。そのパイロットフィルム的な意味あいで作られた作品であり、主題歌も、メカなどのネーミングだけをさし替えたものが「グレンダイザー」で使われている。

原案／サクール・バーン■原作／永井　豪、ダイナミックプロ■製作／今田智憲■企画／有賀　健、勝田稔男■進行主任／三沢徹夫■脚本／上原正三■演出（監督と同義）／芹川有吾■演出助手／小湊洋市■作画監督／飯野　皓■原画／奥山玲子、阿部　隆、木野達児、的場茂夫、金山通弘、小川明弘、森　英樹、広田　全、田村晴夫、小泉謙三、若林哲弘、多賀一弘■動画／坂野隆雄、小林敏明、服部照夫、石山毬緒、薄田嘉信、金山圭子、山田みよ、長沼寿美子、鈴木英二、昆　進之介、東海林　武、松村哲子■美術設定／辻　忠直■美術／内川文広■背景／勝又　激、襟立知子、下川忠海■美術進行／阿久津文雄■検査（仕上検査と同義）／小椋正豊、森田　博■ゼログラフ／高橋　章■トレース／谷口恭子、坂野園江■彩色／増川千鶴子、関口好子■特殊効果／佐藤章二、堰合　昇■仕上進行／平賀豊彦■撮影／清水政夫、武井利晴■編集／井関保雄■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「戦え！宇宙の王者」　作詞／保富康午　作曲／菊池俊輔　編曲／森岡賢一郎　歌／ささきいさお■録音／神原広巳■効果／Ｅ＆Ｍプランニングセンター■録音スタジオ／タバック■現像／東映化学■記録／黒石陽子

NO. 144 147~149 春・夏・冬休み 東映まんがまつり



〔解説〕〝まんがまつり〟の人気番組なった〝劇場マジンガーシリーズ〟の第3弾「グレートマジンガー対ゲッターロボ」が、新作アニメは名作物ばかりだった春のプログラムに登場し、「にんぎょ姫」と異色企画の「これがUFOだ！　空飛ぶ円盤」とともに、新作アニメが3本の〝まんがまつり〟となった。同時上映の実写映画「仮面ライダーアマゾン」は、テレビの16話「ガランダーの東京火の海作戦」「がんばれ!!ロボコン」は、テレビの11話「月よりの使者」を上映。



〔解説〕「家なき子」は'70年公開の「ちびっ子レミと名犬カピ」(81分) を、53分に短縮したもの。「仮面ライダーストロンガー」「がんばれ!!ロボコン」「秘密戦隊ゴレンジャー」は、テレビ作品の劇場上映。



〔解説〕「マッチ売りの少女」は、'68年公開の「アンデルセン物語」の短縮版。このプログラムは、地方興行のみのため、新作作品が1本もない。

封切日	タイトル	上映時間	脚　本	演　出	作画監督	美　術
'75. 3 .21(金)	東映まんがまつり(春休み)					
	アンデルセン童話 にんぎょ姫	No.141参照				
	グレートマジンガー対ゲッターロボ	No.142参照				
	これがUFOだ！空飛ぶ円盤	No.143参照				
	魔女っ子メグちゃん	25分	山浦　弘靖	設楽　博	木暮　輝夫	土田　勇
	月よりの使者	11話「月よりの使者」を上映				
	＊実写併映作品「仮面ライダーアマゾン」、「がんばれ!!ロボコン」					
'75. 7 .26(土)	東映まんがまつり(夏休み)					
	ちびっ子レミと名犬カピより 家なき子	54分の短縮版 No.59参照				
	グレートマジンガー対ゲッターロボG 空中大激突	No.145参照				
	宇宙円盤大戦争	No.146参照				
	＊実写併映作品「がんばれ!!ロボコンゆかいな仲間」、「秘密戦隊ゴレンジャー」、「仮面ライダーストロンガー」、「野性のエルザ」					
'75.12.20(日)	東映まんがまつり(冬休み)(地方のみ)					
	アンデルセン物語 マッチ売りの少女	短縮版 No.41参照				
	UFOロボ グレンダイザー	25分	上原　正三	小湊　洋市	不詳	不詳
		詳細不明				
	＊実写併映作品「がんばれ!!ロボコン ムギョギョ!!食いねェ」、「秘密戦隊ゴレンジャー青い大要塞」、「アクマイザー3」					

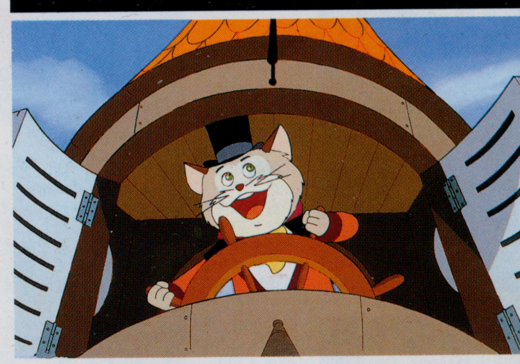
NO. 150~152 春休み 東宝チャンピオンまつり ディズニー・フェスティバル



〔解説〕ウォルトディズニーの長編「ピーターパン」をメインにし、ディズニーの短編4本と、国産のテレビアニメーション3本で構成された異色のプログラム。

封切日	タイトル	上映時間	脚　本	演　出	作画監督	美　術
'76. 3 .13(土)	勇者ライディーン	27分	不詳	不詳	安彦　良和	半藤　克美 東条　俊寿
		詳細不明				
	元祖天才バカボン	13分	不詳	不詳	芝山　努	小林　七郎
		詳細不明				
	タイムボカン	22分	不詳	不詳	不詳	中村　光毅
		詳細不明				
	＊ウォルト・ディズニー併映作品「ピーターパン」(リバイバル)、「ドナルドダックの人喰いザメ」、「ドナルドダックのライオン騒動」、「ミッキーマウスのがんばれ！サーカス」、「チップとディールの怪獣をやっつけろ！」					

NO. 153 長靴をはいた猫 80日間世界一周



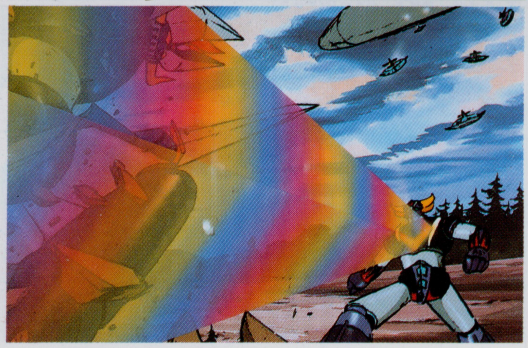
76年3月20日（土）東映系封切　58分
併映作品／ロボコンの大冒険、UFOロボ　グレンダイザー対グレートマジンガー、秘密戦隊ゴレンジャー　真赤な猛進撃！、一休さん

〔あらすじ〕ネズミを助けた罪で、ネコ大王の殺し屋に追われる猫のペロは、ゆきがかりで無謀な賭けをした。80日間で世界一周できればブタのグルーモンの全財産はペロのもの、できなければペロは一生グルーモンに仕えるのだ。カバのカーター、ネズミの親子とともに旅立つペロを妨害するためグルーモンはオオカミのガリガリ博士を派遣。一方、3匹のネコの殺し屋も執拗にペロを追う。かずかずの罠と危険が待ち受けるなか、世界を股にかけた冒険がはじまる。

〔解説〕東映動画創立20周年を記念して制作された長編作品。猫のペロは3度目の登場だが、今回は生みの親、森康二のかわりに角田紘一が作画監督を担当。「ハッスルパンチ」のガリガリ博士や、「ホルス」の氷のマンモスなど、過去の作品で人気のあったキャラクターも形を変えて再登場し、サービスをきかせている。第1作の完成度にはさすがに迫れなかったが、友永和秀が担当したラストの時計塔シーンなど、なかなかの見せ場もあり、興行的には成功した。

製作／今田智憲■企画／有賀　健、横山賢二■製作担当／白根徳重■進行主任／岸本松司■脚本／城悠輔、山崎忠昭■演出／設楽　博■演出助手／遠藤勇二■作画監督／角田紘一■原画／奥山玲子、的場茂夫、阿部　隆、小川明弘、金山通弘、広田　全、森　英樹、木野達児、荒木伸吾、小松原一男、山口泰弘、友永和秀、石黒　育、葛岡　博■動画／坂野隆雄、服部照夫、小林敏明、石山毬緒、薄田嘉信、田村晴夫、草間真之介、布　告文、山田みよ、高島鉄男、長沼寿美子、長崎重信、上梨壱也、後藤紀子■美術進行／鳥本　武■美術監督／土田　勇■背景／松本健治、海老沢一男、遠藤重義、原田謙一■トレース／五十嵐令子、奥西紀美代、入江三帆子■ゼログラフ／酒井日出子、高橋啓子■特殊効果／林富喜江、堰合　昇■仕上検査／森田　博、小椋正豊■撮影／高梨洋一、片山幸男■編集／千蔵　豊■音楽／宇野誠一郎■ＯＰ「長靴をはいた猫」作詞／井上ひさし、山元護久　作曲／宇野誠一郎　うた／なべおさみ、こおろぎ'73■録音／波多野　勲■音響効果／石田サウンド、加藤昭二■声の出演　ペロ（なべおさみ）　グルーモン（滝口順平）　カリガリ博士（大塚周夫）　ネズミ親父（富田耕生）　ちび猫殺し屋（水森亜土）　スザンナ（増山江威子）　カーター（神山卓三）　猫の殺し屋Ａ（はせさん治）　猫の殺し屋Ｂ（田の中勇）ほか／青二プロ

NO. 154 UFOロボグレンダイザー対グレートマジンガー

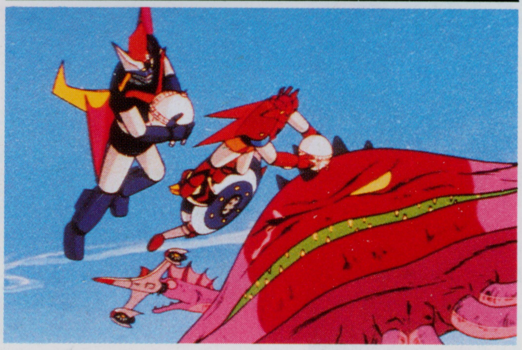


76年3月20日（土）東映系封切　27分
併映作品／長靴をはいた猫　８０日間世界一周、ロボコンの大冒険、秘密戦隊ゴレンジャー　真赤な猛進撃！、一休さん

〔あらすじ〕ベガ大王からグレンダイザー抹殺の直命を受け、バレンドス親衛隊長が地球に飛来した。危機を知った兜甲児は、平和なときを楽しむ宇門大介を思いやってＴＦＯで単独出撃し、円盤獣ジンジンに捕えられてしまう。甲児からグレンダイザーの秘密を探ろうとして失敗したバレンドスは、ロボット博物館に収められたグレートマジンガーを奪い、自ら搭乗。大介が乗るグレンダイザーを、ジンジンとともに、はさみ打ちで攻撃する。
〔解説〕劇場用マジンガーシリーズ第５作。それまでタイトルに〝対〟がついても実際は共演にとどまっていたこのシリーズのなかで、唯一ヒーローロボット同士の対決が描かれた作品。内容的には「グレンダイザー」の１エピソードだが、ロボット博物館というユニークな設定が作品世界を広げたことに加え、小松原一男、友永和秀らＯＨ！プロスタッフが中心となった迫力ある作画、演出・葛西治によるシネスコを意識した大胆な構図など、見応えのある一編となった。

原作／永井　豪とダイナミック企画　連載／テレビマガジン・テレビランド、たのしい幼稚園・冒険王・その他■製作／今田智憲■企画／有賀　健、勝田稔男■進行主任／佐伯雅久■脚本／藤川桂介■演出／葛西　治■演出助手／松浦錠平■作画監督／小松原一男■原画／友永秀和・湖川　滋、木下勇喜■動画／長崎重信、後藤紀子、月間恵美子、丹司道雄■美術／伊藤岩光■背景／松本健治、海老沢一男、原田謙一、野崎俊郎■仕上／高橋達雄、前田剛弘■特殊効果／岡田良明、堰合　昇■撮影／菅谷信行■編集／松原千佳子■音楽／菊池俊輔・渡辺宙明■ＯＰ「宇宙の勇者グレンダイザー」作詞／保富康午・小池一雄　うた／ささきいさお・水木一郎　コロムビアゆりかご会・こおろぎ'73　（コロムビアレコード・朝日ソノラマ）■録音／池上信照■選曲／宮下　滋■効果／石田サウンドプロ■記録／伊達悦子■現像／東映化学■声の出演　大介（富山　敬）　甲児（石丸博也）　ガンダル（富田耕生）　バレンドス（柴田秀勝）　博士（八奈見乗児）　吾郎（沢田和子）　ひかる（川島千代子）　林（山田俊司）　ブラッキー（緒方賢一）協力／青二プロ

NO. 156 グレンダイザー・ゲッターロボG・グレートマジンガー 決戦！大海獣



76年7月18日（日）東映系封切　31分
併映作品／アリババと４０匹の盗賊（リバイバル）、秘密戦隊ゴレンジャー　爆弾ハリケーン、ザ・カゲスター、宇宙鉄人キョーダイン、一休さん　虎たいじ、母をたずねて三千里

〔あらすじ〕平和な海に突如巨大海獣ドラゴノザウルスが出現し、石油コンビナートやタンカーを次々に襲撃した。国防軍緊急会議の席上、宇門博士はこの大海獣に対抗するためロボット軍団の編成を提唱。さっそく、グレンダイザー、ゲッターロボG、グレートマジンガーをはじめとする史上最強のロボットたちが出現した。ところが、功を焦ったボスロボットが、大海獣に飲みこまれてしまう。そこで、鉄也はボス救出に一計を案ずるが……。
〔解説〕劇場用マジンガーシリーズ最後の作品。初の３大ヒーロー・ロボット競演となり、保富康午作詞、菊池俊輔作曲による本作のみのテーマ曲「いざ行け！ロボット軍団」「戦いの詩」も作られた。それまで原画として同シリーズに参加してきた木野達児が初の劇場作品を担当。新方式のカメラシステム導入により入射光の表現が多用された。しかし、レディロボットまで登場させた割には活躍の場面が少なく、作画的にも前作と比べて見劣りするなど不満も多い。

原作／永井　豪とダスナミック企画■製作／今田智憲■企画／有賀　健、小田克也■製作担当／横井三郎■脚本／高久　進■演出／明比正行■演出助手、製作進行／福島和美■作画監督／木野達児■原画／阿部　隆、小川明弘、金山通弘、角田紘一、広田全、的場茂夫、森　英樹、湖川　滋、木下勇喜■動画／石山毬緒、薄田嘉信、金山圭子、小林敏明、坂野隆雄、田村晴夫、服部照夫、草間真之介、熊川正雄、平川やすし■美術進行／鳥本　武■美術監督／浦田又治■背景／川井　憲、高野正道、佐藤正行、笠原淳二■撮影／目黒　宏、相磯嘉雄■編集／鳥羽亮一■音楽／菊池俊輔・渡辺宙明■ＯＰ「いざ行け！ロボット軍団」作詞／保富康午　作曲／菊池俊輔　うた／ささきいさお、コロムビアゆりかご会　（コロムビアレコード・朝日ソノラマ）■録音／波多野勲■選曲／宮下　滋■音響効果／スワラプロ、伊藤克己■録音スタジオ／タバック■記録／安藤まるみ■現像／東映化学■声の出演　宇門大介（富山　敬）兜　甲児（石丸博也）　剣　鉄也（野田圭一）　神谷　明（流　竜馬）神　隼人（山田俊司）　早乙女博士（富田耕生）宇門博士（八奈見乗児）　弓教授（鈴木泰明）　ボス（大竹　宏）ムチャ（緒方賢一）弓　さやか（江川菜子）　早乙女ミチル（吉田理保子）　炎　ジュン（中谷ゆみ）ほか　協力／青二プロ
※声の出演は社内資料から補った。

NO. 155 157～161 春・夏・冬休み 東映まんがまつり



〔解説〕「ロボコンの大冒険」は、テレビの人気特撮ギャグシリーズの「がんばれ!!ロボコン」の劇場用新作。宇宙海賊キャプテンワルダーが、ロボコンのガールフレンドのロビンちゃんを花嫁にしようとやってくる話。「秘密戦隊ゴレンジャー　真赤な猛進撃」は、テレビシリーズ36話「真赤な猛進撃！」動く要塞無敵戦艦」の劇場公開版。軍艦仮面が登場するエピソードだ。



〔解説〕「秘密戦隊ゴレンジャー　爆弾ハリケーン」は、四国を部隊に、ゴレンジャーと鋼鉄剣竜の戦いを描いた劇場用新作。「ザ・カゲスター」も同じく劇場用新作。



〔解説〕「西遊記」は、'62年に公開された作品のリバイバル。このプログラムは、地方のみの興行のため新作作品が１本もない。

封切日	タイトル	上映時間	脚　本	演　出	作画監督	美　術
'76. 3 .20(土)	東映まんがまつり（春休み）					
	長靴をはいた猫 80日間世界一周	No.153参照				
	UFOロボ グレンダイザー対グレートマジンガー	No.154参照				
	一休さん	25分	辻　真先	矢吹　公郎 今沢　哲男	端名　貴勇 石黒　育	影山　勇
		1話「てるてる坊頭と小僧さん」を上映				
	＊実写併映作品「ロボコンの大冒険」、「秘密戦隊ゴレンジャー 真赤な猛進撃！」					
'76. 7 .18(日)	東映まんがまつり（夏休み）					
	アリババと40匹の盗賊	（リバイバル）No.86参照				
	グレンダイザー・ゲッターロボG・グレートマジンガー 決戦！大海獣	No.156参照				
	一休さん 虎たいじ	21分	山崎　忠昭	今沢　哲男	端名貴男	影山　勇
		5話「竹の子と虎たいじ」の編集版				
	母をたずねて三千里	25分	深沢　一夫	高畑　勲	小田部羊一	椋尾　篁
	＊実写併映作品「秘密戦隊ゴレンジャー 爆弾ハリケーン」、「ザ・カゲスター」、「宇宙鉄人キョーダイン」、「山口さんちのツトム君」					
'76.12.19	東映まんがまつり（冬休み）（地方のみ）					
	西遊記（リバイバル）	No.4 参照				
	ピノキオより	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
	ピコリーノの冒険	詳細不明				
	一休さん		山崎　忠昭	生頼　昭憲	山口　泰弘	福本　智雄
	おねしょお姫さま	13話「おねしょとお姫さま」を上映				
	UFOロボ グレンダイザー	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
	赤い夕陽の対決	詳細不明				
	＊実写併映作品「秘密戦隊ゴレンジャー 火の山最後の大噴火」、「忍者キャプター」					

’77 昭和52年

「宇宙戦艦ヤマト」は、’74年に放映された同名SFテレビアニメの再編集作品である。この1本で、劇場はいうに及ばず、テレビを含む全ての商業アニメーションの状況を変えることになった、いわゆる〝アニメブーム〟のはじまりである。画期的内容をもったSFアニメであったが、テレビシリーズは視聴率が伸び悩み、中途で打ち切られてしまった。再放送などでその人気がヤング層を中心に盛りあがり、映画化が実現したのである。「未知との遭遇」「スターウォーズ」などの、折からのSF映画ブームも反映し、「ヤマト」は中高校生を中心としたヤング層に受けて大ヒットを記録した。上映日前から劇場前にファンが行列を作るという現象も、この作品から生まれたのである。若者をとらえた「宇宙戦ヤマト」の魅力とは、当時としてはリアルに宇宙を舞台にしたという新鮮さ、ハードなメカニックの魅力、そしてなによりも重厚なドラマと表裏一体の〝ロマン〟だった。

NO.162 世界名作童話 白鳥の王子



77年3月19日（土）東映系封切　1時間2分
併映作品／世界名作童話　白鳥の王子、ジャイアンツのこども野球教室、大鉄人17

〔あらすじ〕ヒルデブランド王の後妻となった魔女グレタは、森の館に6人の王子と姫がひとりいることを知る。盗みだした亡き妃の糸玉の導きで館へと赴き、魔法の肌着を投げると、王子たちは白鳥の姿になってしまった。ひとり難をのがれた姫エリザは、森の洞窟で兄たちと再会するが、白鳥は春には北の国へ渡らなくてはならない。魔法を解くために、小さなエリザは6年間ひとことも話さずに、とげだらけのイラ草で6枚の肌着を編みあげる決心をする。

〔解説〕ヨーロッパの伝説にその原話をとった名作のアニメ化。テレビシリーズの名作物に押されがちな東映動画のイメージを払拭するべくスタッフが取り組んだ力作である。脚本に隆巴（仲代達矢夫人、宮崎恭子の名義で声の出演もしている）を起用するなどの意欲を見せたが、企画準備期間の短さなどが災いして、特徴の少ない、凡庸な印象の作品となった。主人公の絵柄に、人気を博したテレビ作品「アルプスの少女ハイジ」の影響が見られる点も否めない。

原作／グリム童話、アンデルセン童話より■製作／今田智憲■企画／有賀　健、籏野義文■製作担当／白根徳重■脚本／隆　巴■演出／西沢信孝■演出助手／遠藤勇二■レイアウト・場面設定／角田紘一■作画監督／阿部　隆■原画／角田紘一、金山通弘、森　英樹、木野達児、的場茂夫、広田　全、荒木伸吾、小泉謙三、富永貞義、菊池貞雄、木下勇喜、朝戸澄子■動画／小川明弘、坂野隆雄、小林敏明、服部照夫、石山鞠緒、薄田嘉信、金山圭子、田村晴夫、草間真之介、山田みよ、長沼寿美子、高野　登、平川やすし、上梨壱也■美術進行／阿久津文雄■美術監督／千葉秀雄■背景／遠藤重義、海老沢一男、松本健治、田中資幸、野崎俊郎■特殊効果／平尾千秋、佐藤章二■撮影／細田民男、平尾三喜■編集／井関保雄■音楽／小森昭宏■主題歌「白鳥の王子」作詞／隆　巴　作、編曲／小森昭宏　歌／増山江威子、ザ・チャープス■録音／二宮健治■音響効果／E＆M　伊藤道広■声の出演　エリザ（増山江威子）　グレタ（岩崎加根子）涙（宮崎恭子）　ヒルデブランド王（近藤洋介）　魔女（杉山とく子）　フリードリッヒ王（望月太郎）　裁判官A（可知靖之）　同B（小林尚臣）　六人の王子たち（小宮山　清、つかせのりこ、神谷　明、古谷　徹）　その他（後藤みどり）（神崎敦子）／俳優座、青二プロ　※本リストは、東映動画の社内資料をもとに作成した。

NO.163~165 169~171 春休み 夏休み 東映まんがまつり





封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
’77.3.19(土)	東映まんがまつり（春休み）					
	世界名作童話 白鳥の王子	No.162参照				
	超電磁ロボ コンバトラーV	20分	辻　真先	寺田　和男	坂本　三郎	宮野　隆
		30話「珍メカロケット大殊勲」				
	一休さん ちえくらべ	12分	辻　真先	生頼　昭憲	荒木　伸吾	福本　智雄
		2話「まんじゅうとねずみ」の編集版				
	ドカベン	20分	田村多津夫 馬場　満	光延　博愛 岡部　英二	金沢比呂司	半藤　克美 河野　次郎
		15話「王選手715号ホームラン！」の編集版				
	＊実写併映作品「ジャイアンツのこども野球教室」、「大鉄人17」					
’77.7.17(日)	東映まんがまつり（夏休み）					
	惑星ロボ ダンガードA対 昆虫ロボット軍団	No.168参照				
	あらいぐまラスカル	20分	宮崎　晃	遠藤　政治 斎藤　博	桜井美知代	井岡　雅宏
		12話「本と1セント銅貨」を上映				
	ドカベン 甲子園への道	20分	田村多津夫 馬場　満	光延　博愛 岡部　英二	金沢比呂司	半藤　克美 河野　次郎
		37話「なるか！里中パーフェクト」を上映				
	キャンディ・キャンディ	20分	城山　昇	遠藤　勇二	不詳	不詳
	＊海外併映作品「世界名作童話 せむしの仔馬」（リバイバル・ソ連邦動画スタジオ） ＊実写併映作品「ジャッカー電撃隊」、「大鉄人17 空中戦艦」					

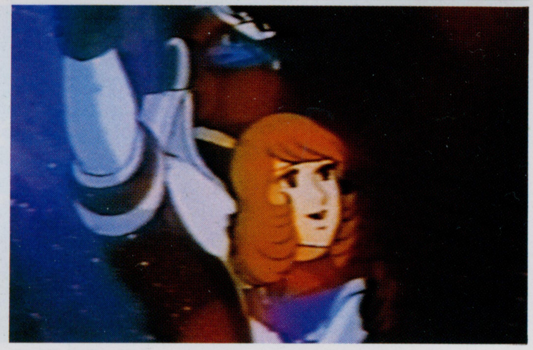
NO.166~167 春休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕「キングコング対ゴジラは、’62年公開されたオリジナルの短縮版。前年度に公開されヒットしたリメイク版「キングコング」に触発されて再上映された。「巨人軍物語　進め!!栄光へ」は、最下位から奇跡の優勝をとげた長嶋巨人の魅力を紹介。公開初日と二日目はキングコングとゴジラが劇場にあいさつにやってきた。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
’77.3.19(土)	ヤッターマン	22分	不詳	不詳	田中　英二	岡田　和夫
		詳細不明				
	まんが日本昔ばなし	13分	平見　修二	児玉　喬夫	児玉　喬夫	阿部　幸次
	桃太郎	6回Aパート「桃太郎」を上映				
	＊実写併映作品「キングコング対ゴジラ」（リバイバル）、「巨人軍物語 進め!!栄光へ」、「円盤戦争バンキッド」					

NO. 168 惑星ロボ ダンガードA対 昆虫ロボット軍団

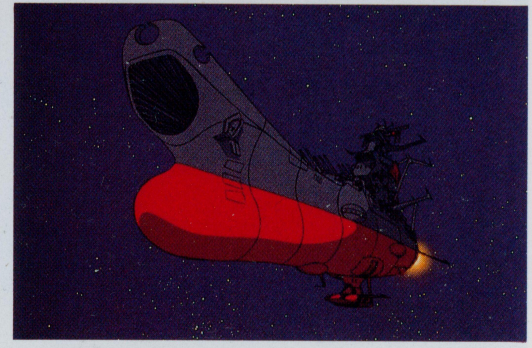


77年7月17日（日）東映系封切　25分
併映作品／世界名作童話　せむしの仔馬（リバイバル）、ジャッカー電撃隊、あらいぐまラスカル、ドカベン　甲子園への道、キャンディ・キャンディ、大鉄人17　空中戦艦

〔あらすじ〕ジャスダム基地は、プロメテへ旅立つための準備を着々と進めていた。ある日、月面基地が襲撃を受けたとの急報が入り、タクマはサテライザーで出撃する。月に着いたタクマの眼前には、破壊しつくされた基地の光景が広がっていた。しかも、サテライザーも謎の円盤に攻撃されて損傷する。敵の正体は、温血動物の血を求めてやってきた昆虫人間だった。敵に捕まったリサを助けようとしたタクマも敵の手に落ち、ジャスダム最大の危機が迫る。
〔解説〕テレビアニメ「惑星ロボダンガードA」の劇場用新作第1弾。「～対～」と銘打っているが、それまでの「劇場マジンガーシリーズ」のような異番組ヒーロー競演ものではない。テレビシリーズにない昆虫宇宙人が登場することと、公開時点ではまだ発進していないジャスダムが活躍するなどが、この映画版の見せ場。劇画タッチで知られる中村プロが作画を担当。最後の戦闘シーンでは、その実力がいかんなく発揮され、迫力あるものに仕あがっている。

原作／松本零士　〔協力〕／小林　檀　掲載〔テレビマガジン・たのしい幼稚園、冒険王・おともだち・テレビランド〕■製作／今田智憲■企画／有賀　健、勝田稔男■製作担当／白根徳重■脚本／吉野安雄■演出／石井輝男、明比正行■演出助手、製作進行／松下　健■作画監督／南条文平■原画／西城　明、川井敬三■動画／坂野方子、小林大介、小林智子、滝川佳子、川越　淳、益子啓道、船田玲子、柳田　勤■美術／秦　秀信■背景／松本健治、小林祐子、松本邦子、海老沢一男■美術進行／丸森俊昭■特殊効果／浜　桂太郎、堰合　昇■トレース／奥西紀美代、五十嵐令子■ゼログラフ／村松錦三郎、高橋　章■仕上進行／平賀豊彦■撮影／武井利勝、福井政利■編集／井関保雄■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「すきだッダンガードＡ」うた／ささきいさお、ヤングフレッシュ　ＥＤ「その名もタクマ宇宙パイロット」うた／ささきいさお　以上、作詞／伊藤俊也　作曲／菊池俊輔　（コロムビアレコード・朝日ソノラマ・ファンファニー）■録音／波多野　勲■音響効果／高松孝宣■選曲／宮下　滋■録音スタジオ／タバック■記録／黒石陽子■現像／東映化学■声の出演　タクマ（神谷　明）　リサ（吉田理保子）　断鉄（柴田秀勝）　大江戸（富田耕生）　伴太（大竹　宏）　昆虫人間（八奈見乗児）　指揮官（緒方賢一）　係員（山田俊司）　〔協力〕／青二プロダクション

NO. 172 宇宙戦艦ヤマト SPACE CRUISER YAMATO

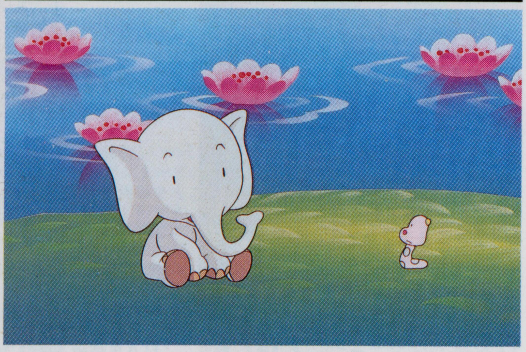


77年8月6日（土）東映洋画配給　2時間10分

【あらすじ】西暦2199年、地球は謎の敵ガミラスの遊星爆弾攻撃にさらされ、放射能汚染による破滅寸前の状態にあった。会戦中、イスカンダル星のスターシャから、放射能除去装置を与えるというメッセージを受けた地球防衛軍司令部は、波動エンジンを搭載した宇宙戦艦ヤマトを建造した。全人類の期待を背負い、地球を出発したヤマトは、反射衛星砲を擁する冥王星基地や、七色星団で待ち受けるドメル艦隊を次々と突破、イスカンダルへと向かう。
【解説】当初は海外輸出を目的として、パイロット版に石黒昇絵コンテ、芦田豊雄作画による新作を加えたものが企画されたが、紆余曲折を経て、テレビの再編集版という形での劇場公開となった。ヤマト浮上から冥王星基地との死闘、ドメル艦隊との決戦などのエピソードが主な内容。また、スターシアについては、ヤマトがイスカンダルに着いたときにはすでに死んでいたとされ、この部分は新作が描き起こされたが、のちのテレビ放映では、もとの形になおされた。

企画・原案／西崎義展■製作・総指揮／西崎義展■制作担当／長嶋正治、野村和史、堤　隆之、広岡　修■脚本／藤川桂介、山本暎一■監督／舛田利雄■アニメーションディレクター／石黒　昇■助監督／棚橋一徳■作画監督／芦田豊雄、白土　武、小泉謙三、岡迫亘弘、泉口　薫、宇田川一彦■美術・設定デザイン／松本零士■背景　美術／槻間八郎、横瀬直士、東条俊寿、水野尾純一■撮影／諫川　弘、吉坂研一、藤田正明、山崎友正■編集／鶴渕允寿■音楽／宮川泰■オリジナルサントラ盤／コロムビア・レコード■音響監督／田代敦巳■録音／アバコ・スタジオ■タイトル／多々良正春■現像／東京現像所■配給／西崎義展　（株式会社アカデミー）■キャスト　沖田十三（納谷悟朗）　古代　進（富山　敬）　島　大介（仲村秀生）　森　雪（麻上洋子）　徳川彦佐衛門、佐渡酒造（永井一郎）　古代　守（広川太一郎）　真田志郎（青野　武）　デスラー（伊武雅之）　ドメル（小林　修）　スターシャ（平井道子）　（神谷　明）（緒方賢一）（山下敬介）（大林才史）　ナレーター（木村　幌）

NO. 173 小さなジャンボ

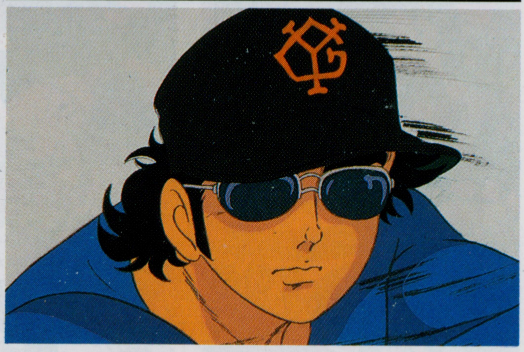


77年9月10日（土）東宝東和提供　東宝洋画系封切　28分
併映作品／愛のファミリー

〔あらすじ〕美しい島、王様と3人の国民とが平和に暮らす〝幸せの国〟に、象使いの少年・バルーと象のジャンボが赤い箱に乗って訪れた。バルーは、ムチを使ってジャンボにいろいろな芸をさせ、王様たちを楽しませる。ところが西の島と南の島が戦争をはじめ、2国の間にある〝幸せの国〟も砲弾の直撃を受けた。被害を受けた〝幸せの国〟には、もう食料はない。王様は国民のためにジャンボを殺そうとするが、バルーは、それなら自分が殺すというのだった……。
〔解説〕1975年に製作されたミュージカルアニメ。キャラクター商品で知られるサンリオが製作した最初のアニメ作品である。こののち、サンリオは質的にも内容的にも、良心的なメルヘン作品を多く世に送りだすことになる。原作はやなせたかしの童話「ジャンボとバルー」で、構成もやなせたかしが担当、演出にも共同で参加している。たいへん丁寧に作られており、独特なキャラクターデザインと童話的な美しい画面が印象に残る。

原作／サンリオ出版　〝ちいさなジャンボ〟■制作／波多野恒正■制作アシスタント／小鴨知代子■制作担当／富岡厚司■作・構成／やなせたかし■演出／やなせたかし、平田敏夫、波多正美■アニメーター／中村和子、山本　繁、赤堀幹治、三輪孝輝、松山マヤ、多賀深美、高橋春男、大西治子、小林準治、阿部　明■美術／阿部行夫■背景／下道一範、落合身江子■仕上／福永雅子■仕上協力／マッドハウス、今村プロダクション、グループ・ジョイ■撮影／八巻　磐■編集／古川雅士■音楽／いずみたく　編曲・指揮／大柿　隆　演奏／室内楽協会■音楽協力／キングレコード株式会社■音響／明田川　進■効果／柏原　満■録音／林　昌平■スタジオ／アバコスタジオ■現像／東洋現像所■製作／サンリオ■歌・パルー（楠　トシエ）　王さま（宍倉正信）　ラス（ボニー・ジャックス）　（森田克子とザ・プリティーズ）（増山江威子）

NO. 174 新巨人の星



77年12月1日（木）東映系封切　1時間16分
併映作品／BIG－1物語　王　貞治

〔あらすじ〕昭和50年、王者の栄光の影もなく、ペナントレース最下位への道を歩み続ける巨人軍。だがより大きな前進への試練と信じる長島は、屈辱に耐えて沈黙を守っていた。そのころ、代打率100％、草野球専門のプロの助っ人と称して渡り歩く男がひとり。彼こそ5年前左腕の故障のために巨人軍を去った投手・星飛雄馬であった。父・一徹、かつてのライバル花形や姉・明子、親友・伴の追及をのがれ、人知れず打撃練習に励む飛雄馬の真意は……。
〔解説〕1977年10月から放映されていた同名テレビアニメーションの総集編。物語の最初の部分のみを描いている。王貞治の756号ホームランを記念した実写映画「BIG－1物語　王貞治」とともに、巨人軍映画2本立てで上映された。

原作／梶原一騎、川崎のぼる　連載／週刊読売■プロデューサー／佐野寿七（ＹＴＶ）、稲田伸生（東京ムービー）■脚本／金子　裕、城山　昇、出崎　哲■演出／今沢哲男、岡崎　稔、出崎　哲■作画監督／香西隆男■美術監督／小林七郎■撮影監督／高橋宏固■音楽／渡辺岳夫■ＯＰ「ゆけゆけ飛雄馬」作詞／東京ムービー企画部ＥＤ「よみがえれ飛雄馬」作詞／梶原一騎　以上、作曲／渡辺岳夫　歌／ささきいさお、こおろぎ'73　コロムビアレコード■録音監督／山崎あきら■音響効果／片岡陽三■録音担当／永野　晃■録音技術／星野敏昭■協力／東京読売巨人軍■制作／よみうりテレビ、東京ムービー（東京ムービー新社）■声の出演　飛雄馬（古谷　徹）　一徹（加藤精三）　花形（井上真樹夫）　伴（八奈見乗児）　花形明子（白石冬美）ほか　※本リストは東京ムービー新社の社内資料、及び新聞広告をもとに作成した。

'78 昭和53年

前年「宇宙戦艦ヤマト」のヒットに引き続き、この年、かつてない〝一大アニメブーム〟が社会に巻きおこることになる。それは、長編劇場アニメーションのブームでもあった。

その中心にあったのは、「ヤマト」の続編として全編新作として製作された「さらば宇宙戦艦ヤマト　愛の戦士たち」だった。前作より戦争ものの色が濃く、悲壮感に満ちたこの作品は、アニメ映画としては空前の21億円の配給収入を記録した（当時、戦後の配給収入4位であった）。この大ヒットは、日本映画界においても大事件だった。アニメブームは、「ヤマト」の原作者の松本零士作品のブームでもあった。東映は〝ヤマトシリーズ〟の作品か松本零士原作のオリジナル長編のいずれかを、'82年の「わが青春のアルカディア」まで毎年、夏に必ず公開していくことになる。

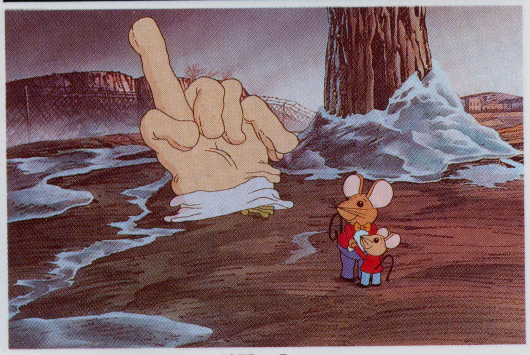
また、「ヤマト」同様にテレビの人気シリーズだった「科学忍者隊ガッチャマン」も再編集されて劇場公開された。こうした再編集映画が続出するのが、このアニメブームの特徴でもあった。翌年には「アルプスの少女ハイジ」「海のトリトン」「未来少年コナン」「野球狂の詩」の4本が公開され、2年後には「あしたのジョー」「家なき子」「母をたずねて三千里」の3本が公開される。

また、年末には、劇場用新作の「ルパン三世」が公開され、これも9億1500万円の配給収入をあげるヒットとなった。「さらば宇宙戦艦ヤマト」同様、アニメブームがこの作品に熱気を与えており、パワフルな印象の作品に仕上がっている。

アニメブームのなか、各劇場は独特な熱気に満ちていた。少年少女たちは、映画を見にいくというよりも、一種のイベントに参加するという感覚で劇場に足を運んだ。レコードやキャラクター商品、特集雑誌などが次々と発売された。声優などを主役にすえたイベントが開催されていった。アニメーションの存在が徐々に社会的に認められてゆき、その一方で、アニメファンといわれる層が形成されていくことになった。それまで、まんが映画と呼ばれていたものが、〝アニメーション〟と呼ばれるようになって急に新鮮で魅力的なものになったような気がした。そんな時代だった。

この年の5月、「アニメージュ」が創刊された。

NO. 175 親子ねずみの不思議な旅



78年3月11日（土）日本ヘラルド映画配給　1時間21分
併映作品／チリンの鈴

【あらすじ】ある街角の、一軒のおもちゃ店。ゼンマイじかけの親子のネズミが、新しくおもちゃの仲間に加わった。ところが、夜中に遊んでいて足を踏みはずし、壊れてしまった親子のねずみは、外の世界に放りだされる。旅をしながら、運勢占いをするカエル、オウムのユーテルペ、ジャコウネズミなど、さまざまな友人たちと知り合う親子。だが、ゼンマイじかけのおもちゃをどれいとして酷使するドブネズミのボス・マニーが、2匹を執拗に追い回していた。

【解説】7億1000万円の巨費と4年の歳月をかけ、サンリオが初めて製作した劇場長編アニメーション。実際の制作はアメリカの子会社が担当し、多くのアメリカ人スタッフが参加している。国内公開に先がけ、前年にアメリカで公開されて好評だった。技術的には素晴しく、美術など見るべき所は多いが、物語は全体に暗く、主体性をもたない主人公は、感情移入のしにくいものとなっている。日本語版の主題歌の作詞は、映画監督の大林宣彦が担当している。

製作／辻　信太郎、ウォーレン・ロックハート■アソシエイト・プロデューサー／アレックス・ルーカス■脚本／キャロル・モンピエ■監督／フレッド・ウォルフ、チャールズ・スウェンソン■キャラクターデザイン／ヴィンセント・デイヴィス、ジョアン・マクファーソン■アニメーター／デイヴ・ブレイン、ボブ・ブランスフォード、ブラッド・ケイス、コーニー・コールほか■美術監督／ディヴィッド・マックマッケン■撮影／ウァーリー・バロック■日本語版台本／辻　信太郎、額田やえ子■音楽／ロジャー・ケラウェイ■歌／坂本敦子、熊倉一雄、ミュージッククリエイション　原詩／ジーン・リーズ　歌詩／大林宣彦■主題歌／ポリドール　レコード■録音／アバコ　スタジオ■制作／ムラカミ・ウルフ・プロダクションズ■製作／サンリオ・フィルム■声の出演　父親ネズミ（坂本博士）　子ネズミ（坂本敦子）　ドブネズミ　マニー（財津一郎）　カエル（三遊亭金馬）　ジャコウネズミ（熊倉一雄）　象（春川ますみ）　アザラシ（大竹しのぶ）　サーペンティナ（滝口順平）　ユーテルペ（オオム）（朝丘雪路）　ラルフィ（子分ネズミ）（藤村俊二）　カラス座長（納谷悟朗）　ジャック・乞食（永井一郎）　カケス（肝付兼太）　紙人形（井上真樹夫）　〃（白石冬美）　カワセミ（田の中　勇）　時計（八奈見乗児）ほか　※クレジット中、英字で表示される部分は翻訳して掲載した。

NO. 176 チリンの鈴
THE RINGING BELL



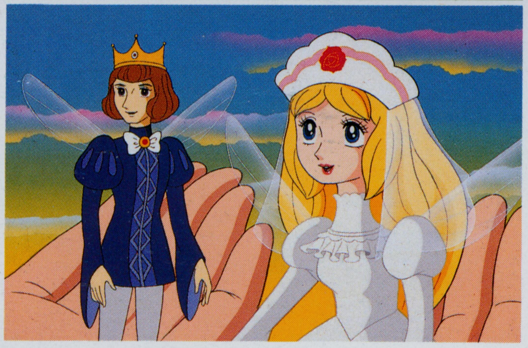
78年3月11日（土）日本ヘラルド映画配給　46分
併映作品／親子ねずみの不思議な旅

【あらすじ】小羊のチリンの母は、狼のウォーの襲撃から彼を守るために命を落とした。チリンは、弱い羊でいるのはいやだ、強い狼になりたいと望み、ウォーの所へいく。ウォーはチリンを鍛え、狼の生き方を教えはじめた。3年の歳月が流れた。成長したチリンは巨大な角と、そして死をも恐れぬ野生を身につけた獣となっていた。ウォーとチリンの2匹は、そのあたりで知らぬ者のない狂暴な殺し屋だ。嵐の晩、ウォーはチリンに、彼の故郷である牧場を襲わせた……。

【解説】サンリオ製作の短編アニメ。前年に公開された「ちいさなジャンボ」と同様に、やなせたかしの原作のアニメ化。メルヘンというよりも、きわめてハードな感覚の動物ものとなっている。チリンは、ウォーを自らの角で殺して母親の仇を討つが、すでに自分が羊の仲間のもとに戻れない存在になってしまったことを知るという、悲しいラストをむかえる。加藤精三の重厚な演技が印象に残る。

原作・作詞／やなせたかし　サンリオ出版「チリンの鈴」■製作／辻　信太郎■制作／波多野恒正■制作アシスタント／浅利義美■キーアニメーター／山本　繁、宮本貞雄、平田敏夫、赤堀幹治■キーアシスタントアニメーター／高橋春男、半田輝男、多賀深美、大西治子■アシスタントアニメーター／中島薫、後村　武、保江　園、槌田幸一、安藤洋美、船田雅子■演出／波多正美■美術／阿部行夫■背景／石川山子、金子真澄、吉田陽子、門野真理子■仕上チェック／福永雅子、木戸桂子、荒井啓子■トレス／石川由利子、菅沼満寿子■ペイント／下川邊幸子、阿野行里子■撮影／八巻　磐■編集／古川雅士■音楽／いずみたく■主題歌／ブラザース・フォー■主題歌制作／イズミエンタープライズ■演奏／新室内楽協会■音響／林　昌平■効果／柏原　満■音響制作／明田川　進■録音／アバコスタジオ■現像／東洋現像所■制作協力　撮影／アニメーションスタッフルーム、虫プロダクション、V・A・C、キュースタジオ、スタジオ・35　仕上／ラッキープロダクション、東京アニメーション　作画／スタジオアクト、クリエィティブハウス■（製作／サンリオ）■声の出演　語り（高木　均）　チリン（松島みのり、神谷　明）　母親（中西妙子）　ウォー（加藤精三）

NO. 177 世界名作童話 おやゆび姫

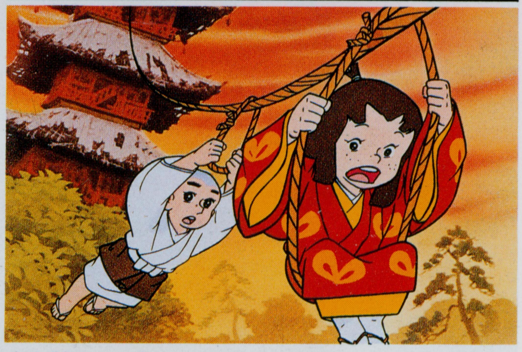


78年3月18日（土）東映系封切　1時間4分
併映作品／一休さんとやんちゃ姫、キャンディ・キャンディ　春の呼び声、ジャッカー電撃隊VSゴレンジャー、惑星ロボダンガードＡ　宇宙大海戦（東映まんがまつり）

［あらすじ］子どもがほしいと思っていたおばさんが、ある夜、女神から球根を授かった。その球根はチューリップの芽をだし、赤いつぼみをつけ、そのなかから一人の小さな女の子おやゆび姫が生れた。おばさんと虫のブンブーとともに幸せに暮らしていた姫は、ある日、妖精の王子との運命的な出会いをした。その夜、彼女を息子のゲコオの嫁にしようとするカエルの夫婦によって、おやゆび姫は寝ている間にさらわれてしまう。姫の長い旅のはじまりだった。
［解説］東映動画製作の名作童話アニメ。手塚治虫のデザインによるキャラクターと原色を多用したセルや美術のため、大変にハデな印象の画面となっている。手塚治虫の絵柄を再現するために、手塚の推薦で、永く虫プロ作品に参加していた中村和子が作画監督の１人をつとめている。中村にとっては、十数年ぶりの東映での仕事。

原作／Ｈ．Ｃ．アンデルセン■製作／今田智憲■企画／有賀　健、高見義雄■製作担当／横井三郎■脚本／大藪郁子■演出／芹川有吾■演出助手／大谷恒清■キャラクターデザイン／手塚治虫■画面構成／角田紘一■作画監督／木野達児　補佐／中村和子■原画／角田紘一、金山通弘、森　英樹、阿部　隆、的場茂夫、小川明弘、高橋信也、坂本有作、湖川滋、大工原　章■動画／坂野隆雄、小林敏明、服部照夫、石山★緒、金山圭子、薄田嘉信、広田　全、山田みよ、長沼寿美子、草間真之介、森本和枝、谷沢　豊、田村晴夫、関野郁子、布　告文、高野　登、円山　智、新田敏夫■美術／福本智雄■背景／下川忠海、勝又　激、田中資幸、襟立智子、松本健治■切り絵／阿久津文雄■タイトルバック／土田　勇■撮影／千蔵　豊、鳥羽亮一■音楽／菊池俊輔■挿入歌「ゲコゲコソング」うた／岸田今日子、トリオロスアオニ　「ゆめでいつでも」うた／大杉久美子、ウィルビーズ　以上、作詞／武鹿悦子　作曲／菊池俊輔　（コロムビアレコード、朝日ソノラマ）■録音／神原広巳■音響効果／伊藤道広■声の出演　おやゆび姫（杉山佳寿子）ブンブー（宮城まり子）　ナレーター、ゲコオ（岸田今日子）　モグラー（富田耕生）　かえる父さん（永井一郎）　かえる母さん（高橋和枝）　チュミー（野沢雅子）　王子様（小原乃梨子）ほか　協力／青二プロダクション

NO. 178 一休さんとやんちゃ姫

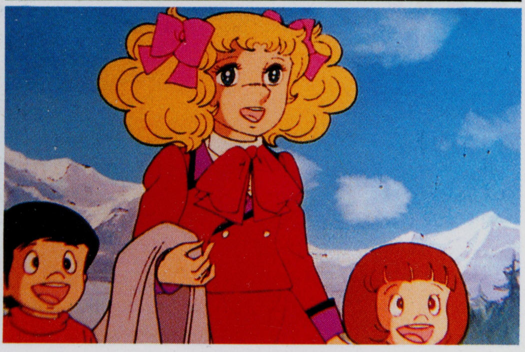


78年3月18日（土）東映系封切　15分
併映作品／世界名作童話　おやゆび姫、ジャッカー電撃隊VSゴレンジャー、キャンディ・キャンディ　春の呼び声、惑星ロボダンガードＡ　宇宙大海戦（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕五條家の露姫は、まるで台風のように元気な女の子で、ついたアダ名が〝やんちゃ姫〟。今日も安国寺で、オテンバぶりを発揮していた。そんな彼女に注意するつもりで、一休は、いっそのこと男の姿になればいいといってしまう。ところが、さすがはやんちゃ姫、なるほどと納得。男の子のかっこうをし、自らを露丸と名乗って、足利義満にまで木刀を向ける始末。さて一休のとんちは、やんちゃ姫を女らしくすることができるだろうか……。
〔解説〕人気のテレビシリーズ「一休さん」の劇場用新作。今回登場しているやんちゃ姫は、シリーズの半レギュラーではあるが、主役を食ってしまうほどの人気キャラだ。

■製作／今田智憲■プロデューサー／坂梨　港、高見義雄■製作担当／宮崎一哉■チーフディレクター／矢吹公郎■脚本／辻　真先■キャラクター設計・監修／我妻　宏■演出／しらとたけし■演出助手／康村正一■作画監督／白土　武■原画／白土　武、北原久美子■動画／野島けい子、海藤祐美子、田中健、宮本美和子■美術設定／影山　勇■美術／影山勇■背景／伊藤雅人、佐貫利勝、襟立智子■仕上／平賀豊彦、高橋達雄、前田剛引、戸塚友子■撮影／吉村次郎■編集／鳥羽亮一（タバック）■音楽／宇野誠一郎■ＯＰ「とんちんかんちん一休さん」ＥＤ「母上さま……」以上、作詞／山元護久　作曲／宇野誠一郎　うた／相内　恵、ヤングフレッシュ（コロムビア・朝日ソノラマ）■オーディオディレクター／小松亘弘■選曲／賀川晴雄■音響効果／大平紀義（Ｅ＆Ｍ）■録音／神原広巳■現像／東映化学
■声の出演　一休さん（藤田淑子）　さよ（桂　玲子）　和尚（宮内幸平）　露姫（白石冬美）　蜷川新右衛門（野田圭一）　秀念　（はせさん治）　足利義満（山田俊司）　五條兼定　（緒方賢一）／青二プロ

NO. 179 キャンディ・キャンディ 春の呼び声

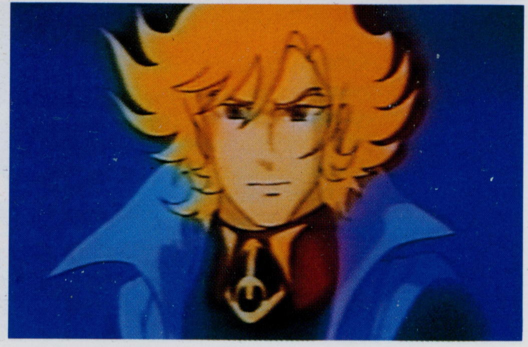


78年3月18日（土）東映系封切　25分
併映作品／世界名作童話　おやゆび姫、ジャッカー電撃隊VSゴレンジャー、一休さんとやんちゃ姫、惑星ロボダンガードＡ　宇宙大海戦（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕久しぶりでポニーの家に戻り、先生たちとの再会を喜ぶキャンディとクリン。そこでキャンディは、父を亡くし、新しくきたばかりで周囲になじまないという少女・キャッシーに会った。昔自分が遊んだ〝お父さんの木〟にひとり登っているキャッシーに、キャンディは話しかける。そしてポニーの家のみんなに、自分の生い立ちのこと、苦しい過去ばかりをふり返らず、いつでも前を見て笑うように励ましてくれた人々のことを語って聞かせるのだった。
〔解説〕原作漫画とテレビで大人気を集めていた少女アニメ「キャンディキャンディ」の劇場版新作第１作。新作プラス総集編の構成で、回想という形でテレビシリーズの名場面が挿入されている。

原作／水木杏子、いがらしゆみこ　連載／講談社「なかよし」「たのしい幼稚園」「おともだち」「ディズニーランド」■製作／今田智憲■企画／山口康男■製作担当／岸本松司■製作進行／池田裕之■脚本／城山　昇■演出／笠井由勝■演出助手／本庄克彦■キャラクター設計・監修／進藤満尾■作画監督／進藤満尾■原画／大鹿日出明、青島克巳、札木幾夫、高野　登、鹿島恒保■動画／山田みよ、長沼寿美子、円山　智、進藤みゆき、玉沢君子■美術設定／浦田又治■美術／土田　勇■背景／田中資幸、鳥本　武、海老沢一男、下川忠海■仕上／藤本芳弘、衣笠一雄、酒井日出子、長谷川政子、紺野透治、平瀬志栄■特殊効果／中島正之、佐藤章二■撮影／清水政夫■編集／祖田富美夫■音楽／渡辺岳夫■ＯＰ「キャンディ・キャンディ」ＥＤ「あしたがすき」以上、作詞／名木田恵子　作曲／渡辺岳夫　うた／堀江美都子（ザ・チャープス）　（コロムビアレコード・朝日ソノラマ・ファンファニー）■録音／波多野　勲■音響効果／伊藤道広■選曲／宮下　滋■記録／伊藤悦子■現像／東映化学
■声の出演　キャンディ（松島みのり）　ポニー先生（中西妙子）　マリアーベーカー（北浜晴子）　アンソニー（井上和彦）　テリュース（富山　敬）　（小宮山　清）（山口奈々）（千々松幸子）（中野聖子）（中谷ゆみ）（鈴木富子）（小山まみ）（吉田理保子）協力／青二プロダクション

NO. 180 惑星ロボ ダンガードＡ 宇宙大海戦

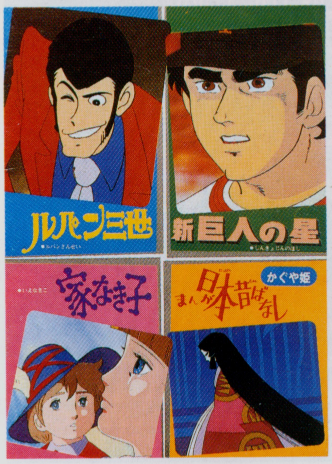


78年3月18日（土）東映系封切　25分
併映作品／世界名作童話　おやゆび姫、ジャッカー電撃隊VSゴレンジャー、キャンディ・キャンディ　春の呼び声、一休さんとやんちゃ姫（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕プロメテをめざして進むジャスダムとドップラー軍団は、土星軌道を越えようとしていた。ハーケンはジャスダムを破壊するため、小惑星をミサイル化して攻撃してくるが、ダンガードＡにはばまれる。しかしダンガードＡも故障し、その援護に向かったリサは土星の引力に引き寄せられてしまう。リサ救出のためにジャスダムとダンガードはふた手に別かれて行動、結果的にドップラーのプラネスターに奇襲をかけることになり、リサも無事救出された。
〔解説〕テレビアニメ「惑星ロボダンガードＡ」の劇場用新作第２弾。特にテレビシリーズとちがった要素があるわけではなく、シリーズと同レベルで、ジャスダムとプラネスターの攻防を描いている。テレビシリーズ終了直前の公開だった。オープニングは前作同様の劇場用の新作画面のものが使用された。エンディング曲「宇宙空母ジャスダム」は、最終回でも使われた人気の高い挿入歌。

原作／松本零士　〔協力〕／小林　檀　掲載〔テレビマガジン・たのしい幼稚園、冒険王・おともだち・テレビランド〕■製作／今田智憲■企画／勝田稔男■製作担当／吉岡　修■脚本／田村多津夫■演出／明比正行■演出助手／松下　健■作画監督／兼森義則■原画／及川博史、稲野義信■動画／長谷川　稔、石森ヒカル、前島和子、鈴木春久■美術／内川文広、松本健治■背景／小林祐子、松本邦子■美術進行／阿久津文雄■特殊効果／平尾千秋、浜　桂太郎■トレース／五十嵐令子、坂野園江■ゼログラフ／冨永勤、高橋　章■彩色／阿部慶子、吉村和子■検査／森田　博■仕上進行／中村正弘■撮影／菅谷信行■編集／田中　修■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「すきだッダンガードＡ」ＥＤ「宇宙母艦ジャスダム」以上、うた／ささきいさお、ヤングフレッシュ　作詞／伊藤俊也　作曲／菊池俊輔　（コロムビアレコード・朝日ソノラマ・ファンファニー）■録音／小久保正雄■音響効果／森　賢一■選曲／宮下　滋■録音スタジオ／タバック■記録／黒石陽子■現像／東映化学■声の出演　タクマ　（神谷　明）　秀人（古川登志夫）　大江戸（富田耕生）　伴太（大竹　宏）　ヘチ（八奈見乗児）　リサ（吉田理保子）　ミヨ子（菊地紘子）　ハーケン　（山田俊司）　東（井上和彦）　ドップラー（田中　崇）　〔協力〕／青二プロダクション

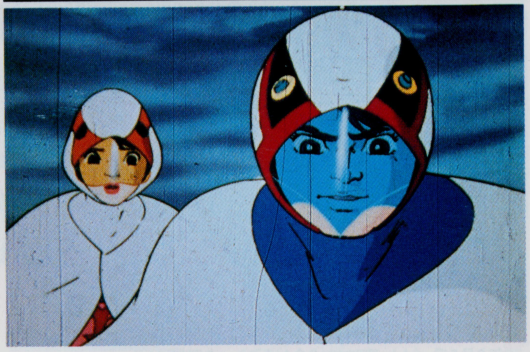
NO. 181~184 春休み 東宝チャンピオンまつり



〔解説〕リバイバルの東宝特撮映画「地球防衛軍」をメインにした、このプログラムで、"東宝チャンピォンまつり" は、その歴史を閉じることになった。東宝の子ども向けプログラムは、'80年の「ドラえもん　のび太の恐竜」と「モスラ対ゴジラ」の２本立てをへて、藤子アニメの新作アニメ数本で構成するプログラムへと移行していく。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'73.3.18(土)	ルパン三世（新）	24分	今野　鐶	御厨　恭輔	北原　健雄	龍池　昇
		8話「ベネチア超特急」を上映				
	新巨人の星	24分	城山　昇	出崎　哲	不詳	小林　七郎
		17話「嵐の中のテスト生」を上映				
	家なき子	23分	山崎　晴哉	出崎　統	杉野　昭夫	小林　七郎
		9話「はじめての友だちグレース」を上映				
	まんが日本昔ばなし	13分	沖島　勲	児玉　喬夫	樋口　雅一	阿部　幸次
	かぐや姫	1回Aパート「かぐや姫」を上映				
	＊実写併映作品「地球防衛軍」（リバイバル）					

NO. 185 科学忍者隊ガッチャマン



78年7月15日（土）松竹・富士映画共同配給　1時間50分

〔あらすじ〕南部博士のもとに結成された５人の科学忍者隊が、謎のパイロットチーム、レッド・イン・パルスと協力し、宇宙から飛来した総裁Xの陰謀と対決する。
〔解説〕タツノコプロ創立16周年記念作品。105話に亘るテレビ版のストーリーを、健とジョーにしぼりこみ再構成してある。実写界から岡本喜八監督を招き、音楽もテレビのボブ佐久間から、すぎやまこういちへ変更、日本を代表するオーケストラ・NHK交響楽団が演奏するなど話題となった。

原作／吉田竜夫■製作／吉田健二■企画／竜の子プロ企画室■プロデューサー／九里一平、上野捷己■総指揮／岡本喜八■構成／鳥プロ■SF考証／小隅黎■脚本／鳥海尽三、陶山　智、鳥海永行■監督／鳥海永行■キャラクターデザイン／吉田竜夫、九里一平、天野嘉孝■メカニックデザイン／中村光毅、大河原邦男■作画監督／宮本貞雄■美術監督／中村光毅■撮影／平山昭夫、小西一広、橋本和典■編集／谷口　肇■音楽／すぎやまこういち　演奏／ＮＨＫ交響楽団　日本コロムビア株式会社■録音／ザックプロモーション、水本　完■共同配給／松竹株式会社、富士映画株式会社■竜の子プロ創立16周年記念作品■声の出演　大鷲の健（森　功至）ほか

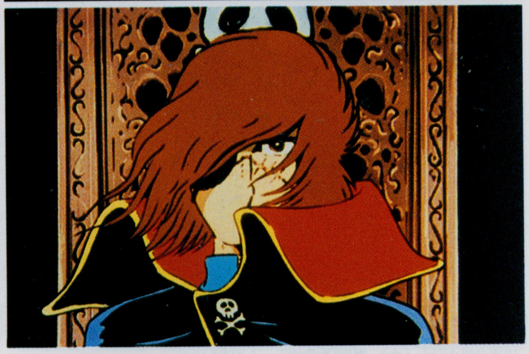
NO. 186 ハクション大魔王

78年7月15日（土）　併映作品／ピンチクリフグランプリ

〔内容・解説〕'69年に放映されたタツノコ製作のテレビシリーズ「ハクション大魔王」を劇場公開。

※資料がないために、スタッフ、キャストの詳細は不明ですが、テレビ版から推察できる範囲で以下に補充しておきます。
原作／吉田竜夫■美術監督／中村光毅■音楽／市川昭介■録音ディレクター／水本　完、オムニバス・プロ■制作／フジテレビ、タツノコプロ■声の出演　大魔王（大平　透）　アクビ（貴家堂子）　カンちゃん（加藤みどり）ほか

NO. 187 宇宙海賊キャプテンハーロック アルカディア号の謎

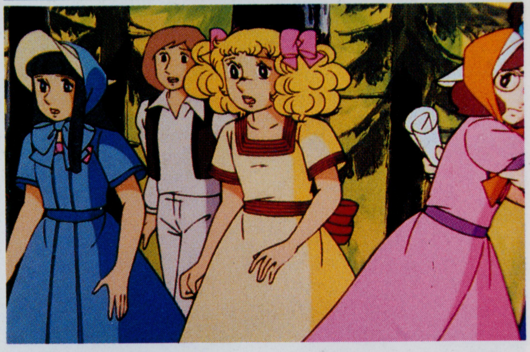


78年7月22日（土）東映系封切　34分
併映作品／長靴をはいた猫（リバイバル）、スパイダーマン、宇宙からのメッセージ　銀河大戦、キャンディ・キャンディの夏休み（東映まんがまつり）

【あらすじ】北大西洋、海の墓場といわれるサルガッソ海から、ペナント、海底ピラミンドに続き、宇宙からの侵略者・マゾーンに送られる第３の信号が確認された。マゾーンと戦い続ける宇宙の無法者・キャプテンハーロックは、仲間と共に海賊戦艦アルカディア号でサルガッソ海へ向かった。そこで彼らを待っていたのは、一千年も昔の戦艦武蔵や伊号潜水艦による攻撃。そしてマゾーンの女王ラフレシアに忠誠を誓った海の魔女アマンだった。
【解説】松本零士原作の人気テレビアニメ「宇宙海賊キャプテンハーロック」の13話「死の海の魔城」の冒頭に、ハーロックの親友の娘・まゆをアルカディア号に乗せて宇宙を航海する10分前後の新作部分を加えた作品。13話は、ハーロックの親友である大山トチローの謎に関する伏線となった、シリーズ中では重要なエピソードで、ファンの間で人気の「友よ」の名セリフも登場。数少ない、りん・たろうが演出、小松原が作画監督をつとめた回でもある。

原作／松本零士、スタジオぬえ　連載／プレイコミック　掲載／テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち、テレビランド、冒険王■製作／今田智憲■企画／有賀　健、田宮　武、小湊洋市■製作担当／佐伯雅久■製作進行／横山典子■脚本／上原正三■演出／りん・たろう■作画監督／小松原一男■原画／長崎重信、後藤紀子、月間恵美子、沼尻　東■動画／相原信洋、保谷由佳、大塚多恵子、江野沢由美、大島城次、八島善孝、敷島博英■美術設定／椋尾　篁■美術／窪田忠雄■背景／山川　晃、田村さと子、松宮正純、加藤隆文■仕上／松原明徳、高橋達雄、安永陽子■特殊効果／岡田良明■撮影／菅谷信行■編集／吉川泰弘■音楽／横山菁児　指揮／熊谷　弘　演奏／コロムビアシンフォニック・オーケストラ■ＯＰ「宇宙海賊キャプテンハーロック」ＥＤ「われらの旅立ち」以上、作詞／保富康午　作曲／平尾昌晃　編曲／横山菁児　（コロムビアレコード・朝日ソノラマ・ファンファニー）■録音／二宮健治■選曲／宮下　滋■効果／伊藤道広■声の出演　ハーロック（井上真樹夫）　台羽　正（神谷　明）　ミーメ（小原乃梨子）有紀　榮（川島千代子）　切田長官（柴田秀勝）　ドクターゼロ（八奈見乗児）　ヤッタラン副長（大竹宏）　魔地機関長（緒方賢市）　ますさん（つかせのりこ）　魔女アマン（坪井章子）隊員（田中　崇）司令部係官（井上和彦）

NO. 188 キャンディ・キャンディ キャンディ・キャンディの夏休み

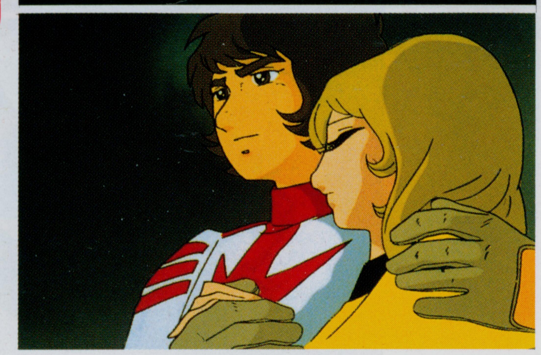


78年7月22日（土）東映系封切　15分
併映作品／長靴をはいた猫（リバイバル）、宇宙海賊キャプテンハーロック　アルカディア号の謎、スパイダーマン、宇宙からのメッセージ　銀河大戦（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕赤いオープンカーを走らせて、キャンディ、ステア、アーチー、アニー、パティは夏のロッキー山脈へハイキングにやってきた。だが突然の雷雨に、一同は森のなかへ。キャンディは、別れ別れのテリィとのサマーキャンプを思いだす。やがて雨上がり、大空にかかった美しい虹に見とれる５人の前に、やはり雨宿りをしていたらしい小さな小熊が走りでた。思わず抱き上げるキャンディ。しかしそのとき、牙をむいた大熊が、うなり声をあげて近づいてきた。
〔解説〕「キャンディキャンディ」の劇場版新作第２作。

原作／水木杏子、いがらしゆみこ　連載／講談社「なかよし」「たのしい幼稚園」「おともだち」「ディズニーランド」■製作／今田智憲■企画／山口康男■製作担当／岸本松司■脚本／笠間由紀夫■演出／笠井由勝■演出助手／池田裕之■キャラクター設計・監修／進藤満尾■作画監督／進藤満尾■原画／青嶋克巳■動画／小松良江、岩井美登理、上野茂々子、広瀬和子、長沼寿美子、山田みよ■美術設定／浦田又治■美術／浦田又治■背景／下川忠海、田中資幸■仕上／藤本芳弘、梢　志津子、衣笠一雄■特殊効果／中島正之■撮影／菅谷信行■編集／田中　修■音楽／渡辺岳夫■ＯＰ「キャンディ・キャンディ」ＥＤ「あしたがすき」以上、作詞／名木田恵子　作曲／渡辺岳夫　うた／堀江美都子（ザ・チャープス）（コロムビアレコード・朝日ソノラマ・ファンファニー）■録音／波多野　勲■音響効果／伊藤道広■選曲／宮下　滋■記録／伊藤悦子■現像／東映化学■声の出演　キャンディ（松島みのり）　ステア（肝付兼太）　老人（永井一郎）　アーチー（三ツ矢雄二）　アニー（小山まみ）　パティ（川島千代子）

NO. 189 さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち



78年8月5日（土）東映株式会社配給　2時間31分

【あらすじ】西暦2201年、宇宙のあらゆる星々を破壊し、侵略し尽す白色彗星が地球に迫っていた。そのころ古代ら旧ヤマト乗組員は、宇宙の危機を訴える謎の信号をキャッチ。防衛会議に提訴するが、退けられてしまう。さらに追い討ちをかけるかのように、ヤマトの廃艦が決定。納得できない古代たちは反逆罪を覚悟でヤマトを発進させた。斉藤をはじめとする空間騎兵隊や、新艦長・土方を迎えたヤマトは、信号の発信源であるテレザート星へ向かった。

【解説】ヤマト初の劇場用完全オリジナル作品。東映動画が制作協力として参加し、勝間田具治がアニメーションディレクターとして名を連ねるようになった。絵コンテを描いた安彦良和は、ラスト80カットの原画も担当している。新造戦艦アンドロメダをはじめ傑作メカが続出し、大仕掛けに富んだストーリー展開、とりわけ悲壮感に満ちたラストは、多くの観客の涙を誘った。また、画面最後に、ヤマトはもう二度と姿を現さない、という意味の字幕が出た。

企画　原案　製作　総指揮／西崎義展■原案／松本零士、舛田利雄■プロデューサー／吉田　達■製作担当／横井三郎、長島正治、広岡　修■ＳＦ設定協力／豊田有恒■脚本／舛田利雄、藤川桂介、山本英明■監督　総設定／松本零士■監督／舛田利雄■アニメーション・ディレクター／勝間田具治■テクニカル・ディレクター／石黒　昇■絵コンテ／安彦良和■助監督／棚橋一徳■総作画監督／湖川　滋■作画監督／小泉謙三、荒木伸吾、芦田豊雄、宇田川一彦、落合正宗■原画／青鉢芳信、石井邦幸、泉口薫、稲野義信、及川博史、小川明弘、兼森義則、金田伊功、金山通弘、木野達児、白土　武、高橋信也、角田紘一、友永和秀、広田　全、正延宏三、的場茂夫、姫野美智■美術監督／勝又　激■背景美術／赤保谷則子、市原勝義、海老沢一男、小林祐子、下茂恵美子、松本健治、松本広子■共同デザイン／スタジオぬえ■衣装デザイン協力／花井幸子■編集／千蔵　豊■音楽／宮川　泰■挿入歌「ヤマトより愛をこめて」作詞／阿久　悠　作曲／大野克夫　編曲／宮川　泰　歌／沢田研二■音響監督／田代敦己■録音／林　昌平、宮内栄一■製作／株式会社オフィス・アカデミー■配給／東映株式会社■（声の出演）古代　進（富山　敬）　森　雪（麻上洋子）　島大介（仲村秀生）　土方艦長（木村　幌）　ズォーダー大帝（小林　清）　テレサ·（上田みゆき）　ナレーター（広川太一郎）ほか

NO. 190 ルパン三世 LUPIN THE THIRD



78年12月16日（土）東宝洋画系封切　1時間42分

【あらすじ】ルパン三世が死んだ。いや、ルパンそっくりの誰かが処刑されたのだ。それを不気味に思うルパンだったが、不二子の頼みで、世界中から〝賢者の石〟などの秘宝を盗み続ける。その不二子を操る男こそ、クローン技術で１万年も生き続け、人間の歴史に干渉してきた怪物・マモーだった。〝賢者の石〟をめぐってのカーチェイスなど、激しい攻防のなか、マモーは２人のルパンのどちらかは、自分が作ったクローン人間だと彼に告げるのだった……。

【解説】劇場長編「ルパン三世」第１作。放映中のテレビ第２シリーズがギャグタッチの子ども向き作品になっていたこともあり、旧作シリーズのスタッフによる、大人のムードを持った〝ルパン〟をセールスポイントにした作品となった。実際には、旧作が無国籍アクション映画的であるのに対し、この作品はSF色の強い現代的なハードボイルドである。脚本・監督の吉川惣司が腕をふるい、各キャラの魅力を最大限に引きだし、パワフルな傑作に仕あげている。

原作／モンキー・パンチ　（週刊漫画アクション連載　双葉社刊）■製作／藤岡　豊■製作補／郷田三朗、片山哲生■制作担当／池田陽一■脚本／大和屋竺、吉川惣司■監修／大塚康生■監督／吉川惣司■レイアウト／芝山　努■作画監督／椛島義夫、青木悠三■作画／アクト、大坂竹志、佐久間信計、小柴重光、林　隆文、安西　武、伊藤幸松　スタジオルック、岡　豊、国島龍二、上杉遵史　マジックバス、清山滋峯、清水恵蔵　オカスタジオ、増谷三郎　スタジオメイツ、小泉謙三、大宅幸男、一川孝久、島田和義　スタジオライフ、さかいあきお、渡辺　浩　ＯＨプロ、丹内　司、岡本健一、友永和秀、山内昇寿郎、葛岡　博、槌田幸一　Ｔ・Ａ・Ｆほか■動画チェック／大武正枝■美術／阿部行夫■美術助手／野谷顕次、門野真理子■背景／椋尾プロ、窪田忠雄　アトリエローク、川井　憲　小林プロ、青木勝志　アトリエロビン　カブトムシ工房、石川山子ほか■撮影／黒木敬七■編集／相原義彰■音楽／大野雄二　サントラ盤／コロムビア・レコード■ＥＤ「ルパン音頭」作詞／モンキーパンチ　作曲／大野雄二　唄／三波春夫　テイチク・レコード■選曲／鈴木清司■録音／加藤　敏■制作協力／東北新社■製作／東京ムービー新社■声の出演　ルパン三世（山田康雄）　峰不二子（増山江威子）　次元大介（小林清志）　石川五右ェ門（井上真樹夫）　銭形警部（納谷悟朗）　マモー（西村　晃）ほか

'79 昭和54年

空前のアニメブームのなか、「龍の子太郎」「銀河鉄道999」「エースをねらえ！」「ルパン三世カリオストロの城」の、それぞれ違ったタイプの４本の名作が生まれた。「龍の子太郎」は東映動画の伝統を受け継いだ落ち着きのある作品。「銀河鉄道999」はロマンあふれる松本零士アニメの頂点であり、「ヤマト」と並びアニメブームを象徴する作品だった。また出崎統、杉野昭夫のコンビが、テレビ作品でみがきあげてきたセンスと技術の結晶した作品が「エースをねらえ！」であり、前年のテレビシリーズ「未来少年コナン」で初監督をつとめ、その才能と実力を発揮した宮崎駿の個性がついにスクリーンで結実した作品が「ルパン三世　カリオストロの城」である。アニメブームが起こるまでに蓄積されていた、それぞれのパワーが爆発した作品であった。

また、高年齢層をターゲットにおいた「がんばれ!!　タブチくん!!」もヒット。こののち、東宝は、同作品の続編や、「マンザイ太閤記」「プロ野球を10倍楽しく見る方法」などのギャクアニメを公開していくことになる。

NO. 191 龍の子太郎



79年3月17日（土）東映系封切　1時間15分
併映作品／ピンク・レディーと春休み、キャプテンフューチャー、SF西遊記スタージンガー、闘将ダイモス

〔あらすじ〕むかし、米も穫れない貧しい山の村に、龍の子太郎と呼ばれる少年がおばあさんと住んでいた。仕事もせず山の動物たちと遊び暮らす太郎は、ある日天狗とのすもうに勝ち、人のためにしか使えない百人力を授かる。美しい音色の笛を吹く少女・あやを連れ去ろうとした赤鬼を、見事天高く投げ上げる太郎。その夜、おばあさんははじめて太郎の母が龍の姿になって生きていると話す。太郎は母がいるという北の湖をめざして旅立った。

〔解説〕国際児童年協賛作品として、東映動画がひさびさにその底力をみせた傑作。日本を題材とした作品としても久しぶりである。監督には「キューポラのある街」で知られる浦山桐郎を迎え、脚本、構成から絵コンテ、編集まで、その作家性がじっくり浸透した作品づくりが行われた。また、もと東映動画のベテラン・小田部羊一による温かみのあるキャラクターと動き、社内の実力派・土田勇による水墨画風の美術も、監督の作品世界を見事に表現していた。

原作／松谷みよ子■製作／今田智憲■企画／有賀健、山口康男■製作担当／吉岡　修、岸本松司■脚本／浦山桐郎、三井隆史■監督／浦山桐郎■アニメーション演出／葛西　治■演出助手／遠藤勇二■キャラクターデザイン、作画監督／小田部羊一、奥山玲子■原画／阿部　隆、角田紘一、金山通弘、木野達児、小川明弘、広田　全、的場茂夫、才田俊次、荒木伸吾、高野　登、石黒　育■動画／薄田嘉信、小林敏明、坂野隆雄、金山圭子、服部照夫、石山毬緒、山田みよ、長沼寿美子、八島善孝、円山　智、草間真之介、山崎　久、小松良江、岩井美登理、松村啓子、加藤良子、上野茂々子、三原武憲、石黒益美、上梨一也、島田和義、村上由美、中島裕子、池田淳子、大塚多恵子、三好史子、大塚伸治、佐藤弘美、森本知枝、岸本良子■美術監督／土田　勇■背景／海老沢一男、田中資幸、松本健治■仕上検査／小椋正豊、衣笠一雄■撮影／山田順弘、高梨洋一■編集／千蔵　豊■音楽／真鍋理一郎■ＯＰ「龍の子太郎のうた」作詩／若林一郎、浦山桐郎　作曲／真鍋理一郎　うた／加藤淳也、水木一郎■録音／波多野　勲■音響効果／伊藤道弘■声の出演　太郎（加藤淳也）　あや（冨永　みーな）　赤鬼（熊倉一雄）　黒鬼（北村和夫）　にわとり長者、ナレーター（黒田絢子）　太郎のお婆さん（矢吹寿子）　山姥（樹木希林）　白蛇（佐奈田恒夫）天狗（酔銘亭桐庵）　龍（たつ）（吉永小百合）（特別出演）　協力／東映演技研修所

NO.192～194 199～200 春休み 夏休み 東映まんがまつり

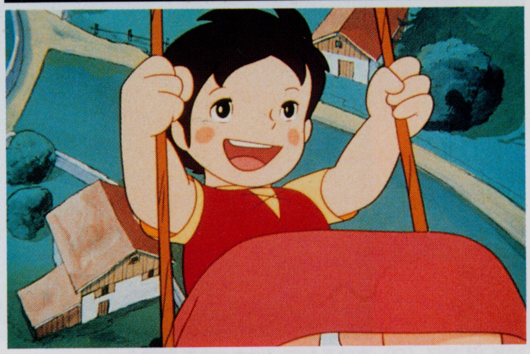




封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'79.3.17(土)	東映まんがまつり(春休み)					
	龍の子太郎	No.191参照				
	キャプテンフューチャー	24分	辻　真先	勝間田具治	野田　卓雄	辻　忠直
		スペシャル「華麗なる太陽系レース」の編集版				
	SF西遊記	24分	田村多津夫	案納　正美 蕪木登喜司	菊地　城二	伊藤　岩光
	スタージンガー	詳細不明				
	闘将軍ダイモス	23分	辻　真先	高浪　葉一	高橋　資祐	官野　隆
		24話「ド根性カイロの秘密兵器」を上映				
	＊実写併映作品「ピンクレディーと春休み」					
'79.7.29	'79国際児童年記念東映まんがまつり(夏休み)(地方のみ)					
	パンダの大冒険	(リバイバル)No.110参照				
	花の子ルンルン		金春　智子	設楽　博	鹿島　恒保	田中　資幸
	花の街のヒロイン	15話「花の街のヒロイン」を上映				
	SF西遊記スタージンガー		富田　祐弘	芹川　有吾 大谷　恒済	須田　正己	伊藤　岩光 海老沢一男
	悪魔のバリバリゾーン	8話「悪夢のバリバリゾーン」を上映				
	ねずみのよめいり	No.198参照				
	＊実写併映作品「バトルフィーバーJ」					

NO. 195 アルプスの少女ハイジ

HEIDI

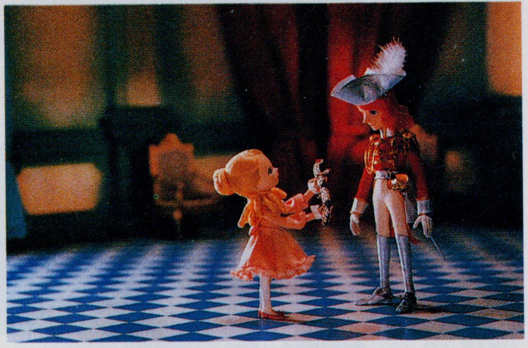


79年3月17日（土）東宝東和提供　東宝洋画系封切　1時間47分

〔あらすじ〕ハイジは幼いころ両親を亡くし、頑固だが優しい祖父・アルムおんじのもと、山羊飼いのペーターとアルプスの自然のなかで成長していった。８歳のとき、ハイジは金持ちの娘クララのお相手としてフランクフルトに連れて行かれた。ハイジは足の悪いクララに同情しつつも、山を思って病気になってしまい、クララの好意で山に帰される。そして、ハイジを慕って山にきたクララは、ハイジやペーターに助けられ、自分の足で立ち、歩けるようになっていく。
〔解説〕'74年から放映され、多くの視聴者の人気を得、またアニメ史上におけるエポックメイキングとなったテレビシリーズ「アルプスの少女ハイジ」の劇場用総集編。１話から最終回まで全52話のエピソードを、ハイジとクララのエピソードを中心に構成している。クララなどのキャストはテレビシリーズと異なる。

原作／ヨハンナ・スピリ■製作／高橋茂人■企画／瑞鷹エンタープライズ■物語構成／松木　功■脚本／吉田義昭、大川久男、佐々木　守■監督・構成／中尾寿美子■演出／高畑　勲■キャラクターデザイン／小田部羊一■画面構成／宮崎　駿■作画／岡田敏靖、高橋信也、坂井俊一、羽根章悦、櫻井美知代、斉田俊次、高野　登、古沢日出夫■動画チェック／篠原征子、水田めぐみ■美術／井岡雅夫■背景／川本征平、西原繁男、西　芳平、窪田忠雄、椋尾　篁、石橋健一■仕上検査／小山明子■撮影／トランスアーツ■編集／沼崎梅子■音楽／渡辺岳夫■ＯＰ「おしえて」歌／伊集加代子、ネリー・シュワルツ　ＥＤ「まっててごらん」歌／大杉久美子、ネリー・シュワルツ　以上、作詩／岸田衿子　作曲／渡辺岳夫■録音監督／千葉耕市■（製作／瑞鷹エンタープライズ）■声の出演　ハイジ（杉山佳寿子）　クララ（潘　恵子）　デーテ（浅井淑子）　ペーター（丸山裕子）　ペーターの祖母（麻生美代子）　ロッテンマイヤー（京田尚子）ゼーゼマン（筈見　純）　トマッシュ（八木光生）　おじいさん（宮内幸平）　バルベル（畠山洋子）　チネッテ（原　えおり）　家庭教師（上田敏也）　堂守（高田竜二）　クララの祖母（高村章子）　ヨハン（千田光男）　ブリギッテ（荘司美代子）　セバスチャン（槐　柳二）　ナレーター（前田敏子）　※斉田俊次、西　芳平、井岡雅夫の表記は画面通り。

NO. 196 くるみ割り人形

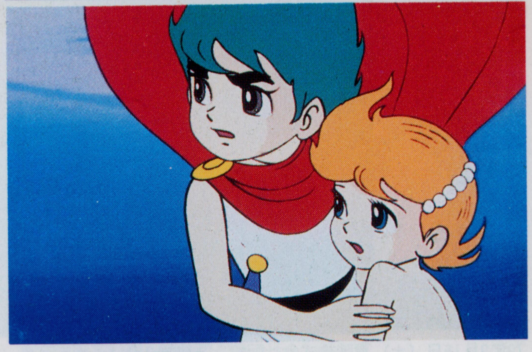


79年3月17日（土）サンリオ・日本ヘラルド映画共同配給　1時間35分

【あらすじ】19世紀、ドイツのニーベルゲンにクララという名の女の子が住んでいた。従兄弟のフリッツが３年ぶりに帰ってくるのが楽しみで、クララはなかなか寝つくことができない。そこにやってきたドロッセルマイヤーおじさんから、くるみ割り人形を無理にもらい、クララは眠りについた。ふと気がつくと、ネズミがくるみ割り人形をもっていこうとしている。あわてて追いかけるクララの前に、恐ろしい双頭の白ネズミが現れた。夢の世界での冒険がはじまる。
【解説】ホフマンの「くるみ割り人形とネズミの王様」と、チャイコフスキーの名曲をもとにしたサンリオ製作の長編人形アニメ。一部、実写のバレエも挿入されている。後半のミュージカルシーンで、キティなどサンリオのキャラクターが登場するのもごアイキョウ。杉田かおる、玉置宏、大橋巨泉、牧伸二、益田喜頓など、豪華キャストが目をひく。

原作／Ｅ・Ｔ・Ａホフマン、Ｐ・Ｉ・チャイコフスキー　原作／「くるみ割り人形」ーサンリオ出版社刊ー■製作／辻　信太郎■企画／辻　信太郎、清水浩二、中村武雄■プロデューサー／富岡厚司■脚本／辻　信太郎■台詞修正協力／宮崎真由美■監督／中村武雄■人形デザイン／小室一郎、宮本貞雄、田沢梨枝子■人形製作／小室一郎、保坂人形工房、友永詔三、与　勇輝■アニメーション／真賀里文子、中村武雄、持永只仁■美術設定／鏑木昌弥、山下　宏■設定協力／宮本貞雄、平田敏夫、波多正美■美術／山下　宏■撮影／大谷文夫、杉田安久利、高森菱児■照明／中谷敏清■編集／小川信夫、中村武雄■音楽監督／山本直純■作・編曲／若月明人、羽田健太郎　作詞／寺山修司　演奏／新日本フィルハーモニー交響楽団、荘村清志　指揮／小泉和格　振付／清水哲太郎■録音監督／林　昌平■（製作／サンリオフィルム）■キャスト　クララ（杉田かおる）　フランツ、フリッツ（志垣太郎）　婆や（夏川静枝）　マウゼリンクス夫人（一の宮あつ子）　シュヌルル（山田隆夫）　王女マリー（上原ゆかり）　侍従長（太宰久雄）　ジプシー占い（北浜晴子）　ふとっちょネズミ（岸部シロー）その他／青二プロダクション　ドロッセルマイヤー、不思議婆さんほか（西村　晃）　人形の国の皇帝（益田喜頓）■出演　（ピーター・ウィリアムス）■特別出演　（森下洋子）（清水哲太郎）

NO. 197 海のトリトン

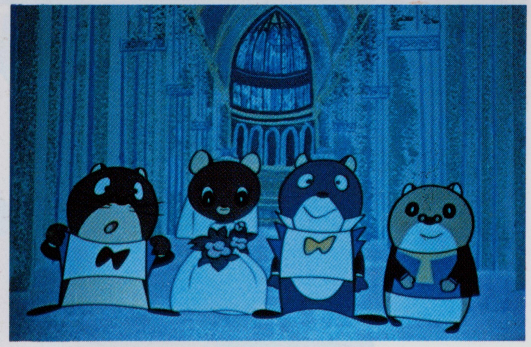


79年7月14日（土）東映系封切　1時間14分
併映作品／宇宙戦艦ヤマト（リバイバル）、さらば宇宙戦艦ヤマト（リバイバル）

〔あらすじ〕緑の髪の少年トリトンはアトランティスの子孫。一平爺さんに育てられたが、イルカのルカーに生い立ちの秘密を知らされて海の旅に出る。太平洋で大海亀メドンに出会ったトリトンは、自分の出自と、ポセイドン族と戦えという遺言を伝えられる。トリトンは海の平和を守るためと信じ、ルカー、メドンとともにポセイドン族と戦いながら、大西洋から南北太平洋、北極海へと旅を続け、イルカたちの協力もあって勝ち進む。
〔解説〕製作西崎義展、監督富野喜幸、作画監督羽根章悦という豪華メンバーによるTVシリーズ（'72年放映）を、棚橋一徳が編集した。シリーズを２部構成でまとめたが、公開されたのは前半部分のみ、ヤマト・フェスティバル（TV放映版の「宇宙戦艦ヤマト」と「さらば宇宙戦艦ヤマト」が一挙上映された）と同時上映された。第２部は、長い間陽の目を見ず、幻の作品といわれたが、ビデオ化の際に１本にまとめられ、はじめてファンの目に触れた。

原作／手塚治虫■総指揮／西崎義展■監修／舛田利雄■プロデューサー／西崎義展■制作担当／鈴木紀男■制作担当、プロデューサー／黒川慶二郎■制作担当／広岡　修■制作助手／片山秀男■文芸進行／鶴見和一■構成／松岡清治、富野喜幸■演出（監督と同義）／富野喜幸■演出／棚橋一徳■演出助手／秦　義人■作画監督／羽根章悦■美術監督／伊藤主計、牧野光成■編集／森本寛夫、千蔵　豊■音楽担当／松原武俊■音楽／鈴木宏昌、蛙プロダクション■ＯＰ「ＧＯ／ＧＯ／トリトン」作詩／林　哲生　音楽／鈴木宏生　唄／ヒデ・タ木■音響監督／浦上靖夫■音響／本田保則■効果／森　賢二、イシダサウンド■製作／オフィス・アカデミー■声優　トリトン（塩屋　翼）　ピピ（広川あけみ）　ルカー（北浜晴子）　一平（八奈見乗児）　トリトンの父（野田圭一）　トリトンの母（沢田敏子）　フィン（杉山佳寿子）　ポセイドン神父、ナレーター（北川米彦）　メドン（塩見龍助）　プロテウス（滝口順平）ほか

NO. 198 ねずみのよめいり

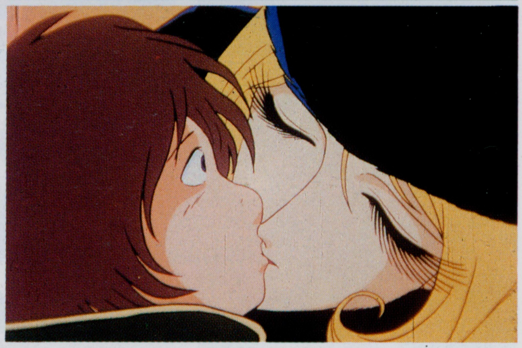


79年7月29日（日）東映系封切（地方のみ）　13分
併映作品／パンダの大冒険（リバイバル）、バトルフィーバーＪ　ロボット大空中戦、花の子ルンルン　花の街のヒロイン、ＳＦ西遊記スタージンガー　悪魔のバリバリゾーン

〔あらすじ〕娘のアルバムを眺めていたねずみのおとうさんとおかあさん。そろそろ娘も嫁入りの時期、世界でもっとも強い者を婿にと考えぬいた２匹は、太陽のもとへ出かけた。ところが太陽より雲、雲よりも風が、そして風よりも家が、自分のほうが強いといって現れた。家を婿にしようとねずみの両親が決めたとき、突然悲鳴をあげはじめた家。壁をかじって出てきたのは、アルバムに娘と写っていた幼なじみの雄ねずみと、彼に手を引かれた娘であった。
〔解説〕1961年、東映動画が「もぐらのモトロ」とともに、新人グループの教育の意味で制作した短編作品。月岡貞夫と白川大介が企画し、脚本も２人で書いている。完成から18年後に「まんがまつり」の１本として公開された。ちなみに、作画で参加している林重行は、のちに虫プロなどで演出家として活躍するりん・たろうの本名である。

企画／島田太一■脚本／白川大作、月岡貞夫■監修／森　康二■構成、演出／白川大作、月岡貞夫■作画／月岡貞夫、小林知子、花田玲子、林　重行、田村真也■美術／小山礼司■仕上／本橋文枝■撮影／菅原英明、篠崎文男■編集／稲葉郁三■音楽／朝野真悟■録音／石井幸夫■（製作／東映（東映動画））
※本リストは、東映動画の社内資料をもとに作成した。

NO. 201 銀河鉄道999
GALAXY EXPRESS

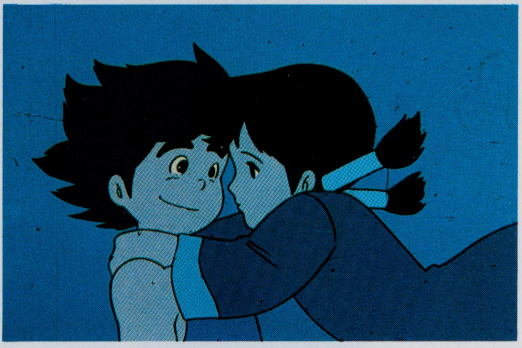


79年8月4日（土）東映株式会社配給　２時間９分

〔あらすじ〕〝永遠の命〟である機械の体になりたいと願う少年・星野鉄郎は、謎の美女メーテルから銀河超特急９９９のパスを貰い受けた。９９９号に乗れば、機械の体をタダで貰える星へ行くことができるのだ。メーテルとともに地球をあとにした鉄郎は、山賊アンタレスや女海賊エメラルダス、キャプテンハーロックとその親友であるトチローらとの邂逅（かいこう）と別離を通じて、しだいにたくましく成長していく。そして母の仇・機械伯爵を倒し、終着駅へと向かうが……。
〔解説〕松本零士原作の実質的な劇場長編第１作であり、同時に松本アニメの頂点をなす１本である。「宇宙海賊キャプテンハーロック」での実績を買われた、りん・たろう、小松原一男、椋尾篁が起用され、独自のイメージで鉄郎の青春を描き切った。特に叙情的なラストシーンは、公開当時大いに話題となった。興業的にも16億５千万円と、'79年度の邦画配収第１位の成績を残し、またゴダイゴによる主題歌もミリオンセラーになるなど、さまざまな記録を打ち立てた。

企画・原作／松本零士■製作総指揮／今田智憲■企画／有賀　健、高見義雄■製作担当／横井三郎■構成／松本零士■脚本／石森史郎■監修／市川　崑■監督／りん・たろう■監督助手／大関雅幸、吉沢孝男■メカニック・デザイン協力／板橋克己■アルカディア号デザイン協力／スタジオ・ぬえ■作画監督／小松原一男■作画監督補佐／角田紘一■原画／兼森義則、稲野義信、及川博史、友永和秀、月間恵美子、真鍋譲二、金田伊功、井口忠一、堀川留子、桑原玲子、中島忠二、小泉謙三、的場茂夫、河村信道、高橋英吉■美術／椋尾　篁、窪田忠雄■美術補佐／山川　晃■背景／中村　靖、加藤隆文、松宮正純、川村静子、中山益男、山口あきら、松本健治、下茂恵美子■撮影／福井政利、片山幸男■編集／花井正明、大熊　泉■音楽／青木　望■ＥＤ「THE GALAXY EXPRESS 999」　挿入歌「TAKING OFF」 以上、作詞／奈良橋陽子、山川啓介　作曲／タケカワユキヒデ　編曲／ミッキー吉野　歌・演奏／ゴダイゴ　「やさしくしないで」作詞／中原葉子　作曲／中村泰士　編曲／青木　望　歌／かおりくみこ■録音／二宮健治、小久保正雄■製作／東映動画■声の出演　星野鉄郎（野沢雅子）　メーテル（池田昌子）　車掌（肝付兼太）　ハーロック（井上真樹夫）　エメラルダス（田島令子）　トチロー（富山　敬）　プロメシューム（来宮良子）　ナレーター（城　達也）ほか

NO. 202 未来少年コナン

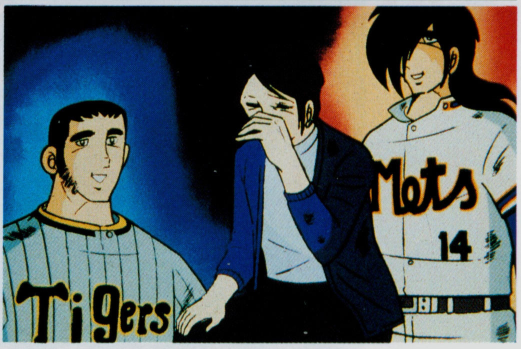


79年9月15日（土）東映株式会社配給　２時間３分
併映作品／野球狂の詩　北の狼南の虎

〔あらすじ〕最終戦争で超磁力兵器が使用され、地球は大変動に襲われた。それから20年、のこされ島でオジイとふたりっきりで住んでいた少年コナンは、浜に流れついた少女ラナを助ける。だが、ラナはインダストリアからきたモンスリーに連れさられ、オジイも殺されてしまう。ラナを救うため、旅にでたコナンは、とある島でジムシイという少年に出会い友だちになる。ふたりはダイス船長の船バラクーダ号に乗り、インダストリアへ向かうのだった。
〔解説〕NHKで放送されたTVシリーズの再編集版。ただし、ラストは大幅に変更され、ギガントでの活劇はなく、ラナの祖父ラオ博士も死なずに、世界に散らばった人々を助けに旅にでるとなっている。映画化の企画は、ラジオ局のニッポン放送からだされ、ニッポン放送が宣伝部門を受け持つ形で実現した。ラジオでの４時間にわたる先行ロードショーが放送された。主題歌は作詞作曲谷山浩子、歌を研ナオコが歌い、話題になった。

〈ＯＰのタイトルクレジット〉制作／本橋浩一■プロデューサー／中島順三、足立　和■脚本／今戸榮一■監督／佐藤　肇■編集／田中　修■音楽タイミング／石川　孝■音楽／藤家虹二■音楽プロデューサー／上野　修■ＯＰ「愛をもう一度」ＥＤ「なつかしい朝」作詞・作曲／谷山浩子　歌／研　ナオコ　キャニオン・レコード■録音／岡村昭治効果／大平紀義■記録／宮本衣子■製作協力／東映株式会社■制作／日本アニメーション■〈ＥＤのタイトルクレジット〉【テレビシリーズ制作スタッフ】原作／アレキサンダー・ケイ「残された人々」より■製作／本橋浩一■製作管理／高桑　充■企画／佐藤昭司■プロデューサー／中島順三、遠藤重夫■脚本／中野顕彰、吉川惣司、胡桃　哲■演出／宮崎　駿■キャラクターデザイン／大塚康生、宮崎　駿■場面設定、メカニックデザイン／宮崎　駿■作画監督／大塚康生■美術監督／山本二三■仕上検査・色指定／保田夏世■撮影監督／三沢勝治■編集／瀬山武司ほか■音楽／池辺晋一郎■ＯＰ「いま地球が目覚める」ＥＤ「幸せの予感」作詞／片岡　輝　作曲／池辺晋一郎　唄／鎌田直純、山路ゆう子■録音監督／斯波重治■制作／日本アニメーション株式会社■声の出演　コナン（小原乃梨子）　ラナ（信沢三恵子）　ジムシー（青木和代）　ダイス（永井一郎）　モンスリー（吉田理保子）　じい・ラオ・パッチ（山内雅人）　レプカ（家弓家正）ほか

NO. 203 野球狂の詩　北の狼南の虎

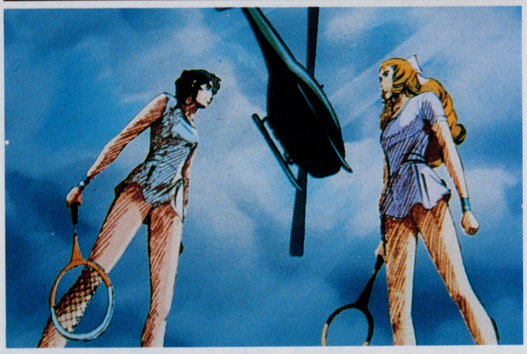


79年9月15日（土）東映株式会社配給　１時間30分
併映作品／未来少年コナン

【あらすじ】『北の狼』こと北海道・白大雪高校の火浦健と『南の虎』熊本・阿蘇高校の王島大介は、ともに高校野球界を騒がせた実力の持ち主だが、実は双子の兄弟だった。健の育ての父・政はヤクザだったが、息子の将来のために組を抜けようとして殺される。怒った健は、傷害事件を起こして高校球界から姿を消した。２年後、驚異の速急投手として東京メッツに入団した健は、タイガースに入った王島と対決し、同時に、出生の秘密を知るのだった。
【解説】１時間・１話完結のＴＶシリーズから、２週にわたって放映されて特に好評だったエピソードを、劇場用に再編集した野球アニメ。生き別れになった双子の野球選手の数奇な運命と対決を描く。映画は、陰のあるヒーローとしてファンに人気の高かった火浦に、よりウェイトを置いて再構成された。またアフレコも、王島の声を作間功から森功至に変更、実況アナの渡辺謙太郎を新たに起用するなどして録りなおされている。

原作／水島新司■製作／本橋浩一■企画／別所孝治（フジテレビ）、渡辺忠美（日本アニメーション）■プロデューサー／渡辺忠美、加藤良雄■デスク／岡迫和之■担当／柴山達雄■監督／岡部英二■構成、絵コンテ／岡部英二■演出補／鈴木　行■作画監督／金沢比呂司■原画／金沢比呂司■動画／並木正人、桑原　薫、高木治郎、坂元久子、小野隆也、内田広之、福島淳隆、興村忠美、石井ゆかり、室屋澄代、清水恵子■美術監督／半藤克美■背景／番野雅好、米本智子、西本初枝、鈴木啓子、西巻晶子、大宮久江、大脇章子■撮影監督／三沢勝治■撮影／小山信夫、金子　仁、辻　勝之、清水達正■編集／岡安肇、掛須秀一■音楽／中村泰士■ＱＰ「北の狼南の虎」ＥＤ「かあさんの灯」作詞／橋本　淳　作曲／中村泰士　編曲／京　健輔　歌／水木一郎■音響監督／浦上靖夫■効果／松田昭彦■調音／中戸川次男■録音／新坂スタジオ■協力プロダクション／東京アニメーションフィルム、スタジオ　じゃっく、オーディオプランニングユー、イシダ　サウンド■制作協力／土田プロダクション■制作／日本アニメーション、フジテレビ■声の出演　火浦　健（曽我部和行）　火浦　政（大宮悌二）　王島大介（森　功至）　社長（柴田秀勝）　おたね（高村章子）　お峰（島木綿子）　王島の母（坪井章子）　岩田鉄五郎、ナレーター（納谷悟朗）　五利（雨森雅司）　加代（武藤礼子）　王島の父（仲木隆司）ほか

NO. 204 エースをねらえ！

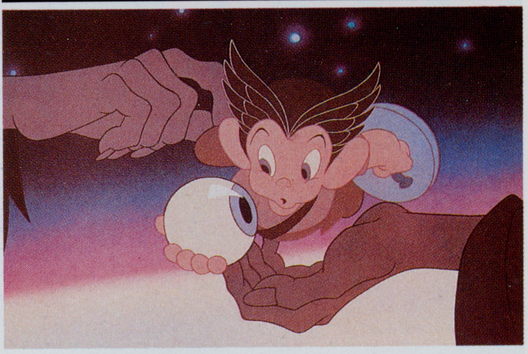


79年9月8日（土）東宝系封切　1時間28分
併映作品／ピーマン８０

【あらすじ】岡ひろみと親友・愛川マキは、県立西高の１年生。お蝶夫人こと竜崎麗香に憧れてテニス部に入部した。そんなときひろみの才能を見抜いた新任コーチ・宗方仁は、周囲の反対を押し切ってひろみを関東地区予選の選手に抜擢、猛練習を命じた。宗方の強引さに、ひろみにもつらく当たる竜崎や他の部員たち。傷心のひろみは退部しようとするが、マキの友情や先輩・藤堂貴之の優しさ、宗方の熱い想いに支えられ、再びテニスへの情熱をとりもどしていく。
【解説】テレビアニメ「新・エースをねらえ！」の高人気により映画化が実現。監督、作監は、旧テレビシリーズを担当した出崎統、杉野昭夫。物語は、宗方の死までがバランスよく構成されている。電話を小道具に使い、ひろみと宗方との心のふれ合いを的確に描きだした演出をはじめ、作画、美術、撮影ともにテレビで培われてきた、きわめて高度な映像表現がスクリーン上に展開。青春物アニメのひとつの到達点として、現在まで高い評価を受けている作品である。

原作／山本鈴美香　週刊マーガレット連載　集英社刊■製作／藤岡　豊■製作補／片山哲生■製作担当／山崎敬之、網田靖夫■制作デスク／池田陽一■脚本／藤川桂介■監督／出崎　統■助監督／竹内啓雄■作画監督／杉野昭夫■原画／遠藤裕一、萱　登祥、中村隆太郎、大坂竹志、小柴重光、小林佐希子、伊藤幸松、大橋　学、本木久年、富沢和雄、青嶋克己■動画チェック／杉野佐秩子、中村　誠■動画／服部　真、奥村志郎、上原篤世、青山純子、塚田信子、富田　邦、平山　智、亀垣　一、佐々木直美、半田由利、小泉恵子、高橋愛緒、加藤涼子ほか■美術／小林七郎■背景／男鹿和雄、水谷利春、小倉宏昌、松岡　聡、藤江優子、林　裕美子■色指定／川崎智子■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■音楽／馬飼野康二■ＯＰ「まぶしい季節に」ＥＤ「はるかな夢」以上、作詞／竜　真知子　作曲／馬飼野康二　唄／少年探偵団　ＣＢＳソニー■選曲／鈴木清司■録音／中野寛次　東北新社■協力／ＡＣＴ、スタジオＺ、スタジオジャッフス、マジックバス、スタジオ古留美、イージーワールド、グループジョイ、小林プロ、高橋プロ、鶴渕映画■製作協力／マッドハウス■製作／東京ムービー新社■声の出演　岡ひろみ（高坂真琴）　宗方　仁（野沢那智）　竜崎麗香（池田昌子）　藤堂貴之（森功至）　愛川マキ（菅谷政子）　竜崎理事長（納谷悟朗）　緑川蘭子（弥永和子）　千葉鷹志（曽我部和行）　尾崎　勇（豊田真治）ほか

NO. 205 星のオルフェウス

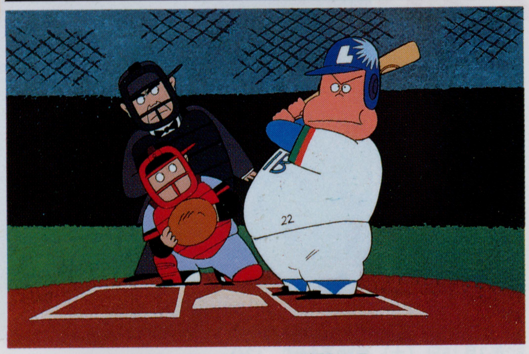


79年10月27日（土）　1時間35分
併映作品／マジック・カプセル・ゴダイゴ

［あらすじ］第１話——ペルセウスは蛇髪の魔女メドゥーサを倒すため旅に出る。
第２話——狩人アクタイオンは、女神アルテミスの裸身をのぞき見たため鹿にされる。
第３話——アグラウロスは嫉妬の女神に心を侵され、妹とヘルメスとの恋に嫉妬する。
第４話——地獄の王プルートーンに花嫁エウリュディケを連れ去られたオルフェウスは、彼女を求めて地獄へと降りて行く。
第５話——パエトーンは父の火の馬車を盗みだすが、やがて火の馬は暴走をはじめる。
［解説］ギリシャ神話をもとにした５つの物語で構成されたオムニバス作品。サンリオが６年の歳月と14万枚のセル画をかけて製作した70ミリ超大作アニメーション。制作は日米合作の形をとっており、アメリカに設立されたサンリオ所有のスタジオで、ディズニー出身者を中心にした現地スタッフによって実作業が行われていた。日本人スタッフは、タツノコ出身の宮本貞雄や、イラストレーターの深井国ら20名が制作に参加している。

原作／オービッド■製作総指揮／辻　信太郎■プロデューサー／ウォルト・ディフェリア、テリー・荻洲、津川　弘■脚本／タカシ■ナレーション脚本／ノーマン・コーウィン■アニメーション監督／タカシ■シークエンス・ディレクター／ジェリー・アイゼンバーグ、リチャード・ヒューブナー、宮本貞雄、アンビイ・パリウォダ、レイ・パターソン、マニー・ペレス、ジョージ・シンガー、スタン・ウォルシュ■アニメーション／エドウィン・アーダル、ジョン・アヘルン、赤堀幹治、ロバート・カールソン、ブラッド・ケイス、マルア・デイル、エドワード・ディマティア、ジョアン・ドレイク、エドガー・フレッドマン、山本　繁ほか■プロダクション・デザイナー／ポール・ジュリアン、レイ・アラゴン、深井国、レベッカ・オルテガ・ミルズ、宇野亜喜良■音楽／アレック・Ｒ・コスタンディノス■音楽監督／ジョン・ケーパー・ジュニア■ＥＤ「リヴァー・オブ・ファイター」作詞／イノック・アンダーソン　作曲／アレック・Ｒ・コスタンディノス　編曲／レイ・ニーネスキー　歌／パティ・ブルックス■（製作／サンリオフィルム）■日本語版声の出演　（大平透）（武藤礼子）（穂積隆信）（高橋和枝）（中村　正）（中西妙子）（小林清志）（北浜晴子）（渡部　猛）（野沢雅子）（龍田直樹）ほか　ナレーター（伊丹十三）
※タイトルクレジット中、英字で表示されるものはすべて翻訳して掲載した。

NO. 206 がんばれ!!タブチくん!!

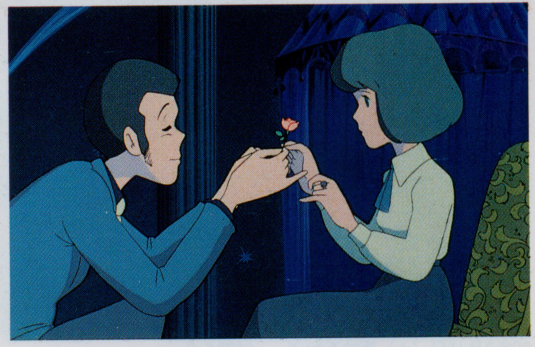


79年11月10日（土）東宝東和配給　東宝洋画系封切　1時間35分

〔あらすじ〕西武ライオンズの、〝打てない、走れない、守れない〟の３拍子揃ったタブチ選手。大好物は小手指名物のタコヤキ。つい食べ過ぎてブクブク肥り、打撃不調の原因になってしまう。そんなタブチにネモト監督、ツツミオーナーはハラハラ、ライオンズも連敗つづきだ。おまけに、ときどき邪魔しにくるヤクルトのヤスダやヒロオカ元ヤクルト監督も気になる。でもタブチは負けない。ミヨ子夫人の愛に支えられ、今日も彼のバットを空を切る……。
〔解説〕いしいひさいちの超ベストセラーコミックの映画化。原作の４コマ漫画を再構成した、独立性のある９本の短編からなる作品集。〝いつご入場になっても、どこからご覧になってもＯＫ!!〟というふれこみで、この形式は〝マルチラウンド・アニメーション〟と名づけられた。制作は、脚本５人、演出５人がそれぞれのエピソードを担当する競作制が敷かれ、このノウハウは、のちの「まことちゃん」や「カッくんカフエ」へと受け継がれていく。

原作／いしいひさいち　週刊漫画アクション連載　双葉社刊■製作／藤岡　豊、山本又一郎■製作補／片山哲生■製作担当／赤川　茂■製作デスク／松元理人■文芸／小野田博之■脚本／辻　真先、金子裕、城山　昇、出崎　哲、金春智子■監督／芝山　努■コンテ／芝山　努、小林　治、岡崎　稔、今沢哲男、永丘昭典■キャラクター・デザイン／山田みちしろ■作画監督／小林　治、香西隆男■原画／亜細亜堂、須田裕美子、竹内留吉、大竹伸一　スタジオ・ジュニオ、前田　実、鈴木欽一郎、端名貴勇　動画工房、石黒　育、高橋　昇■動画／亜細亜堂、吉本桂子、後藤真砂子、石井文子、大塚典子、志村宣子、加藤鏡子　スタジオ・ジュニオ、湊和良、森　一浩、今沢恵子　動画工房　コクピット　マジックバスほか■美術／門野真理子■背景／門野真理子、山川寛、中山益男、川村静子、吉田洋子■色指定／砂川千里■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■音楽／乾裕樹■ＯＰ「がんばれ!!タブチくん!!」作詞／岡田冨美子　作曲／根本　要　ＥＤ「ＷＡＯＨ！」作詞、作曲／根本　要　以上、編曲／乾　裕樹　唄／クレイジーパーティ　キティレコード■選曲／鈴木清司■録音／伊達　渉　東北新社■製作協力／東京ムービー■製作／東京ムービー新社■声の出演　タブチくん（西田敏行）　ミヨ子夫人（二木てるみ）　ツツミオーナー（肝付兼太）　ネモト監督（内海賢二）　ヒロオカ（羽佐間道夫）　ヤスダ（青野　武）ほか

NO. 207 ルパン三世 カリオストロの城



79年12月15日（土）東宝洋画系封切　1時間40分

〔あらすじ〕ニセ札・ゴート札を狙い、ヨーロッパの小国・カリオストロ公国にきたルパンたちの前に、謎の男たちに追われるウェディングドレスの美少女が現れた。フィアット500を駆っての猛烈なカーチエイスの末、一度は救い出したものの結局少女は連れ去られる。少女はこの国の王女クラリス。摂政カリオストロ伯爵が王位と秘宝を手に入れるため結婚を強要しているのだ。ルパンは彼女の救出のため、陰謀とトリックに満ちたカリオストロ城に潜入していく。
〔解説〕劇場第２作目。前作が旧作シリーズ前半のハードボイルドタッチの延長線なら、こちらは後半の明るいタッチの延長線上の正統的漫画映画。宮崎駿の個性と大塚康生の手腕がいかんなく発揮され、名シーンが続出する傑作冒険活劇となった。公開当時、興業や評価は決してよくなく、テレビ放映などにより徐々にファンの間での人気が高まり、名作としての評価が定着していった。また、宮崎ヒロインの典型である美少女クラリスに絶大な人気が集まった。

原作／モンキー・パンチ　週刊漫画アクション連載　双葉社刊■製作／藤岡　豊■プロデューサー／片山哲生■製作担当／齋藤壽男■脚本／宮崎　駿、山崎晴哉■監督／宮崎　駿■助監督／吉田茂承■作画監督／大塚康生■原画／篠原征子、友永和秀、河内日出夫、富沢信雄、丹内　司、山内昇壽郎、丸山晃一、真鍋譲二、田中敦子、新川信正■動画検査／原　恵子、島田明子■動画／青木康直、大里美和子、尾崎真佐美、小野昌則、川中京子、柏田涼子、熊本由美子、小林弥生、小島順子、桜井陽子、下崎ジュン子、鈴木幸雄、田辺厚子、堤　純子、道籏義宣、難波日登志、比留間敏之、藤村和子、亜細亜堂、ＯＨプロほか■美術／小林七郎■背景／小林プロダクション、青木勝志、石垣　努、大野広司、水谷利春、工藤美由紀、松岡　聡、小倉宏昌、海保甚三郎、林　裕美子、藤江優子　テレコム、山本二三■色彩設計／近藤浩子■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允壽■音楽／大野雄二■ＯＰ、ＥＤ「炎のたからもの」作詞／橋本　淳　作曲／大野雄二　唄／ボビー　コロムビアレコード■選曲／鈴木清司■録音／加藤　敏　東北新社■製作協力／テレコム・アニメーションフィルム■製作／東京ムービー新社■声の出演　ルパン三世（山田康雄）　峰不二子（増山江威子）　次元大介（小林清志）　石川五ヱ門（井上真樹夫）　銭形警部（納谷悟朗）　クラリス（島本須美）　カリオストロ伯爵（石田太郎）　園丁（宮内幸平）　ジョドー（永井一郎）　（山岡葉子）ほか

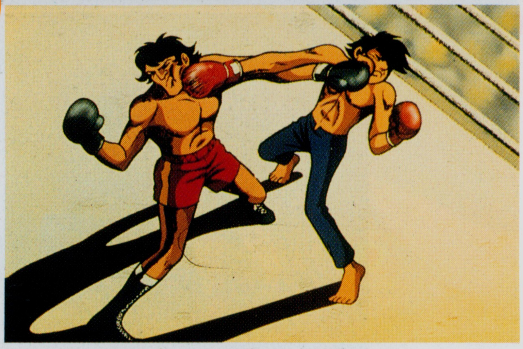
’80 昭和55年

「ネオ・ファンタジア」「ウォーターシップダウンのうさぎたち」「ピンク・パンサー」「白雪姫」「ドラゴン水滸伝」と、海外作品も含めて、この年も多くの劇場作品が公開され〝アニメ映画ラッシュ〟は続いた。

「さらば宇宙戦艦ヤマト」に続けとばかりに「地球へ…」「火の鳥2772　愛のコスモゾーン」「ヤマトよ永遠に」「サイボーグ009　超銀河伝説」と、次々にSF超大作が公開されたが、さほどの傑作は生れず、配給収入も10億を越えたのは「ヤマトよ永遠に」のみ。また、声優コンテスト、10000メートル機上試写会、献血キャンペーンと、公開に合わせて話題作りのためのイベントが行われたが、作品自体とかけ離れたものという印象が強い。

その一方で、「ドラえもん　のび太の恐竜」は、たった3週間の興業で、15億5千万の配給収入をあげる記録的大ヒットとなった。

NO. 208 あしたのジョー



80年3月8日（土）2時間33分　日本ヘラルド映画・富士映画共同配給

〔あらすじ〕〝拳キチ〟こと丹下段平がドヤ街で出会った、獣の目をした少年・矢吹丈（ジョー）。段平は己れが果たせなかったボクサーの夢をジョーに託すが、ジョーは意に介さず騒ぎを起こして少年院に送られてしまう。だがそこでの力石徹との出会い、ボクシングでの敗北はジョーの運命を変えた。出所後、プロボクサーとなった力石を追って、段平のもとでボクサーの道を歩むジョー。さまざまの苦難の末、ついにふたりは対決のときをむかえるが……。

〔解説〕テレビアニメの名作「あしたのジョー」を力石の死までの2時間半に再編集、音を入れ直して公開。原作者の梶原一騎は、自ら率いる三協映画で、永年「ジョー」の実写版を作ろうとしていたが、適役がおらず断念。新たに劇場アニメ「ジョー2」の製作を前提として'78年から企画化に乗りだし、この映画の実現に至った。監督の福田陽一郎は舞台、テレビの演出家で「ショーガール」が有名。テレビ版の監督である出崎統は、再編集には関わっていない。

原作／高森朝雄、ちばてつや（講談社刊）■総指揮／梶原一騎■製作／川野泰彦■プロデューサー／増田久雄■脚本、監督／福田陽一郎■チーフディレクター／出崎　統■監修／ちばてつや■演出助手／深野純一、高屋敷英夫■作画監督／杉野昭夫、金山明博、松田信男、荒木伸吾■原画／赤堀幹治、上口照人、進藤満尾、森田浩光、鈴木正俊、佐々門信芳、菊田武勝、若林常夫、札木幾夫■動画チーフ／上梨壺夫■動画／新田敏夫、木口　準、吉村昌輝、小林準治、堀越新太郎、川尻善昭、加藤誠一、根岸峰雄、石黒　篤、金子賢介、吉野康子、千田幸也、遠藤裕一■美術／明石貞一■背景／渡辺　毅、窪田忠雄■特殊効果／橋爪朋二■音楽／鈴木邦彦■撮影（撮影監督と同義）／熊谷★史■撮影／島　敏之、山崎茂、吉坂研一、中村桜子、岡　昌志、藤田　実、藤田正明■編集／白江隆夫■ＯＰ「あしたのジョー」作詞／たかたかし　作曲／鈴木邦彦　唄／おぼたけし　ＥＤ「Ｋ．Ｏ．（ノック・アウト）」作詞／村上龍　作曲／ジョー山中　唄／シミズ・ヤスオ　以上、（オレンジ・ハウスレコード）■録音／瀬川徹夫■資料／松本　豊■協力／美津野スポーツ■製作協力／東京ムービー新社■声の出演　矢吹　丈（あおい輝彦）　丹下段平（藤岡重慶）　マンモス西（岸部シロー）　解説者（梶原一騎（特別出演））　アナウンサー（志生野温夫）　力石　徹（細川俊之）　白木葉子（檀　ふみ）ほか

NO. 209 世界名作童話 森は生きている



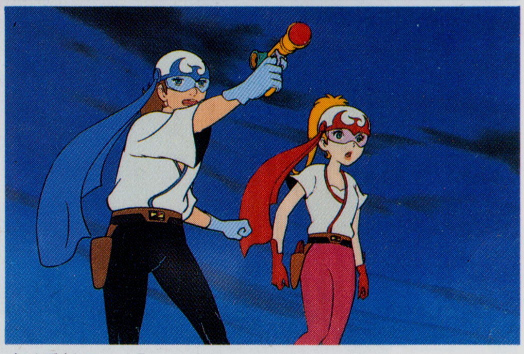
80年3月15日（土）東映系封切　1時間5分
併映作品／タイムボカンシリーズ　ゼンダマン、銀河鉄道999　ガラスのクレア、花の子ルンルン　こんにちは桜の国、仮面ライダー　8人ライダーVS銀河王（東映まんがまつり）

［あらすじ］わがままな王女が、真冬にマツユキ草がほしいといいだした。マツユキ草は春の花だ。王女の布告により、持参した者には、摘んできた篭にいっぱいの金貨が与えられるという。アーニャのまま母は、幼い彼女にさっそく大きな篭をもたせ、雪の森へと追いやった。泣く泣く森へ分け入ったアーニャが、森で出会った焚火をかこむ12人の男たち。1年の12の月の精である彼らはアーニャに同情し、1時間だけ森の季節をかえてマツユキ草を咲かせてくれた。

〔解説〕ソビエトの詩人サムエル・マルシャークの戯曲を東映動画がアニメ化。音楽はソ連のレニングラード・シンフォニック・オーケストラが演奏している。日本とソ連の合作として企画が進められていたが、日程などの調整がつかず東映の単独作品となった。この作品から、「白鳥の湖」「アラジン」と、東映動画は〝国際性〟の強い作品をめざすことになる。山口泰弘の端正なキャラクターとともに、画面の美しさが印象に残る一編。

原作／サムエル・マルシャーク　湯浅芳子訳（岩波書店刊）■製作／今田智憲■プロデューサー／横山賢二■製作担当／菅原吉郎■製作進行／吉沢孝男■脚本／隆　巴、矢吹公郎■演出／矢吹公郎■演出助手／今沢哲男■作画監督、キャラクターデザイン／山口泰弘■原画／阿部　隆、香西隆男、的場茂夫、我妻　宏、木野達児、石黒　育、金山通弘、端名貴勇、小川明弘、高橋信也■動画／小林敏明、山田みよ、薄田嘉信、長沼寿美子、石山毬諸、円山　智、服部照夫、成川裕子ほか■美術進行／工藤剛一■美術監督、美術デザイン／川本征平■撮影／清水政夫、細田民男■編集／千蔵　豊、片桐公一■音楽／ボロジミル・クリフツォフ　演奏／レニングラード・シンフォニック・オーケストラ　指揮／アレクサンドル・ミトリエフ■ＯＰ「泣かないわ」ＥＤ「森は生きている」以上、作詞／矢吹公郎　作曲／ボロジミル・クリフツォフ　コーラス／クリンカ合唱団　うた／真理ヨシコ　（日本コロムビアレコード）■録音／神原広巳■音響効果／伊藤道広■製作協力／ソビンフイルム、ソユーズ・ムルトフイルム■声の出演／アーニャ（大竹しのぶ）　女王（神崎　愛）　老婆（杉山とく子）　娘（向井真理子）　博士（永井一郎）　大臣（雨森雅司）　将校（隆　大介）　一月（小林清志）　四月（森　功至）　十二月（柴田秀勝）　ひげの兵士（山内雅人）　若い兵士（役所広司）ほか

NO. 210 タイムボカンシリーズ ゼンダマン



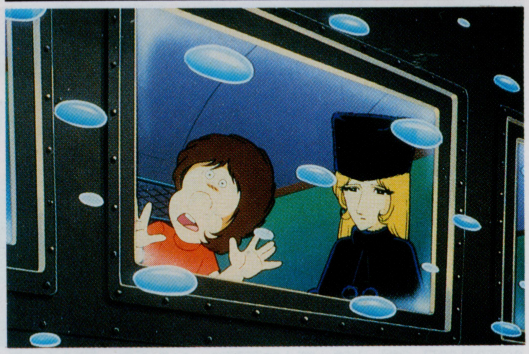
80年3月15日（土）東映系封切　13分
併映作品／世界名作童話　森は生きている、銀河鉄道999　ガラスのクレア、花の子ルンルン　こんにちは桜の国、仮面ライダー　8人ライダーVS銀河王（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕紋者博士の孫のさくらとボーイフレンドの鉄の2人は、ゼンダマンとなり、ムージョ、ドンジューロー、トボッケー3人のアクダマンと、〝命のもと〟をめぐって時間と空間を越えて戦いを続けている。今回は、古代エジプトに〝命のもと〟を求めて、ゼンダマンたちは旅立っていく。

〔解説〕テレビで長期放映されて人気を集めていた〝タイムボカンシリーズ〟の第3部「ゼンダマン」の劇場用新作。サブタイトルは「ピラミッドの箱の謎だよ！ゼンダマン」。

原作／タツノコプロ企画室■製作／吉田健二■企画／九里一平、柳川　茂、宮田知行■プロデューサー／柴田　勝■制作担当／新井正彦、又吉信正■脚本／小山高男■監修／笹川ひろし■監督／大貫信夫■キャラクターデザイン／天野嘉孝■メカニックデザイン／大河原邦男■作画監督／平山則雄■原動画／北条昌子、杉崎容子、兵藤多美子、鈴木芳子、玉野陽美、内田文子■美術スタイリング／多田喜久子■美術担当／岡田和夫■背景／アイプロ■色指定／北島京子■検査／福地敦子、佐藤美恵、高橋行子、沢田クミ子■撮影／アニメフレンド■編集／谷口　肇、谷川幸男■音楽／神保正明、山本正之■ＯＰ「ゼンダマンの歌」歌／藤井　健ＥＤ「これまたアクダマン」歌／山本正之、以上、作詩、作曲／山本正之　編曲／神保正明　（ビクターレコード）■録音ディレクター／鳥海俊材■録音／新坂スタジオ　高橋久義■制作協力／アニメフレンド■制作／株式会社竜の子プロダクション■配給／東映株式会社■声の出演　鉄ちゃん（三ッ矢雄二）　さくら（滝沢久美子）　もん者博士（宮内幸平）　ムージョ（小原乃梨子）　トボッケー（八奈見乗児）　ドンジューロー（たてかべ和也）　ニャラボルタ（池田　勝）　裁判メカ（宮村義人）　ゼンダゴリラ（飯塚昭三）　レフリー（田中　勝）　ナレーター（富山　敬）ほか　※本リストは、竜の子プロダクションの社内資料をもとに作成した。

NO.
211 銀河鉄道999 ガラスのクレア

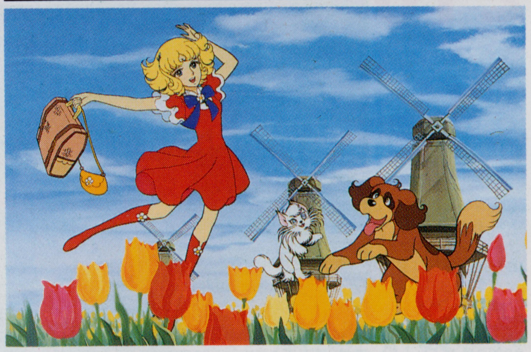


80年3月15日（土）東映系封切　17分
併映作品／世界名作童話　森は生きている、タイムボカンシリーズ　ゼンダマン、花の子ルンルン　こんにちは桜の国、仮面ライダー　8人ライダーVS銀河王（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕機械の体をタダでくれる星をめざし、銀河を旅する鉄郎とメーテル。ふたりは９９９号の食堂車でクレアというガラスの体の少女に出会う。クレアは見栄っぱりの母親が自分をガラスの体にしてしまったので、生身の体に戻るため働いているのだ。やがて、９９９は小惑星帯に入った。客車に戻った鉄郎は死んだはずの母に再会する。だが、それは幻覚の悪魔で、鉄郎を車外に引きずりだそうとする。そのときクレアは身を挺して鉄郎を助けだそうとするが……。
〔解説〕すでに公開された劇場長編「銀河鉄道９９９」と異なり、テレビシリーズのスタッフで制作された短編作品。テレビでは第３話で半パート分に相当するエピソードをリメイクしたもので、全編が新作として描き起こされた。クレアの画面処理については、透過光や二重撮影などさまざまな工夫が凝らされ、技術的により手のこんだものとなっている。またクレアの声も、テレビの川島千代子に代わり、映画版でクレアを演じた麻上洋子が再起用された。

原作／松本零士　（週刊少年キング連載）■企画／横山賢二、小湊洋市■製作担当／佐伯雅久■製作進行／池田桂治、益子啓道■脚本／藤川桂介、吉田喜昭■チーフディレクター／西沢信孝■演出／井内秀治、湯山邦彦■総作画監修／小松原一男■作画監督／田中　保、内山まさゆき■作画／小山　博、上條修、増井　泉、佐藤　元、白石美喜夫、米田郷子、川越　淳、高梨光夫、打越政江、杉山幸子、佐原圭子■美術設定／浦田又治■美術／山口俊和、秦　秀信■背景／山口俊和、赤保谷則子、佐々木真夫、金沢延代、童工房■仕上／松原明徳、安永陽子、小森ミツ■特殊効果／佐藤章二、向井　稔■撮影／菅谷英夫、武井利晴■編集／吉川泰弘（タバック）■音楽／青木　望■ＯＰ「銀河鉄道９９９」ＥＤ「青い地球」以上、作詞／橋本　淳　作曲／平尾昌晃　編曲／青木　望　歌／ささきいさお、杉並児童合唱団■録音／池上信照（タバック）■選曲／宮下　滋■音響効果／松田昭彦■記録／竹沢裕美子■現像／東映化学■声の出演　星野鉄郎（野沢雅子）　メーテル（池田昌子）　車掌（肝付兼太）　クレア（麻上洋子）　幻の母（津田延代）　ナレーション（高木　均）　協力／青二プロ　※本リストは、東映動画の社内資料をもとに作成した。

NO.
212 花の子ルンルン こんにちは桜の国

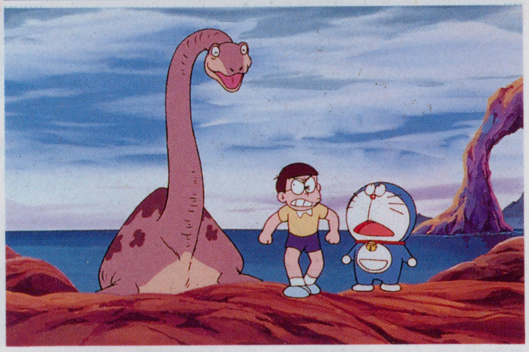


80年3月15日（土）東映系封切　15分
併映作品／世界名作童話　森は生きている、タイムボカンシリーズ　ゼンダマン、銀河鉄道999　ガラスのクレア、仮面ライダー　8人ライダーVS銀河王（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕花の精の子孫である少女ルンルンと、しゃべる犬のヌーボと猫のキャトーは、７色の花を求めて世界中を旅して回っていた。それをじゃまするのは、花の精の国・フラワーヌ星の女王候補の美女トゲニシアとその部下のヤボーキ。７色の花は、花の精の王のしるしでもあるのだ。今回は、７色の花を求めて桜の国・日本へとルンルン一行はやってきた。
〔解説〕テレビの人気少女アニメ「花の子ルンルン」の劇場新作作品。テレビシリーズでは一度も描かれていなかった日本を舞台にしたエピソード。テレビ放映は、本作の公開の１月ほど前に放映を終了していた。

原作／神保史郎■企画／春日　東、山口康男■製作担当／佐々木　章■脚本／城山　昇■演出／遠藤勇二■オリジナルキャラクター／姫野美智、荒木プロダクション■作画監督／永木龍博■美術／田原優子■音楽／筒井広志■ＯＰ「花の子ルンルン」作詞／千家和也　作曲／小林亜星　編曲／青木　望　うた／堀江美都子（ザ・チャープス）　（コロムビアレコード・朝日ソノラマ・ファンファニー）■声の出演　ルンルン（岡本茉利）　キャトー（白石冬美）　ヌーボ（神山卓三）セルジュ（水島　裕）　トゲニシア、ナレーション（喜多道枝）ほか　協力・青二プロ　※本リストは諸々の資料を総合して作成した。

NO.
213 ドラえもん のび太の恐竜

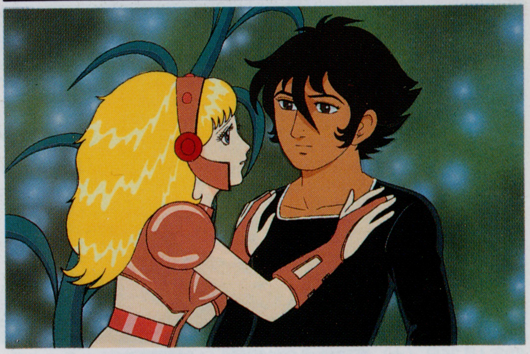


80年3月15日（土）東宝系封切　1時間33分
併映作品／モスラ対ゴジラ（リバイバル）

〔あらすじ〕崖の地層からのび太が発見した丸い化石は、なんと恐竜の卵だった。のび太はその卵を日夜暖め続けて、ついに孵化させることに成功。生まれてきたスズキフタバリュウにピー助と名づけて育てることにする。やがて巨大に成長したピー助。ドラえもんは白亜紀に帰してやるべきだとのび太を説得し、ふたりはタイムマシンで泣く泣く過去へ。しかしそこには、未来から来た恐竜ハンター・ドルマンスタイン一味がピー助を捕らえようと待ち構えていた。
〔解説〕現在まで続いている「ドラえもん」劇場シリーズの第１作。テレビシリーズの大ヒットによって企画され、短編「のび太の恐竜」をもとに藤子不二雄自身が映画用シナリオを執筆、同時にコロコロコミックに原作漫画の連載を行った。テレビおなじみのキャラクターの、映画ならではの大冒険ものとあって、子どもたちを中心に大当りし、東宝のドル箱シリーズとなる。なおこの１作目のみ画面はスタンダードサイズである。併映が藤子作品以外なのも本作のみ。

原作／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌　マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、小学一年生、小学二年生、小学三年生、小学四年生、小学五年生、小学六年生、コロコロコミックス、てれびくん■プロデューサー／楠部三吉郎、別紙壮一■脚本／藤子不二雄、清岡清治■監修／楠部大吉郎■監督／福富　博■レイアウト／芝山　努■作画監督／本多敏行■原画／富永貞義、婧名貴勇、前田　実、一川義久、椛島義夫、島田和義、森下圭介、野田作樹、鈴木欽一郎、おおたぬうほか■美術監督／川本征平■美術補／工藤剛一■撮影監督／三沢勝治（Ｊ．Ｓ．Ｃ.）■編集／井上和夫、森田清次■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ぼくドラえもん」作詞／藤子不二雄　歌／大山のぶ代　ＥＤ「ポケットの中に」作詞／武田鉄矢　歌／大山のぶ代、ヤングフレッシュ　以上、作・編曲／菊池俊輔　コロムアレコード、小学館プロダクション■録音監督／浦上靖夫、大熊　昭■効果／柏原　満■製作協力／テレビ朝日、旭通信社■製作／シンエイ動画、小学館■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　スネ夫（肝付兼太）　ジャイアン（たてかべ和也）　しずか（野村道子）　パパ（加藤正之）　ママ（千々松幸子）　ピー助（横沢啓子）　スネ夫のママ（加川三起）　ジャイアンのママ（青木和代）　ＴＰ隊員（井上和彦）　部下（宮村義人）　ドルマンスタイン（島　宇志夫）　黒い男（加藤精三）ほか

NO.
214 火の鳥2772 愛のコスモゾーン
SPACE FIREBIRD (AMERICA)

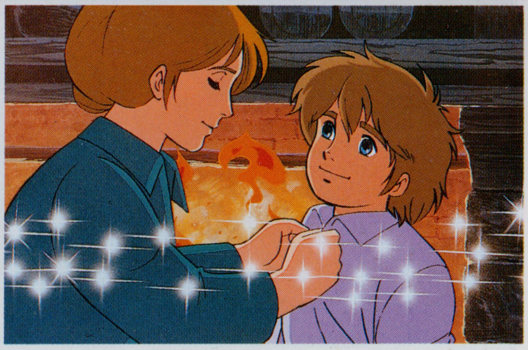


80年3月15日（土）東宝洋画系封切　2時間2分

〔あらすじ〕22世紀。宇宙ハンターのゴドーは、科学センター長官に謎の未確認生物コスモゾーン2772の捕獲を命じられていた。だがゴドーは上司ロックの婚約者レナと恋に陥ったためロックの怒りを買い、労働キャンプへ送られる。そこで彼は地球の危機と2772の必要性を説く科学者サルタに共鳴し、自分を育てた女性型アンドロイド・オルガらとともに宇宙へ脱出。やがて彼らは2772に遭遇するが、それは想像を絶する超生命体だった。
〔解説〕映画「火の鳥　黎明編」に続き、東宝がオリジナルストーリーによるフルアニメとして企画した長編作品。演出、作画、美術ともに旧虫プロ系スタッフが中心となった。スリットスキャンなど多重合成処理を使用した実験的な要素も見られる。総監督の手塚治虫の意向もあって海外向けに物語を単純化し、原作漫画からの大幅なイメージチェンジが行われたが、結果的に観客の期待に反する形となり、製作費の増加も重なって興行面でも不振に終わった。

原作／手塚治虫■製作／市川喜一、明田川　進■企画／市川喜一■制作担当／山川紀生、山本　智、鹿島田広臣■プロダクションマネージャー／松谷孝征■設定ブレーン／小松左京、ジラルド．クック、フレデリック．ショット■脚本／手塚治虫、杉山　卓■総監督／手塚治虫■監督／杉山　卓■設定／もとのりゆき、篠原博士■メカデザイン／御厨さと美■アニメーションディレクター／中村和子、石黒　昇■レイアウト、メカ作画監修／湖川友謙■原画／三輪孝輝、金山明博、高橋信也、半田輝男、正延宏三、札木幾夫、西村緋緑司、藤岡正宣、小林準治、つちだこういち、白川忠志、富沢和雄、湖川友謙、宇田川一彦、中村和子、鈴木伸一、石黒　昇、勝井千賀雄、坂口　尚、手塚治虫ほか■第二原画／元藤郁子、酒井一美、千田幸也、山崎　茂■美術／伊藤信治、松本　強■背景／石津節子、小林プロダクション、小林七郎ほか■撮影、特殊効果／八巻　磐■編集／井上和夫■音楽／樋口康雄　指揮／樋口康雄　バイオリン／千住真理子　演奏／ORCHESTRA－2772（日本コロムビア）■音響／明田川　進■1980年手塚プロダクション作品■キャスティング　ゴドー（塩沢兼人）　オルガ（三輪勝恵）　ロック（池田秀一）　レナ（藤田淑子）　サルタ（熊倉一雄）　ブラック・ジャック（伊武雅之）　ピンチョ（高橋和枝）　クラック（大竹　宏）　火の鳥（竹下景子）ほか　協力／青二プロダクション

NO. 215 家なき子

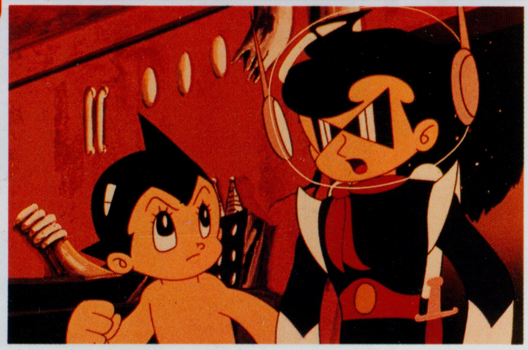


80年3月15日（土）東宝洋画系封切　1時間36分
併映作品／パンダの世界　ホアンホアンと仲間たち、人魚がくれたさくら貝（一部の劇場のみ）

〔あらすじ〕南フランス・ジャバノン村の少年レミは、拾われた子であった。ある日悲しみに沈む育ての母バルブラン夫人を残し、レミは旅芸人のビタリス一座に売られてしまう。座長ビタリスは誇り高く高潔な精神の持ち主であり、レミの良き師でもあったが、ある吹雪の夜、寒さから身を呈してレミを守り、自分はそのまま凍死。春、パリで、みなし児だが明るい元気な少年マチヤと友だちになったレミは、マチヤとともに自分の本当の両親を捜す旅に出る。
〔解説〕1977〜78年に放映された同名テレビアニメの再編集版。チーフディレクターの出崎統自身が再編集を行った。ただし再編集とはいえ、出崎がテレビ版を大胆に読み変え、かなり印象の異なる作品が誕生した。テレビ版で決定的な存在感を持っていたビタリスが背後に退き、その死の悲しみを若い生命力で明るく乗り越え進んでいくレミの姿がより強調されている。またテレビ版の基調を定めていた宇野重吉のナレーションは、劇場版では登場していない。

原作／エクトール・マロー■製作／藤岡　豊■プロデューサー／片山哲生■製作担当／山崎敬之■制作デスク／向坪利次■脚本／山崎晴哉■脚本協力／伊東恒久、杉江慧子■監督／出崎　統■助監督／竹内啓雄■画面設定／大橋　学■作画監督／杉野昭夫■原画／大坂竹志、伊藤幸松、藤島国夫、小柴重光、遠藤裕一、池田正和、服部　真、堀越新太郎、若林常夫、神宮　慧、小林慶輝、岡　　豊、富沢和雄、山下征二、阿部　司、佐藤　徹、寺司重幸■動画／天野公子、沼　憲子、前田順子、菅　登子、奥村シロー、中村隆太郎、土野孝典、飯野　孝、青山　充、岡島竜二、上杉遵史、宮崎弓子、桧田久美子、貞光紳也、田口智子、神林光嗣■美術／小林七郎■美術設定／清水一行、男鹿和雄■背景／青木勝志、石垣努、小倉宏昌、海保仁三郎、工藤美由紀、大野広司■色指定／山名公枝■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■音楽／渡辺岳夫■ＯＰ、ＥＤ「さあ、歩きはじめよう」作詩／東京ムービー　作曲／渡辺岳夫　歌／沢田亜矢子　キングレコード■録音／山田悦司■制作協力／マッドハウス■製作／東京ムービー新社■声の出演　レミ（菅谷政子）　ビタリス（近藤洋介）　ミリガン夫人（武藤礼子）　バルブラン・ママ（鈴木弘子）　マチヤ（小原乃梨子）アーサー（松尾佳子）　ドリスコル（滝口順平）ローラ（前田敏子）　ガレー弁護士（寺島幹夫）　ジェローム（青野　武）　（吉田理保子）ほか

NO. 216 鉄腕アトム 地球防衛隊



80年3月20日（木）大映・富士映画配給　24分
併映作品／宇宙怪獣ガメラ

【あらすじ】月の基地へ向かう途中のお茶の水博士が、宇宙人によって誘拐された。さっそく、アトムはお茶の水博士を救出するために月へ向かった。月で彼を待っていたのは、博士の親友である地球防衛隊の隊長、その秘書のハルコ、頼もしい隊員たちだった。常に宇宙人の攻撃にそなえている彼らだったが、隊員のナンバー５こと佐々木小次郎と、ナンバー７こと宮本武蔵はいつもケンカばかりしている。そして、隊員たちのなかには、宇宙人のスパイが基地のなかに潜入しているのではないか、という疑惑が広がっていた。
【解説】1963年から放映されていた国産初の本格テレビアニメ「鉄腕アトム」のなかから、カラーで制作された「地球防衛隊」を劇場公開。この作品は、1964年の再編集版「鉄腕アトム・宇宙の勇者」のなかにも収録されている。

脚本／鈴木良武■演出／高木　厚■音楽／高井達雄■ＯＰ「鉄腕アトム」作詞／谷川俊太郎　作曲／高井達雄　歌／上高田少年合唱団■製作／虫プロダクション■声の出演　アトム（清水マリ）　お茶の水博士（勝田　久）ほか　※本リストは、虫プロダクションの社内資料その他を総合して作成した。

NO. 217 地球（テラ）へ…



80年4月26日（土）東映株式会社配給　1時間59分

〔あらすじ〕ＳＤ500年。人口の増大、環境汚染などによって滅亡寸前となった地球は、コンピューターの管理によるＳＤ体制を生み出し、人類の大半を宇宙に移住させていた。〝目覚めの日〟を迎えたジョミーは超能力を持つ危険分子ミュウに救出された。ミュウの長ソルジャー・ブルーの遺志を継いだジョミーは、ミュウの同胞とともに地球へ行くことを決意。ＳＤ体制のエリート、キース・アニアンと対峙する。
〔解説〕監督に恩地日出夫を迎え、バストアップを多用したカメラアングルや約700という極端に少ないカット数、ワンポイント光源を意識した背景美術など、極めて実写的な感覚を取り入れた作品。竹宮恵子の長尺の原作を２時間にうまく構成し、ＳＦ大河ドラマとしての骨格を持ちながらも、青春映画のようなきらめきを放つ佳作である。また、主役格に沖雅也、志垣太郎、井上純一、秋吉久美子などの俳優を起用したキャスティングも話題を呼んだ。

原作／竹宮恵子　連載「月刊マンガ少年」（朝日ソノラマ）■製作／今田智憲■協力／栗津　潔、竹山実、薩谷和夫■企画／有賀　健、田宮　武■製作担当／岸本松司■脚本／恩地日出夫、塩田千種■監督／恩地日出夫■アニメーション演出／笠井由勝■キャラクター・デザイン、作画監督／須田正己■メカデザイン・プロジェクトチーム／ひおあきら、須田正己、土田　勇、青嶋克己、八島善孝■原画／青嶋克己、森　利夫、金田伊功、兼森義則、稲野義信、及川博史、堀川留子、吉田忠勝、石黒めぐむ、的場茂夫、小川明弘、金山通弘、阿部　隆、角田紘一、木野達児、小松原一男、須田正己■美術監督／土田勇■撮影／吉村次郎、池田重好■編集／鳥羽亮一、片桐公一■音楽／佐藤　勝■ＥＤ「愛の惑星（プラネット）」作詞／竜　真知子　作曲／ミッキー吉野　編曲／ミッキー吉野、岸本　博　うた／ダ・カーポ　サントラ盤・コロムビアレコード■録音／二宮健治■製作／東映動画株式会社■配給／東映株式会社■声の出演／ジョミー・マーキス・シン（井上純一）　フィシス（秋吉久美子）　ソルジャー・ブルー（志垣太郎）　ジョナ・マッカ（薬師丸ひろ子）　グランドマザー（岸田今日子）　セキ・レイ・シロエ（神谷　明）　マザー・イライザ（池田昌子）　テラズＮｏ．５（増山江威子）　トオニイ（古谷　徹）　コンピューター・テラ（久松保夫）　キース・アニアン（沖　雅也）ほか

NO. 218 がんばれ!!タブチくん!! 激闘ペナントレース

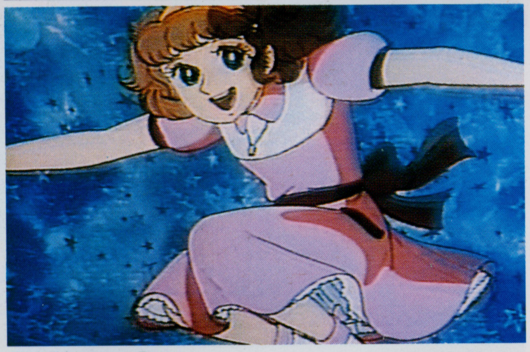


80年5月3日（土）東宝東和提供　東宝洋画系封切　1時間34分

〔あらすじ〕熾烈な戦いを続けるパリーグのペナントレース。だが、あい変わらず絶不調のタブチのおかげでライオンズは連敗続きだ。ヤスダが履歴書を持ってセイブ球場にやってきたり、ドカベンの言葉に刺激を受けたノムラが急にハッスルしたりと、タブチの影も薄くなりがち。困りはてたネモト監督とツツミオーナーは、タブチの魅力を訴えようと〝タブチデー〟を企画するが、大失敗に終わってしまう。そんなとき、ミヨ子夫人がなんとチアガールになって現れた。
〔解説〕「タブチくん」シリーズは、東京ムービーの主要関連スタジオである亜細亜堂とジュニオが、各エピソードの演出と作画をグロス受けする形で製作された。なおこの第２作ではジュニオ側作監が、香西隆男から前田実へと交替している。美術を担当したのは門野真理子。白と黒を大胆にとり入れた色彩設計とシンプルかつカリカチュア化された描線は、見事にキャラクターと融合。のちに同じいしい原作の「おじゃまんが山田くん」も手がけることになる。

原作／いしいひさいち　週刊漫画アクション連載　双葉社刊■製作／藤岡　豊、山本又一朗■製作補／片山哲生■製作担当／赤川　茂■製作デスク／向坪利次■文芸／小野田博之■脚本構成／高屋敷英夫■脚本／辻　真先、金子　裕、金春智子、川島三郎、水谷龍二、高橋英樹■監督／芝山　努■コンテ／芝山　努、小林　治、河内日出夫、岡崎　稔、永丘昭典■キャラクター・デザイン／山田みちしろ■作画監督／小林　治、前田　実■原画／須田裕美子、竹内留吉、所　省治（亜細亜堂）　鈴木欽一郎、端名貴勇、山本福雄（スタジオジュニオ）　石黒　育、鈴木幸雄（動画工房）■動画／後藤真砂子、加藤鏡子、今沢恵子ほか■美術／門野真理子■背景／門野鈴、石川山子、福井のり子■色指定／砂川千里■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■音楽／京　健輔、乾　裕樹■主題歌「がんばれ!!タブチくん!!」作詞／岡田冨美子　作曲／根本　要　唄／クレイジーパーティ　キティレコード■選曲／鈴木清司■録音／伊達　渉　東北新社■製作協力／東京ムービー■製作／東京ムービー新社■声の出演　タブチくん（西田敏行）　ミヨ子夫人（二木てるみ）　ツツミオーナー（肝付兼太）　ネモト監督（内海賢二）　ヒロオカ（羽佐間道夫）　ヤスダ（青野　武）　カネダ（納谷悟朗）　記者（富山　敬）ほか　特別出演／ササキ（佐々木信也）（スペシャル・アドバイザー）　場内アナウンサー（佐々木なほ子）（文化放送）

NO. 219 魔法少女ララベル 海が呼ぶ夏休み



80年7月12日（土）東映系封切　15分
併映作品／白雪姫（リバイバル）、電子戦隊デンジマン、ゲゲゲの鬼太郎（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕楽しい夏休み、ララベルとテコ、トコは、テコのおじさんが経営する海の民宿〝とびうお荘〟へ遊びにきた。ところが民宿にはテコのいとこの良太ひとり。おじさんとおばさんは知り合いの手術のため、献血に出かけたというのだ。折しも落葉とビスカスは、浜辺の廃船を魔法で豪華な船型海の家〝ジョーズ・ホテル〟に変え、客をとろうと大サービス。卑劣なやりくちに怒ったララベルたちは良太に協力して民宿の名誉をかけたサービス合戦をはじめる。
〔解説〕テレビシリーズ「魔法少女ララベル」の劇場新作。同時上映の「電子戦隊デンジマン」と同じく、海を舞台にした夏休みらしい一編。ララベル、トコ、テコの水着姿が、ロリコンファンの目を楽しませた？

原作／藤原栄子　連載／小学館　「めばえ」「よいこ」「幼稚園」「小学一年生」「小学二年生」「小学三年生」「小学四年生」■原案／上村栄司■企画／山口康男■製作担当／佐々木　章■脚本／曽田博久■演出／福島和美■キャラクターデザイン／進藤満尾■チーフアニメーター／進藤満尾■作画監督／進藤満尾■美術デザイナー／伊藤英治■撮影／佐野禎史■編集／祖田富美夫■音楽／いずみたく■ＯＰ「ハローララベル」ＥＤ「魔法少女ララベル」以上、作詩／伊藤アキラ　作曲／いずみたく　編曲／親泊正昇　唄／堀江美都子、コロムビアゆりかご会　コロムビアレコード■録音／今関種吉■声の出演　ララベル（堀江美都子）テコ（つかせのりこ）　トコ（松島みのり）　おじいちゃん（八奈見乗児）　おばあちゃん（宮崎恵子）　ビスカス（田中　崇）落葉積郎（辻　シゲル）ほか　協力／青二プロ　※本リストは、東映動画の社内資料をもとに作成した。

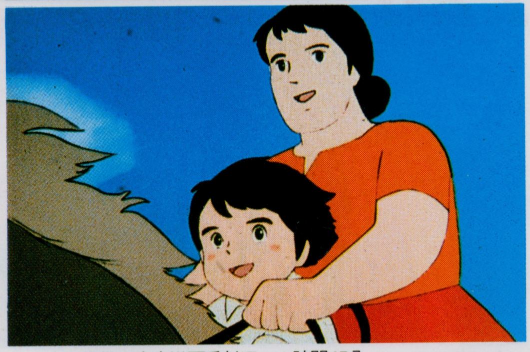
NO. 220 夏休み 東映まんがまつり



〔解説〕メイン作品は、ウォルト・ディズニーの長編第１作「白雪姫」のリバイバル。翌年の〝まんがまつり〟も、同じウォルト・ディズニー作品の「101匹わんちゃん大行進」を上映することになる。「ゲゲゲの鬼太郎」は、'71年に放映された同名テレビシリーズ中の１本のダイジェスト。同時上映の「電子戦隊デンジマン」は、〝スーパー戦隊シリーズ〟劇場版のなかでは現在のところ、唯一の中編作品。特撮シーンも多く、見応えのある１本だった。

封切日	タイトル	上映時間	脚本	演出	作画監督	美術
'80.7.12(土)	ゲゲゲの鬼太郎	12分	柴田　夏余	笠井　由勝	生頼　昭憲	奏　秀信
		41話「地相眼」の編集版				
	魔法少女ララベル	No.219参照				
	＊ウォルト・ディズニー併映作品「白雪姫」					
	＊実写併映作品「電子戦隊デンジマン」					

NO. 221 母をたずねて三千里

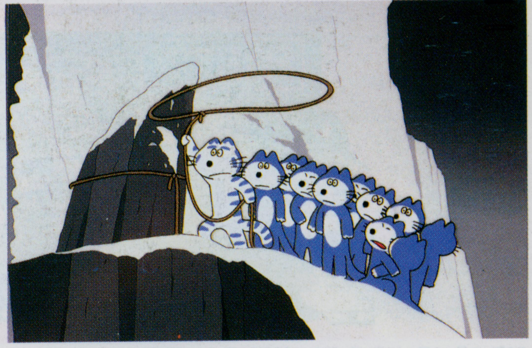


80年7月19日（土）東宝東和提供　東宝洋画系封切　１時間47分

〔あらすじ〕ジェノバのマルコは頑張り屋の少年だ。父の仕事を助けるためアルゼンチンへ出稼ぎに行った母が、消息を断ってしまった。マルコは母の安否を探るため、たった１人でアルゼンチンへ旅立つことになった。かつてジェノバで出会った人形劇のペッピーノ一座と、その娘フィオリーナなど多くの人々に助けられながら、マルコの長い旅は続いた。そして、ようやく巡りあったとき、母は重病で危険な状態となっていた……。
〔解説〕'76年に放映された名作テレビシリーズ「母をたずねて三千里」の劇場用総集編。今村昌平監督の「人間蒸発」など実写作品も手がけた編集のベテラン・岡安肇が、構成監督として全52話のエピソードを107分にまとめた。テレビシリーズの監督である高畑勲は、監修的な立場で参加している。

デ・アミーチス原作「クオレ」より■製作／本橋浩一■企画／佐藤昭司■プロデューサー／中島順三、松土隆二、加藤良雄■制作デスク／遠藤　栄■脚本／深沢一夫■構成監督／岡安　肇■監修／高畑　勲■演出／高畑　勲■演出助手／横田和善、馬場健一、蔭山康生■絵コンテ／とみの喜幸、黒田昌郎、奥田誠治、高畑　勲■場面設定、画面構成／宮崎　駿■キャラクターデザイン、作画監督／小田部羊一■作監補佐／奥山玲子■作画／村田耕一、才田俊次、真鍋譲二、羽根章悦、河内日出夫、篠原征子、坂井俊一、岡田俊康、丹内　司、米川功真、岡本健一、大島秀範、牛越和夫、中川とし子、穐山　昇、戸倉健二、古宇田文男、東海林　武、出崎節子■動画チェック／前田英美、富沢信雄■美術監督／椋尾　篁■背景／ムクオプロダクション、スタジオ・アクア■撮影監督／黒木敬七■撮影／トランスアーツ■編集／瀬山武司、掛須秀一、小野寺桂子■音楽／坂田晃一■ＯＰ「草原のマルコ」「かあさんおはよう」以上、作詞／深沢一夫　作曲／坂田晃一　歌／大杉久美子　コロムビアレコード■録音／浦上靖夫■整音／中戸川次男■効果／石田サウンド、松田昭彦■企画・制作／日本アニメーション■製作／日本アニメーション株式会社■声の出演　マルコ（松尾佳子）ピエトロ（川久保　潔）　アンナ（二階堂有希子）ペッピーノ（永井一郎）　小原乃梨子（コンチェッタ）　フィオリーナ（信沢三恵子）ほか

NO. 222 11ぴきのねこ



80年7月19日（土）日本ヘラルド映画配給　１時間23分
併映作品／かわうそタルカの冒険

〔あらすじ〕トラネコ大将と10匹のねこは大のいたずら好き。ある日彼らは、たまりかねた街の警察署長から、ついにグループ解散を命じられてしまった。ヒゲ長じいさんから〝大きな魚〟の話を聞いて、その魚を獲りに行こうと、街をあとにする11匹のねこたち。苦難に満ちた旅のなかで、かれらは真の団結の尊さを知り、本当の仲間同士として成長していく。そしてとうとう、魚の住むという湖にたどりついた11匹は、力を合わせて〝大きな魚〟にいどんでいく。
〔解説〕漫画家・馬場のぼるの同名絵本をグループタックがアニメ化した劇場作品。普通は画用紙に描く背景を、全てセル画で描く、セル背景のシステムがとられた。かつて同社のテレビシリーズ「まんが日本昔話」でテストされたが、使われなかった手法だそうだ。主役のドラネコ大将を、これが声優初体験の郷ひろみが演じている。のちに続編の「11匹のねことあほうどり」が製作されている。

原作／馬場のぼる　ーこぐま社刊よりー■企画製作／田代敦巳、古川博三■プロデュース／宇田川東樹■製作主任／藤田　健■脚色／鈴木良武■文芸協力／松本茂雄■演出／藤本四郎■アニメーション監督／前田庸生■タイトル画／馬場のぼる■タイトルデザイン／児玉喬夫■チーフアニメーター／上口照人■アニメーター／湯川高光、若林常夫、阿部信子、福田　皖、土橋　博、山田みちしろ、河内日出夫、広瀬和子、槌田幸一、森　安夫、細谷秋夫、江口摩吏介、猿山二郎、吉村昌輝、石黒　篤、木口　準、柳田朝彦、沢田博子、河田章子■美術／青木　稔■美術アシスタント／田中静恵、馬場晴子、渋谷瑠美子、渡辺由美■撮影／森山　一■編集／古川雅士■音楽／小室　等■ＯＰ「裸足のあいつ」ＥＤ「愛は今から」作詞／佐藤　信　作曲／小室　等　プロデュース／酒井政利　唄／北原　裕　ＣＢＳ／ＳＯＮＹレコード■音響／田代敦巳■製作協力／ヘラルド・エンタープライズ、京都映画センター■製作／グループ・タック■声の出演　トラネコ大将（郷　ひろみ）　市長（納谷悟朗）　ヒゲ長じいさん（槐　柳二）　警察署長（二見忠男）　魚やさん（阪　脩）　ネコ６（池水通洋）　ネコ２（沢　りつお）　ネコ４（山下敬介）　ネコ７（八代　駿）　母親（牧野和子）　ネコ３（丸山裕子）　ネコ９（林　一夫）　ネコ８（曽我部和行）　ネコ10（安西正弘）　ネコ５（倉田佳三）　ネコ１（伊沢　弘）ほか

NO. 223 まことちゃん

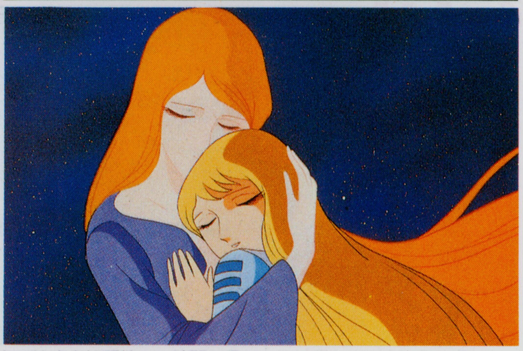


80年7月26日（土）東宝系封切　1時間25分
併映作品／翔んだカップル

〔あらすじ〕聖秀幼稚園うめぐみの沢田まことは〝よい子〟を自称する常識破りのスーパー幼児だ。ある日、あんこちゃんにふられたまことは、公園で同じように失恋した大山友子に出会って、意気投合。しかし、大人の友子にとって〝遊び〟だったまことは、捨てられてしまう。失恋の痛手を乗りこえて、母の日にはママリンのために美香ねえちゃんとお芝居のプレゼントを企画したり、かわいそうなすずめのタマゴを育てたりと大奮闘し、幼稚園のよい子大賞をめざす。
〔解説〕原作は怪奇漫画家・楳図かずおによる異色ギャグ漫画。全体が「小さな恋人」「母の日のプレゼント」「愛のお弁当」「すずめのタマゴ」「よい子大賞」の5部構成になっており、同様の短編集的作品を多数手がけている芝山努が監督を担当。主題歌は楳図かずおとそのバックバンド・スーパーポリスが歌い、話題となった。美術の門野真理子は、原作の線を極力省き、コントラストを強調した影と少ない色数で、宇宙的な冷たい雰囲気を表現した。

原作／楳図かずお　週刊少年サンデー連載　小学館■製作／藤岡　豊■プロデューサー／片山哲生■製作担当／仙石鎮彦■制作デスク／向坪利次■文芸／飯岡順一■脚本／城山　昇、辻　真先、伊藤恒久、金春智子■監督／芝山　努■コンテ／芝山　努、F・Hキノミヤ、河内日出夫■キャラクターデザイン／小林　治■作画監督／小林　治■原画／須田裕美子、所　省治（亜細亜堂）　遠藤裕一、福島敦子、小柴重光、中村　誠、青山純子、杉野佐秩子、村上君子、清水恵蔵、四分一節子、林　一哉（マッドハウス）■動画／吉本桂文、後藤真砂子、石井文子、大塚典子、若山佳幸、若山佳治、志村宣子、柿沢弥栄子ほか■美術／門野真理子■背景／門　鈴、石川山子、福井のり子、吉田陽二、男鹿和雄■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■ネガ編集／鶴渕友彰、高橋和子■音楽／川上　了■OP「パパ&ママロック」ED「サンバ・デ・まことちゃん」以上、作詞、作曲、歌／楳図かずお　編曲／川上　了　伴奏／スーパーポリス　選曲／鈴木清司■録音／伊達　渉■制作／東京ムービー■東京ムービー新社作品■声の出演　まこと（杉山佳寿子）　美香（吉田理保子）　パパ（柳沢真一）　ママ（小原乃梨子）　おじいさん（千葉順二）　おばあさん（中島喜美栄）　花子先生（水沢有美）　まこと虫（肝付兼太）　友子（岡本茉利）　モン太（堀　絢子）ほか　特別出演（楳図かずお）（ツービート）

NO. 224 ヤマトよ永遠に

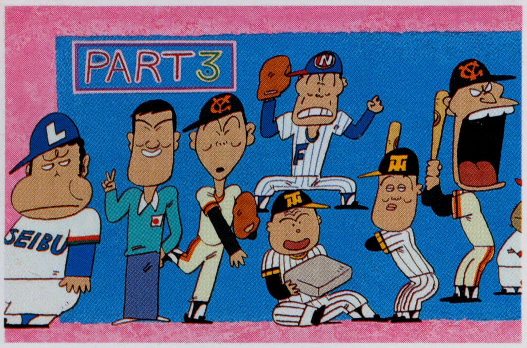


80年8月2日（土）東映株式会社配給　2時間25分

〔あらすじ〕西暦2202年。突如地球に重核子爆弾が降下し、ついで暗黒星団帝国の兵士が首都を制圧した。古代進は、ヤマトがある小惑星イカルスに向かおうとするが、ヤマトの存在を恐れる占領軍総司令長官カザンがこれを妨害。森雪が撃たれ、地球に取り残されてしまう。新艦長・山南、17歳に成長した澪（守とスターシャの娘サーシャ）らを迎え、ヤマトは重核子爆弾の起爆装置がある敵母星へと発進する。一方、雪は敵将校アルフォンに救われていたが……。
〔解説〕「さらば〜」に続く劇場第3作。ただし内容はテレビの「ヤマト2」および「新たなる旅立ち」を引き継いでいる。毎回ラフ設定を描いていた松本零士は、今回は聖総統の仮面をデザインしたのみで、他のキャラは宇田川、白土、高橋の3人が担当した。とくに高橋の手によるサーシャは、松本調キャラとは異なる魅力でファンを獲得。なお公開時には、途中で画面がビスタからシネスコへ変わり、〝ワープディメンション〟と銘うたれて話題となった。

原作／松本零士、西崎義展■製作・総指揮／西崎義展■プロデューサー／吉田　達■製作担当／大野清、柴山達雄■文芸制作／横山和夫■SF設定協力／豊田有恒■脚本／舛田利雄、山本英明、藤川桂介■監督・総設定／松本零士■チーフディレクター／勝間田具治■監督／舛田利雄■助監督／棚橋一徳■絵コンテ／白土　武、遠藤政治■キャラクターデザイン／宇田川一彦、高橋信也、白土　武■メカニックデザイン／辻　忠直、板橋克己■総作画監督／宇田川一彦■作画監督／高橋信也、金田伊功■スキャニメイト／東洋現像所ビデオセンター■美術設定／辻　忠直■美術監督／勝又　激■撮影監督／片山幸男、菅谷信行■編集／千蔵　豊■音楽／宮川　泰■劇中歌「星のペンダント」作詞／阿久　悠　作曲／宮川　泰　歌／ささきいさお　「愛の生命（いのち）」作詞／山口洋子　作曲／浜田金吾　編曲／戸塚　修　歌／岩崎宏美　「愛よその日まで」作詞／阿久　悠　作曲、歌／布施　明　オリジナルサントラ盤／コロムビアレコード■音響監督／田代敦己■効果／柏原満■協力／ニッポン放送■制作協力／東映動画株式会社、（株）アカデミー製作■声の出演／古代　進（富山　敬）　森　雪（麻上洋子）　島　大介（仲村秀生）　山南艦長（小林　修）　サーシャ（潘　恵子）　スターシャ（上田みゆ起）　アルフォン少尉（野沢那智）　カザン（寺田　誠）　ナレーター（羽佐間道夫）ほか

NO. 225 がんばれ!!タブチくん!! 初笑い第3弾 あゝツッパリ人生



80年12月13日（土）東宝東和提供　東宝洋画系封切　1時間36分
併映作品／かわうそタルカの冒険

〔あらすじ〕正月もオープン戦も、相変わらずパッとしない我らがタブチくん。'79年のペナントレースも決まり、西武ナインは日々消化試合。オフにはタブチのトレードも噂されたが、元気に海外キャンプへ出発した。ところがアリゾナにまでヤスダがまとわりついて来たり、どうやら今年も天中殺か。シーズンに入ると、日本ハムの新人キダに軽がるとひねられ、どうもさいさきがよくない。案の定、西武は優勝をのがし、'80年ペナントレースも暮れていく。
〔解説〕シリーズ第3作で、初めて正月作品として公開された。全体が'80年のペナントレースを総括するような構成になっており、延長戦では長嶋監督の解任、王選手の引退などを扱うなど、3作を通じて最も時事性の色濃い作品となっている。また一方では、「ある愛の詩」のように、野球とかけ離れたところで面白さを追求した話もある。第1作目の6億円、第2作目の5億3千万円には及ばなかったものの、興業的にまずまずの成績を収めた。

原作／いしいひさいち　週刊漫画アクション連載　双葉社刊■製作／藤岡　豊、山本又一朗■プロデューサー／片岡哲生■制作担当／赤川　茂、向坪利次■脚本構成／高屋敷英夫■脚本／大久保昌一良、金春智子、桜井正明、城山　昇、千葉一誠、チャンネルゼロ（みなぜつと、村上知彦、徳田俊之）■監督／芝山　努■コンテ／小林　治、河内日出夫、山田みちしろ、岡崎　稔、永丘昭典■キャラクター・デザイン／山田みちしろ■作画監督／小林　治、前田実■原画／須田裕美子、所　省治（亜細亜堂）、まえだみのる、端名貴勇、山本福雄、西山里枝、森　一浩（スタジオジュニオ）■美術／門野真理子■背景／門　鈴、石川山子、福井のり子、宮前光春、飯島由樹子、今井利恵、谷口百範、松田千鶴子■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■ネガ編集／鶴渕友彰、高橋和子（鶴渕映画）■音楽／小林泉美、京　健輔■ED「がんばれ!!タブチくん!!」作詩／岡田冨美子　作曲／根本　要　唄／クレイジーパーティー　（キティ・レコード）■録音／山崎あきら■効果／倉橋静男■録音調整／前田仁信■録音／東北新社■製作協力／東京ムービー■東京ムービー新社作品■声の出演　タブチくん（西田敏行）　ミヨ子夫人（二木てるみ）　ネモト監督（内海賢二）　ヒロオカ（羽佐間道夫）　ヤスダ（青野　武）ほか■特別出演　ササキ（佐々木信也）（スペシャル・アドバイザー）ほか

NO. 226 サイボーグ009 超銀河伝説 DEFENDERS OF THE VORTEX



80年12月20日（土）東映系封切　2時間10分
併映作品／'80アニメーション　ザ・ベストテン

〔あらすじ〕超存在ボルテックスを使って宇宙を征服せんとするゾアと、009たちサイボーグ戦士が大宇宙で戦いをくりひろげる。
〔解説〕キャストやデザインなど'79年のテレビ「サイボーグ009」を踏襲しているが、キャラ設定は新たに山口泰弘が描き起こしたもので、輸出を考えて008は大幅に変更された。透過光の多用など意欲的な映像作りがされたが、内容的には不満の残る出来。観客を驚愕させた004の生還シーンは、テレビ放映では、なぜかカットされていた。

原作・総指揮／石森章太郎■製作／渡辺亮徳、今田智憲■プロデューサー／飯島　敬、小湊洋市■脚本／中西隆三■脚本協力／ジェフ・シーガル■監督／明比正行■作画監督、アニメ・キャラクターデザイン／山口泰弘■メカニック作画監督、メカニックデザイン／角田紘一■美術総設定／角田紘一■美術監督／伊藤岩光、海老沢一男■撮影監督／池田重好■編集／千蔵　豊■音楽／すぎやまこういち■ED「10億光年の愛」作詞／山上路夫　作曲／森田公一　編曲／小六禮次郎　歌／町田義人■録音／波多野勲■東映・石森章太郎提携作品■声の出演　009・ジョー（井上和彦）　コズモ博士（永井一郎）　タマラ（鈴木弘子）ほか　協力／青二プロ

NO. 227 '80アニメーション　ザ・ベストテン

80年12月20日（土）東映系封切
併映作品／サイボーグ009　超銀河伝説

〔内容・解説〕テレビの人気番組「ザ・ベストテン」ふうに、アニメのベスト10を紹介するバラエティー番組。ちなみに1位は「銀河鉄道999」だった。

監督／ドン・上野■出演　（タモリ）（児島美ゆき）（堀江美都子）（水木一郎）（ダ・カーポ）　※本リストは、諸々の資料を総合して作成した。

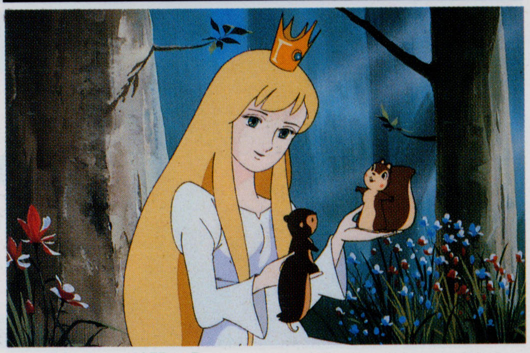
'81 昭和56年

「ヤマト」「999」に続く、大ヒット作「機動戦士ガンダム」が登場。東京・新宿駅前で行われた公開直前のイベント〝新世紀宣言〟には1万人ものファンが集まり、その人気の過熱ぶりは〝ガンダムフィーバー〟とまで呼ばれた。すでにアニメファン層が確立されており、先に放映されたテレビシリーズの人気は、一部アニメファンを中心にしたマニアックなものだったが、映画公開は、その人気を広い層に広げることになった。登場するモビルスーツを形どったプラモデル（通称ガンプラ）は、映画公開とともに驚異的な人気商品となっていった。

春に「ドラえもん」の第2弾、「のび太の宇宙開拓史」が、同じ藤子不二雄原作の「怪物くん」と2本立てで、夏には「ドラえもん」と、やはり藤子の原作の「21エモン」との2本立てで公開された。これ以降、毎年春の人気プログラムとして、藤子アニメ2〜3本立てが定着することになる。

テレビで〝アラレブーム〟を巻き起こしていた「Dr.スランプアラレちゃん」の映画版が公開されたが、「まんがまつり」の1本として公開された短編であり、特に話題を呼ぶことはなかった。

NO. 228 世界名作童話 白鳥の湖

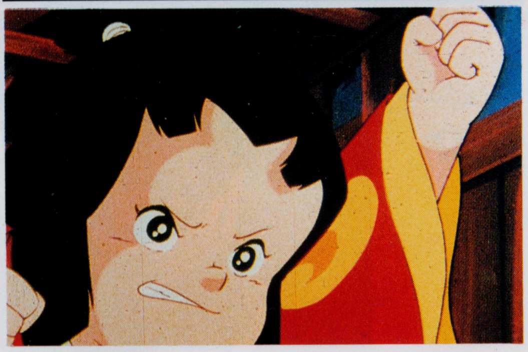


81年3月14日（土）東映系封切　1時間15分
併映作品／仮面ライダースーパー1、一休さん　春だ！やんちゃ姫、タイムボカンシリーズ　タイムパトロール隊オタスケマン（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕王子ジークフリートが、森の湖で見た美しい白鳥。それは魔法使いロードバルによって昼の間だけ白鳥の姿に変えられているオデット姫であった。翌日のお妃えらびの舞踏会にきてほしいと心から願う王子。しかしそれを知ったロードバルは、オデットに化けた自分の娘・オディールを送りこみ、見破ることのできなかった王子は、オディールと結婚の誓いのキスを交わしてしまう。過ちに気づいた王子は、命を賭けてオデットへの愛を示すのだった。
〔解説〕東映動画創立25周年記念作品として、チャイコフスキーの名曲で知られるヨーロッパの伝説をアニメ化。そのため、音楽面が重視され、本場・ウィーン交響楽団に演奏を依頼したほか、映画史上初のPCMデジタル録音を行うなど、クリアな音質が心がけられた。演出は矢吹公郎が担当。その影響か、クライマックスの展開は「長靴をはいた猫」に酷似したものとなっている。作品完成間近の12月に、使用予定のセル2500枚が盗まれたことも話題となった。

協力／いがらしゆみこ　（連載・小学一年生）■製作／今田智憲■企画／有賀　健、勝田稔男■製作担当／佐伯雅久■脚本／布施博一■演出／矢吹公郎■作画監督／野田卓雄■原画／我妻　宏、才田俊次、石黒　育、長崎重信、白川忠一、木場田　実、野田卓雄、勝井千賀雄、的場茂夫、阿部　隆、木野達児、金山通弘、小川明弘■動画チェッカー／武井恒雄■美術監督／辻　忠直■美術助手／原田謙一■背景／野崎俊郎、小林祐子、襟立智子、沢田隆夫、有川智子、海老沢一男■撮影監督／目黒　宏■撮影チーフ／町田賢樹■撮影／相磯嘉雄、片山幸男、福井政利、吉村次郎、池田重好、千葉悦郎、清水政夫、細田民男、高梨洋一、山田順弘、武井利晴、坂西　勝■編集／千蔵　豊■音楽／ペーター・チャイコフスキー■演奏／ウィーン交響楽団　指揮／ステファン・ゾルテス、コロムビアPCM録音システム■ED「かがやく春の日」挿入歌「愛のみずうみ」以上、作詞／武鹿悦子　作曲／若松正司　うた／石毛恭子　コロムビアレコード■録音／波多野　勲■音響効果／依田康夫■（製作／東映（東映動画））声の出演　オデット（竹下景子）　ジークフリード（志垣太郎）　ロードバルド（小池朝雄）　オディール（麻上洋子）　マルガリータ（白石冬美）　ハンス（松金よね子）　王妃（中西妙子）　大臣（八奈見乗児）　ベンノ（村山　明）　アドルフ（寺田　誠）　カテリーナ（川島千代子）　ロザンナ（中野聖子）

NO. 229 一休さん 春だ！やんちゃ姫

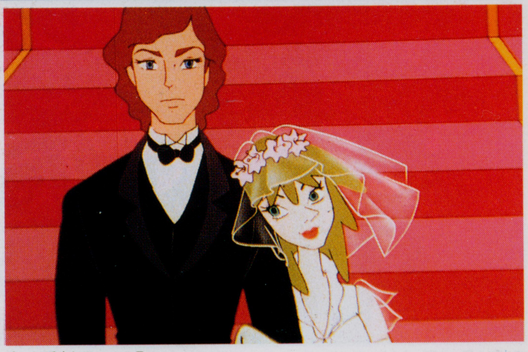


81年3月14日（土）東映系封切　15分
併映作品／世界名作童話　白鳥の湖、仮面ライダースーパー1、タイムボカンシリーズ　タイムパトロール隊オタスケマン（東映まんがまつり）

【あらすじ】安国寺を訪れた露姫ことやんちゃ姫は、いつもの元気はどこへやら、なぜか元気がない。なんと、彼女の悩みは恋わずらい。梅林のなかで見かけた名も知らぬ美少年に一目惚れしたというのだ。彼女の頼みを聞き入れて、その憧れの人を捜そうとする一休さんと新右衛門。なんとその美少年の正体とは、梅見の余興で仮装した桔梗屋の1人娘・弥生であった。恋わずらいに苦しむやんちゃ姫に、とても本当のことをいえない。さあ、一休さんのトンチの出番だ。
【解説】「一休さん」の劇場用新作第2作は、またもやんちゃ姫が主人公。一休は、美少年の正体は梅の精だったのだといって、やんちゃ姫にあきらめさせる。テレビシリーズ同様、ユニークなキャラクターたちが作りだす、ほのぼのムードが楽しい。

企画／栗山富郎■製作担当／菅原吉郎■チーフディレクター／矢吹公郎■脚本／辻　真先■演出／我妻宏■作画監督／我妻　宏■音楽／宇野誠一郎■OP「とんちんかんちん一休さん」ED「母上さま……」以上、作詞／山元護久　作曲／宇野誠一郎　うた／相内　恵、ヤングフレッシュ（コロムビア・朝日ソノラマ）■音響ディレクター／小松亘弘■（製作／東映（東映動画））■声の出演　一休（藤田淑子）　サヨ（桂　玲子）　和尚（宮内幸平）　露姫（白石冬美）　蜷川新右衛門（野田圭一）　足利義満（山田俊司）　桔梗屋利兵衛（緒方賢一）　弥生（吉田理保子）　秀念（はせさん治）　哲斉（井上和彦）　ナレーター（増山江威子）ほか／青二プロ　※本リストは、東映動画の資料をもとに作成した。

NO. 230 タイムボカンシリーズ タイムパトロール隊オタスケマン

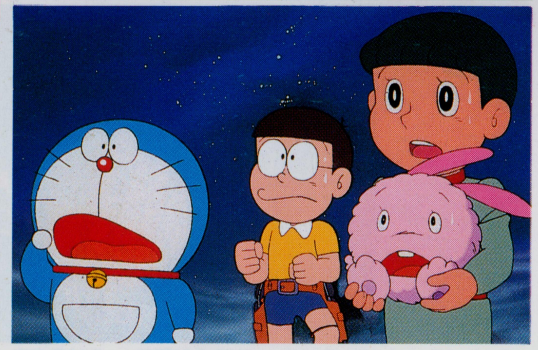


81年3月14日（土）東映系封切　15分
併映作品／世界名作童話　白鳥の湖、仮面ライダースーパー1、一休さん　春だ！やんちゃ姫（東映まんがまつり）

【あらすじ】タイムパトロール隊のアターシャが、ついに結婚することになった。オイシイコロニーのニューガラクタホテルで行われる結婚披露宴には、ヒカルとナナたちはもちろん、「タイムボカン」の丹平、淳子とマージョたち、「ヤッターマン」の1号と2号とドロンボーたち、そして「ゼンダマン」のゼンダマンとアクダマンなど、懐かしい人々も集まった。しかし、この披露宴のウラには、トンマノマントのとんでもないたくらみがあったのだ。
【解説】人気の〝タイムボカンシリーズ〟の第4作である「オタスケマン」の劇場用作品。前半は、披露宴にやってきた歴代の主人公たちの活躍を振り返るテレビシリーズの名場面集となっており、全体に新作部分は少ない。内容は、前年の6月に発売された同作品のオリジナルLP「実況中継アターシャの結婚披露宴!?」をもとにしているようだ。ちなみにレコードでは、総監督の笹川ひろしが媒酌人として出演していた。

原作／タツノコプロ企画室■製作／吉田健二■企画／九里一平、柳川　茂、宮田知行■プロデューサー／井上　明、岩田　弘■制作担当／新井正彦■進行／佐藤直人■脚本／小山高男■監修／笹川ひろし■監督／大貫信夫■演出／池上和彦■作画監督／北条昌子■原動画／杉崎容子、鈴木喜子、兵藤多美子、玉野陽美、内田文子、前田美紀恵、佐藤美恵■美術担当／坂本信人■背景／スタジオビック■色指定／沢田クミ子■トレス／平井静子■特殊効果／山本公■撮影／橋本和典、小西一広■編集／谷川幸男、村上　豊■OP「オタスケマンの歌」作詞／山本正之　歌／山本正之、少年少女合唱団みずうみ　ED「がんばれオジャママン」作詞／内間　稔　歌／山本正之　以上、作曲／山本正之　編曲／神保正明■録音ディレクター／鳥海俊材■効果／アニメサウンド、加藤昭二■録音／新坂スタジオ、高橋久義■制作協力／アニメフレンド■制作／タツノコプロ、東映株式会社■声の出演　ヒカル（水島　裕）　ナナ（島津冴子）　ヒネボット（山ノ内真理子）　東南長官（滝口順平）　トンマノマント（池田　勝）　マージョ、ドロンジョ、ムージョ、アターシャ（小原乃梨子）　グロッキー、ボヤッキー、トボッケー、セコビッチ（八奈見乗児）　ワルサー、トンズラー、ボンジューロー、ドワルスキー（たてかべ和也）　ゼンダマン1号（三ツ矢雄二）　ゲキガスキー（山本正之）　トミーヤマ（富山　敬）

NO. 231 ドラえもん　のび太の宇宙開拓史



81年3月14日（土）東宝系封切　1時間31分
併映作品／怪物くん　怪物ランドへの招待

〔あらすじ〕銀河の彼方、コーヤコーヤ星に住む少年ロップルくんの宇宙船のドアが、のび太の部屋の畳と超次元のねじれによってつながってしまった。ドラえもんとのび太は畳をくぐってコーヤコーヤ星へ遊びに行き、重力の小さなこの星で、ロップルくんや不思議な生物チャミーと、楽しい時を過ごす。しかしコーヤコーヤ星は反重力物質ガルタイト鉱石の宝庫であり、トカイトカイ星のボーガント一味が、鉱石の採掘のために星ごと手に入れようと企んでいた。
〔解説〕〝長編ドラえもん〞の第2作。この年から、毎年春休みに「ドラえもん」の長編を含む藤子アニメの2本立て、または3本立ての公開が恒例となった。「宇宙開拓史」は西部劇仕立ての宇宙冒険物で、「西部開拓史」をもじったタイトルといい、かつての映画青年藤子不二雄らしい物語に仕上がっている。フレンドシップ号などのメカデザインに大河原邦男が参加、また富永貞義は、この作品以降すべての〝長編ドラえもん〞の作画監督を担当している。

原作、脚本／藤子不二雄　コロコロコミックほか連載■プロデューサー／別紙壮一、菅野哲夫■制作担当／佐久間晴夫■文芸／水出弘一、山本有子■監修／楠部大吉郎■監督／西牧秀夫■演出助手／高須賀勝己■レイアウト／椛島義夫■メカデザイン／大河原邦男■作画監督／富永貞義■原画／春貴健司、吉川由美子、飯口悦子、池ノ谷安夫、大塚正実、木内良子、川島　明、大嶋　聡、山崎勝彦、斉藤かおる、窪田正史、一川孝久、島田和義、森下圭介、原完治、伊藤光男、山崎　猛、小野隆哉、桜沢裕美、増谷三郎、飯山嘉昌、端名貴勇、星野真砂子、大滝友子■動画チェック／小林正義、上ノ山順子■美術監督／川口征平■美術補／沼井信朗■背景／高野正道、関口和博ほか■撮影監督／小池　彰、高橋明彦■編集／井上和夫、森田清次■音楽／菊池俊輔■OP「ぼくドラえもん」作詞／藤子不二雄　歌／大山のぶ代　挿入歌「心をゆらして」作詞／武田鉄矢　歌／岩渕まこと　以上、作曲／菊池俊輔　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫、大熊　昭■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　スネ夫（肝付兼太）　ジャイアン（たてかべ和也）　しずか（野村道子）　ロップル（菅谷政子）　チャミー（杉山佳寿子）　クレム（小山茉美）　ボーガット（内海賢二）　ギラーミン（柴田秀勝）ほか

NO. 232 怪物くん　怪物ランドへの招待



81年3月14日（土）東宝系封切　1時間15分
併映作品／ドラえもん　のび太の宇宙開拓史

【あらすじ】春休み、ヒロシは怪物くんと一緒に怪物ランドへ遊びに行くことになった。2人は、フランケン、ドラキュラ、狼男とともにモンスター号で怪物ランドに到着。しかし、人間の立ち入りは怪物大王の怒りにふれ、ヒロシは大王のひとにらみで石になってしまう。怪物くんがいくら頼んでも、大王はヒロシを元に戻そうとしない。怪物くんはヒロシを助けるために、いのちの花の露をとりに行く。その花は、戦怪族の住む谷に生えているのだ。
【解説】'80年からTV放映されて人気があった「怪物くん」の劇場第1作。まだTVシリーズには登場していなかった怪物ランドを舞台にして、中編向きの、アクションの多いストーリーになっている。監督の福富博、作画監督の本多敏行、レイアウトの芝山努は、前年の「ドラエもん・のび太の恐竜」のスタッフそのままである。原作は'67年に「少年画報」に掲載された「おやじが出たぞ」で、映画用に戦怪族との戦いが、つけ加えられた。

原作／藤子不二雄　連載／マミー、ベビー、めばえ、よいこ、幼稚園、てれびくん、コロコロコミック、小学一年生ほか■プロデューサー／別紙壮一、真田芳房、菅野哲夫■脚本／藤子不二雄、松岡清治■監督／福富　博■設定、レイアウト／芝山　努■演出助手／安藤敏彦、塚田庄英■作画監督／本多敏行■原画／鈴木信一、徳田悦郎、木上益治、春貴健司、大塚正実、吉本桂子、後藤真砂子、石井文子、竹市正勝、尾鷲英俊、高倉佳彦、葛岡　博、山崎勝彦、窪田正史、一川孝久、島田和義、田代和男■美術監督／工藤剛一■美術補／川井　憲■撮影監督／小山信夫、金子　仁■編集／井上和夫、森田清次■音楽／筒井広志■OP「ユカイツーカイ怪物くん」歌／野沢雅子　ED「GO／GO／モンスター号」歌／ピーカブー　以上、作詞／藤子不二雄　作曲／小林亜星　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■制作協力／藤子スタジオ■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　怪物くん（野沢雅子）　フランケン（相模太郎）　ドラキュラ（肝付兼太）　オオカミ男（神山卓三）　ヒロシ（三輪勝恵）　お姉ちゃん（川島千代子）　アコちゃん（潘　恵子）　先生（津村　隆）　キザオ（はせさん治）　番野（鈴木清信）　イーグルマン（飯塚昭三）　ドクターノオ（野本礼三）　怪子ちゃん（増山江威子）　戦怪族首領（加藤精三）　戦怪族隊長（玄田哲章）　怪物大王（金井　大）ほか

NO. 233 おじゃまんが山田くん



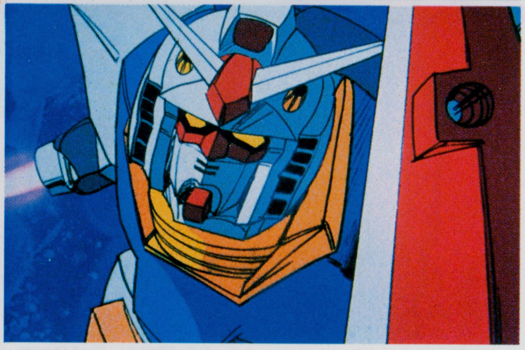
81年3月14日（土）日本ヘラルド映画配給　27分
併映作品／月光仮面

【あらすじ】『ねばれ！　激闘デスマッチ』——プロ野球選手を夢見るのぼるに、ついにスカウトが。でもそれは、なんとプロレスのスカウトだった。『でべそカップ母子の対決』——ダイエットに悩むイネは減量のためテニスクラブに入会。だが女の子めあてののぼるも偶然同じクラブに入会して……。『東江戸川おじゃマラソン』——市民マラソン大会の賞金が、なんと10万円！貧乏学生の福田・吉田・池田のトリオをはじめとし、人々は目の色を変えて特訓を開始した。
【解説】当時フジテレビ系で高視聴率を上げていた、いしいひさいち原作の同名テレビシリーズの劇場用新作。3本立て30分作品であったテレビ版と同じ体裁をとっており、OP・EDもテレビと同じ。この3本は翌年テレビシリーズの1本としてそれぞれ別個に放映された。いずれも、いしいキャラの持ち味のよく出た、テンポのよい好編である。同じ日本ヘラルドの製作で、レトロヒーローの復活と当時話題になった「月光仮面」の併映作。

原作／いしいひさいち■製作／古川博三■企画／秋枝　博■プロデューサー／渡辺忠義■脚本／金子裕、馬場民子、金春智子■チーフディレクター／光延博愛■演出／佐々木皓一■コンテ／光延博愛、やすみ哲夫、竹内大三■作画監督／金沢比呂志■美術／門野真理子■OP「おじゃまんが山田くん」作詩・作曲／山本正之　編曲／クニ河内　うた／こおろぎ'73　（コロムビアレコード）■製作／日本ヘラルド映画■声の出演　山田よしお（コロムビア・トップ）　吉田（鈴木ヤスシ）　山田のぼる（雷門ケン坊）　山田いね（鈴木れい子）　山田みのる（丸山裕子）　池田（千田光男）　山田よね子（横山えみこ）ほか　※本リストは、日本ヘラルド映画の社内資料をもとに作成した。

NO. 234 機動戦士ガンダム

MOBILE SUIT GUNDAM I



81年3月14日（土）松竹系封切　2時間19分

〔あらすじ〕ジオン公国のザク部隊がサイド7を急襲。戦火のなかアムロ・レイは、偶然にも連邦軍の試作モビルスーツ・ガンダムに乗り戦うことになる。軍人たちの大部分は負傷した。新造戦艦ホワイトベースは、若き軍人ブライト・ノアの指揮の下、徴用された民間人の少年少女たち、セイラ、ミライ、ハヤト、カイ、そしてアムロらを乗せてサイド7を脱出した。彼らの行く手をさえぎるのは、ジオン公国の歴戦の勇者〝赤い彗星〞ことシャア・アズナブルだった。
〔解説〕ファンに圧倒的な支持を得たテレビシリーズ「機動戦士ガンダム」の劇場用第1作。全43話のうち、1話から13話までの再編集に一部の新作画カットを加えて構成している。リアルな近未来を舞台に、兵器としてのロボット・モビルスーツによる宇宙戦争と、魅力的な登場人物によるドラマを描いたこの作品は、アニメファンが見たいと漠然と思っていた要素が、ふんだんに詰めこまれている。アムロの母・カマリアを倍賞千恵子が演じ話題となった。

原作／矢立　肇、富野喜幸■製作／岸本吉功■企画／山浦栄二、伊藤昌典■プロデューサー／渋江靖夫、岩崎正美■脚本／星山博之、荒木芳久、山本　優、松崎健一■総監督／富野喜幸■監督／藤原良二■演出協力／貞光紳也、小鹿英吉、横山裕一郎■キャラクターデザイン／安彦良和■メカニカルデザイン／大河原邦男■アニメーションディレクター／安彦良和■アニメーター／兵頭　敬、中村　清、板野一郎、前島和子、服部あゆみ、茨田佳子、原田雅祥、梅津美幸、鈴木　昇、笹木寿子、大森英敏■美術監督／中村光毅■撮影／坂東昭雄、斉藤秋男、平田隆文、菅野　淳、三浦豊作、旭プロダクション■編集／鶴渕友彰、片石文栄■音楽／渡辺岳夫、松山祐士■ED「砂の十字架」作詞、作曲／谷村新司　唄／やしきたかじん　レコード／キングレコード■音響監督／松浦典良■協力／講談社■製作協力／名古屋テレビ、創通エージェンシー■製作／日本サンライズ■配給／松竹株式会社■声の出演　アムロ（古谷　徹）　ブライト（鈴置洋孝）　リュウ（飯塚昭三）　カイ（古川登志夫）　ハヤト（鈴木清信）　ミライ（白石冬美）　セイラ（井上　瑤）　フラウ（鵜飼るみ子）　シャア（池田秀一）　ガルマ（森　功至）　デギン（藤本　譲）　テム（清川元夢）　マチルダ（戸田恵子）　イセリナ（上田みゆき）　ハロ（高木早苗）　ナレーター（永井一郎）　カマリア（倍賞千恵子）（特別出演）ほか

NO. 235 ユニコ

THE FANTASTIC ADVENTURE OF UNICO - 1



81年3月14日（土）サンリオ映画配給　1時間30分
併映作品／キティとミミィの新しい傘

【あらすじ】白い角のユニコーンの子・ユニコ。神々は、愛した人を幸せにするふしぎな力を持つユニコを恐れ、〝忘却の丘〟に捨てるよう西風の精に命じるが、やさしい西風はユニコを〝地の果ての国〟へ運ぶ。暴れん坊だが気のいいアクマくんと友だちになったのも束の間、神に気づかれて再び見知らぬ土地へ運ばれたユニコは、バスケットに乗って川を下ってきた黒猫のチャオと会う。そして魔女になりたいという彼女とともに、ユニコは新しい冒険をはじめる。
【解説】サンリオ出版の、いかにもサンリオ的なムードとマニアックな要素を混在した、ふしぎな雰囲気の漫画誌「リリカ」に掲載された手塚治虫原作のアニメ化。社内スタッフらによるパイロット短編ののち、国内ではサンリオがはじめて全面的に社外に発注、マッドハウスが制作した。監督はパイロット版も手がけた平田敏夫。短編などを別にすれば久々の出崎統演出から離れて杉野昭夫が作画を担当。小林プロの若手エース格の男鹿和雄が初の美監をつとめた。

原作、監修／手塚治虫　原作／〈ユニコ〉サンリオ出版刊■製作／辻　信太郎■制作担当／浅利義美■設定／丸山正雄、斉藤次郎■設定協力／村野守美、川尻善昭■脚本／辻　真先■演出／平田敏夫■演出助手／伊藤幸松■作画監督／杉野昭夫■原画／遠藤裕一、萱　登祥、中村隆太郎、中村　誠、大坂竹志、小柴重光、小林左希子、高橋由美子、川尻善昭、大橋　学、本木久年■美術／男鹿和雄■背景／小林七郎、青木勝志、石垣　努、水谷和春、大野広司、松岡　聡、海保仁三郎、工藤美由紀、本木裕美子、小倉宏昌、藤江優子、小林プロダクション■レリーフ作成／飯澤喜七■撮影監督／八巻　磐■特殊実写撮影　制作／高橋　渉、竹垣理寿　美術／今野三郎　撮影／秋葉　実、手塚裕貴夫■編集／尾形治敏■音楽ディレクター／北山　良■作曲／佐藤允彦　演奏／新室内楽協会　シンセ演奏／佐藤允彦　音楽録音／大河原克夫■ＥＤ「愛こそすべて」作詞／山川啓介　作、編曲／佐藤允彦　歌／BUSS＆島　澄江　挿入歌作詞・作曲・歌／イルカ■録音監督／宮本　隆■音響効果／松浦典良■制作協力／マッド・ハウス■（制作／サンリオ株式会社）■声の出演　ユニコ（三輪勝恵）　チャオ（杉山佳寿子）　悪魔の子（堀絢子）　男爵（井上真樹夫）　神様たち（永井一郎、矢田耕司、田の中　勇、八奈見乗児）　その他（川島千代子）ほか／青二プロ　ナレーション（イルカ）西風（倍賞千恵子）（松竹）

NO. 236 キティとミミィの新しい傘

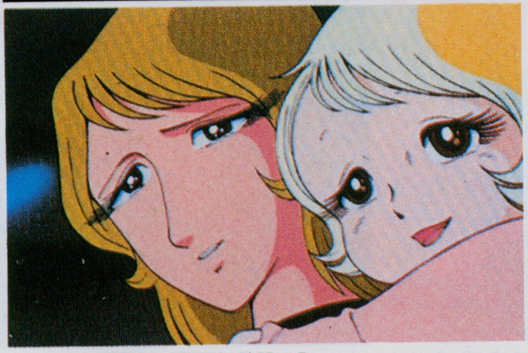


81年3月14日（土）サンリオ映画配給　24分
併映作品／ユニコ

【あらすじ】キティとミミィは双子の猫。おかあさんに傘を買ってもらって、キティとミミィは大喜び。早く雨が降らないかと２匹は待っていた。ようやく降りだした雨。傘を持って喜んで飛びだした２匹の前には、どんな冒険が待っているのか……。
【解説】サンリオの人気キャラクター、キティとミミィを主人公にした人形アニメ。中村武雄が脚本と監督をつとめた。

企画・原作・製作／辻　信太郎■脚本・監督／中村武雄■アニメーション／真賀里文子■撮影監督／大谷文夫■製作／サンリオフィルム■キャスト　キティ（白石冬美）　ミミィ（小山茉美）　※本リストは、公開時のパンフレットをもとに作成した。

NO. 237 宇宙戦艦ヤマト 新たなる旅立ち

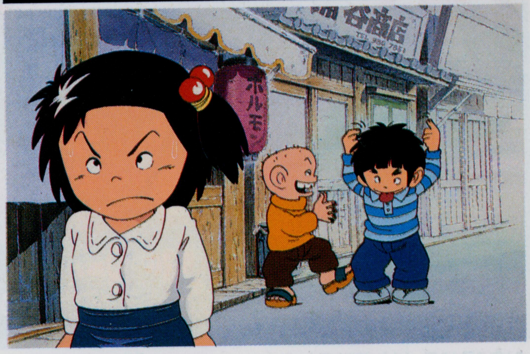


81年3月14日（土）封切　東映株式会社配給　1時間35分
併映作品／ヤマトよ永遠に（リバイバル）

【あらすじ】西暦2201年、新国家建設のため大航海の途についていたデスラー艦隊は、故郷・ガミラス星で採掘作業を続ける謎の船団を発見、総攻撃を加える。だが、その余波を受けたガミラス星は、大爆発。双子星のイスカンダルも暴走をはじめてしまった。デスラーがひそかに愛するスターシャを残したまま……。星と運命をともにするというスターシャを救うため、デスラーは古代進に救援を依頼。ヤマトはイスカンダルへ向け発進した。
【解説】前年にテレビ放映されたテレフィーチャーの劇場公開。「ヤマトよ永遠に」が同時上映され、くしくもヤマト対暗黒星団帝国の２本立てとなった。実際に放映または上映された内容以外に未公開のシーン（イスカンダルがじゃまになり、波動砲を撃てないヤマトのために再び星を暴走させようと宇宙艇で発進する守や、それを助けようとコスモタイガーで出撃する真田、イスカンダルに迫る赤色巨星といった箇所）が映像化されたが、使用されなかった。

企画原案製作総指揮／西崎義展■総設定、総監修／松本零士■監修／舛田利雄■総監督／西崎義展■ＳＦ原案／豊田有恒■制作デスク／永山邦明、倉内重男■制作担当／広岡　修■文芸制作／山田哲久■脚本／山本英明■チーフディレクター／白土　武■助監督／棚橋一徳■絵コンテ／安彦良和■演出助手／安濃高志■テクニカルディレクター／石黒　昇■メカニック設定／中村光毅、板橋克己■総作画監督／小泉謙三■作画監督／宇田川一彦■原画／芦田豊雄、泉口　薫、落合正宗、金田伊功、湖川　滋、白川忠志、富沢和雄、中村　孝、野館誠一、福地信之、谷田部雄次、星川信芳、堀本喜光■動画作監／清島孝一郎■動画／アニメルーム、オカスタジオ、山沢実、吉沢亮吉、タイガープロ、ジャフス、松田芳明、松本　薫■美術監督／勝又　激■背景／スタジオコスモス、マスコット、アートテイクワン■撮影監督／菅谷信行■編集／千蔵　豊■音楽／宮川　泰■ＥＤ「サーシャわが愛」作詞／阿久　悠　作曲／宮川泰　歌／島倉千代子（コロムビアレコード）■音響監督／田代敦己■制作／フジテレビ、アカデミー制作■声の出演　古代　進（富山　敬）　森　雪（麻上洋子）　島　大介（仲村秀生）　真田志郎（青野武）　山崎　奨（寺島幹夫）　徳川太助（古谷　徹）北野　哲（井上真樹夫）　坂本　茂（古川登志夫）スターシャ（上田みゆき）　デスラー（伊武雅之）ナレーター（木村　幌）ほか

NO. 238 じゃりン子チエ

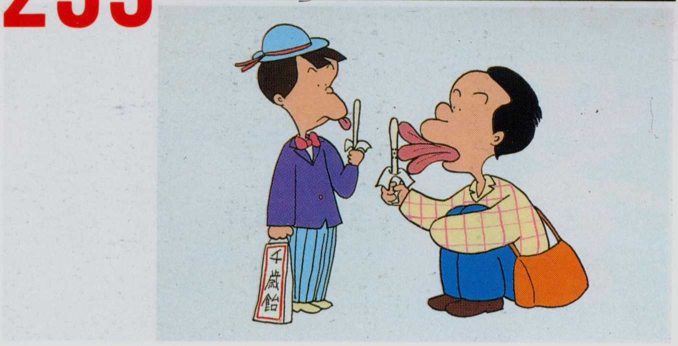


81年4月11日（土）東宝系封切
併映作品／フリテンくん

〔あらすじ〕小学５年生の竹本チエは、父のテツに代わって家業のホルモン焼き屋を、ひとりできりもりしている。ある日、テツのバクチの取り立てにやってきた遊興倶楽部の社長が、座興に愛猫のアントニオをチエのネコ・小鉄にけしかけた。ところがアントニオは小鉄に敗れて昇天、気落ちしてカタギのお好み屋をはじめた社長は、テツを用心棒に雇ってくれた。せっかくの就職だったが、縁日でチエが別居中の妻・ヨシ江と会っているのを目撃したテツは……。
〔解説〕はるき悦巳の人気漫画をアニメ化。長編映画は「ホルス」以来の高畑勲が監督をつとめ、大阪の下町の人々を生き生きと描きだして人情喜劇の傑作に仕あげている。主役チエは参議院議員の中山千夏が、他の主要キャラをアニメ初体験の関西の喜劇人が演じ、作品に活気を与えていた。当初は、のちに同名のテレビシリーズ11話「金賞!!チエちゃんの作文」に相当する原作２巻のエピソード「ウチのお父はん」で終わるはずであった。

原作／はるき悦巳　週刊漫画アクション連載　双葉社刊■製作／多賀英典、片山哲生■制作担当／仙石鎮彦■制作デスク／竹内孝次■脚本／城山　昇■監督／高畑　勲■助監督／三家本泰美■作画監督／小田部羊一、大塚康生■原画／才田俊次、丹内　司、山内昇寿郎、篠原征子、富沢信雄、丸山晃一、友永和秀、田中敦子、道籏義宣、後藤紀子、奥山玲子■美術／山本二三■背景／アトリエ・ラスコー、横山幸博、山川　昇　椋尾スタジオ、河野尋美　みに・あーと、田原優子　池田祐二、青木勝志、早乙女　満　松浦玲子■色彩設計／近藤浩子■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■音楽／星　勝■ＯＰ「じゃりン子チエ」作詞／阿久　悠　作曲／岡本一生　ＥＤ「春の予感」作詞／来生えつ子　作曲／来生たかお　以上、歌／ビジー・フォー　ＣＢＳソニー■録音／加藤　敏■制作協力／テレコム・アニメーション・フィルム　澤田隆治（東阪企画）■製作／東宝株式会社、キティ・ミュージック、東京ムービー新社■声の出演　チエ（中山千夏）　テツ（西川のりお）　ミツル（上方よしお）　社長（芦屋雁之助）　ヨシ江（三林京子）　おバア（京　唄子）　おジイ（鳳　啓助）　花井　渉（桂　三枝）　花井拳骨（笑福亭仁鶴）　マサル（島田紳助）　タカシ（松本竜介）　テツの仲間（オール阪神・巨人）　カルメラ兄弟（ザ・ぼんち）　アントニオ／アントニオ・ジュニア（横山やすし）　小鉄（西川きよし）

NO. 239 フリテンくん

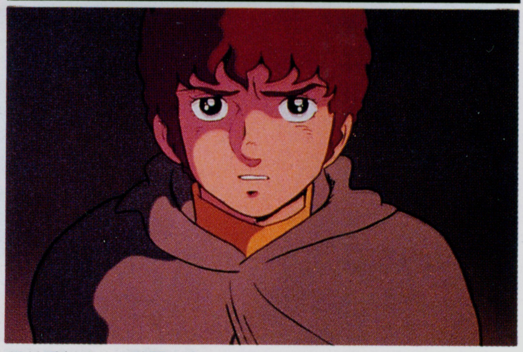


81年4月11日（土）東宝系封切　1時間15分
併映作品／じゃりン子チエ

〔あらすじ〕「おとぼけカンパニー」フリテンくんの勤務ぶりを紹介。「おとぼけ道中記」江戸時代にタイムスリップしたフリテンくんは……。「スポーツならおまかせ」フリテンくんがいろんなスポーツに挑戦。「今日はふたりの噴火の日」イクエちゃんとデートすることになったけど……。「ハレのちハレーッ」強盗に追われるフリテンくん。「ギャンブル笑学校」フリテンくんのギャンブル必勝法は？「雀狂時代」フリテン流マージャンは、もうメチャクチャ。
〔解説〕２００万部を越えるベストセラーとなった植田まさしの４コママンガを原作に７本立てでアニメ化。いまのところ、ナックが製作した唯一の劇場作品である。関西ギャグの「じゃりン子チエ」と、東京ギャグの「フリテンくん」の東西ギャグ２本立てだった。

原作／植田まさし　「月刊近代麻雀」「月刊麻雀オリジナル」「月刊ギャンブルパンチ」竹書房■製作／西野清市、深井知信■企画／馬場和夫■プロデューサー／西條剋麿■制作デスク／朝居利恵子■制作担当／戸井田博史■脚本／城山　昇、伊東恒久、山崎晴哉、杉山　卓■監督／杉山　卓■演出／四辻たかお、吉田　浩■絵コンテ／久茂すずめ、原田益次、岡本良雄、高橋和十八■助監督／岡迫亘弘■キャラクター設定、作画総監督／三輪孝輝■作画監督／小林準治、高橋春男、森下圭介■原画／加藤政志、長島正徳、新谷　憲、多賀深美、高木敏夫、米川功真、武田政夫、小野　茂、多賀一弘、福田　皖■美術／佐藤　信■背景／下茂恵美子、山口俊和、杉浦正一郎、早乙女　満■色彩設定／矢野怜子、山之内直美■撮影監督／菅谷信行■撮影／宮本勝啓、田口久男、高石　稔、山川　進、佐野貞史、豊永安義■編集／辻井好子、吉田恵美子■音楽監修／松下治夫■音楽／あかのたちお■ＯＰ「愚奴楽」ＥＤ「HAVE A NICE DAY」以上、作詞／藤　公之介　作曲／芳野藤丸　唄／中崎英也■録音／太田克己■効果／伊藤克己■東宝株式会社、株式会社ナック提携作品■声の出演　神田フリテン（近田春男）　社長（今西正男）　課長（増岡　弘）　高田（鈴置洋孝）　秋葉原イクエ（黒須　薫）　部長（上田敏也）　係長（滝　雅也）　目白（金沢寿一）　梅田（龍田直樹）　巣鴨（広森信吾）ほか

NO. 240 機動戦士ガンダムII 哀・戦士編
MOBILE SUIT GUNDAM II

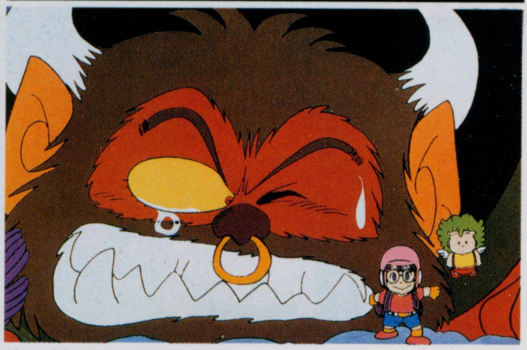


81年7月11日（土）松竹系封切　2時間4分

〔あらすじ〕オデッサ作戦に参加するホワイトベースを襲う数々の強敵——ランバ・ラル隊、黒い３連星、そしてシャア大佐。激しさを増す戦いのなかでアムロは疲れ、１度は脱走までするのだった。戦争で死ぬのは敵ばかりではない。アムロの憧れの女性マチルダが、ガンタンクのパイロットのリュウが、カイの恋人であるミハルが、哀しい戦いの犠牲者となっていった。アムロやセイラは、そのなかでいったい何を見いだすのだろうか……。
〔解説〕記録的大ヒットとなった前作のあとを受けて製作された劇場版「ガンダム」第２作。テレビシリーズの16話から31話までの再編集に新作画カットを加えて構成、新作画は前作より多く、物語の前後関係の入れかえも多い。井上大輔が歌った主題歌「哀・戦士」は大ヒットし、本編中でも効果的に使われてラストの大モビルスーツ戦を盛りあげた。テレビのGパーツに変わり映画版のオリジナルメカ・コアブースターが登場。

原作／矢立　肇、富野喜幸■製作／岸本吉功■企画／山浦栄二、伊藤昌典■プロデューサー／渋江靖夫、岩崎正美■脚本／星山博之、荒木芳久、山本　優、松崎健一■総監督／富野喜幸■フロアーディレクター／関田　修■演出協力／藤原良二、貞光紳也、又野　弘■キャラクターデザイン／安彦良和■メカニカルデザイン／大河原邦男■アニメーションディレクター／安彦良和■アニメーター／青鉢芳信、伊東誠、兵頭　敬、吉永尚之、板野一郎、中村　清、前島和子、服部あゆみ、石垣真弓、浜津　守、戸川俊信、茨田佳子、吉橋　節、藤岡正宣ほか■アートディレクター／中村光毅■撮影／旭プロダクション、三沢勝治、斉藤秋男、平田隆文■編集／鶴渕友彰、片石文栄■音楽／渡辺岳夫、松山祐士■挿入歌「哀戦士」作詞／井荻　麟　作曲、唄／井上大輔　レコード／キングレコード■オーディオディレクター／浦上靖夫■協力／講談社■製作協力／創通エージェンシー、名古屋テレビ■製作／日本サンライズ■配給／松竹株式会社■声の出演　アムロ（古谷　徹）　ブライト（鈴置洋孝）　リュウ（飯塚昭三）　カイ（古川登志夫）　ハヤト（鈴木清信）　ミライ（白石冬美）　セイラ（井上　瑤）　フラウ（鵜飼るみ子）　ミハル（間嶋里美）　マチルダ（戸田恵子）　ウッディ（岡部政明）　ランバ（広瀬正志）　ハモン（中谷ゆみ）　マ（塩沢兼人）　シャア（池田秀一）　ナレーター（永井一郎）ほか

NO. 241 Dr.スランプ アラレちゃん ハロー！不思議島の巻

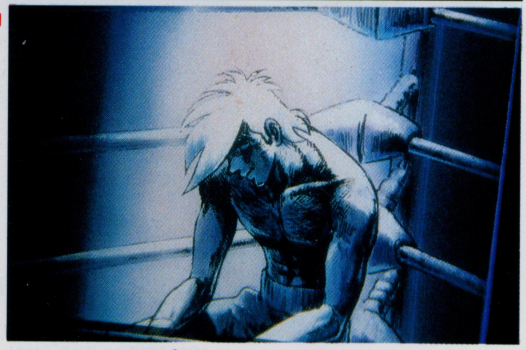


81年7月18日（土）東映系封切
併映作品／１０１匹わんちゃん大行進（リバイバル）、ミッキーマウスとドナルドダック、太陽戦隊サンバルカン（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕亡き父の残したビデオテープによって、飲ませた人を好きになってしまう〝ホーホレチャッタノヨラララランラン薬〟の作り方を知ったセンベエは、その材料であるギャースカ大魔王の涙を手に入れるため、アラレとガッちゃんとともにピンポン号に乗りワンダーアイランドへと向かった。そこは吸血鬼やドラゴンなどがうようよしている不思議な島。はたしてセンベイは涙を手に入れ、山吹みどりの愛をかちとることができるのだろうか。
〔解説〕劇場１作目。原作「ハロー！　不思議島の巻」「ギャースカ大魔王の巻」のアニメ化。不思議な島から雲の上の世界へと、劇場版にふさわしい派手な冒険物語。テレビシリーズは、セリフから構図まで、まさしく原作重視の姿勢で作られていたが、それはこの映画でも同様。上映時間も25分、作り方は完全にテレビスタイルだ。脚本はこののち、シリーズで活躍することになる若手脚本家の井上敏樹。この作品がデビュー作である。

原作／鳥山　明　集英社〔週刊少年ジャンプ〕連載■製作／今田智憲■企画／七條敬三■製作担当／岸本松司■製作進行／田中佐智子■脚本／井上敏樹■演出／岡崎　稔■演出助手／芝田浩樹■作画監督／前田みのる■原画／前田みのる、平野俊弘■動画／湊　和良、青木雅之、船塚純子、小玉秀子、小松良江、岩井みどり、小林直美、黒見妙子■美術監督／浦田又治■背景／陶山尚治■仕上／植木和子、前田剛弘、高瀬育子、増井美知子■特殊効果／佐藤章二■撮影／佐藤隆郎■編集／千蔵　豊■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ワイワイワールド」作詞／河岸亜砂　唄／水森亜土　（こおろぎ'73）　ＥＤ「アラレちゃん音頭」作詞／満都　南　唄／小山茉美　（コロムビアゆりかご会）　以上、作曲／菊池俊輔　編曲／たかしまあきひこ　コロムビアレコード■オーディオディレクター／小松亘弘■録音／田中英行■音響効果／新井秀徳■選曲／宮下　滋■現像／東映化学■■声の出演　センベエ（内海賢二）アラレ（小山茉あかね（杉山佳寿子）　タロウ（古川登志夫）　ピースケ（神谷なおみ）　ガッちゃん（中野聖子）　山吹先生（向井真理子）　ニコチャン大王（大竹　宏）　スッパマン（玄田哲章）　センベエの父（田中　崇）　ギャースカ大魔王（雨森雅司）（千葉　繁）（田の中勇）（佐藤正治）（戸谷公次）（中谷ゆみ）　協力／青二プロ　※神谷なおみの表記は画面通り。

NO. 242 あしたのジョー2



81年7月4日（土）ヘラルド・エンタープライズ・富士映画配給　1時間52分

〔あらすじ〕力石を殺してしまったという心の負い目から、テンプルを打てなくなったジョーだったが、ベネズエラの無冠の帝王カーロス・リベラと出会い、彼と死力を尽くして戦うことによって立ち直った。だが激戦を続けるジョーは、いつしかパンチ・ドランカーに。彼をひそかに愛していた白木葉子は、その事実を知りがく然とする。しかしジョーは、葉子の制止もきかず、チャンピオンのホセ・メンドーサとの試合に臨むのだった。
〔解説〕映画「あしたのジョー」の続編で、力石の死後から原作のラストまでを描いた。物語のポイントをジョー対ホセ戦にしぼるため、かなり大胆に枝葉のエピソードを落としている。前半は放映中の同名テレビシリーズの再編集で、後半は新作で構成。後半の制作は、テレビシリーズと同時進行だった。出崎統の演出、杉野昭夫の作画ともに前作より磨きがかかり、さらにシャープな映像を作りだしている。葉子などのキャスティングはテレビシリーズと異なる。

原作／高森朝雄、ちばてつや　（講談社刊）■製作総指揮／梶原一騎■製作／川野泰彦■プロデューサー／島田十九八■監修／ちばてつや■脚本監督／出崎　統■脚本協力／篠崎　好、山崎晴哉、大和屋竺、高屋敷英夫■助監督／竹内啓雄■作画監督／杉野昭夫■原画／札木幾夫、本木久年、大橋　学、中村隆太郎、平山　智、小林慶輝、杉野佐秩子、大塚伸治、塚田信子、福島敦子、森本晃司、神宮　慧、福地信之、中村　真、道下有希子■動画／鳥居愛緒、半田由利、谷野恵子、加藤涼子、高奥誠也、桑本瑞恵、小沢尚子、金子成子、清野良夫ほか■美術／小林七郎■美術設定／男鹿和雄、工藤美由紀、小倉宏昌、柴田千佳子、田辺　智、石井睦夫■背景／小林プロダクション■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■音楽監督／荒木一郎■ＯＰ「「あしたのジョー２」テーマ～明日への叫び～」ＥＤ「青春の終章（ピリオド）～JOE・・・　FOREVER～」以上、作詞・作曲・唄／ジョー山中　オレンジハウスレコード■録音／瀬川徹夫■効果／帆苅幸雄■テクニカルアドバイザー／高山将孝■協力／あんなぷる■製作協力／東京ムービー新社■製作／三協映画株式会社、ヘラルド・エンタープライズ、富士映画、ちば企画■声の出演　矢吹　丈（あおい輝彦）　丹下段平（藤岡重慶）　白木葉子（檀　ふみ）　ホセ・メンドーサ（岡田真澄）　力石　徹（細川俊之）　カーロス・リベラ（ジョー山中）　マンモス西（岸部シロー）ほか

NO. 243

キャプテン



81年7月18日（土）日本ヘラルド映画配給　1時間35分

〔あらすじ〕野球の名門・青葉学院から墨谷二中に転校してきた谷口タカオは、弱小野球部の次期キャプテンに指名されてしまう。谷口は持ちまえのがんばりで墨谷ナインを鍛えあげ、地区予選決勝で、かつての母校・青葉学院と対戦した。試合は白熱をきわめる展開となったが、チーム力で上回る青葉が辛勝。しかし、青葉がこの試合に15人もの選手を投入したことが、アマチュア精神に反すると判断され、再試合が決定した。だが墨谷はエース松下が負傷で出れない。

〔解説〕前年に放映された２本のテレビスペシャルのうち青葉学院との再試合を含む改訂版（延長戦）を劇場公開。ただし、ドラマの流れをより滑らかにしたいとの演出方針から、冒頭、転校してきた谷口が祭りを通して下町の雰囲気になじんでいく場面や、再試合を前に話し合う墨谷ナインの姿など、細かなシーンが挿入された。これらの新作部分は、出崎哲絵コンテ、清水恵蔵作監という体制でマジックバスが担当。アフレコも新録しなおされた。

原作／ちばあきお〈集英社ジャンプコミックス〉■企画／吉川　斌〈日本テレビ〉■プロデューサー／堀越　徹〈日本テレビ〉、鷲巣政安〈エイケン〉■プロデューサー補佐／毛内節夫■制作担当／関　孝行■脚本／城山　昇■監督／出崎　哲■演出助手／神井裕行■キャラクター設定／清山滋崇■作画監督／清山滋崇、清水恵蔵■原画／小和田良博、四分一節子、大島秀範、林　一哉■美術監督／遠藤守俊■背景／マスコット、サンルック、スタジオコスモス■色彩／鬼沢富士男■撮影（撮影監督と同義）／飯塚　進■編集／矢吹敏明、川名雅彦■音楽／大森敏之■ＯＰ・ＥＤ「君は何かができる」作詞／山上路夫　作曲／大森敏之　歌／99Harmony（ハーモニー）　コロムビアレコード■録音／左近允洋■ステレオコーディネーター／岡本　知■アニメ作画制作／株式会社マジックバス■制作／日本テレビ、エイケン■声の出演　谷口タカオ（和栗正明）　丸井（熊谷誠二）　イガラシ（中田光利）　松下（大見川高行）　小山（手塚　学）　加藤（西脇政敏）　西田（神谷政治）　高木（小山　神）　浅間（岩田光央）　島田（大栗清史）　番長（酒井晴人）　佐野（安田裕司）　協力／劇団若葉、劇団こまどり、劇団ひまわり、東映児童研修所　谷口の母（麻生美代子）　委員長（上田敏也）　主審（政宗一成）　塁審（長堀芳夫）　塁審（稲垣　悟）　青葉野球部監督（森山周一郎）　谷口の父（ハナ　肇）

NO. 244

シリウスの伝説



81年7月18日（土）サンリオ・日本ヘラルド映画共同配給　1時間48分

【あらすじ】大昔、火と水の一族が互いに憎み合っていたころ、かがり火のともる岬で、水の子シリウスは火の子マルタに出会った。許されぬ恋におち、一緒になる方法を尋ねるふたりに大海亀モワルは〝安住の星〟のことを語る。90年に一度の日食の日、メビウスの丘から北の空へと舞い上がるクライン草の胞子に乗れば、その星に行けるという。しかし日食の日を目前にして、ふたりは火の神テミスと水の神グラウコスによって捕らわれ、自由を奪われてしまう。

【解説】ディズニーの「ファンタジア」を越える作品を、との意気ごみで、前作「星のオルフェウス」で渡米したスタッフを中心に、３年がかりで製作されたフルアニメ。キャラクター、エフェクトそれぞれに作画監督を立てる、１キャラクターの原画をひとりで担当する、ほとんどがハンドドレス、などの試みがなされた。キャラクター、美術、音楽も含めて、非日本的な幻想美を作っているが、テーマはこの年代を反映してか〝愛〟となっている。

原作／辻　信太郎　〈シリウスの伝説〉サンリオ出版刊■企画・製作／辻　信太郎■プロデューサー／波多野恒正■制作担当／成川誠一郎■制作デスク／下川邊幸子■脚本／桂　千穂、波多正美■設定協力／鏑木昌弥、高橋良輔■監督／波多正美■演出助手／鈴木卓夫■キャラクターアニメーション／山本繁■キャラクター原画／多賀深美、高橋春男、中島薫、後村　武、船田雅子、星川美雪、三輪孝輝、大橋　学、川尻善昭、服部美和子、小川友知子、内藤学■エフェクトアニメーション／赤堀幹治■エフェクト原画／大西治子、保江　園、松山まや、近藤宏由幸、千田幸也■振付／ホセ・ブラウン■美術／阿部行夫■背景／清水一利、吉田陽子、野谷顕次、佐々木　洋、長嶋陽子■仕上設定／福永雅子■撮影監督／八巻　磐■ペンシルテスト撮影／熊谷愰史■編集／古川雅士■音楽プロデューサー／すずきまさかつ■音楽／すぎやまこういち　演奏／ＮＨＫ交響楽団■ＥＤ「愛のカンタータ」作詞／山上路夫　作曲／すぎやまこういち　歌／サーカス　（ワーナーパイオニア）■音響監督／林　昌平■効果／柏原　満■〈声の出演〉　シリウス（古谷　徹）　マルタ（小山茉美）　グラウコス（内海賢二）　ピアレ（潘　恵子）　テミス（武藤礼子）　リー、ルー（松島みのり、野村道子）その他　チーク（榊原郁恵）　マブゼ（鈴木ヒロミツ）　モワル（宇野重吉）　（協力／青二プロ）

NO. 245

さよなら銀河鉄道999
—アンドロメダ終着駅—



81年8月1日（土）東映株式会社配給　2時間10分

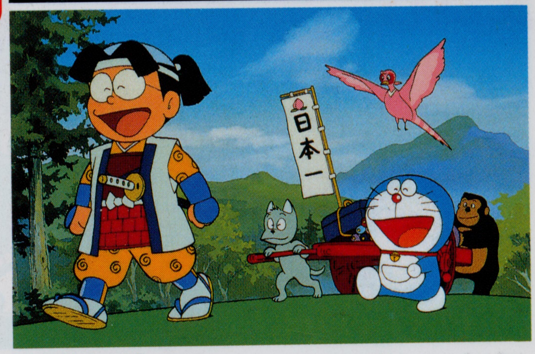
〔あらすじ〕あれから２年……。人間と機械化人との戦いが続く動乱の地球で、鉄郎はメーテルからのメッセージを受け取った。老パルチザンらに援護されて再び９９９号に乗りこんだ鉄郎は、途中、メーテルの生まれ故郷だというラーメタル星に降り立った。鉄郎は、そこでやはり同じようにパルチザン活動を続けるミャウダーから、メーテルがプロメシュームのあとを継いだという話を聞かされる。疑念を胸に抱いたまま鉄郎はついにメーテルに再会したが……。

〔解説〕２年前に公開されて大ヒットした「銀河鉄道９９９」の続編。主要スタッフは、ほぼ前作通りだが、原画メンバーは金田伊功、的場茂夫を除き総入れ替えとなった。再び９９９号に乗りこんだ鉄郎と、その父親である黒騎士との対決を軸に展開したが、内容的には前作を上回ることはできなかった。長岡秀星によるイメージポスターや中国でのSLツアーなど、宣伝活動は前作以上の規模で展開。配収も12億円と大台を突破できた。

製作総指揮／今田智憲■企画・原作・構成／松本零士■企画／有賀　健、高見義雄■製作担当／大野清■脚本／山浦弘靖■監督／りん・たろう■メカニックデザイン協力／板橋克己■アルカディア号デザイン協力／スタジオ・ぬえ■作画監督／小松原一男■作画監督補佐／新井　豊■原画／森　利夫、野田卓雄、才田俊次、金田伊功、山口泰弘、後藤紀子、沼尻　東、青鉢芳信、木下ゆうき、横山涼一、横山健次、鍋島　修ほか■グラフィックアニメーション／相原信洋■美術監督／椋尾　篁■美術／窪田忠雄■撮影監督／高梨洋一、町田賢樹（補佐）■編集／花井正明、大熊　昭（助手）■音楽／東海林　修　指揮／熊谷　弘　演奏／コロムビア・シンフォニックオーケストラ■ＥＤ「ＳＡＹＯＮＡＲＡ」作詞・作曲／メアリー・マッグレガー、ブライアン・ウィットカム、ディヴィッド・Ｊ・ホルマン　歌／メアリー・マッグレガー　演奏／ロサンゼルス・シンフォニック・スタジオ・オーケストラ　（サウンドトラック盤　コロムビアレコード）■録音／二宮健治、市川　修（助手）■（製作／東映（東映動画））■声の出演　星野鉄郎（野沢雅子）　メーテル（池田昌子）　メタルメナ（麻上洋子）　車掌（肝付兼太）　ハーロック（井上真樹夫）　エメラルダス（田島令子）　ミャウダー（富山　敬）　プロメシューム（来宮良子）　老パルチザン（森山周一郎）　ナレーター（城　達也）　黒騎士（江守　徹）ほか

NO. 246

ドラえもん
ぼく、桃太郎のなんなのさ



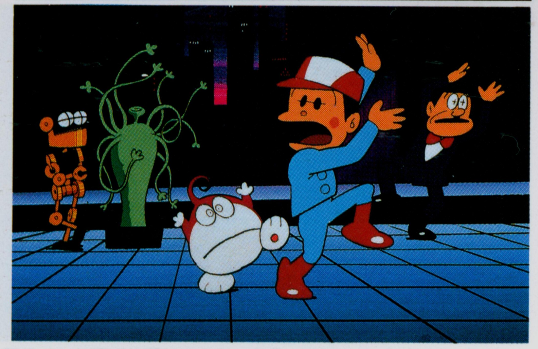
81年8月1日（土）東宝系封切　47分
併映作品／21エモン　宇宙へいらっしゃい！

〔あらすじ〕夏休みの社会科の宿題は、町の歴史を調べること。のび太は例によって大弱り。ドラえもんはタイムカメラを使って町の過去の写真を撮ることにする。するとそのなかの１枚に桃太郎が写っていたのだ。そして、同じ日に偶然知り合ったオランダ人の青年が示した先祖から伝わっているという写真にも、やはり桃太郎の姿が……。桃太郎は実在したのだろうか。のび太たち一行は、その謎を探るためにタイムマシンで室町時代へと出発した。

〔解説〕併映の「21エモン」がメインのため、こちらは劇場用ドラえもんでは唯一の中編として製作された。従って「長編ドラえもん第○作」という場合には、この映画は数えない。ＴＶシリーズの作監である中村英一が劇場版でも作監をつとめた、ただ一つの作品でもある。原作は、「小学４年生」'74年９月号に掲載された同名の中編で、バケルくんとのび太の共演を描く異色作であった。また、この原作にはしずか、ジャイアン、スネ夫は登場しない。

原作／藤子不二雄　連載／マミイ、ベビー、めばえ、よいこ、幼稚園、てれびくん、コロコロコミック、小学一年生、小学二年生、小学三年生、小学四年生、小学五年生、小学六年生■プロデューサー／別紙壮一、菅野哲夫■制作担当／田村正司■文芸／山本有子■脚本／城山　昇■監修／楠部大吉郎■監督／神田武幸■演出助手／生嶋真人■レイアウト／富永貞義■作画監督／中村英一■原画／春貴健司、窪田正史、一川孝久、木村友和、斉藤かおる、三浦清継、野島　進、星野真砂子、森山ゆうじ■美術監督／工藤剛一■背景／福田和矢、佐藤正行、関口和博、矢島みよ子、池田　淳■色設計／長谷川　洋■仕上検査／吉野紀通■特殊効果／土井通明■撮影監督／高橋明彦、小池　彰■編集／森田清次■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ぼくドラえもん」作詩／藤子不二雄　歌／大山のぶ代　ＥＤ「青い空はポケットさ」作詩／高田ひろお　歌／大杉久美子　以上、作曲／菊池俊輔　コロムビアレコード■録音監督／大熊　昭■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　しずか（野村道子）　スネ夫（肝付兼太）　ジャイアン（たてかべ和也）　パパ（加藤正之）　ママ（千々松幸子）　鬼（大宮悌二）　外人（桑原たけし）　村長（辻村真人）　村人（野本礼三）　村人（西尾　徳）　村人（沢　りつお）　村人（井上和彦）

NO. 247 21エモン 宇宙へいらっしゃい！



81年8月1日（土）東宝系封切　1時間32分
併映作品／ドラえもん　ぼく、桃太郎のなんなのさ

【あらすじ】時は21世紀、江戸時代から続くホテル〝つづれ屋〟は、あまりに旧式なため開店休業状態だ。つづれ屋のあととり息子21エモンは、そんなホテルを継ぐよりも宇宙パイロットになりたいと思っている。つづれ屋買収をもくろむギャラクシーホテルは、21エモンの夢をたきつけて、あとを継がせないようにしようと、彼を宇宙旅行に招待する。なにも知らない21エモンは、いもほりロボットゴンスケや、超能力を使う絶対生物モンガーとともに宇宙へ旅立った。
【解説】春の劇場用「ドラえもん」「怪物くん」の大成功によって、この年は夏休みにも藤子作品が映画化された。監督、作監、レイアウトを亜細亜堂のスタッフが担当。芝山努はこの作品が契機で、ドラえもん劇場シリーズの監督には、藤子不二雄から推薦されることになる。この回の2本立の隠し味は、双方に兼用されている場面がワンカットあって、21エモンとドラえもんがさり気なく共演するという趣向。劇場で2本続けて観るとニヤリとさせられる。

原作／藤子不二雄　連載／コロコロコミック■プロデューサー／別紙壮一、菅野哲夫■プロデューサー補／佐久間晴夫■制作進行／川口　亘、吉岡　大、小沢一江■文芸／山本有子■脚本／辻　真先■監督／芝山　努■絵コンテ／小林　治、河内日出夫、山田みちしろ■演出助手／井上　修■作画監督／山田みちしろ■美術監督／川本征平■美術設定／門野真理子■美術補／沼井信朗■色設計／若尾博司■撮影監督／小山信夫、金子　仁■編集／井上和夫■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「宇宙へいらっしゃい」作詞／藤子不二雄　歌／井上和彦、肝付兼太、杉山佳寿子　ＥＤ「遙かなる宇宙」作詞／ばばすすむ　歌／井上和彦　以上、作曲／菊池俊輔　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■効果／赤塚不二夫■整音／中戸川次男■制作協力／藤子スタジオ■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　２１エモン（井上和彦）　パパ（二見忠男）　ママ（栗　葉子）　ゴンスケ（肝付兼太）　モンガー（杉山佳寿子）　オナベ（丸山裕子）　ルナ（潘　恵子）　ギャラクシー社長（塩見竜介）　支配人（加藤　治）　山田先生（上田敏也）　カメキチ（はせさん治）　カワサキ（鈴木清信）　ササヤマ星人（高田竜二）　スカンレー（飯塚昭三）　船長（箸見　純）　航海士（佐藤正治）　ガイド（川島千代子）　アナウンサー（松原雅子）　コンピューター（尾崎桂子）　バトンガール（鈴木三枝）

NO. 248 マンザイ太閤記



81年11月28日（土）　松竹系封切　1時間39分
併映作品／花の係長

〔あらすじ〕日吉丸は、猿そっくりだったため、猿好きの蜂須賀小六に拾われた。仕官をめざす日吉丸は、今川義元の足軽採用試験に落ち、松下家では裏口入学がバレて追放。そのときブロマイドで見たお市の方に一目惚れ、織田信長家への仕官をめざす。
〔解説〕〝マンザイブーム〟に乗って作られた作品。ブームの仕掛人で「花王名人劇場」のプロデューサーの沢田隆治が監督をつとめ、その代表作「てなもんや」シリーズを思わせる時代劇コメディとなった。

製作／藤岡　豊、片岡哲生■脚本／高屋敷英夫、城山　昇、鈴木良武、伊東恒久、吉田喜昭、山崎晴哉■監督／澤田隆治、高屋敷英夫■キャラクター・デザイン／山藤章二■キャラクター・設定／芝山　努■作画監督／椛島義夫、山内昇寿郎■美術／門野真理子■撮影／結束義博■編集／鶴渕允壽■音楽／佐藤　準■ＯＰ・ＥＤ「エーメンからGOGOGO」作詞／糸井重里　作曲／鈴木慶一　唄／ザ・ぼんち（フォーライフレコード）■録音／加藤　敏■松竹・東京ムービー新社提携作品■声の出演　ザ・ぼんち　おさむ（日吉丸、藤吉郎、秀吉）　まさと（前田犬千代）　島田紳助（織田信長）　松本竜介（明智光秀）ほか／劇団薔薇座　ナレーター（熊倉一雄）

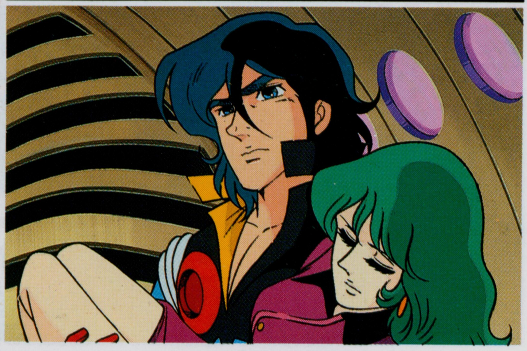
NO. 249 花の係長

81年11月28日（土）
松竹系封切　59分

〔内容・解説〕　併映作品／マンザイ太閤記
「マンザイ太閤記」の同時上映として'76年に東京ムービーが製作した大人向けテレビアニメ「花の係長」の4、30、7、13、26話をまとめた作品。

原作／園山俊二■脚本／伊東恒久、山崎晴哉■演出／岡崎　稔、棚橋一徳■作画監督／香西隆男■美術監督／小林七郎■音楽／玉木宏樹、かまやつひろし■ＯＰ「花の係長」作曲／かまやつひろしＥＤ「嗚呼！花の係長」作曲／はら・まき　以上、作詞／園山俊二　唄／こおろぎ'73　レコード発売／日本コロムビア■撮影監督／一沢勝治■声の出演　綾路地麻朱磨呂（富田耕生）　ヨーコ（向井真理子）　太郎（西川和孝）ほか　※本リストは、資料より作成。

NO. 250 宇宙戦士バルディオス REVENGE OF THE SPACE WARRIORS



81年12月19日（土）東映セントラルフィルム株式会社配給　1時間18分

〔あらすじ〕放射能汚染で滅亡寸前のＳ１星を脱出したガットラー軍団を追って宇宙に出たマリン・レーガンは、親衛隊長アフロディアとの戦闘中に重力波にのみこまれ、2100年の月に漂着。疑惑に耐え、クイーンシュタイン博士に、その能力と父を殺したガットラーに対する復讐心を買われ、地球を守るブルーフィクサー隊の一員になった。地球人のオリバー、雷太とともにバルディオスに乗り、同族のＳ１星人を倒さねばならないマリン。悲しい戦いがはじまった。
〔解説〕完結直前に放映が打ち切られたテレビシリーズ「宇宙戦士バルディオス」が、ファンの要望に応えて映画化。テレビ版のフィルムと、芦田豊雄作監の新作部分で構成されており、物語はマリンとＳ１星の女性軍人アフロディアの関係にしぼられた。「ニコル」のファッションデザイナー松田光弘を衣装デザインに起用、声優コンテストで一般から出演者を募集など、話題は多い。アニメブームのさなかならではの製作背景と、独特の〝クササ〟に満ちた作品である。

原作、脚本／酒井あきよし■製作／壺田重三、佐藤俊彦■プランニングプロデューサー／小野寺修一■プロデューサー／相原義彰、加藤　博、山家靖郎（東映）■制作管理／佐藤訓史■制作担当／庄司　清■テレビ版脚本／首藤剛志、筒井ともみ■総監督／鳥海永行■演出／広川和之■キャラクターデザイン／上條　修■メカニックデザイン／亀垣　一■衣装デザイン／松田光弘■イラストレーション／影山◉倫■作画監督／芦田豊雄■原画／いのまたむつみ、田中　保、亀垣　一、平山　智、沼尻　東、福田　◉、加藤　茂、鍋島　修、上條　修、山下将仁、越智一裕、井口忠一、都丸　保■美術監督／新井寅雄■色彩設定／永江由利■特殊効果／向井　稔■撮影監督／緒方範生■編集／辺見俊夫、山崎昌三■音楽／羽田健太郎■音響監督／斯波重治■ＯＰ「Sea Wind」作詞／上田雅利　ＥＤ「素顔のままで」作詞／佐藤真紀　以上、作曲／佐藤真紀　編曲／鈴木宏二　歌／ＴＯＮＹ■録音／成清　量■音響効果／伊藤道広■製作協力／国際映画社、葦プロダクション■製作・配給／東映セントラルフィルム■キャスト　マリン（塩沢兼人）　アフロディア（戸田恵子）　月影長官、ナレーター（堀　勝之祐）　クインシュタイン博士（此島愛子）　北斗雷太（玄田哲章）　ジャックオリバー（田中秀幸）　ジェミー星野（潘　恵子）　ガットラー総統（柴田秀勝）　デビット（井上和彦）ほか

NO. 251 シュンマオ物語タオタオ



81年12月26日（土）松竹系封切　1時間27分
併映作品／男はつらいよ　寅次郎紙風船

【あらすじ】中国、四川省のチンサ台地で、パンダのタオタオたちは平和に暮らしていた。ある日、侵入してきた人間たちから恋人のアンを逃がすため、おとりとなったタオタオは、人間の仕かけたワナに捕まってしまった。長い旅の末、ヨーロッパの動物園に連れてこられたタオタオ。理解者である飼育係の女性・メアリーとその婚約者たちに見守られながら、芸も覚え、動物園の人気者となっていった。しかし戦争がはじまり、平和な日々も終わりを告げることになった。
【解説】初の日本と中国の合作アニメ。映画監督の山田洋次が、はじめてアニメ製作に参加して原案と監修をつとめた。アニメーション監督はCMアニメで知られる島村達雄が、キャラデザインと美術監督はイラストレーターの中原収一がつとめ、エアブラシや点描などを多用し、独特なグラフィクな画面を作りだしている。また、実写との合成やミニチュアも一部に使われている。中国の天津市工芸美術設計院が、背景、作画などで参加した。

原案・監修／山田洋次　出版／小学館■製作／宮本一保■プロデューサー／佐藤雪夫■脚本／高橋　健、田中康義■アニメ監督／島村達雄■キャラクターデザイン、美術監督／中原収一■キャラクターデザイン／漆崎義憲■作画監督・絵コンテ／坂本雄作■原画／山本　繁、中村和子、彦根範夫、中村泰敏、半田輝夫、尾崎真吾、熊川正雄ほか■撮影協力／アニメーション・スタッフルーム、ヒロアニメーションほか■音楽／佐藤　勝■音楽制作／ビクター音楽産業■主題歌「星になりたい」詩・曲／伊藤　蘭　編曲／萩田光雄　「雪解け」詩・曲／天野　滋　編曲／瀬尾一三　以上、歌／下成佐登子（ヤマハ）■アニメスタジオ／白組（日本側）、天津市工芸美術設計院（中国側）■現像／東洋現像所■〈中国スタッフ〉天津市工芸美術設計院アニメ制作室■製作／シュンマオ制作委員会・天津市工芸美術設計院■声の出演　タオタオ（大竹しのぶ）　キキ（潘　恵子）　チュウリー（白石冬美）　園長（太宰久雄）　メアリー（倍賞千恵子）　ジョージ（井上真樹夫）　リンリン（山田隆男）　タオタオの母（中西妙子）　アン（岡本茉利）　チュンチュン（麻上洋子）　総理大臣（八奈見乗児）　シベリアヅル（田中康郎）　キキの母（麻生美代子）　チュウチュウ（田の中　勇）　シュトルム（大木民夫）　アナウンサー（塚越　孝）　ピョン（数野尊子）　※本リストは、作品公開当時のパンフレットをもとに作成した。

’82 昭和57年

“ガンダムフィーバー”が続くなか、３作目の「めぐりあい宇宙編」が公開。続いて夏に、同じ富野監督作品「伝説巨神イデオン」が公開された。「イデオン」は「ガンダム」のハードさを、さらに１歩進めたSFアニメで、やはり一方では絶大なマニア人気を得たが、エンターテイメント性に欠けており、その人気が一般に広がることはなかった。富野監督はテレビシリーズで作品を発表し続けることになるが、新作劇場用作品は、３年後の「逆襲のシャア」まで製作されることはなかった。

松本アニメは、「1000年女王」「わが青春のアルカディア」の２本が公開されたが、かつての熱気はなかった。また、「六神合体ゴットマーズ」は、ファンの熱烈な希望で実現した映画化だったが、テレビシリーズのファンを劇場に集めたのみに終わった。

アニメブーム以来、かつての生彩を失っていた「東映まんがまつり」だったが、ついにこの年と翌年には、夏のプログラムが組まれなくなってしまった。

NO. 252 世界名作童話 アラジンと魔法のランプ



82年3月13日（土）東映系封切　1時間5分
併映作品／大戦隊ゴーグルV、あさりちゃん　愛のメルヘン少女、まんが日本昔ばなし　ほらふき天狗、おけさねこ（東映まんがまつり）

【あらすじ】貧乏人の息子・アラジンは、妖術使いに、ほら穴から古いランプを取ってくるよう頼まれた。ランプを渡さなかったため穴のなかに置きざりにされるが、指輪の精の力で無事脱出。やがて、自分の手にあるのが魔法のランプと知り、魔物の力を借りてブドール姫とめでたく結ばれる。しかしそれを知った妖術使いは、姫をだましてランプを手にいれ、姫と宮殿を奪いさってしまう。アラジンは彼らを追って、一路砂漠をめざした。

【解説】東映動画の世界名作童話シリーズの１本、オリジナルキャラクターを、ディズニーの「白雪姫」などの原画を手がけたベア夫妻に依頼し、ゴダイゴにアラジン風の衣装を着せて主題歌を歌わせるなど、話題づくりにつとめた。画面づくりは丁寧であるが、物語のメリハリがない、面白みの少ない作品となっている。

製作／今田智憲■企画／山口康男■製作担当／菅原吉郎　「アラビアンナイト」より■脚本／宮崎　晃■演出／笠井由勝■演出助手／池田裕之、大久保唯男■監督補佐／海老原一男■オリジナルキャラクター／デール・ベアー、ジェーン・ベアー■画面構成／角田紘一■作画監督、キャラクターデザイン／高橋信也■原画／阿部　隆、木野達児、小川明弘、的場茂夫、森田浩光、新川信正、吉田利喜、辻　佳宏、平野俊弘、千葉順三、白川忠志、広瀬和子■動画チェッカー／武井恒雄■美術監督／内川文広　補佐／海老沢一男■背景／田中資幸、小林祐子、有川知子、今野良子、襟立智子■撮影監督／武井利晴■撮影チーフ／清水政夫■編集／吉川泰弘■音楽／坪能克裕　演奏／東京五重奏団、コロムビア・オーケストラ■ＥＤ「魔法のあかり」作詞／ウィル・ウィリアムス、山上路夫　作曲／タケカワユキヒデ　歌、演奏／ゴダイゴ　（コロムビアレコード）■録音／波多野　勲■製作協力／メルヘン社■（製作／東映（東映動画））■声の出演　アラジン（神谷和夫）　ブドール姫（鈴鹿景子）　妖術師（金内喜久夫）　王様、ランプの精（北村和夫）　アラジンの母（七尾伶子）　大臣の息子（冷泉公裕）　指輪の精（坂口芳貞）　わんぱくＡ（松本　修）　Ｂ、王様の侍従（仲　恭司）　Ｃ（中西文夫）　Ｄ（柳内誠秀）ほか　協力／文学座　※本リストは、東映動画の社内資料をもとに作成した。

NO. 253 あさりちゃん 愛のメルヘン少女



82年3月13日（土）東映系封切　25分
併映作品／世界名作童話　アラジンと魔法のランプ、大戦隊ゴーグルV、あさりちゃん　愛のメルヘン少女、まんが日本昔ばなし　ほらふき天狗、おけさねこ（東映まんがまつり）

【あらすじ】ある日あさりが学校から帰ると、部屋に入りこんだママが、おばあちゃんがくれた〝世界名作全集〟を調べていた。あさりがまだ１冊も読んでいないことを知ってママはカンカン。明日遊びにくるおばあちゃんのために一晩で５冊完読することをあさりに厳命し、ふだん本など読まないあさりは大パニック。部屋に閉じこもり、しばらくして出てきたあさりは様子が変だ。有名な物語の主人公にかたっぱしから変身し、姉・タタミを相手に暴れだす。

【解説】テレビアニメ「あさりちゃん」の劇場用新作。原作は月刊「コロコロコミック」などに、室山まゆみが連載していた人気漫画。

原作／室山まゆみ　掲載／小学館学習雑誌、コロコロコミック、てれびくん■製作／今田智憲■企画／勝田稔男■製作担当／武田　寛■製作進行／箕ノ口克己■脚本／山崎忠昭■演出／福島和美■演出助手／金山通弘■作画監督／上村栄司■原画／及川博史、土橋　博、国島龍二、坂田筆夫■動画／佐藤やす子、石地富司夫、小柳信行、三浦弘二、吉沢亮吉、松村啓子■美術監督／伊藤英治■背景／丸森俊昭、水野尾純一、伊藤雅人、加藤良恵■仕上／平賀豊彦、塚田　劭、茂木明子、高橋慶子■特殊効果／中島正之■撮影／岡芹利明■編集／鳥羽亮一■音楽／筒井広志■ＯＰ「あの子はあさりちゃん」作詞／伊賀井直人　ＥＤ「私は女の子」作詞／砂原十吾　以上、作曲／小林亜星　編曲／武市昌久　うた／前川陽子、こおろぎ'73　コロムビアレコード■録音／波多野勲■音響効果／伊藤道広■選曲／宮下　滋■記録／原　芳子■現像／東映化学■声の出演　あさり（三輪勝恵）　タタミ（川島千代子）ママ（向井真理子）パパ（富山　敬）王子（森　功至）使者（寺田　誠）カラス（戸谷公次）　侍女（中野聖子）　少女（鈴木富子）　協力／青二プロ

NO. 254 まんが日本昔ばなし ほらふき天狗、おけさねこ



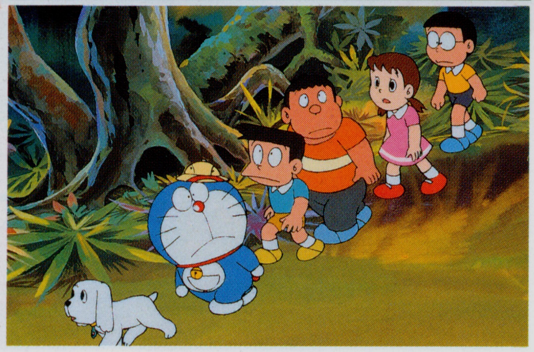
82年3月13日（土）東映系封切　24分
併映作品／世界名作童話　アラジンと魔法のランプ、大戦隊ゴーグルV、あさりちゃん　愛のメルヘン少女（東映まんがまつり）

【あらすじ】『おけさねこ』——海辺で拾われた野良猫のタマは、そば屋の老夫婦に大事に育てられていた。商売敵が増えて店がはやらなくなったとき、タマは美しい人間の娘に化け、店頭で歌い踊り客寄せする。『ほらふき天狗』——森に住む天狗のなかに、本当は弱いくせに大口ばかりたたいているほらふき天狗がいた。ほらふき天狗は、怪力のこぶ天狗と闘うはめになった。

【解説】日本の民話などを題材にした、テレビの長寿シリーズ「まんが日本昔ばなし」の劇場用新作。テレビシリーズは、毎回スタッフが変わり、その多彩な作風で楽しませてくれているが、この映画もテレビシリーズ同様２本立ての構成。

製作／川内彩友美■ダイアローグ／沖島　勲■チーフ・ディレクター／小林三男■撮影／Ｖ・Ａ・Ｃ■編集／古川雅士■オーディオ・ディレクター／田代敦巳■録音／新坂録音■調整／伊東忠美■企画・制作／愛企画センター、グループ・タック■配給／東映株式会社■語り　（市原悦子）（常田富士男）
〈ほら吹き天狗〉文芸／沖島　勲■演出／こはなわためお■作画／吉田利喜■美術／小関俊之
〈おけさねこ〉文芸／沖島　勲■演出、作画／高沢孫一■美術／西村邦子　※本リストは、愛企画センターの社内資料をもとに作成した。

NO. 255 ドラえもん のび太の大魔境

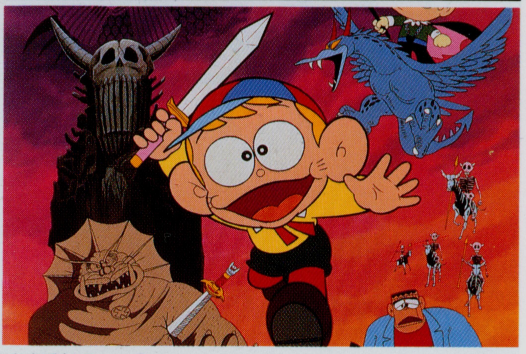


82年3月13日（土）東宝系封切　1時間32分
併映作品／怪物くん　デーモンの剣、忍者ハットリくん　ニンニン忍法絵日記の巻

〔あらすじ〕〝秘境〟を見つけろ、というジャイアンの無理難題にとりくむドラえもんとのび太。自家用衛星で観測していると、アフリカ大陸の奥地に不思議な巨神像が見つかった。のび太一行は、たまたま出会った不思議なのら犬ペコを伴ってアフリカ探検に出かける。やがてのび太たちがたどりついたのは、犬から進化した種族の国だった。ペコは、大臣ダブランダーの策略によって国外に追放されていた犬の国の王子だったのだ。
〔解説〕すっかり定着しはじめた映画〝長編ドラえもん〟の第3作。ジャイアンをストーリーの中心にしたり、のび太たち5人の友情をテーマに盛りこむなど、テレビ版とはひと味ちがう映画ならではの作品である。スタジオ古留美の西牧秀夫、椛島義夫が、それぞれ監督、レイアウトを担当するというスタイルは、前作「宇宙開拓史」と、この「大魔境」の2本だけだが、2本とも長編らしい重厚な作りになっており、劇場用「ドラえもん」初期の傑作といえるだろう。

原作・脚本／藤子不二雄　連載／マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、てれびくん、コロコロコミックほか■プロデューサー／別紙壮一、菅野哲夫■制作担当／佐久間靖夫■文芸／水出弘一■監修／楠部大吉郎■監督／西牧秀夫■絵コンテ／西牧秀夫■レイアウト／椛島義夫■作画監督／富永貞義■原画／池ノ谷安夫、大塚正実、小林正義、窪田正史、木村友和、斉藤かおる、一川孝久、飯山嘉昌、山崎勝彦、野口大蔵、森下桂介、山崎　猛、大宅幸男、小野隆哉、おおたぬう、大武正枝、宮林英子、増谷三郎、遠藤裕一、宮尾　岳、星野真砂子、原　完治■美術監督／川本征平■美術補／沼井信朗■撮影監督／小池　彰、鈴木明子■編集／井上和夫、坂本雅紀■音楽／菊池俊輔■OP「ドラえもんのうた」作詞／楠部工　歌／大杉久美子　ED「だからみんなで」作詞／武田鉄矢　歌／岩渕まこと　以上、作曲／菊池俊輔　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■効果／柏原　満■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　ジャイアン（たてかべ和也）　スネ夫（肝付兼太）　しずか（野村道子）　パパ（加藤正之）　ママ（千々松幸子）　出木杉（白川澄子）　ペコ（清水マリ）　ブルスス（村瀬正彦）　チッポ（杉山佳寿子）　ダブランダー（滝口順平）　コス（永井一郎）　サベール（柴田秀勝）ほか

NO. 256 怪物くん デーモンの剣

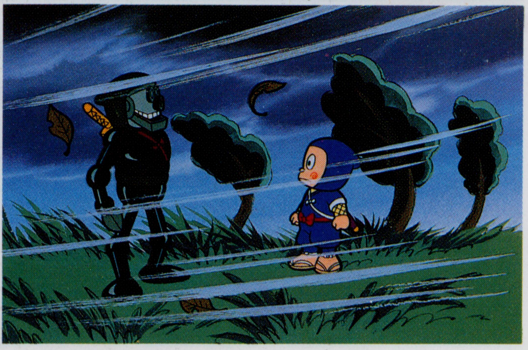


82年3月13日（土）東宝系封切　51分
併映作品／ドラえもん　のび太の大魔境、忍者ハットリくん　ニンニン忍法絵日記の巻

【あらすじ】怪物大王が突然倒れた。しらせを受けた怪物くん、水晶玉によって、それが悪魔大王デーモンの呪いであることを知る。悪魔ランドの神殿にある石像からデーモンの剣を抜かなければ怪物大王は死ぬのだ。怪物くんは父王を救うため、お供の三人を連れて悪魔ランドに侵入した。待ち受けていたのは悪魔大王の息子・プリンス・デモキンと悪魔軍団。お供の三人が軍人が軍団を食い止めている間に、怪物くんはついに神殿にとびこんだ。
【解説】「怪物くん」の劇場第2作。怪物ランドのライバル国である悪魔ランドを舞台に、さびしがり屋の王子プリンス・デモキンと怪物くんとの友情に主眼が置かれている。原作は「コロコロコミック」にかき下しで掲載された。福富博、本多敏行、芝山努というメインスタッフは前作と同様であり、藤子アニメにはうってつけのメンバーといえよう。第1作、第2作とも、福富演出の特徴であるダイナミックな回りこみが多用されている。

原作／藤子不二雄　連載／マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、てれびくん、コロコロコミック、小学一年生ほか■プロデューサー／別紙壮一、真田芳房、菅野哲夫■脚本／松岡清治■監督／福富　博■設定・レイアウト／芝山　努■絵コンテ／福富　博■演出助手／森脇真琴、安藤敏彦、塚田庄英■作画監督／本多敏行■原画／徳田悦郎、木上益治、田代和男、葛岡　博、木内良子、志村宣子、加藤鏡子、吉本桂子、後藤真砂子、石井文子、大塚典子、若山佳幸、若山佳治■美術監督／川井　憲■美術補／長房紳一■撮影監督／金子　仁、角原幸枝■編集／井上和夫、坂本雅紀■音楽／筒井広志■ED「ユカイツーカイ怪物くん」作詞／藤子不二雄　作曲／小林亜星　歌／野沢雅子　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■制作協力／藤子スタジオ■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　怪物くん（野沢雅子）　ドラキュラ（肝付兼太）　オオカミ男（神山卓三）　フランケン（兼本新吾）　ヒロシ（三輪勝恵）　大魔王デーモン（塩見龍介）　プリンスデモキン（山田栄子）　ゴーリキ公爵（小林　修）　ゴーリキ夫人（北浜晴子）　怪子ちゃん（増山江威子）　侍従長（槐　柳二）　悪魔ランド司令官（大木民夫）　悪魔塾学長（勝田　久）　道案内の怪物（津村　隆）　郵便屋コンドル（井上和彦）　ペット怪物（峰　あつ子）　怪物大王（金井大）ほか

NO. 257 忍者ハットリくん ニンニン忍法絵日記の巻



82年3月13日（土）東宝系封切　30分
併映作品／ドラえもん　のび太の大魔境、怪物くん　デーモンの剣

【あらすじ】シンゾウは、シノビノ博士の娘オヒメちゃんと友達になった。ところがオヒメちゃんのボディーガード・ロボ丸がおそいかかってきたのだ。ロボ丸の秘密を探るためにハットリくんたちは、シノビノ博士のシノビノ研究所に入りこみ、なかを調べるが、再び現れたロボ丸にシンゾウがつかまってしまった。シンゾウをとり返すためにハットリくんはロボ丸とついに対決することになる。伊賀流忍法対機械流忍法の決闘だ。
【解説】「忍者ハットリくん」の劇場第1作。この年の藤子アニメは初の3本立てで、「ハットリくん」は短編として製作されている。内容は、ケンイチが屋根裏でこっそりハットリくんの絵日記を読んでしまう場面からはじまる。その絵日記の中身が、上記のロボ丸との決闘を中心に4つのエピソードでつづられているというオムニバス形式である。なお82年は東宝創立50周年にあたり、この3本立ては、その記念作品のひとつである。

原作／藤子不二雄　連載／マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、コロコロコミック、てれびくん、小学一年生ほか■プロデューサー／加藤良雄、小泉美明、菅野哲夫■制作担当／大場伊紘■制作デスク／熊瀬哲郎、田村　学■脚本／桜井正明■総監督／笹川ひろし■監修／鈴木伸一■監督／棚橋一徳■絵コンテ／池野文雄、石黒　昇、遠藤政治、笹川ひろし、鈴木伸一■演出助手／青山　弘、木宮茂■レイアウト／遠藤政治■作画監督／桜井美知代■原画／大島秀範、神善吉雪、木場田　実、白梅進、高橋信也、都丸　保、野部駿夫■美術監修／半藤克美■美術監督／河野次郎■撮影監督／金子　仁、角原幸枝■編集／岡安　肇、小野寺桂子、小島俊彦、梅沢清志■音楽／菊池俊輔■OP「忍者ハットリくん」作詞／藤子不二雄　歌／堀　絢子　ED「ハットリ忍法ニニンのニン」作詞／緒方賢一　歌／緒方賢一、三田ゆう子　以上、作曲／菊池俊輔、レコード／日本コロムビア■録音監督／大熊　昭■フィルム制作協力／パンメディア■制作協力／旭通信社、藤子スタジオ■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ハットリくん（堀　絢子）　ケンー（菅谷政子）　シンゾウ（三田ゆう子）　シシ丸（緒方賢一）　ケムマキ（肝付兼太）　影千代（山田栄子）　ゆめ子（秋山るな）　パパ（藤本　譲）　ママ（梨羽雪子）　お姫（横沢啓子）　シノビノ博士（野本礼三）　ロボ丸（田中　崇）ほか

NO. 258 機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙編

MOBILE SUIT GUNDAM III

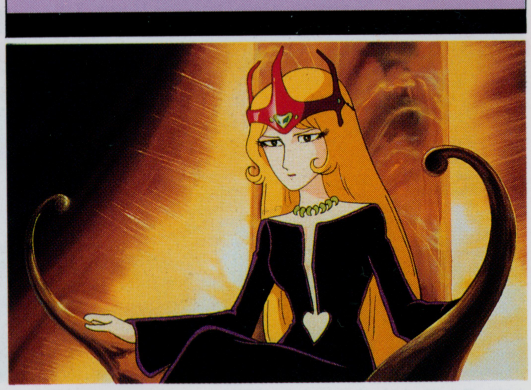


82年3月13日（土）松竹系封切　2時間20分

〔あらすじ〕ホワイトベースは陽動作戦のために、サイド6に寄港した。ニュータイプとして覚醒しつつあるアムロは、変り果てた父に出会い、戦場以外ではじめてシャアに出会う。そしてシャアに同行していた少女こそ、ジオン軍のニュータイプ・ララァだった。ソロモンを攻略した連邦軍は、次の攻撃目標として宇宙要塞ア・バオアクーを選んだ。戦場へ向かうホワイトベースをシャアとララァが襲う。戦闘のなかでアムロはララァと共鳴するが。
〔解説〕劇場「ガンダム」第3作。シリーズの32話から最終回である43話までをベースにし、ほとんどのカットを新作画で描きなおしている。前2作同様新作画部分は、安彦良和が全ての第1原画を描くシステムをとっており、全体に密度の高い美しい画面を作りあげている。劇場「ガンダム」3部作は、単なるダイジェスト版にとどまらず、テレビシリーズを物語にも画面的にも、より密度の高い形で再構成した作品として高く評価してよいだろう。

原作／矢立　肇、富野喜幸■製作／岸本吉功■企画／山浦栄二、伊藤昌典■プロデューサー／植田益朗、岩崎正美、渋江靖夫■脚本／星山博之、荒木芳久、山本　優、松崎健一■総監督／富野喜幸■フロアーディレクター／関田　修■演出協力／藤原良二、貞光紳也、又野　弘■キャラクターデザイン／安彦良和■メカニカルデザイン／大河原邦男■アニメーションディレクター／安彦良和■アニメーター／青鉢芳信、山崎和男、吉永尚之、板野一郎、前島和子、服部あゆみ、石垣真弓、吉橋　節、佐藤　元ほか■アートディレクター／中村光毅■フォトグラフィーディレクター／三沢勝治■編集／鶴渕友彰、片石文栄■音楽／渡辺岳夫、松山祐士■ED「めぐりあい」作詞／井荻　麟、売野雅勇　作曲、唄／井上大輔　編曲／鷺巣詩郎　レコード／キングレコード■オーディオディレクター／浦上靖夫■協力／講談社■製作協力／名古屋テレビ、創通エージェンシー■製作／（株）日本サンライズ■配給／松竹株式会社■声の出演　アムロ（古谷　徹）　ブライト（鈴置洋孝）　カイ（古川登志夫）　ハヤト（鈴木清信）　ミライ（白石冬美）　セイラ（井上　瑶）　フラウ（鵜飼るみ子）　カムラン（村山　明）　テム（清川元夢）　レビル（村松康雄）　シャア（池田秀一）　ララァ（潘　恵子）　デギン（柴田秀勝）　ギレン（田中崇）　キシリア（小山茉美）　ドズル（玄田哲章）　ナレーター（永井一郎）ほか

NO.
259 1000年女王

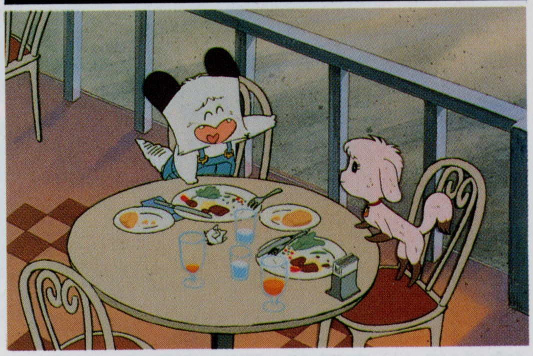


82年3月13日（土）東映株式会社配給　2時間1分

【あらすじ】雨森始の担任で、始の父が所長をつとめる天文台の職員でもある雪野弥生は、人知れず1000年間地球を支配してきた1000年女王であった。地球を愛する彼女は、故郷の惑星ラーメタルが地球を乗っとろうとしていることを知り、女王の交代を拒否して新女王との戦いを決意する。1000年周期で地球に接近するラーメタルは軌道をはずれ、地球に激突しようとしていた。迫りくる危機のなか、弥生の妹で1000年盗賊の首領・セレンも、ラーメタルとの戦いに散る……。
【解説】SF版「竹取物語」ともいうべき松本零士原作の長編アニメーション。1000年女王製作委員会は、東映とフジサンケイグループなどで構成。「南極物語」「子猫物語」などに続くフジサンケイグループのメディアミックス戦略の最初の作品。「ヤマト」「999」などにみられる、独特な〝松本ロマン〟は感じられず、盛りあがりもいまひとつ。音楽を喜多郎が担当、主題歌をニール・セダカの娘であるデラ・セダカが歌ったのも話題の一つ。

企画・原案・構成／松本零士■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／横山賢二■製作担当／佐伯雅久■製作進行主任／関口孝治■製作進行／伊藤文夫、松冨哲雄■脚本／藤川桂介■監督／明比正行■監督助手／池田裕之、大久保唯男■メカニックデザイン協力／板橋克己■作画監督／山口泰弘■作画監督補佐／青山　充■メカニック作画監督／金田伊功■原画／的場茂夫、羽根章悦、野田卓雄、金田伊功、長崎重信、鍋島　修、石黒　昇、清山滋崇、中島忠二、遠藤政治、高橋信也、落合正宗、青山　充、今川よしみ、正延宏三、木下ゆうき■美術監督／角田紘一、勝又　激■美術助手／千々波美恵子■撮影監督／細田民男■撮影監督補佐／清水政夫■編集／千蔵　豊、花井正明■編集助手／木村衣久子■音楽、演奏／喜多郎■ＥＤ「星空のエンジエルクイーン」作詞／MOKO　NANRI　作曲／喜多郎　編曲／David Foster＆喜多郎　うた／デラ・セダカ（キャニオン・レコード）■録音／池上信照■録音助手／川崎公敬■製作協力／東映動画株式会社■製作／1000年女王製作委員会■配給／東映株式会社■声の出演／弥生・1000年女王（潘　恵子）　雨森　始（戸田恵子）　雨森教授（永井一郎）　新女王（小山茉美）　セレン（麻上洋子）　雨森　元（野島昭生）　夜森大介（古谷　徹）　ミライ（杉山佳寿子）　永久管理人（増山江威子）　ドクター・ファラ（野沢那智）　ラーレラ（武藤礼子）ほか

NO.
260 おはよう！スパンク

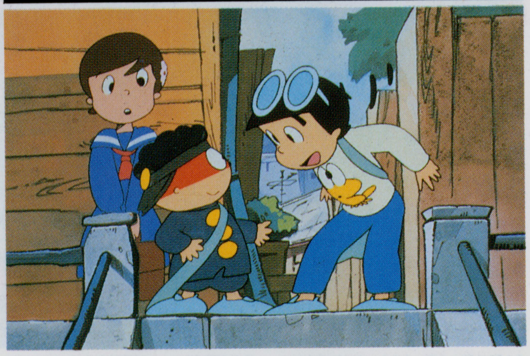


82年3月13日（土）東宝東和提供　東宝洋画系封切　1時間40分
併映作品／ど根性ガエル　ど根性・夢枕

【あらすじ】愛子の友人のドジ犬・スパンクは、可愛いメス犬のアンナに一目ぼれ。そして、アンナの飼い主である島田翔が愛子のクラスに転入してきた。つまらない口ゲンカやアンナの病気などを経て、２人はしだいに心を通わせていった。そんなとき、翔がバイオリンの勉強のため渡米することになった。彼はそのことを愛子にいえず悩む。彼の母にそのことを聞かされた愛子は、残された時間の間に思い出をつくりたいというのだった。
【解説】テレビアニメ「おはよう！スパンク」の劇場用新作。テレビシリーズは、スパンクたちを中心にしたコメディー的傾向が強い作品であるが、この映画版は愛子と翔の淡い恋を、きわめて少女マンガ的な感性で描いた佳作として仕あげられている。一部のファンの間では高く評価されたが、公開期間があまりにも短く、テレビ放映される機会もなく、今の所、半ば〝幻の作品〟となっている。全編に流れるクラシック曲が印象的。

原作／雪室俊一、たかなししずえ　（なかよし・連載）講談社刊■製作／藤岡　豊、稲田伸生■脚本／金子　裕■監督／吉田しげつぐ■作画／香西隆男■音楽／馬飼野康二■主題歌「哀しみよこんにちは」作詩／荒木とよひさ　作・編曲／馬飼野康二　うた／井上　望　（サントラ盤／ビクター・レコード）■製作／（株）東京ムービー新社■声の出演　愛子（岡本茉利）　スパンク（つかせのりこ）　藤波（富山　敬）　亮（井上和彦）　せりの（松島みのり）　トラ吉（松金よね子）　翔（堤　大二郎）　※本リストは、映画公開時のパンフレットをもとに作成した。

NO.
261 新ど根性ガエル ど根性・夢枕

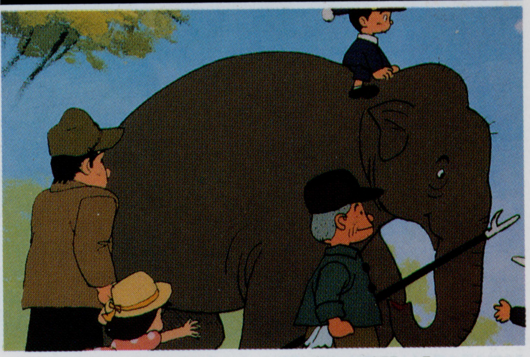


82年3月13日（土）東宝東和提供　東宝洋画系封切　40分
併映作品／おはよう！スパンク

〔あらすじ〕よしこ先生の英語の授業中いねむりしていたひろしは、お城の京子姫と丁稚ひろどんの甘いムードの夢を見た、目覚めてもいい気分の抜けないひろしは、ついつい調子にのり京子ちゃんと大げんか。そしてピョン吉までが、ひろしのいいかげんさに怒り、離れていってしまう。そしてスネーク団と名乗り、柄にもない善行をふりまいていたゴリライモとモグラが京子ちゃんに接近。子分の五郎の知らせを聞き、ひろしは急いで駆けつけるが……。
〔解説〕テレビシリーズ「新ど根性ガエルの１話、６話、10話、11話、17話、19話、22話、27話、34話、35話を順不動に再構成。音もまったく新しく入れなおして作られた異色の劇場版。ストーリーのベースは、おおむね１、11、19話に基づくが、合い間に挿入されるひろしの夢や、町田先生のジョギングのシーンを35話、34話などから移植。つなぎのセリフを変えることで、ひとつの物語に見せるという巧妙な手法である。だが、テレビシリーズでは毎度おなじみだった、ひろしの起床シーンは省かれている。

原作／吉沢やすみ（ジャンプ・コミック・集英社刊）■企画／吉川　斌■プロデューサー／高橋靖二、加藤俊三■制作担当／青野史郎■文芸担当／飯岡順一■脚本／川島あきら■監督／芝山　努■作画監督／小林　治■美術監督／水谷利春■撮影監督／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■音楽／小六禮次郎■ＯＰ「ピョン吉・ロックンロール」詩曲／横浜銀蝿ＥＤ「夢行きチケット」詩／大津あきら　曲／加藤邦彦　以上、うた／とんねるず　バップレコード■録音監督／加藤　敏■音響効果／糸川幸良（吉田音響）■制作協力／亜細亜堂■製作／株式会社東京ムービー新社■声の出演　ひろし（野沢雅子）　ピョン吉（千々松幸子）　五郎（堀　絢子）　京子（黒須　薫）　梅三郎（原田一夫）　よしこ先生（戸田恵子）　南先生（田中秀幸）　かあちゃん（斉藤　昌）　町田先生（永井一郎）　ゴリライモ（青空球児）　モグラ（青空好児）　校長先生（上田敏也）　※本リストは、東京ムービー新社の社内資料をもとに作成した。

NO.
262 象のいない動物園

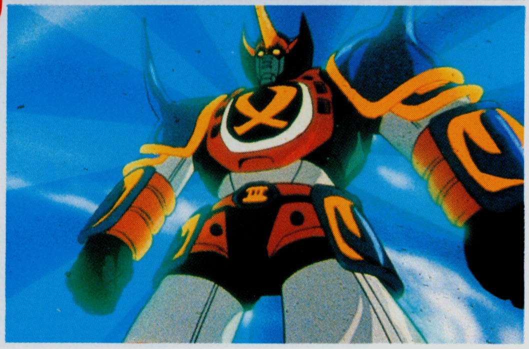


82年3月20日（土）封切　ヘラルド・エンタープライズ配給　1時間19分

【あらすじ】終戦直後——戦災孤児の兄妹で12歳のヒデと６歳のミヨ子は、ガード下で生活していた。ある日発熱したミヨ子を励ますために、ヒデは２人で動物園へ象を見に行く約束をする。だが動物園には象はいなかった。落胆する２人に、動物園の初老のおじちゃんは、戦時中、空襲でオリを破られた象が街へ逃げださないように、軍の命令でみんな殺してしまったという話を語ってきかせる……。
【解説】戦争中のエピソードをはじめとして、戦後にインドのネール首相から贈られた象がインディラと名づけられたというような実話によって構成されており、反戦や平和への願いといったメッセージが盛りこまれた、きわめて真面目な作りとなっている。上野動物園の協力もあって、リアリティあふれるものとなった。

製作／古川博三、田代敦巳■企画／篠崎　順、伊藤正昭■プロデューサー／宇田川東樹■制作担当／藤田　健、池田修也■制作進行／関　昭、小泉淑子■脚本／斉藤　憐■監督／前田庸生■レイアウト／青木　稔■原画／細谷秋夫、江口俊介、湯川高光、阿部信子、八木　大、三善和彦、土橋　博、小林準治■動画／石黒　篤、木口　準、野村誠司、関口真弓、柏木郷子、大空由美、金海由美子、虫プクダクション、じゃんぐるじむ■美術／田中静恵■背景／小出英男、横瀬直土、小林光代、秋保富恵、渡辺由美■色彩設定／馬場晴子■撮影／V．A．C、森山一、河合　汪、斉藤　豊、市来智一、虫プロダクション　諫川　弘■編集／古川雅士■音楽／クニ河内■ＯＰ「風のハーモニカ」唄／クニ河内　ＥＤ「あしたの象さん」唄／クニ河内、石黒孝子　以上、作詞／荒木とよひさ　作曲／クニ河内　オリジナルサントラ盤／ビクターレコード■音響監督／明田川進■音響効果／柏原　満■制作協力／ビクター音楽産業、蝸牛社、テアトル・エコー■資料提供／（財）東京動物園協会■製作協力／シネマワーク、東急クリエーション■上野動物園開園１００周年記念作品■製作／ヘラルド・エンタープライズ、グループ・タック■声の出演　（常田富士男）（野沢雅子）（梶哲也）（槐　柳二）（二見忠男）（安原義人）（作間　功）（峰　恵研）（松金よね子）（山下敬介）（丸山裕子）（安西正弘）（村越伊知郎）

NO.
263 戦国魔神ゴーショーグン



82年4月24日（土）東映株式会社配給　１時間５分
併映作品／浮浪雲

［あらすじ］『グッドサンダー危機一髪』南米の小国フェルコーナの大統領・サントスから、真吾、レミー、キリーたちが乗りこんでいる要塞グッドサンダーを招待したいと連絡が入った。サントスは、グッドサンダーと悪の組織ドクーガを倒して、世界の征服を考えていたのだ。『宇宙中継これがドクーガだ』――北極にいたグッドサンダーのそばにセスナが不時着した。それに乗っていたのは、グッドサンダーを世界に知らせようとする女性・イザベルであった。
［解説］固定層ファンを生みだした同名の人気テレビシリーズの劇場映画化。内容は、17話、20話の２本をつなぎ合わせた再編集版。ただし、主役３人が紹介される冒頭のシーンや、子供時代の各キャラが総登場するＥＤが新たに作画されたほか、両エピソード間にも「ケルナグールのフライドチキン」「カットナルの精神安定剤」「ジッターの35体合体メカ」「総合商社ドクーガ・グループ」の４編からなる、お遊びに満ちた新作の〝ドクーガＣＭ〟が挿入されている。

原作・脚本／首藤剛志■製作／佐藤俊彦■プランニングプロデューサー／小野寺修一■プロデューサー／山家靖郎、加藤　博、梅原　勝■監督／湯山邦彦■演出／西村純二、大庭寿太郎■絵コンテ／湯山邦彦、西村純二■キャラクターデザイン／本橋秀之、平山　智■メカニカルデザイン／亀垣　一■作画監督／田中　保、上條　修、松岡秀明■原画／いのまたむつみ、影山楙倫、青鉢芳信、柳田　勤、落合正宗ほか■美術監督／勝又　激■撮影監督／福田岳志■編集／辺見俊夫、山崎昌三■音楽／あかのたちお■ＥＤ「涙の法則」作詞／荒木とよひさ　作編曲／あかのたちお　歌／はねおか仁　（ビクターレコード）■音響監督／松浦典良■製作／葦プロダクション■配給／東映株式会社■Cast　真田ケン太（松岡洋子）　ゼニガスキー・ジッター（寺島幹夫）　ＯＶＡ（間嶋里美）　スグーニ・カットナル（木原正二郎）　キリー・ギャグレー（田中秀幸）　ヤッター・ラ・ケルナグール（長堀芳夫）　北条真吾（鈴置洋孝）　レオナルド・メディチ・ブンドル（塩沢兼人）　レミー島田（小山茉美）　サバラス（小林修）　ネオネロス（藤本　譲）　サントス（堀　勝之祐）　フランシス（池田秀一）　イサベル（松尾佳子）　クロンカイト（佐藤正治）　ＣＭナレーター（玄田哲章）　ナレーター（窪田　等）ほか　※タイトルクレジットは英字で表示されるが、本リストはすべて日本語に翻訳して掲載した。

NO.
264 浮浪雲

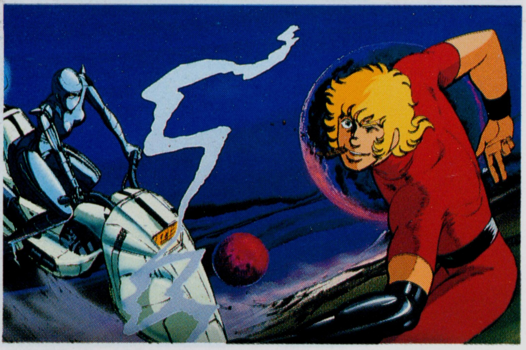


82年4月24日（土）東映株式会社配給　１時間31分
併映作品／戦国魔神ゴーショーグン

〔あらすじ〕女房のお亀や番頭に店をまかせ、毎日を雲のように気ままに生きる雲さんこと〝浮浪雲〟は、品川宿問屋の人足頭。ある日彼は、新撰組の一文字兵庫らに襲われた坂本竜馬をすくう。浮浪雲のまじめ息子・新之介は、竜馬の語る日本の行く末についての話に感銘を受けた。一方兵庫は夜鷹をおとりに浮浪雲をおびき出し抹殺をはかるが、浮浪雲ののびのびした生き方に心をうたれ、新撰組を離れる。しかし秋、京都での竜馬暗殺の知らせがもたらされた。
〔解説〕今なお連載が続くジョージ秋山の原作。好評だった渡哲也主演のテレビシリーズに続き、東映がマッドハウスに委託してアニメ化した。監督の真崎守以下、スタッフの多くは「夏への扉」から移行。浮世絵の手法・構図を取り入れた美術やレイアウトが新鮮な印象を与える。また、かつて「佐武と市」を手がけた村野守美による竜馬暗殺シーンは、赤を基調とした画面、粗い描線のもつ迫力、電子音合成の声の異様さで、壮絶なイメージを作りだした。

原作／ジョージ秋山　小学館・刊「ビッグコミックス」■製作／今田智憲■企画／有賀　健、田宮　武■製作担当／武田　寛、おおだ靖夫■製作主任／岩瀬安輝■設定／丸山正雄■脚本／大和屋　竺■監督／真崎　守■絵コンテ／真崎　守、川尻善昭■画面構成／川尻善昭■竜馬暗殺イメージシーン／村野守美■作画監督／冨沢和雄■原画／遠藤裕一、青嶋克己、桜井美知代、鈴木幸雄、中村　誠、成海厚子■動画チェッカー／青山純子■動画／梅津美幸、大久保美杉、湯浅伸子、富田　邦、藤本千珠、菅　登祥、加藤涼子、小林純一、Ｋプロダクション、スタジオドゥビー、スタジオナサ、オープロダクション、玉沢動画舎、スタジオコクピット、草間アートほか■美術監督／石川山子■背景／青木勝志、安藤ひろみ、襟立智子、工藤みゆき、野谷顕次、広浜和加子、福井のり子、増田智恵子、山川　晃、山本二三■色指定／西牧志づ子■撮影監督／石川欽一■編集／千蔵　豊■音楽／横山菁児■ＯＰ「いとしのファニー」ＥＤ「夢色ララバイ」以上、作詞／竜　真知子　作曲／越部信義　唄／吉田日出子　コロムビアレコード■録音／市川　修■製作協力／マッドハウス■製作／東映動画■声の出演　浮浪雲（山城新伍）　お亀（熊谷真実）　新之助（加瀬悦孝）　お花（白石冬美）　渋沢先生（八奈見乗児）　欲次郎（雨森雅司）　坂本竜馬（井上真樹夫）　一文字兵庫（古谷徹）ほか　協力／青二プロ

NO.
265 SPACE・ADVENTURE コブラ

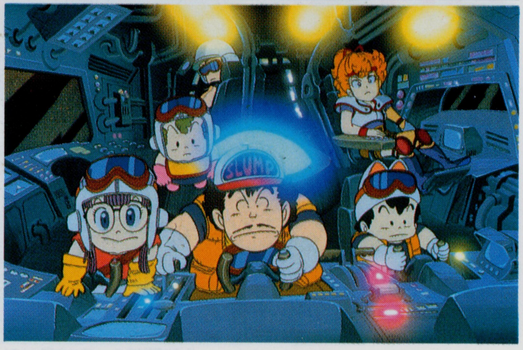


82年7月3日（土）東宝東和提供　東宝洋画系封切　１時間39分

〔あらすじ〕左腕にサイコガンを持つ宇宙海賊・コブラが出会った賞金稼ぎの美女ジェーンは、実はミロス星の王女のひとりであった。人工天体ミロス星に伝わる謎を解く鍵として、海賊ギルドの幹部・クリスタルボーイに狙われるジェーン、キャサリン、ドミニクの３姉妹。実はミロスを使って第７銀河を消滅させようと企んでいたのだ。アーマロイド・レディを相棒に、コブラは激闘の末クリスタルボーイを倒すが、銀河消滅の装置はすでに作動しはじめていた。
〔解説〕原作は寺沢武一の人気漫画で、寺沢は脚本にも参加。監督・出崎統にとっては初のＳＦ作品である。メインスタッフは杉野昭夫、小林七郎、高橋宏固ら出崎作品の不動メンバー。途中でリテイクがあったため、公開が予定より大幅に遅れた。作画的には、従来出崎作品によく見られた止め絵的表現がいっさいなく、枚数を多く使い、動きで見せている点が印象的。「家なき子」の方式を発展させた３－Ｄ立体方式も話題になった。

原作／寺沢武一　週刊少年ジャンプ連載　集英社刊■製作／藤岡　豊、片山哲生■プロデューサー／池内辰夫■製作担当／池田陽一■製作デスク／網野哲郎■脚本／寺沢武一、山崎晴哉■監督／出崎　統■助監督／竹内啓雄■演出助手／大賀俊二■作画監督／杉野昭夫■作画／あんなぷる、大橋　学、大塚伸治、塚田信子、福島敦子、森本晃司、大森英敏　アクト、大坂竹志　テレコムアニメーション・フィルム、浦谷千恵、小山田桂子、二木真希子　マジックバス、清水恵蔵、小和田良博　スタジオルック、なかじまちゅうじ　荒木プロダクション、荒木伸吾、姫野美智　サンリオ、湯浅伸子　ドゥビー　コックピット　虫プロダクション　カナメプロダクション　中村プロダクションほか■美術監督／小林七郎■美術監督補佐／男鹿和雄■背景／水谷利春、小倉宏昌ほか■色指定／鈴木弥生■撮影／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■音楽プロデュース／明田川　進（マジックカプセル）■音楽／東海林　修■ＯＰ「ディドリーム・ロマンス」歌／松崎しげる　ＥＤ「ステイ」歌／ＥＶＥ　以上、作詞／ちあき哲也　作曲／鈴木キサブロー　ビクターレコード■録音／加藤　敏■製作／東京ムービー新社■声の出演　コブラ（松崎しげる）　ジェーン（中村晃子）　キャサリン（藤田淑子）　レディー（榊原良子）　トポロ（久米　明）　クリスタルボーイ（睦　五郎）　サンドラ（田島令子）　ドミニク（風吹ジュン）ほか

NO.
266 Dr.SLUMP

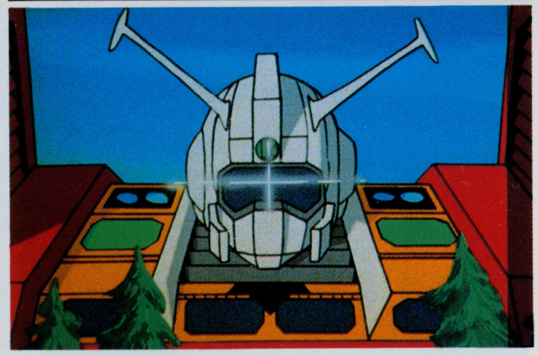


82年7月10日（土）東映系封切　１時間30分
併映作品／ボーイズ＆ガールズ

〔あらすじ〕山吹みどりは、少女時代に親代わりに育ててもらったタケヤサオダケ星の王妃タケヤの危篤の知らせを受け、迎えにきた巨大ＵＦＯでタケヤサオダケ星へ向かった。センベエは、彼女を連れ戻すため宇宙船スランプ号を建造する。スランプ号はセンベエの愛とアラレやタロウたちの夏休みの冒険をのせ宇宙へ旅立っていった。だが、彼らの前にはみどりを妻にせんとする宇宙一の科学者・Dr.マシリトと、その部下の宇宙の３悪人が待ち構えていたのだ。
〔解説〕アラレブームのなかで作られた長編作品。原作「地球最大のバイチャ！の巻」をベースにして「ヤマト」や「スターウォーズ」さらに「コナン」や「９９９」のパロディをまじえたスペースオペラ（スランプ号のシルエットはヤマトにそっくり）。シリアスタッチとギャグの使い分けが見事。演出、作画、美術ともに力のこもった痛快娯楽大作であるが、実写映画と同時上映だったためか、あまりファンの間で話題になることがなかった。

原作／鳥山　明　〔週刊少年ジャンプ連載「Ｄｒ．スランプ」より〕■製作総指揮／今田智憲■企画／有賀　健、七條敬三■製作担当／岸本松司■脚本／雪室俊一、金春智子、井上敏樹、島田　満■監督／永丘昭典■助監督／矢部秋則、西尾大介■協力／りんたろう■キャラクターデザイン、作画監督／前田実■原画／進藤満尾、平野俊弘、端名貴勇、山本福雄、堀川留子、飯山嘉昌、森　一浩、松原京子、北原健雄、梅津美幸、渡辺　浩、内山まさゆき、平山智、斉木美恵子、西山里枝、荒牧園美、青木雅之、新井　豊、須田正己、青木雅己、前田みのる■美術監督／浦田又治■美術補佐／山口俊和■背景／陶山尚治、丸森俊昭、沢田隆夫、菅原聖二、横山幸博、小笠原ゑつこ、日野典子、粟飯原晴美、小林祐子■撮影監督／白井久男、佐野禎史■編集／花井正明■音楽／菊池俊輔■挿入歌「LOVE CHASER（ラブチェイサー）」作詩／島田　満　作曲／菊池俊輔　編曲／いちひさし　歌／山田康雄　「アラレちゃん音頭」作詩／満都　南　作曲／菊池俊輔　編曲／たかしまあきひこ　歌／小山茉美、コロムビアゆりかご会　コロムビアレコード■録音／二宮健治■声の出演　則巻アラレ（小山茉美）　則巻センベエ（内海賢二）　木緑あかね（杉山佳寿子）　空豆タロウ（古川登志夫）　空豆ピースケ（神保なおみ）　山吹先生（向井真理子）　Ｄｒ．マシリト（山田康雄）ほか

NO.
267 伝説巨神イデオン 接触篇
SPACE RUNAWAY IDEON

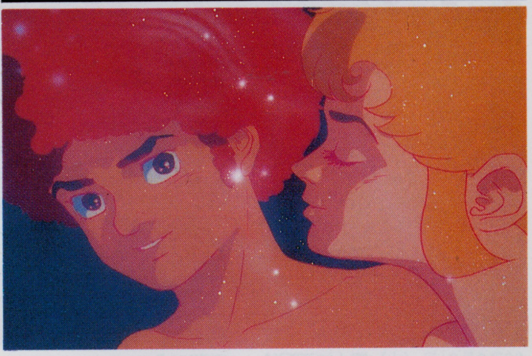


82年7月10日（土）松竹系封切
併映作品／伝説巨神イデオン　発動篇

〔あらすじ〕伝説のエネルギー〝イデ〟を求めて、地球の移民星であるソロ星へ来襲した異星人バッフ・クラン。両者は相互不信から戦闘となり、ベスやシェリル、コスモたち移民と、好奇心から彼らと行動を共にすることになったバッフ・クランの娘カララは、埋もれていた第6文明人の遺跡であるロボットのイデオンと、宇宙船のソロシップで命からがらの脱出をとげる。寄せ集めの彼らの間に広がる疑惑…。だが、イデは子供の防衛本能に刺激され、目覚めつつあった。
〔解説〕アニメ映画としては前代未聞の「発動編」とのダブル・リリースを行った作品。前編にあたるこちらは、テレビシリーズの1話から32話までのダイジェストとして構成されている。しかし、やむを得ないとはいえ、新作画カットをほとんど加えずに32話分もの物語を80分強という時間に短縮するのは、やはり非常な困難であったようで、ストーリーとドラマの双方ともが、異和感のぬぐいきれないものとなってしまっている。

原作／矢立　肇、富野喜幸■製作／岸本吉功■企画／山浦栄二、伊藤昌典■プロデューサー／長谷川徹■脚本／山浦弘靖、富田祐弘、渡辺由自、松崎健一■総監督／富野喜幸■監督／滝沢敏文■演出コンテ／三浦将則、石崎すすむ、関田　修、貞光紳也、谷田部勝義、吉田　浩、藤原良二、菊地一仁、康村正一■キャラクターデザイン／湖川友謙■メカニカルデザイン／樋口雄一、サブマリン■アニメーションディレクター／湖川友謙■作画監督／湖川友謙、坂本三郎、谷口守泰、二宮常雄■アニメーター／坂本英明、遠藤栄一、矢木正之、恩田尚之、詫　祐二、湯本慶久、北爪宏幸、辻　清光、芥川義明、窪岡俊之ほか■アートディレクター／中村光毅■撮影／ティニシムラ■編集／鶴渕友彰■音楽　作編曲／すぎやまこういち　編曲／あかのたちお、小六禮次郎■ED「セーリングフライ」作詞／井荻　麟　作編曲／すぎやまこういち　唄／水原明子 レコード／キングレコード■オーディオディレクター／浦上靖夫■協力／講談社■制作協力／テレビ東京、東急エージェンシー■製作／株式会社日本サンライズ■キャスト　コスモ（塩屋　翼）　ベス（田中秀幸）　カーシャ（白石冬美）　シェリル（井上　瑶）　デク（松田たつや）　モエラ（佐々木秀樹）　ロッタ（山田栄子）　カララ（戸田恵子）　ギジェ（林　一夫）　ハルル（麻上洋子）　イデ（柴田秀勝）　ナレーター（田中信夫）ほか

NO.
268 伝説巨神イデオン 発動篇

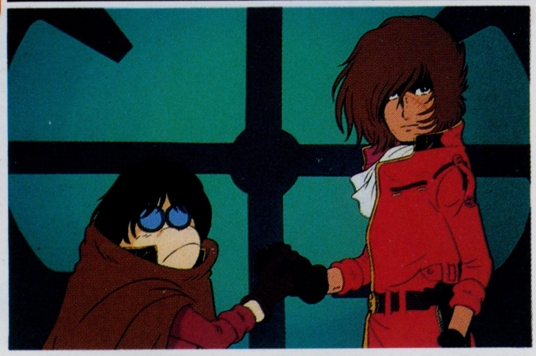


82年7月10日（土）松竹系封切
併映作品／伝説巨神イデオン　接触篇

〔あらすじ〕異星人との接触を嫌う地球から受け入れを拒否されたソロシップは、再び宇宙をさまよう。しかし、イデが自分たちを滅ぼそうとしていることに気づいたバッフ・クランは、そんな彼らに総力戦をかけてくるのだった。自我を目覚めさせたイデは、人間を見限り、あくまでも両者を戦わせようとする。苛烈な戦闘のなかで次々と死んでいく人々…。だがイデは、そんな肉体の束縛を離れた魂を、因果地平に導いていく。イデの真の目的とは何か……!?
〔解説〕絵コンテまで完成しながら、テレビシリーズでは放映されなかったラスト4話分を主に描いた作品。番組終了後1年を経ての映画化は、ファンの熱烈な支持のたまものである。それに応えるかのように、人間の業の深さと、その生きざまの激しさを、超越的存在〝イデ〟を通し、宗教的な雰囲気で包みこんで描いた演出は、脂の乗りきった湖川友謙の描くキャラクターと見事に融合し、数ある富野作品のなかでも頂点に位置するものといえる。

原作／矢立　肇、富野喜幸■製作／岸本吉功■企画／山浦栄二、伊藤昌典■プロデューサー／長谷川徹■脚本／山浦弘靖、富田祐弘、渡辺由自、松崎健一■総監督／富野喜幸■監督／滝沢敏文■演出協力／三浦将則、石崎すすむ、関田　修、谷田部勝義■キャラクターデザイン／湖川友謙■メカニカルデザイン／樋口雄一■アニメーションディレクター／湖川友謙■アニメーター／坂本英明、遠藤栄一、矢木正之、恩田尚之、詫　祐二、湯本慶久、芥川義明、辻　清光、北爪宏幸、窪岡俊之、稲野義信、田代恵子、平野俊弘、板野一郎、千葉順三、大森英敏ほか■美術監督／中村光毅■撮影監督／岡芹利明■編集／鶴渕友彰■音響監督／浦上靖夫■音楽　作編曲／すぎやまこういち　編曲／あかのたちお、小六禮次郎■イメージソング「海に陽に」作詞／井荻　麟　作編曲／すぎやまこういち　唄／水原明子　レコード／キングレコード■協力／講談社■制作協力／テレビ東京、東急エージェンシー■製作／株式会社日本サンライズ■キャスト　コスモ（塩屋　翼）　ベス（田中秀幸）　カーシャ（白石冬美）　シェリル（井上　瑶）　デク（松田たつや）　カララ（戸田恵子）　ロッタ（山田栄子）　リン（横沢啓子）　ラポー（つるたきみこ）　アーシュラ（松原桂子）　ファード（高木早苗）　ドバ（石森達幸）　ハルル（麻上洋子）　ギンドロ（加藤精三）　ナレーター（田中信夫）ほか

NO.
269 わが青春のアルカディア
VENGENCE OF THE SPACE PIRATES

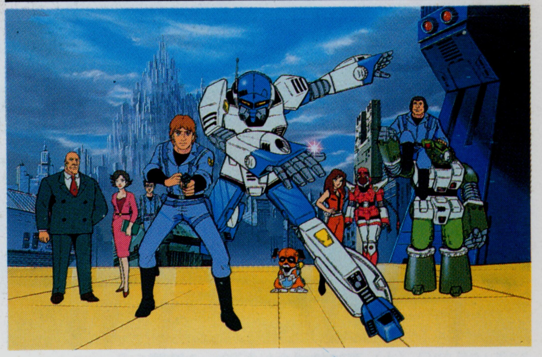


82年7月28日（水）東映株式会社配給　2時間10分

〔あらすじ〕かつて戦艦デスシャドウ号の艦長として、地球を占領するイルミダスと戦ったハーロックは、トチローと名乗る男に会う。それは第2次大戦中のはるかな昔、互いの先祖が結んだ堅い友情によって導かれた、運命的な出会いであった。トカーガの戦士ゾルや女海賊エメラルダスと血盟を結んだハーロックは、地下放送を続ける恋人マーヤに見守られ、トチローの造った新造戦艦アルカディア号に乗りこむ。そしてイルミダスへの反撃が開始された……。
〔解説〕それぞれ異なる時代を生きた3人のハーロックと、大山トチロー（敏郎）との友情を綴った物語。監督はそれまでハーロックを描いてきたりん・たろうに代わり、劇場版「ヤマト」シリーズを手がけてきた勝間田具治を起用。プロローグのナレーションを故・石原裕次郎がつとめ、5分あまりのシーンで1000万円の出演料と、大いに話題になったが、配収面では、これまでロードショー公開された松本零士作品最低の6億5000万円となってしまった。

企画・原作・構成／松本零士■製作総指揮／今田智憲■企画／有賀　健、高見義雄■企画協力／岡　道明、松島　忠■製作担当／関　良宏■脚本／尾中洋一■監督／勝間田具治■監督助手／吉沢孝男、江幡宏之■メカニックキャラクター担当／角田紘一■メカニックデザイン／板橋克己■アルカディア号デザイン協力／スタジオ・ぬえ■作画監督／小松原一男■作画監督補佐／青山　充■原画／森　利夫、柳瀬譲二、後藤紀子、野田卓雄、高橋信也、金田伊功、福田　忠、横山健次、八島善孝、長崎重信ほか■美術監督／伊藤岩光■美術補佐／海老沢一男■背景チーフ／池田祐二■撮影監督／町田賢樹■編集／千蔵豊■音楽／木森敏之　指揮／熊谷　弘　演奏／新日本フィルハーモニー交響楽団　（サウンドトラック盤・コロムビアレコード）■ED「わが青春のアルカディア」作詞／山川啓介　作曲／平尾昌晃　編曲／矢野立美　歌／渋谷哲平　（コロムビアレコード）■録音／今関種吉■製作協力／東映動画株式会社■協力／株式会社東急レクリエーション■製作／株式会社東急エージェンシー、東映株式会社■配給／東映株式会社■特別出演　ファントム・F・ハーロックⅠ（石原裕次郎）■声の出演　ファントム・F・ハーロックⅡ、キャプテン・ハーロック（井上真樹夫）　大山敏郎、トチロー（富山　敬）　マーヤ（武藤礼子）　クイーン・エメラルダス（田島令子）　ゾル（池田秀一）　ゼーダ（石田太郎）ほか

NO.
270 テクノポリス21C
TECHNOPOLICE

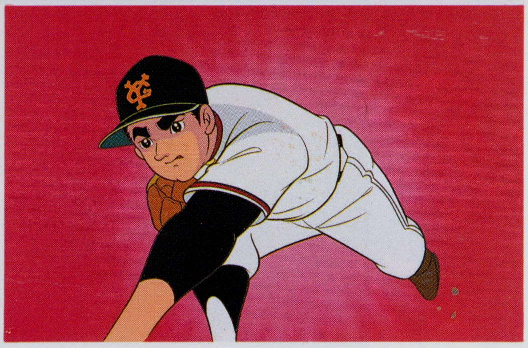


82年8月7日（土）東宝洋画系封切（早朝上映）　1時間19分

【あらすじ】西暦2001年の科学都市センチネル・シティ。そこで続発する凶悪犯罪に対処するために組織されたのが特捜マシーン隊・テクノポリスである。メンバーは本部長の鳴海吾郎以下、壬生京介、香坂かおる、風吹エレナの面々。壬生たちはそれぞれ犯罪捜査用テクロイドのブレーダー、ビゴラス、スキャニーをパートナーとすることになった。着任早々、軍の新型戦車テムジンが某国に強奪され、市内を暴走するという事件が突発するが……。
【解説】完成後、公開がなかなか決まらず、結果的には異例の早朝上映という形で公開されたタツノコ製作のSFアニメ。近未来を舞台にしたハードメカアクション物で、そのコンセプトは、のちのオリジナルビデオアニメなどのパターンの先駆けといえるだろう。物語とメカデザインは秀逸で、特に宮武一貴がデザインした女性型テクノイドのスキャニーはメカファンに人気が高い。監督は、これがアニメ初体験の松本正志。作画など画面の仕あがりは、お粗末。

原案／鈴木敏充■制作／永井昌嗣■制作補／横尾潔■企画／坂野義光■企画協力／石黒　昇、長谷川康雄■プロデューサー／森岡道夫■制作担当者／武田　勲■脚本監修／佐々木　守■脚本／松崎健一、星山博之、山本　優、松本正志■総監督／松本正志■演出／大貫信夫■演出補／池上和彦■アタション構成協力／河森正治■キャラクターデザイン／天野嘉孝（竜の子プロダクション）■メカニカルデザイン／宮武一貴■作画監督／平山則雄、大川こうぎ■原画／堀口元気、土肥一宏、平山則雄、大川弘義、福山政敏、北条昌子、多賀かずひろ■美術設定／中村光毅■美術監督／勝又　激■背景／市原勝義、梶谷雅夫、佐々木真夫、金子英俊、日渡ひろみ、飯島久美子、石原あき子、小板橋かよ子、上村京子、黒部洋子、野々宮恒人■撮影監督／新井隆文■編集／井上秀明、東島左枝、大朝和代、小林真二音楽／久石　譲■ＯＰ「いつか黒船」作詞／ちあき哲也　作曲／津田義彦　編曲／久石　譲　歌／藤原　誠　主題曲／ビクターレコード■録音監督／鳥海俊材■製作協力／ドラゴンプロダクション、スタジオぬえ■製作／東宝株式会社、東宝映像株式会社■キャスト　壬生京介（安原義人）　香坂かおる（池田　勝）　風吹エレナ（滝沢久美子）　鳴海吾郎（内海賢二）　マサオネラ警部（幸田直子）　高木　望（稲垣　悟）　スクラッチ（滝口順平）　ブレーダー（大林隆介）　クライム（大木民夫）ほか

NO.
271 巨人の星



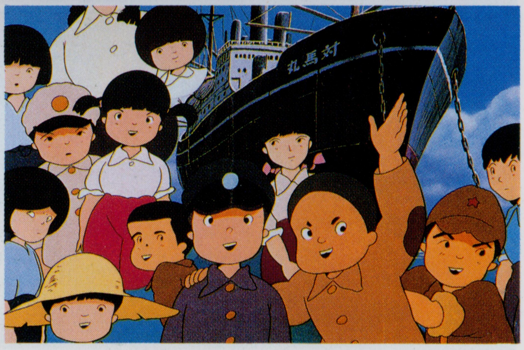
82年8月21日（土）富士映画配給　1時間50分

【あらすじ】新生ヤングジャイアンツが日本一の座に輝いた。その原動力となった大物ルーキーが原辰徳。彼と彼を育てた父・貢の父子鷹のルーツがここに……。星飛雄馬は、父・一徹のもとで厳しい訓練を受けながら育った。高校では、生涯の親友となる伴宙太とバッテリーを組み、甲子園で天才・花形満などのライバルと死闘を繰り広げる。そして、巨人軍に入団してからも、飛雄馬の苦しい闘いは続く。栄光の巨人の星をその手につかむまで……。

【解説】1968年から放映された、テレビアニメのスポ根ものの名作「巨人の星」の劇場用総集編。飛雄馬が大リーグボール1号で花形を打ちとるまでが描かれている。冒頭とエンディングの一部、現在の巨人軍の選手が登場する部分のみ新作で、マジックバスが担当。選手の個性の出たリアルなものに仕あげている。渡辺岳夫の手によって、主題歌やBGMが現代的なものに変えられ、アフレコも新たにしなおされた。

原作／梶原一騎、川崎のぼる　（講談社刊）■総指揮／梶原一騎■製作／川野泰彦■プロデューサー／島田十九八■構成／山崎晴哉■脚本協力／松岡清治、辻　真先、山崎忠昭、斉藤次郎、佐々木　守、松本力、吉田喜昭、佐脇　徹■監督／長浜忠夫、出崎　哲■作画監督（新作部分）／清水恵蔵■原画（新作部分）／四分一節子、小林ゆかり、中島裕子、小和田良博■動画（新作部分）／吉沢政江、伊藤ひろ子、小椋真由美、原田雅祥、北川美樹、宮田輝子、新屋真智子、上原篤世■背景（新作部分）／青木勝志■色指定、仕上検査（新作部分）／平山礼子■撮影（新作部分）／吉坂研一■編集（ＯＰに表示）／白江隆夫■編集（ＥＤに表示）／尾形治敏■音楽監督／渡辺岳夫■ＯＰ「行け行け飛雄馬」作詞／東京ムービー企画部　ＥＤ「マイ・チャンプ」作詞／阿久　悠　以上、作曲／渡辺岳夫　唄／おぼたけし、森みどり（オレンジハウス・レコード）■録音／瀬川徹夫■効果／帆苅幸雄■録音スタジオ／アオイスタジオ■協力／讀賣巨人軍■協力／マジックバス■製作協力／株式会社東京ムービー新社■三協映画株式会社製作■富士映画株式会社配給■声の出演／星　飛雄馬（古谷　徹）　星　一徹（加藤精三）　星　明子（白石冬美）　花形　満（井上真樹夫）　伴　宙太（八奈見乗児）　左門豊作（兼本新吾）　伴　大造（塩見龍介）　ナレーター（小林恭治）ほか　協力／スポットライト企画、青二プロダクション

NO.
272 対馬丸—さようなら沖縄—



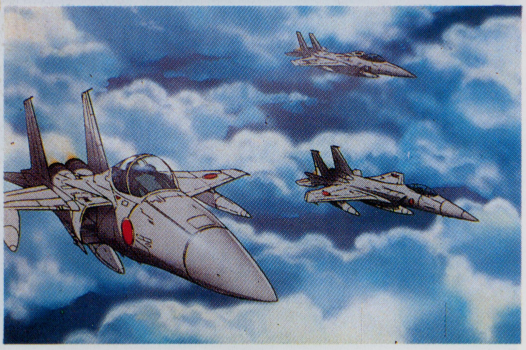
82年10月24日（日）日本ヘラルド映画配給　1時間10分

【あらすじ】昭和19年7月の沖縄、子どもたちは本土に疎開することになった。宮里先生の指揮のもと、清、健治、勇たちは貨物船・対馬丸に乗りこんだ。対馬丸は敵に発見されやすい最も危険な水域に入った。船長は安全なジグザグコースにするべきだと主張したが、指揮官は早く到着させるために真っすぐ進ませる。その夜、子どもたちは、いざという時にそなえて甲板で寝かされていた。対馬丸はアメリカの潜水艦によって3発の魚雷を受け、そして沈んだ……。

【解説】大城立裕が1961年に出版した原作をもとに、対馬丸遭難者遺族会の協力で亜細亜堂が製作したドキュメンタリーアニメーション。監督の小林治が、絵コンテ、レイアウト、キャラクターに心血を注いで、史実に忠実な集団劇に仕立てあげた。美術の清水一利によるデフォルメされた空間描写と、小林のリアルな生活描写が、対馬丸の悲劇性を強く引きだしている。全死亡者名（実名）が延々と列挙されるラストシーンは圧巻で、観客の涙を誘った。

原作／大城立裕　（理論社刊）■企画／映画センター沖縄県連絡会議■プロデューサー／伊藤正昭、宇田川東樹■制作担当／藤田　健、平田正幸■制作進行／菅原啓太、小泉淑子■脚本／大久保昌一良、千野皓司■文芸協力／謝名元慶福■監督／小林　治■作画監督／芝山　努、河内日出夫、山田みちしろ■原画／須田裕美子、吉本桂子、後藤真砂子、大塚典子、若山佳幸、若山佳治、志村宣子、加藤鏡子■美術／清水一利■背景／なかちか東、野谷顕次、長島陽子、菊地正典■色彩設定／渋谷瑠美子■撮影／ぎゃろっぷ■編集／古川雅士■音楽／槌太靖織■挿入歌「海の記憶」「空を自由に」作詞・作曲／伊藤　薫　歌／ＫＥＩ　オリジナルサウンドトラック　（ビクターレコード）■音響監督／田代敦巳■音響効果／柏原　満■製作協力／映画「対馬丸」を成功させる会■協力／対馬丸遭難者遺族会■制作協力／亜細亜堂、ビクター音楽産業、エス・エッチ・ピー、理論社■製作／対馬丸製作委員会■声の出演　清（田中真弓）　健治（丸山裕子）　勇（安達　忍）　宮里（安原義人）　マサ（牧野和子）　ミツ（瀬能礼子）　タケ（沼波輝枝）　陽子（小林優子）　富子（森沢早苗）　昭男（伊沢　弘）　芳子（頼　慶子）　光枝（中山愛子）　大村大尉（村越伊知郎）　炊事係（阪　脩）　船長（二見忠男）　軍医（池水通洋）　屋良校長（槐　柳二）　市長（納谷悟朗）　弘子（酒井ゆきえ）　英俊（熊倉一雄）

NO.
273 FUTURE WAR 198X年



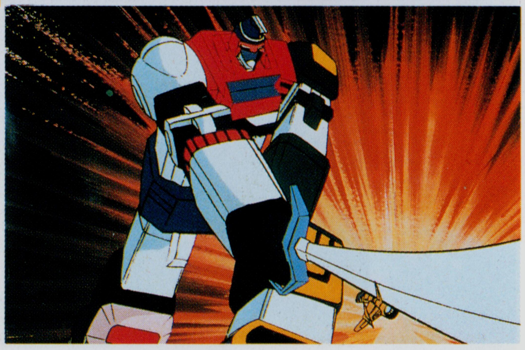
82年10月30日（土）東映株式会社配給　2時間5分

〔あらすじ〕アメリカのレーザー戦闘衛星研究推進者・科学者バートが、ソ連の原子力潜水艦で連れ去られた。アメリカは核爆弾でこれを撃沈、両国を中心とした国際情勢は著しく悪化する。バートの親友・三雲も、傷心のまま戦闘衛星の生産を命じられてしまう。合衆国大統領ギブスンの努力も空しく、東西ドイツ国境に端を発した戦争はエスカレートを続け、ソ連好戦派のブガーリン国防相による書記長オルロフ暗殺を機に、世界は破滅の道を歩み始める……。

〔解説〕最新の軍事科学、政治学の研究をもとに、近未来に起こり得る第3次世界大戦のドラマを描いた作品。高名なイラストレイタ生頼範義がイメージイラストを担当したほか、作監には竜の子プロ作品のベテラン・須田正己を起用するなど、兵器、人物の表現のリアリティに心血が注がれた。監督は「ヤマト」劇場版の舛田、勝間田コンビ。製作中、内容が好戦的だとして労働組合からボイコット運動が起こり、これは一時マスコミをも巻き込む話題となった。

製作総指揮／渡辺亮徳■企画協力／岩野正隆■プロデューサー／吉田　達■製作担当／横井三郎■製作進行主任／松下健吉■製作進行／堀川和政■文芸・設定制作／鶴見和一■脚本／高田宏治■監督／舛田利雄、勝間田具治■エフェクト・ディレクター／高山秀樹■キャラクター・デザイン、作画監督／須田正己■ヒロイン・コスチュームデザイン／アンドレ・クレージュ■オリジナル・メカ・デザイン、美術監督／辻　忠直■イメージ・イラスト／生頼範義■メカニック作画監督／新井　豊■原画／堀川留子、横山健次、森　利夫、八島善孝、宇田川一彦、横山淳一、野田卓雄、小泉謙三、高橋信也、白川忠志、我妻　宏、渡辺　浩、田辺由憲、白　南烈■美術助手／中野一朗、内川文広■撮影監督／白井久男、寺尾三千代■編集／千蔵　豊、吉川泰弘■編集助手／岸　真理、渡辺美和子■音楽／横山菁児　指揮／熊谷　弘　演奏／新日本フィルハーモニー交響楽団　ボーカル／川島和子■ＥＤ「愛ゆえに哀しく」作詞／山上路夫　作曲／風戸慎介　編曲／青木　望　歌／ポプラ　（コロムビアレコード）■録音／波多野勲■録音助手／立花康夫■音響効果／伊藤克己■（製作／東映（東映動画））■声の出演　三雲　渡（北大路欣也）　ローラ・ゲイン（夏目雅子）　ギブスン大統領（金内吉男）　ノイマン中将（中村　正）　ジラード国務長官（小林　修）　ストロガノフ艦長（大塚周夫）　遠野清隆（納谷悟朗）ほか

NO.
274 六神合体ゴッドマーズ



82年12月18日（土）東宝東和配給　東宝洋画系封切　1時間37分

【あらすじ】西暦1999年、人類念願の太陽系圏外進出をかけた冥王星開発船団を監視中のクラッシャー隊は、地球の宇宙進出を警告するギシン星ズールの声をキャッチした。さらにその声はクラッシャー隊・明神タケルの意識のなかにまで現れ、タケルに地球の爆破を命じる。タケルはギシン星の侵攻によって、自分がギシン星人であることを知るが、地球のために戦うことを決意した。しかしタケルは、やがて実兄マーグとの悲しい戦いを演じることになる。

【解説】テレビ放映中から、映画化を熱望する数万に及ぶファンの署名が東京ムービー新社に寄せられ、劇場公開の運びとなった。マーズとマーグの対決と別離を中心に〝ギシン星編〟をまとめたものだが、テレビでは毎回登場していたゴッドマーズへの合体シーンは、ズールとの対決のときのみになるなど、設定変更もある。そのため、総カット数の半分にあたる約700カットが新作として描き起こされ、友永和秀らテレコムのメンバーも原画に参加した。

原作／横山光輝（〝マーズ〟より）■製作／片山哲生■プロデューサー／赤川　茂■製作担当／松元理人■製作デスク／長井圭次■製作進行／図司正幸■文芸担当／小野田博之■脚本／藤川桂介■監督／今沢哲男■メカデザイン／亀垣　一■作画監督／本橋秀之■原画／亀垣　一、平山　智、鍋島　修、越智一裕、飯島正勝、山本福雄、鈴木寿美、伊藤富士子、半田由利、鳥居愛緒、本橋秀之■美術／石垣　努■背景／工藤美由紀、廣瀬美憲、渋谷幸弘、祢津貴美子■撮影／上田雅英、新井隆文■原版編集／高橋和子■編集／鶴渕允寿■音楽／若草　恵■ＯＰ「BIRTHDAY　CITY」ＥＤ「愛のストーリー」以上、作詞／三浦徳子　作曲／小田裕一郎　編曲／若草　恵　歌／川原田新一　キングレコード■録音／伊達　渉■音響効果／横山正和■製作協力／東京ムービー、テレコム・アニメーション■東宝東和株式会社提供　東京ムービー新社作品■声の出演　マーズ（明神タケル）（水島　裕）　マーグ（三ツ矢雄二）　大塚長官（富田耕生）　ズール皇帝（納谷悟朗）　飛鳥ケンジ（石丸博也）　伊集院ナオト（鈴置洋孝）　木曽アキラ（塩屋　翼）　日向ミカ（川浪葉子）　ロゼ（鵜飼るみ子）　ワール（有本欽隆）　サグール（広瀬正志）　バール（坂口芳貞）　明神博士（青野　武）　明神静子（前田敏子）　イデア（小林勝彦）　アイーダ（平井道子）　ナレーター（蟹江栄司）ほか

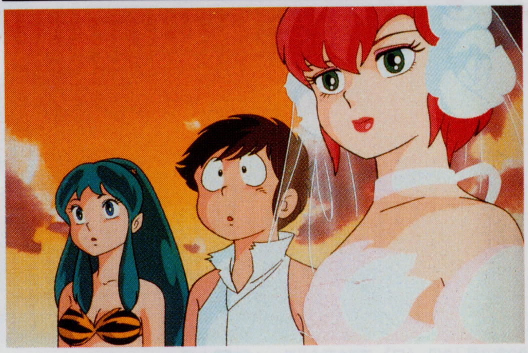
'83 昭和58年

3月に「幻魔大戦」「クラッシャージョウ」「宇宙戦艦ヤマト　完結編」と大作が3本並び〝春のアニメ合戦〟となった。それぞれ鳴り物入りの大作であったが、出来はともかく、いずれも時代をきずく人気作とはならなかった。すでにSF大作アニメが人気を得る時代は過ぎ去っていたのだ。〝宇宙戦艦ヤマトシリーズ〟が完結したことは、それを象徴するかのようであった。

一方、テレビの人気アニメ「うる星やつら」の劇場作品1作目「オンリー・ユー」が公開された。あくまで、テレビシリーズを中心にした人気ではあるが、「ガンダム」に続く人気アニメであったことに間違いはない。新たにファンが求めたのは、宇宙のロマンでも重厚さでもなく、リアルな宇宙戦争でもなく、明るいSFスペースラブコメディだったのだ。

NO. 275 うる星やつら オンリー・ユー

LAM, THE INVADER GIRL

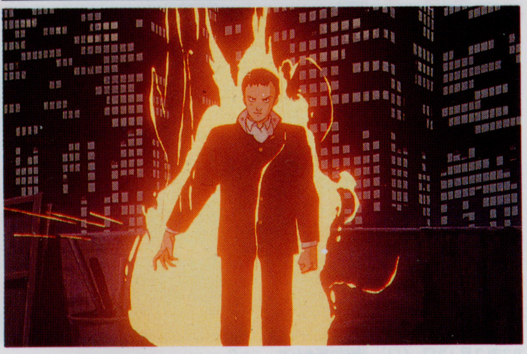


83年2月11日（金）東宝系封切　1時間30分
併映作品／ションベン・ライダー

〔あらすじ〕ある日、あたるの関係者一同に届いた結婚式の招待状。差出人はあたる並びにエル。全く心当たりがないあたるだが、エル星の使者・ババラは、ふたりには11年前に婚約の事実があるという。激怒するラム。騒ぎは広がり、ついにエル星とラムの鬼の星の戦闘艦隊が一触即発の状態にまでなる。無責任で浮気なあたるは〝影ふみ〟によって決められたという美しい婚約者・エルのもとへ。気のおさまらないラムは、単身ふたりの結婚式に乗りこんでいく。
〔解説〕人気テレビシリーズ「うる星やつら」の劇場版第1作。金春智子が、はじめて単独で劇場用長編の脚本を執筆、押井守が劇場初監督をつとめた。オリジナルキャラクターのエルに加え、テレビのキャラも総出演。舞台も宇宙に広がり、いかにも映画らしい一編。クライマックスは「卒業」を思わせる盛りあがりを見せた。山下将仁を中心とするメカニック作画の見せ場も豊富。また、南家こうじによるエンディングは、テレビシリーズでも同時期使用された。

原作／高橋留美子　（小学館・週刊少年サンデー連載）■製作／多賀英典■企画／落合茂一■アニメーション制作プロデューサー／布川ゆうじ■アシスタント・プロデューサー／久保　真■文芸担当／伊藤和典■脚本／金春智子■監督、脚色・絵コンテ／押井　守■演出／安濃高志■プロローグ・アニメーション／中村泰敏■エンディング・アニメーション／南家こうじ■キャラクターデザイン／高田明美、高沢孫一■作画監督／青嶋克己、遠藤裕一、高沢孫一■メカニック作監／山下将仁■原画／山内昇寿郎、大坂竹志、宮尾　学、小林佐希子、関　三恵子、桜井利行、森山雄治、野崎恒仲、服部一郎、武荒　恵、山崎和男、古瀬　登、佐久間信計、佐久間しげ子、西島克彦、高木敏夫、金沢勝真、石井邦幸、山下将仁、斉藤　格、上妻晋作、服部みわ子■美術監督、美術設定／新井寅雄■背景／井上徹夫、西永一光、平田賢司、中山益男、広田和子、朝倉千登勢、米田晴美、佐藤俊之■カラーデザイン／石黒ちえこ■撮影監督／若菜章夫■編集／森田清次ほか■音楽監督／早川　裕■音楽／小林泉美、安西史孝、天野正道■ＯＰ、ＥＤ「Ｉ，Ｉ，Ｙｏｕ＆愛」詞／安藤芳彦　曲・編曲、唄／小林泉美　キティ・レコード■音響監督／斯波重治■製作協力／スタジオぴえろ■キティ・フィルム作品■声の出演　ラム（平野　文）　諸星あたる（古川登志夫）　しのぶ（島津冴子）　面堂（神谷　明）　エル（榊原良子）ほか

NO. 276 幻魔大戦



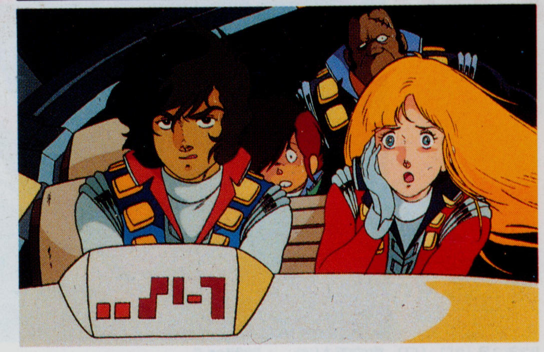
83年3月12日（土）東宝東和配給　東宝洋画系封切　2時間11分

【あらすじ】大宇宙の破壊者・幻魔が地球に接近しつつあった。トランシルバニア王国の王女ルナは、宇宙の意識エネルギー〈フロイ〉から幻魔来襲を知らされ、これを迎え撃つべく超能力戦士結集に立ち上がった。日本の一高校生・東丈は、サイボーグ戦士ベガとルナに遭遇。姉・三千子へのコンプレックスとたたかいながら、これを克服して自己の超能力に目覚めていく。やがて幻魔の侵攻が開始され、世界中の超能力戦士がルナのテレパシーに応えて集結しはじめる。
【解説】角川映画のアニメ進出第1作。この作品のために演出、作画、美術などの諸部門を1カ所に統合したプロジェクトチーム・アルゴスが設立された。ストーリーは石森（現石ノ森）章太郎による漫画版が採用されたが、キャラは新たに新進気鋭の大友克洋が描き、斬新なデザインで話題を呼んだ。映像的には金田伊功、なかむらたかし、森本晃司、松原京子ら豪華原画マンが競演し、美術もロケに基づき東京の街並みを綿密に描写するなど意欲的であった。

原作／平井和正（角川書店）、石森章太郎■製作／角川春樹、石森章太郎■プロデューサー／明田川　進■制作担当／浅利義美■設定／丸山正雄、真崎　守■脚本／桂　千穂、内藤　誠、真崎　守■監督／りん・たろう■キャラクターデザイン／大友克洋■作画監督／野田卓雄■作画監督補佐／冨沢和雄■原画／なかむらたかし、川尻善昭、大橋　学、松原京子、鍋島　修、新川信正、本木久年、大坂竹志、青島克己、田辺由憲、大島城次、森本晃司、梅津泰臣、長崎重信、上條　修、青井清年、野田卓雄、大友克洋■スペシャルアニメーション／金田伊功■美術監督／椋尾　篁■美術／男鹿和雄、窪田忠雄■撮影監督／八巻　磐■編集／田中　修■音楽監督／キース・エマーソン（キャニオン・レコード）■音楽／青木望■ＥＤ「光の戦士」作詞／トニー・アレン　作曲／キース・エマーソン　歌／ローズマリー・バトラー　制作／角川レコード　発売／キャニオン・レコード■録音／辻井一郎（アオイスタジオ）■制作協力／（株）角川書店、プロジェクトチームアルゴス、（株）マジックカプセル、（有）マッドハウス■HARUKI KADOKAWA presents■CAST　東丈（古谷　徹）　ルナ（小山茉美）　東　三千子（池田昌子）　ソニー（林　泰文）　ヨーギン（　柳二）　タオ（原田知世）　幻魔大王（佐藤正治）　カフー（穂積隆信）　フロイ（美輪明宏）　女占星術師（白石加代子）　ベガ（江守　徹）ほか

NO. 277 クラッシャージョウ

CRUSHER JOE



83年3月12日（土）富士映画配給　2時間10分

〔あらすじ〕宇宙の危険任務を生業とする〝クラッシャー〟のジョウ、アルフィン、タロス、リッキー、ロボットのドンゴは、急患の女性・エレナの護送を請けおうが、飛行中に突然ワープ障害にあい、気が着くとエレナは消えていた。罠にかけられたと知ったジョウたちは、仕事の依頼人を追って宇宙海賊マーフィ一味の基地に潜入。エレナを奪回するが、彼女は実は重力物理学研究所の助手・マチュアであった。エレナはマーフィの恐るべき陰謀を語りはじめる。
〔解説〕高千穂遙の同名SF小説の設定をもとに、新たに書き下ろされた映画用新作。安彦良和初の監督作品である。原作でもイラストを描いていた安彦がキャラクター・デザイン、作画の総監督を兼任で担当し、ほぼ原作通りの設定となっている。メカニカル設定は、当時「マクロス」で名をあげていた河森正治。原画の佐藤元が当作品のカット袋に描いた漫画「がんばれアルフィンちゃん」や、数多くの隠れキャラなども一部では評判となる。

原作／高千穂　遙　（朝日ソノラマ刊）■製作／岸本吉功、伊藤昌典■企画／山浦栄二■プロデューサー／吉井孝幸■監修／高千穂　遙■脚本／高千穂　遙、安彦良和■監督／安彦良和■演出／鹿島典夫■設定制作、演出助手／浜津　守■キャラクターデザイン／安彦良和■メカニカルデザイン／河森正治■作画監督、絵コンテ／安彦良和■アニメーター／安彦良和、吉永尚之、佐藤　元、石垣真弓、服部あゆみ、小林智子、長谷川桂子、吉橋　節、板野一郎、内田順久、竹ノ内節子、高橋久美子、森山雄二、平野俊弘ほか■美術デザイン／佐藤道明■美術監督／中村光毅■撮影監督／三沢勝治■編集／井上編集室、井上和夫、布施由美子■音楽／前田憲男■イメージソング「飛翔〈NEVER　END〉」作詞／藤原月彦「BLOODBATH　HIGHWAY」作詞／ＬＥＯ　以上、作曲／西松一博　編曲／ARAGON　歌・演奏／西松一博　by　ARAGON　（ビクター）■音響監督／藤野貞義、千葉耕市■協力／講談社■企画、製作／日本サンライズ■〈ＣＡＳＴ〉ジョウ（竹村　拓）　アルフィン（佐々木るん）　タロス（小林清志）　リッキー（小原乃梨子）　コワルスキー（納谷悟朗）　バード（小林　修）　ダン（久米　明）　マチュア（武藤礼子）　マーフィ（大塚周夫）　キリー（曽我部和行）　ネロ（渡部　猛）　ロキ（長堀芳夫）　ノーマ（弥永和子）　バレンスチノス（田中信夫）　マルドーラ（柴田秀勝）　ドンゴ（二又一成）ほか

NO.
278 まんがイソップ物語

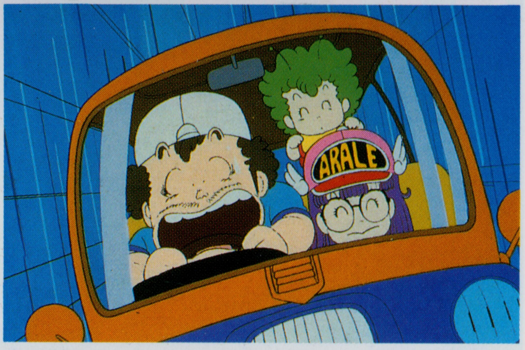


83年3月13日（日）東映系封切　1時間1分
併映作品／Dr.スランプ　アラレちゃん　ほよよ！世界一周大レース、科学戦隊ダイナマン、バッテンロボ丸（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕いたずら者のイソップ少年は、「狼がきた」とウソをついては村人を脅かしていた。ある日、本物の狼に襲われた彼は大声で助けを求めるが誰も信じてくれない。逃げまどううちに落ちた深い穴、なんとそこは動物の国だった。イソップは、いなかネズミのチューチュー、迷子の花の精ピッチと知り合い、そろって家を探す旅に出発する。その途中、出会ったウサギ、カメ、アリ、キリギリスらとのふれ合いのなかで、イソップが学んだものは……。
〔解説〕有名なイソップの寓話8編をつないでストーリーを構成。少年時代のイソップ自身が、それらの物語を体験しながら成長する、という筋立ての作品で、その形式はかつての長編「アンデルセン物語」との類似性をもつ。演出には「カール」のCMでおなじみの、ひこねのりお、作画監督には「おはよう！　スパンク」の直後で、その影響がうかがえるベテラン・香西隆男を起用。異色の布陣であったが、普通のテレビスペシャル程度の完成度を見せたにとどまった。

製作／今田智憲■企画／山口康男■製作担当／菅原吉郎■脚本／曽田博久　「イソップ寓話集」より■監督／ひこねのりお■演出助手／箕ノ口克己、金山通弘■作画監督、キャラクターデザイン／香西隆男■原画／阿部　隆、勝井千賀雄、小川明弘、木野達児、青鉢芳信、清山滋崇、阿部　司、堀川留子、神村幸子、吉田利喜、山本　清、宮脇貴子、船塚純子、平田かおる、山本福雄、川越ジュン、あべじゅん子■美術監督／襟立智子■美術進行／島本　武■背景／井出智子、池上みどり、壇　久美子、松尾美千代、浅田　栄、三上　恵■撮影監督／相磯嘉雄■編集／吉川泰弘■音楽／小森昭宏■ＯＰ「いたずらの種まき」唄／牧　伸二・小林さくら　コーラス／こおろぎ '73、ザ・チャープス　ＥＤ「愛とぽこぽこ」唄／三輪勝恵　以上、作詞／武鹿悦子　作曲／小森昭宏　コーラス／こおろぎ '73（コロムビアレコード）■録音／波多野　勲■声の出演　イソップ（高見知佳）　妖精ピッチ（潘　恵子）　チューチュー（大竹　宏）　バーロー（滝口順平）　イソップの母（松島みのり）　村長（雨森雅司）　うさぎ（つかせのりこ）　かめ（八奈見乗児）　長老あり（高木ひとし）　若者あり（塩沢兼人）　母あり（白石冬美）　きりぎりす（永井一郎）都会ねずみ（八代　駿）　北風（銀河万丈）　太陽（増山江威子）　協力／青二プロ
※本リストは、東映動画の社内資料をもとに作成した。

NO.
279 Dr.スランプ　アラレちゃん　ほよよ！世界一周大レース

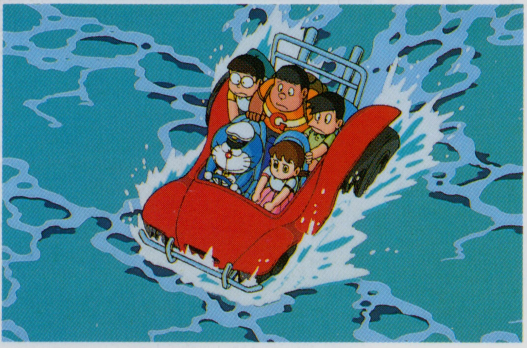


83年3月13日（日）東映系封切　52分
併映作品／まんがイソップ物語、科学戦隊ダイナマン、バッテンロボ丸（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕ラジアル国の国王は、娘のフロント王女を結婚させたいがため世界一周レースを主催。その優勝者には王女と結婚させると宣言した。アラレとセンベエは、オンボロといわれて気落ちしている愛車ボルボを勇気づけるため、マシリトは王女と結婚したいがため、あかね、タローは賞金目当てでレースに参加。そして、見知らぬ者との結婚を嫌ったフロント姫もまた、自分と瓜二つの山吹みどりに入れ替わってもらい、自らレースに参加することにした。
〔解説〕劇場3作目。ラジアル国にはじまり、砂漠、アルプス、ニューヨーク、パリと世界をめぐって、オールキャラによる大レースと、いかにも劇場版にふさわしい物語。一応アニメのオリジナルストーリーであるが、原作の「ペンギン村グランプリ」を下敷きにしているようだ。前田実のデザインによる自動車たちはチョロQタイプのかわいらしいものだった。「Dr.スランプ」はダブルキャストが多いが、今回はフロント王女とみどりの2役を向井真理子が演じた。

原作／鳥山　明　（週刊少年ジャンプ）連載■製作総指揮／今田智憲■企画／七條敬三■製作担当／岸本松司■原案／雪室俊一■脚本／井上敏樹■演出／岡崎　稔■演出助手／西尾大介■キャラクターデザイン、作画監督／前田　実■原画／前田みのる、須田正己、青嶋克己、北原健雄、野館誠一、岸　義之、阿部　司、増田信博、村松尚雄、名倉靖博■美術監修／浦田又治■美術監督／海老沢一男■背景／陶山尚治、小林祐子、有川知子、今野良子、伊藤雅人、小笠原ゑつこ、日野典子、粟飯原晴美■撮影監督／白井久男、佐野禎史■編集／花井正明■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ワイワイワールド」作詞／河岸亜砂　作曲／菊池俊輔　ＥＤ「アレアレアラレちゃん」作詞／冬杜花代子　作曲／サタンタ　以上、編曲／たかしまあきひこ　唄／水森亜土、こおろぎ'73　（コロムビアレコード）■オーディオディレクター／小松亘弘■録音／二宮健治■声の出演　則巻アラレ（小山茉美）　則巻センベエ（内海賢二）　木緑あかね（杉山佳寿子）　空豆タロウ（古川登志夫）　空豆ピースケ（神保なおみ）　ガッちゃん（中野聖子）　山吹先生（向井真理子）（田の中　勇）（大竹　宏）（千葉　繁）（玄田哲章）（寺田　誠）（佐藤正治）（戸谷公次）（三田ゆう子）（野沢那智）（柴田秀勝）（増山江威子）（兼本新吾）（滝口順平）（八奈見乗児）　協力／青二プロダクション

NO.
280 ドラえもん　のび太の海底鬼岩城

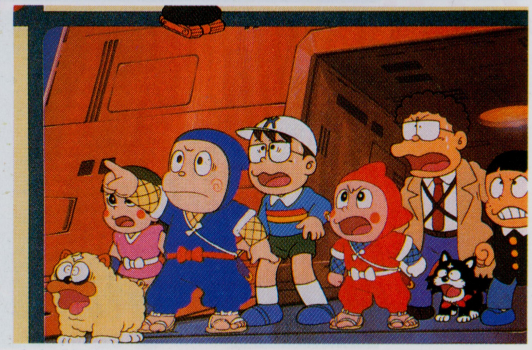


83年3月13日（日）東宝系封切　1時間35分
併映作品／忍者ハットリくん　ニンニンふるさと大作戦の巻、パーマン　バードマンがやって来た!!

〔あらすじ〕夏休みに山へ行くか海へ行くかでもめるのび太たち。ところがドラえもんの提案は、海底で登山をしようというものだった。〝テキオー灯〟によって水中での適応力をつけ、バギーを駆って海底へのドライブに出発する5人。ところが、巨大イカに襲われた彼らを助けた少年エルは、なんと海底都市の住人であった。のび太たちは海底人から、アトランチスのコンピュータ、ポセイドンの存在を知らされる。地球全域に危機が迫っているというのだ。
〔解説〕〝長編ドラえもん〟の第4作。監督が、藤子不二雄の希望もあって亜細亜堂の芝山努に交替し、作品の雰囲気が一新されている。またレイアウトは、あにまる屋の本多敏行の担当となり、以後このメインスタッフのままで現在まで続いている。物語は、意志を持つバギーがしずかに寄せる恋慕と、その哀しい最後が印象的。バギーを演じた三ツ矢雄二は、このあとも、いろいろな役で、〝長編ドラえもん〟に、たびたびゲスト出演することになる。

原作・脚本／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌　マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、てれびくん、コロコロコミックほか■プロデューサー／別紙壮一、菅野哲夫■文芸／水出弘一■監修／楠部大吉郎■監督／芝山　努■絵コンテ／芝山　努■レイアウト／本多敏行■作画監督／富永貞義■原画／中村英一、森下圭介、窪田正史、原　完治、みのわえみこ、神村幸子、川越ジュン、あべじゅん子、加藤鏡子、後藤真砂子、石井文子、鈴木信一、徳田悦郎、木上益治、星川和子、春貴賢司、池ノ谷安夫、小林正義、大塚正実、吉川由美子ほか■美術設定／川本征平■美術監督／工藤剛一■撮影監督／小池　彰■編集／井上和夫、鶴巻のり子■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ドラえもんのうた」作詞／楠部　工　歌／大杉久美子　コロムビアレコード　ＥＤ「海はぼくらと」作詞／武田鉄矢　歌／岩渕まこと　以上、作曲／菊池俊輔　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　ジャイアン（たてかべ和也）　スネ夫（肝付兼太）　しずか（野村道子）　エル（喜多道枝）　バギー（三ツ矢雄二）　パパ（加藤正之）　ママ（千々松幸子）　ジャイアンのママ（青木和代）　スネ夫のママ（鳳　芳野）　しずかのママ（松原雅子）　ポセイドン（富田耕生）ほか

NO.
281 忍者ハットリくん　ニンニンふるさと大作戦の巻

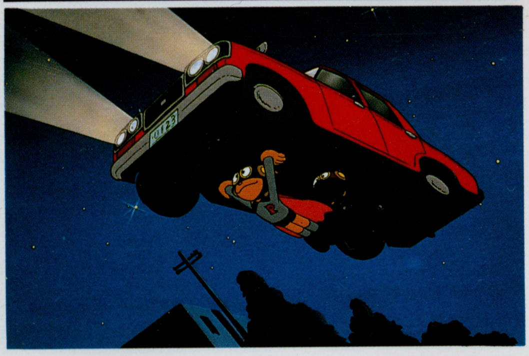


83年3月13日（日）東宝系封切　53分
併映作品／ドラえもん　のび太の海底鬼岩城、パーマン　バードマンがやって来た!!

【あらすじ】久しぶりに里帰りすることになったハットリくんとシンゾウ。もちろんケン一や夢子、それになぜかケムマキや影千代たちまでついてきて、一同は伊賀の忍者村に到着した。ところがハットリくんの両親は、科学忍者メカマロの一味に連れ去られたという。メカマロは伊賀忍法を倒して忍法界のトップに立とうとしているのだ。両親を救うためメカ城をめざすハットリくんの前に、メカ忍者軍団七人衆が立ちはだかった。
【解説】「忍者ハットリくん」の劇場第2作。今回は中編で、第1作よりもストーリー性が高まっている。ハットリくんが故郷である伊賀の里へ帰り、両親に会うまでが本編で描かれ、そのあとのハットリくんたちの本当の休日はエンディングで見せるという構成も印象深い。作画は、中心となったパンメディアのほかにスタジオZ5等が参加して、クライマックスのメカ城での対決シーンを盛りあげている。原作は「コロコロコミック」にかき下しで掲載。

原作／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌　マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、てれびくん、コロコロコミックほか■プロデューサー／加藤良雄、小泉美明、菅野哲夫■制作担当／熊瀬哲郎■制作デスク／茂木仁史■脚本／桜井正明、岸　宗生、大久保昌一良■総監督／笹川ひろし■監修／鈴木伸一■監督／藤原良二■絵コンテ／池野文雄、藤原良二■演出助手／木宮　茂■作画監督／桜井美知代■原画／奥村志郎、笠原慎介、叶内孝行、木村友和、ごがみよしたか、後藤紀子、木場田　実、小林正美、佐藤　勝、高野　登、土器手司、中島忠二、中村　誠、橋本淳一、三浦清継、柳瀬譲二■美術監督／宮野　隆■撮影監督／都島雅義■編集／岡安　肇、小野寺桂子、小島俊彦、渡辺雅日人■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「忍者ハットリくん」作詞／藤子不二雄　歌／堀　絢子　ＥＤ「ねぇハットリくん」作詞／若林一郎　歌／大杉久美子　以上、作曲／菊池俊輔　レコード／コロムビアレコード■録音監督／大熊　昭■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ハットリくん（堀　絢子）　ケン一（菅谷政子）　シンゾウ（三田ゆう子）　シシ丸（緒方賢一）　ツバメ（白石冬美）　ハットリの父（二見忠男）　ケムマキ（肝付兼太）　影千代（山田栄子）　先生（二又一成）　ゆめ子（秋山るな）　メカマロ（野沢雅子）ほか

NO. 282 パーマン
バードマンがやって来た!!

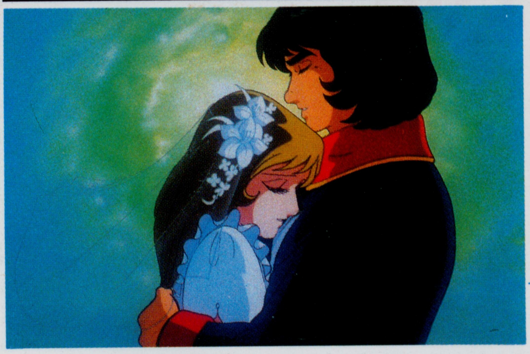


83年3月13日（日）東宝系封切　25分
併映作品／ドラえもん　のび太の海底鬼岩城、忍者ハットリくん　ニンニンふるさと大作戦の巻

〔**あらすじ**〕地球の平和を守るために宇宙人バードマンが任命するヒーロー、それが〝パーマン〟だ。どうしたわけかパーマン1号に選ばれた劣等生の須羽みつ夫は、力が6,000倍になるヘルメット、空が飛べるマント、通信機にもなるバッジを渡される。続いて任命された2号は、これまたどういうわけかチンパンジーのブービー。みつ夫たちはパーマンとなり、平和を守る使命を帯びたのだ。そんなとき、みつ夫の同級生みち子が誘拐されるという事件が起こった。
〔**解説**〕映画公開の翌月から放送が開始されたテレビシリーズ「パーマン」に先がけ、その第1話ともいうべき紹介篇として作られた作品。15年ぶりのアニメ化であり、監督は前作でも作画をつとめた鈴木伸一。「スーパーマン」に著作権が発生したため、宇宙人の名が〝バードマン〟になったこと、〝秘密を漏らせばパーにする〟という掟が、放送禁止用語の規制によって〝動物に変えられる〟に改められたことなど、設定に関して前作とはいくつかの違いがある。

原作・脚本／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、てれびくん、小学一年生、小学二年生、小学三年生、小学四年生、小学五年生、小学六年生、コロコロコミック■プロデューサー／別紙壮一■制作担当／山脇秀隆■制作進行／小池剛ノ介■文芸／水出弘一■監督／鈴木伸一■作画監督／鈴木伸一■レイアウト／正延宏三■原画／半田輝男、秦泉寺博、田中平八郎、笠原　彰■動画チェック／柴田和子■色指定／川崎智子■特殊効果／村山喜朗■美術監督／石津節子■背景／金村勝義、斉藤初枝、佐藤道子、大宮久江■撮影監督／小池　彰■撮影／角原幸枝、尾崎美季■編集／西出栄子■音楽／たかしまあきひこ■ＥＤ「きてよパーマン」作詞／藤子不二雄　作曲／古田喜昭　編曲／たかしまあきひこ　歌／三輪勝恵　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■効果／松田昭彦■整音／中戸川次男、柴田信弘■アニメーション制作／スタジオゼロ■制作協力／藤子スタジオ■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　パーマン、みつ夫（三輪勝恵）　バードマン（安原義人）　パーマン2号（大竹　宏）　ミツ子（三浦雅子）　カバ男（鈴木清信）　サブ（千葉　繁）　ママ（坪井章子）　ガン子（梨羽雪子）　先生（田辺宏章）　刑事（雨森雅司）　警官（山田俊司）　犯人（野本礼三）　ミツ子の父（島田　彰）　ミツ子の母（島　木綿子）

NO. 283 宇宙戦艦ヤマト　完結編



83年3月19日（土）東映株式会社配給　2時間38分

〔**あらすじ**〕宇宙の生命の源であり、また星を滅ぼす魔の星である水の惑星・アクエリアス。いましも一つの星が、アクエリアスの影響で水没しようとしていた。ヤマトの艦長の古代は、その星の住民の救出を決意したが、それはヤマトの乗組員の多大の犠牲にもかかわらず失敗に終わる。責任を感じた古代は艦長を辞職。そのころ地球に新たな危機が迫っていた。ヤマトが救出しようとしていた星こそ、恐るべき敵・ルガール大総統率いるディンギルの母星であった。
〔**解説**〕文字通り「ヤマト」の完結編と銘打って公開され、現在のところシリーズ最後の作品となっている。年代設定は他作品との関係上2203年とされた。冒頭、甦った沖田十三が、脳死に至らず治療を受けていたことを隠していた佐渡酒造が、全国のファンに陳謝するという場面が挿入され、失笑を買った。ラストでは、古代と雪の愛のシーンが描かれて話題を呼んだ。なお、作画、美術の一部手直しを含めた70mm、4チャンネル版が、のちに公開されている。

原案・設定・監修／松本零士■企画・原作・製作・総指揮／西崎義展■アソシエイト・プロデューサー／山本暎一■ＳＦ設定／豊田有恒■戦略・設定制作／鶴見和一■文芸／横山和夫■脚本／山本英明、笠原和夫、山本暎一、舛田利雄、西崎義展■総監修／舛田利雄■監督／勝間田具治、西崎義展■チーフ・ディレクター／白土　武■絵コンテ／白土　武、遠藤政治■エフェクト・ディレクター／高山秀樹■助監督／棚橋一徳■キャラクター・デザイナー／宇田川一彦、高橋信也■メカニック・デザイナー／辻　忠直、板野克己、出渕　裕■総作画監督／宇田川一彦■作画監督／高橋信也、金田伊功、角田紘一■スキャニメイト／東洋現像所ビデオセンター■設定デザイン／辻　忠直■美術監督／勝又　激■撮影監督／清水政夫■編集／千蔵　豊■音楽／宮川　泰、羽田健太郎■挿入歌「古代（おれ）とヤマト」作詞／阿久　悠　作曲／宮川　泰　歌／ささきいさお（コロムビアレコード）（他の挿入歌は略）■音響監督／田代敦己■制作／東映動画株式会社■製作／株式会社ウェストケープ・コーポレーション■配給／東映株式会社■キャスト　古代　進（富山　敬）　森　雪（麻上洋子）　沖田十三（納谷悟朗）　島　大介（ささきいさお、仲村秀生）　ルガール（石田太郎）　ルガールII世（津嘉山正種）　ディンギル少年（伊倉一恵）　クイーン・オブ・アクエリアス（田島令子）　ナレーター（仲代達矢）ほか

NO. 284 ノエルの不思議な冒険



83年4月29日（金）東映セントラルフィルム株式会社配給　1時間12分
併映作品／イルカのクリスマス　ジェレミーの木

【**あらすじ**】ある夏の暑い日、ノエルちゃんと愛犬のキンノスケは、お日様もさぞ暑かろうと思い、飛行機に乗ってお日様にアイスクリームを届ける旅にでる決意をする。途中、やたら着飾ることを美徳とするキカザリ星に立ち寄ってから、お日様に対面、アイスクリームをあげたお礼にとジョギングを教えてもらう。宇宙でスモッグの親玉に出会ったり、海中でヘドロの怪物に襲われたりしながら、ノエルの旅は続くのだった。
【**解説**】イルカオフィスが製作したアニメ第2作。製作に3年の歳月をかけた作品である。原作はシンガーソングライターとしてしられるイルカが書いた絵本であり、イルカ自身が音楽を担当。主人公のノエルも演じている。また、キンノスケを彼女の息子の冬馬（当時3歳）が演じている。そのほかにも、小林亜星や大場久美子など異色のキャスティングで、冒険あり、ミュージカルシーンありの楽しい作りの作品である。

原作／イルカ■製作／神部和夫、高木　巖■プロデューサー／神部和夫■制作担当／関　昭■脚本／鈴木良武■ディレクター／高桑忠男■監督／前田庸生■絵コンテ／児玉喬夫■タイトルアニメーション／アニメーションスタッフルーム■アニメーション／グループ・タック　プロデューサー／対木重次■作画監督／大竹伸一■アニメーター／勝井千賀雄、阿部信子、三善和彦、細谷秋夫、江口俊介、八木大、土橋　博、若林常夫、殿河内勝、猿山二郎、石黒あつし、高木三枝子、島村有美子、木口　準、沢田博子、野村誠司、金海由美子■美術／阿部幸次■背景／横瀬直士、高松良己、清水一利、西村邦子、田中静恵、渡辺由美、横瀬瑠美子■撮影／Ｖ・Ａ・Ｃ、虫プロダクション■編集／古川雅士■音楽監督／佐藤允彦■音楽・歌／イルカ　作詞・作曲／イルカ　ＥＤ「夢想家（ドリーマー）」　編曲／佐藤允彦、鈴木　茂、伊藤銀次、デビット・キャンベル■音響効果／石田秀憲■企画制作／イルカ音楽出版■オリジナルサントラ盤／クラウンレコード■製作／イルカオフィス＆シルバーストーン■（声の出演）ノエル、キンノスケ（イルカ＆冬馬）　大臣（東　八郎）・司会者（山田パンダ、山本コータロー）　側近（カメ吉）　お日様（小林亜星）　老スーパマン（西岡たかし）　用務員（桂　べかこ）　クジラのスーさん（新沼謙治）　スモッグの親玉（笑福亭鶴瓶）　コン吉（大場久美子）

NO. 285 イルカのクリスマス　ジェレミーの木



83年4月29日（金）東映セントラルフィルム株式会社配給　20分
併映作品／ノエルの不思議な冒険

〔**あらすじ**〕両親のいないジェレミーが迎えた何度目かのひとりぼっちのクリスマス。雪降るなか、凍えて倒れていた小鳥を助けたジェレミーは、〝友だちのもみの木〟を捜してくれと頼まれる。切り倒されたもみの木は、クリスマス・ツリーとなって大きなお屋敷に飾られていた。ひと枝でも森へ返そうと、真夜中屋敷へ忍びこんだジェレミーは追いかけられ、銃で撃たれてしまう。逃げのびたジェレミーは、もうろうとする意識のなかでサンタクロースに会った。
〔**解説**〕原作はシンガーソングライター・イルカが愛息冬馬の誕生を契機にかき下した絵本「小さな空」シリーズの第4作目。「日本昔ばなし」と併行してグループタックが制作。原作の水彩イメージを十二分に残し、絵本独特の、目に鮮やかな色調で仕あげている。音のでる絵本として音楽にも重点を置き、イルカ自身が担当。挿入歌「鳥の記憶」は、映像とマッチしてヒット曲となった。'80年にテレビ放映されている。

原作・音楽／イルカ■プロデューサー／神部和夫■アニメーション監督／前田庸生■アニメーション演出／児玉喬夫■音楽監督／佐藤允彦■アニメーション製作／グループ・タック■製作／イルカオフィス■声の出演　ジェレミー（大栗清史）　サンタクロース（高木　均）　小鳥（大場久美子）　※本リストは、イルカオフィスの社内資料をもとに作成した。

NO. 286 プロ野球を10倍楽しく見る方法



83年4月29日（金）東宝東和配給　東宝洋画系封切　1時間35分

【あらすじ】プロ野球選手の爆笑エピソードをオムニバスで紹介する——「大リーグ版好プレイ・珍プレイ集」「プロ野球ニュース特集・ペナントレース序盤戦レポート」「日本版好プレイ・珍プレイ集」「ヤクルト・スワローズ、マツオカ投手物語」「日米エキサイティング・プレイ傑作集」「大洋ホエールズ、サイトウ投手物語」「オープン戦試合中の選手たちの会話を超小型マイクで拾ったマイクロフォン野球」「エモト氏の野球解説者人生」「日米抱腹絶倒プレイ集」など。

【解説】原作は、ベストセラーとなった江本孟紀の「プロ野球を10倍楽しく見る方法」「同20倍楽しく見る方法」。実写とアニメを1巻ずつ交互に見せていくオムニバス形式で〝マルチラウンド新方式〟と銘打たれた。アニメ制作は「がんばれダブチくん」を担当した亜細亜堂。実写部分では、オープン戦のロッテ、大洋の両軍選手に超小型マイクをとりつけ、試合中の選手の声を聞きとるという試みもなされたが、音声も画面（ビデオ撮影）も不明瞭で、反省点を残した。

原作／江本孟紀　ＫＫベストセラーズ刊「プロ野球を10倍楽しく見る方法」「プロ野球を20倍楽しく見る方法」■製作／山本又一朗■製作総指揮／鹿内春雄■脚本／城山　昇、渡辺麻実、飛鳥めい■脚本・構成／石原純一、岩井田利治■監督／鈴木　清■演出・絵コンテ／芝山　努、小林　治、河内日出夫■アニメーション監督／芝山　努■キャラクター原案／いしいひさいち■作画監督／小林　治■原画／後藤真砂子、石井文子、加藤鏡子、佐藤真人■動画／亜細亜堂■美術／門野真理子■撮影／長谷川　肇、小林健一■編集／鶴渕允寿、高橋和子■音楽／大谷和夫■ＯＰ「憧れはオクターブハイの空へ」作詩／阿木燿子　作曲／芹澤廣明　唄／浅沼友紀子　キャニオンレコード■音響演出／松浦典良■アニメーション製作協力／東京ムービー新社■（株）フジテレビジョン、（株）東和プロダクション、（株）フィルムリンク提携作品■ギャグ・アドバイザー／中原理恵■解説者／江本孟紀　ニッポン放送、深沢　弘■声の出演　ニュース・キャスター（佐々木信也）　レポーター（みのもんた）　アナウンサー（玉置　宏）　フジタ（清川元夢）　コバ（徳丸　完）　ハラ（神谷　明）　アナウンサー（窪田　等）　コバヤシ（安原義人）　カケフ（塩屋　翼）　オカダ（島田　敏）　エガワ（原田英樹）　カワカミ（きたかチョーさん）　ナガシマ（まってたドン）　ナレーター（野島昭生、大林隆介、飯塚昭三）ほか

NO. 287 ゴルゴ13



83年5月28日（土）東宝東和配給　東宝洋画系封切　1時間34分

〔あらすじ〕カリフォルニア。船上パーティーの最中、ドーソン・コンツェルンの後継者ロバートが殺された。狙撃者は、正確に相手の眉間を射抜いて殺すという超一流のプロ〝ゴルゴ13〟。息子の復讐を誓うドーソンは、ＦＢＩ、ＣＩＡ、ペンタゴンを動かしてゴルゴ抹殺を図る。死地を逃れ、反撃にうつるゴルゴ。ドーソンのビルには、狂気の殺し屋ビッグ・スネーク、最強の暗殺者ゴールドとシルバーが待ち受ける。しかし、狙撃事件の裏には意外な真相が……。

〔解説〕さいとうたかをの超ロングセラーのアニメ化。監督・出崎統は、テレビシリーズ「スペースコブラ」を途中で抜けて本作の準備にはいった。内容は、ゴルゴよりもドーソンの怒りと悲しみ、妄執を描くことに力点が置かれており、それを支える作画、美術、撮影は、いずれもきわめて技術的に完成度が高い。また、阪大の大村浩一を起用し、COMPIXと称するコンピューターグラフィックの導入も試みられたが、時間的制約から中途半端なものに終わった。

原作／さいとう・たかを、さいとう・プロダクション　（ビッグコミック連載中　小学館刊、リイド社刊）製作／藤岡　豊、山本又一朗■プロデューサー／稲田伸生■制作担当／池田陽一■脚本／長坂秀佳■監督／出崎　統■作画監督／杉野昭夫■原画／大塚伸治、福島敦子、塚田信子、森本晃司、本木久年、大橋　学、杉野佐秩子、清水恵蔵、四分一節子、小林ゆかり、川筋　豊、小泉謙三、大坂竹志、半田由利、武藤照美、高橋千代子、清山滋崇■美術監督／小林七郎■背景／小林プロダクション、福村八重子、是信光男、木村真二、形山　正、加藤賢司、下谷美恵子、小平朝子、田沢彰太■撮影監督／高橋宏固■編集／鶴渕允寿■コンピューターグラフィックス制作総指揮／大村浩一　ディレクター／御厨さと美　テクニカルディレクター／西村仁志　制作／（株）トーヨーリンクス■コリオグラフィー／湖川友謙■音楽／大森敏之■ＯＰ「プレイ・フォー・ユー」作曲／つのごうじ　ＥＤ「ゴルゴ13　and I」作曲／国吉良一　以上、作詞／阿木燿子　編曲／大森敏之　唄／シンディ・ウッド　（ポリスターレコード）■制作協力／大阪大学CGグループ■録音監督／伊達渉■制作協力／あんなぷる■東京ムービー新社、フィルムリンク提携作品■東宝東和株式会社提供■声の出演　ゴルゴ13（瑳川哲朗）　レオナルド・ドーリン（納谷悟朗）　シンディ（藤田淑子）　ブレイガン（富田耕生）　ローラ（武藤礼子）ほか

NO. 288 ザブングルグラフィティ
BLUE GALE XABUNGLE



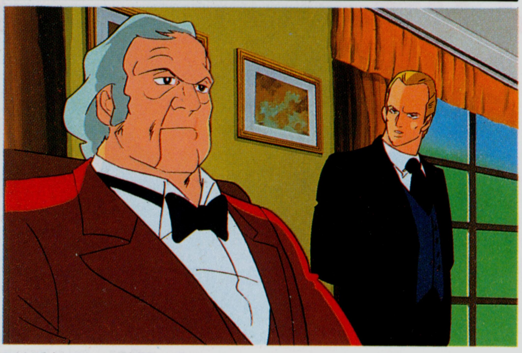
83年7月9日（土）松竹系封切　1時間24分
併映作品／ドキュメント　太陽の牙ダグラム、チョロＱダグラム

〔あらすじ〕両親の仇・ティンプを追うジロン・アモス。仲間は〝アイアン・ギアー〟の艦長エルチ、ラグら〝サンドラッド〟の面々である。だがティンプが逃げこんだイノセントのドームを荒したため、ジロンたちはイノセントの雇われブレイカーの攻撃を受ける。イノセントに捕らえられ、洗脳されたエルチは〝アイアン・ギアー攻撃の指揮官となってしまった。一方、最新鋭のウォーカー・ギャリアを手にいれたジロンはイノセントの本拠地へ向かうが……。

〔解説〕テレビシリーズの再編集版。だが、ストーリーを追っていく従来の総集編ではなく、〝名場面〟を中心とした文字通りの〝グラフィック〟的な構成となっている。〝ザブングルの作り方〟などのコーナーが適宜挿入され、なかには〝これが動撮だ！〟といった内幕もののコーナーまであり、結果的にはテレビシリーズのファンのみを対象とする作品となっている。富野由悠季は本来は監修者であったが、いろいろと実作業を手がけて最終的には監督となった。

原案／矢立　肇■原作／富野由悠季、鈴木良武■製作／伊藤昌典■企画／山浦栄二■プロデューサー／中川宏徳■制作主任／冨永恒雄■脚本／五武冬史、吉川惣司、荒木芳久、伊東恒久■監督／富野由悠季■構成演出／菊池一仁■演出協力／鈴木　行、関田修、滝沢敏文、加瀬充子、今川泰宏■キャラクターデザイン／湖川友謙■メカニカルデザイン／大河原邦男■メカニカル設定／出渕　裕■アニメーター／湖川友謙、金山明博、佐々門信芳、坂本三郎、山田政妃、篠田　章、外記康義、大島城次ほか■美術／池田繁美■撮影／旭プロダクション、斉藤秋男■技術協力／三沢勝治■編集／布施由美子（井上編集室）■音楽／馬飼野康二■ＯＰ「疾風ザブングル」作詞／井荻　麟　唄／串田あきら　ＥＤ「ＧＥＴ　ＩＴ」作詞／売野雅勇　唄／ＭＩＯ　以上、作曲／馬飼野康二　レコード／キングレーコード■録音／藤野貞義■効果／伊藤道広■調整／甲藤　勇、泉山行輝■協力／講談社■製作協力／名古屋テレビ、創通エージェンシー■製作／日本サンライズ■配給／松竹株式会社■声の出演　ジロン（小滝　進）　エルチ（横尾まり）　ラグ（島津冴子）　ブルメ（古川登志夫）　ダイク（山下啓介）　チル（ＴＡＲＡＫＯ）　コトセット（広森信吾）　アーサー（塩沢兼人）　ビエル（森　功至）　ティンプ（銀河万丈）　ホーラ（二又一成）ゲラバ（西村知道）　（緒方賢一）（戸谷公次）（龍田直樹）（能村弘子）ほか

NO. 289 ドキュメント 太陽の牙ダグラム
FANG OF THE SUN DOUGRAM



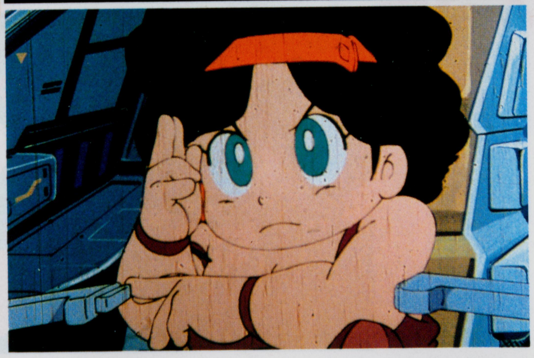
83年7月9日（土）松竹系封切　1時間20分
併映作品／ザブングルグラフィティ、ドキュメント　太陽の牙ダグラム、チョロＱダグラム

【あらすじ】. C 152年。地球植民惑星デロイアの動乱に身を投じたクリン・カシムは、仲間とともにゲリラとしてデロイア独立のために戦う。コンバット・アーマー〝ダグラム〟を操縦するクリンらの活躍に、デロイア民衆は力づき、また地球連邦の方針に反対する軍内部の反乱も相次いで、ついにデロイアはその独立を勝ちえたかに見えた。しかしそのころ、野心を持つ一部の人間たちの間で、ひそかに政治的な取り引きが行われつつあった。

【解説】植民惑星における動乱を描いたテレビシリーズ「太陽の牙ダグラム」を、徹底したドキュメンタリー・タッチで再構成した総集編。テレビシリーズはその冗長さに対する批判も多い作品であったが、これはニュース映画であるかのような趣向をこらし、激動の時代を生きた人々の想いや、歴史の流れといったものを感じさせる秀作となっている。単なる総集編の域を脱して、作品全体をとらえなおそうと狙って成功した、ユニークな作品である。

原案／高橋良輔、星山博之■製作／伊藤昌典■企画／山浦栄二■プロデューサー／岩崎正美、山田哲久■脚本／星山博之、富田祐弘、渡辺由自、鈴木良武■シリーズ監督／神田武幸■監督／高橋良輔■助監督／三浦将則■演出協力／谷田部勝義、石崎すすむ、康村正一、知吹愛弓、兜　史郎、川端蓮司■キャラクターデザイン／吉川惣司、塩山紀生■メカニカルデザイン／大河原邦男■作画／塩山紀生■アニメーター／谷口守泰、西城　明、福田　皖、神宮　慧、新田敏夫、谷沢　豊、上村栄司ほか■美術／中村光毅■撮影／玉川芳行、大内保行、ティニシムラ■編集／鶴渕友彰、片石文栄■音楽／冬木　透■ＥＤ「さらばやさしき日々よ」作詞／高橋良輔　作曲／冬木　透　編曲／武市昌久　唄／麻田マモル　レコード■音響／浦上靖夫■効果／松田昭彦（フィズサウンド）■整音／中戸川次男■協力／講談社■製作／日本サンライズ■配給／松竹株式会社■声の出演　クリン（井上和彦）　ロッキー（田中亮一）　チコ（銀河 万丈）　ナナシ（緒方賢一）　ハックル（小宮山　清）キャナリー（山田栄子）　ビリー（梨羽雪子）　ジョルジュ（千葉　繁）　ラコック（仁内達之）　レーク（池田　勝）　フォンシュタイン（蟹江栄司）　サマリン（宮内幸平）　ラルターフ（兼本新吾）　J・ロック（曽我部和行）　デイジー（高島雅羅）　リタ（川浪葉子）　ナレーター・ドナン（山内雅人）ほか

NO.
290 チョロQダグラム



83年7月9日（土）松竹系封切　9分
併映作品／ザブングルグラフィティ、ドキュメント　太陽の牙ダグラム

【あらすじ】植民星・デロイヤの動乱は、コンバット・アーマーによるレースで決着をつけることとなった。ゲリラ側はクリン・カシムが人力走行のダグラムに乗りこみ、連邦軍側はゼンマイ仕かけのブロックヘッドにハンスとアーロンが乗りこんで、いよいよスタート。連邦軍側の汚い妨害工作のために遅れをとったクリンは、ダグラムを自動車型のチョロQダグラムに変型させ、フルパワーでゴールへと向かった。さあ、勝利の女神はどちらに微笑むか。
【解説】「ダグラム」「ザブングル」の総集編の同時劇場公開のオマケに作られた10分弱の短編。シリアスな「ダグラム」の登場人物を、かわいい３頭身キャラに置きかえたギャグアニメで、シリーズの監督の高橋良輔による徹底したパロディであり、オリジナルを知っていれば知っているほど楽める作品となっている。スタジオライブの若手アニメーターが作画を担当し「Dr.スランプ」調のハチャメチャな画面を作りだしている。

原案／高橋良輔■演出／三浦将則■原画／只野和子、松下浩美、小林早苗、宮嶋　堅■動画／スタジオ・ライブ■背景／宮本清司■撮影／旭プロダクション■音楽／冬木　透■音響／A・P・Uスタジオ■企画制作／日本サンライズ■声の出演　クリン（井上和彦）　サマリン（宮内幸平）　ジョルジュ（千葉繁）　ラルターフ（兼本新吾）　ロッキー（田中亮一）　J・ロック（曽我部和行）　キャナリー（山田栄子）　リタ（川浪葉子）　ラビン（政宗一成）　デイジー（高島雅羅）　ラコック（仁内達之）　ドナン、ナレーター（山内雅人）　（玄田哲章）　（二又一成）

NO.
291 パタリロ！　スターダスト計画

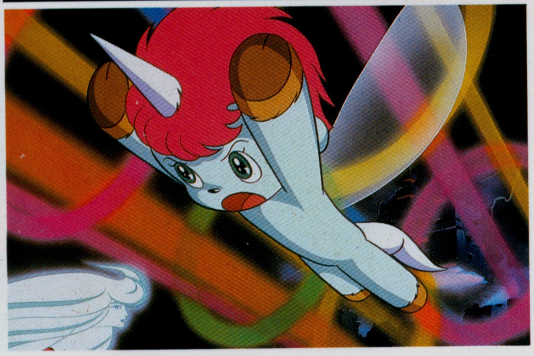


83年7月10日（日）東映系封切　48分
併映作品／ヘッドフォンララバイ

〔あらすじ〕世界中で続発するダイア強奪事件。〝国際ダイアモンド輸出機構〟のナンバー１にして秘密結社〝タランテラ〟の一員・シュゲルグ博士が立案した〝スターダスト計画〟の発端であった。宝物蔵のダイアを奪われたマリネラ国王パタリロは、腕利きの英国諜報部員バンコランとともに事件を追う。しかしタランテラの命を受け、バンコランの命を狙う謎の美少年アンドレセンが出現。彼はかつてバンコランに倒された少年・ジュニアに瓜二つであった。
〔解説〕原作の「パタリロ！」シリーズ中最初の長編の映画化。キャラクター一同が宇宙にまで飛びだすという、スケールの大きいストーリー展開であった。原作ではクライマックスで結局計画は成功せず、ダイアは発射されないが、アニメ版では発射されてしまい、これをくい止めるためにパタリロ７世と10世が登場している。この改変には原作者・魔夜峰央も脱帽したという。なお魔夜峰央は、主題歌を歌うとともに、声優として劇中自分の役を演じている。

原作／魔夜峰央　白泉社「花とゆめ」連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／横山賢二■製作担当／大野　清、佐々木　章■脚本／田波靖男■監督／西澤信孝■演出助手／西尾大介■作画監督／鈴木欽一郎■原画／兼森義則、稲野義信、伊東　誠、星野絵美、須田正己、アベ正己、富田　邦、横山健次、八島善孝■動画チェッカー／中村　誠■動画／豊美幸恵、渡辺明美、森本知枝、杉山典子、大村まゆみほか■美術監督／土田　勇■美術監督補佐／坂本信人■背景／小林祐子、沢田隆夫、有川知子、小笠原ゑつ子、倉持智恵子、金川文美、中村恭子、飯島由樹子■撮影／武井利晴、福井政利■編集／吉川泰弘■音楽／青木　望■ＯＰ「Run away美少年達(ローズボーイズ)！」うた／魔夜峰央　挿入歌「スターダスト悲歌（エレジー）」うた／藤田淑子　以上、作詞／冬杜花代子　作曲／馬飼野康二　キャニオンレコード■録音／池上信照■製作／東映動画■声の出演　パタリロ（白石冬美）　バンコラン（曽我部和行）　マライヒ（藤田淑子）　警察長官（永井一郎）　サンダース署長（滝口順平）　エトランジュ（池田昌子）　大魔神（小林清志）　シュゲルグ（大塚周夫）　ジュニア（戸田恵子）　アンドレセン（田島令子）　タマネギA（古川登志夫）　タマネギB（野島昭夫）　（大竹　宏）　（杉山佳寿子）　（松島みのり）　（原田一夫）ほか　特別出演（魔夜峰央）　協力／青二プロ

NO.
292 ユニコ　魔法の島へ
THE FANTASTIC ADVENTURE OF UNICO - 2

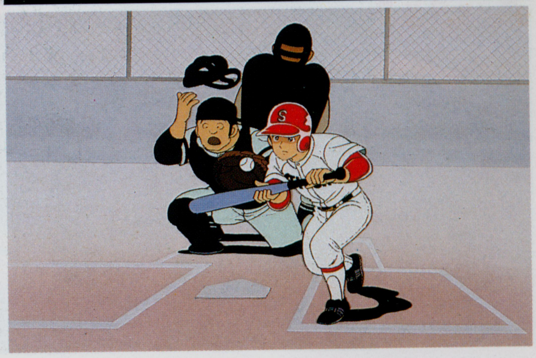


83年7月16日（土）サンリオ映画配給　1時間31分
併映作品／キタキツネ物語

【あらすじ】神々に、ユニコを〝忘却の丘〟に捨てるよう命じられた西風の精は、ユニコを途中の村へおろす。動物を生きた人形に変える魔法使いククルックの弟子トルビーに追われ、少女・チェリーに救われたユニコ。だが、ククルックの命令で村人やおばけまで人形に変えるトルビーは、家出したチェリーの兄だった。魔法使いの島から逃れたユニコたちはスフィンクスのマルスとともに、魔法のとき方を知っているという〝地の果て〟の木馬を探しにでかける。
【解説】もともとはアニメーターながら、「オサムとタエ」シリーズなどで漫画家として名を成した村野守美の初監督作品。前作「ユニコ」同様マッドハウスの制作だが、この間出崎統、杉野昭夫らの独立もあり、スタッフはほぼ一新。ただし村野とレイアウト・川尻善昭は、前作にも設定協力して一応名を連ねている。美術は小林プロ出身の青木勝志を石川山子が補佐。作画はマッド系のエース格となった富沢和雄。全編の３分の１近くに透過光が使われている。

原案・構成／手塚治虫　原作出版／サンリオ出版■製作／辻　信太郎■プロデューサー／波多野恒正、丸山正雄■製作デスク／成川誠一郎、岩瀬安輝■構成・脚本・監督／村野守美■助監督／広川和之■画面構成／川尻善昭■作画監督／富沢和雄■原画／新川信正、梅津美幸、藤本千珠、稲垣賢吾、青山純子、大久保美杉、札木幾夫、青嶋克己、鈴木幸雄、半田輝男、三原武憲、上條　修、中島　薫、後村　武、保江　圓、千田幸也、近藤宏幸、小川知子、大橋　学■美術監督／青木勝志■背景／山川　晃、熊谷　聡、安藤ひろみ、小倉宏昌、池畑祐治、柴田千佳子、宮本清司、工藤秀子、勝井和子、脇　威志、海保仁三郎、野谷顕次、長嶋陽子、佐々木　洋、菊地正典、伊奈淳子、男鹿和雄、石川山子■撮影監督／八巻磐、石川欽一■編集／尾形治敏■音楽制作／オールスタッフ・ニューサウンド■音楽監督／北山　良■作曲／青木　望■ＥＤ「ドレミファララバイ」作詞／山川啓介　作曲／森山良子　歌／白鳥英美子　レコード発売／ジャパン・レコード■演奏／新室内楽協会■録音制作／オーディオ・プランニング・ユー■音響監督／浦上靖夫■効果／柏原　満■音楽録音／大河原克夫■製作協力／マッドハウス■製作／サンリオ映画■声の出演　ユニコ（三輪勝恵）　ククルック（常田富士男）　トルビー（池田秀一）　チェリー（島本須美）　山猫（永井一郎）　木馬（槐　柳二）　西風（鈴木弘子）ほか

NO.
293 ナイン



83年9月16日（金）東宝系封切
併映作品／みゆき、うる星やつらオンリー・ユー

〔あらすじ〕中学陸上短距離の記録保持者・新見克也と柔道県大会優勝の唐沢進は、弱小青秀野球部入部を決意した。動機は、誰もいないスタンドで青秀の試合を見ていた少女・中尾百合の笑顔を見るためだ。やがて、全国中学野球大会の優勝投手・倉橋も父親の反対を押し切り入部、新生青秀野球部がスタートした。そんな克也たちに強力なライバルが出現。甲子園のヒーローで百合の幼なじみという武南高の山中健太郎だ。青秀は強豪武南と対戦するが……。
〔解説〕春に日生ファミリースペシャルの枠で放映されたテレビスペシャルをベースに劇場公開されたもの。併用の実写作品「みゆき」をあわせ〝あだち充作品２本立て〟となった。全編を35ミリで撮影するなど、当初から劇場用を意識した作りになっているが、作画的に不満の残る部分は全て描きなおされている。オープニング、エンディングも劇場用のものが挿入されている。百合の声はテーマ曲「真夏のランナー」を歌って好評だった倉田まり子が担当した。

原作／あだち充　小学館「少年サンデーコミックス」刊■製作／大橋雄吉、田代敦巳■制作／平田正幸、小泉淑子■企画／宇佐美　廉■プロデューサー／藤原正道、藤田　健、久保田栄一■企画コーディネーター／大橋益之助■脚本／布勢博一■監督／杉井ギサブロー■演出助手／鶴田秀昭■アニメーション監督／前田庸生■原画／前田　実、我妻　宏、香西隆男、本橋秀之、福田　皖、細谷秋夫、江口俊介、金沢勝眞、河部信子、船塚純子、鈴木英二、斉藤純一郎、勝井千賀雄■美術／大野広司■背景／小林プロダクション、下谷美恵子、小平朝子、西尾真理子、菅原紀代子、長谷川ひろ美、田沢彰太■撮影／ぎゃろっぷ、若菜章夫、坂田美保、羽山泰功、小堤勝也、高本宣弘、佐藤照夫■編集／古川雅士■音楽／芹澤廣明、槌田靖織■ＯＰ「青いフォトグラフ」ＥＤ「愛を翼にして」以上、作詩／売野雅勇　作曲／芹澤廣明　唄／倉田まり子　（キングレコード）■音響監督／田代敦巳■音響効果／柏原　満■録音／堀　真慈■協力／日本生命、小学館■製作／東宝株式会社、グループ・タック、フジテレビ■声の出演　中尾百合（倉田まり子）　新見克也（古谷　徹）　唐沢　進（富山　敬）　倉橋永二（塩沢兼人）　安田雪美（坂本千夏）　山中健太郎（神谷　明）　監督・中尾（北村弘一）　克也の父（増岡　弘）　克也（牧野和子）　倉橋の父（青野　武）　雪美の祖母（麻生美代子）ほか

'84 昭和59年

5年ぶりの劇場作品のピークの年である。

宮崎駿が数年の沈黙を破り、原作・脚本・監督作品の「風の谷のナウシカ」を発表。この映画の成功により、彼の名はアニメファンのみならず広く知られるようになり、また、宮崎監督の長編作品が定期的に製作されるようになった。若手演出家、押井守が、監督・脚本をつとめた「うる星やつら」劇場2作目「ビューティフルドリーマー」は、彼の作家性が発揮された傑作となった。この作品は一種のカルト・ムービーとなり、押井守をアニメファンのカリスマ的存在に押しあげることになる。河森正治監督の「超時空要塞マクロス　愛・おぼえていますか」は、かつて、SF大作アニメがもっていた〝重厚さ〟のない、ラブコメタッチのSFアニメの傑作。のちのビデオ作品などの在り方に大きな影響を与えることになる。

テレビで爆発的人気を得ていた「キン肉マン」が登場し、「東映まんがまつり」は活気を取り戻すことになった。夏のプログラムが復活したばかりでなく、それまでなかった正月の番組までも定着させることになる。オリジナルの名作作品のない「まんがまつり」の時代のはじまりでもある。

NO. 294 うる星やつら2 ビューティフルドリーマー



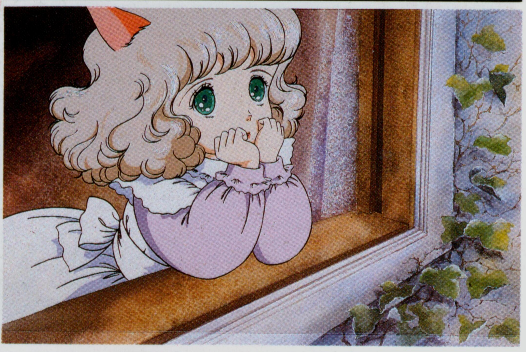
84年2月11日（土）東宝系封切　1時間37分
併映作品／すかんぴんウォーク

〔あらすじ〕学園祭を明日にひかえ、あたるたちは友引高校に泊まりこんで徹夜の準備に大忙し。しかし、彼らは次第に周囲の異変に気づきはじめる。何日たっても学園祭の前日のまま。外界より閉ざされた友引町、現出する異世界……。すべては妖怪・夢邪鬼の作りだした夢であった。夢邪鬼はラムのために純粋な永遠の夢を作ろうとしたのである。真相を知ったあたるは、なんとかラムの夢の世界からの脱出を図ろうとするが……。

〔解説〕映画版第2作。脚本、監督をまかされた押井守が、原作とかけ離れた独自の不条理な世界を展開。多くのファンやスタッフに影響を与え、良くも悪くもその後の「うる星やつら」の流れを変えてしまったといえる作品。興業的には失敗したが、映画評論家を含め、アニメファン以外の人々からも高い評価を得た。作監はA，Bパートをやまざきかずお、Cパートを森山ゆうじが担当。小林七郎の超現実的な美術も、この作品世界をうまく支えていた。

原作／高橋留美子　週刊少年サンデー連載■製作／多賀英典■企画／落合茂一■企画協力／週刊少年サンデー、岡　正（フジテレビ）■アシスタントプロデューサー／長谷川　洋■制作担当／渡辺　明■アニメーション製作プロデューサー／久保　真■脚本、監督／押井　守■演出／西村純二■キャラクターデザイン／やまざきかずお■作画監督／やまざきかずお、森山ゆうじ■作監補／青木康直■原画／阿部　司、山下将仁、板野一郎、吉永尚之、丹内　司、丹沢　学、山内昇寿郎、本橋秀之、桜井芳久、佐藤道雄、亀垣　一、桜井利行、福島喜晴、奈良みつ子、岡本健一■動画検査／石井康雄■動検補／堀田篤子■美術設定／小林七郎、森山ゆうじ■美術監督／小林七郎■背景／是信光男、下谷美恵子、木村真二、形山　正■カラーデザイン／戸辺尚代■撮影監督／若菜章夫■編集／森田清次ほか■音楽監督／早川裕■音楽／星　勝■ＥＤ「愛はブーメラン」詞／三浦徳子　曲／松田　良　編曲／清水信之　歌／松谷祐子　キャニオン・レコード■音響監督／斯波重治■製作協力／㈱スタジオぴえろ■製作／東宝株式会社、キティ・フィルム■声の出演　ラム（平野　文）あたる（古川登志夫）　面堂（神谷　明）　テン（杉山佳寿子）　しのぶ（島津冴子）　サクラ（鷲尾真知子）　竜之介（田中真弓）　メガネ（千葉　繁）♨先生（池水通洋）　校長（西村知道）　錯乱坊（永井一郎）　夢邪鬼（藤岡琢也）ほか

NO. 295 綿の国星



84年2月11日（土）日本ヘラルド映画配給　1時間36分

〔あらすじ〕生後2カ月のメスのチビ猫は、ある雨の日、空腹で倒れたところを予備校生の須和野時夫に拾われる。小説家の父親と猫アレルギーの母親をもつ、やさしい時夫を好きになったチビ猫。しかしチビ猫を連れて井の頭公園に行った時夫は、その日三つあみの少女・美津子に初めての恋をする。猫はいつか人間になれると信じ、一刻も早く人間になろうとするチビ猫に、銀色の美しいオス猫・ラフィエルは〝猫は人間にはなれない〟と告げるのだった。

〔解説〕大島弓子原作の同名漫画のアニメ化。80年にパイロット。83年初めから制作開始。原作は短編集なので、アニメ化にあたってはいくつかのエピソードをもとに、〝猫は人間にはなれない〟という基本テーマを描いている。大島弓子はシナリオと作詞で参加。メインテーマをリチャード・クイレダーマンが演奏したり、谷山浩子が挿入歌の作曲をするなど、音楽面にも力を入れている。幻想的な色使いと、色トレスを多用した軟らかいタッチの作画が印象的。

原作／大島弓子　白泉社「ＬａＬａ」刊■プロデューサー／原屋楯男■製作担当／野村和史■脚本／辻真先、大島弓子■監督／辻　伸一■演出助手／八起繁男■キャラクターデザイン、作画監督／青嶋克己■作監補佐／千明ゆり、梅津泰臣、古瀬　登、本橋富士子、富沢雄三■原画／高橋信也、坂井俊一、北里　陽、金山明博、川越　淳、清山滋崇、勝井千賀雄、名倉靖博、高野　登、柳瀬譲二、菊田武勝、半田輝雄、池田正和、有原誠治、津田典和、富田　邦ほか■美術監督／吉原一輔■美術設定／阿部行男、吉原一輔■背景／門野真理子ほか■キャラクターカラー設定／井上悦子■撮影監督／藤田正明■編集／尾形治敏■音楽監督／萩田光雄■「綿の国星メインテーマ」作曲／ロベルト・シュトルツ　「綿の原イルージョン」作詞・作曲／ポール・ドゥ・センヌヴィル　以上、ピアノ／リチャード・クレイダーマン　挿入歌「鳥は鳥に」作詞／大島弓子　谷山浩子　作曲／谷山浩子　歌／遠藤優子　「レッツ・ハヴ・サンドウィッチズ」作詞／大島弓子、作曲／田中弥生　歌／冨永みーな　ＥＤ「ブルー・ハート」作詞／来生えつこ　作曲／田中弥生　歌／遠藤優子　以上、編曲／萩田光雄　ビクター音楽産業株式会社■音響監督／松浦典良■制作協力／㈱　Ａ．Ｉ．Ｃ.、㈱悟空舎■企画・製作／虫プロダクション■声の出演　チビ猫（冨永みーな）　時夫（島田　敏）　ラフィエル（野沢那智）　月の声（永井一郎）ほか

NO. 296 少年ケニヤ



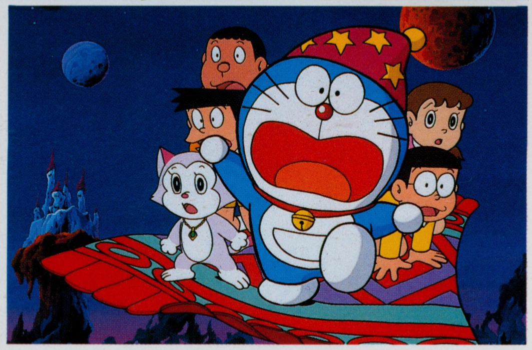
84年3月10日（土）東映系封切　1時間49分
併映作品／スヌーピーとチャーリー・ブラウン

〔あらすじ〕1941年11月。英領ケニヤに店を構える綿商人・村上大介は、息子ワタルを連れて奥地へ取引にでかけるが、戦争勃発の混乱に巻きこまれて、はなればなれになってしまう。ワタルはマサイ族の勇者ゼガと知り合い、たくましく成長。ある日、白人の少女ケートをポラ族から助けたワタルは、密林を進むうちに、ナチスの秘密研究所を発見。そこには父がとらわれていた。原爆の爆発で、原始の世界に飛ばされてしまった皆を助けたのは大蛇ダーナだった。

〔解説〕実写畑の大林監督が多くの実験を試みた作品。原作者自身が登場する実写シーンと、色トレス処理によるシーンが冒頭と結末に位置し、虚構としての物語を囲んでいる構造は、他の大林作品と共通。また、背景をつき破って登場するサイ、線画と着色画の混在など多彩な表現が見られ、手法としての〝アニメーション〟が画面にあふれている。だがその反面、テーマである〝冒険〟の伝達力はやや薄れた。声優初挑戦の高柳良一が好演。

原作／山川惣治　角川文庫版■製作／角川春樹、今田智憲■プロデューサー／田宮　武■製作担当／関良宏■脚本／桂　千穂、内藤　誠、剣持　亘■監督／大林宣彦■共同監督／今沢哲男■助監督／金山通弘、春田克典、江幡弘之■作画監督／我妻　宏■作画監督補佐／青山　充、山本福雄、敷島博英、八島善孝■原画／須田正己、森　利夫、荒木伸吾、山口泰弘、北原健雄、高橋信也、的場茂夫、田辺由憲、青鉢芳信、及川博史、横山健次、星川信芳、姫野美智、高橋　昇、山本福雄、敷島博英、堀川留子、金山圭子■動画チェッカー／石山毬緒、武井恒雄■美術監督／田中資幸■原図レイアウト／伊藤英治■背景／小林祐子、沢口隆夫、海老沢一男、有川知子、小笠原ゑつこ、松本健治、池田祐二■検査／前田剛弘、衣笠一雄■撮影監督／福井政利■撮影チーフ／町田賢樹■編集／花井正明、大林宣彦■音楽監督／宇崎竜童　編曲／朝川朋之■ＥＤ「少年ケニヤ」作詞／阿木燿子　作曲／宇崎竜童　うた／渡辺典子　コロムビアレコード■録音／波多野　勲■実写スタッフ　撮影監督／阪本善尚（ＪＳＣ）　美術監督／薩田和夫　ピクトリアルデザイン／島村達雄　照明／渡辺昭夫　助監督／中村　明■製作／㈱角川春樹事務所、東映動画株式会社■声の出演　ワタル（高柳良一）　井上大助（井上真樹夫）　村上葉子（増山江威子）　セカ（大塚周夫）　クシ　（内海賢治）　ケルビン（永井一郎）　シュタイン博士（八奈見乗児）　ケート（原田知世）ほか

NO. 301 ドラえもん のび太の魔界大冒険

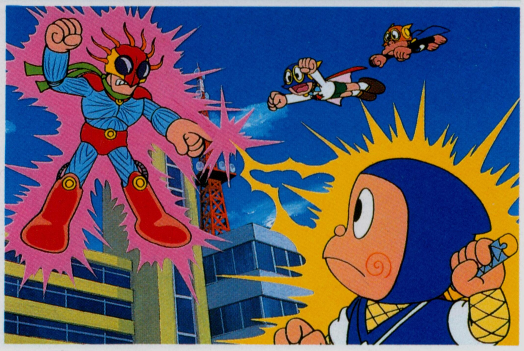


84年3月17日（土）東宝系封切　1時間39分
併映作品／忍者ハットリくん＋パーマン　超能力ウォーズ

〔あらすじ〕もしも科学のかわりに魔法がこの世を支配していたら……。そんな世界を、のび太とドラえもんは〝もしもボックス〟で作ってしまった。その世界では、満月博士が〝魔界接近説〟を唱えており、魔界の侵略から地球を守るために「魔界歴程」を解読しようとしていた。のび太たちは、魔法で猫の姿に変えられた博士の娘・美夜子とともに、魔法のじゅうたんに乗って宇宙へ飛びだす。魔界へ侵入し、大魔王の心臓に銀の矢をうちこむために。
〔解説〕シリーズ最高の興業収入を記録した、〝長編ドラえもん〟の第5作。この年から〝ぼくたち地球人〟と銘打った自然保護キャンペーンが展開され、入場者に〝グリーンドラえもんバッジ〟が配られた。映像的話題はコンピュータ・グラフィックスの導入で、オープニングや星空の動きなどに使われ、画面に広がりを持たせている。主題歌は小泉今日子。長編ドラえもん9作のうち、武田鉄矢がテーマ曲の作詞を担当しなかった唯一の作品でもある。

原作・脚本／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌　マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、コロコロコミック、別冊コロコロ、てれびくんほか■プロデューサー／別紙壮一、菅野哲夫■文芸／水出弘一■監修／楠部大吉郎■監督／芝山　努■絵コンテ／芝山　努■レイアウト／本多敏行■オープニング作画／中村英一■作画監督／富永貞義■原画／原　完治、飯山嘉昌、みのわえみこ、川越ジュン、加藤鏡子、竹中　満、奈須川　充、小林　幸、一川孝久、小林正義、窪田正史、山崎勝彦、神村幸子、あべじゅん子、久米一成徳田悦郎、森島　格、福富和子、葛岡　博、大塚正実■美術監督／沼井信朗■撮影監督／高橋明彦■編集／井上和夫■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ドラえもんのうた」作詞／楠部　工　作曲／菊池俊輔　歌／大杉久美子　コロムビアレコード　ＥＤ「風のマジカル」作詞／湯川れい子　作曲／Ｎｏｂｏｄｙ　編曲／松井忠重　歌／小泉今日子　ビクターレコード■録音監督／浦上靖夫■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　ジャイアン（たてかべ和也）　スネ夫（肝付兼太）　しずか（野村道子）　満月博士（中村　正）　美夜子（小山茉美）　パパ（加藤正之）ママ（千々松幸子）　ドラミ（横沢啓子）　出来杉（白川澄子）　先生（田中亮一）　大魔王（若山弦蔵）ほか

NO. 302 忍者ハットリくん＋パーマン 超能力ウォーズ



84年3月17日（土）東宝系封切　52分
併映作品／ドラえもん　のび太の魔界大冒険

【あらすじ】川原で遊んでいたケン一たちのところへ、ユーリーという少女がにげてきた。ハットリくん、それにパーマンたちが駆けつけるが、そこにサイコマンと名乗る仮面の男が現れる。ハットリくんたちは、サイコマンの操るサイコビームからユーリーを守ることに辛くも成功した。ケン一の家に身を寄せたユーリーは、自分が超能力者であり、父と兄を探しに日本へきたと語る。一方サイコマンは再びユーリーを連れ去る作戦を練っていた。
【解説】藤子アニメの人気者2人、ハットリくんと、パーマンが映画で共演することになった。ＴＶスペシャルで放映された「ドラ・Ｑ・パーマン」と同様の趣向で、スペシャルや劇場版ならではのお楽しみ企画である。ストーリー的にはハットリくんが中心で、パーマンたちは敵と闘うときに協力するという役柄になっている。クライマックスはニューヨークでの対決。ＴＶシリーズで両作品を監修している笹川ひろしが総監督を担当した。

原作／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌　マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、コロコロコミック、てれびくん、別冊コロゴロコミックほか■プロデューサー／加藤良雄、小泉美明、菅野哲夫■制作担当／茂木仁史■制作デスク／上田真一郎■脚本／桜井正明■総監督／笹川ひろし■監修／鈴木伸一■監督／原田益次■絵コンテ／笹川ひろし、佐々木正光、原田益次、鈴木伸一■演出助手／山崎友正■作画監督／なかじまちゅうじ、鈴木伸一■美術監督／宮野　隆■撮影監督／都島雅義■編集／岡安　肇、小島俊彦、村井秀明、石井真美■音楽／菊池俊輔■ＥＤ「ハットリ忍法ニニンのニン」作詞／緒方賢一　作曲・編曲／菊池俊輔　歌／緒方賢一、三田ゆう子■録音監督／大熊　昭■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ハットリくん（堀　絢子）　ケン一（菅谷政子）．シンゾウ（三田ゆう子）　シシ丸（緒方賢一）　ケムマキ（肝付兼太）　影千代（山田栄子）　ゆめ子（秋山るな）　ツバメ（白石冬美）　パパ（藤本　譲）　ママ（梨羽由記子）　パーマン（ミツ夫）（三輪勝恵）　ブービー（大竹　宏）　パー子（増山江威子）　しのびの博士（野本礼三）　おひめ（横沢啓子）　トゲ次郎（丸山裕子）　ゲラー（内海賢二）　サイコマン（神谷　明）　ユーリー（鶴　ひろみ）　ユーリーの母（鈴木弘子）ほか

NO. 303 おしん



84年3月17日（土）サンリオ映画配給　東宝洋画系封切　2時間2分

〔あらすじ〕中川材木店へ奉公に出された小作農の娘・おしん。松田先生の助力で、子守をしながら学校へ通えるようになったおしんだったが、ある日、盗みの疑いをかけられ、店を飛びだしてしまう。冬の山中で死にかけたおしんを救ったのは、脱走兵の俊作であった。しかし、春になって山を降りたとき、俊作は射殺されてしまう。おしんは酒田の米問屋・加賀屋に奉公することになり、一所懸命働いた。そして、夜は大おくさまに手習いを教わるのだった。
〔解説〕爆発的人気を得たＮＨＫの朝の連続テレビ小説「おしん」の少女編のアニメ化。製作は、日本を舞台にした作品はこれが初めてのサンリオ。キャラデザインはドラマの俳優に似せたもので、声の出演もほとんど同じ俳優がそろえられた。また、その演技を生かすため、先にセリフを録音し、あとから画面を合わせるプレスコ方式が採用されている。明治時代の山形をスクリーンに再現するため、美術など相当に凝ったものになっている。

原作、脚本／橋田壽賀子　シネブック／サンリオ出版■製作／辻　信太郎■制作担当／成川誠一郎■企画コーディネーター／永瀬　忠、国正　明■プロデューサー／富岡厚司、波多野恒正■監督／山本暎一■助監督／棚橋一徳■絵コンテ／遠藤政治、出崎哲、加賀谷　進■キャラクターデザイン／杉野昭夫■作画／赤堀幹治、湯浅伸子、清水恵蔵、大坂竹志、松山マヤ、遠藤政治■〈原画特別参加〉加賀屋、医者／波多正美　おしんの家、ねずみ／山本　繁■〈おしんの家〉原画／千田幸也、後村　武、中島　薫ほか　エフェクト原画／保江　圓、大西治子■〈中川材木店、俊作の小屋〉マジックバス　レイアウト／小林ゆかり　原画／四分一節子、川筋　豊、小椋真由美ほか■〈加賀屋〉スタジオ・アクト　原画／遠藤裕一、木川純一、北崎正浩ほか■美術／阿部行夫■撮影／熊谷幌史■編集／小川信夫■音楽監督／小林　裕■音楽／坂田晃一■ＯＰ「ちいさな願い」歌／小林綾子　ＥＤ「雪割草のように」歌／上條恒彦　以上、作詞／山下路夫　作曲／坂田晃一　ビクターレコード発売■効果音、録音／稲村和己、林　昌平■方言指導／大久保正信、芝田陽子■考証／小木新造■声の出演　おしん（小林綾子）　ふじ（泉　ピン子）　作造（伊東四朗）　なか（大路三千緒）　加代（志賀屋　文）　つね（あき竹成）　医者（ケーシー高峰）　俊作（奥田瑛二）　ほか　エム・スリー、東映児童研究所　語り（奈良岡朋子）

NO. 304 ウルトラマンキッズ M7.8星のゆかいな仲間



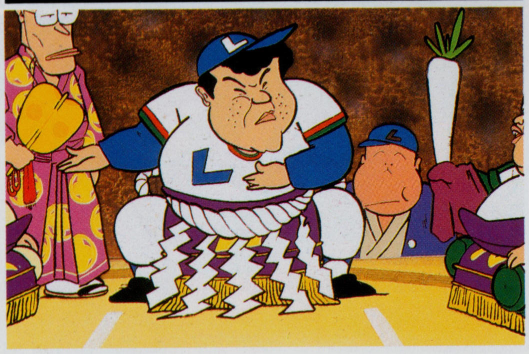
84年3月17日（土）松竹富士配給　25分
併映作品／ウルトラの戦士VS大怪獣軍団　ウルトラマンZOFFY

〔あらすじ〕宇宙商人マジャラの一行が、M78星雲の片隅、M7.8星に行商にやってきた。マー、ター、ルーキー、ピコ、ピグコたちキッズの仲間は、野菜をかついで物々交換に向かうが、品物はすでに売り切れ。困ったマジャラは、ただのヘアバンドやクリームを特別製と称して、大喜びのキッズに売ってしまう。そのとき、落ちていた片方の古靴が突然動きだした。中に隠れていた怪しいやつを追ってキッズは大騒ぎ。そのころ、ピグコが小さな緑色の怪獣を見つけた。
〔解説〕円谷プロ製作の特撮テレビ〝ウルトラマンシリーズ〟のキャラクターを2頭身の幼児にしたキャラクター商品〝ウルトラマンキッズ〟を活躍させた劇場アニメ。同じキャラクターを使ったテレビシリーズ「ウルトラマンキッズのことわざ辞典」が、のちに放映されている。円谷プロ芸能部所属の花井その子や、円谷プロ製作の実写映画「アニメちゃん」で主演を演じる山田恭子が声優として参加してる。菊池俊輔の「ドラえもん」調の音楽が印象に残る。

制作企画／円谷　皐　雑誌掲載／講談社■制作デスク／菊池由利子■プロデューサー／福井　顕、宇川清隆■脚本、演出／永樹凡人■脚本演出助手／三崎あきら、ときまつさなえ■設定、キャラクター・デザイン／篠崎佳久子■メカニックデザイン／細川留美子■作画監督／金　大中■作画／鄭　世權、崔貞雀　鄭　漢溶、崔　奎南■美術監督／下川忠海■撮影／白井久男■編集／尾形治敏■音楽／菊池俊輔、円谷音楽出版、玉川　静■ＯＰ、ＥＤ「キッズのチャチャチャ」作詞／谷　のぼる　作・編曲／菊池俊輔　唄／山田恭子、コロムビアゆりかご会　コロムビアレコード　木村英俊■音響ディレクター／本田保則■録音／整音企画、斉藤恒夫■効果／スワラプロ、須藤輝義■タイトルロゴデザイン／青柳　寛■タイトル／兵頭タイトル■現像／東京現像所■制作協力／クリムランド、林　大三郎、円谷エンタープライズ■製作／円谷プロダクション■声の出演　マー（山田恭子）　ピコ（花井その子）　ター（蒔村三枝子）　ルーキィ（近藤真紀子）　ピグコ（大杉久美子）　ミドリ（山田美和）　パル（水倉久美子）　メフィラ（佐藤由衣）　エレピー（湯上圭子）プロダクション河　ガマラ（西村知道）　マジャラ（富山　敬）

NO. 305

プロ野球を10倍楽しく見る方法 PART2



84年4月21日（土）東宝東和配給　東宝洋画系封切　1時間46分

【あらすじ】前作に引き続き、プロ野球選手の抱腹絶倒シーンを紹介する――「アメリカ大リーグの珍プレイ集」「プロ野球ニュース特集」「セ・パ両リーグの珍プレイ集」「エモト氏解説によるチョンボ特集」「セ・パの外人選手特集」「アニメで巨人／阪神戦、江川対掛布の対決」「特ダネ！マイクロフォン野球」「83年西武対巨人の日本シリーズのハイライト」など。

【解説】配収10億8000万円で、東宝東和の稼ぎ頭となった前作に続き企画されたが、アニメーション製作の東京ムービー新社は、今回は参加しなかった。キャラクターデザインは第1作の芝山努に代わり、いしいひさいちが担当。アニメ部分の制作を、出崎哲、清水恵蔵らマジックバスのメンバーが手がけている。前作同様9イニングのオムニバス構成となっているが、興業的には大成功した1作目に比べ、3億3000万円と大きく後退した。

原作／ＫＫベストセラーズ刊　プロ野球を10倍楽しく見る方法、プロ野球を20倍楽しく見る方法　江本孟紀■企画、原案／いしいひさいち■製作総指揮／鹿内春雄■製作／山本又一朗■製作担当／神野　智■脚本／石原純一、岩井田利治、金春智子■監修／深沢　弘■監督／鈴木　清■助監督／阪本順治■撮影／大岡新一、石渡　均、中津伸治■空中撮影／松田一彌■編集／小倉昭夫、田口秀夫■音楽／馬飼野康二■ＥＤ「ワイルド・ワン」作詞／山川啓介　作曲、唄／南こうせつ　キャニオンレコード　〈アニメーションスタッフ〉製作担当／林　大三郎、山川紀生■アニメーション監督／出崎　哲■演出助手／冨永恒雄、須永　司■絵コンテ／永樹凡人、四辻たかお、昆　進之介、出崎　哲■作画監督／清水恵蔵■原画／佐藤真人、若山佳幸、若山佳治、なかじまちゅうじ、高橋敏夫■美術監督／下川忠海■撮影監督／吉坂研一■編集／井上和夫■音響演出／伊達渉■録音／アオイスタジオ■アニメーション製作／株式会社マジックバス、スタジオルック■（株）フィルムリンク、（株）フジテレビジョン、（株）ニッポン放送、（株）東和プロダクション提携作品■声の出演　江本（江本孟紀）　アナウンサー（玉置　宏）　ニュースキャスター（佐々木信也）　レポータ（みのもんた）　アナブキ（村上不二夫）　アンドウ（飯塚昭三）　オズ（緒方賢一）　ナカハタ（青野　武）　コマダ（富山　敬）ほか

NO. 306

超時空要塞マクロス 愛・おぼえていますか CLASH OF THE BIONOIDS



84年7月21日（土）東宝洋画系封切　1時間55分

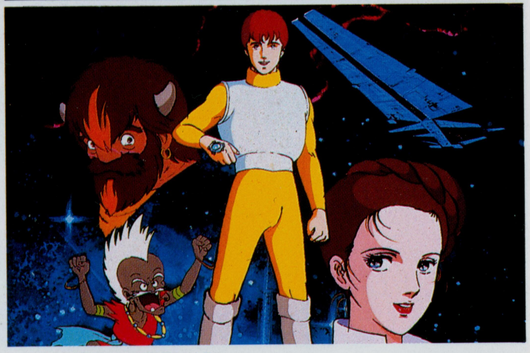
［あらすじ］人類は、宇宙から落下してきた巨大戦艦マクロスを得たことで、宇宙を二分するゼントラーディ軍（男）とメルトランディ軍（女）の戦いに巻きこまれる。バルキリーのパイロット一条輝は、マクロス内部に侵入した敵を追っていて、偶然にアイドル歌手リン・ミンメイを救い、ふたりきりで閉鎖ブロックに取り残される。無事生還したふたりに好奇の目が集中するが、主任戦闘管制官の早瀬未沙も、なんとなく魅かれる輝のことなので、気が気でない。

［解説］テレビシリーズ「超時空要塞マクロス」をベースにし、構想も新たに全編新作で描きなおした劇場版。テレビ版は、パロディ感覚のＳＦ、ハードなメカアクションなど、さまざまな魅力をもった作品であったが、若き河森正治監督は、それを、輝、ミンメイ、未沙の３人のラブドラマに絞りこむことによって映画化に成功している。テレビ版でも活躍した美樹本晴彦、板野一郎、平野俊弘らの手により、メカアニメの画面としては、ほぼ究極のものとして完成。

原作／スタジオぬえ　原作協力／アートランド■製作／大西良昌、吉田健二■プロデューサー／井上明、岩田　弘、榎本恒幸■制作担当／佐藤直人、中村正雄、由井正俊■ストーリー構成、脚色／河森正治■脚本／富田祐弘■監督／石黒　昇、河森正治■演出／秋山勝仁、笠原達也■キャラクターデザイン／美樹本晴彦■プロダクションデザイン／宮武一貴■メカニックデザイン協力／出淵　裕、かがみあきら、原田則彦、石津泰志、河森正治■作画監督／美樹本晴彦、板野一郎、平野俊弘■作画監督補／島田英明、垣野内成美、飯田史雄、増尾昭一■原画／庵野秀明、井口忠一、森本晃司、高橋資祐、中村　孝　吉田忠勝ほか■美術監督／宮前光春■美術監督補／本田　修、佐藤広明■カラーボード／宮前光春、西田　稔■撮影監督／橋本和典■編集／三木幸子、谷川幸男、田岡克美、厨川治彦、吉田ちひろ■音楽／羽田健太郎■主題（挿入）歌「愛・おぼえていますか」作詞／安井かずみ　作曲／加藤和彦　ＥＤ「天使の絵の具」作詞、作曲／飯島真理　以上、編曲／清水信之　挿入歌「私の彼はパイロット」ほか　作詞／阿佐　茜　作曲／羽田健太郎　以上、歌／飯島真理　ビクターレコード■音響監督／本田保則■制作協力／アニメフレンド■企画・制作／ビッグウエスト、竜の子プロダクション、毎日放送、小学館■声の出演　リン・ミンメイ（飯島真理）　一条　輝（長谷有洋）　早瀬未沙（土井美加）ほか

NO. 307

SF新世紀レンズマン LENSMAN



84年7月7日（土）東宝東和配給　1時間47分

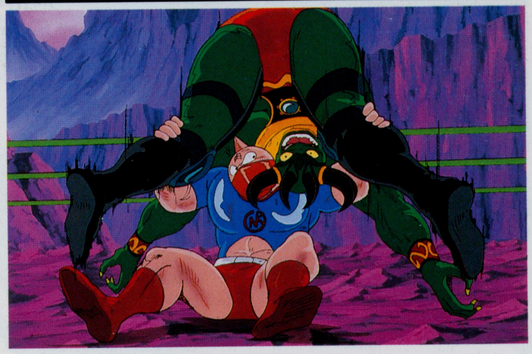
【あらすじ】西暦25世紀。銀河連合は、暗黒星雲からの侵略者・ボスコーンの攻撃を受けた。銀河パトロール隊の戦艦・ブリタニア号はボスコーンの機密データを入手するが、攻撃に会い惑星ムケイエに不時着する。青年キムは、生き残った隊員からデータを収めたレンズを託された。レンズには銀河を守るための超能力が秘められており、それを身につけてレンズマンとなったキムは、女性パトロール隊員・クリスらとともにボスコーンと戦っていくのだった。

【解説】映像事業に乗りだした講談社の第1作で、同社などが共同設立したJCGLによる高技術のCGを多用したスペースオペラ。「レイダース」調のノンストップアクションを志した。マッドハウス系のスタッフによるセルアニメと、レーザープリントされた鮮明なCG（走査線が出ない）が融合、美しい映像を展開する。また井上鑑によるBGMは、クライマックスの対決をアカペラで見せるなど斬新さにあふれ、アルフィーの主題歌もヒットした。

原案／Edward　E″Doc″Smith（「レンズマン」シリーズより）■制作／須藤　博■企画／伊藤章彦（講談社）、金子　満（エムケイ）■プロデューサー／富井道宏（講談社）、渡辺忠美（エムケイ）、丸山正雄（マッドハウス）■アシスタントプロデューサー／岩田一男（講談社）、井上博明（エムケイ）、永山邦明（マッドハウス）■制作デスク／大武正弘■制作管理／高橋保夫■脚本／吉川惣司■監督／川尻善昭、広川和之■絵コンテ／川尻善昭■助監督／鈴木幸雄■演出助手／三吉　勝、山田和彦■キャラクターデザイン／川尻善昭、富沢和雄■メカニックデザイン／渡辺　隆、森本晃司■作画監督／富沢和雄、北島信幸■美術監督／青木勝志■美術デザイン／青木勝志■コンピューター・グラフィック・ラボ／（ＪＣＧＬ）　ＣＧディレクター／高橋文昭■撮影監督／八巻　磐■編集／田中　修■音楽監督／井上　鑑■ＥＤ「〝STAR　SHIP－光を求めて－〟」作詞／高見沢俊彦、高橋　研　作曲／高見沢俊彦　編曲／井上鑑　歌／アルフィー　（キャニオン・レコード）■音響監督／明田川　進■製作協力／株式会社エムケイ、マッドハウス■製作／株式会社講談社■声の出演　キムボールキニスン（古川登志夫）　クラリッサ・マグドゥガル（小山茉美）　バンバスカーク（大塚周夫）　ウォーゼル（野沢那智）　ゲィリィキニスン（中村　正）　ヘインズ提督（柴田秀勝）　ソル（斉藤ゆう子）ほか

NO. 308

キン肉マン



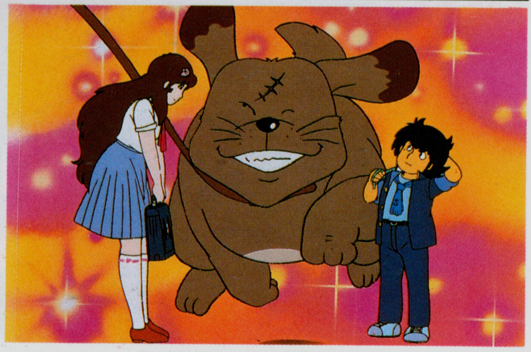
84年7月14日（土）東映系封切　48分
併映作品／Theかぼちゃワイン　ニタの愛情物語、宇宙刑事シャイダー（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕超人オリンピック史上初のV2チャンプとなり、キン肉マンランドの建設に着手しようとしていたキン肉マンの前に、宇宙地下プロレス連盟のボス・オクトパスドラゴン３世が現れ、チャンピオンベルトとマリを力ずくで奪い、返してほしければ明日の12時までにやってこいとの言葉を残し去っていった。超人オリンピックの試合を通じ、今や深い友情で結ばれた６人の正義超人とともに、キン肉マンは大勢の悪党超人の待つメトロ星へ旅立っていった。

〔解説〕漫画とテレビで爆発的人気の「キン肉マン」初の劇場版。オールスターの正義超人一人一人に見せ場が用意され、最後には巨大怪獣との闘いまであるサービス版で、物語、演出、作画に力の入った、シリーズ中もっとも見応えのある作品。子どもたちの圧倒的人気を得、興行的にも大成功だった。正義超人の勢揃いというパターンとともに、このの「キン肉マン」は「まんがまつり」の常連となる。原作者のゆでたまごの2人がオクトパスドラゴンの手下を演じた。

原作／ゆでたまご　集英社「週刊少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／田宮　武■製作担当／関　良宏■製作担当補佐／目黒　宏■脚本／山崎晴哉■監督／白土　武■作画監督／森利夫■原画／高橋英吉、増田信博、深谷英作、山崎唯文、田辺由憲、高橋　昇■美術監督／襟立智子■背景／井出智子、池上みどり、壇　久美子、松尾美千代、田中みつる■撮影監督／玉川芳行■編集／祖田冨美夫■音楽／風戸慎介■ＯＰ「キン肉マンＧＯ ＦＩＧＨＴ！」うた／串田アキラ　ＥＤ「キン肉マンボ」うた／神谷　明　以上、作詞／森　雪之丞　作曲／芹澤廣明　（コロムビアレコード）■録音／市川　修■（製作／東映（東映動画））■声の出演　キン肉マン（神谷　明）　ミート君（松島みのり）　中野さん（はせさん治）　テリーマン（田中秀幸）　ラーメンマン（蟹江栄司）　ナツ子（鶴　ひろみ）　ウォーズマン（堀　秀行）　与作さん（水鳥鉄夫）　キン肉大王（岸野一彦）　キン肉王妃（山口奈々）　ナチグロン（山本圭子）　大会委員長（北川米彦）　猛虎星人（矢田耕司）　ハリゴラス（田中康郎）　マリさん（中島千里）　イワオ（佐藤正治）　キン骨マン（二又一成）　五分刈刑事（戸谷公次）　ロビンマスク（郷里大輔）　リキシマン（広瀬正志）　ウコン（塩屋浩三）　オクトパスドラゴン（大塚周夫）　特別出演（ゆでたまご）　協力／青二プロダクション

NO. 309 Theかぼちゃワイン ニタの愛情物語



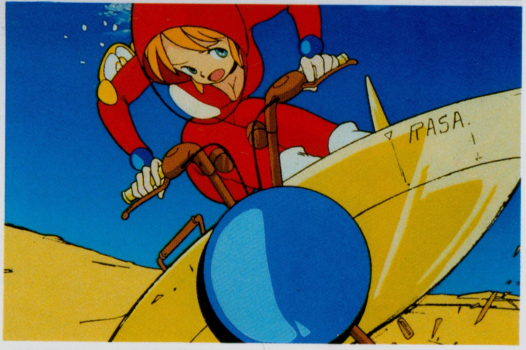
84年7月14日（土）東映系封切　25分
併映作品／キン肉マン、宇宙刑事シャイダー（東映まんがまつり）

［あらすじ］サンシャイン学園の寮で飼われている犬のニタに、なんと子どもがいた。金持ちの滝沢家の飼い犬との間にできたその子犬のため、ニタはあちこちでミルクを盗み、ついには家出までしてしまった。サンシャイン学園のＳＬコンビこと、青葉春助と朝丘夏美の２人は、ニタを捜しはじめる。暴走族の滝沢は、エルをものにしようという魂胆で、ニタの居場所を知っていると嘘をついてエルを自分のヨットに乗せた……。

［解説］テレビの人気シリーズ「Theかぼちゃワイン」の劇場用新作。テレビは軽いお色気が売り物のラブコメだが、今回は東映まんがまつりの１本として制作されたということもあり、犬のニタを中心としたエピソードとなっている。ただ、エルがヨットに乗せられて以後の物語は、けっこうキワドイ雰囲気だった。「キン肉マン」を中心としたこのときのまんがまつりは、実写の「シャイダー」「バイオマン」も含め、全体にできのいい、楽しいプログラムだった。

原作／三浦みつる　講談社「週刊少年マガジン」連載中■製作／今田智憲■企画／栗山富郎■製作担当／菅原吉郎■製作進行／藤本芳弘■脚本／雪室俊一■演出／矢吹公郎■演出助手／三谷章夫■作画監督／松本　清■松本　清、坪川　正、林　敏夫、福山映二、藤原美智子■動画／平　修代、松下弥生、石井邦俊、古沢英明、江口克己■美術進行／御園　博■美術監督／沢田隆夫■背景／沢田隆夫、須田栄子、スタジオ・マリン■仕上進行／中村正弘■特殊効果／中島正之■撮影／白井久男、池上元秋、佐野和広、青島深雪、前原勝則■編集／吉川泰弘（タバック）■音楽／東海林　修■ＯＰ「Ｌエルはラブリー」作詞／伊藤アキラ　作曲／馬飼野康二　編曲／いちひさし　歌／かおりくみこ　ＥＤ「PUMPKINNIGHT」作詞／松本由佳理　補作／伊藤アキラ　作曲／小林亜星　歌／古川登志夫、横沢啓子　コロムビアレコード■録音／田中英行（タバック）■音響効果／伊藤道広（Ｅ＆Ｍ）■選曲／オーディオ・タナカ■（製作／東映（東映動画））■声の出演　春助（古川登志夫）　エル（横沢啓子）　小町（増山江威子）　モン太（大竹　宏）　鶴井（はせさん治）　亀山（佐藤正治）　梢（山田栄子）　テッキン（銀河万丈）　神崎（鶴　ひろみ）　小太郎（鈴木清信）　聖子（中野聖子）　まどか（鈴木富子）　母親（頓宮恭子）　男（塩屋浩三）　滝川（塩沢兼人）　協力／青二プロ

NO. 310 バース（BIRTH） LEGEND OF THE TALISMAN



84年7月21日（土）東急パンテオン公開（早朝上映）　1時間20分

〔あらすじ〕惑星アクロイドに光る剣が落下してきた。少年ナムがひろったその剣を狙って、宇宙の悪の一族・イノガニックたちが襲ってきた。一方、ナムの幼なじみの少女ラサも、イノガニックの兵士たちに襲われる。謎の女性アーリアによって、ナムが手に入れた剣が、イノガニックを倒す力を持った聖剣（シェード）であることを２人はしらされる。宇宙商人のバオとジュノベルの２人とともに、ナムとラサの冒険がはじまる。

〔解説〕劇場公開されたオリジナルビデオアニメ。過激なメカの戦闘シーンで知られる〝鬼才〟金田伊功の同名漫画を、彼自身の手でアニメ化。物語性はほとんど重視されておらず、派手なアクションのみを見せるだけの作品となっている。金田の所属するスタジオNo.１や、カナメプロなどの若手アニメーターが大勢参加し、素晴らしく密度の高い画面を作りあげている。しかし、派手なアクションを、ずっと同じ調子で見せられるのは退屈ではある。

原作／カナメ企画　徳間書店「モーションコミック」連載■原案協力／武上純希■企画、制作／小野寺脩一、相原義彰■プロデューサー／長尾聡浩■制作デスク／武井康公■制作事務／山野陽子■監督／貞光紳也■アニメーションディレクター、キャラクター・デザイン／金田伊功■アニメーションコーディネーター／影山楙倫、いのまたむつみ■メカニックデザイン／小原渉平、小林　誠■メインアニメーター／金田伊功、鍋島　修、影山楙倫、いのまたむつみ、越智一裕、山下将仁、田村英樹、上妻晋作、林隆文、河口俊夫、多田幸子■美術監督／勝又　激■背景／赤保谷則子、石原あきこ、市原勝義、太田大、黒部洋子、清水リエコ、岡野美和子、野々宮恒人、スタジオコスモス■撮影監督／佐野禎司■編集／掛須秀一、松村正宏■音楽／久石　譲■ＥＤ「ザックスの戦士」作詞／荒井まゆみ　作曲／謝花義哲　編曲／久石　譲　唄／シャバナ　イメージソング「不思議なひらめき」作詞／有川正沙子　作曲／鈴木キサブロー　編曲／萩田光雄　唄／冨永みーな■レコーディングディレクター／金子秀昭■音響監督／松浦典良■録音／成田　茂、高橋弘幸■制作協力／ビクター音楽産業■製作／株式会社あいどる、株式会社カナメプロダクション■声の出演　ラサ（冨永みーな）　ナム（矢尾一樹）　バオ（永井一郎）　キム（塩沢兼人）　アーリア（戸田恵子）　ベイビー（つがせのりこ）　モンガー（白石冬美）ほか

NO. 311 地球物語 テレパス2500



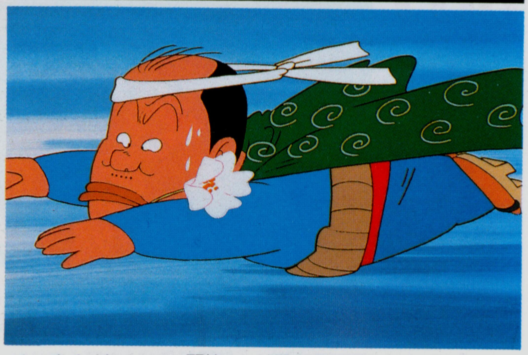
84年8月4日（土）松竹富士配給　1時間45分
併映作品／エリマキトカゲ物語

〔あらすじ〕西暦2500年、トルファン星系第５惑星に住む夢みがちな18歳の少年ウイルは、未来の進路や結婚相手、子どもの人数までもがコンピューターによって決められてしまう管理社会に対しての反感をつのらせていた。そんなやさき、宇宙の山師チーフらと出会ったウイルは、スタージェス号で宇宙へ飛び出すが、宇宙空間で不思議なテレパシーを感じとる。それは羽を持つ少女フローラからのものだった。ウイルは次第に少女はひかれていく。

〔解説〕劇場版として初の完全新作オリジナルに挑戦したタツノコによるファンタジックなＳＦ作品。総監督に「愛と誠」「同棲時代」を手がけた実写の山根成之を起用。またアニメ監督を九里一平、チーフの演出を原征太郎が担当した。物語全体を数パートに分けて、各パートにひとりずつ演出家（真下耕一、澤井幸次、古川順康、石山貴明）をつけるという意気ごみだった。作品世界は、キャラを手がけた天野喜孝のイメージで構成され、作画もそれに応えている。

ノヴェライゼーション「地球物語」　大原まり子、火浦　功、水見　稜　早川書房刊■企画／真鍋二郎、佐藤和雄、吉田健二■プロデューサー／武縄源太郎、市川捷護、井上　明、大井明人■制作担当／森本一雄■脚本／篠崎　好■監督／山根成之■アニメーション・ディレクター／九里一平、原　征太郎■演出補／真下耕一、古川順康、澤井幸次、石山貴明■キャラクター・デザイン／天野嘉孝■メカニック・デザイン／佐藤正浩■作画監修／宮本貞雄■メカニック作監／泉口　薫■原画／二宮常雄、加藤　茂、西城隆詞、水村十司、野辺駿夫、阿部正巳、なかむらたかし、梶谷光春■美術監督／中村光毅■美術担当／多田喜久子■背景／宮川佳子、佐藤広明、沢井裕慈、長谷川正史、明石貞一■撮影／緒方プロダクション■編集／加川武志■音楽／小笠原　寛■ＥＤ「ドゥリー夢」作詩／冬杜花代子　作曲／鈴木キサブロー　唄／久保田めぐみ　ビクターレコード■効果／伊藤克己■録音／ザック・プロモーション、松竹映像録音スタジオ■製作／松竹株式会社、ビクター音楽産業株式会社、竜の子プロダクション■声の出演　ウイル（水島　裕）　チーフ（小林清志）　ザジ（納谷六朗）　アストリアス（宮内幸平）　ジルコン（西尾　徳）　主（家弓家正）　ナレーター（仲村秀生）　エリダ（井上　瑶）　ピピ（三田ゆう子）　ロン（勝生真沙子）　ルカイ（筈見　純）　ロベルト（千葉耕市）　フローラ（ＭＩＥ）ほか

NO. 312 カッくんカフェ



84年9月22日（土）ジョイパックフィルム配給　1時間26分

〔あらすじ〕超大物政治家カッくんは、日本人なら誰もが知っているスーパーアイドル。風向きばかり気にしているナカソネ、徳島生まれで皮肉屋のミキ、何事につけセコいフクダ、「アー、ウー」しか言わないオオヒラといった面々が彼の仲間だ。高校時代はラグビー部で汗と涙を流し、政界に進出。ソーリ大臣にもなったカッくんは、ニューヨークのホテルでクサヤを焼いて大騒ぎになったり、米ソの核戦争をくいとめたりと、あいかわらず話題の中心人物だ。

〔解説〕短編集的な作品を多数手がけている亜細亜堂が、東京メディアコネクションと共同制作した映画。芝山努が得意とする似顔絵風キャラクターにより田中角栄、三木武夫、中曽根康弘らの政治家が描かれている。田中角栄のパロディ映画でありながらも、政治風刺は〝かくし味〟的なものに抑えられ、全体としては誰がみても楽しめるギャグ作品に仕上がっている。なお、上映期間の都合により削られたパート（絵コンテ・小林治）が存在する。

原作／カックン制作団■原作協力／石川雄一郎、康山一生、西　ゆうじ、松本茂雄、野口健作、粕田道夫、松下幹夫■制作／宇田川東樹■企画／西城鉄雄、宇田川東樹■企画協力／田中知二、御領博、梅本　満■制作デスク／木村建吾■監督／小林　治■絵コンテ／河内日出夫、山口みちしろ、本郷みつる、望月智充、森脇真琴、水谷貴哉■作画監督／芝山　努■原画／竹内プロ、竹内留吉、三角昌子、飯塚葉子、アニマル屋、本多敏行、奈須川　充、木上益治、座円洞、向中野義男、松本朋之、鹿島つねやす、イルカ、児玉兼嗣、神村幸子、川越　淳、北原プロ、北原健雄、尾形重夫、大森利之、亜細亜堂、須田裕美子、後藤真砂子、石井文子、洞沢由美子、辻　久子、高木広樹、宮本英子、青木悠三、十条　東、古宇田文男、若山佳寿、若山佳治■美術監督／清水一利■背景／なかちか東、菊池正典、広瀬愛一郎、長嶋陽子、伊奈淳子、男鹿和雄■撮影監督／若菜章夫■編集／榾本英雄■音楽プロデューサー／野口健作■音楽／福井　峻、平野　融■ＯＰ「猛烈カックンロール」作詞／伊藤あきら　作曲／中村泰士　唄／ヒロスケＥＤ「こういっちゃナンだけど……」作詞／幕ノ内　作曲／実川俊晴　唄／なぎら健壱　以上、編曲／実川俊晴■音響監督／明田川　進■録音／辻井一郎■製作／カックン製作団、TOKIOM'C、亜細亜堂■声の出演　（伊武雅刀）（高橋恵子）（竹中直人）（桑原茂一）（長谷川和彦）（古館伊知郎）ほか

NO.
313 キン肉マン
大暴れ！正義超人

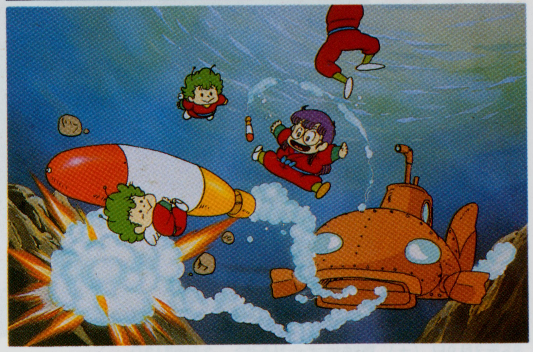


84年12月22日（土）東映系封切　48分
併映作品／Dr.スランプ　アラレちゃん　ほよよ！ナナバ城の秘宝、宇宙刑事シャイダー　追跡！しぎしぎ誘拐団（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕キン肉族に敵対するホルモン族の女王ビビンバは、悪魔超人を倒し故郷のキン肉星に凱旋したキン肉マンの命を狙ったが、その優しさにふれて彼を愛するようになる。彼女を人質にとり、彼女に想いをよせるバーベキュー族の王子シシカバブーを利用し、宇宙暗黒帝王ブラックエンペラーはキン肉マンに挑戦状を叩きつけた。そして、戦いを忘れ、それぞれ永年の夢を果たそうとしている正義超人たちのもとにも、ブラックエンペラーの手下が迫っていた。
〔解説〕劇場2作目。ラーメンマンにはブラックメンルイなど、それぞれに対応した敵役が登場した。テレビより一足早く、元悪魔超人のバッファローマンが正義超人の仲間入りを果たし、新必殺技キン肉バスターも登場し、子どもたちを喜ばせた。今回のゆでたまごはブラックエンペラーの手下を演じた。前作の忍者超人ウコンのボスの大ウコンが登場し、また名前のことでキン肉マンにバカにされた。ウコン一族の登場は、以降、映画「キン肉マン」の恒例となる。

原作／ゆでたまご　集英社「少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／田宮　武■製作担当／関　良宏■脚本／山崎晴哉■監督／白土　武■作画監督／森　利夫■原画／高橋英吉、深谷英作、山崎唯文、多田康之、小曽根孝夫■美術監督／襟立智子■背景／井出智子、壇　久美子、池上みどり、松尾美千代、田中みつる■撮影監督／高橋明彦■編集／祖田冨美夫■音楽／風戸慎介■ＯＰ「炎のキン肉マン」作曲／芹澤廣明　うた／串田アキラ　ＥＤ「キン肉マンボ」作曲／森　雪之丞　うた／神谷　明　以上、作詞／森　雪之丞　（コロムビアレコード）■録音／市川　修■（製作／東映（東映動画））■声の出演　キン肉マン（神谷　明）　ミート君（松島みのり）　中野さん（はせさん治）　キン肉大王（岸野一彦）　キン肉王妃（山口奈々）　ナチグロン（山本圭子）　ナツ子（鶴　ひろみ）　マリさん（中島千里）　ビビンバ（山本百合子）　シシカバブー（野田圭一）　ブラックエンペラー（柴田秀勝）　ホルモン王（八奈見乗児）　テリーマン（田中秀幸）　ラーメンマン（蟹江栄司）　五分刈刑事（戸谷公次）　ロビンマスク（郷里大輔）　ウォーズマン（堀　秀行）　キン骨マン（二又一成）　バッファローマン（佐藤正治）　与作さん（水鳥鉄夫）　大会委員長（北川米彦）　大ウコン（矢田耕司）　特別出演（ゆでたまご）　協力／青二プロダクション

NO.
314 Dr.スランプ アラレちゃん
ほよよ！ナナバ城の秘宝



84年12月22日（土）東映系封切　48分
併映作品／キン肉マン　大暴れ！正義超人、宇宙刑事シャイダー　追跡！しぎしぎ誘拐団（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕ノリマッキ伯爵がヒマヤナ山脈で発見した、どんな願いでもかなえてくれる伝説のナナバ王国の秘宝〝虹の瞳〟。アラレとあかねとガッちゃんズの怪盗ほよよ団が、その虹の瞳を盗みだそうとしたとき、ナナバ王国の生残りビスナに先に奪われてしまった。ビスナは虹の瞳で魔神を蘇らせてナナバ王国を復活させようとたくらんでいるのだ。ほよよ団とタロウ刑事、ピースケ警部は、虹の瞳を取り返すためビスナの飛行船を追い、謎のナナバ城へ向かった。
〔解説〕劇場4作目。時代は世界恐慌の嵐吹き荒れる1929年、ペンギン村とは関係ない世界で、おなじみのキャラが別の役で活躍する番外編。長くテレビシリーズに参加していた東映動画研修生の芝田浩樹の劇場監督デビュー作である。劇場、テレビの「Dr. スランプ」と劇場「ドラゴンボール」に脚本として参加している由木義文は、本職がインド哲学の研究家であり、この作品のラストには彼の東洋的な考えがこめられているのだという。

原作／鳥山　明　集英社（週刊少年ジャンプ）連載■製作総指揮／今田智憲■企画／七條敬三■製作担当／岸本松司■脚本／島田　満、由木義文■監督／芝田浩樹■演出助手／佐藤　豊■作画監督／前田実■原画／前田　実、内山正幸、海老沢幸男、進藤満尾、青木雅之、竹内留吉、広瀬和子、田頭津弥子、劉　輝久、須田正己■美術監督／浦田又治■美術進行／森　英樹■背景／小笠原ゑつこ、池田祐二、秦秀信、谷口百範、丸森俊昭、塩崎広光、塚越幸江、千田国広、高田茂祝、土井則良■撮影監督／白井久男■編集／吉川泰弘■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「わいわいワールド」唄／水森亜土　こおろぎ'73　ＥＤ「いちばん星み〜つけた」唄／水森亜土　以上、作詩／河岸亜砂　作曲／菊池俊輔　編曲／たかしまあきひこ　（コロムビアレコード）■オーディオディレクター／小松亘弘■音響効果／新井秀徳■録音／二宮健治■（製作／東映（東映動画））■声の出演　アラレ（小山茉美）　センベエ（内海賢二）　みどり（向井真理子）　あかね（杉山佳寿子）　タロー（古川登志夫）　オボッチャマン（堀江美都子）　ニコちゃん大王（大竹　宏）　ツルリン（三田ゆう子）　ガッちゃんズ（中野聖子）　ピースケ（神保なおみ）　ガラ（田の中　勇）　暗黒健太（玄田哲章）　パーザン（戸谷公次）　チャカポ（千葉　繁）　パゴス（佐藤正治）　カート（龍田直樹）　魔人（八奈見乗児）　ビスナ（小池朝雄）

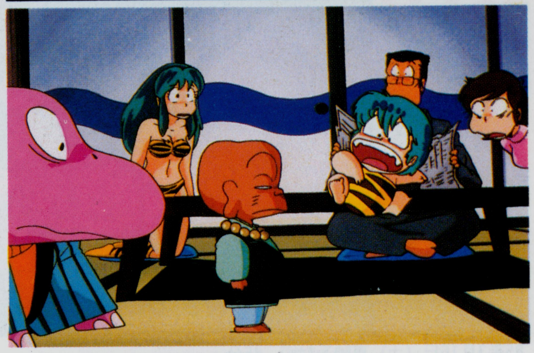
'85 昭和60年

「まんがまつり」は、前年に引き続き人気の「キン肉マン」が、春、夏、正月と連続して新作で登場。同じくテレビで人気の「キャプテン翼」「ゲゲゲの鬼太郎」も、定番組として登場するようになり、かつての〝マジンガー対決シリーズ〟に続く、まんがまつり第2期黄金期に突入することとなる。

'83年12月に発売された「ダロス」で、劇場作品、テレビ作品でもない、オリジナルビデオアニメという新ジャンルが開拓された。そして、その1本「バース」が、'84年に劇場公開されたものを最初に、オリジナルアニメという新ジャンルが次々と劇場公開されるという新傾向が、映画界に生れることになった。この年には「メガゾーン23」「ジャスティ」など10本近い作品が劇場公開されている。

アニメファンのみを対象にしたビデオアニメが発売される一方で、「ルパン三世」「カムイの剣」「オーディーン」と、3本の大作映画の公開が興業的に失敗。一般を対象にした「幸福物語」「銀河鉄道の夜」が一応のヒット作となっている。アニメブームはすでに終わり、アニメファンのみを対象にした作品が、必ずしも成功しなくなってきたのだった。

NO.
315 うる星やつら3
リメンバー・マイ・ラヴ

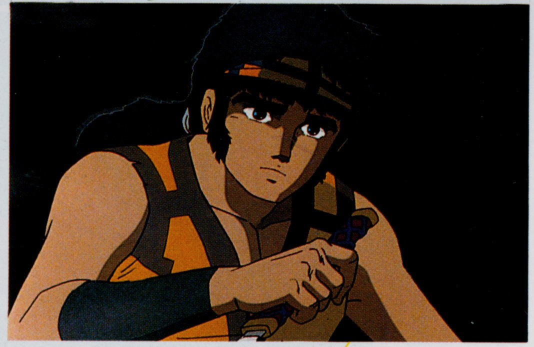


85年1月26日（土）東宝洋画系封切　1時間30分

〔あらすじ〕友引町に新設された〝友引メルヘンランド〟の開園日に出かけて行ったあたるは、謎のマジシャンによってカバにされてしまう。実はそのマジシャンこそ、未来からやってきた少年ルウであった。ルウとともに異空間へと消え去るラム。ルウはラムを慕い、呪いのガラス玉の力を借りてラムを自分の世界に閉じこめたのである。ラムを失って自分の想いに気づいたあたるは、ルウの家庭教師ラーラとともに、ラム救出のために異空間へと突入する。
〔解説〕劇場版第3作。テレビでも「うる星」のチーフディレクターとなったやまざきかずおの初の劇場作品である。「ビューティフル・ドリーマー」の影響が見られるが、劇場用「うる星」のなかでは「完結編」を除けば最も脚本に忠実な作品。総作監の森山ゆうじと並び、作監の土器手司が実力を発揮、総じて若手の原画マンが健闘した。美術は昼のシーンを新井寅雄、夜のシーンを小林七郎が担当。首都圏では、劇場版全5作中、唯一単独上映された作品である。

原作／高橋留美子　（小学館／少年サンデー連載）■製作／多賀英典■企画／落合茂一■企画協力／小学館／週刊少年サンデー、岡　正（フジテレビ）■アニメーションプロデューサー／長谷川　洋■脚本／金春智子■監督／やまざきかずお■キャラクターデザイン／高田明美■総作画監督／もりやまゆうじ■作画監督／土器手　司■原画／森山雄治、奈良美津子、川名久美子、増尾昭一、津久井明子、市川吉幸、大滝友子、北久保弘之、大貫健一、榎本明広、金森賢二、合田浩章ほか■美術監督／小林七郎、新井寅雄■撮影監督／若菜章夫■編集／森田清次、坂本雅紀、宮内季美子■音楽／ミッキー吉野　サウンドトラック／キャニオンレコード■音楽監督／早川裕■ＯＰ「BORN TO BE FREE」ＥＤ「REMEMBER MY LOVE」詞／RALPH McCARTHY　曲／タケカワユキヒデ　編曲／土方隆行　歌／STEFFANIE BORGES■録音監督／斯波重治■製作協力／スタジオディーン■声の出演　ラム（平野文）　あたる（古川登志夫）　面堂（神谷　明）　しのぶ（島津冴子）　テン（杉山佳寿子）　サクラ（鷲尾真知子）　♨先生（池水通洋）　メガネ（千葉　繁）　竜之介（田中真弓）　竜之介の父（安西正弘）　了子（小山茉美）　レイ（玄田哲章）　ラン（小宮和枝）　弁天（三田ゆう子）　ルウ（鈴木一輝）　マジシャンのルウ（岩田光央）　ラーラ（島本須美）　Ｏ島タヌキ（菅谷政子）　おばば（京田尚子）ほか

NO. 316 カムイの剣
REVENGE OF THE NINJA WARRIOR

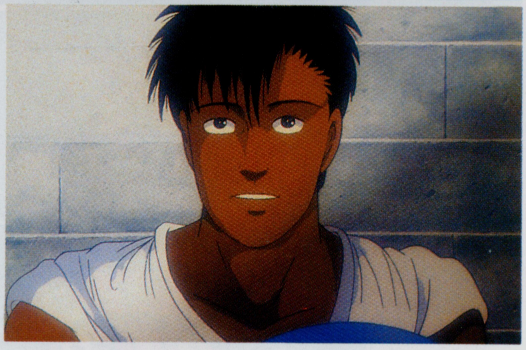


85年3月9日（土）東映株式会社配給　2時間12分
併映作品／ボビーに首ったけ

〔あらすじ〕安政元年、青森県佐伊ノ村。養母殺しの罪を着せられた少年・次郎は、謎の僧侶・天海に引き取られ北海道へ渡った。天海のもとで忍びとなった次郎は、ある日コタンで実母と再会、天海こそ自分たち親子を引き離した怨敵と知る。抜け忍となった次郎を、華麗な技を使う女忍者・お雪たち天海の忍者群が追う。秘剣・カムイ無拍子を駆使して闘う次郎。一方、惨殺された養母の手に握られていた〝カムイの剣〟は、様々な謎をはらみ彼をアメリカへ導く。
〔解説〕角川アニメ第3作。矢野徹の長編小説を「佐武と市捕物控」を生み出した、りん、真崎、村野が手がけ、かつて「佐武…」で強調された静と動、暗と明の画面作りを透過光を駆使したものへと昇華させた。作画では、なかむらたかし、森本晃司、大塚伸治、梅津泰臣、川尻善昭らがそれぞれの個性を生かした殺陣や忍者の動きを表現。音楽面でも、宇崎竜童が和太鼓（林英哲演奏）やジャワ島の民族音楽ケチャをロックと組み合わせるなど効果的であった。

原作／矢野　徹　角川文庫版■製作／角川春樹■プロデューサー／丸山正雄、池上　悟、りんたろう■制作担当／浅利義美、岩瀬安輝■設定／丸山正雄■脚本／真崎　守■監督／りんたろう■助監督／石崎すすむ、楠美直子、江幡宏之■キャラクターデザイン、イラストレーション／村野守美■メカニックデザイン／板橋克己■作画監督／野田卓雄■作画監督補佐／松原京子■原画／清山滋崇、松原京子、大橋学、なかむらたかし、川尻善昭、大塚伸治、梅津泰臣、新川信正、森本晃司、福島敦子、鍋島　修、才田俊次、伊東　誠、星野絵美、山内昇寿郎、池田淳子、高坂希太郎、寺沢伸介、宇都宮　智、栗原玲子、稲垣賢吾■美術監督／椋尾　篁■美術／男鹿和雄、窪田忠雄■美術助手／河野尋美、橋爪富紀子■撮影監督／八巻　磐■編集／田中　修■音楽プロデューサー／高桑忠男、石川　光■音楽監督／宇崎竜童、林　英哲■ＥＤ「カムイの剣」　挿入歌「カムイの子守唄」　以上、作詞／阿木燿子　作曲／宇崎竜童　編曲／萩田光雄　歌／渡辺典子■音響プロデューサー／明田川　進■音響制作／マジックカプセル■録音／土井一郎（アオイスタジオ）■音楽録音／鈴木健雄、石橋　守、中野正次■ドルビー４ｃｈ音楽ミキサー／大野映彦（アオイスタジオ）■制作／プロジェクトチームアルゴス、マッドハウス■製作／角川春樹事務所■声の出演　次郎（真田広之）　天海（石田弦太郎）　お雪（小山茉美）ほか

NO. 317 ボビーに首ったけ



85年3月9日（土）東映株式会社配給　44分
併映作品／カムイの剣

【あらすじ】大学受験を目前にした高校3年生のバイク大好き少年・野村昭彦（通称ボビー）に、ある日突然見も知らぬ岡山の少女・中原咲美からの手紙が届いた。バイク雑誌に載ったボビーの記事を見てという。とまどいつつも返事を書くボビー。こうして、ふたりの文通がはじまった。そんな日々、ボビーは進学を強いる父に反発し、木田の経営するカフェ・バー〝Booby's〟でアルバイトをはじめる。変わりゆく季節のなかで、ボビーと咲美の文通は続く。
【解説】片岡義男の短編小説を元に、ビデオクリップ的な映像感覚を見せた中編アニメ。「カリフォルニア物語」のマンガ家・吉田秋生がキャラクターを提供した。ドラマ性をおさえ、雨など天候の描写や、バイクシーンに比重をおくことで、原作の乾いたタッチが生かされており、マッドハウスの硬質な作画とあいまって、片岡義男の映像化でも成功した作品の一つである。角川事務所の新人・野村宏伸が主人公の声と歌を担当した。

原作／片岡義男　角川文庫版■製作／角川春樹■プランナー／りんたろう■プロデューサー／丸山正雄、岩瀬安輝■製作担当／大武正弘■設定／真崎　守■脚本／石森史郎■監督／平田敏夫■助監督／鈴木幸雄、江幡宏之■キャラクターデザイン／吉田秋生■作画監督／大橋　学■原画／本木久年、なかむらたかし、松原京子、大塚伸治、森本晃司、河口俊夫■エンディング　演出／清水広良　イメージデザイン／わたせせいぞう　イラストレーション／阿部幸夫■美術監督／山川　晃■背景／番野雅好、池畑祐治、松岡　聡■色指定／西表美智代■仕上検査／久田由紀■テクニカルスーパーバイザー／八巻　磐■撮影監督／石川欽一■編集／尾形治敏■音楽コーディネーター／高桑忠男、石川　光■音楽／奥　慶一■挿入歌「ボビーにRock'n Roll」作詞／松本　隆　作曲／南　佳孝　編曲／大村雅朗　歌／野村宏伸　角川レコード・ＣＢＳソニー　ＥＤ　「BOBBY'S GIRL」歌／清水マユミ　■音響監督／明田川　進■録音／辻井一郎■制作協力／角川書店、本橋松治、ティ・ニシムラ、緒方プロダクション、オンリーフォアライフ、青二プロダクション、アニメーションスタッフルーム■制作／プロジェクトチーム・アルゴス、マッドハウス■製作／角川春樹事務所■声の出演　ボビー（野村宏伸）　木田（根津甚八）　父・保（塚本信夫）　中原咲美（村田博美）　久保田幸雄（堀川　亮）　妹・佳子（清水マユミ）　※クレジットタイトルは英語表記

NO. 318 キン肉マン 正義超人VS古代超人

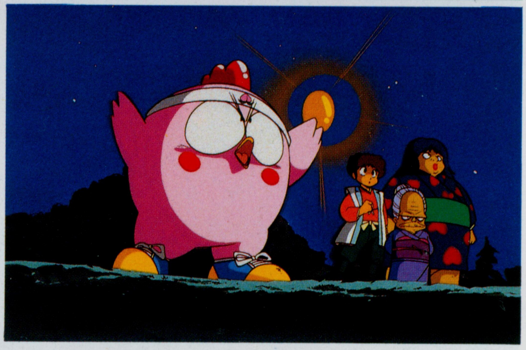


85年3月16日（土）東映系封切　45分
併映作品／GU－GUガンモ、とんがり帽子のメモル（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕悪魔将軍を倒し、マリさんや子どもたちとイースター島へ遊びにきていたキン肉マンの前に、モアイ像のなかから古代超人のストーンサタンたちが現れた。宇宙の大魔王サタンキングがいつの日か地球に正義超人が集まることを予想し、大昔の地球に大勢の手下を潜ませていたのだ。他の古代の遺跡のなかからも次々と古代超人が現れ、世界を旅していた正義超人たちに襲いかかってきた。時代を越えた正義超人と古代超人の宿命の戦いが、いまはじまる。
〔解説〕劇場3作目。山吉康夫の初監督作品。白土監督の前2本に比べ、山吉監督の「キン肉マン」はギャグの比重が大きいようだ。古代超人たちは、しゃ光土器土偶からハニワサタン、モアイ像からストーンサタン、映画の「半魚人」からジョーズサタンと、それぞれ出現する古代遺跡などに合わせた資料からヒントを得て森利夫がデザインしたものだ。今回のゆでたまごは、ウコン一族の子孫のウコン3世とその副官を演じた。

原作／ゆでたまご　集英社「週刊少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／田宮武■製作担当／関　良宏■脚本／山崎晴哉■監督／山吉康夫■作画監督／森　利夫■原画／高橋英吉、小曽根孝夫、深谷英作、河村信道、山崎唯文、松下清志、多田康之、水野祥司■美術監督／襟立智子■■撮影監督／白井久男■編集／祖田冨美夫■音楽／風戸慎介■ＯＰ「炎のキン肉マン」作曲／芹澤廣明　うた／串田アキラ　ＥＤ「キン肉マンボ」作曲／森雪之丞　うた／神谷　明　以上、作詞／森　雪之丞（コロムビアレコード）■録音／市川　修■（製作／東映（東映動画））■声の出演　キン肉マン（神谷明）　ミート君（松島みのり）　中野さん（はせさん治）　ナツ子（鶴　ひろみ）　幸一少年（川島千代子）　テリーマン（田中秀幸）　ウォーズマン（堀秀行）　ナチグロン（山本圭子）　マリさん（中島千里）　キン肉大王（岸野一彦）　キン肉王妃（山口奈々）　ラーメンマン（蟹江栄司）　ブロッケンＪｒ.（水鳥鉄夫）　大会委員長（北川米彦）　リキシマン（広瀬正志）　ロビンマスク（郷里大輔）　キン骨マン（二又一成）　五分刈刑事（戸谷公次）　バッファローマン（佐藤正治）　ハニワサタン（佐藤正治）　幼稚園児（石澤美華）　幼稚園児（佐藤智恵）　ストーンマン（矢田耕司）　サタンキング（永井一郎）　特別出演（ゆでたまご）　協力／青二プロダクション

NO. 319 Gu-Guガンモ



85年3月16日（土）東映系封切　45分
併映作品／キン肉マン　正義超人VS古代超人、とんがり帽子のメモル（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕むかしむかし、あるところにおじさんとおばさんが住んでいた。おじさんの切ったタケノコから生まれたタケノコタロウのガンモとおばさんに拾われた桃から生まれた半平太の2人はうまくノセられ、元祖桃太郎・本家桃太郎として宝を求めて鬼ケ島へ向かった。2人を待ち受けていたのは最新メカで武装したサイゴー、リンダ、カシオたちの鬼。彼らとの激しい追っかけの末、ガンモたちはスペースシャトルを発見、宝を求めて月へ向かっていった。
〔解説〕「ガンモ」のキャラを使い、桃太郎などのおとぎ話のパロディにＳＦメカアクションをかけ合わせたハチャメチャ物語。「Dr.SLUMP」同様、監督の永丘昭典の個性が強く出た作品である。テレビシリーズでめざましい活躍をしていた井上俊之を作画監督に、梶島正樹、志田正博、魔砂雪、後藤隆幸、毛利和昭、北久保弘之など若手アニメーターの密度の高い作画により、ひたすらドタバタと走り、暴れ回るノリのいい作品となった。

原作、メカデザイン／細野不二彦　小学館「週刊少年サンデー」連載■製作、総指揮／今田智憲■企画協力／岡　正（フジテレビ）、片岡義郎（旭通信社）■プロデューサー／横山賢二■製作担当／佐々木章■脚本／土屋斗紀雄■監督／永丘昭典■助監督／渡辺美和子■作画監督／井上俊之■原画／山口正幸、志田正博、深沢幸司、安東信悦、高橋直人、新岡浩美、入好さとる、北原健雄、梶島正樹、伊藤浩二、北久保弘之、下田正美、星野絵美、毛利和昭、伊東誠、福島喜晴、中山勝一、後藤隆幸■美術監督／鹿野良行■背景／佐藤美美子、橋本五月、河野尋美、森下朋美、峯村るみ子■撮影監督／玉川芳行■撮影／井上清行、渡辺英俊■編集／花井正明■音楽／小笠原　寛■ＯＰ「ガンモ・ドキッ！」ＥＤ「ヒョコポン関係」以上、作詞・曲／森　雪之丞　編曲／戸田誠司　演奏／雪之丞シンジケート　うた／スージー松原　挿入歌／「リュウグウ・ショータイム」作詞／冬杜花代子　作・編曲／小笠原　寛　うた／星野アイ■オーディオディレクター／小松亘弘■音響効果／新井秀徳（フィズサウンド）■録音／蔵本貞司■（製作／東映（東映動画））声の出演　ガンモ（杉山佳寿子）　半平太（田中真弓）　つくね（大塚智子）　あゆみ（高橋美紀）　パパ、デジャブー（千葉　繁）　ママ（吉田理保子）　リンダ（三田ゆう子）　カシオ（水島　裕）　サイゴウ（塩沢兼人）メリコ（頓宮恭子）　松任屋（小宮和枝）ほか　協力／青二プロダクション

NO. 320 とんがり帽子のメモル

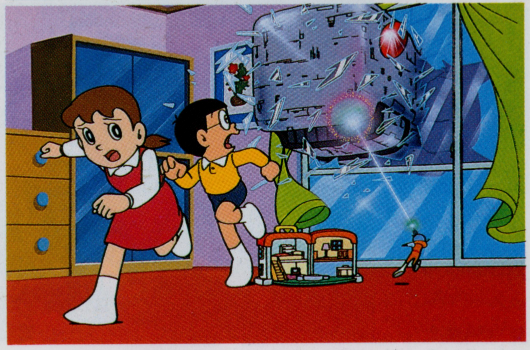


85年3月16日（土）東映系封切　15分
併映作品／キン肉マン　正義超人VS古代超人、GU－GUガンモ（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕ちっちゃなからだのリルル星人のメモルと病弱な少女のマリエルは、大の親友同士。健康をとり戻したマリエルは、音楽の勉強をするため街のサンロアーヌ芸術学園へやってきた。メモルが自分に会うためサンロアーヌまで旅してきたことを知った彼女は、無断で学院の外に捜しに出て、退学させられることになってしまう。マリエルは学院のピアノでメモルとの思い出の曲を弾きはじめる。風にのった曲は街のどこかにいるメモルのもとに届くだろうか。
〔解説〕「まんがまつり」では久々の再編集作品。テレビシリーズ25話のBパートを中心とし、1、7、24話のフィルムで構成されている。メモルとマリエルの再会を描いた25話は、舞台がサンロアーヌ学園に移るポイントとなるエピソードで、シリーズで活躍していた若手演出家の佐藤順一の実力が発揮された傑作。小松原一男の作画、土田勇の美術も見応えのあるものだ。ファンに人気の高い「メモル」唯一の映画版としては、あまりにも小品であった。

連載／「たのしい幼稚園」「おともだち」「ディズニーランド」■プロデューサー／鍋島進二（朝日放送）、荻野　宏（旭通信社）、旗野義文（東映動画）■製作担当／横井三郎■脚本／雪室俊一■演出／佐藤順一■演出助手／岡　佳広■キャラクター原案／名倉靖博■作画監督／小松原一男■原画／杉野佐秩子、保谷由佳、永井恵子、武荒　恵、根岸博文■動画／木村郁代、清水　洋、矢吹　勉、江野沢柚美■小道具デザイン／鈴木郁乃■美術／土田　勇■美術進行／北山礼子■背景／小林祐子、有川知子、今野良子、上田三輪子■仕上／安永陽子、斉藤葉子、杉田清美■仕上進行／松永一光■特殊効果／岡田良明■撮影／佐野和広■編集／望月　徹■音楽／青木望■ＯＰ「とんがり帽子のメモル」作詞／ＴＡＲＡＫＯ　作曲／古田喜昭　うた／山野さと子　（コロムビアレコード）■録音／池上信照■音響効果／大平紀義■選曲／渡辺恭野（ビモス）■記録／樋口裕子■現像／東映化学■（製作／東映（東映動画））■声の出演　メモル（渡辺菜生子）　マリエル（安田あきえ）　ポピット（川島千代子）　ジミー（つかせのりこ）　ジミーの母（坪井章子）　舎監（中谷ゆみ）　警官（塩屋浩三）　院長（増岡　弘）　ナレーター（増山江威子）　協力／青二プロ

NO. 321 ドラえもん のび太の宇宙小戦争

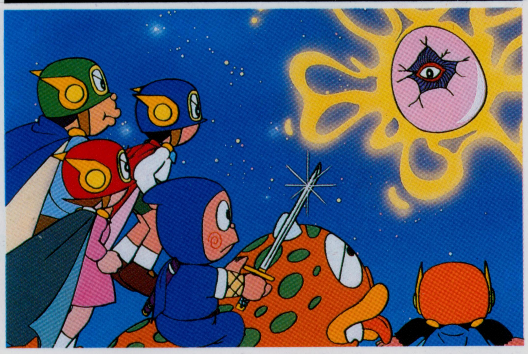


85年3月16日（土）東宝系封切　1時間38分
併映作品／忍者ハットリくん＋パーマン　忍者怪獣ジッポウVSミラクル卵

〔あらすじ〕ドラえもん、のび太、しずかの３人は、映画作りをしていて小さな宇宙船を見つける。それは、ピリカ星の小さな宇宙人パピが、地球へ脱出してきた宇宙船だったのだ。のび太たちはパピをかくまうが、パピを追ってきたＰＣＩＡの兵によってしずかが捕らえられてしまう。しずかの身代わりにつかまったパピを救うため、のび太たちは改造ラジコン戦車で武装してピリカ星に乗りこみ、レジスタンスを続けている自由同盟に参加することになる。
〔解説〕〝長編ドラえもん〟の第６作。独裁者ギルモアによる軍事政権打倒を描く、戦闘的色彩の濃い物語である。前作に続いてオープニングにコンピューターグラフィックが使用され、以後ドラえもんの名物となる。自然保護キャンペーンのテーマは〝みんなともだち〟で、入場者に〝ともだちカード〟が配られた。また、東京と大阪で〝おとなのためのオールナイト上映〟が試みられ、いずれも満員となり話題を呼んだ。武田鉄矢が作詞だけでなく、ついに歌も担当。

原作・脚本／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、てれびくん、コロコロコミック、別冊コロコロコミックほか■プロデューサー／別紙壮一、小泉美明、木村純一、波多野正美■制作担当／田村正司、山田俊秀■文芸／水出弘一■監修／楠部大吉郎■監督／芝山　努■レイアウト／本多敏行■作画監督／富永貞義■原画／飯山嘉昌、大武正枝、東海林真一、末吉裕一郎、神村幸子、川越ジュン、あべじゅん子、木上益治、奈須川　充、鈴木信一、窪田正史ほか■美術設定・デザイン／工藤剛一■美術監督／川本征平■撮影監督／斉藤秋男■編集／井上和夫■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ドラえもんのうた」作詞／楠部　工　作曲／菊池俊輔　歌／大杉久美子　コロムビアレコード　ＥＤ「少年期」作詞／武田鉄矢　作曲／左孝康夫　歌／武田鉄矢　ポリドールレコード■録音監督／浦上靖夫■効果／柏原　満■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　ジャイアン（たてかべ和也）　スネ夫（肝付兼太）　しずか（野村道子）　ママ（千々松幸子）　ゲンブ（金井大）　パピ（潘　恵子）　ロコロコ（三ツ矢雄二）　ドラコルル（屋良有作）　部下（中尾隆聖）　出木杉（白川澄子）　しずかのママ（松原雅子）　ギルモア（八名信夫）ほか

NO. 322 忍者ハットリくん＋パーマン 忍者怪獣ジッポウVSミラクル卵

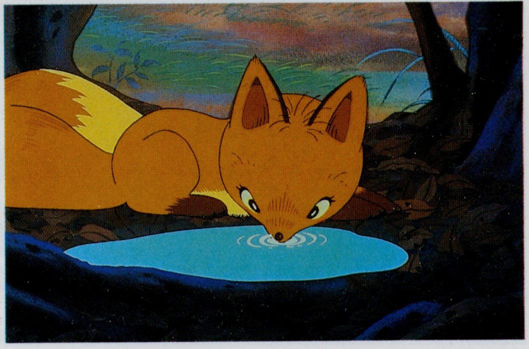


85年3月16日（土）東宝系封切　52分
併映作品／ドラえもん　のび太の宇宙小戦争

【あらすじ】謎の隕石が、たくさんのピンク色の卵を地球に降らせた。その１個を拾い持ち帰る獅子丸。一方、伊賀の里からハットリくんの幼なじみの忍者怪獣・ジッポウがやってきた。ジッポウは街が化け物に襲われる夢を見たために上京してきたという。ハットリくんは卵をシノビノ博士のもとへ持ちこんで分析してもらうことにした。話を聞いてパーマンたちもやってくるが、突然、卵のなかから植物の形をしたエイリアンが出現して巨大化しはじめた。
【解説】ハットリくんとパーマンの共演作品が、前年に引き続いて製作された。やはりハットリくん側が主役で、パーマン側が協力するという形である。ところで藤子アニメは劇場版とテレビシリーズとのストーリーが同一線上にあることが多く、前作「超能力ウォーズ」で初登場した超能力サボテンのトゲ次郎や、今回初登場の忍者怪獣ジッポウが、その後TVシリーズで準レギュラーとなっている。原作は「コロコロコミック」に掲載された。

原作／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌、マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、小学一年生、小学二年生、小学三年生、小学四年生、小学五年生、小学六年生、コロコロコミック、別冊コロコロコミック、てれびくん■プロデューサー／加藤良雄、小泉美明、木村純一、波多野正美■制作担当／茂木仁史■制作デスク／佐藤雅恭■脚本／桜井正明■総監督／笹川ひろし■監修／鈴木伸一■監督／原田益次■絵コンテ／青山　弘、藤原良二、原田益次■演出助手／パクキョンスン■作画監督／なかじまちゅうじ■原画／タカハシトシオ、高橋邦仁、山田展彦、菊地由行、芝崎　計、丸山政次、宍倉　敏、森　一浩ほか■美術監督／宮野　隆■撮影監督／都島雅儀■編集／岡安　肇ほか■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「忍者ハットリくん」作詞／藤子不二雄　唄／堀　絢子ＥＤ「ハットリ忍法ニニンのニン」作詞／緒方賢一　唄／三田ゆう子、緒方賢一　以上、作曲・編曲／菊池俊輔　コロムビアレコード■録音監督／大熊　昭■製作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■（声の出演）　ハットリ（堀　絢子）　パーマン（三輪勝恵）　ケンー（菅谷政子）　ブービー（大竹宏）　シンゾウ（三田ゆう子）　パー子（増山江威子）　シシ丸（緒方賢一）　バードマン（安原義人）　ケムマキ（パーヤン）（肝付兼太）　ジッポウ（滝口順平）　ミラクル卵（柴田秀勝）ほか

NO. 323 ごんぎつね



85年3月16日（土）日本ヘラルド映画配給　1時間16分
併映作品／まんが日本昔ばなし　桃太郎（リバイバル）、まんが日本昔ばなし　浦島太郎

【あらすじ】子ギツネのごんは、母キツネと死に別れ、一匹だけでの生活をはじめた。谷川に落ち下流の村に流れついたごんは、そこに住みついた。ある夏の日、村の青年・兵十が病気の母親に食べさせようととった鰻を、ごんは逃がしてしまう。秋、兵十の母が死に、鰻を逃がしたことをごんは反省し、つぐないのために山の茸や木の実を兵十の家へ運ぶことにする。ある夜、兵十は、自分の家に入ろうとするごんを、そうとは知らず撃ち殺してしまう。
【解説】テレビの人気アニメシリーズ「まんが日本昔話」の10周年を記念して制作された作品。原作は、30歳でその生涯を閉じた新美南吉が、故郷愛知県の民話をもとに創作したもの。原作にない母キツネの死などのエピソードが加えられている。シリーズでもおなじみの市原悦子が母キツネを、常田富士男が兵十を演じている。

原作／新美南吉■企画製作／川内彩友美■制作／中田実紀雄、藤田　健■制作担当／近藤栄三、関　雅史、栗田佳枝■脚本／伊東恒久■監督／前田康成■演出助手／宇井孝司■イメージキャラクター／池原昭治■作画監督／大竹伸一■作監補佐／塚田洋子、三浦弘二■アニメーター／丹内　司、阿部　司、小野隆哉、山本哲也、佐藤　徹、高橋信也、鈴木　満、橋本とよ子、大久保早苗、岡　豊、小柳信行、石黒　篤、松崎郁江、沢田博子、島村有美子、高木三枝子、沖山　健、金海由美子■動画チェック／多賀深美■作画協力／竜の子動画研究所、マジックバス、スタジオライオンズ、ラ·ジカルパーティー■美術監督／門屋達郎■背景／門屋達郎、下道一範、小林プロダクション■色指定／西牧志づ子■撮影監督／若菜章夫■撮影／古川雅士、門井美樹■音楽／槌田靖織■ＥＤ「心からイエスタディ」詩／大津あきら　曲・編曲／鈴木キサブロー　歌／葛城ユキ　ラジオシティレコード　オリジナルサウンドトラック盤／コロムビアレコード■音響監督／田代敦巳■効果／加藤昭二■調整／伊東忠美■録音／新坂録音■制作協力／スタジオぎゃろっぷ、アニメフレンド■声の出演　ごん（田中真弓）　くめ（水城蘭子）　弥助（林　一夫）　加助（槐　柳二）　新兵衛（江藤　漢）　はな（安達　忍）　八重（瀬能礼子）　あさ（牧野和子）他／テアトル·エコー　母ぎつね（市原悦子）　兵十（常田富士男）

NO. 324 メガゾーン23

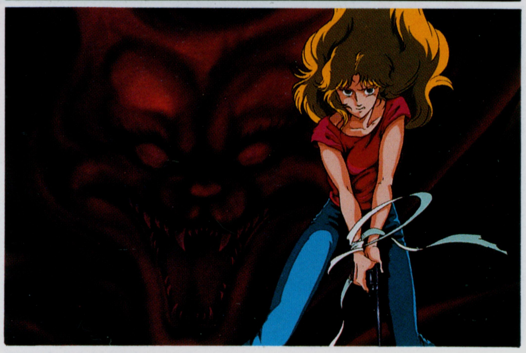


85年3月23日（土）東映クラシックフィルム配給　1時間47分

〔あらすじ〕バイク好きの矢作省吾は、友人から可変バイク型兵器ガーランドを手に入れ、軍に追われることになる。恋人高中由唯の同居人・智美と映画のロケハンに出た省吾は、東京の地下世界へと迷いこみ、その正体（コンピュータ・バハムートによって制御される都市型宇宙船）を知る。他の宇宙船との戦闘のために軍事色を強めていく東京。人気歌手時祭イブが、ガーランドから省吾に助けを求めてきた。彼女はバハムートの作りだしたイメージだった……。
〔解説〕劇場公開されたオリジナルビデオアニメの1本。メインキャラのデザインを平野俊弘が担当、時祭イブのデザインのみ三樹本晴彦が担当。また、アクション監督として板野一郎がメカアクションを担当するなど、先に大ヒットを記録した劇場「マクロス」のスタッフが中心となっており、その延長線上の作品という印象が強い。美少女キャラとメカアクションという、オリジナルビデオアニメの一大パターンを確立した作品であり、画面のクオリティは高い。

原作／石黒　昇■制作／アートランド、アートミック、小野寺脩一、須田英昭■企画／鈴木俊充■プロデューサー／三浦　享■脚本／星山博之■監督／石黒　昇■演出／長谷川康雄、板野一郎■絵コンテ／板野一郎、平野俊弘、梅津泰臣、石黒　昇■オリジナルキャラクターデザイン／平野俊弘■スペシャルゲストデザイン／美樹本晴彦■メカスーパーバイザー／窪田正義■メカニックデザイン／柿沼秀樹、荒牧伸志、宮尾　岳■アクション監督／板野一郎■作画監督／平野俊弘、板野一郎、美樹本晴彦、垣野内成美■原画／垣野内成美、本谷利明、結城信輝、門上洋子、福島喜晴、伊藤浩二、大上浩明、森川定美、増尾昭一、庵野秀明、岩滝　徹、三坂　徹、小沢尚子、上野　賢、藤高栄光、篠崎俊克、寺沢伸介、佐藤晴彦、北爪宏幸、宮尾　岳、山下将仁、神原敏明、しまだひであき、清瀬紀文、よしもときんじ、梅津泰臣、桑原周枝、横山淳一■美術監督／中村光毅■美術設定／佐藤正浩■撮影監督／吉坂研一■編集／西出栄子■音楽／鷺巣詩郎■ＥＤ「背中ごしにセンチメンタル」作詩／三浦徳子　作曲／芹澤廣明　編曲／鷺巣詩郎　唄／宮里久美　ビクター音楽産業株式会社■音響監督／本田保則■製作／株式会社あいどる、ビクター音楽産業株式会社■声の出演　矢作省吾（久保田雅人）　高中由唯（川村万梨阿）　村下智美（冨永みーな）　夢叶　舞（荘　真由美）　時祭イヴ（宮里久美）ほか

NO. 325 戦国魔神ゴーショーグン 時の異邦人



85年4月27日（土）大映配給　1時間30分

【あらすじ】宇宙をさすらう若き戦士・レミー島田は、仲間とともに異星の街へたどり着くが、そこで奇怪な死の宣告を受ける。70代のレミーは異星の近代都市で事故に巻きこまれ、死に瀕していた。そして7歳のレミーは縦穴に落ち、死を覚悟していた。それぞれのレミーを苦しめる幻影たちと、励ます仲間たちの姿。やがて、一発の銃弾に生きる意志をこめて発射したとき、すべてのレミーは一つになり、未来へ向かって歩きだすのだった。
【解説】徳間書店の第1回ビデオ作品として制作された。人気TVシリーズの登場人物だけを抽出して、多元宇宙をさすらう人人の冒険物語に発展させた小説版の設定によるオリジナル作品だが、キャストはTVと同じ。ヒロイン・レミーの心象風景を中心に、いくつもの時間が並行して一つのドラマを形成する複雑な構成だが、スプラッター映画を意識しながらも格調を崩さず、シャープな幻想美を作りあげ、映画らしさが強く感じられる作品になっている。

原作・脚本／首藤剛志■製作／徳間康快、佐藤俊彦■企画／徳間書店、葦プロダクション■ゼネラルプロデューサー／山下辰巳■制作プロデューサー／梅原　勝■プロデューサー／尾形英夫、加藤　博■出版プロデューサー／鈴木敏夫、高橋　望■監督／湯山邦彦■作画レイアウト／清水恵蔵、平田智浩■キャラクターデザイン、総作画監督／本橋秀之■作画監督／川筋　豊■原画／長岡康史、奥野元子、羽原信義、粟井重紀、田村英樹、菊池通隆、上妻晋作、市角博継、工藤柾輝、池上裕之、和田卓也、大島利恵、四分一節子、小林ゆかり、鈴木伸一、松田芳明、小椋真由美、佐々木正克、伏田光宏、前島健一、大島秀範、村田美樹子、St, Artland, St, アニメアール■美術監督／新井寅雄■撮影監督／橋谷誠一■編集／辺見俊夫、正木直幸、関　一彦■音楽／あかのたちお■音楽制作／三浦光紀、平田久男（徳間ジャパン）■ＥＤ「時の異邦人」作詞／リリイ　作曲／小島良喜　挿入歌「真夜中のメリーゴーランド」作詞／リリィ、桑名晴子　作曲／桑名晴子　以上、編曲／小島良喜　歌／桑名晴子　（徳間ジャパン）■音響監督／松浦典良■制作協力／徳間ジャパン■声の出演　レミー（小山茉美）　真吾（鈴置洋孝）　キリー（田中秀幸）　ブンドル（塩沢兼人）　カットナル（木原正二朗）　ケルナグール（郷里大輔）　レミーの母（藤田淑子）　女の子（高田由美）　老婆（津田延代）ほか

NO. 326 ペンギンズ・メモリー 幸福物語

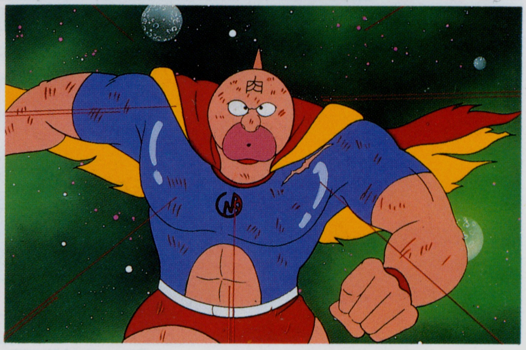


85年6月22日（土）東宝東和配給　東宝洋画系封切　1時間41分

〔あらすじ〕デルタ戦争に従軍して心身ともに傷ついたマイクは、放浪のはてに図書館員としてレイクシティに落ちついた。そんなある日、公園で歌手になることを夢見る少女ジルと出会い、愛し合うようになる。彼女は大病院院長の娘だった。しかしマダム・オハラの紹介でプロデューサーのボブと出会ったジルは、歌手への道を歩みだす。また野心家の医師ジャックは、マイクに自分はジルの婚約者だと告げる。ジルの幸福を願うマイクは身を引こうとするのだった。
〔解説〕'84～'85年に放送されたサントリー缶ビールのCMアニメ（「カサブランカ」など名作映画のパロディをペンギンが演じた）の人気を背景に映画化された。内容はペンギンの可愛いキャラによるアメリカ映画のオマージュという異色作。キャラデザインのひこねのりおは東映動画出身のベテランで、近年は明治製菓の〝カール〟等のCMアニメで活躍している。主題歌と挿入歌は松田聖子。1作目のCMでも使われた「スウィート・メモリーズ」は聞きモノ。

原作／長沢岳夫■制作担当／永山邦明、千々和久仁子■プロデューサー／菅谷　覚■アソシエイトプロデューサー／高橋　渉■アニメーションプロデューサー／香西隆男■制作コーディネーター／間宮武美■制作事務／佐藤真理、浅見民子、村山由紀子、城田瑠枝■脚本／河野　洋、川崎　良、久野　麗　ドデカゴン■監督／木村俊士■演出助手／小熊公晴、三谷章夫、江幡宏之、西山明樹彦、鈴木　元、山口頼房■絵コンテ／永丘昭典、福富　博、今沢哲男、森脇真琴、ひこねのりお■オリジナル・キャラクターデザイン、アニメーション監督／ひこねのりお■キャラクターデザイン、作画監督／鈴木欽一郎、兼森義則■アニメーション監督／永丘昭典■作画監督補佐／平田かほる、賀川　愛■美術監督／高野正道■美術設定／下川忠美、番野雅好、鹿野良行、襟立智子■イラストレーション／塚木馨三■撮影監督／八巻　磐■編集／尾形治敏■編集助手／伊藤勇喜子■音楽監督／松任谷正隆■音楽プロデューサー／若松宗雄■音楽制作ディレクター／佐藤洋文、津久間孝成、杉村昌子、塚脇貞秦、椙山由美、豊原真士■ＥＤ「ボーイの季節」作詞、作曲／尾崎亜美　編曲／大村雅朗　歌／松田聖子■音響監督／明田川　進■録音／堀内　治■アニメーション制作／アニメーションスタッフルーム■声の出演　マイク（佐藤浩市）　マダム・オハラ（藤田弓子）　ジャック（奥田瑛二）　ジル（鶴　ひろみ）ほか

NO. 327 キン肉マン 逆襲！宇宙かくれ超人

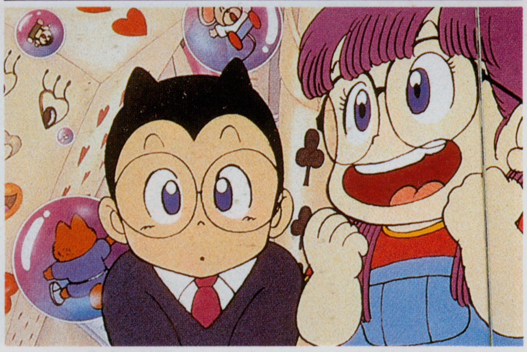


85年7月13日（土）東映系封切　39分
併映作品／Dr.スランプ　アラレちゃん　ほよよ！夢の都メカポリス、キャプテン翼　ヨーロッパ大決戦（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕ハイドラ星に隠れ住み、いつか宇宙征服をしようとたくらんでいた宇宙かくれ超人が、ついに活動をはじめた。かくれ超人の帝王・ハイドラキングが、パワーアップして蘇ったニューアシュラマンやニューサンシャインたちを使いロビンマスクを捕らえ、そして正義超人の弱点が書かれているという〝ロビンメモ〟を奪いとり、キン肉マンたちに挑戦状を叩きつけてきたのだ。はたして弱点を知られてしまった正義超人に勝ち目はあるのか。
〔解説〕ますますギャグタッチの劇場4作目。〝ロビンメモ〟の正体にも実はオチがあって、実際にはキン肉マンたちは弱点をつかれたりはしない。正義超人が力を合わせての必殺技〝超人サザンクロス〟は、この作品のオリジナル。この映画より9人目の正義超人としてジェロニモが活躍する。エンディングは3頭身キャラの可愛さが話題を呼んだ「キン肉マン音頭」が使われた。今回のゆでたまごはウコン3世の息子のウコンジュニアとその副官を演じた。

原作／ゆでたまご　集英社「少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／田宮　武■製作担当／関　良宏■脚本／山崎晴哉■監督／山吉康夫■作画監督／森　利夫■原画／高橋英吉、山崎唯文、深谷英作、小曽根孝夫、多田康之、松本朋之■美術監督／襟立智子■背景／井出智子、壇　久美子、池上みどり、松尾美千代、田中みつる■撮影監督／菅谷信行■編集／祖田冨美夫■音楽／風戸慎介■ＯＰ「炎のキン肉マン」作曲／芹澤廣明　うた／串田アキラ　ＥＤ「キン肉マン音頭」作曲／森　雪之丞　編曲／田中公平　うた／神谷　明、松島みのり　以上、作詞／森　雪之丞　（コロムビアレコード）■録音／市川　修■（製作／東映（東映動画））■声の出演　キン肉マン（神谷　明）　ミート君（松島みのり）　中野さん（はせさん治）　ナツ子（鶴ひろみ）　マリさん（中島千里）　テリーマン（田中秀幸）　ジェロニモ（塩沢兼人）　ウォーズマン（堀　秀行）　ナチグロン（山本圭子）　キン肉大王（岸野一彦）　キン肉王妃（山口奈々）　ラーメンマン（蟹江栄司）　ブロッケンＪｒ．（水島鉄夫）　大会委員長（北川米彦）　ロビンマスク（郷里大輔）　リキシマン（広瀬正志）　バッファローマン（佐藤正治）　キン骨マン（二又一成）　五分刈刑事（戸谷公次）　ハイドラブートン（矢田耕司）　ハイドラキング（青野　武）　特別出演（ゆでたまご）　協力／青二プロダクション

NO. 328 Dr.スランプ　アラレちゃん　ほよよ！夢の都メカポリス



85年7月13日（土）東映系封切　38分
併映作品／キン肉マン　逆襲！宇宙かくれ超人、キャプテン翼　ヨーロッパ大決戦（東映まんがまつり）

〔**あらすじ**〕ある夜、ペンギン村の子どもたちは宇宙からやってきた不思議な光に誘われて、木も建物も美しいメカでできた街・メカポリスを訪れた。そこは子どもの願いをなんでもかなえてくれる楽園だった。アラレとガッちゃんズは怪獣さんと遊び、ピースケは憧れのヒーローになり、あかねはうまい食い物を食い、突詰はケンシロウもどきの拳法家になることができた。しかし、メカポリスのプリンセスのキノコは、そんな彼らに腹をたて、こらしめようとする。
〔**解説**〕劇場5作目。前の4作は冒険物の色合いが強かったが、これはギャグを基調にしたややファンタジックな作品。テレビシリーズで育ち、活躍を続けてきた島田満と照井啓司の脚本と、シリーズの初期に作監・演出として多くの傑作を生んだ芦田豊雄の絵コンテにより、キャラの個性を十分に生かした楽しい作品となった。この翌年にシリーズも終了し、映画もこれが最後の作品。エンディングのあと、アラレの「おしまい！」のセリフでラストがしめくくられた。

原作／鳥山　明　集英社「週刊少年ジャンプ」連載■原案／由木義文■製作総指揮／今田智憲■企画／七條敬三■製作担当／岸本松司■脚本／島田　満、照井啓司■監督／芦田豊雄、竹之内和久■監督助手／佐藤　豊■作画監督／前田　実■原画／海老沢幸男、内山正幸、青木雅之、劉　輝久、須田正己■美術監督／浦田又治■美術進行／森　英樹■背景／小笠原ゑつこ、丸森俊昭、塩崎広光、千田国広、塚越幸江、行　信三、小澤稔幸、吉池隆司■撮影監督／坂西　勝■撮影チーフ／町田賢樹■撮影／片山幸男、高橋洋一、細田民男、清水政夫、武井利晴、福井政利、今村昌史、玉川芳行、井上清行■編集／吉川泰弘■ネガ編集／篠原香里■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「わいわい行進曲」作詩／河岸亜砂　作曲／菊池俊輔　唄／小山茉美、コロムビアゆりかご会　ＥＤ「アレアレ　アラレちゃん」作詩／冬杜花代子　作曲／サマンサ　唄／水森亜土　こおろぎ'73　以上、編曲／たかしまあきひこ　（コロムビアレコード）■オーディオディレクター／小松亘弘■音響効果／伊藤克己■録音／二宮健治■録音助手／佐藤　守■声の出演　則巻アラレ（小山茉美）　則巻センベエ（内海賢二）　みどり、キノコ（向井真理子）　木緑あかね（杉山佳寿子）　空豆タロウ（古川登志夫）　ガッちゃんズ（中野聖子）　ピースケ（神保なおみ）　オボッチャマン（堀江美都子）ほか

NO. 329 キャプテン翼　ヨーロッパ大決戦

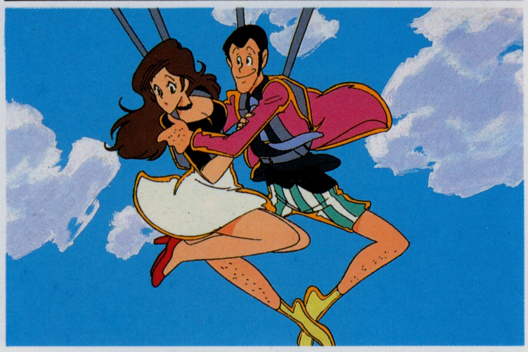


85年7月13日（土）東映系封切　41分
併映作品／キン肉マン　逆襲！宇宙かくれ超人、Dr.スランプ　アラレちゃん　ほよよ！夢の都メカポリス（東映まんがまつり）

【**あらすじ**】日本サッカーの世界征覇を胸に秘めたサッカー協会の片桐により、翼をキャプテンとする全日本選抜チームが結成され、ヨーロッパ遠征が実現した。対するは、西独の皇帝とよばれるシュナイダーをはじめ、仏のNo.1ピエールなどを中心とした超強豪チームだ。ＭＦに翼と岬、ＦＷに日向、ＧＫには若林に大事をとらせ若島津というメンバーでのぞむ日本に対し、甘く見てかかるヨーロッパ選抜。いま世界の決戦がはじまろうとしている。
【**解説**】テレビシリーズの人気アニメ「キャプテン翼」の初の劇場用新作。原作ではラストに描かれる対シュナイダー戦が、ひとあし早く描かれた。テレビシリーズは、女子中学生を中心に、個々のキャラクターにそれぞれのファンがついた人気作品。そのため、元来、子どもを対象にしていた「まんが祭り」に、大勢の女の子が殺到するという珍事をうむことになった。

原作／高橋陽一　集英社刊　週刊少年ジャンプ連載■プロデューサー／江津兵太（テレビ朝日）、茂垣弘道、小平正夫■製作事務／藤田理香■文芸担当／大金正一■脚本／菅　良幸■チーフディレクター／光延博愛■演出／岡本達也■作画監督、キャラクターデザイン／岡迫亘弘■原画／小島秀人、保田康治、野館誠一、松本勝次、渡辺はじめ、興村忠美■美術監督／中野一朗■背景／宮前光春、杉浦正一郎、今井幸恵、松田千鶴子、垣田由美子、竹内奈緒子■撮影監督／森下成一、高橋明彦■編集／岡安　肇、小島俊彦、中葉由美子、村井秀明、田中政行、小野寺桂子■音楽／飛沢宏元■ＥＤ「ロンゲスト　ドリーム」作詞、作曲／内木　弘　編曲／鷺巣詩郎　歌／竹本孝之　レコード／ＣＢＳソニー■音響監督／山崎　宏■製作／テレビ東京、土田プロダクション■声の出演　翼（小粥よう子）　岬（山田栄子）　小次郎（鈴置洋孝）　若林（橋本晃一）　若島津（飛田展男）　石崎（丸山裕子）　和夫（鈴木れい子）　政夫（ならはしみき）　井沢（中原　茂）　タケシ（上村典子）　高杉（広森信吾）　松山（鈴木みえ）　来生（伊倉一恵）　城山（沢木郁也）　片桐（島田敏）　早苗（坂本千夏）　奈津子（猪瀬明子）　理加（松井菜桜子）　シュナイダー（難波圭一）　ピエール（堀内賢雄）　スティーブ（小滝　進）　ヘフナー（矢尾一樹）　アナウンサー（村山　明）ほか　演技事務／草野誠一（俳協）

NO. 330 ルパン三世　バビロンの黄金伝説



85年7月13日（土）東宝洋画系封切　1時間40分

〔**あらすじ**〕ニューヨークマフィアのドン・マルチアーノが、親の代から捜し求めている、紀元前5世紀に神が隠したという伝説のバビロンの黄金。それに目をつけ活動を開始したルパンの前に、ロゼッタという不思議な婆さんが現れた。そして彼女が置いていった燭台には、どうやらその秘宝に関する秘密が隠されているらしい。ＩＣＰＯ世界美人婦警軍団をひきつれた銭形警部も巻きこんで、ニューヨークを舞台にルパンたちの伝説の黄金争奪戦がはじまる。
〔**解説**〕劇場3作目。テレビ第2シリーズより監修として「ルパン」に参加していた鈴木清順が監督を、ハチャメチャな作風で知られる浦沢義雄が脚本を担当。劇場前2作とはだいぶ作風が異なるスラップスティックな内容となっている。五ヱ門が中国の婦人警官に一目惚れしてしまう一幕もあった。カルセール麻紀のマルチアーノなど異色な配役が話題になり、公開時には河合奈保子の演じたキャラを当てさせるクイズが、新聞紙上などで企画されていた。

原作／モンキー・パンチ　アクション・コミックス双葉社刊■製作／藤岡　豊■プロデューサー／片山哲生、佐野寿七、武井英彦■製作担当／松本理人、横溝隆久■設定／飯岡順一、小野田博之■脚本／浦沢義雄、大和屋　竺■監督／鈴木清順、吉田しげつぐ■助監督／荻原露光■絵コンテ／吉田しげつぐ、小華和ためお、甲賀　電■作画監督／青木悠三、柳野龍男、尾鷲英俊■原画／丹内　司、山内昇寿郎、長岡康史、兵藤　敬、大森英敏、窪岡俊之、坂本英明、遠藤栄一、牟田清司、丸山晃一、道籏義宣、高坂希太郎、川崎博嗣、あべどん、福田忠助、飯田つとむ、瀬尾康博、菖蒲隆彦、高田三郎、宇都宮　智、阿部　司、松本小百合、田中二郎、佐藤真人■美術監督／石垣　努■背景／石垣プロダクション、テレコム・アニメーションフィルム、現代制作集団、清水一利、小倉昌宏、海保甚三郎ほか■撮影／長谷川肇■編集／鶴渕允寿■音楽監督／鈴木清司■音楽／大野雄二■主題歌「MANHATTAN JOKE」作詞／秋元　康　作曲／大野雄二　歌／河合奈保子　コロムビアレコード■録音／加藤　敏■制作協力／東京ムービー■製作／東宝、日本テレビ、よみうりテレビ、東京ムービー新社■声の出演　ルパン三世（山田康雄）　峰不二子（増山江威子）　次元大介　（小林清志）　石川五右ヱ門（井上真樹夫）　銭形警部（納谷悟朗）　ロゼッタ（塩沢とき）　マルチアーノ（カルーセル麻紀）ほか

NO. 331 銀河鉄道の夜

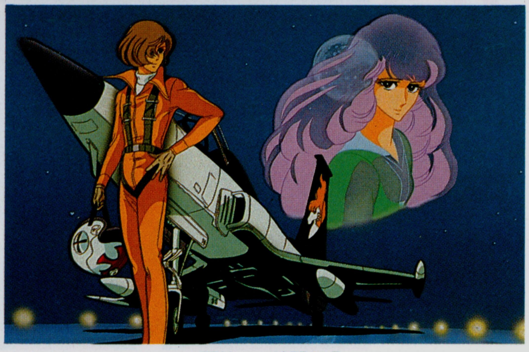


85年7月13日（土）日本ヘラルド映画配給　1時間47分

〔**あらすじ**〕ジョバンニは、病気の母とふたり暮らしの孤独な少年。星祭りの夜、天気輪の丘をひとりで通ると、突然汽車が現れた。乗りこむと、そこには親友のカムパネルラが水に濡れ、蒼い顔をして座っている。ふたりを乗せた汽車は星の野を走った。つぎつぎと現れては消える不思議な光景と奇妙な乗客たち。そしてとうとうカムパネルラも、静かな別れの言葉をのこして姿を消してしまう。気がつくとジョバンニは、ひとりで、もとの丘の上にいた。
〔**解説**〕原作の人物を、ネコに置き換えて忠実に漫画化した、ますむらひろしのコミックスを原案・キャラクターに採用。さらに原作と突き合わせながら映像化した。全体はいくつかのシークエンスに分かれ、杉井監督のもとで、それぞれ異なる演出家が絵コンテを担当している。映像にも音楽にも、他のアニメと異なる、もの静かな淋しさが漂い、別役脚本の台詞回しも、それを助けた。文部省、青年、成人の部特選。タイトルはすべてエスペラント語訳が併記されている。

原作／宮澤賢治■原案／ますむらひろし　朝日ソノラマ刊■企画／伊藤正昭、山下健一郎■プロデューサー／原　正人、田代敦巳■アシスタントプロデューサー／藤川　健■制作／川人憲治郎、兼坂勝利、近藤栄三■脚本／別役　実■監督／杉井ギサブロー■絵コンテ／杉井ギサブロー、真下耕一、前田康成、湯川高光、小林三男、水谷貴哉、小林　治、こはなわためお■アニメーション監督／前田庸生■設定デザイン／児玉喬夫■作画／江口摩吏介、猿山二郎■原画／二木真希子、中島　薫、名倉靖博、丹内　司、小野隆哉、遊佐和重、小林一幸、岡　豊、前田康成、阿部信子、小原秀一、桜井美知代、千田幸也、阿部　司、湯川高光、松本小百合、田中　保■美術／馬郡美保子■舞台設定／青木　稔■背景／田中静恵、渡辺由美、飯島久美子、横瀬直土ほか■コンピュータグラフィックス／東洋現像所ビデオセンター（アクメシステムーII）■撮影／小山信夫■編集／古川雅士■音楽／細野晴臣■挿入曲　ヘンデル作曲「メサイヤ」より　ハレルヤコーラス　指揮／池宮英才　合唱／東京女子大学クワイヤ　演奏／新日本フィルハーモニー交響楽団■音響／田代敦巳■製作プロダクション／グループ・タック、ヘラルド・エース■製作／朝日新聞社、テレビ朝日、日本ヘラルド映画グループ■声の出演　ジョバンニ（田中真弓）　カムパネルラ（坂本千夏）　ザネリ（堀　絢子）　カムパネルラの父（納谷悟朗）　先生・学者（金田龍之介）　燈台守（常田富士男）ほか

NO. 332 エリア88

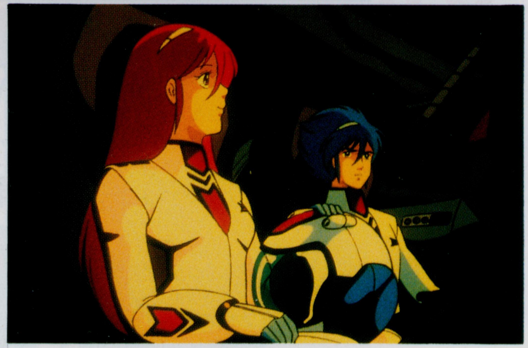


85年7月20日（土）東映クラシックフィルム配給　1時間38分
併映作品／ジャスティ、テラ戦士ΨＢＯＹ（一部の劇場のみ）

〔あらすじ〕親友・神崎の裏切りにより、アスラン王国の外人部隊に送られた風間真は、除隊に必要な違約金を稼ぐため、連日危険な戦闘に出撃する。雑誌で真の写真を見つけた恋人・涼子は、自分もアスランへ行こうとするが神崎に妨害される。失意のまま東京行き旅客機に乗る涼子。ところが客のひとりに部隊の上官サキがおり、彼の命を狙うテロリストによってしかけられた爆弾が……。それを知ったサキは、無線で基地から真とその戦友・ミッキーを呼ぶ。
〔解説〕新谷かおるの同名漫画を原作としたオリジナルビデオアニメ「ＡＣＴⅠ—裏切りの大空」と「ＡＣＴⅡ—狼たちの条件」の２本を編集し、劇場公開したもの。もともとこの２本は、１本の長編として企画されたものだった。難しいと思われていた新谷のキャラクターをきれいに動かし、アニメでは珍しい戦闘機によるドックファイトをリアルに描き、ドラマ的にもしっかりしたものに仕あがっており、丁寧な作りのビデオ作品であった。

原作／新谷かおる　少年ビッグコミック連載（小学館）■企画制作／宇佐美　廉■プロデューサー／布川ゆうじ■制作担当／山内拓司、奥野敏聡■監督／鳥海永行■演出助手／新林　実、青木佐恵子（後者はやや小さく表示される）■脚本／酒井よしあき■キャラクター・デザイン、作画監督／岡田敏靖■原画／江村豊秋、青嶋克己、堀川留子、種本武美、練木正宏、新留俊哉、小林裕也■動画チェック／永井毅、吉川文代ほか■美術監督／中村光毅■背景／デザインオフィスメカマン、佐藤正浩、岡田有章、吉崎正樹、三浦　智、木下和宏、杉山祐子、青木龍夫、村山得江、佐藤輝信■撮影監督／橋本和典、杉村重郎■編集／森田編集室、坂本雅紀、宮内季美子、森田清次■音楽／新田一郎■ＯＰ「HOW FAR TO PARADISE」作詞／LINDA HENNRICK歌／デレク・ジャクソンＥＤ「悲しみのDESTINY」作詞／水谷啓二　歌／MIO　以上、すべて　作、編曲／新田一郎■音響監督／斯波重治■アニメーション制作／スタジオぴえろ■製作／プロジェクト88■配給／東映クラシックフイルム株式会社■CAST　風間真（塩沢兼人）　神崎　悟（安原義人）　サキ・ヴァシュタール（志垣太郎）　津雲涼子（玉川砂記子）　ミッキー・サイモン（富山　敬）　六木　剛（仲村秀生）　マッコイ（家弓家正）　安田秘書（榊原良子）　風間　真（少年時代）（坂本千夏）　神崎　悟（少年時代）（田中真弓）ほか

NO. 333 ジャスティ

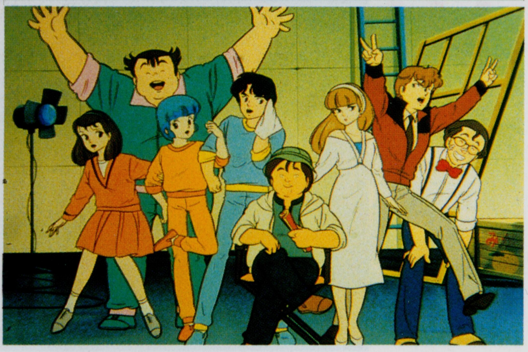


85年7月20日（土）東映クラシックフィルム配給　44分
併映作品／エリア88、テラ戦士ΨＢＯＹ（一部の劇場のみ）

〔あらすじ〕銀河系監察宇宙局コズモ＝ポリスのハンター・ジャスティは、義姉ジェルナとともに、かつて抹殺した犯罪超人マグナマム・ベガの娘アスタリスを妹として引きとっていた。ジャスティを死神と恐れ、邪魔者とする銀河に巣くうラウミスたち犯罪超人は、ステーションシャトルをハイジャック。その乗客たちとアスタリスの身柄の交換を要求。ラウミスの手に落ちるアスタリス。ラウミスはアスタリスに潜在する強力な超能力を使って、ジャスティを葬ろうと考えていたのだ。アスタリスは犯罪超人たちに洗脳され、父を殺したジャスティに復讐の牙をむく。
〔解説〕週刊少年サンデー増刊号に掲載されていた「ジャスティ」をアニメ化。映画化にあたっては原作者の岡崎つぐおがオリジナルのストーリーを書き下ろした。なお、このストーリーはロードショー直前、週刊少年サンデー増刊号に漫画として書き起こされ、特別編として掲載された。主題歌をロック歌手の麻倉未稀が歌っている。

原作、原案、キャラクターデザイン／岡崎つぐお（小学館／少年サンデーコミックス）■企画、製作／宇佐美　廉■プロデューサー／布川ゆうじ■制作担当／安西　武、奥野敏聡■脚本／星山博之■監督・作画監督／高橋資祐■演出／上村　修■アニメーションキャラクターデザイン／遠藤祐一■原画／山本直子、小川悦子■動画チェック／金子隆悠季■動画／関口重晴、岩田和也、滝沢明美、近藤定夫、古川佳正、木村郁代、沼田勇人、増渕順子、福田廣伸、加藤由子、日高　丈ほか■美術監督／新井寅雄■設定助手／山本順子■背景／内山　誠、松永悦子、米田晴美、朝倉千登勢、地蔵本拓嗣、西永一光、藤本紀子、山田勝宏、井芹達朗、高野圭子、佐藤　勝■撮影監督／藤田正明■撮影／諫川　弘、澤田典彦、久保田典秀、後藤　然、鈴木秀男、鈴木一則、山口利明、山本　隆■編集／森田編集室、森田清次、坂本雅紀■音楽／渡辺博也■ＥＤ「孤独の戦士ロンリーハンター」作詞／竜　真知子　作曲／渡辺博也　歌／麻倉未稀■レコーディングディレクター／高塚俊紀■レコーディングミキサー／福島良治（オリジナルサウンドトラック盤／キングレコード）■録音監督／斯波重治■製作・著作／ジャスティプロジェクト■スタジオぴえろ作品■声の出演ジャスティ（井上和彦）　アスタリス（冨永みーな）ジェルナ（横沢啓子）　ラウミス（飯塚昭三）　レクター司令（若本紀昭）　ボルバー（小野健一）　マグナマム・ベガ（池水通洋）　（郷里大輔）（大塚芳忠）（塩屋浩三）（西村智博）（立木文彦）（菅原正志）（大城まつみ）ほか

NO. 334 魔法の天使クリィミーマミ ロング・グッドバイ

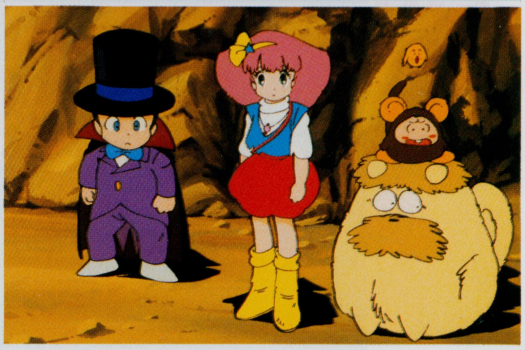


85年8月3日（土）松竹富士配給　53分
併映作品／魔法のプリンセス　ミンキーモモ　夢の中の輪舞、魔法の天使クリィミーマミVS魔法のプリンセス　ミンキーモモ　劇場の大決戦

〔あらすじ〕中学生になった森沢優は、俊夫、みどり、愛らとともに、立花との結婚をひかえた綾瀬めぐみの新作主演映画「二つの世界の物語」の制作を手伝う。だがその最中、彗星の影響で優は突然マミに変わってしまった。昼の間だけ変身してしまう優は、再び〝マミ〟として映画に共演することに。秘密を知る俊夫の協力を得て撮影を続けるが、苦労の絶えることがない。一方、脚本を執筆した木所は、密かにめぐみを想いはじめ、その気持ちは日々つのるばかり……。
〔解説〕前作「永遠のワンスモア」の好評をうけて製作されたOVAの劇場公開。テレビシリーズの３年後、中学生になった優の春休み中の体験を描くもので、年齢に合わせて優や俊夫のキャラも描きなおされた。スタッフも、脚本・伊藤和典、演出・望月智充といったベストメンバーが揃い、綾瀬めぐみ主演の劇中映画「二つの世界の物語」の製作プロセスを丹念に見せていくなど、サービス的な要素も盛りこまれた。ラストは優と俊夫のキスシーンでしめくくられる。

製作／布川ゆうじ■プロデューサー／伏川政明■制作担当／滝沢昭夫、鈴木重裕■脚本／伊藤和典■総監督／小林　治■演出／望月智充■絵コンテ／望月智充■レイアウト監修／芝山　努、須田裕美子■キャラクターデザイン／高田明美■メカニックデザイン／高木弘樹■作画監督／後藤真砂子■原画／久米一成、高木弘樹、柳田義明、宮本英子、児山昌弘、原　博、高峰由恵、きくちみちたか、有紀　桂、本谷利明■美術監督／小林七郎■撮影監督／橋本和典■編集／森田編集室、坂本雅紀、森田清次■音楽／山中のりまさ■ＯＰ「ハートのＳＥＡＳＯＮ」作詩／恩田久義　ＥＤ「ガールス・トーク」作詩／友井久美子　以上、作曲／尾関裕司　編曲／難波正司　唄／太田貴子　（徳間ジャパン）■音響監督／藤山房延■協力プロダクション／アニメ浪漫、大阪アニメワールド、京都アニメスタジオ■制作協力／亜細亜堂■制作／スタジオぴえろ■声の出演　森沢優、クリィミーマミ（太田貴子）　大伴俊夫（水島裕）　如月みどり（安西正弘）　ネガ（肝付兼太）　ポジ（三田ゆう子）　綾瀬めぐみ（島津冴子）　森沢哲夫（村山　明）　森沢なつめ（土井美加）　立花慎悟（井上和彦）　木所マネージャー（亀山助清）　ディレクター（郷里大輔）　スネークジョー（仲木隆司）　久美子（小林優子）　早川　愛（松井菜桜子）　女レポーター（深見理佳）　女の子（星野桜子）ほか

NO. 335 魔法のプリンセスミンキーモモ 夢の中の輪舞

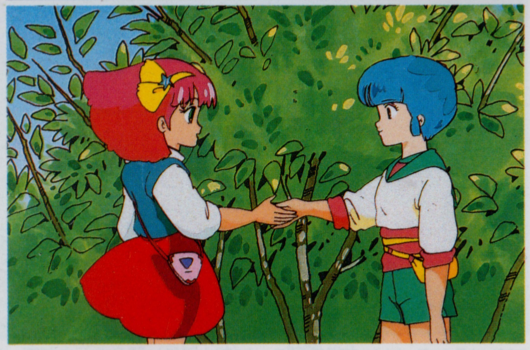


85年8月3日（土）松竹富士配給　1時間27分
併映作品／魔法の天使クリィミーマミ　ロング・グッドバイ、魔法の天使クリィミーマミVS魔法のプリンセス　ミンキーモモ　劇場の大決戦

〔あらすじ〕宝くじで当たった南極旅行に出発したペットショップのパパとママ。ところがスペースショッテルにより謎のエネルギー反応が発見さねた太平洋のまんなか島の上空で、パパたちの乗った飛行機が消えてしまった。グルメポッポで急行したモモは、島の上空に浮かぶ子どもだけの国を発見。ペーターという青年が支配するその国の子どもたちは、おとなになりたくない気持ちが作りだすエネルギーで、子どものままそこで暮らし続けてきたのだ。
〔解説〕人気テレビシリーズ「ミンキーモモ」の放映終了後２年目に製作された、オリジナル・ビデオ作品の劇場公開版。物語は、シリーズの途中にはさまるエピソードという形をとっており、ボーマン船長や怪盗ルピン、レイなどテレビ版のゲストキャラも多数登場する。脚本の首藤剛志は、テレビ版で追究した〝夢〟というテーマを、今回はピーターパン症候群の問題とからめて展開。渡辺ひろしの手慣れた作画も含め、上質のテレビスペシャルという印象の作品。

原作・脚本／首藤剛志■製作／佐藤俊彦■企画／葦プロダクション■企画協力／読売広告社、バンダイグループ、（株）ネットワークフロンティア事業部■ゼネラルプロデューサー／内間　稔■制作コーディネーター／石川清司■プロデューサー／大野　実、加藤　博■プロデューサー補／梅原　勝■監督／湯山邦彦■演出／山田雄三■キャラクターデザイン／芦田豊雄■メカニックデザイン／さとうともひこ■作画監督／渡辺ひろし■原画／渡辺ひろし、只野和子、松下浩美、松村靖之、宮嶋　堅、小林早苗、近永健一、神志那弘志、平岡正幸、山内則康、藤沢俊幸、吉松孝博、菊池通隆、福島喜晴、伊藤コウジ■美術監督／新井寅雄■撮影監督／鳥越一志■編集／杉山幸夫、松沢宏明、金沢章男ほか■音楽／渡辺敬之■ＥＤ「夢の中の輪舞」作詞／荒木とよひさ　作曲／緑　一二三　歌／志賀真理子■音響監督／藤山房延■キャスト　ミンキーモモ（小山茉美）　パパ（納谷六朗）　ママ（土井美加）　王様（増岡　弘）　王妃様（塚田恵美子）　シンドブック（田の中　勇）　モチャー（星野桜子）　ピピル（三田ゆう子）　ボーマン船長（飯塚昭三）　司会者（千葉　繁）　ガナール（峰　あつ子）　ギブミー（鈴置洋孝）　スチュワーデス（深見理佳）　ルピン（筈見　純）　ペペ（中野聖子）　オスカー将軍（広瀬正志）　レイ（あきやまひかり）　ペーター（難波圭一）　ナレーター（中村　正）ほか

NO.
336 魔法の天使クリィミーマミVS魔法のプリンセスミンキーモモ 劇場の大決戦

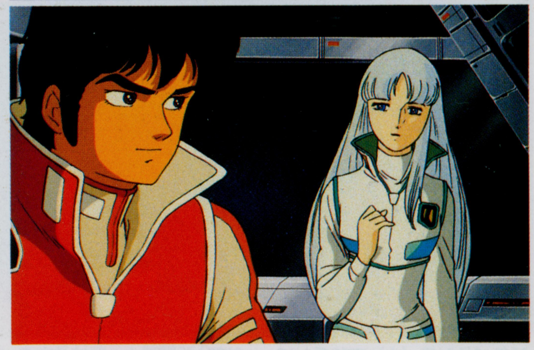


85年8月3日（土）松竹富士配給　2分30秒
併映作品／魔法の天使クリィミーマミ　ロング・グッドバイ、魔法のプリンセス　ミンキーモモ　夢の中の輪舞

【あらすじ】新作ビデオに主演する2人の魔法少女・モモと森沢優が偶然、出会った。最初はにこやかに握手をしていた2人だったが、ライバル意識が火花を散らし口ゲンカをはじめる。ケンカはエスカレートし、それぞれ魔法でビルより巨大な戦士モモとクリィーミーマミに変身！　モモが〝首藤スパーク〟を放てば〝伊藤フラッシュ〟で返し、〝わたなべカッター〟には〝後藤ブレード〟で対抗する。2人の魔法少女の戦い、その決着はいかに……。
【解説】ビデオ作品「ロンググッドバイ」と「夢の中の輪舞」の劇場公開の付録として制作された3分弱の小品。両作品の制作にかかわっている読売広告社が製作した。2作品の美少女を対決させようという同人誌的アイデアを、アニメファン出身の演出家・望月智充が、アニパロ感覚でまとめて、ファンにはこたえられない作品となっている。2人の主人公を、それぞれの作品の作画監督、後藤真砂子とわたなべひろしが担当している。

脚本・演出／望月智充■ミンキーモモ作画監督／渡辺　浩（スタジオライブ）■クリィミーマミ作画監督／後藤真砂子（亜細亜堂）■原画／高木弘樹、高峰由恵、きくちみちたか■企画・制作／読売広告社■声の出演　ミンキーモモ（小山茉美）　クリィミーマミ（太田貴子）

NO.
337 オーディーン 光子帆船スターライト

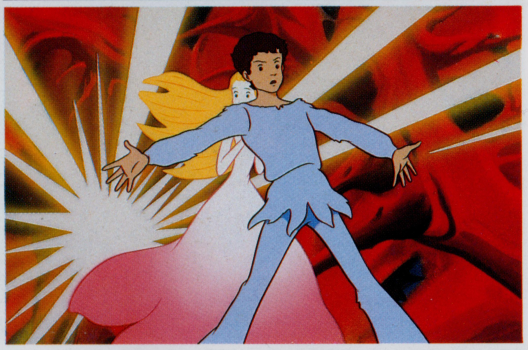


85年8月10日（土）東映株式会社配給　2時間19分
併映作品／宇宙戦艦ヤマト完結編特別編集版（一部劇場のみ）

〔あらすじ〕2099年、スペースコロニーのシティ・オブ・アインシュタインから木星へ向けてスターライト号が発進した。途中、乗組員の筑波あきらはアルフォード号の残骸から記憶喪失の少女サラを救助した。彼女のテレパシーにより天王星の衛星から未知の宇宙船の記憶装置を回収。若い乗組員たちは鈴鹿船長らの命令を無視してまで、その宇宙船の発進地・オーディーン星へ向かおうとする。だが彼らは、サラの超能力に操られていたのであった。
〔解説〕'83年に完結した「宇宙戦艦ヤマト」の西崎義展が総指揮をつとめた宇宙SF長編アニメーション。設定ブレインに漫画家の御厨さと美、キャラデザインに湖川友謙をむかえ、音楽はヘビーメタルのLOUDNESSを起用と、新しい感覚の〝ポスト・ヤマト〟を目指したが、仕あがりは「ヤマト」には遠く及ばず、宇宙を航行するスターライト号の美しさのみが救いの作品となっている。

企画・原案／西崎義展■製作・総指揮／西崎義展■設定ブレーン／御厨さと美（MIC　MAC）、豊田有恒（パラレルクリエーション）、山本英明、藤川桂介■プロデューサー／勝間田具治■アシスタント・プロデューサー／山木泰人■脚本／笠原和夫、舛田利雄、山本暎一■総監督／舛田利雄■監督／白土武、山本暎一■絵コンテ／白土　武、遠藤政治■総作画監督／宇田川一彦■キャラクターデザイン・作監／湖川友謙、高橋信也■メカニックデザイン／松岡　伸、MIC　MAC、板橋克己、大倉雅彦■作画監督／金田伊功、角田紘一、遠藤政治■設定デザイン／辻　忠直■太陽系コンセプトデザイン／張仁誠■美術監督／勝又　激、辻　忠直■撮影監督／池田重好■編集／千蔵　豊■音楽／宮川　泰、羽田健太郎、高橋　晃（ラウドネス）、天野正道、安西史孝（T．P．O）■ED「オーディーン」挿入歌「GOTTAFIGHT」以上、作詞／二井原　実　作曲／高崎　晃　歌・演奏／ラウドネス　イメージソング「プラトニック」作曲／宮川　泰　「私のオーディーン」作曲／羽田健太郎　以上、作詞／阿久　悠　歌／鹿取容子■音響監督／田代敦巳■制作／東映動画株式会社■製作／株式会社ウェスト・ケープ・コーポレーション、西崎義展■キャスト　筑波あきら（古川登志夫）　マモル・ネルソン（堀　秀行）　サラ・シアンベーカー（潘　恵子）　ナレーション、蔵本正之助（納谷悟郎）ほか

NO.
338 妖精フローレンス

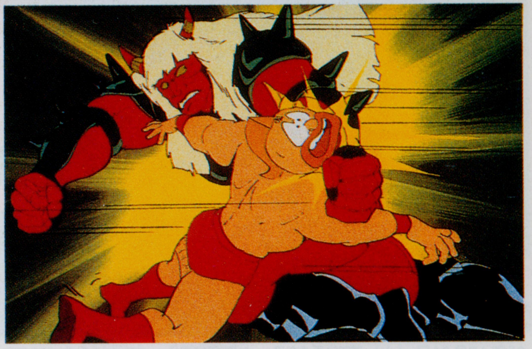


85年10月26日（土）サンリオ映画配給　1時間32分
併映作品／想い出を売る店

〔あらすじ〕音楽学院でオーボエを習う草花の好きな青年マイケルは、温室の花の世話ばかりして、かんじんの練習がおろそかになっている。ある日、マイケルは割れたベゴニアの鉢をひろい植えかえてやる。その夜、マイケルの前に美しい花の妖精のフローレンスが現れた。翌日ヒゲムジカ先生から次の演奏会をはずすと宣告された彼の前に、再びフローレンスが現れ、彼を花の世界へと招待するのだった。マイケルの冒険がはじまる。
〔解説〕4年の歳月をかけて製作されたサンリオのミュージカルファンタジー。山本直純の指揮、東京フィルハーモニーの演奏によるクラシックの名曲20曲、テーマ曲2曲の合計22曲が使われた。これらの曲を映像化するために、アニメーターの宮本貞雄、漫画家のさべあのま、イラストレーターの東逸子ら、十数名がイメージボードを描き、それをもとに妖精世界の世界観を作りだした。

原作製作／辻　信太郎　原作／サンリオ出版刊■プロデューサー／富岡厚司、波多野恒正■アシスタントプロデューサー／成川誠一郎、佐藤智子■脚本・音楽プロデューサー／高畠球暢■監督／波多正美■演出補／広川和之、遠藤政治■キャラクターアニメーション／山本　繁■エフェクトアニメーション／赤堀幹治■イメージボード／東　逸子、司　修、宮本貞雄、さべあのま、中村泰敏、早川啓二ほか■作監補佐／大西治子、久保川美明■原画／松山まや、古瀬　登、野谷律子、後村　武、小川知子、百瀬義行、半田輝男、堀口忠彦ほか■アートディレクター／阿部行夫■背景／佐々木　洋、長嶋陽子、伊奈淳子、広瀬愛一郎、串田達也、長縄恭子ほか■撮影監督／八巻　磐■編集／吉岡　聡■ネガ編集／尾形治敏■音楽プロデューサー／斉藤　明■音楽／山本直純■音楽ディレクター／真木　礼■〈演奏〉　オーボエ／宮本文昭　バイオリン／漆原啓子　指揮／山本直純　東京フィルハーモニー交響楽団■挿入歌「花の出会い」「花のわかれ」以上、作詞／岩谷時子　作曲／山本直純　歌／毬谷友子　サウンドトラック／東芝EMI■音響監督／岩田広一■サンリオ配給■〈声の出演〉　マイケル（市村正規）　フローレンス（毬谷友子）　ムジカ（中島みゆき）　ローラ（高見知佳）　先生（小林亜星）　（雨宮一美）（飯塚はる美）（村田博美）（阿部道子）（柴田由美子）（伊藤みほ）（小口久仁子）ほか

NO.
339 キン肉マン 晴れ姿！正義超人

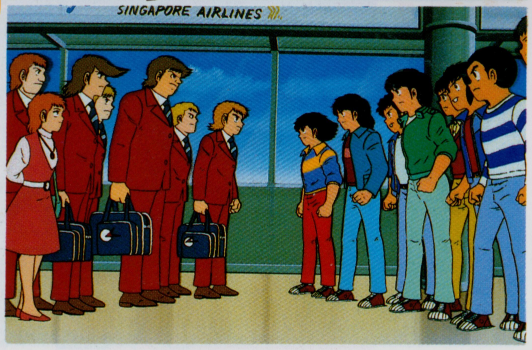


85年12月21日（土）東映系封切　1時間
併映作品／ゲゲゲの鬼太郎、キャプテン翼　危うし！全日本Jr.（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕京都の東映太秦映画村へやってきたキン肉マンとミート、ナチグロンは、突然起きた突風と雷に巻きこまれ、気がつくと江戸時代にタイムスリップしていた。そこでは、朱天童子という怪人が日本中を荒らし回っており、昨夜も真弓将軍の娘マリ姫を嫁としてさしだせと脅迫してきたのだという。マリさんそっくりのマリ姫のため、キン肉マンは朱天童子退治を決意したが、彼は悪魔将軍の先祖で、時代を越え悪事を働く悪超人の総大将・朱天超人だったのだ。
〔解説〕監督が川田武範に交代しての劇場5作目は、正月映画らしく娯楽時代劇編。劇中でキン肉マンは、旗本退屈男や遠山の金さんなど時代劇七変化を披露した。キン肉マン以外の正義超人たちはタッグチームを組んで戦いを挑んでいく。ラーメンマン役は蟹江栄司が亡くなったため、この回から銀河万丈に交代している。今回のゆでたまごは、朱天童子の部下でウコンの先祖のウコン之介とその副官を演じた。

原作／ゆでたまご　集英社「少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／田宮　武■製作担当／関　良宏■脚本／山崎晴哉■監督／川田武範■作画監督／森　利夫■原画／高橋英吉、松本朋之、深谷英作、小曽根孝夫、山崎唯文、村松尚雄、松下清志、塚本哲哉、篠田　章、多田康之、高橋　昇■美術監督／襟立智子■背景／井出智子、壇久美子、松尾美千子、田中みつる、須田栄子、小笠原ゑつ子■撮影監督／高梨洋一■編集／祖田冨美夫■音楽／風戸慎介■OP「炎のキン肉マン」作曲／芹澤廣明　うた／串田アキラ　ED「キン肉マンボ」作曲／森　雪之丞　うた／神谷　明　以上、作詞／森　雪之丞　（コロムビアレコード）■録音／市川修■（製作／東映（東映動画））■声の出演　キン肉マン（神谷　明）　ミート君（松島みのり）　中野さん（はせさん治）　キン肉大王（岸野一彦）　キン肉王妃（山口奈々）　大会委員長（北川米彦）　ナチグロン（山本圭子）　翔野ナツ子（鶴　ひろみ）　テリーマン（田中秀幸）　ラーメンマン（銀河万丈）　ジェロニモ（塩沢兼人）　ウォーズマン（堀　秀行）　ロビンマスク（郷里大輔）　リキシマン（広瀬正志）　キン骨マン（二又一成）　バッファローマン（佐藤正治）　ブロッケンJr．（水鳥鉄夫）　二階堂マリ（中島千里）　ザ・ニオーッ（矢田耕司）　朱天童子（飯塚昭三）　特別出演（ゆでたまご）ほか　協力／青二プロ

NO. 340 キャプテン翼 危うし！全日本Jr.



85年12月21日（土）東映系封切　1時間
併映作品／キン肉マン　晴れ姿！正義超人、ゲゲゲの鬼太郎（東映まんがまつり）

【あらすじ】ヨーロッパ大決戦から1年。今度は、ヨーロッパ選抜メンバーが日本にやってくることになった。むかえ撃つ全日本Jr.は翼を中心にチーム作りをはかるが、岬は行方が知れず、若林は西独のプロチームに所属してるため出場許可がおりない。しかも日向までが姿を消している。主要メンバーを欠いて苦境に立たされる全日本Jr.。はたしてヨーロッパ選抜に勝ちぬけるか？　緊迫感のなか、2度目の世界決戦の幕が切っておとされる。

【解説】前作のあとを受け、再びシュナイダーたちと戦う劇場用第2作。三杉と日向と翼の夢の合体シュート〝トリプルオーバーヘッドキック〟が劇場の大画面に登場した。今回は尺度がやや長い60分の中編。またもや少女ファンが劇場に殺到し、黄色い声が乱れとんでいた。

原作／高橋陽一　集英社刊少年ジャンプ連載■プロデューサー／江津兵太（テレビ東京）、茂垣弘道、小平正夫（土田プロダクション）■文芸担当／大金正一■脚本／菅　良幸■チーフディレクター／光延博愛■演出／矢沢則夫■作画監督、キャラクターデザイン／岡迫亘弘■作画監督補佐／小島秀人■原画／宇田川一彦、小泉謙三、羽根章悦、野館誠一、小島秀人、興村忠美、矢沢則子、保田康治、上井やすよし■美術監督／長尾　仁■撮影監督／佐野和広■編集／岡安　肇、小島俊彦、中葉由美子、村井秀明■音楽／飛沢宏元■ＥＤ「明日に向ってシュート」作詞、作曲／内木　宏　編曲／飛沢宏元　歌／小粥よう子　レコード／ＣＢＳソニー■音響監督／山崎宏■製作／テレビ東京、土田プロダクション■キャスト　翼（小粥よう子）　岬（山田栄子）　小次郎（鈴置洋孝）　若林（橋本晃一）　早苗（坂本千夏）　若島津（飛田展男）　三杉（溝口　綾）　タケシ（上村典子）　松山（鈴木みえ）　石崎（丸山裕子）　高杉（広森信吾）　井沢（中原　茂）　来生（伊倉一恵）　和夫（鈴木れい子）　政夫（ならはしみき）　理加（松井菜桜子）　シュナイダー（難波圭一）　ピエール（堀内賢雄）　スティーブ（小滝　進）　ヘフナー（矢尾一樹）　リチャード（大山尚雄）　アウトマイヤー（神山卓三）　弥生（鈴木富子）　奈津子（猪瀬明子）　アナウンサー（村山　明）ほか　演技事務／草野誠一（俳協）

NO. 341 ゲゲゲの鬼太郎



85年12月21日（土）東映系封切　24分
併映作品／キン肉マン　晴れ姿！正義超人、キャプテン翼　危うし！全日本Jr.（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕いつものようにゴミためをあさっていたネズミ男は、チンポと名乗る南方妖怪に声をかけられる。妖怪の地位を高めるため、邪魔者の鬼太郎を抹殺しようというのだ。ネコ娘から、ユメコがネズミ男とともに姿を消したことを聞いて捜査に乗りだした鬼太郎は、チンポの部下のやし落としとアカマタに襲われる。強力な攻撃に、危機に陥る鬼太郎。さらに、敵の本拠である豪華客船では、大黒幕ぬらりひょんが待ちうけていた。

〔解説〕第3シリーズを迎えた人気テレビアニメ「ゲゲゲの鬼太郎」の劇場公開版。ただし、映画用に新作が作られたのは今回が初めて。'67年に少年マガジンに掲載された原作「妖怪軍団」をベースにしているが、敵の総大将は南方妖怪ではなく妖怪ぬらりひょんに変更されている。重要な役割を演ずる妖怪チンポは、少年キング連載の「鬼太郎の世界お化け旅行」からの移植キャラクター。24分と短めのため、やや盛り上がりに欠けた印象が残る作品である。

原作／水木しげる　講談社　コミックボンボン、テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち　連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／横山賢二■製作担当／松下健吉■脚本／星山博之■監督／白土　武■作画監督／山口泰弘■原画／直井正博、坂井俊一、藤岡正宣、吉田利喜、富沢雄三、河野宏之、芹田明雄、森田奈苗■美術監督／伊藤岩光■背景／池田祐二、高田茂祝、山元健生、土井則良、小笠原ゑつこ、佐貫利勝■撮影監督／菅谷信行■撮影／宮本勝啓、鈴木悠子、堀井安子、向山正絵、我妻恵子、岸本弘子、平塚美代子、高橋　章■編集／花井正明■ネガ編集／喜多伴子■音楽／川崎真弘（Ｆｒｏｍ竜童組）■ＯＰ「ゲゲゲの鬼太郎」作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　ＥＤ「おばけがイクゾ～」作詞／吉　幾三　作曲／吉　幾三　以上、編曲／野村　豊　うた／吉　幾三　（徳間ジャパン）■録音／蔵本貞司■音響効果／今野康之■選曲／田中英行■（製作／東映（東映動画））■声の出演　鬼太郎（戸田恵子）　目玉（田の中　勇）　ねずみ男（富山　敬）　子なきじじい（永井一郎）　砂かけばばあ（江森浩子）　一反もめん（八奈見乗児）　ぬりかべ（屋良有作）　ネコ娘（三田ゆう子）　ユメコ（色川京子）　妖怪チンポ（滝口順平）　ぬらりひょん（青野　武）　やし落とし（山下啓介）　アカマタ（宮内幸平）　朱の盤（小林通孝）　キジムナー（松井摩味）　協力／青二プロ

NO. 342 幻夢戦記レダ



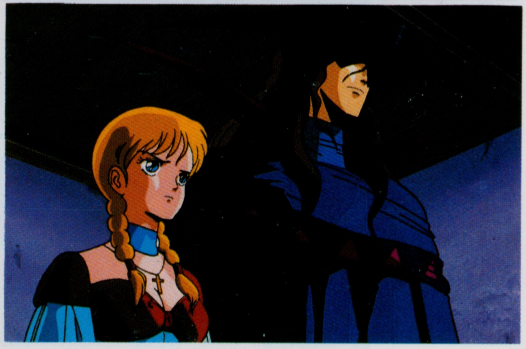
85年12月21日（土）東宝系封切　1時間10分
併映作品／吸血鬼ハンターＤ

〔あらすじ〕恋する少年への告白を果たせなかった平凡な女子高生・朝霧陽子は、突然異世界〝アシャンティ〟に引きずりこまれる。そこで人語を話す学者犬・リンガムとレダ教徒の生き残り・少女ヨニに出会った陽子は、自分が伝説の〝レダの戦士〟であることを知る。失われた〝女神レダ〟の謎の力を引きだす鍵〝レダのハート〟を手に入れ、陽子の住む世界へ侵攻しようとする浮遊城〝ガルバ〟の総統ゼル。陽子はリンガム、ヨニとともにゼルに立ち向かう。

〔解説〕オリジナル・ビデオアニメがブームとなりはじめた初期の人気作のひとつ。製作の東宝が、「吸血鬼ハンターＤ」と併映の形で、やや遅れた劇場公開を実現。実制作はカナメプロで、いのまたむつみがデザインしたキャラクターの端麗さが魅力の中心となっている。ストーリーは、主人公の成長をからめた内宇宙物として進行するが、敵が狙う〝レダのハート〟が、実はヘッドフォン・ステレオ（自閉症の象徴）の録音テープだったという点がおもしろい。

原案／カナメ企画　ノベライズ／菊地秀行（講談社Ｘ文庫）　協力／講談社■企画／藤原正道、カナメ企画■プロデューサー／長尾聡浩■制作デスク／池田昭浩■制作事務／山下陽子■文芸担当／政木伸一■脚本／武上純希、湯山邦彦■監督／湯山邦彦■キャラクターデザイン、作画監督／いのまたむつみ■メカニックデザイン、イメージ設定／豊増隆寛■アニメーションコーディネーター／影山楙倫、小原渉平■メイン・アニメーター／いのまたむつみ、影山楙倫、林　隆文、毛利和昭、土器手　司、田村英樹、上妻晋作、伊藤コウジ、合田浩章、村中博美、豊増隆寛、小原渉平■アニメーター／渡辺真由美、山内英子、福島喜晴、増尾昭一、和田卓也、高橋義則、中村　清、西井正典、南　全子ほか■美術監督／下川忠海■背景／スタジオＰＯＰ■撮影監督／杉村重郎■編集／掛須秀一、松村正宏、石田　悟■音楽／鷺巣詩郎■ＥＤ「風とブーケのセレナーデ」作詞／岩里祐穂　作曲／馬飼野康二　編曲／鷺巣詩郎　唄／秋本理央　オリジナルサウンドトラック盤／キングレコード■レコーディングディレクター／高橋俊紀■音響監督／松浦典良■録音／大塚晴寿、小原吉男■制作／東宝株式会社、株式会社カナメプロダクション■声の出演　朝霧陽子（鶴　ひろみ）　ゼル（池田秀一）　リンガム（富山　敬）　ヨニ（坂本千夏）　側近（辻村真人）　兵士Ａ（戸谷公次）　兵士Ｂ（塩屋浩三）　オムカ（渡辺菜生子）

NO. 343 吸血鬼ハンターＤ



85年12月21日（土）東宝系封切　1時間20分
併映作品／幻夢戦記レダ

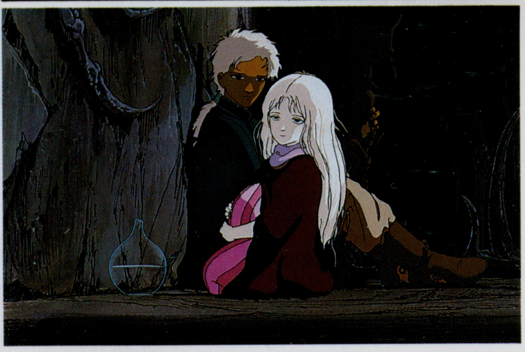
〔あらすじ〕西暦12,090年、辺境の小村ランシルバで、弟のダンとともに農場を経営する少女ドリスは吸血鬼マグナス・リィ伯爵の〝貴族のくちづけ〟を受ける。妖魔の手を払いのけようと、ドリスは村を通りかかった吸血鬼（バンパイヤ）ハンター・Ｄに助けを求めた。Ｄは農場を襲ってきた伯爵の娘・ラミーカと雇われミュータントの麗銀星を異能力で退ける。さらに単身城へ乗りこんで行くが、そこにはミドウィッチの蛇女の恐ろしい罠が待っていた。

〔解説〕ベストセラー作家・菊地秀行の作品をはじめてアニメ化。最終戦争後の未来世界を舞台にしたＳＦ的設定と〝吸血鬼伝説〟というホラーの要素をドッキングさせた原作の作品世界が破綻なく映像化されている。キャラクターは、原作でもイラストを担当していた天野喜孝のイメージをもとに、芦田豊雄、小林早苗、吉松孝博らがデザイン。ロックグループのＴＭネットワークがはじめてアニメの主題歌を歌っているほか、音楽を担当しているのも話題。

製作／佐藤俊彦■プロデューサー／肥田光久、加藤博、長崎行男■制作プロデューサー／梅原　勝■脚本／平野靖士■監督／芦田豊雄■演出助手／八谷賢一、加戸誉男■キャラクターデザイン／天野喜孝■アニメーションキャラクター／山内則康＆いんどり小屋■作画監督／松下浩美■原画／松下浩美、近永健一、只野和子、小林早苗、神志那弘志、山内則康、宮嶋　堅、松村靖之、吉松孝博、藤沢俊幸、海老沢幸男、渡辺　浩、西島克彦、靏山　修、坂元恵美、金沢勝眞　古瀬泰英、半田由利■美術監督／松平　聡■撮影監督／鳥越一志、杉山幸夫■編集／正木直幸、関　一彦、辺見俊夫、掛須編集室■音楽／小室哲哉■音楽プロデューサー／小坂洋二、山口三平■ＥＤ「ＹＯＵＲ　ＳＯＮＧ」作詞／小室哲哉　作曲／小室哲哉、木根尚登　編曲／小室哲哉　歌／ＴＭ　ＮＥＴＷＯＲＫ■音響監督／松浦典良■制作協力／スタジオライブ■制作／（株）葦プロダクション■製作／（株）ムービック、（株）ＣＢＳ・ソニーグループ、（株）ＥＰＩＣ・ソニー■キャスト　Ｄ（塩沢兼人）　ドリス（富沢美智江）　ダン（戸田恵子）　伯爵（加藤精三）　ラミーカ（木藤聡子）　麗銀星（曽我部和恭）　Ｄの左手、ナレーション（永井一郎）　グレコ（屋良有作）　フェリンゴ（清川元夢）　蛇女（弥永和子）　蛇女（榊原良子）　ローマン（村松康雄）　ダントン（徳丸　完）　オレイリー（田中和実）　ギムレット（小滝　進）

NO. 344

天使のたまご
ANGEL'S EGG



85年12月22日（日）東映ホール公開（早朝上映）　1時間48分

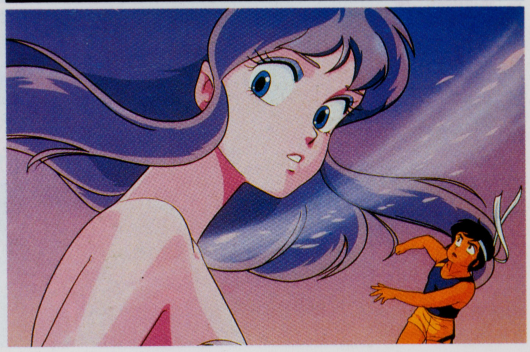
【あらすじ】いつの時代とも、どこの場所ともわからない終末感漂う廃墟の街に、少女がひとりで住んでいた。ある時そこへ、戦車に乗った少年が現れる。少女は少年と街をさまよい、自分の宝物だといってひとつの卵を見せる。そのなかから、いつか鳥が孵（かえ）ると少女は信じているのだ。その夜、少女が眠ったあとで少年は卵を割る。しかし、卵のなかには何も入っていなかった。そして少年はひとり出発し、海の彼方に少女の幻を見るのだった。

【解説】〝夢と現実〟というテーマを追求する押井守監督の作家性がよく現れた作品。あえて物語や状況説明などをわかりづらくし、見る側のイマジネーションに委ねるという大胆な試みがなされているため、難解だと評された。映像的には、妖艶な天野喜孝キャラの持ち味を生かしつつ、髪の毛や衣装にまで気を配って動かした名倉靖博作監、廃墟の街を美しく重厚に描いた小林七郎美監の力わざが光る。菅野由弘の音楽、根津甚八、兵藤まこのアフレコも退廃的な作品世界にあっている。

原案／押井　守、天野喜孝　アニメージュ文庫「天使のたまご」より■製作／徳間康快■企画／山下辰巳、尾形英夫■プロデューサー／三浦光紀、和田豊、小林政夫、長谷川　洋■デスク／保原剛仁■脚本、監督／押井　守■アートディレクション／天野喜孝■作画監督／名倉靖博■原画／江村豊秋、大塚伸治、河口俊夫、二木真季子、奥田万里、遠藤正明、高坂希太郎、加藤　茂、貞本義行、飯口悦子、吉川由美子、名倉靖博■動画／進藤プロダクション、日暮恭子、飯高則子、関　明美、山室直儀、中村美州、江原　仁、新井雅子、うかい美樹、劉　輝久、田頭津弥子、西脇宮子、わあぷ、清原則子、矢島万里、砂川京子、戸塚千恵、中村志保、スタジオ雲雀、小沼克介、村岡俊一、酒井広武、横田智則、ランダム、山下文広、山田俊也、藤谷和宏、高橋和徳、檜垣達也、スタジオ天、石井康雄、清島孝一郎、斉藤袷之、黒岩和幸ほか■美術監督、レイアウト監修／小林七郎■背景／小林プロダクション／木村真二、形山正、加藤賢司、田中貞彦、縫部文江、梶　信幸、白石　誠、川島靖喜■撮影監督／杉村重郎■編集／森田清次■音楽監督／管野由弘■指揮／熊谷　弘■演奏／東京コンサーツ■音響監督／斯波重治■録音演出補／浅梨なおこ■録音製作／オムニバスプロモーション■録音スタジオ／東京テレビセンター■制作／スタジオディーン■徳間書店、徳間ジャパン、提携作品■出演　（根津甚八）（兵藤まこ）

NO. 345

うる星やつら4
ラム・ザ・フォーエバー



86年2月22日（土）東宝系封切　1時間35分
併映作品／うる星やつら　リメンバー・マイ・ラヴ

〔あらすじ〕自主映画製作のために、面堂家の庭に立つ〝太郎桜〟を切り倒したあたるたち。そのときから異変がはじまった。太郎桜の跡にできた湖、凍って行く人々の夢、ラムの超能力が失われ、ツノが消えてしまった……。町の記憶の幻影に導かれ、湖の中へ姿を消すラム。目覚めはじめた友引町の意識が、町の新生化にあたってラムという〝異物〟を調べようとしているのだ。なすすべのないあたるは、ただ走り続けることによってラムへの想いをあらわそうとする。

〔解説〕劇場版第4弾。当初は「扉を開けて」と2本立てで公開される予定で企画されていた。この作品の制作当時、「うる星やつら」テレビシリーズの終了が具体的に検討されており、映画のほうもこれで完結という見方がスタッフの間にあったという。作画監督は土器手司で、単独作監となったぶん絵柄が統一されている。ただ、スケジュールの不足も手伝って、脚本、演出間の意志の疎通が十分なされたとはいい難く、物語自体は不分明な作品となってしまった。

原作／高橋留美子　（小学館　週刊少年サンデー連載）■製作／多賀英典■企画／落合茂一■企画協力／小学館、週刊少年サンデー、岡　正（フジテレビ）■アニメーションプロデューサー／長谷川　洋、松下洋子■アシスタントプロデューサー／半澤正幸■脚本／井上敏樹、やまざきかずお■監督／やまざきかずお■演出／吉永尚之■キャラクターデザイン／高田明美■作画監督／土器手　司■原画／丹沢学、青木康直、藤川　太、広田敦子、高橋久美子、中島敦子、山本哲也、千葉順三、山田展彦、高橋敏雄、菊地由行、服部一郎、鶴山　修、島崎克実、山本正文、南　伸一郎、篠　雅律、澤田正人、高木広行、矢木正之、鈴木健之、長崎重信、的場　敦■美術監督／新井寅雄■美術助手／山本順子、内山　誠■色彩設計／西山裕子、米村貞子■撮影監督／清水洋一■編集／森田清次、坂本雅紀、田代正美■音楽監督／近藤由紀夫■音楽／板倉　文　（サウンド・トラック／キャニオンレコード）■ＥＤ「メランコリーの軌跡」詞／銀色夏生　曲／玉置浩二　編曲／大村雅朗　歌／松永夏代子　キティ・レコード■録音監督／斯波重治■声の出演　ラム（平野　文）あたる（古川登志夫）　面堂（神谷　明）　テン（杉山佳寿子）　しのぶ（千葉　繁）　ラン（小宮和枝）校長（西村知道）　♨先生（池水通洋）　トンちゃん（島田　敏）　飛鳥（島本須美）　サクラ（鷲尾真知子）　チェリー（永井一郎）ほか

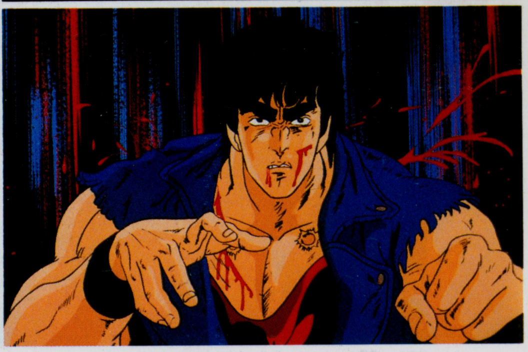
’86 昭和61年

この年も、特にアニメファンを対象とした作品と、そうでない作品が二分化されていく傾向が強くなっていく。「タッチ」は興業的には成功したが、アニメファンには、さほど話題にならなかった。一般的な青春映画として見られたと考えるのが妥当だろう。宮崎駿監督「天空の城ラピュタ」は、アニメファンにも、一般の観客にも広く受け入れられた。一方、アニメファンを対象にした「アリオン」は、あまりパッとしない結果に終わった。

そして、オリジナルビデオアニメの劇場公開はますます増え、この年がそのピークとなった。ビデオ発売よりその劇場公開が先行したり、アダルトビデオシリーズの人気キャラを主人公にした劇場作品や、「プロジェクトＡ子」のような、きわめてビデオアニメ的な内容の劇場作品が製作されたりと、劇場作品とビデオ作品の境界は、あいまいなものとなってきている。

NO. 346

世紀末救世主伝説　北斗の拳



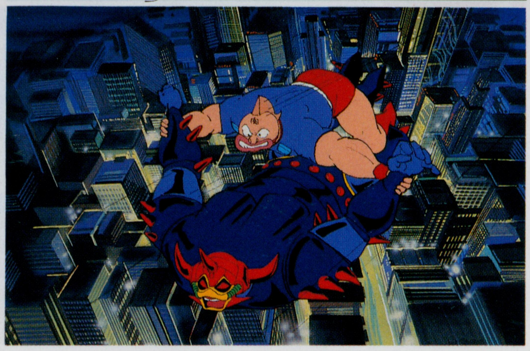
86年3月8日（土）東映株式会社配給　1時間50分

〔あらすじ〕199X年、核戦争後の地球。北斗神拳伝承者ケンシロウは、恋人・ユリアを親友のシンに奪われ荒野に捨てられた。そのころ北斗の長兄ラオウは師・リュウケンを殺し、世紀末覇者の道を歩みだしていた。数年後、死の淵よりよみがえったケンシロウはサザンクロスの街でついにシンを倒すが、ユリアはすでに拳王ラオウに奪われたあとであった。妹アイリをケンシロウに救われ、彼に恩義を感じる南斗水鳥拳の男レイは、単身ラオウに立ち向かう。

〔解説〕「北斗の拳」初期の主要ドラマにいくぶん改変を加え、新たな作画で再構成。監督は、テレビ版のシリーズディレクターでもある芦田豊雄。物語は、北斗の兄弟の確執、ケンシロウとラオウの対決に絞りこんだ展開で、リンはここではラオウの次の時代を担う者として描かれている。人体破壊のシーンは解剖図を参考にして作画されたという。また「あべし！」などの絶叫音にはハーモナイザーを使用、肉声と機械音の合成が行われている。

原作／武論尊、原　哲夫（集英社「週刊少年ジャンプ」連載）■製作総指揮／今田智憲■企画／有賀健、高見義雄■企画協力／岡　正、中尾嘉伸（フジテレビ）■製作担当／岸本松司■脚本／高久　進■監督／芦田豊雄■監督助手／梅澤淳稔、細田雅弘■作画監督／須田正己■原画／青嶋克己、河合静男、内山正幸、青井清年、青木雅之、中野彰子、小林一三、劉　輝久、直井正博、本橋秀之、水村十司、西城隆司、多田幸子、松本　清、山口泰弘、羽山淳一、八嶋善孝、渡辺　浩、神志那弘志、須田正己■美術監督／田中資幸■美術補佐／海老沢一男■背景チーフ／池田祐二■背景／佐貫利勝、松本健治、高田茂祝、土井則良、杉浦正一郎ほか■撮影監督／細田民男■撮影チーフ／福井政利■編集／花井正明■音楽／服部克久　（サウンドトラック盤　キャニオンレコード）■ＥＤ「ハート・オブ・マッドネス　Heart of Madness」作詞・作曲・編曲／うじきつよし　歌・演奏／KODOMO　BAND　（キャニオン・レコード）■オーディオディレクター／田中英行、福永莞爾■録音／今関種吉■製作／東映動画株式会社■配給／東映株式会社■声の出演　ケンシロウ（神谷　明）　ユリア（山本百合子）　魔王（内海賢二）ジャギ（大塚周夫）　シン（古川登志夫）　レイ（塩沢兼人）　リン（鈴木富子）　バット（鈴木みえ）アイリ（安藤ありさ）　リュウケン（千葉順二）　ナレーター（石田弦太郎）ほか

NO. 347 キン肉マン ニューヨーク危機一髪！



86年3月15日（土）東映系封切　45分
併映作品／キャプテン翼　明日に向って走れ！、ゲゲゲの鬼太郎　妖怪大戦争、超新星フラッシュマン（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕ニューヨークで行われるテリーマンの合衆国栄誉賞受賞式に、キン肉マンが遅れて駆けつけたとき、人々も建物も生気を失い、石のようになっていた。かつてキン肉マンに倒され、実体を失った悪魔将軍が、ニューヨークから大都会エネルギーを奪いとり復活したのだ。ニューヨークの魂・ビッグアップルはそのことをキン肉マンに教え悪魔将軍を倒してくれと頼んだ。だが悪魔将軍は正義超人の肉体とパワーすら吸収し、さらに強大な存在となっていた。
〔解説〕「キン肉マン」の「まんが祭り」の連続出場記録は、この6作目で一応ストップ。それまでの映画版と異なり、キン肉マン以外の正義超人のアクションシーンはなく、悪魔将軍とキン肉マンの摩天楼デスマッチをたっぷりと描いた。〝地獄のミュージカル〟や〝エムパイヤステートボンバー〟など、ニューヨークにふさわしい必殺技が登場した。今回のウコン一族は悪役でなく宇宙のウコン警部として登場、やはりゆでたまごが演じた。

原作／ゆでたまご　集英社「少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／田宮　武■製作担当／関　良宏■脚本／寺田憲史■監督／川田武範■作画監督／森　利夫■原画／高橋英吉、小曽根孝夫、深谷英作、山崎唯文、水野祥司■美術監督／襟立智子、伊藤雅人■背景／吉田智子、宮武和代、石橋美佳、柳沢玲一郎、高橋しのぶ、高橋奈緒美、長崎　斉、山地博之■撮影監督／玉川芳行■編集／祖田冨美夫■音楽／風戸慎介■ＯＰ「炎のキン肉マン」作曲／芹澤廣明　うた／串田アキラ　ＥＤ「キン肉マンボ」作曲／森　雪之丞　うた／神谷明　以上、作詞／森　雪之丞　（コロムビアレコード）■録音／市川　修■（製作／東映（東映動画））■声の出演　キン肉マン（神谷　明）　ミート君（松島みのり）　大会委員長（北川米彦）　キン肉王妃（山口奈々）　中野さん（はせさん治）　ナチグロン（山本圭子）　翔野ナツ子（鶴　ひろみ）　二階堂マリ（中島千里）　キン肉大王（岸野一彦）　テリーマン（田中秀幸）　ラーメンマン（銀河万丈）　ウォーズマン（堀　秀行）　ジェロニモ（塩沢兼人）　五部刈刑事（戸谷公次）　ロビンマスク（郷里大輔）　バッファローマン（佐藤正治）　キン骨マン（二又一成）　リキシマン（広瀬正志）　ブロッケンＪｒ.（水鳥鉄夫）　悪魔将軍（柴田秀勝）　ビッグアップル（高木　均）　特別出演（ゆでたまご）　協力／青二プロ

NO. 348 キャプテン翼 明日に向って走れ！



86年3月15日（土）東映系封切　35分
併映作品／キン肉マン　ニューヨーク危機一髪！、ゲゲゲの鬼太郎　妖怪大戦争、超新星フラッシュマン（東映まんがまつり）

【あらすじ】初のヨーロッパ遠征を目前にひかえ、全国各地からオールスターたちが、合宿所につぎつぎと集まってくる。強化練習の日々のなか、大空翼が南葛市に引っ越してきて最初に出会った若林源三との対決、ゴールデンコンビと呼ばれる岬太郎との活躍、永遠のライバル日向小次郎との試合、などが思い出されてゆく。全日本少年サッカー大会を通して成長してゆく少年たちの姿と、心のつながりを、もういちどふり返ってみる。
【解説】劇場用第3作。練習中に各キャラクターが、それまでのさまざまなエピソードを回想していくという形の内容。新作部分はほとんどなく、一種のテレビシリーズの総集編である。

原作／高橋陽一　集英社刊少年ジャンプ連載■プロデューサー／江津兵太（テレビ東京）、小平正夫（土田プロダクション）■制作事務／藤田理香■構成／大金正一■脚本／菅　良幸■演出／中村憲由■作画監督／小島秀人■原画／小島秀人、大西克美■美術監督／長尾　仁■背景／中原英統、佐藤美千代、堀内雅人、北村由利子、飯島幸嘉、井上由美（アトリエ11）■撮影／鎌田克明、青木孝司、根岸茂夫（トウィンクル）、菊地英明、遠藤公祐、月岡敦夫（Ｓｔキャバーン）■編集／岡安　肇、小島俊彦、中葉由美子、村井秀明■音楽／飛沢宏元■ＥＤ「ロンゲストドリーム」作詞、作曲／内木　宏　編曲／鷺巣詩郎　歌／竹本孝之　レコード／ＣＢＳソニー■音響監督／山崎　宏■製作／テレビ東京、土田プロダクション■キャスト　翼（小粥よう子）　岬（山田栄子）　小次郎（鈴置洋孝）　ロベルト（田中秀幸）　若林（橋本晃一）　早苗（坂本千夏）　若島津（飛田展男）　三杉（溝口　綾）　タケシ（上村典子）　松山（鈴木みえ）　石崎（丸山裕子）　高杉（広森信吾）　井沢（中原　茂）　来生（伊倉一恵）　新田（三ツ矢雄二）　早田（大塚芳忠）　次藤（平野義和）　佐野（大山尚雄）　和夫（鈴木れい子）　政夫（ならはしみき）　久美（神田和佳）　古尾谷（徳丸　完）　片桐（島田　敏）　奈津子（猪瀬明子）　シュナイダー（難波圭一）　アナウンサー（村山　明）　ほか　協力／俳協

NO. 349 ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大戦争

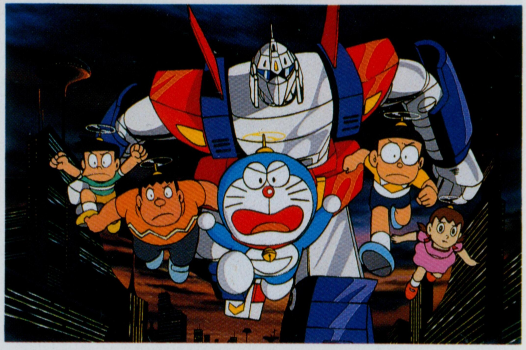


86年3月15日（土）東映系封切　40分
併映作品／キン肉マン　ニューヨーク危機一髪！、キャプテン翼　明日に向って走れ！、超新星フラッシュマン（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕彗星の影響で不漁の続くホウキボシ島が、西洋妖怪に占領された。たったひとり島を抜けだしたアキオ少年は、鬼太郎に助けを求める。大首領バック・ベアードのもと、島の人々を酷使して建設されているのは、無気味にそびえる巨大な妖怪城であった。島に上陸した鬼太郎一行は城の完成を阻止しようと、人々と協力してドラキュラ、魔女、狼男たちに戦いを挑む。だがそのころ、城の真下、海につながる洞穴の奥では、ある異変がはじまっていた。
〔解説〕劇場用新作第2弾。'66年に週刊少年マガジンに掲載された同名エピソードが原作となっているが、全体にコミカルなドタバタや派手なアクションシーンが強調されており、兼森義則作監のもと、原画担当のスタジオ・ジャイアンツの切れ味のよい原画が、大いに見せ場を盛りあげることに成功している。中間色を生かした叙情的な土田勇の美術も異彩を放っている。また、当時話題のハレー彗星が、ストーリーに盛り込まれているのも特徴的。

原作／水木しげる　講談社　コミックボンボン、テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち　連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／横山賢二■製作担当／松下健吉■脚本／星山博之■監督／葛西　治■作画監督／兼森義則■原画／稲野義信、音無竜之介、金津賀　博、鈴木しゅんじ、菜　明、深沢幸司、新岡浩美、入好さとる、柳瀬譲二、大鹿日出明■美術監督／土田　勇■背景／飯島由樹子、中山恭子、金山文美、小林勝寿、板坂泰恵■撮影監督／菅谷信行■編集／吉川泰弘■音楽／川崎真弘（Ｆｒｏｍ竜童組）■ＯＰ「ゲゲゲの鬼太郎」作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　ＥＤ「おばけがイクゾ～」作詞／吉　幾三　作曲／吉　幾三　以上、編曲／野村　豊　うた／吉　幾三　（徳間ジャパン）■録音／蔵本貞司■（製作／東映（東映動画））■声の出演　鬼太郎（戸田恵子）　目玉（田の中　勇）　ねずみ男（富山　敬）　子なきじじい（永井一郎）　一反もめん（八奈見乗児）　砂かけばばあ（江森浩子）　ぬりかべ（屋良有作）　ネコ娘（三田ゆう子）　ベアード（柴田秀勝）　ドラキュラ（村越伊知郎）　魔女（三輪勝恵）　フランケン（西尾　徳）　狼男（大竹　宏）　吸血鬼Ａ（小林通孝）　吸血鬼Ｂ（田中和実）　吸血鬼Ｃ（平野正人）　アキオ（頓宮恭子）　虎造（増岡　弘）　ヨネ（向井真理子）　キジム爺（山内雅人）　祈禱師（津田延代）　司会者（広中雅志）　協力／青二プロ

NO. 350 ドラえもん のび太と鉄人兵団

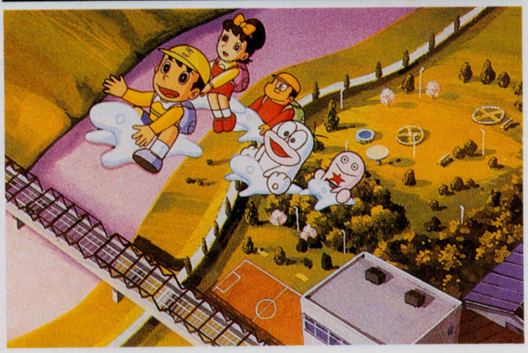


86年3月15日（土）東宝系封切　1時間37分
併映作品／プロゴルファー猿　スーパーGOLFワールドへの挑戦!!、オバケのQ太郎　とびだせ！バケバケ大作戦

〔あらすじ〕のび太は北極で不思議な球を見つけて持ちかえる。するとその球に導かれて、巨大ロボットの部品が次々に落ちてきた。ドラえもんとのび太は、誰もいない〝鏡面世界〟でロボットを組み立てザンダクロスと名づけるが、実はこのロボットは、ロボットの支配する星から送られた地球侵略の尖兵だったのだ。やがて現れた謎の少女リルルの指揮によって、ロボットの大軍勢が〝鏡面世界〟に出現した。のび太たちとロボット軍との戦いがはじまった。
〔解説〕〝長編ドラえもん〟第7作。ベテラン芝山努監督にとって、はじめての巨大ロボットものである。ザンダクロスの描写は、アクションシーンを得意とする神村幸子が中心となって担当。しずかとロボット少女リルルとの友情。そしてリルルが再び現れるラストシーンが感動的な作品で、コロコロコミックに連載された原作では最終回が袋とじになっていた。おとなのためのオールナイト上映は、前年の成功によってこの年も開催され、以後毎年恒例となっている。

原作・脚本／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、てれびくん、コロコロコミック、別冊コロコロコミックほか■プロデューサー／別紙壮一、小泉美明、波多野正美■制作担当／山田俊秀■文芸／水出弘一■監修／楠部大吉郎■監督／芝山　努■レイアウト／本多敏行■作画監督／富永貞義■原画／大塚正実、池ノ谷安夫、若松孝思、飯山嘉昌、斉藤文康、窪田正史、高木みえこ、一川孝久、原　完治、神村幸子、徳田悦郎、奈須川　充、若山佳治、山本勝也、伊藤一男、林　一哉、東田久美子、飯口悦子、重国勇二■美術設定／川本征平■美術監督／高野正道■撮影監督／斉藤秋男■編集／井上和夫、渡瀬祐子■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ドラえもんのうた」作詞／楠部　工　ＥＤ「わたしが不思議」作詞／武田鉄矢　以上、作曲／菊池俊輔　歌／大杉久美子　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■効果／柏原　満■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　ジャイアン（たてかべ和也）　スネ夫（肝付兼太）　しずか（野村道子）　パパ（加藤正之）　ママ（千々松幸子）　先生（田中亮一）　リルル（山本百合子）　ミクロス（三ツ矢雄二）　ロボット隊長（田中康郎）　ジュドのコンピューター（加藤　治）　博士（熊倉一雄）ほか

NO. 351
オバケのQ太郎 とびだせ！バケバケ大作戦

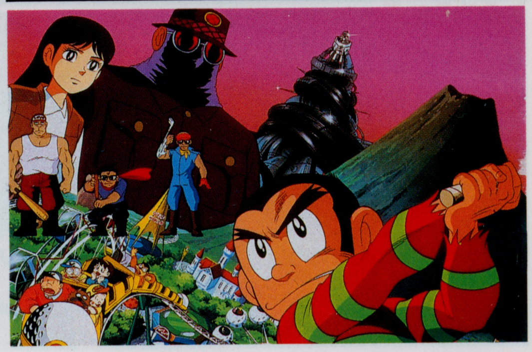


86年3月15日（土）東宝系封切　14分
併映作品／ドラえもん　のび太と鉄人兵団、プロゴルファー猿　スーパーGOLFワールドへの挑戦!!

【あらすじ】ある夜Qちゃんがのぞいていた望遠鏡のなかで、流れ星が謎のオバケの姿になった。翌朝、なかなか起きないQちゃんの口のなかに目ざまし時計がとびこんだり、タコヤキを買おうとすると店の主人が本物のタコだったりと、おかしなことがつづく。そしてついに、お花見に行ったみんなの前に謎のオバケが姿を現した。オバケは象に化けてQちゃんをのみこんでしまう。Qちゃんは象の腹のなかで、色々な楽器を鳴らして大暴れをはじめた。
【解説】立体映画として作られた「オバケのQ太郎」の劇場第１作。この年から、藤子アニメ３本立ての３本目として、立体アニメが製作されるようになった。この立体映画のシステムは、赤色の左側から見た画面と青色の右側から見た画面を、セルや背景やブックをずらすことによって撮影し、１本のフィルムにまとめたものを、赤と青のセロファンがはられたメガネで見るというものである。

原作／藤子不二雄■プロデューサー／加藤良雄、小泉美明、木村純一■脚本／桜井正明■総監督／笹川ひろし■監督／原田益次■作画監督・レイアウト／森下圭介■美術監督／宮野　隆■撮影監督／三沢勝治■立体技術／当間葦雄■録音監督／大熊　昭■編集／岡安　肇■音楽／菊池俊輔■声の出演　Q太郎（天地総子）　正太（三輪勝恵）　O次郎（横沢啓子）　ドロンパ（白石冬美）　P子（三田ゆう子）　U子（増山江威子）　ゴジラ（竹村　拓）　キザオ（龍田直樹）　ハカセ（肝付兼太）　※本リストは、映画公開時のパンフレットをもとに作成した。

NO. 352
プロゴルファー猿 スーパーGOLFワールドへの挑戦!!

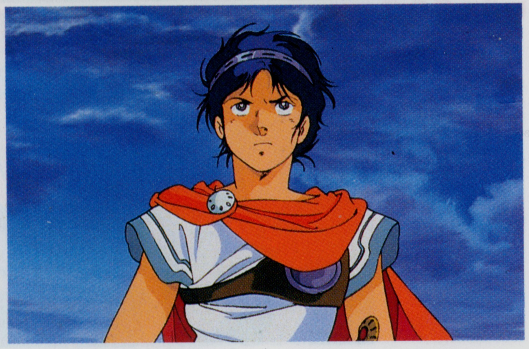


86年3月15日（土）東宝系封切　44分
併映作品／ドラえもん　のび太と鉄人兵団、オバケのQ太郎　とびだせ！バケバケ大作戦

【あらすじ】猿のもとに、スーパーGOLFワールドという遊園地への招待状が届く。さっそく弟たちとでかけていく猿だが、ミスターXによって小丸が人質にとられ、GOLFワールドのコースに挑戦するはめになる。コング拳、闇兵衛、変奇プロの３人を破った猿は、いよいよ最後の挑戦相手を迎える。それはGOLFワールドの設計者氷川博士と、スーパーコンピュータのタイタンであった。ミスターXは猿と氷川の実力を試そうとしていたのだ。
【解説】「プロゴルファー猿」の劇場第１作。監督の西村純二、作画監督の本橋秀之ともにTVシリーズと同様のスタッフで、特に本橋はシリーズの作監を１人でこなしながら劇場版も担当するという活躍ぶりである。次々に登場する奇想天外なコースでの勝負、特に猿や対戦相手のアクションは、TVシリーズで蓄積した見せ方を一挙に放出しているようで実に楽しめる。主題歌「WELCOMESUPER-GOLFWORLD」の作詞は藤子不二雄自身。

原作／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌、マミィ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、てれびくん、別冊コロコロコミック、小学一年生、小学二年生、小学三年生、小学四年生、小学五年生、小学六年生、コロコロコミック■プロデューサー／田村正司、小泉美明、波多野正美■文芸／滝原弥生■構成／松岡清治■脚本／城山　昇■監督／西村純二■メカ設定／佐藤正治■作画監督／本橋秀之■原画／なかじまちゅうじ、高橋敏雄、菊地由行、山田展彦、千葉順三、青嶋りら子、仙波隆綱■美術設定／半藤克美■美術監督／天水　勝■撮影監督／山田廣明■編集／岡安　肇、小島俊彦、村井秀明、中葉由美子、田中政行■音楽／筒井広志■OP「WelcomeSuperGolfWorld」唄／水木一郎、堀江美都子　ED「夢を勝ちとろう」唄／水木一郎　以上、作詞／藤子不二雄　作曲／小林亜星　編曲／筒井広志　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　猿丸（頓宮恭子）　中丸（高木早苗）　大丸（峰　あつ子）　小丸（原　えりこ）　おっちゃん（富田耕生）　若葉（堀江美都子）　ピエロ（大竹宏）　カンクロウ（田中真弓）　父親（野島昭生）　子供（安田あきえ）　ミスターX（内海賢二）　紅蜂（平野　文）　氷川（納谷六朗）　タイタン（二又一成）　コング拳（西尾　徳）　闇兵衛（中尾隆聖）　変奇プロ（塩沢兼人）

NO. 353
アリオン
ARION

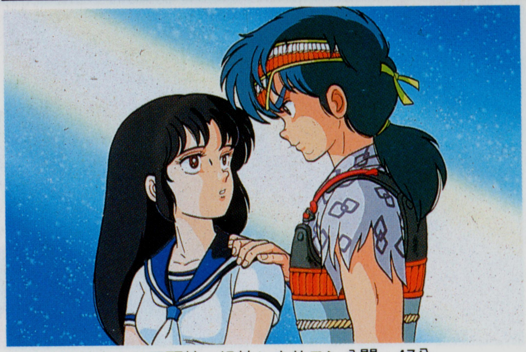


86年3月15日（土）東宝洋画系封切　1時間58分

〔あらすじ〕ティターン族の三兄弟は、この世を三界に分けて領有していたが、海の王ポセイドンと地上界の王ゼウスの間には、激しい戦闘が続いていた。両者に恨みを持つハデスは、ポセイドンの子・アリオンをさらい、刺客に育てた。ゼウスを倒す旅に出たアリオンは、アテナ軍に捕まるが、少女・レスフィーナに助けられる。彼女はアリオンの双子の妹だった。ゼウスの住むオリンポスをめざして旅を続けるアリオンには、苛酷な運命の試練が待っていた。
〔解説〕安彦良和が、雑誌「リュウ」で発表した同名の漫画を、自ら監督、作画監督などを担当してアニメ化した劇場作品。古代ギリシャ神話に材をとり、少年の精神的成長、父性と母性の対立などを描くヒロイック・ファンタジーである。ギリシア神話に造詣の深い高名な少女マンガ家・山岸涼子が衣装をデザインし、ＳＦ作家の川又千秋が構成に参加している。作画スタッフは、サンライズ系のベテランから若手までのオールスタッフ。

原作・監督／安彦良和■製作／徳間康快、磯邊律男、春名和雄、伊藤昌典■企画／徳間書店、日本サンライズ■プロデューサー／尾形英夫、中川宏徳、山田哲久■設定制作、演出助手／山口美浩■構成／川又千秋■脚本／田中晶子、安彦良和■演出／浜津　守■キャラクターデザイン、作画監督／安彦良和■キャラクターデザイン協力／山岸涼子■原画／塩山紀生、神村幸子、稲野義信、渡辺　浩、金山明博、千明孝一、うつのみやさとる、金森賢二ほか■美術監督／金子英俊■背景／平田秀一、日渡ひろみ、伊藤主計、海老沢一男、青木龍夫ほか■撮影監督／斉藤秋男■編集／井上和夫、井上編集室、布施由美子■音楽／久石　譲■ＥＤ「ペガサスの少女」作詞／松本　隆　作曲／林　哲司　編曲／萩田光雄　唄／後藤恭子■音響監督／千葉耕市■徳間書店・博報堂、丸紅、日本サンライズ提携作品■キャスト　アリオン（中原　茂）　レスフィーナ（高橋美紀）　セネカ（田中真弓）　アポロン（鈴置洋孝）　アテナ（勝生真沙子）　ハデス（大塚周夫）　ポセイドン（小林清志）　ゼウス（大久保正信）　リュカオーン（永井一郎）　デメテル（武藤礼子）　黒の獅子王（プロメテウス）（田中秀幸）　幼い日のアリオン（小宮和枝）　ガイア（来宮良子）　ギド（西尾　徳）　ヘラクレス（郷里大輔）　アレース（島田　敏）　ピオ（太田貴子）　エートス（宮内幸平）　エートスの妻（京田尚子）　祭司（西村知道）ほか

NO. 354
るーみっくわーるど 炎（ファイヤー）トリッパー

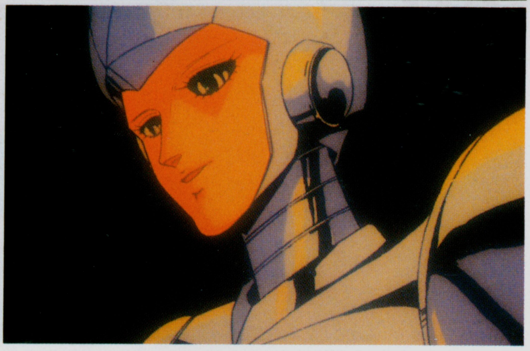


86年3月21日（金）松竹・松竹富士共同配給　松竹シネサロン公開　47分
併映作品／ザヒューマノイド、県立地球防衛軍（春休み松竹アニメ・フェア）

〔あらすじ〕女子高生の涼子と、近所の子ども・周平は、ある日ガス爆発に巻きこまれタイムスリップしてしまう。戦国時代に飛んだ涼子は、荒々しい少年・宿丸と、その妹・すずに出会う。とまどいながらも別れ別れの周平を捜す涼子につきあいながら、涼子を気にいってしまった宿丸は、嫁になれと迫る。そんなとき宿丸の村に野盗の赤馬一味が襲来、村に火を放った。その猛火のなか、崩れ落ちる家からすずを救えないまま、涼子と宿丸は今度は現代に飛んだ。
〔解説〕「うる星やつら」につぐ高橋留美子作品のアニメ化。高橋原作の短編をアニメ化したビデオシリーズ「るーみっくわーるど」の第１弾にあたり、原作に忠実に作られている。監督、作監の高橋資祐以下、作画のスタジオ・ドオタク、美術のプロダクション・アイなど、テレビの「うる星やつら」を手がけてきたスタッフが中心となって参加。また、同じ「うる星」で、可愛らしいラムを描いてファンの熱狂的な人気を得た遠藤麻未も原画を担当している。

原作／高橋留美子■企画／小学館■プロデューサー／布川ゆうじ、立原　一■制作デスク／鈴木重裕■脚本／金春智子■監督・作画監督／高橋資祐■演出／上村　修■アニメーションキャラクターデザイン／青嶋克己■原画／山本直子、遠藤麻未■美術監督／新井寅雄■美術設定／山本順子■背景／プロダクション・アイ、井上徹雄、朝倉千登勢、内山　誠、山田勝宏、米田晴美、高野圭子、松永悦子、地蔵本拓嗣ほか■撮影監督／藤田正明■撮影／諫川　弘、久保田典秀、鈴木秀男、山口利明、澤田典彦、後藤然、鈴木一則、山本　隆■編集／森田編集室、坂本雅紀、森田清次■音楽プロデューサー／宇佐美　廉■音楽／奥　慶一■ＥＤ「パラドックス」作詞、作曲／秋元　康　挿入歌「予感」作詞／秋元　康　作曲／吉田美奈子　以上、編曲／武部聡志　唄／秋元薫　（ビクターレコード）■レコーディングディレクター／金子秀昭■協力プロダクション／スタジオじぱんぐ、ＡＧＵ、グループどんぐり、所沢グループ、スタジオＭＡＣ、大阪アニメワールド、少年サンデー編集部■製作／小学館、スタジオぴえろ、小学館プロダクション、オービー企画■声の出演　涼子、すず（島本須美）　宿丸（水島　裕）　周平（田中真弓）　赤馬（玄田哲章）　名主（矢田耕司）　捨吉（千葉　繁）　弥一（塩屋　翼）　ゴン（西村智博）　涼子の父（徳弘夏生）　涼子の母（坪井章子）　周平の母（峰　あつ子）ほか

NO. 355 ザ　ヒューマノイド

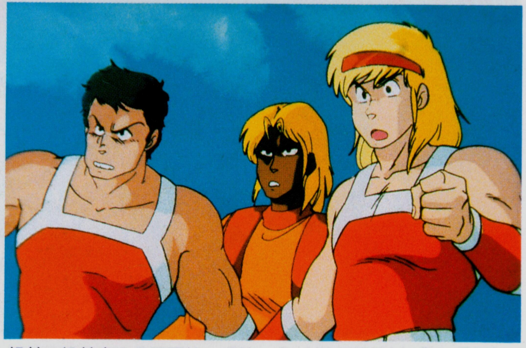


86年3月21日（金）松竹・松竹富士共同配給　松竹シネサロン公開　46分
併映作品／るーみっくわーるど　炎トリッパー、県立地球防衛軍（春休み松竹アニメ・フェア）

【あらすじ】地球人とメガロス星人が共存する惑星レザリア。タンカー・ロケットの乗員・アーロンとエリックは、事故のため不時着した途端に謎の戦闘機の攻撃を受け、ワトソン博士の研究所へと避難。そこで2人は美しい女性型ヒューマノイドのアントワネットと出会う。エリックにひそかな恋愛感情を抱くアントワネット。そのころイグナシナ王女を倒しメガロス支配を狙う総督プラウドは、遺跡に埋まる巨大宇宙船に目をつけて陰謀をめぐらしていた。
【解説】イラストレーターの空山基の描くメタリックな女性アンドロイドを登場させたオリジナルビデオアニメ。ただ、その売り物であるはずのアントワネットはなぜか一部のシーンを除いてずっと服を着ており、その美しいボディーはほとんど画面に登場しない。他のカナメビデオアニメと同様、かわいい女の子とメカアクションが登場する。

ノベライズ／水出弘一　（講談社X文庫）■ゼネラルプロデューサー／芝崎寛政■プロデューサー／長尾聡浩■監修／影山楙倫、樋口純郎■脚本／水出弘一、カナメプロダクション■監督／政木伸一■オリジナル・キャラクター／空山　基■キャラクター・デザイン／小原渉平■イメージ設定／豊増隆寛■サブメカニックデザイン／西井正典、佐藤智彦■作画監督／上條　修■メイン・アニメーター／和田卓也、中野深雪、山内英子、西井正典、渡辺真由美、河野悦隆、郡司政一、佐藤　正、藤　三桂、鶴山　修、山崎　理、古川佳正、富沢和雄、高見明男、市角博継■美術監督／勝又　激■撮影監督／池上元秋■編集／掛須秀一、村松正宏、石田　悟、磯部文弘■音楽／中島正雄■ＥＤ「Dancin'InTheRain」作・編曲／佐藤　健　挿入歌「金色の微笑」作・編曲／中島正雄　以上、作詞／三浦徳子　唄／早川めぐみ■オリジナルサウンドトラック盤／東芝ＥＭＩ■音響監督／松浦典良■制作協力／ニシコプロ■企画・制作／株式会社ヒロメディア、株式会社カナメプロダクション■製作／株式会社ヒロメディア、株式会社カナメプロダクション、東芝ＥＭＩ株式会社■キャスト　エリック（矢尾一樹）　アントワネット（榊原良子）　シェリー（柴田由美子）　アーロン（小林清志）　ワトソン（柴田秀勝）　プラウド（曽我部和恭）　イグナシア（あきやまひかり）　リベロ（丸山詠二）　側近（佐藤正治）ほか

NO. 356 県立地球防衛軍



86年3月21日（金）松竹・松竹富士共同配給　松竹シネサロン公開　49分
併映作品／るーみっくわーるど　炎トリッパー、ザヒューマノイド（春休み松竹アニメ・フェア）

〔あらすじ〕『県立作戦第一号』――とある地方都市に日本征服を狙う電柱組が出現。彼らに対抗して盛田、あき子、助久保らは、県立地球防衛軍に入隊。そして、サイボーグのサンチンを彼らがかくまったことから、電柱組のバラダギらと初めて対決する。『魔の店へ飛べ！』――電柱組のボスの経営する材木屋にスパイにでかけた盛田と助久保は失敗ばかり。『サイボーグブゥギィ』――サイボーグの昭子は、電柱組に父を人質にとられて脅迫され、サンチンと戦うはめに。
〔解説〕OVA作品の劇場公開版で、3話構成のオムニバス作品である。作画の暴走やパロディなど、「うる星」的な遊びのセンスを見せ場として作られた。脚本の伊藤和典は特撮ファンとして知られるが、原作の最大の特徴である特撮パロディなどは抑えられ、ギャグアクションの色彩が強い。田村英樹の作画によるOPは、〝これぞSFアニメ!!〟というノリで、ファンの話題をよんだ。主題歌はRCサクセションの忌野清志郎で、そのミスマッチが効果を上げた。

原作／安永航一郎　（小学館・少年サンデーコミックス刊）■企画・製作／宇佐美　廉■プロデューサー／若菜章夫■アシスタントプロデューサー／神田修吉、奥野敏聡■監督／早川啓二■演出／早川啓二、阿部　司、水谷貴哉■オープニングアニメーション／田村英樹■エンディングアニメーション／阿部司■キャラクターデザイン、総作画監督／青島克巳■作画監督／阿部　司、松原徳弘、下田正美■原画　第1話／松原徳弘、田村英樹、菊池通隆、酒井啓史、塚本　篤、服部知憲、半田由梨、市下　聡、水谷貴哉　第2話／下田正美、浜田　勝、松本小百合、平岡正章、太田雅三、田中二郎、辻　佳宏、今隈真一　第3話／S．U．ラオホ、阿部　司、佐藤　徹、清水恵子、佐藤江美代、山本哲也、佐藤雄三■美術監修／小林七郎■美術監督／木村真二■背景／小林プロダクション、形山　正、田中貞彦、縫部文江、白石　誠、橘　辰憲■撮影監督／杉村重郎■編集／掛須編集室、掛須秀一、松村将弘、石田　悟、磯部文弘■音楽／羽田健太郎ＯＰ「Ｓ．Ｆ.」ＥＤ「かくれんぼ」以上、作詩、作曲、編曲／忌野清志郎＋ＣＨＡＲ　歌／忌野清志郎，Johnny，Louis&Char（東芝ＥＭＩ）■音響プロデューサー／黒田　洋■音響監督／小松亘弘■キャスト　バラダギ（鶴　ひろみ）　チルソニア（池田秀一）　盛田（古谷　徹）　サンチン（鈴置洋孝）　助久保（玄田哲章）　炉縁（田中秀幸）　裕子（藤田淑子）ほか

NO. 357 タッチ　背番号のないエース

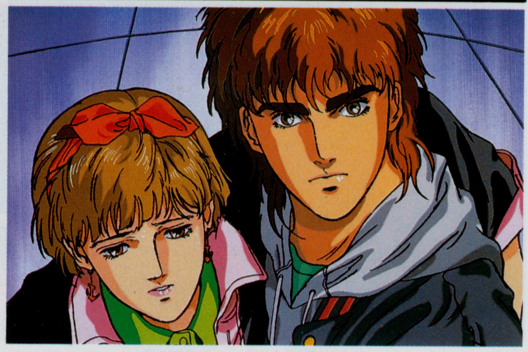


86年4月12日（土）東宝系封切　1時間35分
併映作品／テイク・イット・イージー

〔あらすじ〕上杉家の双子・達也と和也、そして幼なじみの浅倉南は、ともに明青学園高等部へ進学した。和也はすぐに野球部へ入ってエースとなる。達也も入部を勧められるが、南もマネージャーとして入部したことを知ると、決心をひるがえしてボクシング部へ入ってしまう。達也は、和也が南を想い、彼女のために甲子園へ行こうとしていることを知っていたのだ。だが南は達也に想いを寄せていた。明青学園は予選を勝ち進み、ついに決勝戦を迎えるが……。
〔解説〕30%を越える高視聴率を記録したテレビシリーズの人気を背景に作られた劇場用オリジナル作品。原作にほぼ忠実だったテレビシリーズに対し、映画は、交通事故で倒れた和也の身代わりに、達也がエースとしてマウンドに登る等、オリジナルの展開を加えて、よりドラマチックに描かれている。テレビの各話演出で活躍した永兵昭典・池田はやとが絵コンテを担当、原作の雰囲気を残しつつ、物語をテンポアップして心地よい緊張感を生みだしている。

原作／あだち充　小学館「週刊少年サンデー」連載■製作／大橋雄吉、日枝　久、太田一郎■制作／藤田　健■企画／角谷　優、関谷猪三男■プロデューサー／藤原正道、岡　正、片岡義朗■制作プロデューサー／対木重次■制作担当／川人憲治郎■脚本／原田遊人、並木　敏、杉井ギサブロー■監督／杉井ギサブロー■監督補／はしもとなおと■助監督／宇井孝司■絵コンテ／永兵昭典、池田はやと■アニメーション監督／前田庸生■作画監督／前田　実、遊佐和重■原画／江口摩吏介、中島　薫、千田幸也、村田雅彦、野村誠司、今澤恵子、宮脇貴子、船塚純子、宮澤康紀、重国勇二、塚田久美子、ジュニオ、亜細亜堂、シャフト、ギャロップ、アウベック、ビックバンほか■美術／金村勝義■背景／<じゃっく>西倉　力、中島嘉寿子、畑岡教子、井置　敦、スタジオ・テークワン、アートランド、アトリエ・11ほか■編集／古川雅士■音楽／芹澤敲明■ＥＤ「背番号のないエース」作詞／売野雅勇　作曲・編曲／芹澤敲明　歌／ラフ＆レディ（ポリドールレコード）■音響監督／藤山房延■録音／伊東忠美、山田　均（新坂録音）■協力／小学館、オービー企画■制作／グループ・タック、田代敦巳■製作／東宝株式会社、フジテレビジョン、旭通信社■声の出演　達也（三ッ矢雄二）　和也（難波圭一）　南（日高のり子）　孝太郎（林家こぶ平）　原田（銀河万丈）　悠子（鶴　ひろみ）　黒木（塩沢兼人）ほか

NO. 358 メガゾーン23 PARTⅡ　秘密く・だ・さ・い

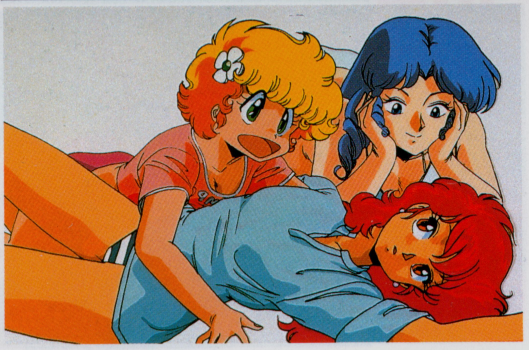


86年4月26日（土）東映クラシックフィルム配給　1時間20分

〔あらすじ〕あれから6カ月、省吾はライトニングをリーダーとするバイクグループ・トラッシュと協力して、B・Dたち軍部からガーランドを奪回しようとする。東京ともうひとつの宇宙船デザルグとの戦争は激化し、技術的に遅れた東京は劣勢に陥っていた。由唯と再会して互いの愛を確認した省吾。ガーランドを取り戻した省吾たちは、イブの助けを求める声に応えてバハムートをめざす。多くの犠牲を払ってやっとたどりついた省吾に、イブが語りかけてくる……。
〔解説〕大ヒットした「メガゾーン23」の続編。監督、キャラデザイン、主役のキャストなどが変更され、かなり印象の異なった作品となった。これが初のキャラデザインとなった梅津泰臣の、華やかでリアルな絵柄をもとに、ディテールにこだわった画面作りをめざしたが、残念ながら所々アラの目立つできとなった。ただ、スタッフの熱意に満ちた作品であるのも事実だ。ビデオ版では省吾と由唯のベッドシーンが数カット削られている。

原作／石黒　昇■制作／須川英昭、小野寺脩一■企画／鈴木敏充■プロデューサー／三浦　亨■制作担当／渡辺欽哉■構成／山田勝久■脚本／星山博之■監督／板野一郎■総監修／石黒　昇■演出／長谷川康雄、山田勝久■絵コンテ／板野一郎、長谷川康雄、山田勝久、清積紀文■オリジナルキャラクターデザイン／梅津泰臣■スペシャルキャラクターデザイン／美樹本晴彦■メカニックデザイン／荒牧伸志■総作画監督／梅津泰臣■メカ作画監督／板野一郎■イヴ作画監督／門上洋子■作画監督補佐／飯田史雄、清水義治、仲　盛文、鳴雪浩一、二村秀樹、結城信輝、寺沢伸介■原画／寺沢伸介、太田博光、門上洋子、清水義治、奥田　淳、結城信輝、清山滋崇、山本天志、漆原智志、よしもときんじ、友田正晴、伊藤修一、田野雅祥、上野　賢ほか■動画作監／川崎茂、別所誠人■美術監督／荒井和浩■美術設定／荒井和浩■背景／あにまる屋、ボア'八三■撮影監督／新井隆文■音楽／鷺巣詩郎■ＥＤ「秘密く・だ・さ・い」作詩／松井五郎　作曲／鈴木キサブロー　編曲／鷺巣詩郎　唄／宮里久美　ビクター音楽産業株式会社■音響監督／本田保則■制作／株式会社ＡＩＣ、アートランド、アートミック■製作・著作／あいどる■製作／株式会社あいどる、ビクター音楽産業株式会社■キャスト　矢作省吾（矢尾一樹）　高中由唯（河村万梨阿）　Ｂ・Ｄ（塩沢兼人）　イヴ（宮里久美）　ライトニング（千葉　繁）ほか

NO. 359 プロジェクトA子 (PROJECT"A"KO)



86年6月21日（土）松竹富士配給　1時間23分
併映作品／旅立ち　亜美・終章

［あらすじ］グラビトン学園に転校してきた、魔神英子（A子）と親友の寿詩子（C子）。底抜けに明るい脳天気娘のC子になぜかひとめぼれした学園一の才女・大徳寺美子（B子）は、A子を倒してC子を我がものにしようと暗躍。お手製の巨大ロボなども繰りだして挑戦するが、異常な腕力と身軽さを持つA子にはかなわない。ついに自ら強化スーツ〝赤城山23号〟に身を包み、最終決戦に挑むが、そのころ外宇宙から地球に向けて迫りつつある謎の宇宙船があった。
［解説］爆発的人気の「くりいむレモン」を生んだ創映新社が、初めて手がけた一般向け劇場作品。「うる星やつら」で活躍した西島克彦が監督を、森山ゆうじがキャラ設定、絵コンテ、作監をつとめ、アニメ「うる星」の魅力であった美少女、メカアクション、パロディ感覚に満ちた、ひたすら軽い感覚の作品に仕あげている。内容はともかく、若手アニメーターの熱意が画面にみなぎった作品であった。ビデオ作品として続編が作られて人気シリーズになっている。

原作／西島克彦、白板一美　ノベライゼイション／越沼初美（角川文庫）　ストーリーブック／講談社X文庫■製作／吉田尚剛■制作補佐／板井誠郎、吉田　浩、吉田純子■プロデューサー／野村和史■制作プロデューサー／光森裕子、坂口建次■監督／西島克彦■脚本／森山ゆうじ、西島克彦、川崎知子■演出／森川しげる■キャラクターデザイン、作画監督／森山ゆうじ■メカニックデザイン／グラビトン■メカニック作画監督／増尾昭一■作画監督補佐／平田智浩■メカニック作画監督補佐／伊藤浩二■原画／近藤真守、津久井明子、高木弘樹、中島敦子、富田悦子、合田浩章、大貫健一、山内則康、松村靖之、松下浩美ほか■美術監督／木村真二（小林プロダクション）■美術設定／東條俊寿■背景／川名俊英、今村樹生、宮川一男、藤江優子ほか■撮影監督／新井隆文■編集／三木幸子、森田編集室■音楽／リッチー、ジトー、ジョーイ、カーボン、赤坂東児■ＥＤ／「ダンスアウェイ」訳詞／三浦徳子　歌／伊藤美紀、篠原恵美、富沢美智江　オリジナルサントラ盤／ポリスターレコード■音響監督／本田保則■制作協力／ＵＤ－ＦＲＯＮＴ■製作／株式会社創映新社、Ａ．Ｐ．Ｐ．Ｐ．CO.LTD.,■声の出演　Ａ子、魔神英子（伊藤美紀）　Ｂ子、大徳寺美子（篠原恵美）　Ｃ子、寿　詩子（富沢美智江）　謎の人物Ｄ（玄田哲章）　キャプテン（池田秀一）ほか　キャスティング協力／勝田話法研究所

NO. 360 旅立ち　亜美・終章



86年6月21日（土）松竹富士配給　40分
併映作品／プロジェクトＡ子

〔あらすじ〕ひそかに慕っていた、血のつながらない兄ヒロシと結ばれた高校生の亜美。それを知った母は、ヒロシをロンドンへと留学させる。寂しさに耐えかねた亜美は、親友の今日子とサトミに誘われるままディスコへ。酔った亜美は、そこで出会った河野と関係を持ってしまう。後悔とヒロシのことが忘れられずに、すさみきった心で街を彷徨する亜美に、芸能プロのスカウトマンが声をかけてきた……。
〔解説〕一世を風靡した創映新社のアダルトビデオシリーズ〝くりいむレモン〟シリーズ大人気キャラ・亜美を主人公にした〝亜美シリーズ〟の完結編として製作された非アダルト作品。ただし、こののちもアダルトビデオとして〝亜美シリーズ〟は続くことになる。せっかくの劇場版だが、作画、物語ともにビデオシリーズよりグレードは落ちる。

製作／株式会社　創映新社、Ａ．Ｐ．Ｐ．Ｐ　ＣＯ．ＬＴＤ■配給/松竹富士株式会社　※タイトルクレジットには，上記以外のスタッフ名は、一切表示されない。

NO. 361 ハイスクール！奇面組



86年7月12日（土）東映系封切　51分
併映作品／ゲゲゲの鬼太郎　最強妖怪軍団！日本上陸!!、キャプテン翼　世界大決戦!! Jr.ワールドカップ、メイプルタウン物語（東映まんがまつり）

【あらすじ】『やめてお願い！夏休み補習授業』――１学期の成績が悪かった奇面組の面々は、１週間の補習授業を受けることになった。１日でも欠席したら、臨海学校に参加できないのだ。『臨海学校・永遠なる遠泳』――臨海学校にやってきた、一応高校の２年生には夏休み１週間延長をかけた10キロメートルの遠泳が待っていた。『決闘！三重の塔・珍拳勝負』――事代先生が部長をつとめる一応高校の空手部に、若気市猿たち強敵が果たし合いを申しこんできた。
【解説】人気テレビシリーズ「ハイスクール！奇面組」の劇場新作。３本のエピソードの間に、テレビで人気の高いオープニング、エンディングのノンタイトル版フィルムを挟んだ豪華な構成だが、各話のできはテレビシリーズ並み。最初の２話の中間に位置するエピソード「全員出席せよ・水着も光る　夏の臨海学校」が、公開に前後してテレビ放映されている。また、「決闘！三重の塔・珍拳勝負」は、のちにテレビシリーズ中の１エピソードとして放映される。

原作／新沢基栄（週刊少年ジャンプ連載）■製作／関谷猪三男■企画／土屋登喜蔵（フジテレビ）■プロデューサー／片岡義朗（ＮＡＳ）、原田一男、茂垣弘道（スタジオコメット）■製作担当／別府幸司■脚本／小山高男■演出、絵コンテ／（Ⅰ）森脇真琴（Ⅱ）三沢　伸　（Ⅲ）福富　博■キャラクターデザイン、総作画監督／金沢比呂司■作画監督／奈須川　充■原画／（Ⅰ）宍倉　敏、馬渡久史、山田俊也、玉腰昌樹、緒方泰彦、福本　勝　（Ⅱ）小湊昇、井沢晴美、村山茂樹、北尾　勝　（Ⅲ）奈須川充、大久保　修、福富和子、徳田悦郎、伊藤一男、若山佳治、山本勝也、東海林真一、富沢和雄、植松由美子、斉藤久美子■美術監督／古谷　彰■背景／河野次郎、西川淳一郎、古谷きよみ、川名俊英、西川かおり、本多美紀、海老沢登代■撮影監督／金子仁、菊地英明■編集／岡安　肇■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「うしろゆびさされ組」編曲／佐藤　準　ＥＤ「猫舌ごころも恋のうち」編曲／後藤次利　以上、作詞／秋元　康　作曲／後藤次利　歌／うしろゆびさされ組（キャニオンレコード）■音響監督／斯波重治■録音／ニュージャパンスタジオ■協力／あにまる屋、ランダム■制作協力／スタジオコメット■制作／ＮＡＳ■声の出演　一堂　零（千葉　繁）　冷越　豪（玄田哲章）　大間　仁（龍田直樹）　出瀬　潔（二又一成）　物星　大（塩沢兼人）　河川　唯（高橋美紀）　宇留千絵（松井菜桜子）ほか

NO. 362 ゲゲゲの鬼太郎 最強妖怪軍団！日本上陸!!



86年7月12日（土）東映系封切　49分
併映作品／ハイスクール！奇面組、キャプテン翼　世界大決戦!! Jr.ワールドカップ、メイプルタウン物語（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕人間と妖怪の友好盆踊り大会を前に、ユメコは那須高原で会った中国の行商人から買った反物で、母にきれいなゆかたを作ってもらう。ところがそれは、かつて九尾の狐である姉を殺され、復讐に燃える中国妖怪チーの、人を思い通りに操る妖怪反物であった。鬼太郎の仲間も次々と襲われ、姿を消していく、丸毛の案内で、敵のたむろするチーの城に乗りこんだ鬼太郎も、すきをつかれて反物に変えられた。危機を察した目玉は、井戸仙人に相談に行く。
〔解説〕劇場用新作第３弾。'69年に週刊少年マガジンに掲載された「妖怪反物」が原作。映画版全４作のなかでは、キャラクター、ストーリーともに最も原作に忠実に作られている。過去にテレビ登場した妖怪たちが総出演するのも今回の見せ場で、とくに日本妖怪対中国妖怪の攻防シーンは、芹川有吾演出のもと、各妖怪の個性が生き生きと描かれており秀逸。人間と妖怪の共存というテーマも明確で、ラストの盆踊り大会の場面などに強く表れている。

原作／水木しげる　講談社（コミックボンボン、テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち、週刊少年マガジン）連載■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／横山賢二■製作担当／松下健吉■脚本／星山博之■監督／芹川有吾■助監督／芝田浩樹、渡辺健一郎■作画監督／山口泰弘■原画／宇田川一彦、清山滋崇、越智一裕、稲野義信、直井正博、増田信博、門脇孝一、小山りょう、篠崎俊克、森田奈苗、河野宏之■美術監督／内川文広■美術進行／御園　博■背景／明石貞一、海老原一男、小笠原えつこ、須田栄子、塩崎広光、安西哲夫、谷口百範、松宮正純、佐貫利勝、杉浦正一郎■撮影監督／白井久男■撮影チーフ／大藤哲生■編集／吉川泰弘■音楽／川崎真弘（FROM　竜童組）■ＯＰ「ゲゲゲの鬼太郎」作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　ＥＤ「おばけがイクゾ～」作詞、曲／吉　幾三　以上、編曲／野村　豊　うた／吉　幾三（徳間シャパン）■録音／蔵本貞司■録音スタジオ／タバック■（製作／東映（東映動画））■声の出演　鬼太郎（戸田恵子）　目玉（田の中　勇）　ねずみ男（富山　敬）　子泣きじじい（永井一郎）　一反もめん（八奈見乗児）　ぬりかべ（屋良有作）　砂かけばばあ（江森浩子）　ネコ娘（三田ゆう子）　ユメコ（色川京子）　星郎（高坂真琴）　ユメコの母（川浪葉子）呼子（杉山佳寿子）　丸毛（塩屋　翼）　チー（宮川洋一）ほか　協力／青二プロダクション

NO.
363 キャプテン翼 世界大決戦!! Jr.ワールドカップ

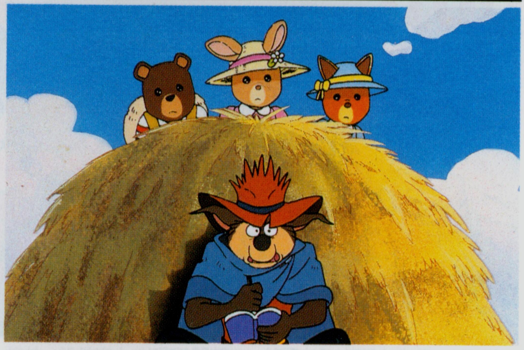


86年7月12日（土）東映系封切　57分
併映作品／ハイスクール！奇面組、ゲゲゲの鬼太郎　最強妖怪軍団！日本上陸!!、メイプルタウン物語（東映まんがまつり）

【あらすじ】日本、ヨーロッパに加え、アメリカ、南米が参加するＪｒ.ワールドカップが、ついに実現することになった。岬、若林も参加し、ベストメンバーでJr.ワールドカップにのぞむ全日本Jr.。ヨーロッパJr.は、対南米Jr.で敗退。予想以上の強さを見せる南米Jr.の監督は、翼の師ともいえるロベルト本郷だった。しかし、再会を喜ぶ翼に対し、冷たいロベルト。複雑な心のまま、南米Jr.との決勝試合開始のホイッスルが響く。
【解説】劇場用第４作。製作の土田プロは、同年７月９日に倒産しており、これが最後の作品となった。製作が混乱していたのだろう、物語はともかく、作画などは相当に乱れている。テレビシリーズはすでに放映終了しており、この１本が最後の「キャプテン翼」となった。カルロス・サンターナは、原作者の高橋陽一の原案をもとにした本作のオリジナルキャラクター。

原作／高橋陽一（集英社刊　少年ジャンプ連載）■プロデューサー／江津兵太（テレビ東京）、小平正夫（土田プロダクション）■事業プロデューサー／東荘太郎（テレビ東京）■文芸担当／大金正一■脚本／菅　良幸■演出／岡本達也■演出助手／首藤行朝、中村憲由■作画監督、キャラクターデザイン／岡迫亘弘■原画／小島秀人、宇田川一彦、興村忠美、大西克美、野館誠一、的場あつし、保田康治、福井享子、高木敏夫、林　憲昭、多賀かずひろ、鈴木篤哉、竹内　昭■作画／竜の子アニメ技術研究所、ネオメディアプロ■美術監督／長尾　仁■背景／中原英統、井上由美、堀内雅人、北村由利子、飯島章嘉、佐藤美千代■背景協力／西倉　力、中島嘉寿子、井置　敦■撮影／西川龍二、島寝竜一■撮影協力／キュープロダクション、スタジオトゥインクル■編集／岡安肇、小島俊彦、中葉由美子、村井秀明、田中政行■音楽／飛沢宏元■ＥＤ「ロンゲスト・ドリーム」作詩、曲／内木　宏　編曲／飛澤宏元　歌／坂本千夏　レコード／ＣＢＳソニー■音響監督／山崎　宏■製作／テレビ東京、土田プロダクション■（製作／東映（東映動画））■キャスト　翼（小粥よう子）　小次郎（鈴置洋孝）　岬（山田栄子）　若林（橋本晃一）　若島津（飛田展男）　早苗（坂本千夏）　弥生（鈴木富子）　サンターナ（井上和彦）　ディアス（大山尚雄）　ビクトリーノ（小寺宏一）　シュナイダー（難波圭一）ほか

NO.
364 メイプルタウン物語

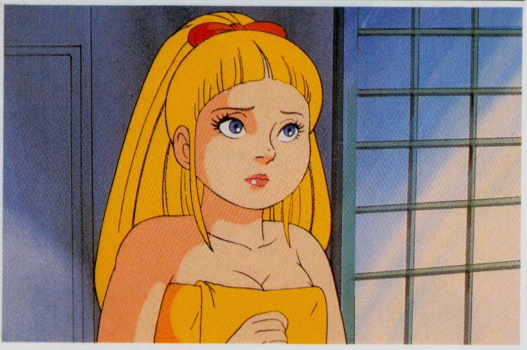


86年7月12日（土）東映系封切　24分
併映作品／ハイスクール！奇面組、ゲゲゲの鬼太郎　最強妖怪軍団！日本上陸!!、キャプテン翼　世界大決戦!! Jr.ワールドカップ（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕パティやボビーたちがアホウドリが空に飛び立つのを見ていると、ジョニーの母親がやってきて、勉強の時間だからと、彼を連れ帰ってしまった。ぼくも鳥になって自由に空を飛んでみたいとつぶやくジョニー。彼は秀才だが気が弱く、過保護ぎみの母親のいいなりになっているのだ。その日、地図の測量のためメイプルタウンに気球がやってきた。パティたちは気球に乗せてもらえることになったが、ジョニーは怖がって気球に乗るのを嫌がるのだった。
〔解説〕テレビシリーズでも活躍し、ファンタジックな味わいの作品で知られる東映動画研修生・貝沢幸男の初の劇場作品。テレビサイズの小品ながら、気球の旅を通じて気弱なジョニーの内面を鋭く描いた佳作である。シリーズ中でも、かわいらしい家や季節感ある風景など美術がよく話題になっていたが、今回もパッチワーク状の畑など気球から見たメイプルタウンの美しい風景が見所だった。中盤に新作挿入歌によるミュージカルシーンがあった。

連載／講談社　ディズニーランド・おともだち、たのしい幼稚園・テレビマガジン■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／山口康男、高橋尚子■製作担当／横井三郎■脚本／朝倉千筆■監督／貝沢幸男■監督助手／角銅博之■キャラクターデザイン／二宮常雄■作画監督／小松原一男■原画／尾鷲英俊、末吉裕一郎、安藤正浩、才田俊次、小松原一男■美術進行／中村　実■美術監督／小林祐子、有川知子■背景／小林祐子、有川知子、今野良子、上田三輪子、塚越幸江■撮影監督／玉川芳行■仕上進行／倉岡裕之■仕上／横山浩子、風間洋子、山本苗子、佐々木和子、松下晴子■特殊効果／大橋　清■撮影／沖野雅英、渡辺英俊、片山和子、小林尚美■編集／望月　徹■ネガ編集／喜多伴子■音楽／小坂明子■ＯＰ「メイプルタウン物語」ＥＤ「パティの日曜日」作詩・作曲／小坂明子　編曲／信田かずお　うた／山野さと子（コロムビアレコード）■録音／池上信照■選曲／渡辺恭野（ビモス）■音響効果／伊藤道広■記録／樋口裕子■現像／東映化学■（製作／東映（東映動画））■声の出演　パティ（岡本麻弥）　ボビー（塩屋　翼）　グレテル（屋良有作）　ハリソン（野島昭生）　ナンシー（坪井章子）　ジョニー（竹村　拓）　ダイアナ（荘　真由美）　気球のおじさん（神山卓三）　助手Ａ（小林通孝）　助手Ｂ（山本公登志）　助手Ｃ（平野正人）　駐在（塩屋浩三）　協力／青二プロ

NO.
365 愛しのベティ　魔物語



86年7月19日（土）封切　東映セントラルフィルム配給　53分
併映作品／アモン・サーガ

【あらすじ】親分の仇討ちを狙うチンピラやくざの肝川胆平は、雨のなか、好みの美女ベティに出会い、ケガをした彼女の手当をしてやった。彼女は実は魔界からやってきた魔女であって、姉の仇である魔人ルタンを捜していたのだ。愛し合うようになった２人は結婚する。だが、魔女と人間の結婚を嫌う魔界の長・大祖母は魔女シバを送りこんで、胆平に抱かせる。人間と結婚した魔女は、その相手が他の魔女と交わると、愛と記憶を失ってしまうのだ。胆平は、ベティの愛をとり戻すため魔界へ向かった。
【解説】オリジナルビデオの劇場公開版。原作は青年誌連載の劇画で、性描写などがあるため劇場公開ではＲ指定を受け、ビデオも18禁となったが、実際にはさほど過激な内容ではない。原作者の１人・小池一夫が総監督をつとめ、主役の胆平を三宅裕司が演じているのも話題の一つ。

原作／小池一夫、叶　精作（小学館 BIG COMICS）■企画／吉田　達、中川真次■プロデューサー／飯島　敬、原屋楯男■制作担当／菅原啓太■脚本／高屋敷英夫■総監督／小池一夫■演出／佐藤真人■絵コンテ／日高　森■キャラクターデザイン／大原和男■作画監督／進藤満尾■原画／宍戸久美子、石井和彦、桜井芳久、大貫健一、山崎　理、鶴山　修、桑原周枝、嵯峨　敏、曽我部　孝、高橋久美子、劉　輝久、高田三郎、長島正徳、林　宏樹、金沢　治、平山信幸■動画チェック／辻　久子、幸山哲郎■美術監督／勝又　激■背景／スタジオ・コスモス、野々村恒人、今村樹生、橋爪富紀子、村上律子、太田　大、谷村心一■撮影監督／池上元秋■編集／掛須秀一■音楽／美野春樹■ＯＰ「あ・な・た・にアムール」ＥＤ「愛に来て」以上、作詞／湯川れい子　作・編曲／奥　慶一　歌／伊藤かずえ　日本コロムビア■音響監督／太田克己■録音・選曲／茶畑三男■制作協力／伸童舎■制作／ビッグバン■製作／東映ビデオ株式会社、株式会社東北新社■配給／東映セントラルフイルム株式会社■（声の出演）　肝川胆平（三宅裕司）　ベティ（滝沢久美子）　オババ（西川幾雄）　トーマ・ルタン（笹岡繁蔵）　シバ（松井菜桜子）　メリー・ピンポン（真柴摩利）　目鯨（広瀬正志）　刑事Ａ（鈴木勝美）　社員Ａ（菅原淳一）　社員Ｂ（小野健一）　おまん（北浜晴子）　ほか／（株）ぷろだくしょん・バオバブ

NO.
366 アモン・サーガ

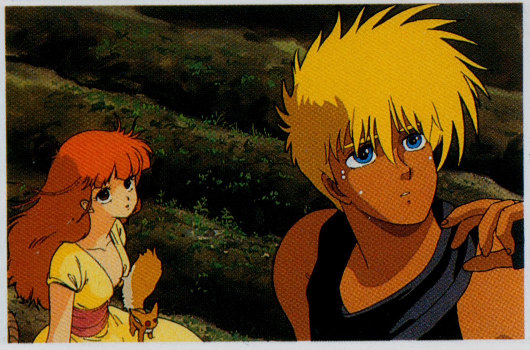


86年7月19日（土）封切　東映セントラルフィルム配給　1時間12分
併映作品／愛しのベティ　魔物語

〔あらすじ〕空中要塞都市ヴァルヒスに君臨する皇帝ヴァルヒスの、欠員戦士の募集に応募したアモンとアルカン。アモンは母の仇のヴァルヒスを討つために、そしてアルカンは黄金の谷の場所知るダライ・セムの娘で、人質となっているリチア救出のために、あえて身を投じたのであった。やがて黄金の谷がビンドラーナにあると知ったヴァルヒスは、要塞都市を進攻させる。ビンドラーナを守る黄金騎士に助けられながら、アモンはついに最後の決戦にのぞむ。
〔解説〕夢枕獏と天野喜孝が、雑誌「リュウ」に発表したヒロイックファンタジーマンガのビデオアニメ化。現在のところ、人気作家夢枕獏の唯一のアニメ化作品でもある。天野喜孝自身がキャラクター監修、美形キャラで知られる荒木伸吾が作画監修、西沢晋たち、４人が実際の作画監督として参加するという複雑なシステムがとられていた。ただ、それぞれの個性が相殺されてしまって、中途半端な絵柄になってしまった感もある。

原作／夢枕　獏、天野喜孝　株式会社徳間書店刊■製作／高野善夫（三菱商事）、中川真次（東北新社）、吉田　達（東映ビデオ）■制作／河合敬之■企画／早瀬公郎、株式会社センテスタジオ■プロデューサー／仙告鎮彦■制作担当／野崎公明、南　喜長■監督／大賀俊二■脚本／城山　昇■キャラクター監修／天野喜孝■キャラクターデザイン／荒木伸吾、姫野美智■作画監修／荒木伸吾■作画監督／西沢晋、富田　邦、吉田正広、姫野美智■原画／荒木伸吾、姫野美智、北原健雄、川越　淳、西沢　晋、富田　邦、鈴木信一、須藤昌朋、高橋明信、半田由利、長岡康史、山本哲也、近藤勝也ほか■美術監督／宮前光春■美術助監督／平川栄治■美術／獏プロダクション、今井利恵、本田　修、南郷洋一、西村康浩、垣田由美子、みにあーと、坂本真弓、小穴光一、手塚プロダクション、スタジオ・イースター、Ｋ・ラリークラブほか■撮影／スタジオ・ズィーベン、大滝勝之、保原剛仁ほか■編集／東北新社、本間研二、針谷光子■音楽／三枝成章■ＥＤ「風のTAKE A CHANCE」作詞／大津あきら　作曲／三枝成章　唄／杉本誘里　（徳間ジャパン）■録音監督／加藤敏■アニメーション制作／センテスタジオ■三菱商事株式会社、株式会社東北新社、東映ビデオ株式会社　提携作品■声の出演　アモン（堀内賢雄）　リチア（鷹森淑乃）　ガイウス（天地麦人）　アルカン（森　功至）　ヴァルヒス（小林清志）ほか

NO.
367 ウインダリア
ONCE UPON A TIME

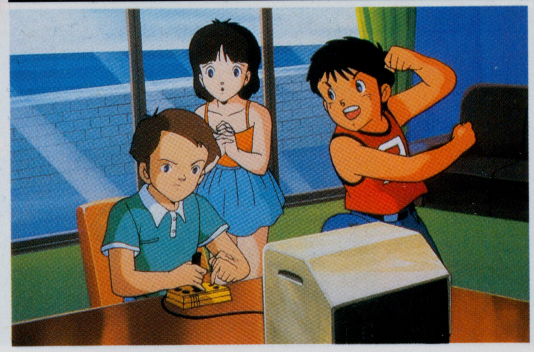


86年7月19日（土）東映クラシックフィルム配給　1時間41分

【あらすじ】海辺の国・イサは、ある日不可侵条約を結んでいた山の国・パロの隠密によって水門を開かれ、水没しかける。よい思い出だけを残すといい伝えられる〝ウィンダリア〟の巨木がそびえるサキの村の男・イズーによって国は救われるが、両国の関係は悪化。イサとパロの双方に働きを認められたイズーはパロを選び、新妻マリーンを残して旅立つ。深く愛し合っていたイサの女王アーナスとパロの王子ジルも、それぞれ自国を率いて戦うことになった。
【解説】オリジナルビデオを次々と発表してきたカナメプロによる初の劇場用長編。それまで、カナメの手がけてきた作品は、派手なSFアクション物が多かったが、一転して落ち着いたファンタジー的な雰囲気の作品を仕あげた。キャラデザイン、作画監督のいのまたむつみは、やや派手さを抑えつつも、華麗なキャラクターを描いている。湯山邦彦の演出とともに、丁寧な画面構成、地味な芝居などに挑戦した若手作画スタッフの健闘も評価したい。

■脚本、原作／藤川桂介■企画、制作／小野寺脩一、長尾聡浩■プロデューサー／長尾聡浩■制作担当／池田昭浩■制作デスク／堀部睦生■スーパー・アドバイザー／樋口純郎■エグゼクティブ・プロデューサー／須田英昭■レイアウト／林　隆文、毛利和昭■監督／湯山邦彦■演出助手／政木伸一■アニメーションコーディネーター／影山 楙倫■キャラクター・デザイン、作画監督／いのまたむつみ■メカニック・デザイン、イメージ設定／小原渉平、豊増隆寛■サブメカニック・デザイン／佐藤智彦■メインアニメーター／毛利和昭、林 隆文、村中博美、田中　保、いのまたむつみ、兵藤　敬、影山楙倫、荒木英樹、知吹愛弓、戸倉紀元、池上裕之、小林利充、宇都宮　智、和田卓也、戸澤　稔、山本泰一郎、合田浩章、市川吉幸、中沢数宣、磯野　智、小林　智、小泉たかし、小原渉平、豊増隆寛■美術監督／勝又激■背景／スタジオコスモス、太田　大、谷村心一、二見真紀子、柴村光勇、岩佐　禎ほか■撮影監督／枝光弘明■編集／掛巣秀一■音楽／門倉　聡■ＥＤ「約束」作詞／川村真澄　作曲／加藤和彦　編曲／門倉　聡　唄／新居昭乃　オリジナル・サウンドトラック／ビクター音楽産業■音響監督／松浦典良■録音／大塚晴寿■製作／株式会社あいどる、株式会社カナメプロダクション■声の出演　イズー（古谷徹）　マーリン（神田和佳）　ジル（井上和彦）　アーナス（松井菜桜子）ほか　／ＯＢＣ

NO.
368 RUNNING BOY スター・ソルジャーの秘密



86年7月20日（日）東宝系封切（早朝上映）　49分
併映作品／GAME　KING　高橋名人VS毛利名人　激突！大決戦

【あらすじ】コンピュータプログラマーを夢見る少年・げん太は、道で酔いつぶれていたプログラマー・野本を助けた。そしてある日、げん太がゲームのアイデアを記したノートが盗まれる。友人の秀樹が自分のアイデアを雑誌に投稿したと知ったげん太は、ヒューソン社で野本が開発中のゲーム〝蜂の巣〟で秀樹と決着をつけようとするが、未完成のプログラムのため脱出不能となる。野本と高橋名人の指示のもと、げん太と秀樹は協力して脱出を試みる。
【解説】折からのファミコン・ブームに乗って登場した作品で、実際に宇宙戦闘もののゲーム・ソフト「スターソルジャー」を発売していたソフトメーカー・ハドソンの企画。当時子どもたちのアイドルでもあった、ハドソン専属の高橋名人が実名のキャラクターとして登場しているほか、ＯＰ・ＥＤテーマ、それに挿入歌を自ら歌っている。夏休みに合わせて早朝に興業されたが成績は芳しくなく、早々に打ち切られた。

■製作／山本又一朗■企画／工藤裕司、大里幸夫／（株）ハドソン■プロデューサー／山川紀生、林大三郎■アシスタントプロデューサー／成川誠一郎■制作担当／室永昭司■制作デスク／山崎真彦■脚本／石原純一、岡　かすみ■アニメーションディレクター／窪　秀巳■監督／小華和ためお■演出助手／池端隆史■絵コンテ／前田康成■キャラクターデザイン、作画監督／鈴木大司■テクニカルコーディネーター／湖川友謙■メカ作監／中村　悟■原画／宇津木　勇、渡辺嘉巳、柴田和子、木下裕孝、石九賢一、加藤洋人、菊地市松、工藤正明、中村　悟、矢木正之、山本正文、沢田正人、辻　清光、南　伸一郎ほか■美術監督／千葉康之■アシスタントアートディレクター／吉田　浩■背景／現代制作集団、脇　成志、森川裕美、程塚真由美、小浜美代子、小泉江美子、米田真紀、大場ゆかり■撮影監督／高橋明彦■編集／尾形治敏■音楽／高橋洋一■ＯＰ「ランナー」作詞／麻尾るみこ　作曲／鈴木康博　編曲／国吉良一　ＥＤ「青春惑星」作詞／岡　かすみ　作、編曲／石川鷹彦　以上、唄／高橋名人（フォーライフレコード）■レコーディングディレクター／海野清士■音響監督／松浦典良■製作／フィルムリンク・インターナショナル■キャスト　篠山げん太（山田栄子）　東園寺秀樹（藤田淑子）　野本勝彦（塩沢兼人）　高橋名人（田中秀幸）　北海まきば（柴田由美子）ほか

NO.
369 スーパーマリオブラザーズ ピーチ姫救出大作戦！

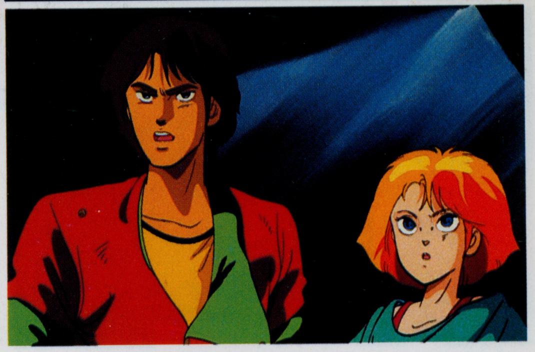


86年7月20日（日）松竹系公開（早朝上映）　1時間
併映作品／スーパーマリオブラザーズ２　攻略法

【あらすじ】マリオがテレビゲームに熱中していると、画面のなかから突然ピーチ姫が現れ助けを求める。だが姫はカメ一族のクッパ大王にさらわれ、再び消えてしまう。あとに残された姫のペンダントをくわえて逃げ去るおかしな犬・PET3を追って、弟のルイージとともに土管のなかに飛びこんだマリオは、めくるめく光とともにキノコの国へ。そこでキノコ仙人から姫の救出を頼まれたマリオとルイージは、さまざまな罠の待つ道をクッパの城へと急ぐ。
【解説】小学生を中心に爆発的に盛りあがっていたファミコン・ブームを背景に、当時最高の売り上げを記録した大ヒットソフト「スーパーマリオブラザーズ」をもとに作られた劇場用アニメ。「妖精フローレンス」「夢の星のボタンノーズ」など、サンリオ作品で実績をあげていた波多正美によって丁寧な作品として仕あげられている。また、松竹系のこの作品と東宝系の「スターソルジャーの秘密」が同日の封切となり、ファミコン対決の様を呈した。

原作／任天堂■企画／トシ・サウンド・ファクトリー、すずきまさかつ■企画推進／柳沼右三・木村隆人■プロデューサー／すずきまさかつ、波多野恒正■制作担当／新谷義浩■制作デスク／相田悦子■監督／波多正美■脚本／高屋敷英夫■音楽／木森敏之■オリジナルキャラクター／任天堂・宮本　茂・手塚卓志■作画監督／松山まや■原画／門脇孝一、小川知子、武田和久、小山りょう、木下喜生、楠田悟、小玉俊二、小林明美、駒宮真悟、三枝　直、佐藤厚志、高岡希一、土信田和幸、中山勝一、根岸二郎、花輪弘昌、山沢　実、山下　悟、鈴木英二、江口　徹ほか■美術監督／阿部行夫■背景／長嶋陽子、長縄恭子、西倉　力、中島嘉寿子、井置　敦、横山幸博、白椛幸子、鈴木光英、伊藤陽子、長島久美子、じゃっく、ラスコー、アートランドほか■カラーデザイン／田中実和子■撮影監督／熊谷幌史■編集／高島健一■ＥＤ「ドキドキ　Do　It　～ビシッとバシッとロックンロール学校編～」作詞／松本　隆　作曲／宮城伸一郎　編曲／船山基紀　歌／未来童子　オリジナルサウンドトラック盤（バップレコード）■制作／ホリ企画制作、グループープロダクション■製作／スーパーマリオブラザーズ製作事務所、（株）ホリ企画制作・（株）ホリプロダクション、（株）バップ・日本テレビ音楽（株）■キャスト　マリオ（古谷　徹）　ルイージ（水島　裕）　ピーチ姫（山瀬まみ）　クッパ大王（和田アキ子）ほか

NO.
370 アイ・シティ

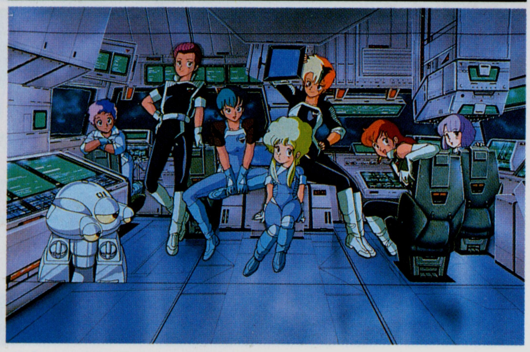


86年7月26日（土）東宝株式会社配給　1時間26分
併映作品／ガルフォース　Eternal　Story

【あらすじ】私立探偵のライデンは、深夜のハイウェイで秘密結社フラウドに追われるＫとアイに出会い、異様な事件に巻きこまれる。フラウドのリーダー、クゥ・ラグア・リー、そしてリーに反旗を翻したライ・ロー・チンらは、アイに隠された伝説の〝トリガー〟を狙っていた。それは超能力を無限に増幅させるという謎のパワーで、そのパスワードは〝アイ・シティ〟。アイをまもるＫは、フラウドのヘッドメーターズの追撃をかわし、謎の核心に迫る。
【解説】アメコミ風の細密なアートと特異なSFアクションで知られる板橋しゅうほうの原作を初めてアニメ化したビデオ作品。設定が複雑に入り組んだ原作を大幅に改変してはいるが、原作の異様なセンスは多少残されている。真下耕一の映像は「ウラシマン」以来の冴えをみせ、夜の街に展開するアクションには、より洗練されたものがあった。内容的に難解な部分も多いが、SFアクションアニメの異色作として印象に残る。

原作／板橋しゅうほう「アイ・シティ」　アクションコミックス　双葉社刊■企画／藤原正道、高橋豊■プロデューサー／加藤　博■アシスタントプロデューサー／河野秀雄、田村常夫■制作プロデューサー／梅原　勝■制作管理／佐藤訓史■制作事務／古林明子、瀬戸典子■制作デスク／村上憲治■脚本／園田英樹■監督／真下耕一■演出／大庭寿太郎■演出助手／加戸誉夫、山崎立志■キャラクターデザイン、総作画監督／井口忠一■メカニックデザイン／さとうともひこ■作画監督／はばらのぶよし、松田芳明、工藤柾輝、長島正徳、田中正弘■原画／嵯峨　敏、千明孝一、小林明美、野嶋めぐみ、川又浩、佐久間しげこ、大川弘義、加藤　茂、うつのみやさとる、戸部敦夫、松田芳明、前島健一、鈴木伸一、滝沢明美、小椋真由美、大橋誉志光、長谷川浩司、工藤柾輝、羽原信義、つるやまおさむ、山崎理、伊藤浩二ほか■美術監督／新井寅雄■美術助手／山本順子■撮影監督／鳥越一志、杉山幸夫■編集／正木直幸、赤堀義浩、古橋　宏■音楽プロデューサー／大石稀哉■音楽ディレクター／藤田純二■音楽／鷺巣詩郎■ＥＤ「アイ・シティ」作詩／阿木燿子　作曲／Johnny　編曲／鷺巣詩郎　歌／上田由紀■音楽制作／東芝ＥＭＩ、ユーメックス■音響監督／松浦典良■製作／東宝株式会社、㈱ムービック、㈱葦プロダクション■声の出演　ケイ（（鈴置洋孝）　アイ（上田由紀）　ライデン（野沢那智）ほか

NO. 371 ガルフォース Eternal Story

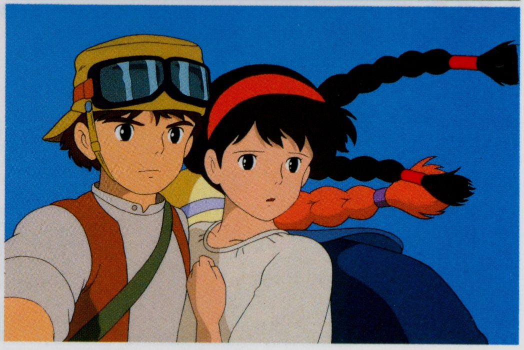


86年7月26日（土）東宝株式会社配給　1時間26分
併映作品／アイ・シティ

【あらすじ】宇宙で果てしない戦いを続ける〈ソルノイド〉と〈パラノイド〉の2大勢力。惑星活性化計画のため衛星カオスに向かっていたソルノイドの艦隊は敵と遭遇し壊滅。唯一生き残った巡恒艦スターリーフの乗務員・エルザ、ラビィ、パティ、ポニー、キャティ、ラミィそしてルフィーの7人は、カオスをめざして航行を続ける。襲いくる苦難に次々と命を落としていく7人。彼女たちには、ある重大な使命が課されていたのだった。
【解説】7人の女の子を主人公とし、メカやモンスターがふんだんに登場。銃器などの小道具にもこだわりを見せた作品で、オリジナルビデオアニメの一傾向を代表するものとなった。原作はもともとホビー誌『モデルグラフィックス』に連載されていた企画で、その時の主人公はラビィ、ラミィ、パティの3人。雑誌連載時よりキャラデザインを担当する園田健一は、それまで主に同人誌などで活躍していたが、以後そのセンスを大いに認められる。

原作／柿沼秀樹■製作／岸　栄司、高橋　豊■企画／鈴木敏充■プロデューサー／肥田光久、長崎行男、加藤長輝、三浦　亨■制作担当／青木　武■ＳＦ考証／松崎健一■脚本／富田祐弘■監督／秋山勝仁■演出／五月女有作、八谷賢一■キャラクター・デザイン／園田健一■メカニック・デザイン／柿沼秀樹■アシスタント・デザイン／夢野レイ■作画監督／北島信幸、田中正弘■メカ作画監督／仲　盛文■作画監督補／長島正徳■原画／飯島　傑、生亀信幸、一谷賢八、伊藤修一、岩下啓蔵、大平晋也、奥田淳、梶島正樹、北尾　勝、木村光雄、窪岡俊之ほか■美術監督／東　潤一■背景／スタジオ・イースター、北川晴美、南沢貞子、矢島洋一、清水隆夫、あにまる屋ほか■撮影監督／新井隆文■編集／西出栄子、神谷編集室■音楽プロデューサー／長崎行男■音楽／瀬尾一三■ＥＤ「両手いっぱいのジョニー」作詩、歌／小比類巻かほる　作、編曲／竹沢好隆　オリジナル・サウンドトラック盤／ＥＰＩＣ・ソニー■音響監督／松浦典良■録音／大塚晴寿■制作／アートミック、ＡＩＣ、アニメフィルムメイト■製作・著作／株式会社ムービック、ソニービデオソフトウェアインターナショナル■キャスト　エルザ（川村万梨阿）　ラビィ（松井菜桜子）　ラミィ（山本百合子）　ルフィー（鶴　ひろみ）　ポニー（富沢美智江）　パティ（原　えりこ）　キャティ（渡辺菜生子）　エグザノン（富山　敬）ほか

NO. 372 天空の城ラピュタ LAPUTA: THE CASTLE IN THE SKY

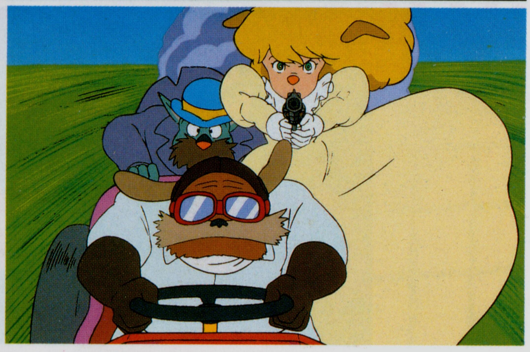


86年8月2日（土）東映株式会社配給　2時間4分
併映作品／名探偵ホームズ　ミセスハドソン人質事件、ドーバー海峡の大空中戦

〔あらすじ〕かつて地上をも支配したという、伝説の天空の浮島・ラピュタ帝国の血を引く、みなし児の少女シータは、政府の特命を受けたムスカ大佐と、同じくラピュタ帝国の財宝をねらう海賊ドーラに追われる。シータは逃げようとして飛行船から落ちるが、胸にかけたラピュタの紋章に彩られた飛行石の力で彼女は救われる。鉱山に落ちた彼女はパズーに出会う。ひとときの幸せ。しかし、そこにもムスカとドーラの手がのびる。
〔解説〕「ナウシカ」に続く宮崎駿原作・脚本・監督作品。企画当初は単純な冒険物語だったが、脚本・絵コンテと積み上げていくうちに、やはり現代性を色濃く反映して「人は大地と離れて生きられない」とのシータの叫びで、冒険物語に強烈なテーマ性をつけ加えるに至った。落下、追っかけ、戦闘、崩壊と、ありとあらゆるアクション、スペクタクルシーンに満ちた超豪華大作との評価も高い。'86年度「大藤賞」「文化庁優秀映画」「ぴあテン第1位」他受賞多数。

原作・脚本・監督／宮崎　駿　（徳間書店月刊「アニメージュ」連載）■製作／徳間康快■制作／原徹、スタジオジブリ■企画／山下辰巳、尾形英夫■プロデューサー／高畑　勲■制作デスク／押切直之■演出助手／飯田つとむ、木村　哲、須藤典彦■作画監督／丹内　司■原画頭／金田伊功■原画／篠原征子、遠藤正明、二木真希子、桜井美知代、森友典子、大谷敦子、小林一幸、賀川　愛、前田真宏、福田　忠、山崎博嗣、高坂希太郎、大塚伸治、河口俊夫、近藤勝也、名倉靖博、鍋島　修、江村豊秋、友永和秀■美術監督／野崎俊郎、山本二三■美術／野崎俊郎、山本二三■背景／小関睦夫、木下和宏、吉崎正樹、久村佳津、飯島久美子、太田清美、石川山子、（ハーモニィ処理）高屋法子■仕上／水間千春、小川典子、長嶺浩美、石井恵美子、鍋谷雅子、酒井由紀子、島田久美、阪本文也、見田竜介、仲田ひろみ、柳沢和枝、木原恵子、宮下真理、高砂芳子■撮影／高橋宏固■編集／瀬山武司、笠原義宏■音楽／久石　譲■ＥＤ「君をのせて」作詞／宮崎　駿　作曲／久石　譲　歌／井上杏美　（徳間ジャパン）■音響監督／斯波重治■声の出演　パズー（田中真弓）　シータ（横沢啓子）　ドーラ（初井言榮）　ムスカ（寺田　農）　ポムじい（常田富士男）　将軍（永井一郎）　親方（糸　博）　おかみ（鷲尾真知子）　シャルル（神山卓三）　ルイ（安原義人）　アンリ（亀山助清）　老技師（槐　柳二）ほか

NO. 373 名探偵ホームズ ミセスハドソン人質事件、ドーバー海峡の大空中戦



86年8月2日（土）東映株式会社配給　47分
併映作品／天空の城ラピュタ

〔あらすじ〕『ミセス・ハドソン人質事件』——ハドソン夫人がホームズの唯一の弱点であるとにらんだモリアーティ教授は夫人を誘拐。だがチャーミングで優しい夫人の人柄に、どうも調子が狂いっぱなし……。『ドーバー海峡の大海中戦』——開設間もない航空郵便を中止に追いこもうと企むモリアーティ教授。郵便飛行機のパイロット・トミーとハドソン夫人、そして夫人の亡夫ジムは、かつての飛行機仲間だった。ホームズは飛行機の警護にあたるが……。
〔解説〕'84年11月からテレビ放映された同名作品のなかから4話と10話のフィルムを劇場公開した作品。'84年春公開の劇場版の続編ではない（キャストなど違う）。どちらもハドソン夫人が活躍するエピソードで、シリーズ中盤をすぎてからの番外編として作った作品。

〈共通スタッフ〉原作／コナン・ドイル■製作／藤岡　豊、ルチアノ・スカッファ■プロデューサー／高橋美光■制作担当／水沼健二、木村健吾■オリジナル・アイデア／マルコ・パゴット■シリーズ構成／山崎敬之、島崎真弓■脚本／片渕須直■監督／御厨恭輔■絵コンテ・演出／宮崎　駿■グラフィック・デザイン／ジー・パゴット■美術監督／影山　仁■美術／現代制作集団、千葉康之、牧野輝茂、脇　猛志、加藤良恵■撮影監督／若菜章夫■編集／掛須秀一■音楽監督／鈴木清司■音楽／羽田健太郎■ＯＰ「空からこぼれたＳＴＯＲＹ」作曲／佐藤　健　ＥＤ「テムズ河のＤＡＮＣＥ」作曲／山中のりまさ　以上、作詞／三浦徳子　編曲／福井　峻　唄／ダ・カーポ　徳間ジャパン■音響効果／東洋音響■録音監督／伊達康将■録音スタジオ／東北新社■制作協力／テレコム・アニメーション・フィルム■制作／東京ムービー新社、ＲＡＩ、ＲＥＶＥＲ■声の出演　ホームズ（広川太一郎）　ワトソン（富田耕生）　ハドソン夫人（麻上洋子）　モリアーティ教授（大塚周夫）　トッド（増岡　弘）　スマイリー（千田光男）　レストレード警部（飯塚昭三）ほか〈ミセス・ハドソン人質事件〉作画監督／近藤喜文■原画／丹内　司、篠原征子、道籏義宣、浦谷千恵、小野昌則、桜井陽子　〈ドーバー海峡の大空中戦！〉作画監督／友永和秀　原画／田中敦子、丸山晃一、桜井陽子、遠藤正明、篠原征子、二木真希子

NO. 374 ダーティペア ノーランディアの謎



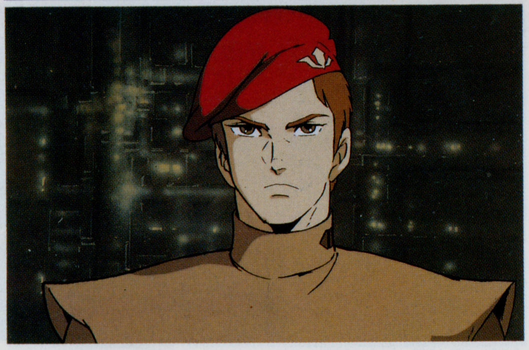
86年8月2日（土）松竹系封切　55分
併映作品／装甲騎兵ボトムズ　ザ・ラストレッドショルダー、銀河漂流バイファム　消えた12人

【あらすじ】〝ダーティペア〟の異名をはせるケイとユリは、世界福祉事業協会・WWWAのトラブル・コンサルタント。惑星ウクバールの少女・ミスニー保護の依頼が、ある科学者を乗せた輸送機の墜落事故に関係あるとにらんだ2人は、その直後、予知能力によって深い森と湖と少女の姿を幻視する。ウルバーグに着いた2人はA.J.デベロップ社の保安部長サマラから聞いたミスニーの居場所へむかうが、そこは奇妙な〝ノーランディアの森〟だった。
【解説】テレビシリーズの終了後に、オリジナルビデオとして発表された作品。作監の清水恵蔵と小林ゆかり、演出、絵コンテの奥脇雅晴らは、テレビ版には参加していない。キャラクター設定は、他のダーティペア作品と異なり、原作のイメージにより近いものとなっている。また、テレビでは描かれなかったユリとケイの共同超能力・クレアボワイアンス（千里眼）や、携帯武器・ブラッディカードの設定も使われており、原作ファン向けの作品となっている。

原作／高千穂　遥■制作プロデューサー／長谷川徹■制作デスク／山本之文■制作事務／赤岩由利子■脚本／伊藤和典■監督／奥脇雅晴■絵コンテ、演出／奥脇雅晴■演出助手／森川　滋■キャラクターデザイン、作画監修／土器手　司■メカニカルデザイン／石津泰志（スタジオぬえ）■作画監督／清水恵蔵、小林ゆかり■原画／前島健一、川筋　豊、滝沢明美、四分一節子、古川佳正、佐々木正克、鈴木伸一、松田芳明、小椋真由美、飯村一夫、　澤裕美、北崎正浩、木川純一、阿部　恒、小園元祥、清山滋崇、酒井啓史、和泉絹子、神原敏昭、加藤義貴■動画チェック／関口重晴、安蒜俊江■美術監督／藤江優子（アートテイクワン）■背景／藤江優子、川名俊英、遠山麻理子、鈴木国生、植松早千代、東條俊寿、獏プロダクション■撮影監督／白井敏雄（スタジオウッド）■撮影／森口洋輔、白井敏雄、木元雅信、松田　昇、土屋裕子、千葉　伸ほか■編集／鶴渕映画■音楽／国本佳宏■ＥＤ「愛・ever lasting」作詞／今村未仁　作編曲／国本佳宏　歌唱／槙　泰子■音響監督／山田悦司■録音／ＡＰＵスタジオ■製作・著作／日本サンライズ■声の出演　ユリ（島津冴子）　ケイ（頓宮恭子）　ミスニー（潘　恵子）　サマラ（藤田淑子）　コニー（高島雅羅）　オラン（池田　勝）　ユルジス（銀河万丈）　ムギ（巻島直樹）　ＷＷＷＡ上司（天地麦人）岸田博士（キートン・山田）　管制官（稲葉　実）ほか

NO. 375

装甲騎兵ボトムズ
ザ・ラストレッドショルダー



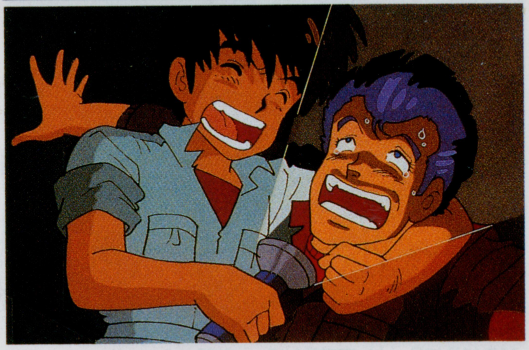
86年8月2日（土）松竹系封切　53分
併映作品／ダーティペア　ノーランディアの謎、銀河漂流バイファム　消えた12人

〔あらすじ〕ウドを脱出したキリコは、レッドショルダー時代の戦友・グレゴルーらの誘いを受ける。彼らはかつて自分たちを抹殺しようとしたヨラン・ペールゼンに復讐しようとしていた。フィアナに会いたい一心でその誘いに応じたキリコは、3人の仲間とともにデライダ高地へと向かう。ペールゼンの基地に突入した彼らを迎え撃つのは、生き残ったレッドショルダーたちであった。そしてフィアナを捜すキリコの前に、覚醒間もないイプシロンが現れる。
〔解説〕「装甲騎兵ボトムズ」で人気の高かった特殊部隊〝レッドショルダー〟を中心に、テレビシリーズの〝ウド編〟と〝クメン編〟の間の空白を埋めるドラマを描いたビデオ作品。作品世界をそこなうことなく、秘められたエピソードを巧妙に描いている。メカアクションシーンの作画はスタジオダブが担当。また、イプシロンがヌードで登場するなど、女性ファンへの配慮もきかせている。〝日本サンライズアニメフェスティバル〟の1本として劇場公開された。

原案／矢立　肇■原作・監督／高橋良輔■プロデューサー／長谷川　徹■制作デスク／山本之文■制作助手／田崎有理■設定／井上幸一■制作進行／近藤真智子、富岡秀行、安蒜清一■脚本／吉川惣司■演出／加瀬充子■絵コンテ／加瀬充子、谷田部勝義■演出助手／今西隆志■キャラクターデザイン／塩山紀生■メカニカルデザイン／大河原邦男■タイトルアニメ／マジックバス■作画監督／塩山紀生■メカ作督／吉田　徹■原画／アニメアール、スタジオダブ、スタジオビーボオー、マジックバス、福井享子、清島孝一郎■動画チェック／福井享子■美術監督／宮前光春■背景／獏プロダクション、ビッグスタジオ、下野哲人、安西徹夫、岡田和夫■色指定／野崎絹代■特殊効果／干場　豊、向井　稔■撮影／スタジオウッド■編集／鶴渕映画■現像／東京現像所■音楽／乾　裕樹■ＯＰ「炎のさだめ」ＥＤ「いつもあなたが」以上、作詞／高橋良輔　作曲／乾　裕樹　歌／ＴＥＴＳＵ■音響監督／浦上靖夫■製作・著作／日本サンライズ■声の出演　キリコ（郷田ほづみ）　フィアナ（弥永和子）　イプシロン（上　恭ノ介）　ゴウト（富田耕生）　バニラ（千葉　繁）　ココナ（川浪葉子）　キリィ（亀井三郎）　ボロー（緒方賢一）　アロン（野島昭生）　グラン（二又一成）　部隊長（丸山詠二）　グレゴール（小林清志）　バイマン（塩沢兼人）　ムーザ（中尾隆聖）　ペールゼン（大塚周夫）

NO. 376

銀河漂流バイファム
消えた12人



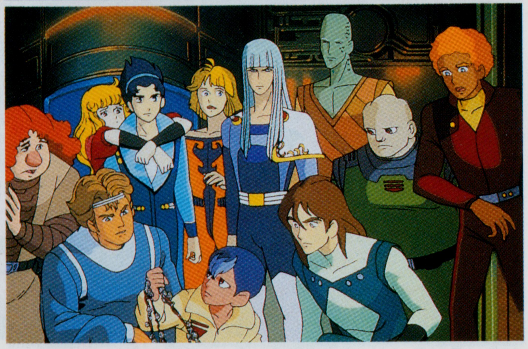
86年8月2日（土）松竹系封切　57分
併映作品／ダーティペア　ノーランディアの謎、装甲騎兵ボトムズ　ザ・ラストレッドショルダー

［あらすじ］クレアたちに、のぞきの犯人と誤解されたキャプテンのスコットは、怒りのあまりジェイナス号を飛びだしてしまう。追ってきたロディとマキにおだてられてスコットはジェイナスに戻るが、艦内では怪事件が続発。事件の謎を解明するため、ジェイナスの過去の記録を調べるスコット。すると、3年前に謎の乗組員蒸発事件があったという事実が判明した。スコット以下13人のクルーは事件を追求することにしたが、ひとりずつその姿を消していく……。
［解説］テレビシリーズ「銀河漂流バイファム」の放映終了後に製作されたオリジナルビデオアニメ。メカアクションなどのロボットアニメとしての見せ場はほとんどなく、シリーズのいちばんの魅力である13人の少年少女の日常的なレベルでの出来事をコメディータッチで描いている。2本の総集編ビデオのあとに作られたオリジナル編の1本目で、この作品のヒットを受けて2本目オリジナル編「〝ケイトの記憶〟涙の奪回作戦」が作られている。

原案／矢立　肇、富野由悠季■原作／神田武幸■製作／伊藤昌典■企画／山浦栄一■プロデューサー／植田益朗■制作デスク／富田民幸、望月真人■文芸／外池省二■脚本／星山博之■監督／神田武幸■絵コンテ／横山裕一朗■演出／三浦将則■演出助手／江上　潔■キャラクターデザイン／芦田豊雄■メカニカルデザイン／大河原邦男■作画監督／芦田豊雄■原画／大島城次、贄山　修、松村靖之、桜井美知代、本橋秀之、大原和男、横山健次、渡辺ひろし、矢野　淳、小林智子、長岡康史、酒井啓史■美術／水谷利春■背景／野々宮恒男、アートランド、スカボロ、下野哲男、柴田千佳子■撮影監督／三浦豊作■編集／鶴渕映画■音楽／渡辺俊幸■ＯＰ「HELLO　VIFAM」作詞／Ｊ．辻野　作曲／Ｄ．Mann　唄・演奏／ＴＡＯ　レコード／ワーナーパイオニア■音響監督／太田克己■効果／森　賢一■製作・著作／日本サンライズ■キャスト　ロディシャッフル（難波勝弘）　スコットヘイワード（鳥海勝美）　バーツライアン（竹村　拓）　クレアバーブランド（冨永みーな）　マキローウェル（羽村京子）　シャロンパブリン（原　えりこ）　フレッドシャッフル（菊池英博）　ペンチイライザ（秋山るな）　カチュアピアスン（笠原弘子）　ケンツノートン（野沢雅子）　ジミーエリル（千々松幸子）　マルロＪ．ボナー（佐々木るん）　ルチーナプレシェット（滝沢久美子）　ボギー（秋山るな）

NO. 377

11人いる！



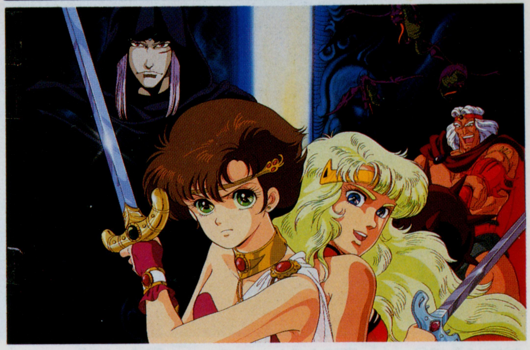
86年11月1日（土）東宝株式会社配給　1時間31分
併映作品／扉を開けて

【あらすじ】星間連盟によって創設された大学〝コスモアカデミー〟の最終試験は、10人を1組として行われる実技試験だった。微弱な直感力を持つタダは、他の受験生とともに試験会場である漂流船エスペランサ号にやってきた。が、受験生はなぜか11人いた！　不安と緊張のなかタダは、フロル、王様、ガンガ、石頭、四世、アマゾン、ヌー、トト、赤鼻、チャコの10名の仲間と協力し、なんとか試験をきりぬけようと努力するのだが……。
【解説】原作は、萩尾望都の傑作SFマンガ。自作のアニメ化に消極的だった萩尾の初めてのアニメ化作品である。物語的にはほとんど原作通りの展開で、原作ファンにも違和感のないできとなった。キャラデザインは「おしん」以来、国内作品から離れていた杉野昭夫。キャストは主役のフロル役の河合美智子が新人だが、回りをすべてベテランで固め、新鮮味をだしている。音響監督斯波重治の配役である。

原作・構成／萩尾望都（小学館「萩尾望都作品集」）■製作／多賀英典■企画／落合茂一■企画協力／小学館、㈱ムービック■プロデューサー／古徳　稔■制作担当／近藤真智子■脚本／今泉俊昭、小出一巳■監督／出崎　哲、富永恒雄■演出／加瀬充子■演出助手／山口頼房■絵コンテ／夏姫亮之介、加瀬充子、渡部英雄、金子隆悠季、中川隆太郎、冨永恒雄、出崎　哲■キャラクターデザイン／杉野昭夫、清水恵蔵■メカニカル設定／矢島洋一■作画監督／清水恵蔵■作監協力／四分一節子、小林ゆかり■原画／四分一節子、小林ゆかり、松田芳明、小椋真由美、前島健一、佐々木正克、鈴木伸一、滝沢明美、内田順久、杉山嘉苗、牧野行洋、大島秀範、大橋誉志光、神原敏昭、貴志夫美子ほか■エフェクト作監／前島健一■美術監督／東　潤一■撮影監督／小山信夫■編集／尾形治敏、伊藤勇喜子、西　昭彦■音楽監督／及川　禅■音楽／福田裕彦（サントラ盤キティ・レコード）■ＥＤ「僕のオネスティ」作詩／神沢礼江　作曲、唄／川上進一郎　編曲／星　勝　ＣＢＳソニー■録音監督／斯波重治■制作協力／（株）マジックバス■制作／（株）キティ・フィルム■声の出演　タダ（神谷　明）　フロル（河合美智子）　王様（田中秀幸）　四世（古川登志夫）　ガンガ（玄田哲章）　アマゾン（鈴置洋孝）　ヌー（若本紀昭）　石頭（池水通洋）　赤鼻（塩屋浩三）　トト（ＴＡＲＡＫＯ）　チャコ（柏倉つとむ）ほか

NO. 378

扉を開けて

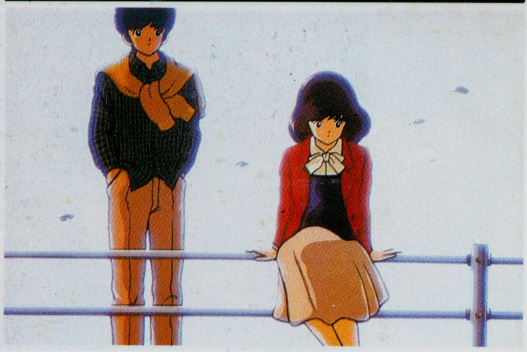


86年11月1日（土）東宝株式会社配給　1時間21分
併映作品／11人いる！

〔あらすじ〕女子大生でエスパーの根岸美弥子（通称ネコ）と同級生でライオン男に変身する山岸圭一郎、そしてテレポーターの斉木香の3人は、満月の夜に異世界〈中の国〉へ引きこまれる。その世界でネコは、扉を開いて復活するという伝説のネリューラ姫として、神官ラディンの導くままに西の国のデュラン3世と戦うこととなる。途中で東の国のディミダと交戦し、彼女をも味方に加えたネコたちの軍勢は、ついに西の王城へと攻めこんだが……。
〔解説〕人気若手ＳＦ作家・新井素子の小説の初めてのアニメ化。同時上映の「11人いる！」同様に、キティフィルム製作の作品で、実際のアニメ制作はマジックバスが担当。元は作画スタジオで、'83年のテレビスペシャル「プライムローズ」以来スペシャルや劇場作品のアニメ制作を手がけるようになったマジックバスが、この作品と「11人いる！」で、独特の作風を確立した感がある。マジックバスは以降もビデオ作品などで丁寧な仕事を見せる。

原作／新井素子（ＣＢＳソニー出版刊／集英社，コバルト文庫刊）■製作／多賀英典■企画／落合茂一、高橋　豊■企画協力／竹宮惠子　／磯田秀人、宗像和男■プロデューサー／古徳　稔、出崎　哲■制作担当／森井俊行■脚本／小出一巳、出崎　哲■監督／清水恵蔵■演出／冨永恒雄、金子隆悠季■絵コンテ／出崎　哲■レイアウト／清水恵蔵■キャラクター・デザイン／四分一節子■作画監督／小林ゆかり■原画／四分一節子、松田芳明、小椋真由美、前島健一、佐々木正克、鈴木伸一、滝沢明美、川筋　豊、大橋誉志光、竹之内節子、高橋久美子、広田麻由美、野田道子、神原敏昭、白土理徳、工藤千恵子、石割悦子、川元利浩■美術監督／新井寅雄■背景／プロダクション・アイ、山本順子、内山　誠、山田勝宏、朝倉千登勢、井上徹雄、米田晴美、高野圭子、松永悦子、地蔵本拓嗣、佐藤　勝、井芹達朗、岡部　順ほか■撮影監督／諫川　弘■編集／尾形治敏、伊藤勇喜子、西　昭彦■音楽監督／及川　禅■音楽／マーク・ゴールデンバーグ（サントラ盤，キティレコード）■ＥＤ「思い出の瞳」作詞／MORICO／SUSUMU　作曲／重藤　功　編曲、歌／Dateof-Birth（キティ・レコード）■録音監督／斯波重治■制作プロダクション／マジックバス■声の出演　根岸美弥子（藤本恭子）　斉木　香（井上和彦）　山岸雄一郎（佐藤政道）　ラ・ミディン・ディミダ（平野　文）　ラディン（デュラン三世）（野沢那智）ほか

NO.
379 タッチ2 さよならの贈り物

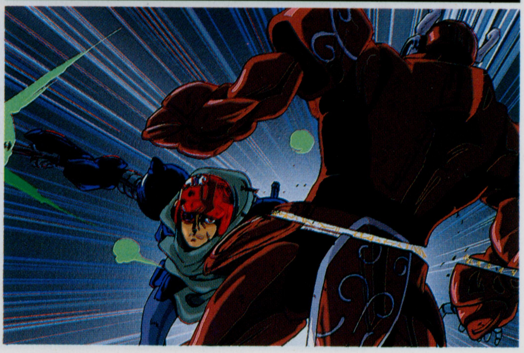


86年12月13日（土）東宝系封切　1時間20分
併映作品／恋する女たち

【あらすじ】和也の死後、達也は新田から挑戦を受けたこともあって、和也のあとを継いで甲子園をめざす。一方、南はピンチヒッターとして出場した新体操で、はからずも優勝してスターになってしまう。遠ざかる南にとまどう達也、そして2回目の夏がきた。和也の代わりに南を甲子園に連れていくことにこだわる達也は、和也の投球をまね、和也になりきって決勝に臨む。しかし達也との対決を望む新田は、バットをふろうとしない。だがついに最終打席……。
【解説】原作では3年にわたり描かれる達也の内面の葛藤を、先取りする形でよりシリアスに物語に組みこみ、緊張感を高めてドラマを盛りあげることに成功した。原作を大幅に変更したにもかかわらず、大きな破綻なくまとめあげた構成力はみごとである。しかし達也自身の葛藤を、この作品で描き切ってしまったため、次作においてのドラマ精が希薄になるという問題点も残した。作画・美術とも前作よりグレードが上がり、劇場版3作の中でも最も質が高い。

原作／あだち充　（小学館週刊少年サンデーコミックス刊）■製作／大橋雄吉■制作／藤田　健■企画／角谷　優、関谷猪三男、宇佐美　廉■プロデューサー／藤原正道、岡　　正、片岡義朗■制作プロデューサー／対木重次■制作担当／兼坂勝利■制作事務／松田和子■脚本／金春智子■総監督／杉井ギサブロー■監督／はしもとなおと■助監督／宇井孝司■絵コンテ／小林　治■アニメーション監督／前田庸生■作画監督／江口摩吏介■作監助手／村田雅彦■原画／中島　薫、遊佐和重、千田幸也、野村誠司、堀江多智子、柴田和子、辻　伸一、〈ぎゃろっぷ〉山本哲也、横山彰利、阿部　司、小林一三、佐藤　徹、清水恵子、〈亜細亜堂〉原　　博、生野裕子、数井ひろ子、鈴木玲子、〈ピクトリー〉岡迫亘弘、小島秀人、興村忠美■画面構成／前田　実■美術／金村勝義■撮影／杉村重郎■編集／古川雅士■音楽プロデューサー／大石稀哉■音楽／芹澤敲明■ＥＤ「さよならの贈り物」作詞／売野雅勇　作曲・編曲／芹澤敲明　歌／ブレッド＆バター（ファンハウス）■音響監督／藤山房延■音響助手／吉野勝久■録音／〈新坂録音〉伊東忠美、山田　均■制作／グループ・タック、田代敦巳■製作／東宝株式会社、フジテレビジョン、旭通信社、小学館、オービー企画■声の出演　達也（三ッ矢雄二）　南（日高のり子）　新田（井上和彦）　原田（銀河万丈）　孝太郎（林家こぶ平）　落語（林家うん平）ほか

NO.
380 GRAY デジタル・ターゲット

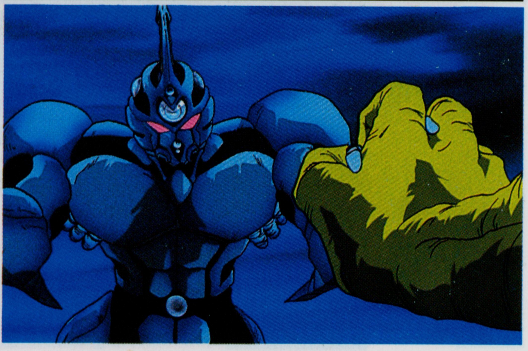


86年12月13日（土）東映クラシックフィルム配給　1時間13分
併映作品／強殖装甲ガイバー

【あらすじ】はるかな未来、管制脳の統治下において、人々は最上階段である市民（シチズン）の地位を得るために、戦士（トループス）となって戦いあっていた。敵からも味方からも死神と恐れられるトループス・グレイ。彼は戦死した、かつての恋人・リップのヘルメットを肌身離さず、ひたすら戦い続ける。だが女戦士・ノーヴァとの出会いにより管制脳の支配体制に疑問を抱きはじめ、全管制脳を支配する大管制脳（ビッグ・ママ）の企みを暴いていくのだった。
【解説】たがみよしひさの原作を、連載終了2年後にアニメ化。製作は葦プロダクションだが、実制作はマジックバスが担当している。物語は、全体が〝APPROACH〟と呼ばれる9つの章で構成されている。また、原作にある最後の決戦が描かれていないが、これは、戦いの描写が中心となることを避けた出崎哲監督の意向による。また、原作では途中で死ぬノーヴァが最後まで生き残り、グレイの新しい恋人として位置づけられている点も特徴的である。

原作／たがみよしひさ（徳間書店「月刊少年キャプテン」連載）■製作／山下辰巳■企画／和田　豊、尾形英夫、佐藤俊彦■プロデューサー／坂本誠一■アシスタントプロデューサー／関　正博■制作担当／松崎義之、田中信吾、森井俊行、近藤真智子■脚本／平野靖士、小出一巳、出崎　哲■脚本監修／今泉俊昭■監督／出崎　哲■演出／清水恵蔵、冨永恒雄■演出助手／前島健一、山口頼房■絵コンテ／出崎　哲、山崎和男、曽我部　孝■キャラクターデザイン／四分一節子■メカキャラクターデザイン、メカ・エフェクト作監／前島健一、鈴木伸一■作画監督／小林ゆかり■作画監督補／四分一節子、滝沢明美■原画／マジックバス、松田芳明、小椋真由美、滝沢明美、伏田光宏ほか■美術監督／勝又　激■撮影監督／菅谷信行■編集／井上編集室、井上和夫■音楽プロデューサー／三浦光紀、島袋　晃■音楽ディレクター／一柳柾文■音楽／淡海悟郎■ＥＤ「LOVEISHEART～星座の子供たち～」作詞／松本一起　作曲／高橋圭一　編曲／国吉良一　唄／杉本誘里（徳間ジャパン）■音響監督／清水勝則■制作協力／（株）マジックバス■制作／（株）葦プロダクション■製作／（株）徳間ジャパン■声の出演　グレイ（井上和彦）　ノーヴァ（岡本麻弥）　レッド（小林清志）　ロバート（千葉耕市）　羅阿羅（榊原良子）　コモン・ロペ（笹岡繁蔵）　リップ（井上杏美）　ビッグママ（吉田美保）ほか

NO.
381 強殖装甲ガイバー



86年12月13日（土）東映クラシックフィルム配給　53分
併映作品／GRAY　デジタル・ターゲット

〔あらすじ〕世界征服を狙う秘密結社〝クロノス〟から生体兵器〝ガイバー〟のユニットが盗みだされた。そのひとつを偶然手に入れた高校生の深町晶は、ガールフレンドの瀬川瑞紀とともにクロノスの獣化兵〝ゾアノイド〟に襲われる。そのときユニットの〝殖装〟作用が働き、晶は〝ガイバー〟を装甲。クロノスは瑞紀を人質に、秘密を知った晶らを襲うが、晶はクロノスと戦い抜く決意を固めた。女監察官バルキュリアは自らガイバー2となって晶に戦いを挑む。
〔解説〕高屋良樹のSFマンガを原作としたオリジナルビデオアニメ。制作の中心はスタジオライブで、監督の渡辺浩はこの作品が監督初体験、絵コンテをきるのも初めてだった。ガイバーとなった主人公が、学園生活に戻らず放浪の旅に出る、ガイバー2になるのが美女であるといったあたりが、原作と違う所。原作は、マニアックな作風のもので、ビデオアニメの素材には適していると思われるが、その魅力を生かしていたとはいい難い。

原作／高屋良樹「月刊少年キャプテン」（徳間書店）連載中■企画／株式会社バンダイ■プロデューサー／芦田豊雄、加藤長輝、浅賀孝郎■制作デスク／馬場泰秀■脚本／伊武紋太■監督／渡辺　浩■演出／加戸誉夫■キャラクターデザイン／いんどり小屋■作画監督／松下浩美■原画／渡辺　浩、松下浩美、宮嶋　堅、神志那弘志、松村靖之、近永健一、山内則康、吉松孝博、小林早苗、江古田　豊、藤川　太、嵯峨　敏、市角博継■作画協力／Ａ．Ｉ．Ｃ、アートランド、ウエィブ、スタジオピクトリー■美術監督／新井寅雄■美術／山本順子■背景／山田勝宏、岡部　順、高野圭子、山内　誠、米田晴美、プロダクション・アイ■撮影監督／大地丙太郎■撮影／岡部英夫、伊藤真司、小山信夫、戸澤和彦、柳沢邦延、影山篤志、ラッキーモア■編集／正木直幸、赤堀義浩、古橋　宏、葦プロダクション■音楽監督補／渡辺　淳■音楽／難波正司■ＥＤ「悲しみが許せない」作詞／大津あきら　作曲／タケカワユキヒデ　編曲／難波正司　歌／井上杏美■音響監督／松浦典良■録音／大塚晴寿、小原吉男■制作協力／オンリーフォアライフ■制作／アニメイトフィルム、ネットワーク、スタジオライブ■製作／株式会社ムービック■キャスト　深町　晶（水島　裕）　瀬川瑞紀（富沢美智江）　バルキュリア（戸田恵子）　巻島支部長（筈見　純）　石渡長官（若本紀昭）　アキツ警部（藤城裕士）　ガイバーIII（小杉十郎太）ほか映

NO.
382 時空の旅人



86年12月20日（土）東宝洋画系封切　1時間31分
併映作品／火の鳥

【あらすじ】17歳の高校生テコこと早坂哲子は、兄のマイクロバスに乗り合わせていたとき、突然侵入してきた未来人のジロによってバスごと超時空に飛ばされてしまう。同乗していた信夫、真一そして教師の北勉を合わせた5人は、ジロを追う逃亡者ハンター・クタジマをかわし、大戦下の東京、幕末を経て信長の治める近江の国安土城へとやってきた。テコは、そこで信長の側近・蘭丸に恋心を抱きながらも、歴史の改竄（かいざん）を企むクタジマとの争いに巻きこまれていく。
【解説】原作は眉村卓のジュヴナイイル風ＳＦ小説。「11人いる！」「ポーの一族」などの人気少女漫画家・萩尾望都がキャラデザインを手がけた。制作はマッドハウスが担当。川尻善昭、松原京子、伊東誠、稲垣賢吾ら作画陣が秀逸なアニメートを生みだし、とりわけ冒頭のジロの脱出シーンを描いた梅津泰臣は、独特の濃厚な作画で異彩を放っていた。また、本作ではあんなぷる出身の実力派アニメーター・森本晃司が珍しくメカデザインを手がけている。

原作／眉村　卓（角川文庫版）■製作／角川春樹■プロデューサー／りんたろう、丸山正雄、岩瀬安輝■制作担当／浅利義美、清水一伸■設定／竹内啓雄■脚本／大和屋　竺、真崎　守、竹内啓雄■監督／真崎　守■絵コンテ／真崎　守、平田敏夫、福富　博■俳句／角川春樹■キャラクターデザイン／萩尾望都■メカニックデザイン／森本晃司■作画監督／野田卓雄■作画監督補佐／松原京子■原画／川尻善昭、梅津泰臣、松原京子、新川信正、牟田清司、伊東誠、岡村　豊、栗原玲子、本木久年、清山滋崇、桜井美知代、田辺由憲、寺沢伸介、木下ゆうき、桜井邦彦、稲垣賢吾■未来都市設定／渡部　隆■美術監督／男鹿和雄■美術／松岡　聡■撮影監督／石川欽一■テクニカルスーパーバイザー／八巻　磐■編集／尾形治敏■音楽プロデューサー／石川　光■音楽監督／国吉良一■ＥＤ「時空（とき）の旅人」作詞、曲、唄／竹内まりや　編曲／山下達郎（ムーンレコード）■音響監督／明田川　進■制作／プロジェクトチームアルゴス、マッドハウス■製作／㈱角川春樹事務所、㈱角川書店■ＣＡＳＴ　アギノ・ジロ（戸田恵子）　早坂哲子（テコ）（村田博美）　長谷川真一（シンイチ）（岩田光央）　山川信夫（ノブッチョ）（熊谷誠二）　北　勉（ホクベン）（青野　武）　クタジマ・トシト（井上真樹夫）　明智光秀（金内吉男）　森　蘭丸、戦時少年（堀川　亮）　織田信長（横内　正）ほか

NO. 383 火の鳥

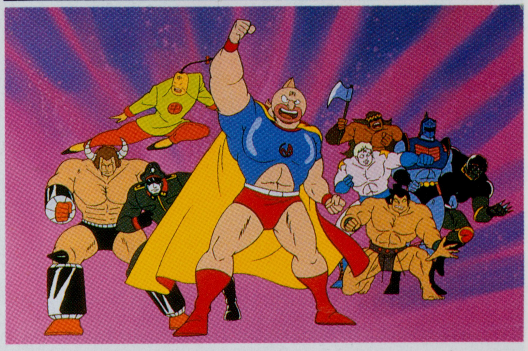


86年12月20日（土）東宝洋画系封切　1時間
併映作品／時空の旅人

【あらすじ】幼くして片目片腕を失った我王は、ある日伝説の鳥・鳳凰を探し求めて諸国を旅する彫物師・茜丸に出会い、彼の大切な右腕を傷つける。さらに我王は、強引に妻にした速魚を猜疑心から殺してしまうが、彼女がかつて自分の助けた虫の化身と知り、悔恨に打ちひしがれる。時が流れ、僧となって仏像を彫りながら旅をする我王は、かつて自分が傷つけた茜丸と天皇の献上品を競作することになる。
【解説】手塚治虫のライフワーク的代表作「火の鳥」のなかでも傑作編として知られる「鳳凰編」のアニメ化。オリジナル色が強かった「火の鳥2772」に比べると、原作を素材にしていることは明瞭だが、作中の重要人物である良弁上人が登場しないことや、我王と茜丸が最後に競う鬼瓦が火の鳥の彫り物に差しかえられるなど多少の変更が見られる。そのせいか、原作ファンの反応はいまひとつだったようだ。

原作／手塚治虫（角川書店刊）■製作／角川春樹■企画協力／手塚プロダクション■プロデューサー／丸山正雄、りんたろう、岩瀬安輝■制作担当／浅利義美■制作管理／高橋保夫■制作事務／林　愛弓■脚本／高屋敷英夫、金春智子■監督／りんたろう■助監督／楠美直子■助監督補／福島宏之■キャラクターデザイン、作画監督／さかいあきお■原画／野田卓雄、松原京子、岡村　豊、栗原玲子、鍋島　修、清山滋崇、羽根章悦、田辺由憲、金田伊功、さかいあきお、森本晃司■美術監督／椋尾　篁■背景／青木勝志、吉崎正樹、長嶋陽子、長縄恭子、山川　晃、海老沢一男、石川山子■仕上／千葉賢二、庄村利幸、木下真弓、中村美和子■撮影監督／石川欽一■撮影／マッドハウス■テクニカルスーパーバイザー／八巻　磐■編集／尾形治敏■音楽プロデューサー／石川　光■ＥＤ〈火の鳥〉作詞／阿久　悠　作曲／宮下富実夫　編曲／瀬尾一三　歌／渡辺典子　角川レコード・ＣＢＳソニー■音響プロデューサー／明田川　進■音響監督／宮下富実夫■録音／辻井一郎（アオイスタジオ）■制作スタジオ／プロジェクトチーム・アルゴス、マッドハウス■製作協力／角川書店■製作／角川春樹事務所、東北新社■角川春樹事務所・東北新社提携作品■声の出演　我王（堀　勝之祐）　茜丸（古川登志夫）　速魚（麻上洋子）　ブチ（小山茉美）　真備（大塚周夫）　火の鳥（池田昌子）　ナレーション（城　達也）ほか

NO. 384 キン肉マン 正義超人VS戦士超人

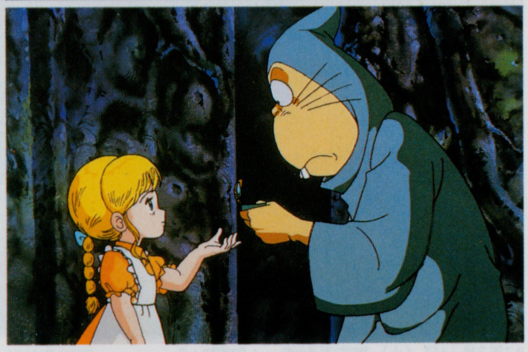


86年12月20日（土）東映系封切　51分
併映作品／ゲゲゲの鬼太郎　激突！異次元妖怪の大反乱、DRAGON　BALL　ドラゴンボール　神龍の秘密（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕謎の男・鉄仮面によってミートがさらわれた。彼はミートを返してほしければ、宇宙最強の戦士超人の住む南シナ海のインモラ島へ行き、七重の塔の最上階にある宝をとってこいという。鉄仮面の指示に従いフランスの超人刑務所から水先案内人として完璧超人ネプチューンマンを連れだしたキン肉マンは、仲間の正義超人たちにも応援を頼んだが、今回に限り、なぜかみな協力を断るのだった。はたして仲間の協力なしでミートを助けだせるだろうか。
〔解説〕劇場7作目。テレビシリーズの放映はすでに終了しており、劇場版もこれが最後の作品となった。テレビでは実現しなかったネプチューンマンの正義超人入りが描かれ、ラスト、キン肉マンとともに必殺技クロスボンバーを放った。劇場1作目以来、キン肉マンに馬鹿にされ続けてきたウコン一族のグレートウコンとその一番弟子のペーパーがキン肉マンへの復讐のため、鉄仮面の手からミートを奪い、戦士超人に売り渡す。ゆでたまごの特別出演は今回はなし。

原作／ゆでたまご　集英社「週刊少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■企画／田宮　武■製作担当／関　良宏■脚本／山崎晴哉■監督／山吉康夫■助監督／浅田裕二■作画監督／森　利夫■原画／高橋英吉、小曽根孝夫、深谷英作、山崎唯文、福井享子■美術監督／襟立智子■美術／井出智子、壇久美子、松尾みちよ、田中みつる、平山恵子、橋詰薫■美術進行／御園　博■ゼログラフ／金井八重子■トレース／菊地聖子■特殊効果／山本　功■撮影監督／玉川芳行■撮影／沖野雅英、渡辺英俊、吉田光伸、米金　均、津田輝王、岡本英一郎、小室正一、小林尚美、藤倉直人、大貫昌男■編集／祖田富美夫■ネガ編集／福光衣久子■音楽／風戸慎介■ＯＰ「キン肉マン旋風（センセーション）」うた／串田アキラ　ＥＤ「キン肉マン倶楽部」うた／神谷　明　以上、作詞／森　雪之丞　作曲／芹澤敲明　編曲／京田誠一（コロムビアレコード）■音響効果／横山正和■録音／市川　修■録音スタジオ／タバック■（製作／東映（東映動画））■声の出演　キン肉マン（神谷　明）　ミート君（松島みのり）　中野さん（はせさん治）　ナチグロン（山本圭子）　キン肉大王（岸野一彦）　キン肉王妃（山口奈々）　委員長（北川米彦）　テリーマン（田中秀幸）　ナツコ（鶴　ひろみ）　戦士超人ミョウオウ（田中和実）　戦士超人センジュカーン（平野正人）　鉄仮面（大塚周夫）　協力／青二プロ

NO. 385 ゲゲゲの鬼太郎 激突！異次元妖怪の大反乱

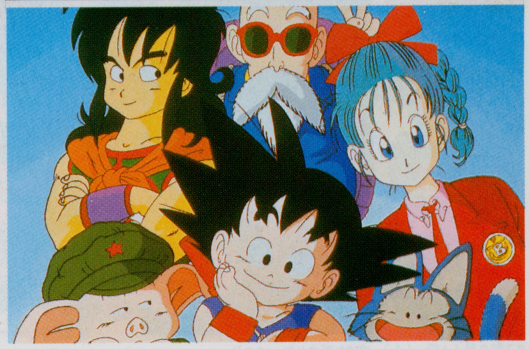


86年12月20日（土）東映系封切　48分
併映作品／キン肉マン　正義超人VS戦士超人、DRAGON　BALL　ドラゴンボール　神龍の秘密（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕首都東京が、突然、強力な霊素が集まってできるという怪気象に包まれた。さらに人間を妖怪の配下におこうとする謎の妖怪皇帝が現れ、国会議事堂は悪妖怪の巣窟と化す。鬼太郎たちは漫画家水木の家にかくまわれるが、妖怪総理大臣・ぐわごぜは、ネズミ男が命を助けた幼い少女カロリーヌをさらい、彼女を人質に鬼太郎に決戦を挑む。やっきになったネズミ男によりカロリーヌは発見されるが、鬼太郎は敵妖怪朧車に石にされてしまった……。
〔解説〕劇場用新作第4弾。原作は'68年に週刊少年マガジンに掲載された「朧車」で、水木しげる自身も登場する異色のエピソードである。原作では端役にすぎなかつたカロリーヌが映画版では可憐な美少女に設定変更され、この子とネズミ男との心の交流が感動的に描かれている。研修生の芝田浩樹の演出力がよく示された傑作である。作画面では、初作監をつとめた新岡浩美の活躍がめざましく、とくにカロリーヌの原画は、ほとんど彼女が担当したという。

原作／水木しげる　講談社（コミックボンボン、テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち、週刊少年マガジン）連載■製作総指揮／今田智憲■企画／横山賢二■製作担当／松下健吉■脚本／武上純希■監督／芝田浩樹■助監督／有間二郎■作画監督／入好さとる、新岡浩美■原画／深沢幸二、金津賀博、岸田隆宏、関野まさひろ、渡辺邦男、伊藤修一■美術監督／田中資幸■美術進行／杉本隆一■背景／須田栄子、佐貫利勝■撮影監督／町田賢樹■撮影チーフ／片山幸男■編集／清水慎治■ネガ編集／岡田　泉■音楽／川崎真弘（FROM　竜童組）■ＯＰ「ゲゲゲの鬼太郎」作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　ＥＤ「おばけがイクゾ～」作詞、曲／吉　幾三　以上、編曲／野村　豊　うた／吉　幾三（徳間ジャパン）■録音／蔵本貞司■録音助手／山田　仁■録音スタジオ／タバック■（製作／東映（東映動画））■声の出演　鬼太郎（戸田恵子）　目玉（田の中　勇）　ねずみ男（富山　敬）　子なきじじい（永井一郎）　一反もめん（八奈見乗児）　砂かけばばあ（江森浩子）　ネコ娘（三田ゆう子）　ユメコ（色川京子）　妖怪皇帝（青野　武）　ぐわごぜ（千葉耕市）　鬼女（鈴木れい子）蛇骨ばばあ（山本圭子）　夜行さん（大竹　宏）　朧車（佐藤正治）　水木先生（あずさ欣平）　水木夫人（川浪葉子）　高僧チンポ（大森章督）　カロリーヌ（藤枝成子）ほか　協力／青二プロダクション

NO. 386 DRAGON BALL ドラゴンボール 神龍の秘密



86年12月20日（土）東映系封切　50分
併映作品／キン肉マン　正義超人VS戦士超人、ゲゲゲの鬼太郎　激突！異次元妖怪の大反乱（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕ドラゴンボール捜しの旅を続ける悟空とブルマは、1人旅をしている少女・パンジに出会った。彼女の国では、国王のグルメスがリッチストーンを集めるため国中の畑などを掘りおこして国民を苦しめており、南の島に住む世界一の武術の達人・亀仙人に助けを求めに行く途中なのだという。悟空たちはパンジとともにカメハウスを訪れたが、亀仙人は自分たちで力を合わせることが大切だと、手を貸すのを断るのだった。
〔解説〕劇場1作目。「ドラゴンボール」の劇場版は、テレビシリーズとは別に個々の内容が連続し展開していくオリジナルストーリーで、今回は〝キャラクター登場編〟。テレビシリーズで活躍していた西尾大介の劇場デビュー作で、歯切れのよいアクションシーンを見せた。「Dr.スランプ」の「ナナバ城の秘宝」同様に、由木義文の個性が強く反映された作品である。森山周一郎がグルメス王を重厚に演じ、作品に厚みを与えていた。

原作／鳥山　明（週刊少年ジャンプ・連載）■製作総指揮／今田智憲■企画／七條敬三■製作担当／岸本松司■脚本構成／由木義文■脚本／井上敏樹■監督／西尾大介■監督助手／橋本光夫■作画監督／前田　実■原画／青嶋克己、海老沢幸男、竹内留吉、荒牧園美、井手武生、中鶴勝祥、清水保行、劉　輝久、青井清年、直井正博、内山正幸、須田正己■美術進行／田村晴夫■美術監督／山本善之　補佐／金島邦夫■背景／伊藤信治、中山拓治、新野竜之、榎本和夫、吉池隆司、行　信三、塩崎広光、塚越幸江、小笠原ゑつこ、千田国広■撮影／池上元秋■編集／福光伸一■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「摩訶不思議アドベンチャー！」作詞／森　由里子　うた／髙橋洋樹　ＥＤ「ロマンティックあげるよ」作詞／吉田健美　うた／橋本　潮　以上、作曲／いけたけし　編曲／田中公平　（コロムビアレコード）■オーディオディレクター／小松亘弘■録音／二宮健治■音響効果／新井秀徳■（製作／東映（東映動画））■声の出演　孫悟空（野沢雅子）　ブルマ（鶴　ひろみ）　ウーロン（龍田直樹）　プーアル（渡辺菜生子）　ヤムチャ（古谷　徹）　亀仙人（宮内幸平）　パスタ（小山茉美）　パンジ（鈴木富子）　神龍（内海賢二）　パンジの父（飯塚昭三）　パンジの母（鈴木れい子）　ウミガメ（郷里大輔）　ナレーター（八奈見乗児）　ボンゴ（納谷悟朗）　グルメス（森山周一郎）ほか　協力／青二プロダクション

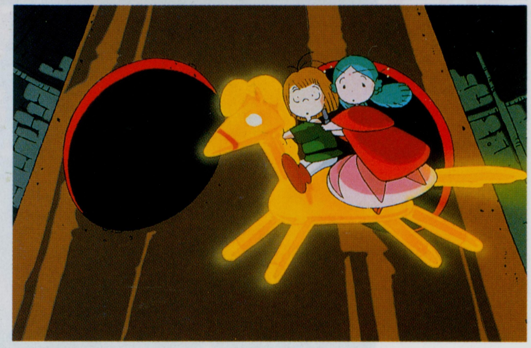
'87 昭和62年

この年、特筆すべきは、数億の製作費と２年の期間をかけたBANDAI初の劇場用作品「オネアミスの翼　王立宇宙軍」である。かつて「ホルス」が突然に、リアルな描写と社会的なテーマをもったアニメ作品として観客の目の前に登場したように、この作品もそれまでの商業作品との関連なく突然に、それまでと違ったアニメ映画の方法論とメッセージを持った作品として登場した。それがのちのアニメ作品にどのような影響を与えるかは定かではないが、若手スタッフたちの素晴しい情熱に満ちた作品であったことは間違いない。

「バツ＆テリー」は、それまでオリジナル作品ばかりを作り続けてきたサンライズが、初めて製作（テレビ作品も含めて）した漫画原作のアニメ作品であり、こののち「シティーハンター」「ミスター味っ子」など、漫画原作のテレビシリーズを製作することを考えれば、同社のポイントとなった作品である。

アニメファンにとって、80年代後半の最大のヒット作となった「聖闘士星矢」が劇場作品として公開されたが、〝まんがまつり〟のなかの１本ということもあり、その異常人気が一般にまで広がることはなかった。

NO. 387 グリム童話　金の鳥

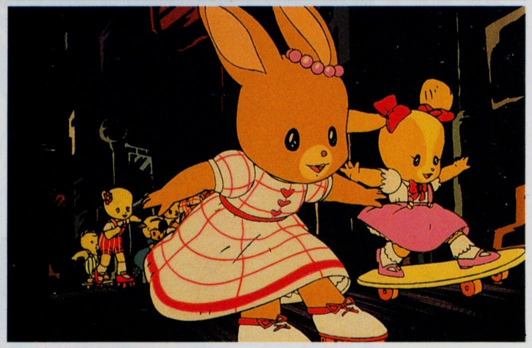


87年3月14日（土）東映系封切　52分
併映作品／新メイプルタウン物語　パームタウン編、超新星フラッシュマン　大逆転！タイタンボーイ!!（東映まんがまつり）

［あらすじ］カイゼル国の国王が大事にしている金のリンゴを、毎晩誰かが盗んでいく。その犯人が金の鳥だとわかった王様は、３人の王子・クロイナーとワルナー、そして人がいい末っ子のハンスに金の鳥を捜してくるように命じた。金の鳥の居場所がわからずに途方に暮れる３人の前に、人の言葉を話す不思議な狐のルルが現れた。ルルは、金の鳥は魔女の住むといわれるカネマッチ城に住むと３人に教えるが、２人の兄はそれを信用しようとしない。
［解説］完成後、３年間もオクラ入りになり〝幻の名作〟と噂されていた作品。東映まんがまつりの１本として上映されたが、実制作はマッドハウスが担当。最近の東映の童話シリーズの内容的不振を打ち破る快作として仕あがっている。各シーンごとに工夫の凝らされた素晴らしい美術とグラフィックな作画が、美しい画面を作りあげ、やんちゃなローランド姫や、ロボットや魔女、大とりたちなどのユニークなキャラクターが、作品をより楽しいものにしている。

原作／ヤーコプ・グリム、ウィルヘルム・グリム■製作／今田智憲■企画／勝田稔男■製作管理／高橋保夫■製作事務／丸山宣子■制作デスク／浅利義美■製作担当／菅原吉郎■設定／丸山正雄■脚本／田代淳二■監督／平田敏夫■演出助手／鈴木幸雄、楠美直子■画面構成／福島敦子、新川信正■キャラクターデザイン、作画監督／大橋　学■原画／新川信正、福島敦子、鈴木幸雄、梅津美幸、栗原玲子、正延宏三、湯浅伸子、渡辺純夫、浜野報子、成川裕子、野田卓雄■ミュージカル・アニメーション／南家こうじ■美術監督／石川山子■背景／山川　晃、安藤ひろみ、青木勝志、門野真理子、男鹿和雄、山本二三、池畑裕治、今野良子、有川知子、横瀬瑠美子、宮前光春■仕上検査／久田由紀■仕上協力／オンリーフォアライフ、ビオラ社、スタジオキャッツ■撮影監督／石川欽一■撮影／山口　仁、阿部照男、結束義博■編集／望月　徹■音楽／クニ河内■ＥＤ「地球はパーティー」作詩、作曲／クニ河内　唄／三輪勝恵、こおろぎ'73■音響効果／伊藤道広■製作協力／マッドハウス■（製作／東映（東映動画））■声の出演　ハンス（三輪勝恵）　ルル（藤田淑子）　魔女（富山　敬）　ローランド姫（木ノ葉のこ）　カネマッチ王（滝口順平）　カイゼル王（宮内幸平）　大とり（八奈見乗児）　白バラ王（青野　武）　クロイナー王子（古川登志夫）　ワルナー王子（山本圭子）ほか　製作協力／青二プロ

NO. 388 新メイプルタウン物語 パームタウン編

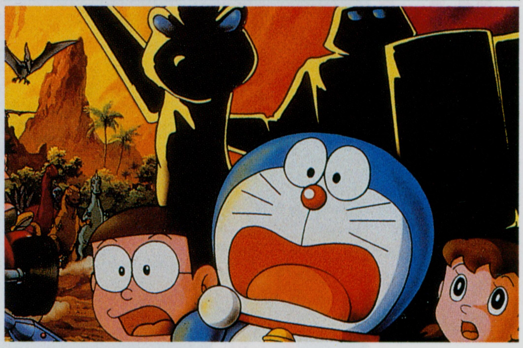


87年3月14日（土）東映系封切　30分
併映作品／グリム童話　金の鳥、超新星フラッシュマン　大逆転！タイタンボーイ!!（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕医者になりたいと思うようになったパティは、夫婦で医院を開いているおばのジェーンの家にやっかいになることになった。メイプルタウンの仲間たちと別れ、ジェーンの住む南の町は、目新しいことばかりだった。ところが、街のチンピラ２人組ヨータとグータに、姉のアンからもらった、だいじなセーターを盗まれてしまう。２人を追うパティは、町のお嬢様ローティの誘拐事件に巻きこまれてしまった。
〔解説〕テレビシリーズ「新メイプルタウン物語　パームタウン編」の１話「南の町の新しい町」をベースにし、その前番組である「メイプルタウン物語」の最終回「パティの旅立ち」を回想シーンとして挿入して構成。連続して放映された２シリーズの橋わたし的内容のものだった。

連載／講談社　ディズニーランド・おともだち、たのしい幼稚園・テレビマガジン■製作／今田智憲■企画／山口康男■製作担当／横井三郎■脚本／朝倉千筆■監督／設楽　博■演出助手／角銅博之■キャラクターデザイン／安藤正浩■作画監督／青山　充■原画／青山　充■美術進行／中村　実■美術デザイン／小林祐子■背景／井出智子、壇　久美子、松尾みちよ、田中みつる■撮影／池上元秋■編集／望月　徹■音楽／小坂明子■ＯＰ「南の国のパームタウン」ＥＤ「もっとフレンド」作詞、作曲／小坂明子　編曲／有澤孝紀　うた／山野さと子（コロムビアレコード）■録音／池上信照■選曲／渡辺恭野（ビモス）■音響効果／伊藤道広■〈回想シーンスタッフ〉演出／佐藤順一■演助進行／鹿内義明■作画監督／遠藤　晴■原画／大島秀範■美術／有川知子■背景／高橋奈緒美■撮影／前原勝則■（製作／東映（東映動画））■声の出演　パティ（岡本麻弥）　ローリィコッカー（池本小百合）　ヨータ（龍田直樹）　グータ（つかせのりこ）　ジェーン（杉山佳寿子）　ジョージ（森　功至）　アン（絆　恵子）　アリス（江森浩子）　ジョーイ（頓宮恭子）　バラブラ（塩屋浩三）　ダリア（松島みのり）　ピータ（村瀬容子）　新聞記者（小林通孝）　ネコンダ刑事（銀河万丈）　（武藤礼子）（八奈見乗児）（田中秀幸）（山野さと子）（荘　真由美）（竹村　拓）（川島千代子）協力／青二プロ

NO. 389 ドラえもん のび太と竜の騎士



87年3月14日（土）東宝系封切　１時間31分
併映作品／プロゴルファー猿　甲賀秘境！影の忍法ゴルファー参上！、オバケのＱ太郎　とびだせ！１／１００大作戦

〔あらすじ〕のび太は、０点の答案をかくすためドラえもんに出してもらった〝どこでもホール〟で地底の大洞窟を発見した。ジャイアンやスネ夫、しずかとともに地底に部屋を作り楽しむのび太。ところが地底で恐竜と謎の人影を目撃したスネ夫が行方不明になってしまう。スネ夫を捜すのび太たちは、恐竜に襲われたところを竜の騎士バンホーに助けられた、竜の騎士たちは地底に高度な文明を築いており、そしてなぜか地上遠征の計画を立てていた。
〔解説〕〝長編ドラえもん〟の第８作。ドラえもんの長編映画史上はじめて、敵との戦闘が行われない物語で、その分ＳＦドラマとしての色彩が強くなっており楽しめる。のび太たちが恐竜絶滅の謎を知ったものの、結局は絶滅をくいとめることができなかったというストーリーなど、シリーズ中の異色作といえよう。自然保護キャンペーンのテーマは〝ぼくたち21世紀人〟、入場者プレゼントはバッジ。「魔界大冒険」以来の大ヒットとなった作品である。

原作・脚本／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、てれびくん、コロコロコミック、別冊コロコロコミックほか■プロデューサー／別紙壮一、小泉美明、波多野正美■制作担当／山田俊秀■文芸／水出弘一■監修／楠部大吉郎■監督／芝山　努■レイアウト／本多敏行■作画監督／富永貞義■原画／池ノ谷安夫、大塚正実、木村陽子、堤　規至、原博、生野裕子、数井浩子、鈴木玲子、斉藤哲人、土肥一宏、窪田正史、一川孝久、飯山嘉昌、斉藤文康ほか■美術設定／川本征平■美術監督／沼井信朗■撮影監督／斉藤秋男■編集／井上和夫、渡瀬祐子■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ドラえもんのうた」作詞／楠部　工　作曲／菊池俊輔　唄／大杉久美子　ＥＤ「友達だから」作詞／武田鉄矢　作曲／山本廣世　編曲／菊池俊輔　唄／大山のぶ代、森の木児童合唱団　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■効果／柏原　満■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　ジャイアン（たてかべ和也）　スネ夫（肝付兼太）　しずか（野村道子）　ママ（千々松幸子）　ジャイアンの母（青木和代）　スネ夫のママ（鳳　芳野）　バンホー（堀　秀行）　ロー（神代智恵）　祭司長（大塚周夫）　軍団長（田中信夫）　部長（北村弘一）　法王（厳　金四郎）ほか

NO. 390 プロゴルファー猿
甲賀秘境！影の忍法ゴルファー参上！

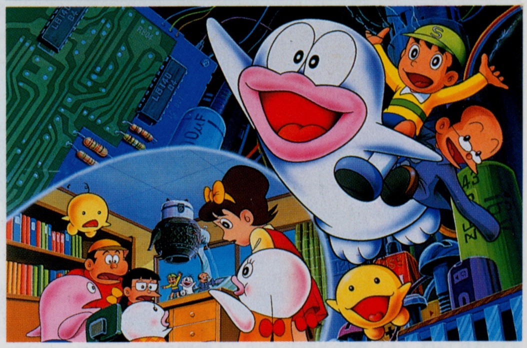


87年3月14日（土）東宝系封切
併映作品／ドラえもん　のび太と竜の騎士、オバケのQ太郎　とびだせ！1／100大作戦

【あらすじ】ミスターXから、忍び谷ゴルフコースへの招待状が届いた。今度の相手は忍者ゴルファーだという。猿丸兄弟はおっちゃんや若葉と一緒に、少年忍者飛丸の案内で忍び谷にやってきた。紅蜂が紹介する3人の忍者ゴルファー・カラス麻呂、福助、影王丸を順々に破った猿は、この3人の忍者がすべて胡蝶という美少女ゴルファーの変装であったことを知る。胡蝶はミスターXの策略のもとに、忍び谷を守るために猿と闘っていたのだ。
【解説】「プロゴルファー猿」の劇場第2作。前年の第1作同様、破天荒な挑戦相手が次々に登場して、痛快なアクションの連続になっている。また、劇場用藤子アニメに毎年添えられる自然保護キャンペーンのキャッチフレーズ（今回は〝ぼくたち21世紀人〟）にのっとり、環境破壊に警鐘を鳴らすラストシーンであった。メインスタッフは前作と同様。また、原作は第1作、2作とも「新プロゴルファー猿」として「別冊コロコロコミック」に連載された。

原作／藤子不二雄　連載／小学館の学習雑誌　マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、てれびくん、別冊コロコロコミック、コロコロコミックほか■プロデューサー／田村正司、小泉美明、波多野正美■制作担当／新開一弥、茂木　清■文芸／滝原弥生■構成／松岡清治■脚本／城山昇■監督／西村純二■メカ設定／佐藤正浩■作画監督／本橋秀之■原画／なかじまちゅうじ、大森英敏、高橋敏雄、仙波隆綱、菊地由之、はっとり一郎、浅野裕治■撮影監督／山田廣明■美術設定／半藤克美■美術監督／内田建彦■背景／土師勝弘、古賀　徹、鈴木　徹、山下玲子、山崎かおり、本多美紀■撮影監督／山田廣明■撮影／角原幸枝、熊谷正弘、尾崎美季ほか■編集／岡安　肇、小島俊彦、村井秀明ほか■音楽／筒井広志■ＥＤ「夢を勝ちとろう」作詞／藤子不二雄　作曲／小林亜星　編曲／筒井広志　唄／水木一郎　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　猿丸（頓宮恭子）　中丸（高木早苗）　大丸（峰　あつ子）　小丸（原　えりこ）　おっちゃん（富田耕生）　若葉（堀江美都子）　霧の大老（槐　柳二）　トビ丸（坂本千夏）　胡蝶（江森浩子）　カラス麻呂（青森　伸）　福助（増岡　弘）　影王丸（三ツ矢雄二）　ミスターX（内海賢二）　紅蜂（平野　文）　ナレーション（野島昭生）ほか

NO. 391 オバケのQ太郎
とびだせ！1／100大作戦

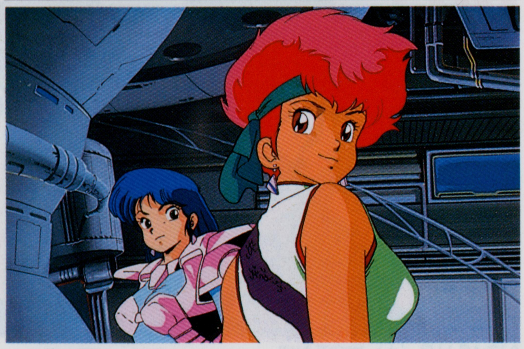


87年3月14日（土）東宝系封切
併映作品／ドラえもん　のび太と竜の騎士、プロゴルファー猿　甲賀秘境！影の忍法ゴルファー参上！

【あらすじ】ハカセは、なんでも巨大化する機械バイバイマシンを発明した。さっそくQちゃん、正太と一緒にケーキを大きくしようとするが、逆に3人の方が100分の1に小さくなってしまう。小さいままで模型飛行機に乗って町内の冒険を楽しむ3人。危険な目にもあったけれど、なんとか帰りつくと、今度はバイバイマシンの故障を直すために機械のなかに入っていく。そして、10円玉がコードにひっかかってショートしているのを発見した。
【解説】「オバケのQ太郎」の劇場第2作。再び立体アニメとして製作され、観客が全員同じ色メガネをかけて画面を見つめるという図もすっかりお馴染みになった。2作目だけあって演出的にも撮影技術的にも改良が加えられ、立体効果を活かす工夫がされている。特に模型の飛行シーンやバイバイマシンの内部の描写など、やたらに奥行きが強調されているが、小さくなった主人公たちの視点であることによって、違和感をなくすのに成功している。

原作／藤子不二雄■プロデューサー／加藤良雄、小泉美明、木村純一■制作担当／茂木仁史■脚本／桜井正明■総監督／笹川ひろし■監督／塚田庄英■作画監督／森下圭介■美術監督／宮野　隆■撮影監督／三沢勝治■立体技術監督／当間章雄■編集／岡安肇■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ぼくはオバＱノンキなオバケ」作詩／藤子不二雄　作・編曲／菊池俊輔　うた／天地総子■録音監督／大熊　昭■効果／松田昭彦■声の出演　Q太郎（天地総子）　正太（三輪勝恵）　O次郎（横沢啓子）　ドロンパ（白石冬美）　ゴジラ（竹村　拓）　キザオ（龍田直樹）　ハカセ（肝付兼太）　P子（三田ゆう子）　よっちゃん（室井深雪）　※本リストは、映画公開時のパンフレットをもとに作成した。

NO. 392 ダーティペア



87年3月14日（土）松竹系封切
併映作品／バツ＆テリー

〔あらすじ〕ヴィゾリウム金属を最も多く含有するサディンガー原鉱石の採掘地・惑星アガーナの2国家は、謎の怪物による試掘プラント破壊事件のため危機的な状況にあった。調査をはじめたWWWAのトラブル・コンサルタント、ダーティペアことケイとユリは、以前ヴィゾリウム密売事件で取り逃がしていたカースンに出会う。張り合いながらもカースンに好意を感じはじめるケイ。事件の背後にひそむワッツマン教授のもくろむ〝新人類創造実験〟とは？
〔解説〕高千穂遙の同名SF小説の設定をもとに、新たにストーリーが書き下ろされたオリジナル版。キャラクターは、土器手司によるテレビシリーズのデザインにやや手を加えたものが使用された。また、ラブリーエンジェル号の設定は、原作と同じ紡錘型になった。監督は「ウラシマン」の真下耕一。後半のシーンは、光と色の洪水となっており、物語性よりもミュージックビデオ風な魅力にあふれた異色作ということができる。

■原作、企画コーディネーター／高千穂　遙■製作／伊藤昌典（日本サンライズ）■企画／日本サンライズ■プロデューサー／中川宏徳（日本サンライズ）、近藤良英（松竹）■制作デスク／富岡秀行■脚本／星山博之■設定制作、演出助手／山口美浩■監督／真下耕一■演出／谷田部勝義■演出助手／高松信司■設定スーパーバイサー／森田　繁、佐藤道明■オープニングアニメーション／森本晃司■エンディングアニメーション／植田　均■キャラクターデザイン、作画監督／土器手　司■作画監督補佐／高橋久美子、井口忠一、佐久間信計、坂本三郎■メカニカルデザイン／宮武一貴■メカニカルデザイン協力／明貴美加■モンスターデザイン／あさりよしとお■原画／加藤　茂、神村幸子、植田　均、西島克彦、平田智浩、伊藤浩二、戸部敦夫、広田麻由美、橋本浩一ほか■美術監督／宮前光春■撮影監督／奥井　敦■編集／掛須秀一、石田　悟、磯部文弘■音楽／志熊研三■ＯＰ「サファリアイズ」作詞／大津あきら　作曲／和泉常寛　編曲／新川　博　ＥＤ「パ・ド・ドゥ」作詞／渡部なつみ　作曲／PROJECT　M　編曲／萩田光雄　以上、唄／松原みきレコード／ビクター音楽産業■音響監督／千葉耕市■協力／早川書房■日本サンライズ、松竹株式会社提携作品■声の出演　ユリ（島津冴子）　ケイ（頓宮恭子）　カースン（森　功至）　ワッツマン（大塚周夫）　ブルーノ（西尾　徳）　ムギ（巻島直樹）ほか

NO. 393 バツ＆テリー
BATS & TERRY

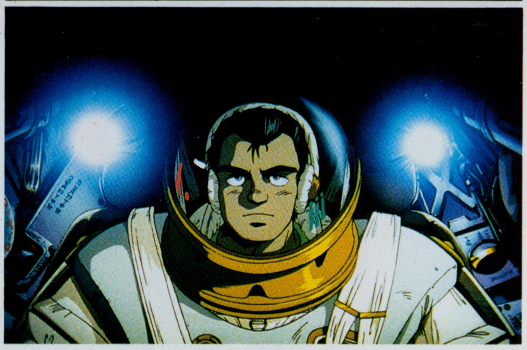


87年3月14日（土）松竹系封切
併映作品／ダーティペア

〔あらすじ〕横浜海峰高校野球部1年、実力抜群、性格ハチャメチャのバッテリー・抜刀軍（バツ）一文字輝（テリー）。ある日ふたりは、恋人をバイク事故で亡くした少女・アンを不良の辰夫から救い、さっそく口説きにかかる。ふたりの強引なアピールにあきれながらも、次第にうちとけていくアン。だが彼女の恋人も野球部員だったため、こだわりが残る。県大会決勝の前夜、辰夫にさらわれたアンを救出に向かうバツとテリー。試合には間に合うのか……。
〔解説〕横浜・湘南を舞台に、明るくカッコいい青春群像を描いた、日本サンライズ初の漫画原作による作品。ビスタの画面を生かしたダイナミックな構図に加え、キャラたちもよく動きまわり、芝居のテンポも軽快で、監督のアミノテツローたちスタッフが手慣れたところを見せている。遊びとしてヒロシとトオル、マイケル、チンミ、向太陽など、講談社の他作品の主人公がゲスト出演しているほか、併映の「ダーティペア」も、さりげなく顔を出す。

原作／大島やすいち（講談社「週刊少年マガジン」）■製作／伊藤昌典（日本サンライズ）■企画／日本サンライズ■プロデューサー／植田益朗（日本サンライズ）、近藤良英（松竹）■制作デスク／望月真人■文芸／外池省二■脚本／平野靖士■監督／アミノテツロー■演出／加瀬充子■演出助手／江上　潔■アニメーションディレクター／芦田豊雄■キャラクターデザイン／山内則康＆いんどり小屋■メカニカルデザイン／佐藤正浩■コスチューム協力／高雄ながむ■オープニングアニメーション／マジック・バス■作画監督チーフ／山内則康■作画監督／芦田豊雄、清水恵蔵、直井正博■メカニカル作画監督／佐藤千春■原画／スタジオ・ライブ、神志那弘志、松下浩美、近永健一、マジック・バス、小林ゆかり、四分一節子、前島健一、スタジオ・ムー、村中博美、中島美子、アド・コスモ、直井正博、アニメ・アール、谷口守泰、加瀬政広、井上　哲ほか■美術監督／中村光毅、木下和宏■撮影監督／古林一太■編集／鶴渕友彰■音楽／矢野立美■ＯＰ「心の中のFollow　Wind」作詞／庄司明弘　ＥＤ「Lonely≒Story」作詞／根本　要・林　紀勝　以上、作曲／根本　要　編曲、唄・演奏／スターダスト☆レビューレコード／ワーナーパイオニア■音響監督／浦上靖夫■協力／講談社■声の出演　抜刀　軍（バツ）（井上和彦）　一文字　輝（テリー）（塩沢兼人）　白木アン（有森也実）　桐島（渡辺篤史）ほか

NO.
394 オネアミスの翼 王立宇宙軍
THE WINGS OF ONEAMIS:

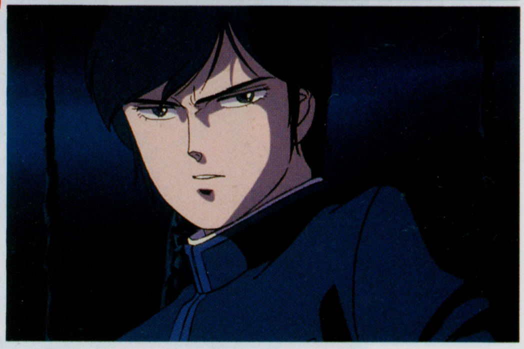


87年3月14日（土）東宝洋画系封切　1時間39分

〔あらすじ〕隊のお荷物扱いされる宇宙軍の軍人であるシロッグたちは、無気力に陥っていた。しかし、神を信じる少女リイクニと出会い、触発されたシロッグは、自ら危険性の高い有人宇宙飛行計画のパイロットに志願する。驚く仲間たちを尻目に、着々と準備をはじめるシロッグ。しだいに仲間たちも協力的になり、TVや新聞でもこの計画が大きく取り上げられ、もてはやされる。しかし、その一方、妨害や、戦争に利用しようとする陰謀などが進行していた。
〔解説〕バンダイ初の劇場作品。これが初監督となった25歳の山賀博之をはじめ、アニメ・特撮自主製作グループDAIKONフィルムの若いメンバーが、製作スタッフの中心となっている。現実とほんの少し異なる異世界を見事に構築し、そこを舞台に、実写的演出法と極めて密度の高い画面構成によって、現代の若者の〝青春〟を描いている。その緻密かつリアルな画面処理は、〝アニメSFX〟という売り文句になった。作り手の情熱に満ちた一編。

原案・脚本／山賀博之　連載協力／秋田書店「月刊プリンセス」■制作／藤井丈司（TOP）、篠崎恵子（ミディ）、山添昭彦（ヨロシタミュージック）■企画／岡田斗司夫、渡辺　繁■エグゼクティブ・プロデューサー／山科　誠■プロデューサー／末吉博彦、井上博明■脚本協力／大野木　寛■監督／山賀博之■助監督／赤井孝美、樋口真嗣、増尾昭一■オープニング・エンディングイラストレーション／大西信之■キャラクターデザイン・作画監督／庵野秀明、飯田史雄、森山雄治■スペシャルエフェクトアーチスト／庵野秀明■原画／摩砂雪、川名久美子、井上敦子、前田真宏、井上俊之、金井次朗、高坂希太郎、窪岡俊之、津久井明子、中野彰子、森川定美、河口俊夫、近藤勝也ほか■美術監督／小倉宏昌■美術ボード／小倉宏昌、佐々木　洋、菊地正典■美術／佐々木　洋、菊地正典、伊那淳子、武重洋二、串田達也ほか■撮影監督／諫川　弘■撮影スーパーバイザー／八巻　磐■編集／尾形治敏■音楽監督／坂本龍一■音楽／坂本龍一、上野耕路、野見祐二、窪田晴男■イメージソング「オネアミスの翼～Remember Me Again～」作詞／森生紗都子　作曲／長門大幸　編曲／長岡長次郎　CBS/SONY INC■音響監督／田代敦巳■録音／林　昌平■アメリカ取材協力／日本テレワーク、U・S・エアリアル、NASA（アメリカ合衆国航空宇宙局）■声の出演　シロツグ（森本レオ）　リイクニ（弥生みつき）ほか

NO.
395 デジタル・デビル物語 女神転生

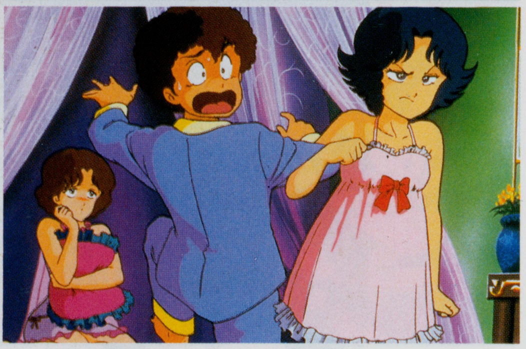


87年3月27日（金）大映配給　45分
併映作品／みんなあげちゃう

〔あらすじ〕十聖高校に転校してきた白鷺弓子。彼女が以前どこかで会ったように感じた同級の少年・中島朱美は、コンピューターを使って悪魔ロキを呼びだし、学園を支配する。だが強大なロキの邪悪のパワーは次第に制御不能となる。ロキと戦う決心をした朱美だが、その魔力の前に弓子とともに危機に陥る。そのとき弓子に憑依したイザナミの霊力によって飛鳥地方へとテレポートした２人。そこで明らかにされた朱美と弓子の意外な秘密とは……。
〔解説〕コンピューターと悪魔という異質の題材を結びつけたユニークな発想から生まれた作品。後半は日本神話の要素も加わり、世界の広がりを見せた。原作の挿し絵を手がけている北爪宏幸がキャラデザインを担当。ただし作画監督は、北爪と同じスタジオ〝ぱっく〟所属の恩田尚之がつとめた。コンピューターコンサルタント会社〝㈱ニュートピア〟の代表取締役・市川公士がコンピューター考証として参加している。同名のファミコンソフトもヒット商品となった。

原作／西谷　史　アニメージュ文庫　徳間書店刊「デジタル・デビル・ストーリー／女神転生」■製作／尾形英夫、高橋　豊■企画／井上堯男、服部康夫■プロデューサー／鈴木敏夫、加藤長輝■プロデューサー補／高橋　望、森本一雄■制作担当／小柴純弥■監督・脚本／西久保瑞穂■コンピューター考証／市川公士■キャラクターデザイン／北爪宏幸■作画監督／恩田尚之■作画監督補／小曽根正美■原画／井口忠一、奥田万つ里、寺沢伸介、森　貴広、南　初則、西澤　晋、寺東克己、武田一也、河村明夫、依田正彦、鴨川　浩、田村俊也（J.C. STAFF）、スタジオ夢民、カナメプロダクション、ビッグバン■動画チェック／鈴木美千代■美術監督／石津節子■撮影監督／安津畑　隆■編集／掛須編集室、掛須秀一、磯部文弘、石田　悟■音楽プロデューサー／難波弘之■音楽／うさぎ組■ED「LADY YOUR EYES」作詞／杉本誘里　作曲、歌／YOURI with the CASH　編曲／難波弘之　■録音監督／斯波重治■録音演出助手／浅梨なおこ■制作／アニメイトフィルム■徳間書店・ムービック提携作品■キャスト　中島朱美（水島　裕）　白鷺弓子（島津冴子）　小原教諭（横尾まり）　ロキ（大塚芳忠）　イザナミ（勝生真沙子）ほか

NO.
396 みんなあげちゃう♥

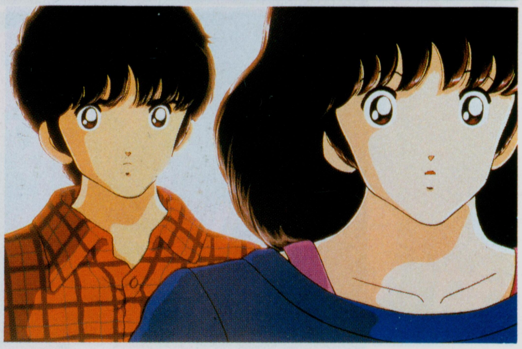


87年3月27日（金）大映配給　45分
併映作品／デジタル・デビル物語

〔あらすじ〕浪人生地下中六郎のもとに、突然「処女いりませんか」と間宮悠乃がやってくる。そのままふたりは同棲状態になるが、悠乃はたいへんな世間知らず。それもそのはず、彼女は大財閥のひとり娘。悠乃が六郎を自分の家に招待すると、変わり者の間宮家の人々は、六郎にエッチな歓迎を。しかし悠乃の大おばあちゃんは、六郎が財産めあてに悠乃に近づいたと決めつけ、六郎をたたきだす。六郎は悠乃を取り戻そうと決死の覚悟で間宮家へ舞い戻る……。
〔解説〕青年誌に連載された弓月光原作の同名マンガのアニメ化。OVA作品として制作して劇場公開。大胆な性描写と、あっけらかんとしたギャグが原作の持ち味だが、アニメでは性描写はひかえめ、少女マンガタッチで、アニメ化はしずらいと思われる弓月原作の絵を見事に消化して、かわいらしい悠乃を描いており、作画レベルは高いといってよいだろう。

原作／弓月　光■製作／阿部高久、岸　栄司、高橋　豊■プロデューサー／肥田光久、加藤長輝、風間康久■プロデューサー補／森本一雄■制作デスク／山田良一■構成／高橋　豊■絵コンテ、監督／上村　修■アニメーションディレクター／栗山美秀■キャラクターデザイン、作画監督／つかさ　匡■メカニカルデザイン／宍戸　聡■作画監督補／林　隆文、依田正彦■原画／河村明夫、依田正彦、鴨川　浩、田村俊也、林　隆文、坂本英明、伊藤修一、山沢実、本谷利明、船見　浩、河村佳江、龍プロダクション、アニメアールほか■美術監督／勝又　激（スタジオコスモス）■背景／スタジオコスモス、小板橋かよ子、来城荘一、梶谷雅夫ほか■撮影監督／森口洋輔（スタジオウッド）、白井敏雄（スタジオウッド）■音楽プロデューサー／長崎行男■音楽／飛澤宏元■ED「みんなあげちゃう」作詩／岩里祐穂　作曲／小森由美　編曲／椎名和夫　唄／アイリーン＆エリカ（CBSソニー）■音響監督／本田保則（アーツプロ）■制作協力／J．C．STAFF■制作／アニメイトフィルム■製作協力／週刊ヤングジャンプ■製作・著作／集英社、ムービック、ソニービデオソフトウェアインターナショナル■キャスト　悠乃（松井菜桜子）　六郎（堀川　亮）　桜子（池田昌子）　千代（堀　絢子）　蘭子（高乃　麗）　重蔵（八奈見乗児）　スペシャルゲスト（三浦静加、サンプラザ中野　爆風スランプ）ほか

NO.
397 タッチ3 君が通り過ぎたあとに



87年4月11日（土）東宝系封切
併映作品／いとしのエリー

〔あらすじ〕達也と南は３年に進級。甲子園へのラストチャンスを迎えて南は再びマネージャーに復帰する。しかし西尾監督が入院、代理監督になった元・明青野球部の柏葉英二郎は、狂気のように達也たちをシゴキはじめる。実は西尾監督は柏葉の兄で優秀な選手だった英一郎と英二郎を間違えたのだ。英二郎も秀れた選手だったが、周囲から妬まれ、汚名を着せられて部を追われた過去を持っていた。柏葉は復讐のために戻ってきたのだ。
〔解説〕「タッチ」劇場版の３部作は、時間的な制約もあって、テレビとは別個に、原作の物語を整理した独自のストーリーラインによって構成されている（例えば新田由加は劇場版には出てこない）。これには、終盤で混乱をみせた原作のドラマを整理する意味もあったと思われるが、３部では必ずしも有効に働いていない。２部で達也の葛藤を先に描いてしまったため、ドラマが柏葉中心に傾き単調になってしまった。演出も当初の緊張感は薄れて間延びが目立つ。

原作／あだち充　（小学館少年サンデーコミックス刊）■製作／大橋雄吉■企画／角谷　優、関谷猪三男、宇佐美　廉■プロデューサー／藤原正道、岡正、片岡義朗■制作プロデューサー／対木重次■制作／藤田　健■脚本／高星由美子、杉井ギサブロー■総監督／杉井ギサブロー■監督／永丘昭典■協力監督／はしもとなおと■アニメーション監督／前田庸生■絵コンテ／芝山　努、前田康成、水谷貴哉、鈴木卓夫■画面構成／前田　実■作画監督／江口摩史介■作監助手／村田雅彦■原画／中島　薫、遊佐和重、千田幸也、野村誠司、堀江多智子、柴田和子、伊藤　誠、高峰由恵、吉野高夫、富沢和雄、しん・はじめ、〈亜細亜堂〉原　博、〈ビクトリー〉岡迫亘弘ほか■美術／金村勝義■美術補／西倉　力■撮影監督／杉村重郎■編集／古川雅士■音楽プロデューサー／大石稀哉■音楽／芹澤廣明■OP「君が通り過ぎたあとに　—Don't pass me by—」ED「FOR THE BRAND—NEW DREAM」訳詞／Linda Hennrick　以上、作詞・作曲／高見沢俊彦　編曲／アルフィー　歌／アルフィー（キャニオンレコード）■音響監督／藤山房延■制作／グループ・タック、田代敦巳■製作／東宝株式会社、フジテレビジョン、旭通信社、小学館、オービー企画■声の出演　達也（三ツ矢雄二）　南（日高のり子）　孝太郎（林家こぶ平）　柏葉英二郎（田中秀幸）　柏葉英一郎（内海賢二）　新田（井上和彦）ほか

NO.
398 妖獣都市

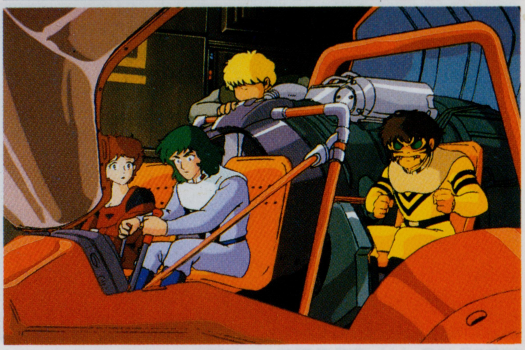


87年4月25日（土）ジョイパックフィルム配給　1時間20分

〔あらすじ〕人間界に住む滝蓮三郎と魔界に住む麻紀絵とは、両界の平和条約調印のために来日する霊能者ジュゼッペ・マイヤート護衛を命じられた。彼らは〝闇ガード〟ふたつの世界の共存を妨げる不穏分子と戦う使命を負った者たちである。調印を前に活発に動きはじめた魔界の過激派たち。つぎつぎと襲いくる暗殺者と戦いながら、いつしか滝と麻紀絵は愛し合うようになっていた。だが、この任務の裏には、ふたりの知らない大きな目的が隠されていたのだ。
〔解説〕「浮浪雲」「レンズマン」などで、和洋さまざまな様式を駆使したレイアウトセンスを見せた川尻善昭が、今度はエロチシズムとスプラッターの世界に挑戦。監督、キャラデザイン、作画監督を一手にこなし、異様なまでの美しさに満ちた作品を作り上げた。ストーリーは菊地秀行の原作を土台にしつつも、むしろ男女の愛の真摯さ、神聖さを中心においた盛りあがりを見せている。アクションシーンの完成度も高く、マッドハウスの重厚な作画力が光っている。

原作／菊地秀行　（徳間ノベルズ刊）■製作／升水惟雄、久里耕介■プロデューサー／倉田研次、瀬谷慎■制作管理／高橋保夫■制作担当／清水一伸■設定／丸山正雄■脚本／長　希星■監督／川尻善昭■助監督／楠美直子、福島宏之■キャラクターデザイン、作画監督／川尻善昭■作画監督補佐／たけいまさき■原画／野田卓雄、北島信幸、新川信正、稲垣賢吾、岡村　豊、竹井正樹、伊東　誠、栗原玲子、桜井邦彦、さかいあきお、瀬尾康博■動画チェック／金子昌志■美術監督／男鹿和雄■背景／青木勝志、長嶋陽子、長縄恭子、吉崎正樹、池畑祐治、崎元直美、石川山子、本間　薫■色指定／西表美智代■撮影監督／石川欽一■撮影／山口　仁、藤田　実■編集／尾形治敏■音楽プロデューサー／小暮一雄■音楽／東海林　修■ＥＤ「HOLD　ME　IN　THE SHADOW」作詞／竜　真知子　作曲／井田良広　編曲／京田誠一　歌／当山ひとみ　コロムビアレコード■効果／福島音響■製作協力／ビデオアート、マッドハウス■製作／ジャパンホームビデオ■ＣＡＳＴ　滝　蓮三郎（屋良有作）　麻紀絵（藤田淑子）　ジュゼッペ・マイヤート（永井一郎）　Ｍｒ．影（青野　武）　蜘蛛女（横尾まり）　ホテルの主人（大木民夫）　ジン（戸谷公次）　社長（村松康雄）　病院長（岸野一彦）　ソープ嬢（安藤ありさ）　魔界の女（向殿あさみ）　バーテン（沢木郁也）　医師（平野正人）　（協力／青二プロ）

NO.
399 TWD EXPRESS ローリングテイクオフ

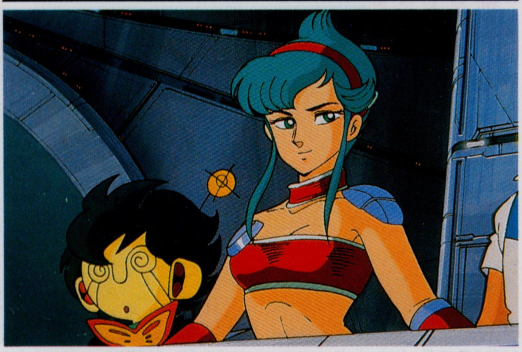


87年7月14日（水）松竹富士配給　55分
併映作品／マップス　伝説のさまよえる星人たち

【あらすじ】タイガーことケン・カトー、ウルフことデューク・スターン、ドラゴンことイワン・サルニコフの、宇宙のなんでも運送屋は、３人の愛称の頭文字をとってその名も〝TWDEXPRESS〟。ある日、デュークは追われていた少女リナを助けるが、彼女は法律で製造禁止となっているはずの人造細胞生物〝ハイドラ〟だった。黒幕ゴーダム伯爵に連れ去られたリナを救出すべく、３人は伯爵の本拠地・惑星ライトカウンティへと乗りこんでいく。
【解説】「マップス」とともに、学研アニメ映像事業部が制作したオリジナルビデオアニメーション。両作品とも、原作は学研の「コミックNORA」に連載中のＳＦ漫画で、アニメ制作も同じスタジオギャロップ。仲よくいっしょに劇場公開された。現在のところ松竹CBS／FOXが製作した唯一のアニメビデオである。原作は、アニメファンにも人気の高い聖悠紀の作品だが、その絵的な魅力を再現してはおらず、また、物語的にもメリハリのないものとなっている。

原作／聖　悠紀　（学研・コミックNORA連載）■プロデューサー／黒島正夫（松竹）、近藤良英（松竹）■制作プロデューサー／金子泰生（学研）、若菜章夫■脚本／橋本以蔵■監督／湯山邦彦■演出助手／高本宣弘■キャラクターデザイン、作画監督／小林一幸■メカニックデザイン／渡部高志■作画監督補佐／松原徳弘■原画／小林一幸、松原徳弘、渡部高志、辻　佳宏、松岡秀明、田中二郎、小西洋子、松本小百合、浜田　勝、酒井啓史、服部真一、高木弘樹、今隅真一、高木広行、須賀重行、多田幸子■スライダー７担当（原画）／塚本　篤■美術監督／長尾　仁■撮影監督／杉村重郎■編集／掛須秀一■音楽プロデューサー／坂井洋一（中央音楽出版）■音楽／山崎　稔（サントラ盤　徳間ジャパンレコード）■ＥＤ「イエスなら抱きしめて」作詞／SHOW　作・編曲／山崎　稔　歌／太田貴子　（徳間ジャパンレコード）■音響プロデューサー／黒田　洋■音響監督／松浦典良■アニメーション制作協力／スタジオぎゃろっぷ■企画・制作／学研アニメ映像事業室■製作／松竹株式会社■CAST　ケン（難波圭一）　デューク（塩沢兼人）　イワン（野島昭生）　リナ（荘真由美）　レットン（山田栄子）　ゴーダム（永井一郎）　シュウシュウ（安西正弘）　タイラー（飯塚昭三）　XR－15（小林通孝）　ガレオ（銀河万丈）　ノーラ（朽木真理）　ケイ（村田博美）　管制官（平野正人）

NO.
400 マップス 伝説のさまよえる星人たち

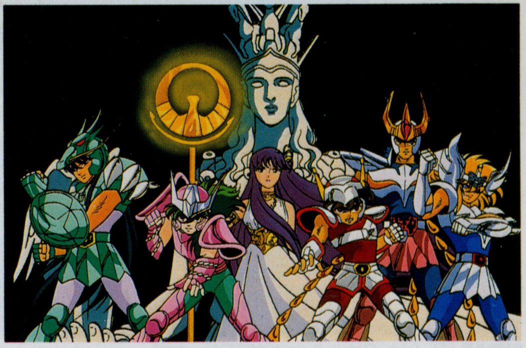


87年7月14日（水）松竹富士配給　51分
併映作品／TWD EXPRESS　ローリングテイクオフ

【あらすじ】ガールフレンドの君塚星見とともに巨大宇宙船リプミラ号に連れ去られた高校生・十鬼島ゲン。彼は〝さまよえる星人〟の秘宝〝風まく光〟のありかを示す地図を体に持つマップマンだった。リプミラ号の電子頭脳体である女宇宙海賊〝リプミラ〟とともに、ゲンは〝風まく光〟を捜す旅にでる。秘宝をわがものにしようとする宇宙海賊ニュウ・エイプや、超巨大大頭脳を有する銀河伝承族を向こうにまわして、壮大な冒険が繰り広げられる。
【解説】「TWDEXPRESS」と共に、学研アニメ映像事業部が制作したオリジナルビデオアニメ。原作は、長谷川裕一のSF冒険漫画。アニメのキャラクターは、原作からかけ離れ、辻初樹の個性が前面にでたものとなっている。物語は説明不足な部分が多く、わかりづらい。後半は、女人型宇宙船など、美術に光るものがある。神谷明の怪演が印象に残る。

原作／長谷川裕一　（学研刊・コミックNORA連載中）■プロデューサー／宮下昌幸（日本コロムビア）■制作プロデューサー／金子泰生（学研）
若菜章夫（スタジオぎゃろっぷ）■制作担当／三俣晴一郎（学研）、若菜三樹雄（スタジオぎゃろっぷ）■脚本／寺田憲史■監督／早川啓二■キャラクターデザイン、作画監督／辻　初樹■原画／丹内　司、佐藤雄三、浜田　勝、横山彰利、阿部　司、佐藤徹、山本哲也、清水恵子、鶴山　修、大西貴子、中野彰子■美術監督／小林七郎■美術／形山　正■背景／木村真二、加藤賢司、田中貞彦、縫部文江、白石　誠、高橋久嘉、松室　剛、大塚伸弘■撮影監督／杉村重郎■編集／掛須秀一■音楽プロデューサー／前山寛邦（日本コロムビア）■音楽／田中公平■ＥＤ「天使は眠らない」作詞・作曲／関口和之（サザンオールスターズ）　編曲／田中公平　歌／橋本潮　演奏／アッポサウンドプロジェクト■音響プロデューサー／黒田　洋（青二企画）■音響監督／松浦典良■制作協力／スタジオぎゃろっぷ、ギャガ・コミュニケーションズ、日本テープ、ジャパンホームビデオ■企画・制作／学研アニメ映像事業室■製作／日本コロムビア株式会社■キャスト　リプミラ（鶴　ひろみ）　十鬼島ゲン（田中真弓）　君塚里見（皆口裕子）　エイプ（神谷　明）　カリオン（小野坂昌也）　ツキメ（渡辺菜生子）　ミバリハン（柴田秀勝）ほか

NO.
401 聖闘士星矢



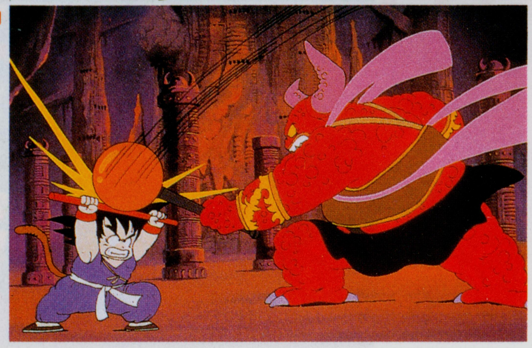
87年7月18日（土）東映系封切　45分
併映作品／DRAGON　BALL　ドラゴンボール　魔神城のねむり姫■超人メタルダー、光船体マスクマン（東映満まんがまつり）

〔あらすじ〕不吉の彗星レパルスが天空を横切り、邪悪の女神エリスの宿る黄金のリンゴが地上へと飛来した。星の子学園の保母・絵梨衣の体を借りたエリスは、アテナ・沙織の命を吸い取って完全復活を果たさんと沙織を誘拐。星矢たちは沙織救出のためエリスの神殿へと向かうが、彼らの前に、エリスの力によって甦ったオリオン星座のジャガー、南十字星座のクライスト、琴座のオルフェウス、矢座の魔矢、盾座のヤンら５人の亡霊聖闘士が立ちふさがる。
〔解説〕'80年代後半、アニメファンにとっての最大の人気番組となった「聖闘士星矢」劇場用第１作目。「キャプテン翼」に引き続き、女子ファンが東映まんがまつりに殺到することとなった。物語は、原作とテレビシリーズのパターンのくりかえしにすぎないが、各キャラクターに見せ場が設けられ、やはりファンにはたまらない作品となっている。美形キャラで多くのファンを持つ荒木伸吾が、続く２、３作目ほどではないにしろ、美しい画面を作りだしている。

原作／車田正美　「週刊少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■企画／旗野義文、横山和夫■製作担当／武田　寛■脚本／菅　良幸■監督／森下孝三■キャラクターデザイン／荒木伸吾、姫野美智■作画監督／荒木伸吾■原画／姫野美智、佐々門信芳、荒木伸吾、的場茂夫、木下和栄、茅野京子■動画チェッカー／高橋美智子、樹邑里花■美術監督／窪田忠雄■背景／大河内　稔、浅井和久、東辻　奏、橋本和幸、山村浩二、峯村るみ子■撮影監督／白井敏雄■編集／吉川泰弘■音楽／横山菁児■ＯＰ「ペガサス幻想」作詞／竜　真知子　作曲／松澤浩明、山田信夫　編曲／ＭＡＫＥ　ＵＰ　歌・演奏／ＭＡＫＥ　ＵＰ　（コロムビアレコード）■録音／波多野勲■音響効果／今野康之■録音スタジオ／タバック■（製作／東映（東映動画））■声の出演　星矢（古谷　徹）　紫龍（鈴置洋孝）　一輝（堀　秀行）　瞬（堀川　亮）　氷河（橋本晃一）　沙織（潘　恵子）　エリス（藤田淑子）　ジャガー（水島　裕）　オルフェウス（三ツ矢雄二）　クライスト（中尾隆聖）　魔矢（小林通孝）　ヤン（難波圭一）　絵梨衣（荘真由美）　美穂（渡辺菜生子）　アキラ（冬馬由美）　マコト（上村典子）　タツヤ（柳沢三千代）　ミミ子（柴田由美子）　子供Ａ（吉田奈穂）　Ｂ（半谷きみえ）　Ｃ（村瀬蓉子）　ナレーション（田中秀幸）　スキャット（川島上義子）ほか　協力／青二プロダクション

NO. **402**

DRAGON BALL ドラゴンボール 魔神城のねむり姫



87年7月18日（土）東映系封切
併映作品／聖闘士星矢、超人機メタルダー、光戦隊マスクマン（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕グルメス王を倒した悟空は亀仙人のもとで修行するためカメハウスへやってきた。亀仙人は、弟子入りするための条件として、ピチピチギャルを、それもはるかな南の森の魔神城で数千年眠り続けているという、ねむり姫を連れてこいと命じた。悟空は、同じく弟子志願の少年クリリンとともに、そして夏休みで悟空に会いにきたブルマやヤムチャたちも２人を追って、大勢の魔物たちが棲みついている魔神城へと向かっていくのだった。
〔解説〕劇場２作目は〝修行編〟。新たにクリリンとランチが登場した。ところどころ原作の名場面とオーバーラップする１作目や３作目に比べると、ほとんどオリジナルといっていい内容。西尾大介の演出はますます冴え、アクションだけでなく絶妙のスラップスティクなギャグで笑わせてくれもした。魔神城の美術設定は、ほとんど美術監督補佐の塩崎広光によるものだが、細部の描きこみや重厚な色使いなどにより、なかなか見応えのあるものとなっている。

原作／鳥山　明　〔週刊少年ジャンプ連載〕■製作総指揮／今田智憲■企画／七條敬三■製作担当／岸本松司■構成／由木義文■脚本／照井啓司■監督／西尾大介■監督助手／橋本光夫■作画監督／前田実■原画／青嶋克己、海老沢幸男、竹内留吉、小原太一郎、荒牧園美、井出武生、中鶴勝祥、清水保行、劉　輝久、島貫正弘、三角昌子、内山正幸■動画チェッカー／佐野哲郎■動画／白須順子、水梨ひとみ、鈴木初枝、佐藤和香子、三柴直樹、望月啓史、中村まゆみほか■美術監督／伊藤岩光　補佐／塩崎広光■背景／谷口淳一、千田国広、行　信三、吉池隆司、上田三輪子、塚越幸江、佐藤美幸、今野良子、澤井裕滋、安西徹夫■撮影／池上元秋■編集／福光伸一■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「魔訶不思議アドベンチャー！」作詞／森　由美子　うた／高橋洋樹　ＥＤ「ロマンティックあげるよ」作詞／吉田健夫　うた／橋本　潮　以上、作曲／いけたけし　編曲／田中公平（コロムビアレコード）■オーディオディレクター／小松亘弘■録音／二宮健治■声の出演　孫悟空（野沢雅子）　ヤムチャ（古谷　徹）　ランチ（小山茉美）　クリリン（田中真弓）　ブルマ（鶴　ひろみ）　ウーロン（龍田直樹）　プーアル（渡辺菜生子）　亀仙人（宮内幸平）　執事（飯塚昭三）　ガステル（郷里大輔）　インストラクター（川浪葉子）　ナレーター（八奈見乗児）　ルシフェル（野沢那智）　ほか　協力／青二プロダクション

NO. **403**

バリバリ伝説



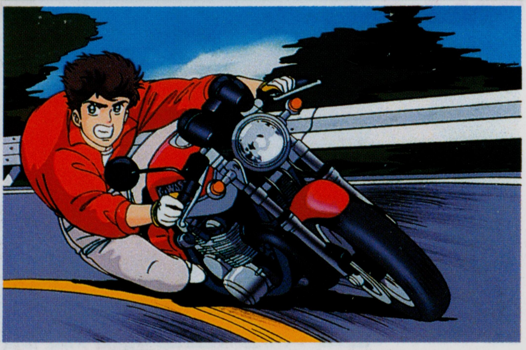
87年8月1日（土）日本ヘラルド映画配給　1時間25分
併映作品／あいつとララバイ

〔あらすじ〕バイク好きの高校生グンは峠の道路で小柄なライダー秀吉に会う。グンは秀吉と競って負けたうえ、バイクを転倒させて秀吉になじられる。やがてグンは秀吉と学校の教室で再会。秀吉がグンの学校に編入してきたのだ。なにかと対立する２人だったが、ライダー仲間のみゆきの勧めで鈴鹿の４時間耐久にペアで出場することになる。みゆきのパートナーは同級生のヒロ。グンのＧＦあいも、ピットクルーで参加。そして、白熱のレースがはじまった。
〔解説〕OVAで「筑波編」「鈴鹿編」の２本として制作されたものを、１本に再編集して劇場公開。「筑波編」は上村修監督、「鈴鹿編」は池上誉優監督で作られたため、前半はコミカルな学園もの、後半はシリアスなレースものと、ややトーンにバラつきがある。しかし、バイクシーンに関しては、作画、演出、特殊効果それぞれ密度が高く、臨場感、緊迫感をみごとに盛りあげている。主題歌とヒロインあい役の声優に、人気アイドル荻野目洋子を起用し、話題をよぶ。

原作／しげの秀一　（週刊少年マガジン連載）■製作／加藤勝久■企画／平賀純男、内田　勝■プロデューサー／鈴木良平、五十嵐隆夫（講談社）、布川ゆうじ（スタジオぴえろ）■脚本／渡邉由自、渡辺麻実■監修／鳥海永行■演出／上村　修、池上誉優■絵コンテ／上村　修、池上誉優、案納正美■作画監督／古瀬　登■作画監督補佐／佐藤雄三■原画／坂本英明、江村豊秋、練木正宏、種本武美、新留俊哉、小林裕也、あべどん、つるやまおさむ、大貫健一、西澤　晋、鈴木健之、芥川義明、杉山東夜美、臼田美夫、山本直子、伊良原正也、千田尾秀一、中尾圭一、仲　盛文、経徳研一、小野浩一郎、ところともかず、林　隆文、時矢義則、奥村啓二、長谷川好春、宮崎賢治、都築　真、東海林真一■美術監督／水の尾純一、中座洋次■美術設定／佐藤正浩■撮影監督／杉山幸夫、鳥越一志、菅谷信行■編集／森田編集室、坂本雅紀、森田清次■音楽監督／新田一郎■ＯＰ「スロープに天気雨」作詞／麻生圭子　作曲、編曲／高中正義　ＥＤ「少年の最後の夏」作詞／売野雅勇　作曲／筒美京平　編曲／鷺巣詩郎　以上、荻野目洋子　（ビクターレコード）■録音演出／斯波重治■レコーディングディレクター／金子秀昭■アニメーション制作／スタジオぴえろ■制作・著作／講談社■製作／講談社■CAST　アイ（荻野目洋子）グン（田中秀幸）　ヒデヨシ（中尾隆聖）　みゆき（戸田恵子）　ヒロ（二又一成）ほか

NO. **404**

あいつとララバイ



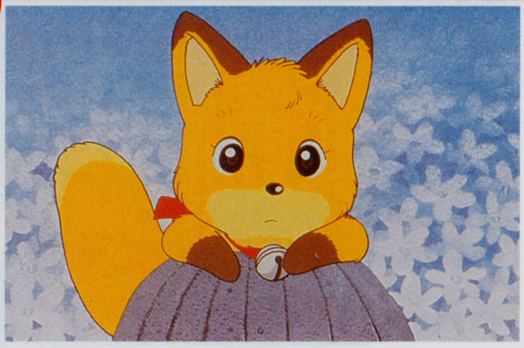
87年8月1日（土）日本ヘラルド映画配給　50分
併映作品／バリバリ伝説

〔あらすじ〕研二は愛車ＺⅡを駆る横浜の高校生。今日も学校をエスケープして、ガールフレンドの友美と箱根の峠にツーリング。そこで研二はSRXに乗る大学生早瀬と知り合う。早瀬の話によると、この峠には「水曜日のシンデレラ」と呼ばれるポルシェの走り屋がいる。どうやら早瀬とシンデレラは、なにがつながりがあるらしい。そして、シンデレラのポルシェに挑戦する早瀬のSRX。２台の激しいバトル。それに研二の仲間・恭介のドゥカティも絡み、熱くなった研二も飛びだしていく。
〔解説〕「週刊少年マガジン」に掲載され、ハイティーンの読者に圧倒的な支持を受けている楠みちはるの青春バイク漫画が原作。柳瀬譲二が、アニメ化にあたってのキャラクターデザインを担当した。しかし、原作の線を生かしたとはいえず、若干いじり過ぎたきらいがある。「あいつとララバイ」に関しては、このアニメ映画化以前に、アイドルグループ「少年隊」の主演で実写映画化されている。

原作／楠　みちはる　（週刊少年マガジン連載）■製作／加藤勝久（講談社）、古川博三（日本ヘラルド映画）■企画／平賀純男、内田　勝、大淵順雄■プロデューサー／鈴木良平、神立勝一、五十嵐隆夫、布川ゆうじ■製作デスク／吉本　聡■脚本／渡邊由自■監督／高橋資祐■演出／横山広行■キャラクターデザイン／柳瀬譲二■メカニックデザイン／佐藤正浩■原画／山本直子、遠藤麻未、西田正昭、坂本英明■美術監督／中村光毅■美術設定／三浦　智■美術／デザインオフィスメカマン、渡部　孝、渡辺毅、林原梗子、太田　大、佐藤正浩■撮影監督／枝光弘明■編集／森田編集室、坂本雅紀、森田清次■音楽プロデューサー／金子秀昭■音楽／門倉　聡、工藤　隆、山本健司■ＥＤ「抱きしめてよRain」作曲／伊藤サヤカ　ＯＰ「涙のSweet　Angel」作曲／西木栄二　以上、作詞／伊藤サヤカ　編曲／萩田光雄　歌／吉永　優　（ビクターレコード）■録音演出／浅利なおこ■アニメーション製作／スタジオぴえろ■製作／講談社、日本ヘラルド映画株式会社■配給／日本ヘラルド映画株式会社■キャスト　研二（堀川　亮）　友美（玉川砂記子）　その子（島本須美）　オヤッさん（近石真介）　じゅん（神代智恵）　恭介（佐藤政道）　早瀬（島田　敏）　由紀子（伊倉一恵）　ライダー（松本保典、土方優人、辻谷耕史、中多和宏）　学生（目黒祐一）　女学生（横田みはる）

NO. **405**

チロヌップのきつね

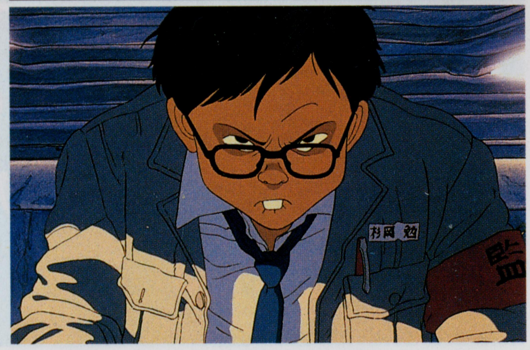


87年8月15日（土）ヘラルド・エンタープライズ配給　1時間12分

［あらすじ］北方のチロヌップという島のキツネのケンとチンの間に、コロとカンという子どもが生れた。怖いもの知らずのコロは蝶を追っていくうちに家族とはぐれ、島へやってきた漁師夫婦にひろわれて共に暮らすことになった。ある夜の嵐がきっかけで、夫婦はコロの親キツネたちの存在に気づき、コロのことを思って家族のもとに帰してやった。その夫婦の前に兵士たちが島の調査のためにやってきた。彼らは毛皮のためにキツネを探しに山へ入っていく。
［解説］きつねと初老夫婦の心の交流を描いてた高橋宏之の童話をアニメ化した、グループタック製作の劇場映画。ちなみにチロヌップとは、アイヌ語で狐の意味（原作では千島のウルップ島）。

原作／高橋宏幸（金の星社刊）■製作／古川博三、田代敦巳■企画／伊藤正昭■プロデューサー／藤田健■監修／前田庸生■脚本／松山善三■監督／今沢哲男■キャラクターデザイン／山本福雄■作画監督／山本福雄、我妻　宏■作画監督補／今沢恵子、松本　清■原画／西山里枝、井上俊之、西城隆詞、水村十司、北原健雄、長谷川　仁、町田由美、大久保富彦、古津和子、木上益治、清山滋崇、河村信道、羽根章悦、平岡正幸、青山　充、百瀬義行■動画チェック／小松良江■動画／大野嘉代子、鈴木晴美、小野島二美子、森　ひとみ、江口寿志、高島信三郎、小島早苗、湊　和良、梶原賢二、笹　恵子、佐藤正樹、赤堀重雄、平石素子、江田玲子ほか■美術監督／門野真理子■撮影監督／枝光弘明■編集／古川雅士■音楽／後藤悦治郎　編曲／松田　晃■歌／ＯＰ「故郷の色」ＥＤ「ふたり手をとり」以上、作詞・作曲／後藤悦治郎　編曲／松田　晃　歌／紙ふうせん、後藤悦治郎、平山泰代■音響監督／田代敦巳■制作協力／スタジオジュニオ、香西隆男■製作プロダクション／ヘラルドエンタープライズ、グループ・タック■配給／ヘラルドエンタープライズ■配給協力／シネマワーク■声の出演　母きつねチン（音無美紀子）　父きつねケン（佐々木　敏）　チビきつねコロ（安達　忍）　兄きつねカン（石川寛美）　漁師（槐　柳二）　その妻（京田尚子）　兵士（沢　りつお）ほか

NO. 406 迷宮物語



87年9月25日（金）東京国際ファンタスティック映画祭'87で公開

〔あらすじ〕『ラビリンス＊ラビリントス』…少女ちさ、猫チチェローネは鏡の世界に迷いこみ、ピエロの案内で奇妙なサーカス小屋の不思議なショーを観ることになる。『走る男』…過激なレース〝デス・サーカス〟。念動力でほかの車をクラッシュさせたチャンピオンのザック・ヒューは、ゴールしてもなお幻のレースを続け自滅して行く。『工事中止命令』…アロワナ共和国の工事現場に派遣された杉岡勉。そこでは狂ったロボットの群れがひたすら工事を続けていた。

〔解説〕3つの短編からなるオムニバス作品。1986年末に完成したが一般公開はされず、〝東京ファンタスティック映画祭'87〟で陽の目を見た。りんたろう監督による第1話が、あとの2作品の案内役を果たしている。「走る男」は、川尻義昭の「妖獣都市」直前の作品であり、映像センスに優れているが、全体的に説明不足の感がある。「工事中止命令」は、劇画家・大友克洋の監督デビュー作。同監督作品では「ロボット・カーニバル」のほうが先に発表された。

原作／眉村　卓　（角川文庫版）■製作／角川春樹■構成・プロデューサー／丸山正雄、りんたろう■制作デスク／浅利義美、岩瀬安輝■助監督／楠美直子■〈ラビリンス＊ラビリントス〉脚本、監督／りんたろう　キャラクターデザイン・作画監督／福島敦子　原画／大橋　学、栗原玲子、福島敦子　美術監督／石川山子　背景／香野雅好、山川　晃、長嶋陽子、バクプロダクション■〈走る男〉脚本、監督、キャラクターデザイン・作画監督／川尻善昭　メカニックデザイン／渡部　隆、熊谷　聡　原画／大塚伸治、新川信正、河口俊夫、稲垣賢吾　美術監督／青木勝志　背景／池慎裕治■〈工事中止命令〉脚本、監督、キャラクターデザイン／大友克洋　作画監督／なかむらたかし　原画／森本晃司、なかむらたかし、大友克洋、桜井邦彦　美術監督／椋尾　篁■背景／河野尋美、佐藤美美子、横山博幸、ムクオスタジオ■テクニカルスーパーバイザー／八巻　磐■撮影監督／石川欽一■編集／尾形治敏■音楽プロデューサー／石川　光■音楽／ミッキー吉野■音響プロデューサー／明田川　進■録音／辻井一郎（アオイスタジオ）■制作スタジオ／プロジェクトチーム・アルゴス、マッドハウス■製作協力／（株）角川春樹事務所■製作／（株）角川書店■配給／東宝株式会社■ＶＯＩＣＥ　（吉田日出子）（津嘉山正種）（水島　裕）（家弓家正）（八奈見乗児）（大竹　宏）（銀河万丈）（屋良有作）（田中和実）

NO. 407 勝利投手



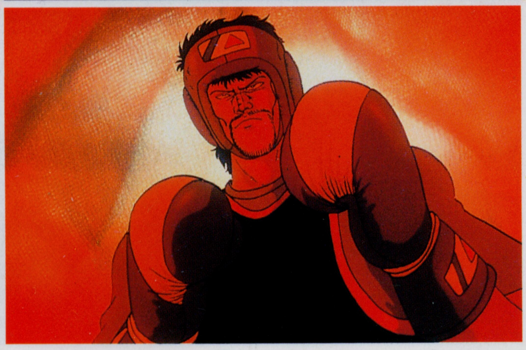
87年10月24日（土）東映クラシックフィルム配給　1時間12分
併映作品／湘南爆走族III　10オンスの絆

【あらすじ】クラウンズの国政監督の娘・克美は、肩を痛めた友人の身替わりとなって甲子園のマウンドに立ち、チームは優勝する。ひょんなことで、そのことに気づいた中日の星野仙一コーチは、ドラフトで克美を指名、初の女性プロ野球選手が誕生する。クラウンズから移籍した及川捕手とともに、活躍する克美だが、1年目は惜しくも優勝を逃がす。2年目、星野監督のもと中日はリーグ優勝。クラウンズとの日本シリーズがはじまる。

【解説】「野球狂の詩」を髣髴させる女性選手がプロ野球で活躍する物語。星野仙一をはじめ、中日ドラゴンズの選手が実名で登場する（その他の球団等は架空のもの）。ちなみに主人公の父・国政監督は、広岡達郎がモデル。原作が発表された当時、評論家だった星野が中日の監督になることを予言し、現実にも星野中日は2年目でリーグ優勝をとげた。原作は、女流作家梅田香子のデビュー作。

原作／梅田香子　（河出書房新社刊「勝利投手」）■企画／吉田　達■プロデューサー／横山和夫、加藤和夫、高橋尚子、栗山富郎■コーディネーター／山口敦規■製作担当／武田　寛■脚本／西浦あかね■監督／芝田浩樹■作画監督／青嶋克己■原画／河合静男、荒牧園美、清水保行、井出武生、中鶴勝祥、竹内留吉、三角昌子、飯塚葉子、島貫正弘、劉　輝久、山室直儀、臼井孝二、小原太一郎、青井清年、海老沢幸男、松本　清、新井浩一、濱洲英喜、兼森義則、稲野義信、福田道生、青嶋克己■美術設定／椋尾　篁■美術／窪田忠雄、鹿野良行■撮影チーフ／沖野雅英■編集／吉川泰弘■音楽プロデューサー／矢作樹久磨■音楽／松本明彦■ＥＤ「One Step Closer」作詞／前田克樹　作曲／前田克樹　編曲／根岸貴幸　唄／永井真理子　（ファンハウス・レコード）■録音／波多野　勲■（製作／東映動画、東北新社、東映ビデオ）■声の出演　国政克美（片石千春）　及川達也（古川登志夫）　星野仙一（土師孝也）　国政道朗（寺島幹夫）　坪井美子（富沢美智恵）　高橋記者（森　功至）　天野記者（広中雅志）　羽田真佐（難波圭一）　沖本部長（池水通洋）　コミッショナー（岸野一彦）　イーグルスオーナー（田中康郎）　議長（戸谷公次）　ドラキチ（松尾銀三）　深川（小林通孝）　小暮先生（大竹　宏）　アナウンサー（矢田耕作）　主治医（堀　之紀）ほか　協力／青二プロダクション

NO. 408 湘南爆走族III 10オンスの絆



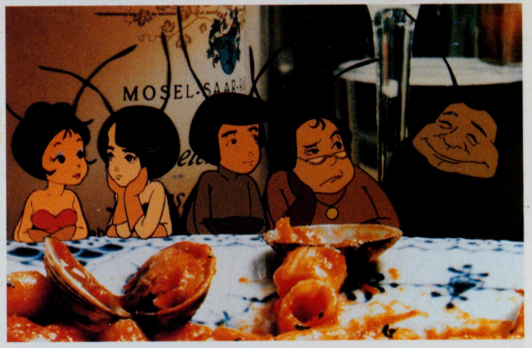
87年10月24日（土）東映クラシックフィルム配給　52分
併映作品／勝利投手

【あらすじ】暴走族〝地獄の軍団〟のリーダー権田は、以前ボクシング部で世話になった植村先生が退職すると聞き、動揺する。先生の最後のはなむけに1週間後に迫ったボクシング部の練習試合に権田は出場する決意をする。そして久しぶりに練習をはじめるが、体がなまり、部の後輩にも冷笑される始末。そして試合の当日、妨害しようとする暴走族〝壱軸冠蝶〟を、権田のライバル〝湘南爆走族〟が食い止め、権田も見事に試合を勝ちぬくのだった。

【解説】OVAのヒットシリーズ〝湘南爆走族〟の第3弾。今回は江口ではなくライバル権田を主人公としており、人情話の色あいがこく、バイクではなくボクシングをメインにした異色作。西沢信孝監督、脚本以下、東映動画のスタッフは、特にこった作画や手法は使わないが、オーソドックスにドラマを見せることに徹し、クライマックスを盛りあげる。現在4弾まで作られているが、ドラマ性ではこの作がベスト。毎回変わる主題歌はハウンド・ドッグが担当。

原作、キャラクターデザイン／吉田　聡　少年画報社　刊■企画／「湘南爆走族」製作委員会、戸田利吉郎、西川　正、吉田　達■プロデューサー／高橋尚子、佐々木　章、栗山富郎■コーディネーター／山口敦規■製作担当／蕪木登喜司■構成／西沢信孝■脚本／倉田研次、高橋尚子■監督／西沢信孝■助監督／佐々木憲世、赤木佳枝■作画監督／西城隆詞■作画監督補佐／吉川真一■原画／大倉雅彦、稲野義信、本橋秀之、須賀重行、曽我部　孝、羽山淳一、越智一裕、亀垣　一、西城隆詞、荒木伸吾ほか■美術監督／坂本信人■撮影チーフ／細田民男■編集／花井正明■音楽プロデューサー／矢作樹久磨■音楽／平井光一■ＯＰ「BLACK BOARD JUNGLE」作詞／大友康平　作曲／八島順一　編曲／蓑輪単志　歌／ハウンド・ドッグ　（マザー＆チルドレン）　ＥＤ「１０オンスのバイブル」作詞／森田由美　作曲／池　　毅　編曲／京田誠一、歌／影山ヒロノブ（オリジナル・サウンド・トラック　コロムビアレコード）■取材協力／ライオンズ・ボクシングジム■製作協力／東映動画■製作／少年画報社、東映ビデオ■声の出演　江口洋助（塩沢兼人）　石川　晃（山口　健）　丸川角児（佐藤正治）　桜井信二（目黒裕一）　原沢良美（郷里大輔）　権田二毛作（屋良有作）　岸本　葵（伊藤智恵理）（ＣＢＳソニー）　津山よし子（鶴　ひろみ）　三好民子（富沢美智恵）ほか　協力／青二プロダクション

NO. 409 ゴキブリたちの黄昏



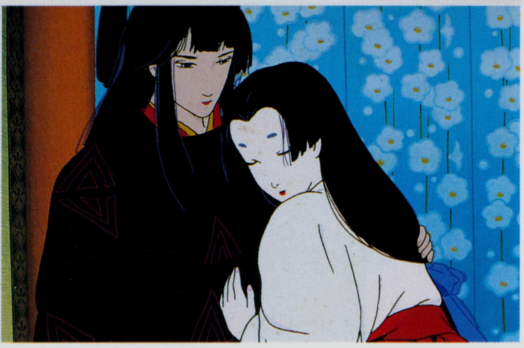
87年11月21日（土）ヘラルド・エース配給　1時間45分

〔あらすじ〕サイトウさんの家ではゴキブリを殺さないため、そこに住むゴキブリのナオミやイチローたちは安楽な日々を送っていた。一方、モモコさんの家のゴキブリたちは悲惨な毎日。モモコさんの家からサイトウさんの家に逃亡してきたゴキブリの青年・ハンスの話を聞いても、ナオミたちは人間を友と信じて疑わない。しかし、ふとしたことから人間たちによるゴキブリの大虐殺がはじまる。ナオミたちの運命を握る鍵は「ゴキブリ神話」のなかにあった。

〔解説〕ＣＦ界のベテラン吉田博昭の劇場第1作であり、実写とセルアニメの合成という手法をとっている。〝飽食の限りを尽くし、国際社会で孤立していく日本人〟をゴキブリになぞらえるのがテーマだが、ゴキブリの視聴覚を再現するため全編にわたって使用されたシュノーケルカメラや音響システム、ディフォルメされたセット。またアニメ部分ではスチール写真をセルと重ね合わせるなど、最新の技術や創意工夫が散見できる作品に仕上がっている。

製作／吉田博昭、多賀英典■プロデューサー／渡辺辰己、泉　眞躬■制作担当／植木英則■アニメーションスーパーバイザー／八巻　磐■脚本・監督／吉田博昭■絵コンテ／佐々木政明■キャラクター・デザイン／黒鉄ヒロシ■立体アニメーション／真賀里文子■立体アニメーション助手／野中和隆■美術／市田喜一■撮影／三隅研二、近藤寛政（Ｂカメ）■照明／内田正明■【アニメーション背景】撮影／海原修平　照明／原口　充■【アニメーションプロジェクト】プロデューサー／八巻　磐、丸山正雄　アニメーション監督／平田敏夫　作画監督・キャラクター設定／兼森義則　作画監督／鈴木欽一郎　美術／青木勝志、石川山子　撮影監督／八巻　磐■編集／遠藤誠司■オリジナル音楽／モーガン・フィッシャー■ＥＤ「ファンタジア」作詞／かの香織　作・編曲／モーガン・フィッシャー　歌／かの香織　キティ・レコード／ミュー・レーベル■音響／明田川進■録音／辻井一郎■効果／佐々木英世■（製作／ＴＹＯプロダクション、キティフィルム）■（出演）サイトウさん（小林　薫）　モモコ（烏丸せつこ）（渡辺えり子）（藤原加奈江）（子役）■声の出演　ナオミ（浅野温子）　イチロー（宮川一朗太）　ヤスオ（平田　満）　タカシ（塩屋浩三）　パセリ（貴倉良子）　教授（柳生　博）　トーラ（北林谷栄）　アロイズ（日下武史）　ハンス（古尾谷雅人）　ナオミの祖父（丹波哲郎）ほか

NO. 410 紫式部 源氏物語



87年12月19日（土）日本ヘラルド映画配給　1時間50分

【あらすじ】桐壺帝の第2皇子・光源氏は亡き母の面影を宿す女御・藤壺に思いを寄せる。やがて藤壺は懐妊し、2人は罪の意識におののいた。源氏の正妻・葵上も身ごもるが、それに嫉妬した六条御息所の生霊に憑（つ）かれ、息子・夕霧を残して死ぬ。藤壺は出家、御息所は伊勢へと去る。藤壺の生んだ東宮と源氏を恐れる右大臣家は、六の君と源氏の密会をもとに源氏の追放を企む。須磨に追放される前夜、紫上と契りを交わした源氏は、桜の幻影を見た。

【解説】原作の「夕顔」から「賢木（さかき）」（4～10巻）を中心に構成。主題である「もののあはれ」を、桜の古木に象徴してまとめられた。考証に沿いながらも大胆にアレンジされた美術、極端に表情を抑えて絵としての完成度を重視した人物、止め絵と動きとの落差をなくした作画、若手カメラマン高間賢治による桜の花びら、炎などの実写が合成された画面などが、前作「銀河鉄道の夜」に続いて、抽象的な世界観のなかで、死と無常を冷静にとらえている。

プロデューサー／原　正人、田代敦巳■アシスタントプロデューサー／藤田　健■制作担当／兼坂勝利■文芸制作／笹倉　透■脚本／筒井ともみ■監督、絵コンテ／杉井ギサブロー■監督補／はしもとなおと■助監督／小熊公晴、川人憲治郎■絵コンテ協力／小林　治■アニメーション監督／前田庸生■キャラクター原案／林　静一■作画監督・キャラクターデザイン／名倉靖博■作画監督助手／村田雅彦■原画／小原秀一、中島　薫、遊佐和重、千田幸也、飯田史雄、摩砂雪、江口摩吏介、前田　実、辻　伸一、貞本義行、重国勇二、川名久美子、前田真宏ほか■動画監督／猿山二郎■美術監督・衣裳色彩デザイン／馬郡美保子■設定デザイン／児玉喬夫■美術助手／本間　薫、渡辺由美、たかはしずう■背景／ジャックほか■色彩設定／福永雅子、横山圭子■コンピューターグラフィックス／野村誠司、沖山　健■源氏舞／清水寛二【銕仙会】■撮影監督／杉村重郎■編集／古川雅士■音楽／細野晴臣■音響監督／田代敦巳■録音／林　昌平■製作プロダクション／グループ・タック、ヘラルド・エース■製作／朝日新聞社、テレビ朝日、日本ヘラルド映画グループ■出演　光　源氏（風間杜夫）　御息所（梶　三和子）　葵の上（田島令子）　朧月夜（風吹ジュン）　夕顔（萩尾みどり）　紫の上（横山めぐみ）　桐壺帝（野沢那智）　北山の僧都（常田富士男【友情出演】）　藤壺（大原麗子【特別出演】）ほか

NO. 411 ルパン三世 風魔一族の陰謀



87年12月26日（土）東宝株式会社配給　1時間13分

〔あらすじ〕あの五右ヱ門が結婚する。相手は飛驒の工匠の旧家・黒縄家の跡継ぎで18歳の美少女・紫だ。ルパンや不二子、次元も駆けつけての結婚式に、武装した怪人たちが乱入した。彼らの名は風魔一族、400年間も黒縄家に伝わる財宝を狙ってきた盗賊集団だ。財宝のありかがしるされた家宝の壺はなんとか守ったものの、紫が風魔に誘拐されてしまった。紫を助けだし、財宝を手に入れるため、ルパンたちは活動を開始する。

〔解説〕劇場第4作。もとはオリジナルビデオとして企画された作品であり、カーチェイスなどアクションの比重が大きい娯楽編となっている。前シリーズのパロディ、幻想シーンでルパンの顔が過去のシリーズの顔に次々と変わるなど、遊びも多い。'77年のテレビ第2シリーズより不動だったキャスティングを一新、ファンの間で賛否両論となった。作監の友永和秀以下、テレコムのメンバーが中心となった作画は、密度の高いものだった。

原作／モンキー・パンチ■プロデューサー／竹内孝次■制作デスク／南部正昭■脚本／内藤　誠■監修／大塚康生■演出／大関雅幸■演出助手／難波桂子■演出補佐／富沢信雄■作画監督／友永和秀■原画／道籏義宣、八崎健二、石井邦幸、小野昌則、野口寛明、辻野芳輝、丸山晃一、桜井陽子、植田　均、宮崎なぎさ、増田敏彦、田中敦子、富沢恵子、矢野雄一郎、青山浩行、鷲田敏弥、滝口禎一、楠本祐子、森友典子、福島敦子■美術監督／小林七郎■背景／小林プロダクション、木村真二、形山　正、柴田聡、白石　誠、田中貞彦、大塚伸弘、松室　剛■色指定／山本智子■撮影監督／斉藤秋男■撮影／旭プロダクション、高橋秀子、伊藤修一、梅田俊之、奥井　敦、古林一太、酒井幸徳■編集／瀬山武司■音楽／宮浦　清■ＯＰ「セラヴィといわないで」作詞／有川正沙子　作曲／南　申午　編曲／矢野立美　歌／麻倉未稀（キングレコード株式会社）■録音監督／浦上靖夫■効果／フィズ・サウンド■録音／ＡＰＵスタジオ■製作／東宝株式会社、東京ムービー新社■声の出演　ルパン三世（古川登志夫）　次元大介（銀河万丈）　石川五右ヱ門（塩沢兼人）　峰不二子（小山茉美）　銭形警部（加藤精三）　紫（荘真由美）　馬場老人（宮内幸平）　ボス（広瀬正志）　風見（千葉　繁）　ガクシャ（中原　茂）　隊長（島香　裕）　警官Ａ（小出和明）　Ｂ（山寺宏一）　Ｃ（西村智博）ほか

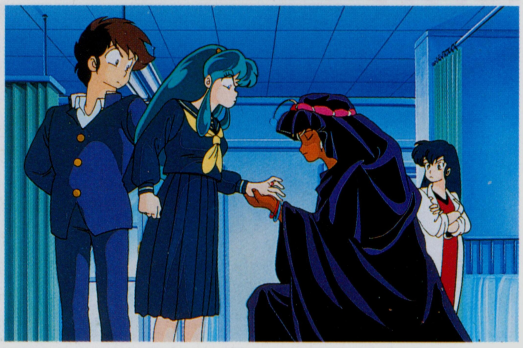
'88 昭和63年

「となりのトトロ」「火垂るの墓」「AKIRA」「機動戦士ガンダム　逆襲のシャア」と、大作が次々と公開されたこの年は、アニメ映画史の重要なポイントとなった年である。

「となりのトトロ」「火垂るの墓」は、一般を対象にした作品として公開され成功した。その一方で、アニメファンを対象にした「逆襲のシャア」は、〝ガンダムシリーズ〟の幅広い人気があって成功。若者の絶大な支持を得ていた漫画家大友克洋が監督をつとめた超大作「AKIRA」は〝映画〟としてさまざまな話題をさらい成功をおさめた。

1作目「宇宙戦艦ヤマト」の公開から10年以上が過ぎた。アニメファンの好みは細分化、特殊化されて、一部のテレビアニメやビデオアニメに向けられることが多くなった。かつてのように、多くのアニメファンに集中して支持された作品が、劇場公開という形で一般の人々を巻きこんでいくヒットのパターンはすでにない。アニメ映画はアニメファンの手から離れ、大人を含む一般観客が普通に劇場に見に行くものとなった。アニメブームが残した一番の大きなものは、アニメーション映画に社会的地位を与えたということなのだろう。

NO. 412 うる星やつら　完結篇



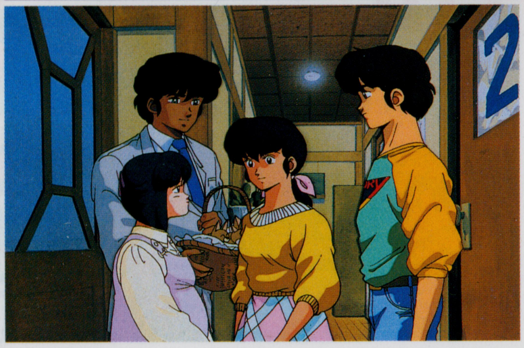
88年2月6日（土）東宝株式会社配給　1時間25分
併映作品／めぞん一刻　完結篇

【あらすじ】友引高校にブタ車で飛来した黒衣の男――それはラムの婚約者と名乗るルパであった。ルパはラムを闇の宇宙へと連れ去る。ランのUFOでラムのあとを追うあたるたち。あたるはルパの幼なじみカルラとともにラムとルパの結婚式に乗りこむが、意地を張り合うラムとあたる、カルラとルパの両カップルは、誤解の末にケンカ別れ。あたるたちは地球に戻るが、カルラの持ってきた闇の国のキノコがあっという間に大繁殖し、地球壊滅の時が迫る。

【解説】3代目「うる星やつら」監督の出崎哲と、彼が率いるマジックバスが、イベント用新作「夢の仕掛人、因幡くん登場」にひきつづき制作にあたった「うる星やつら」の劇場第5作。原作の最終話である「ボーイ・ミーツ・ガール」の、ほぼ忠実なアニメ化で、最初のタイトルも「うる星やつら5　ボーイ・ミーツ・ガール」だった。87年10月公開を目標に制作がスタートしたが、制作会社の変更もあって、88年2月公開となった。

原作／高橋留美子　（小学館／少年サンデーコミックス刊）■製作／多賀英典■企画／落合茂一■プロデューサー／松下洋子■アニメーション制作プロデューサー／松崎義之■構成協力／小出一巳、今泉俊昭■脚本／金春智子■監督／出崎　哲■演出／冨永恒雄■キャラクター・デザイン、絵コンテ／四分一節子■メカニック・デザイン、演出助手／前島健一■レイアウト監修／清水恵蔵■作画監督／小林ゆかり■原画／小林ゆかり、前島健一、小椋真由美、鈴木伸一、松田芳明、滝沢明美、中村あゆみ、鈴木浩美、神戸　環、関口重晴、角　弘光、工藤柾輝、西島克彦、石田敦子ほか■美術監督／新井寅雄■美術設定／新井寅雄、長澤順子■撮影監督／大地丙太郎■編集／尾形治敏、伊藤勇喜子、豊崎　治■音楽／大森敏之■ＥＤ「好き♡嫌い」詞／川村真澄　曲／都志美　隆　編曲／萩田光雄　歌／麻田華子　ビクター音楽産業■録音監督／斯波重治■制作協力／株式会社マジックバス■（株）キティ・フィルム作品■声の出演　ラム（平野　文）　あたる（古川登志夫）　面堂（神谷　明）　しのぶ（島津冴子）　テン（杉山佳寿子）　サクラ（鷲尾真知子）　チェリー（永井一郎）　おユキ（小原乃梨子）　弁天（三田ゆう子）　ラン（小宮和枝）　レイ（玄田哲章）　因幡（鈴置洋孝）　竜之介（田中真弓）　竜之介のおやじ（安西正弘）　ルパ（塩沢兼人）　カルラ（井上　瑤）　ウパ（北村弘一）ほか

NO.
413 めぞん一刻　完結篇

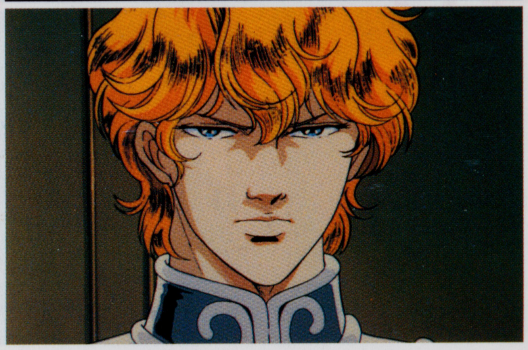


88年2月6日（土）東宝株式会社配給　1時間10分
併映作品／うる星やつら　完結篇

【あらすじ】五代と響子の結婚式を2日後に控え、一刻館は連日連夜の宴会騒ぎ。一の瀬花枝や四谷から、響子が誰かからの手紙を持っていると聞かされて、ちょっぴり不安になった五代。そこへ、教育実習のときの教え子・八神が訪ねてきた。五代が結婚することを知らない八神に、四谷たちはひと騒動を期待する。二階堂の言葉から事情を知った八神は大荒れ。郁子を連れて帰ってきた響子に最後の対決を迫る。屋根裏部屋で対峙するふたりだが……。
【解説】TVシリーズ終了1カ月前に公開された「完結篇」。結婚式の直前の一夜を描いたオリジナル・ストーリーである。舞台を一刻館の内部に限り、時間もたった一夜に限った異色の構成になっている。作監の森山ゆうじは、前作「オネアミスの翼」以後、絵柄が変わって、TVシリーズとも原作とも異なるリアルな響子をデザインした。なお、TVシリーズでは登場しなかった2号室の住人・二階堂も登場している。

原作／高橋留美子　（小学館／ビッグスピリッツコミックス刊）■製作／多賀英典■企画／落合茂一■プロデューサー／松下洋子■アニメーション制作プロデューサー／岡村雅裕■制作担当／佐々木和宏■脚本／島田　満、望月智充■脚本協力／原口正宏■監督／望月智充■キャラクターデザイン、作画監督／森山ゆうじ■原画／磯野　智、市川吉幸、井上敦子、いのまたむつみ、尾関和彦、窪岡俊之、久米一成、栗原玲子、後藤隆幸、児山昌弘、高木弘樹、高峰由恵、竹内一義、平石素子、平田智浩、福島喜晴、二村秀樹、村田俊治、有品柾子、山崎鏡子■美術監督／小倉宏昌■撮影監督／金子　仁■編集／森田編集室、森田清次、坂本雅紀、伊多波直子■音楽／森英治　サウンドトラック／キャニオンレコード、キティレコード■ＥＤ「硝子のキッス」作詞／松本　強　作曲／和泉常寛　編曲／萩田光雄　歌／姫乃樹リカ（キティレコード）■録音監督／斯波重治■制作協力／アニメーションスタジオ亜細亜堂■（株）キティ・フィルム作品■声の出演　響子（島本須美）　五代（二又一成）　四谷（千葉　繁）　一の瀬（青木和代）　朱美（三田ゆう子）　二階堂（堀川　亮）　八神（渕崎有里子）　三鷹（神谷　明）　明日菜（鶴ひろみ）　郁子（荘　真由美）　黒木（榊原良子）　部長（大竹　宏）　一の瀬氏（矢田　稔）　マスター（若本規夫）　坂本（古川登志夫）　響子の父（富田耕生）ほか

NO.
414 銀河英雄伝説
—わが征くは星の大海—



88年2月6日（土）東映クラシックフィルム配給　1時間
併映作品／最終教師

〔あらすじ〕はるかな未来、銀河系に進出した人類は、〝自由惑星同盟〟と〝銀河帝国〟に分かれて果てしない戦いを続けていた。帝国暦486年、弱冠19歳の銀河帝国軍大将ラインハルトの艦隊は、彼を嫌う元帥ミッケンベルガーの命によって第4次ティアマト会戦で無謀な前進を強いられた。卓抜した智略で危機を脱し、反撃に転ずるラインハルトをはばもうとするのは、同盟艦隊の准将ヤン・ウェンリー。それは、ふたりの英雄の劇的な出会いであった。
〔解説〕熱狂的なファンを持つ田中芳樹のベストセラー小説を、石黒昇監督、キティスタジオでアニメ化。全12巻の大河小説の、これは「外伝」の部分である。小説原作であるため登場人物が多く、アクションよりセリフがメインになりがちだが、首藤剛志脚本の巧さ、そして奥田万つ里の個性的なキャラの描き分けで、魅力的な人間ドラマになっている。パネルを使った宇宙戦の状況説明もわかりやすい。「ボレロ」ほかクラッシックを使ったBGMも印象に残る。

原作／田中芳樹　（徳間書店刊）■製作／山下辰巳、多賀英典■企画／和田　豊、尾形英夫、落合茂一■プロデューサー／田原正利、菅原善雄、菊川幸夫■出版プロデューサー／小島浩郎、鈴木敏夫■アニメーション制作プロデューサー／丸山正雄、岩瀬安輝■■脚本／首藤剛志■監督／石黒　昇■演出／さかいあきお■キャラクターデザイン／奥田万つ里■メカニックデザイン＆メカニルアートディレクション／加藤直之、スタジオぬえ■作画監督／奥田万つ里■メカニック作画監督／清積紀文■美術監督／金子英俊■仕上監督／工藤秀子■撮影監督／石川欽一■テクニカルスーパーバイザー／八巻　磐■編集／尾形治敏■音響監督／佐々木節夫■音楽プロデューサー／渡辺隆史■音楽／ドイツ・シャルプラッテンレコード、井上道義指揮　新日本フィルハーモニーオーケストラ■録音／山田　均（アオイスタジオ）■制作協力／マッドハウス、アートランド■制作／キティ　フィルム■ＣＡＳＴ　ラインハルト（堀川　亮）　ヤン（富山　敬）　キルヒアイス（広中雅志）　アッテンボロー（井上和彦）　ミッターマイヤー（森功至）　パエッタ（徳丸　完）　ロイエンタール（若本規夫）　ロボス（大木民夫）　ミュッケンベルガー（柴田秀勝）　グリーンヒル（政宗一成）　フレーゲル（二又一成）　ニルソン（大林隆介）　メックリンガー（戸谷公次）　ポプラン（古川登志夫）　ナレーション（屋良有作）ほか

NO.
415 最終教師



88年2月6日（土）東映クラシックフィルム配給　1時間
併映作品／銀河英雄伝説　ーわが征くは星の大海ー

【あらすじ】関東最悪の学校・帝王学園にやってきた最終教師・茶羽顔八。人間ばなれしたパワーで生徒をいたぶる彼こそ、3年前に遺伝子工学研究所を脱走したゴキブリ人間であった。総番長・白鳥雛子は顔八に戦いを挑むが、彼女は極度の冷え症で、ブルマーを脱ぐと倒れてしまうという弱点があった。ピンチに陥った雛子を救ったのは、元研究所員の狩魔無礼だった。彼は、自らをスパイダーマンに改造して顔八を追い続けていたのである。
【解説】山本貴嗣原作のマンガのアニメ化。監督、脚本（伊武紋太名義）、作画監督の芦田豊雄のカラーが全面に出た作品である。ギャグも原作の泥臭さより芦田流ナンセンスギャグになっており、キャラクターも、まんどりるくらぶ（スタジオライブ）の個性が強く出ている。主人公の茶羽顔八役の竹中直人を起用し、テーマソングに米米CLUBの「伽油」を使ったりと、随所に遊び心が見られる。五日市をモデルにした背景美術も印象的だ。

原作／山本貴嗣（アニメージュコミックス刊）■製作／岸　栄司、高橋　豊■企画／肥田光久■プロデューサー／風間康久、沢登昌樹、加藤長輝■脚本／伊武紋太■制作担当／阿部榮滋■監督／芦田豊雄■演出助手／小柴純弥■キャラクターデザイン／山本貴嗣＆まんどりるくらぶ■作画監督／芦田豊雄■原画／山内則康、藤沢俊幸、吉松孝博、江古田　豊、松下浩美、渡辺　浩、西島克彦■美術監督／石津節子■背景／石津節子、アトリエブーカ、三沢千代枝、たむらけいこ、千々波美恵子、吉村敏幸、岩佐　禎■撮影監督／安津畑　隆■撮影／スタジオキャバーン、高橋明彦、遠藤公祐ほか■編集／掛須編集室、掛須秀一、牧岡栄吾、石田　悟■音楽プロデューサー／長崎行男、深田悦之■音楽／大谷　幸■ＥＤ「加油（GAYU）」作詞、作曲／米米ＣＬＵＢ　編曲／Flash金子（ＣＢＳソニー）■演奏／DANG DANG BROTHERS BAND appears through the courtesy of VICTOR/INVITATION ■音楽エンジニア／松尾順三■音響監督／松浦典良■音響監督補／渡辺　淳■録音／大塚晴寿、小原吉男■制作協力／スタジオライブ■製作・著作／ムービック、ソニービデオソフトインターナショナル■製作／アニメイトフィルム、J.C.STAFF■キャスト　茶羽顔八（竹中直人）　白鳥雛子（笠原弘子）　狩魔無礼（屋良有作）　鈴木校長（永井一郎）　松組番長（飯塚昭三）　研究所長（若木規夫）　女子レスラー（伊藤美紀）ほか

NO.
416 聖闘士星矢
神々の熱き戦い



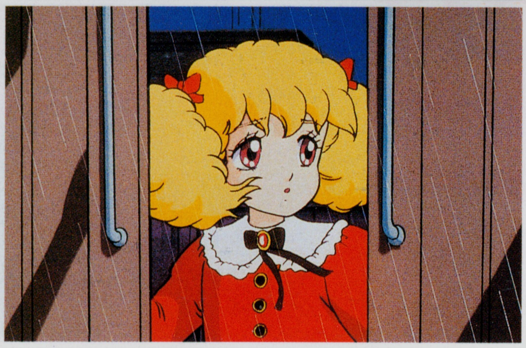
88年3月12日（土）東映系封切　46分
併映作品／レディレディ!!、ビックリマン　第一次聖魔大戦、仮面ライダーBLACK（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕東シベリア海で追われていた男を助けた氷河は、北欧の神の国アスガルドに異変が起こっていることを知らされた。氷河から連絡を受けた沙織、星矢、紫龍、瞬は、さっそくアスガルドへ向かうが、聖域をも手中にしようと企む教主ドルバルによって、沙織はオーディーンシールドへ封じこめられてしまう。アスガルドが誇る神闘士に苦戦する星矢たち。戦いのさなか、紫龍の前に現れたミッドガルドの神闘士は、なんと、あの氷河であった……。
〔解説〕「聖闘士星矢」劇場用第2作目。テレビシリーズ第2部に先駆けて「北欧編」が描かれたが、設定などが基本的に異なっている。レイアウト原画・荒木伸吾、原画姫野美智という荒木プロのシステムがとり入れられ、作画的には高水準の作品となった。森下孝三門下で着実に実力を伸ばし、テレビシリーズでも幾多の秀編を残してきた若手精鋭の山内重保が、初めて劇場作品の監督を担当。透過光などを駆使した大胆な画面処理で、星矢たちの戦いを華麗に描いた。

原作／車田正美　「週刊少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■企画／旗野義文、森下孝三■製作担当／武田　寛、松下健吉■脚本／小山高男■監督／山内重保■キャラクターデザイン／荒木伸吾、姫野美智■作画監督／荒木伸吾■レイアウト原画／荒木伸吾■原画／姫野美智■第二原画／木下和栄、茅野京子、中村かつや■動画チェッカー／高橋美智子■美術監督／窪田忠雄■美術助手／浅井和久■背景／山村浩二、橋本和幸、田尻健一、東辻　奏、高橋康子、大河内　稔、鹿野良行、橋本五月、峯村るみ子■検査／辻田邦夫■特殊効果／下川裕信■撮影監督／沖野雅英■編集／吉川泰弘■音楽／横山菁児■ＯＰ「ペガサス幻想」作詞／竜　真知子　作曲／松澤浩明、山田信夫　編曲／ＭＡＫＥ　ＵＰ　歌・演奏／ＭＡＫＥ　ＵＰ　（コロムビアレコード）■録音／波多野　勲■録音助手／川崎公敬■音響効果／今野康之■録音スタジオ／タバック■映（東映動画））■声の出演　星矢（古谷　徹）　紫龍（鈴置洋孝）　一輝（堀　秀行）　瞬（堀川　亮）氷河（橋本晃一）　沙織（潘　恵子）　ロキ（水島裕）　フレイ（難波圭一）　フレア（山野さと子）ウル（村山　明）　ルング（玄田哲章）　赤ひげの兵士（郷里大輔）　兵士（平野正人）　〃（小林通孝）　〃（掛川裕彦）　〃（佐藤浩之）　ドルバル（家弓家正）　スキャット（川島上養子）　協力／青二プロダクション

NO. **417**

レディレディ!!



88年3月12日（土）東映系封切　27分
併映作品／聖闘士星矢　神々の熱き戦い、ビックリマン　第一次聖魔大戦、仮面ライダーBLACK（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕 リンがイギリスへきて1年がたった。父・ジョージはこの間、ヴォーバン侯爵家の借金返済のために働いてきたが、失敗して債権者の娘であるモードリンとの婚約を、祖父・ヴォーバン侯爵から強制される。それは庶子のリンを、侯爵家の一員として認めてもらうための交換条件でもあった。婚約披露の直前にそれを知ったリンは、自分が全ての原因と思いこみ、ひとりで日本へ帰ろうと城を抜けだしてしまう……。『リンさえいなくなればいいんだわ!!』
〔解説〕 同名テレビシリーズの劇場用新作。シリーズより1年後という設定で、原作第1部のラストを、テレビに先駆けて映像化した。「レディレディ!!」と「ハロー！レディリン」の中間に位置する作品で、「ハロー！…」に登場するイザベル伯母も、この映画が初登場。OP・EDも完全新作で、OPの成長した乗馬服姿のリンが第2部以降の展開を暗示している。ED曲を歌った守谷香が町の少女役で出演。彼女はのちに「ハロー！…」の主題歌も歌っている。

原作／英　洋子　「ひとみ」（秋田書店）連載■製作総指揮／今田智憲■企画／横山和夫、関　弘美（後者はやや小さく表示）■製作担当／蕪木登喜司■脚本／馬嶋　満■監督／設楽　博■監督助手／吉村文宏■オープニング・エンディング演出／石田昌久■作画監督／越智一裕■原画／篠田　章、水村十司、青柳富士子、伊藤奈緒美、羽山淳一、今川よしみ、鈴木郁乃、直井正博（オープニング担当）■美術監督／沢田隆夫■背景／須田栄子、佐藤正行、玉利和彦、原　紀子、岸　じゅん子■撮影監督／佐藤劉郎■編集／片桐公一■音楽／田中公平■ＯＰ「ハロー・レディ」作詞／松本　隆　作曲／財津和夫　編曲／西平　彰　ＥＤ「風が呼ぶ予感」作詞／冬杜花代子　作曲／田中公平　編曲／戸塚　修　うた／守谷　香　うた／島田奈美　以上、（コロムビアレコード）■録音／立花康夫■音響効果／今野康之■選曲／宮下　滋■録音スタジオ／タバック
■声の出演　リン（室井深雪）　セーラ（本多知恵子）　美鈴（横沢啓子）　ジョージ（田中秀幸）　ウォーバン公（戸谷公次）　アーサー（堀川亮）　エドワード（菊地英博）　トマス（難波圭一）　メアリ（荘　真由美）　モードリン（増山江威子）　フローラ（守谷　香）　執事（屋良有作）　花屋（小林通孝）　召使い（上村典子）駅長（佐藤正治）　イザベル（山口奈々）　協力／青二プロダクション

NO. **418**

ビックリマン
第一次聖魔大戦



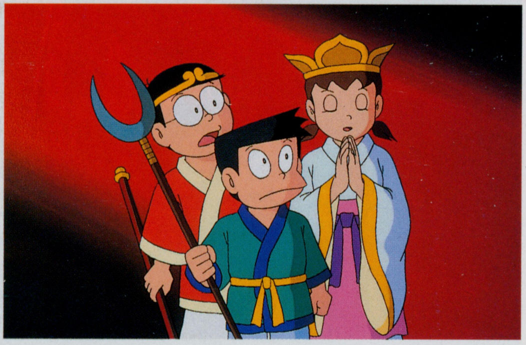
88年3月12日（土）東映系封切　30分
併映作品／聖闘士星矢　神々の熱き戦い、レディレディ!!、仮面ライダーBLACK（東映まんがまつり）

［あらすじ］ 遙かな昔、源層紀の世界。源層界を司る聖神は、シャーマンカーンに光の子・スーパーゼウスを、始祖ジュラには影の子・ブラックゼウスを与えた。この赤ン坊がひとつになったとき、表層界の発展につながるといわれた。だが、悪心を抱いた始祖ジュラは、ブラックゼウスを体内に取りこんで、そのパワーを手に入れてしまった。世は乱れ、表層界は天使の住む天聖界と、悪魔の住む天魔界に分裂してしまった。それが、すべての戦いのはじまりだった。
［解説］ テレビシリーズ「ビックリマン」の劇場第1作。過去の世界にタイムスリップしたヤマト王子の目を通して、ビックリマンワールドの創世期と、若き日のスーパーゼウスが活躍する〝第1次聖魔大戦〟を描いている。複雑な世界観をもつこのシリーズで、それまで描かれていなかった歴史の部分が描かれた。かつてグループえびせんで自主製作作品を発表し、シリーズでも活躍していた角銅博之の劇場デビュー作である。

原案／反後四郎　連載・小学館　幼稚園・学習幼稚園、てれびくん■製作総指揮／今田智憲■企画／山口康男■製作担当／横井三郎■脚本／富田祐弘■監督／角銅博之■演出助手／土居　靖■作画監督／青山　充■原画／尾鷲英俊、二宮常雄、宮川喜代美、川口明弘、正延宏三、小幡公春、河野宏之、渡辺章、飯田浩司■美術監督／浦田又治■背景／襟立智子、上田三輪子、谷口淳一、今野良子、塚越幸江、行　信三、塩崎広光、佐藤美幸、吉池隆司、沢田由紀■撮影監督／池上元秋■撮影／前原勝則、大藤哲生、黒田洋一、野口博志、難波充子、鈴木克次、鈴木典子、佐伯　清、池谷和美、伊藤　寛、杉山知子、池上伸治■編集／望月　徹■音楽／有澤孝紀■ＯＰ「ドリーミング・A・GO－GO」ＥＤ「スーパー・ウォーズ」以上、作詞／吉元由美　作曲／タケカワユキヒデ　編曲／ＫＡＺＺ　ＴＯＹＡＭＡ　うた／小橋二郎、織田純一郎、Ａｍｍｙ（コロムビアレコード）■録音／池上信照■声の出演　ヤマト王子（鈴木富子）　十字架天使（金丸日向子）　天子男ジャック（山本圭子）　聖神ナディア（大竹　宏、阿部道子）　シャーマンカーン（永井一郎）　スーパーゼウス（八奈見乗児）始祖ジュラ（徳丸　完）　気象の助（松井摩味）　助剣（小林通孝）　たつ魔鬼（岸野一彦）　高気圧帝（田中康郎）　制空キング（坂　脩）　墓魔（掛川裕彦）ほか　協力／青二プロ

NO. **419**

ドラえもん
のび太のパラレル西遊記



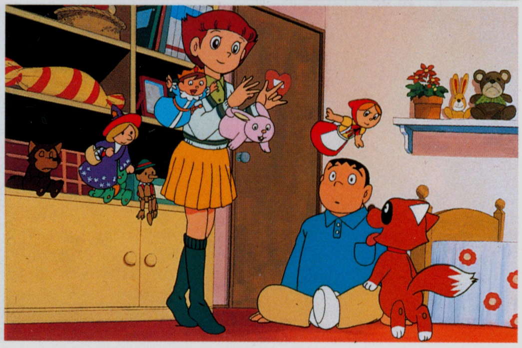
88年3月12日（土）東宝系封切
併映作品／エスパー魔美　夜空のダンシングドール、ウルトラＢ　ブラックホールからの独裁者Ｂ・Ｂ

〔あらすじ〕 孫悟空の実在を信じるのび太は、タイムマシンで唐の時代のシルクロードへ行き、のび太そっくりの孫悟空を目撃する。今度はドラえもんやジャイアンたちも連れていくが、三蔵法師の一行を発見したものの、悟空はいない。ドラえもんはしかたなく、〝ヒーローマシン〟の「西遊記」のソフトで、のび太を悟空に変身させるが、すぐに正体がバレてしまう。そして彼らが現在に戻ってみると、なぜかそこは妖怪が支配する世界にかわっていたのだ。
〔解説〕 〝長編ドラえもん〟の第9作。藤子不二雄コンビ解消のため、この3本立てから原作者のクレジットがＦとＡに別かれている。また本作は、藤子不二雄Ｆが病気のために原作の連載ができず、〝長編ドラえもん〟としては初のアニメオリジナルのストーリーとなった。脚本はテレビシリーズのチーフディレクターだった、もとひら了が担当した。自然保護キャンペーンのタイトルは〝ドラえもん夢気球まつり〟、入場者プレゼントは〝ドラえもんホログラム〟。

原作／藤子不二雄Ｆ　連載／小学館の学習雑誌　マミイ、ベビーブック、めばえ、よいこ、幼稚園、学習幼稚園、てれびくん、コロコロコミック、別冊コロコロコミックほか■プロデューサー／別紙壮一、小泉美明、波多野正美■脚本／もとひら了■監修／楠部大吉郎■監督／芝山　努■レイアウト／本多敏行■作画監督／富永貞義■作画監督補佐／大塚正実■原画／池ノ谷安夫、大塚正実、伊藤治美、村山純一、木村陽子、若松孝思、須田裕美子、重国勇二、飯口悦子、若山佳治、森島　格、徳田益男、徳田幸子ほか■美術設定／工藤剛一■美術監督／高野正道■撮影監督／熊谷正弘■編集／井上和夫、渡瀬祐子■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「ドラえもんのうた」作詞／楠部　工　作曲／菊池俊輔　唄／大杉久美子　ＥＤ「君がいるから」作詞／武田鉄矢　作曲／山木康世　編曲／都留教博　唄／堀江美都子、こおろぎ'73　以上、コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫、大熊　昭■制作協力／藤子プロ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　ドラえもん（大山のぶ代）　のび太（小原乃梨子）　しずか（野村道子）　ジャイアン（たてかべ和也）　スネ夫（肝付兼太）　パパ（加藤正之）　ママ（千々松幸子）　出来杉（白川澄子）　先生（田中亮一）　モトヒラ（難波圭一）　三蔵法師（池田　勝）　リンレイ（水谷優子）　牛魔王（柴田秀勝）　羅刹女（栗　葉子）　ドラミ（横沢啓子）ほか

NO. **420**

エスパー魔美
夜空のダンシングドール



88年3月12日（土）東宝系封切
併映作品／ドラえもん　のび太のパラレル西遊記、ウルトラＢ　ブラックホールからの独裁者Ｂ・Ｂ

【あらすじ】 とある保育園で、魔美は人手不足の人形劇団・こけし座の公演を手伝うことになった。夢中になっている子供たちを見て、魔美は人形劇のすばらしさを知る。翌日、高畑と散歩していた魔美は、人形としか話をしない少女めぐみと出会う。こけし座の座長英樹、団員の朋子と協力して、魔美は人形劇によってめぐみの心を開くのに成功した。だがそのころ、こけし座の練習場は立ち退きを迫られ、こけし座自体も解散の危機に瀕していたのだ。
【解説】 TVシリーズとほぼ同じスタッフによって作られた「エスパー魔美」の劇場版。原作のエピソード「人形が泣いた？」がもとになっており、オリジナルキャラクターの英樹を中心にストーリーがふくらまされている。トミプロの若手作画監督堤規至によって、キャラクターがTVシリーズよりもやや大人っぽくなっているし、オープニングで魔美のコスチュームが次々にかわるシーンの原画も堤が担当した。

原作／藤子不二雄Ｆ　連載／小学館の学習雑誌、てれびくん、コロコロコミック、別冊コロコロコミック■プロデューサー／別紙荘一、小泉美明、木村純一■制作担当／茂木仁史■制作デスク／山川順一■文芸／桶谷　顕■脚本／富田祐弘■監督／原　恵一■作画監督／堤　規至■原画／高倉佳彦、林　静香、市川　修、なかじまちゅうじ、畑　良子、上杉遵史、高橋邦仁、加藤　茂、石黒　育、坪川　正、木村陽子、若松孝志■美術監督／古谷　彰■背景／スタジオユニ、本多美紀、海老沢登代、古谷きよみ、古宮陽子、高尾克己、今村恵子、川名俊英、渡辺佳人■撮影監督／斎藤秋男■編集／岡安　肇、小島俊彦、村井秀明、中葉由美子、川崎晃洋■音楽／田中公平■ＯＰ「不思議Angel」ＥＤ「テレポーテーション」以上、作詞／松本一起　作・編曲／奥　慶一　唄／橋本　潮　コロムビアレコード■録音監督／浦上靖夫、大熊　昭■制作協力／藤子プロ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、テレビ朝日■声の出演　魔美（横沢啓子）　パパ（増岡　弘）　ママ（榊原良子）　高畑（柴本広之）　コンポコ（小粥よう子）　小林勇造（穂積隆信）　めぐみ（小山茉美）　静（中村紀子子）　久保英樹（大塚芳忠）　水谷朋子（荘真由美）　大森良夫（中原　茂）　真田真誠一（桜井敏治）　利加（江森浩子）　男Ａ（山寺宏一）　男Ｂ（茶　風　林）　作業員（小出和明）　浄瑠璃（阪　脩）ほか

NO. 421 ウルトラB ブラックホールからの独裁者B・B



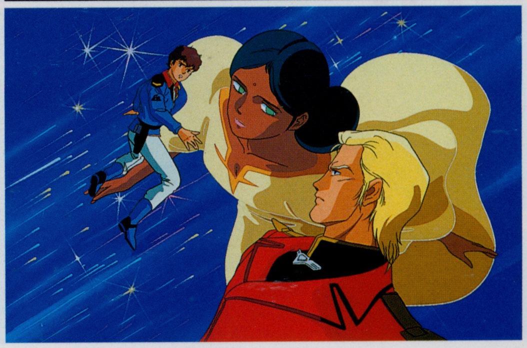
88年3月12日（土）東宝系封切
併映作品／ドラえもん　のび太のパラレル西遊記、エスパー魔美　夜空のダンシングドール

【あらすじ】 宇宙から、超能力を持つブラックベビーBBがやってきた。BBはウルトラBと手を結んで地球征服をしようと企むが、ウルトラBは協力を拒む。怒ったBBはキリコちゃんを誘拐し、さらにテレビを通じて流した怪念波で地球の赤ん坊を操って、赤ちゃん軍団を組織する。ウルトラBは、仲間のスーパーベビー・ジゾウや宇宙の怪鳥マッスルバードとともにキリコちゃん救出に向かうが、BBの超能力の前に苦戦。だがBBにも弱点があった。

【解説】 恒例となった立体アニメは、２年続いた「オバケのＱ太郎」にかわって「ウルトラＢ」が登場した。小学館、テレビ朝日、シンエイの製作で続いてきた劇場版藤子アニメに、９年目にして初めて中央公論社が参入し、映画用の原作は「藤子不二雄ランド」の巻末にかき下しで連載された。藤子不二雄のコンビ解消に伴って、「藤子Ⓐ」とクレジットされた最初の作品でもある。劇場で配られる立体メガネはウルトラＢのサングラスの形をしていた。

原作／藤子不二雄Ａ■プロデューサー／加藤良雄、小泉美明、波多野正美■制作担当／田中　敦■制作デスク／小倉久美■脚本／桜井正明■総監督／笹川ひろし■監督／原田益次■作画監督／森下圭介■美術監督／天水　勝■立体技術監督／当間章雄■撮影監督／三沢勝治■編集／岡安　肇■音楽／菊池俊輔■主題歌「ウルトラＢにチュッ！」作詞／高田ひろお　作・編曲／菊池俊輔　うた／ぶんけかな、こおろぎ'73■録音監督／山田悦司■効果／柏原　満■制作協力／藤子スタジオ、旭通信社■制作／シンエイ動画、小学館、中央公論社、テレビ朝日■配給／東宝■声の出演　ＵＢ（三田ゆう子）　ミチオ（川島千代子）　ママ（野沢雅子）　パパ（肝付兼太）　トサカ（千葉　繁）　ダイブツ（亀山助清）　タケミ（松井菜桜子）　※本リストは、映画公開時のパンフレットをもとに作成した。

NO. 422 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア



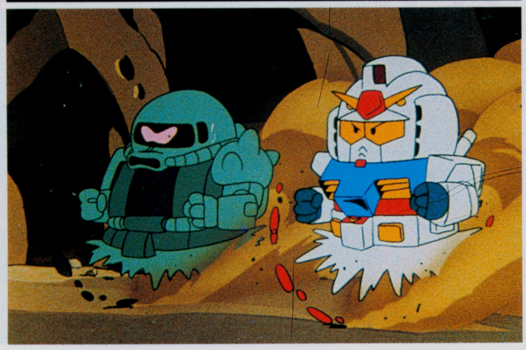
88年3月12日（土）松竹系封切　２時間
併映作品／機動戦士SDガンダム

〔あらすじ〕 宇宙世紀00??年。ネオ・ジオン軍の総帥となったシャア・アズナブルは、〝隕石落とし〟による地球人類の粛清をはかった。地球連邦軍ロンド・ベル隊隊長ブライト・ノアとアムロ・レイは陰謀を阻止しようとするが、敵勢力の前に苦戦を強いられる。シャアにひかれアムロのもとを去ったニュータイプの少女クェス、アムロの協力者チェーンなど、数々の命と想いが再び戦場に散っていくなか、μガンダムを得たアムロとシャアの最後の決戦がはじまる。

〔解説〕 ガンダムシリーズの４作目。実は富野由悠季が初めて手がけた劇場用オリジナル作品でもある。内容としては、ニュータイプの発生、脱落、成熟を語った前３作の次の段階として、シャアとアムロのニュータイプ同士の対決が描かれているが、そこの新しい世代の物語も並行して描かれているため、視点の置き方によって評価がさまざまに変化している。しかし、作画レベルなどで多少問題があるにせよ、富野監督の健在ぶりを示した作品といえよう。

原作・脚本・監督／富野由悠季■企画／山浦栄二■製作／伊藤昌典■プロデューサー／内田健二■制作デスク／高森宏治■設定制作／宮田周治■演出補／川瀬敏文、高松信司■キャラクターデザイン／北爪宏幸■モビルスーツデザイン／出渕　裕■メカニカルデザイン／ガイナックス、佐山善則■デザイン協力／大畑晃一■作画監督／稲野義信、北爪宏幸、南伸一郎、山田きさらか、大森英敏、小田川幹雄、仙波隆綱■美術監督／池田繁美■撮影監督／古林一太、奥井　敦■編集／布施由美子（井上編集室）■音楽／三枝成章■ＥＤ「BEYOND　THE　TIME～メビウスの宇宙（そら）を越えて～」作詞／小室みつ子　作・編曲／小室哲哉　歌／ＴＭ　Network　レコード／ＥＰＩＣ・ソニー■音響監督／藤野貞義■効果／横山正和、小野弘典■出版協力／角川文庫■製作協力／松竹、創通エージェンシー、名古屋テレビ放送、バンダイ■企画・製作／サンライズ■声の出演　アムロ・レイ（古谷　徹）　シャア・アズナブル（池田秀一）　ブライトノア（鈴置洋孝）　ナナイミゲル（榊原良子）．ミライヤシマ（白石冬美）　クェスパラヤ（川村万梨阿）　チェーンアギ（弥生みつき）　ハザウェイノア（佐々木　望）　ギュネイガス（山寺宏一）　レズンシュナイダー（伊倉一恵）　ケーラスゥ（安達　忍）　ララァスン（◉　恵子）　アデナウアーパラヤ（嶋　俊介）　カムランブルーム（村山　明）ほか

NO. 423 機動戦士SDガンダム



88年3月12日（土）松竹系封切
併映作品／機動戦士ガンダム　逆襲のシャア

［あらすじ］
第１部『激闘編ガンダム大地に立てるか？』――サイド７で日光浴をしているガンダムに、ジオン軍のザクが奇襲をかける。ドム、ズサ、ビグ・ザムなどのＳＤモビル・スーツとガンダムの戦いは果てしなく続く。第２部『休日編ジオン・ホテルの脅威？』ガンダム・ペンション破壊命令!!――アムロ、カミーユ、ジュドーは、それぞれ元祖、本家、正統ガンダム・ペンションを経営。丘の上のシャア経営のジオン・ホテルと客のとりあいを繰り広げる。

［解説］ ＳＤとはスモール・デフォルメの略。玩具店などの店頭に置く自販機用のケシゴムおもちゃ、いわゆるガチャポン用にデザインされた「機動戦士ガンダム」シリーズのモビルスーツや、佐藤元によりデフォルメされたキャラたちが、有名なシーンのパロディやドタバタドラマを演じた。ビデオ用に全３部が制作されたが、劇場公開されたのはそのうちの第１部と第２部。「逆襲のシャア」の併映として、劇場ごとにどちらか１本が上映された。

企画・製作／サンライズ■企画担当／柴崎　誠■制作／宮坂光一郎■プロデューサー／中川宏徳■制作担当／杉田　敦■設定制作／中山　昇■脚本／星山博之■演出／関田　修■キャラクターデザイン、メカニカルデザイン、作画監修／佐藤　元■作画監督／渡辺　浩、松下浩美■原画／近永健一、藤沢俊幸、相田和彦、吉松孝博、■美術／宮前光春■背景／本田　修、佐藤和寛、平川信之、福富純二、杉浦正太郎、今村立夫■撮影／奥井　敦■編集／鶴渕映画■音楽／山中紀昌■音楽制作／ミュージックイン■音響／千葉耕市■音響制作／千田啓子■録音／ニュージャパンスタジオ■制作協力／エムアイ■製作協力／バンダイ■製作・著作／サンライズ■キャスト　シャア（池田秀一）　アムロ（古谷　徹）　カミーユ（飛田展男）　ジュドー（矢尾一樹）　ブライト（鈴置洋孝）　ミライ（白石冬美）　ガルマ（森　功至）　ララァ（潘　恵子）　セイラ（井上　瑤）　マチルダ（戸田恵子）　カイ（古川登志夫）　ゲモン（玄田哲章）　フォウ（島津冴子）　テム（清川元夢）　フラウ（鵜飼るみ子）　ドズル（郷里大輔）　ハマーン（榊原良子）　ウッディ（岡部正明き）　パラス・アテネ（勝生真沙子）　ファ（松岡ミユキ）　ランバラル（広瀬正志）　エルピープル（本多知恵子）　リィナ（岡本麻弥）　シロッコ（島田　敏）　ナレーター（永井一郎）ほか　※当データは、ビデオ版のタイトルをもとに作成した。

NO. 424 となりのトトロ



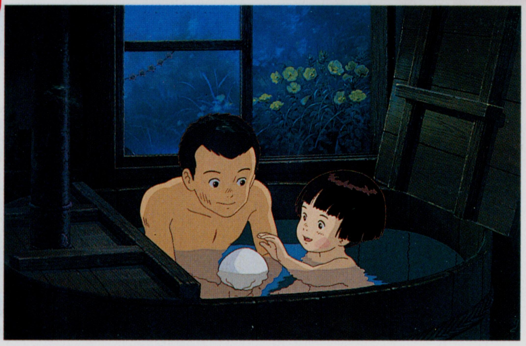
88年4月16日（土）東宝系封切　１時間26分
併映作品／火垂るの墓

〔あらすじ〕 サツキとメイの姉妹は、長期入院している母親をむかえるために緑したたる郊外のボロ家に引っ越してくる。サツキは小学校、考古学者の父親も自宅で原稿書き。ひとり遊びをするメイは、毛むくじゃらでヒゲが生え、大きな口をした巨大な生き物に出会う。トトロと名づけたメイは、その腹の上で寝てしまう。気がつけば森の中……、父もサツキも信じてくれない。そんなある日、父の帰りを待つバス停は、日も暮れて暗闇。そこにまた不気味な足音が……。

〔解説〕 昭和30年代の関東近郊の農村を舞台に、幼い姉妹と森に住むモノノケたちとの交流を描いた宮崎駿の手によるファンタジー映画。広い世代に支持されている作品である。日常生活と自然描写のディテールを徹底的に追求。特に美術では、それまで都会的イメージの創出で注目されていた男鹿和雄が、質感や時間の推移による光線の変化などを見事に描いた。この映画の宣伝コピー「忘れものを、届けにきました」を作った糸井重里が父親役を好演した。

原作・脚本・監督／宮崎　駿■製作／徳間康快■企画／山下辰巳、尾形英夫■プロデューサー／原徹■制作担当／田中栄子■制作デスク／木原浩勝、川端俊之■演出助手／遠藤徹哉■作画／佐藤好春■原画／丹内　司、大塚伸治、篠原征子、遠藤正明、河口俊夫、田中　誠、金田伊功、近藤勝也、二木真希子、山川浩臣、田川英子■原画協力／マッドハウス、新川信正、岡村　豊、工藤正明■動画チェック／立木康子、舘野仁美■美術／男鹿和雄■背景／松岡　聡、野崎俊郎、太田清美、吉崎正樹、武重洋二、菅原紀代子ほか■色指定／水田信子■仕上／保田道世ほか■仕上検査／本橋政江ほか■撮影／白井久男ほか■編集／瀬山武司■音楽／久石　譲■ＯＰ「さんぽ」作詞／中川李枝子　作曲、編曲／久石　譲　歌／井上あずみ、杉並児童合唱団　ＥＤ「となりのトトロ」作詞／宮崎　駿　作・編曲／久石　譲　歌唱／井上あずみ■録音演出／斯波重治■調整／井上秀司■効果／佐藤一俊■協力／株式会社博報堂■協力／徳間書店アニメージュ編集部■制作／スタジオジブリ■徳間書店作品　1988■声の出演　サツキ（日高のり子）メイ（坂本千夏）　おとうさん（糸井重里）　おかあさん（島本須美）　ばあちゃん（北林谷栄）　大トトロ（高木　均）　カンタの母親（丸山裕子）　小学校の先生（鷲尾真知子）　本家のばあさま（鈴木れい子）　カンタの父親（広瀬正志）　カンタ（雨笠利幸）ほか

NO. 425 火垂るの墓



88年4月16日（土）東宝系封切　1時間25分
併映作品／となりのトトロ

〔あらすじ〕太平洋戦争末期、B29の爆撃により家を焼かれて母を失った清太と節子の兄妹は、おばさんの家に引き取られる。やがて、生活上のささいなことが積み重なって、清太は兄妹ふたりだけで暮らせる池のほとりの横穴へ引っ越す。つかの間、幸せな時をすごすが、食糧がひっぱくしてくる。思いあまって清太は畑や、空襲で避難しガラ空きの家に忍びこむ。それでも十分な食べ物は得られず、節子は日に日にやせおとろえていく。
〔解説〕直木賞受賞の、野坂昭如の同名小説の映画化。否応なく人間性を奪う戦争という過酷な状況のなかで、兄妹といいながら、ふたりの男女の道行きにも似た純なレクイエムである。これを高畑監督は、これまでのリアリズム描写をさらに一歩進め、いっさいのマンガ的デフォルメーションを排し、目撃者の非情な眼線で描いて、観客を、過酷な状況に立ち往生する兄妹に立ち合わせている。出版界の老舗・新潮社初の映画製作としても話題になった。

原作／野坂昭如（新潮文庫版）■企画　製作／佐藤亮一■プロデューサー／原　徹■制作担当／上田真一郎■制作デスク／押切直之■脚本　監督／高畑勲■演出助手／須藤典彦■キャラクターデザイン、作画監督／近藤喜文■レイアウト、作監補佐／百瀬義行■作監助手／保田夏代■原画／石井邦幸、羽根章悦、森友典子、大谷敦子、河内日出夫、奥山玲子、山内昇寿郎、高野　登、木上益治、高坂希太郎、岡田敏靖、桜井美知代、酒井明雄、石黒　育、小川博司、賀川　愛、梅津泰臣、庵野秀明、才田俊次、大関紀子■美術監督／山本二三■美術助手／久村佳津■背景／小関睦夫、平田秀一、菱山　徹、樋口法子、田村盛揮、金箱良成、中座洋次、橋爪ふきこ、須藤栄子、平川栄治、伊奈淳子■撮影監督／小山信夫■■編集／瀬山武司■音楽／間宮芳生■音楽制作／株式会社徳間ジャパン■挿入歌「はにゅうの宿」（歌／アメリータ・ガリ＝クルチ）〝Home, Sweet Home〟（詩）／Sir.H.R.Bishop performed by Amelita Galli-Curci courtesy of RCA Victor Red Seal, a division of BMG Classics（日本盤発売元　BMGビクター株式会社）■音響監督／浦上靖夫■制作／スタジオジブリ■（製作／新潮社）■声の出演　清太（辰己　努）　節子（白石綾乃）　母（志乃原良子）　未亡人（山口朱美）　（端田宏三）（酒井雅代）（野崎佳積）（松岡与志雄）（金竹雅浩）ほか

NO. 426 エースをねらえ！2



88年7月9日（土）松竹シネサロン公開　1時間30分
併映作品／現世守護神ぴーひょろ一家

【あらすじ】女子高校テニス界を制した岡ひろみは、協会の海外遠征メンバーに選ばれる。お蝶夫人こと竜崎麗華らとともに遠征へ向けて強化練習に励むひろみだが、ここまで自分を育ててくれた宗方仁コーチが倒れ動揺する。自分の死期が近いと感じた仁は、親友桂大悟にひろみを託す。「きっとあとから行く」という仁の言葉を信じ、遠征に出発するひろみ。しかし、仁は「岡、エースをねらえ」と書いた日記を残し、妹の蘭子に見守られて息をひきとった。
【解説】「ゴルゴ13」以後、約5年近く海外との合作が中心で、国内作品から離れていた出崎統が、総監修という立場で3度目の「エース」映像化に挑んだ。2度のTVシリーズと出崎監督による映画化でも描かれなかった宗方の死以降を、はじめて映像化。もともと13話、全6巻構成のビデオシリーズとして製作されたが、その1～4話と6話の冒頭を編集したものが劇場公開された。なお、エンディングのテロップは、シリーズの1話のものが流用された。

原作／山本鈴美香　（集英社刊）■プロデューサー／鵜之沢　伸、高橋　豊、本村真章、青野史郎■制作担当／浅沼　誠■制作デスク／岩田幹宏■文芸担当／小野田博之■脚本／三上牧子■総監修／出崎統■チーフディレクター／古瀬　登■演出／篠原俊哉■絵コンテ／さきまくら■キャラクターデザイン、作画監督／杉野昭夫■原画／佐々木　守、山本泰一郎、村上育代、戸沢　稔、内田　裕、佐々木恵子、安藤真裕、寺司重幸、土屋賢一、横山広実■動画チェック／高橋伸行■美術監督／石垣　努■背景／広瀬義憲、高橋健一、光元博行、根本　薫■撮影監督／高橋宏固■撮影／小林武男、坂田美保、松嵜泰三、野口　肇、白神孝治、斎藤善昭■編集／鶴渕允寿、高橋和子■音楽／芹澤廣明■OP「エンドレスドリーム」ED「遠くから見ていて」以上、作詞／竜　真知子　作曲／芹澤廣明　歌／森口博子　（キングレコード）■録音／東北新社　監督／山田悦司　技術／梅林一夫　効果／倉橋静男　選曲／東上別府精■制作協力／あんなぷる■制作協力／ムービック、鎌倉スーパーステーション■製作／バンダイ、東京ムービー新社■声の出演　岡　ひろみ（水谷優子）　宗方　仁（野沢那智）　桂　大悟（玄田哲章）　藤堂貴之（井上和彦）　尾崎　勇（梅津秀行）　千葉鷹志（堀内賢雄）　竜崎麗香（榊原良子）　緑川蘭子（山田栄子）　愛川マキ（菅谷政子）　竜崎理事長（藤本　譲）　宗方の祖母（杉山佳恵子）ほか

NO. 427 現世守護神 ぴーひょろ一家

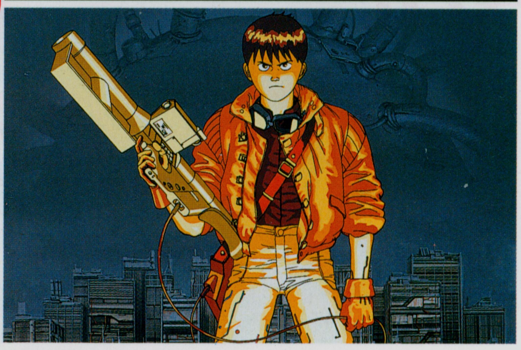


88年7月9日（土）松竹シネサロン公開
併映作品／エースをねらえ！2

〔あらすじ〕強太、きばっ太、Q太、キョン太は、この世に転生した現世守護神のかりそめの姿。陰ながら彼らを見守る中有郷からの使者ヨギとともに、現世に仇なす悪霊鬼霊を退治している。聖和城中学の理事から浄霊依頼を受けた強太らは、さっそく調査を開始し、自殺しようとした少女舞子を救う。校舎に漂う強い霊気を感じた強太らは、キョン太を生徒として送りこんで地元の人間に土地の由来をたずね、学校の敷地に、かつて火葬場があったことを知る。
〔解説〕少女向けコミック誌プリンセスに連載中の原作を、通信販売向けのオリジナル・ビデオ・アニメ化したもの。「エースをねらえ！2」とともに劇場公開され、初日には本作品の監督出崎哲と「エース2」の総監修出崎統の兄弟が舞台挨拶をした。ビデオはシリーズ化されているが、映画として公開されたのは、そのうちの第1話のみである。もともと原作の読者を対象に作られているため、説明不足の感がする作品となった。

原作／姫木薫理　秋田書店刊「プリンセス」連載中プリンセスコミックス■プロデューサー／木村眞章、神永悦也、末吉博彦、肥田光久、高橋　豊、尾崎穏通■制作デスク／吉田力雄、森井俊行■脚本／小出一巳、近藤真智子■監督／出崎　哲■演出／冨永恒雄■絵コンテ／四分一節子■オープニング、エンディング／前島健一■キャラクター・デザイン、作画監修／杉野昭夫、四分一節子■作画監督／小林ゆかり■原画／前島健一、鷲尾千広、瀬尾康博、吉野真一、高橋英樹、池田裕治、鈴木浩美、平尾昌子、吉岡健二、別所誠人■美術監督／小板橋加代子■美術設定／小板橋加代子、市原洋子、谷村心一■撮影監督／長谷川　肇、寺下守行■編集／尾形治敏■音楽プロデュース／早川治久　（ミュージック・イン）■音楽／山中紀昌■OP「現世守護神ぴーひょろ一家」詩／姫木薫理　曲／山中紀昌　歌／山中紀昌■音響監督／山田悦司■制作協力／マジック・バス■制作／鎌倉スーパーステーション、東京ムービー新社■製作／秋田書店、バンダイ、CBSソニーグループ、ムービック■声の出演　強太（矢尾一樹）　きばっ太（戸田恵子）　Q太（中原　茂）　キョン太（鈴木みえ）　ヨギ（島本須美）　リージャ（塩沢兼人）　美夢（冨永みーな）　龍念和尚（藤本　譲）（佐久間レイ）（川村万梨阿）（坂本千夏）（巴　菁子）（佐々尾　幸）（小野健一）　ナレーション（大塚芳忠）

NO. 428 AKIRA

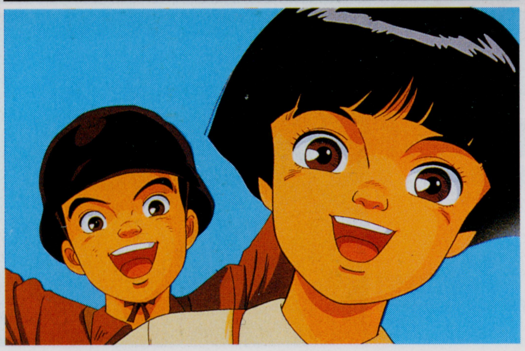


88年7月16日（土）東宝東和配給　東宝洋画系封切　1時間40分

〔あらすじ〕2019年、第3次世界大戦から31年後のネオ東京。金田をリーダーとするバイク仲間のひとり鉄雄は、軍のラボから反体制グループが連れだした実験体26号と出会い、軍に拉致される。軍は、かつて東京壊滅の原因となった〈アキラ〉の研究を行っていた。ラボの実験により鉄雄の屈折した悪の超能力が発動。彼はまた〈アキラ〉覚醒の引き金でもあった。一方、反体制グループのケイを助けた金田は、鉄雄救出のため彼女らとともにラボへ侵入する。
〔解説〕その独創的な作風で、マンガ界に革命を起こした鬼才・大友克洋が、自らの原作を脚色・監督した初の長編アニメ。膨大な原作から、鉄雄と金田の関係にドラマをしぼって成功した。退廃と活気が交錯するネオ東京のサイバーパンク感覚、壮大なスケールの破壊がもたらすカタルシスなど、大友ならではの刺激的な映像が続出した。講談社ほか8社合同による制作体制、10億円の製作費、セル画枚数15万枚という製作規模等、いろいろな話題をよんだ大作。

原作／大友克洋　原作連載／ヤングマガジン（講談社刊）■プロデューサー／鈴木良平、加藤俊三■制作担当／角田　研、池田陽一、横溝隆久■脚本／大友克洋、橋本以蔵■監督／大友克洋■作画監督／なかむらたかし■作画監督補／森本晃司■原画／福島敦子、井上俊之、大久保富彦、木上益治、沖浦啓之、坂巻貞彦、平山　智、牟田清司、うつのみやさとる、竹内一義、江村豊秋、須藤昌朋、鈴木信一、植田均、富田　邦、知吹愛弓、佐藤千春、瀬尾康博、時矢義則、二村秀樹、鍋島　修、北久保弘之、漆原智志、梅津泰臣、金田伊功、松原京子、大塚伸治、二木真希子ほか■美術監督／水谷利春■美術／海老沢一男、池畑祐治、大野広司■撮影監督／三澤勝治■編集／瀬山武司■音楽監督／山城祥二■音楽　作曲・指揮／山城祥二　演奏／芸能山城組　音楽ディレクター／村木敬史、佐々木史朗■音響プロデューサー／島田十九八■音響監督／明田川　進■制作スタジオ／アキラスタジオ■アニメーション制作／東京ムービー新社■製作／アキラ製作委員会、株式会社講談社、株式会社毎日放送、株式会社バンダイ、株式会社博報堂、東宝株式会社、レーザーディスク株式会社、住友商事株式会社、株式会社東京ムービー新社■キャスト　金田（岩田光央）　鉄雄（佐々木　望）　ケイ（小山茉美）　大佐（石田太郎）　タカシ（26号）（中村龍彦）ほか　※本リストは、プログラムのスタッフ表をもとに作成した。

NO.
429 白旗の少女 琉子

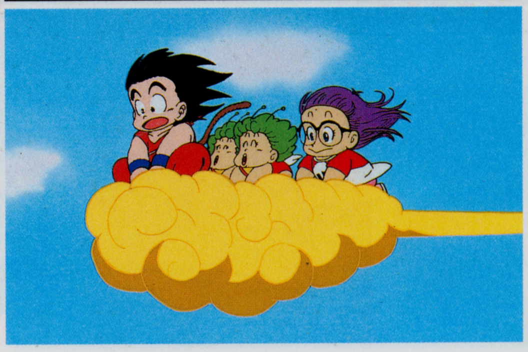


88年7月21日（木）池袋文芸座２公開
併映作品／となりのトトロ

〔あらすじ〕1945年４月１日、アメリカ軍の沖縄上陸作戦が開始され、日本軍は島の奥地に引きこもり、島民をひきこんだゲリラ戦を展開しようとしていた。生活の場を失い逃げまどう沖縄の人々、琉子もそんな人々の一人だった。彼女は、祖父や祖母と別れ、母と妹とともに島のなかを転々としていったが、やがて母と妹は死亡してしまう。やっと逃げこんだ洞窟のなかには一時の安息があったが、日本軍の敗残兵たちがやってきて横暴な振る舞いをはじめるのだった。
〔解説〕文・新川明、版画・儀間比呂志作の絵本「りゅう子の白い旗」を原作とする反戦アニメ。物語に登場する琉子とは、1945年に、アメリカ軍が撮影した記録フィルムに映っていた、白い旗をかかげ、微笑を浮かべてアメリカ軍に投降する少女の姿に感銘を受けた作者が作り上げた架空の人物である。

原作／築地書館「りゅう子の白い旗——沖縄いくさものがたり」より　文・新川　明　版画・儀間比呂志■製作／野原嘉一郎■脚本・監督／出崎　哲■絵コンテ／四分一節子■キャラクターデザイン／小林ゆかり■作画監督／清水恵蔵■美術／阿部行夫■音楽監督／中島優責■ＥＤ／喜屋武マリー■音響監督／斯波重治■製作協力／マジックバス■製作・配給／共同映画全国系列会議　※本リストは、共同映画株式会社の社内資料をもとに作成した。

NO.
430 DRAGON BALL ドラゴンボール 摩訶不思議大冒険!!

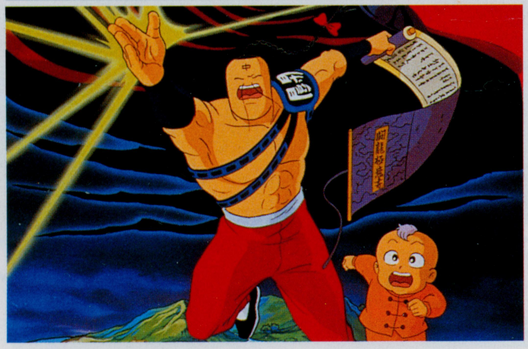


88年7月23日（土）東映系封切　46分
併映作品／闘将!!拉麺男、ビックリマン　無縁ゾーンの秘宝、仮面ライダーBLACK　悪魔峠の怪人館（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕亀仙人のもとでの修業が一段落した悟空とクリリンは、腕試しのため米飯帝国の武道会に出場することになった。その米飯帝国では悪大臣の鶴仙人が、幼い餃子皇帝をないがしろにし、世界を自分のものとするため軍隊を使いドラゴンボールを集めていた。そして、最後の一個を持ったカリンの男・ボラも武道会に参加することとなり、鶴仙人は世界一の殺し屋・桃白白に、武道会でボラを倒しドラゴンボールを手に入れることを命じた。
〔解説〕〝武道会編〟の劇場３作目。まんがまつりらしく、天津飯やカリン様にレッドリボン軍の面々と、まさしくオールスター総出演。後半、舞台が「Dr．スランプ」のペンギン村に移り、悟空とアラレの夢の競演となる。短い分数にかなりの量のエピソードを詰めこんでおり、オープニングの画面で悟空たちの修業を、エンディングで物語のエピローグのドラゴン出現を描くといったムダのなさ。シリーズで活躍していた竹之内和久の劇場デビュー作である。

原作／鳥山　明（週刊少年ジャンプ・連載）■製作総指揮／今田智憲■企画／七條敬三■製作担当／岸本松司■監督／竹之内和久■監督助手／上村康宏■脚本／由木義文■作画監督／前田　実■原画／青嶋克己、江口寿志、井手武生、志田直俊、佐藤正樹、竹内留吉、片田亜起夫、飯塚葉子、海老沢幸男、富永真里、三角昌子、清水保行、内山正幸、小原太一郎、劉　輝久、柴田則子、山室直儀、島貫正弘■美術監督／池田祐二、山元健生、高田茂祝（後２者は、やや小さく表示される）■美術進行／中村　実■背景／長崎　斉、高橋　忍、松井　睦、工藤英昭、飯田裕子、土井則良■撮影／池上元秋■編集／福光伸一■音楽／菊池俊輔■ＯＰ「摩訶不思議アドベンチャー！」作詞／森　由里子　編曲／田中公平ＥＤ「ドラゴンボール伝説」作詞／泉　鬼角　編曲／京田誠一　以上、作曲／いけたけし　うた／高橋洋樹（コロムビアレコード）■オーディオディレクター／小松亘弘■録音／二宮健二
■声の出演　孫悟空（野沢雅子）　則巻アラレ（小山茉美）　ヤムチャ（古谷　徹）　ブルマ（鶴　ひろみ）　亀仙人（宮内幸平）　クリリン（田中真弓）　ウーロン（龍田直樹）　プーアル（渡辺菜生子）　天津飯（鈴置洋孝）　餃子（江森浩子）　ウミガメ（郷里大輔）　鶴仙人（永井一郎）　ガッチャン（中野聖子）　ナレーター（八奈見乗児）ほか　協力／青二プロダクション

NO.
431 闘将!! 拉麺男



88年7月23日（土）東映系封切　26分
併映作品／DRAGON　BALL　ドラゴンボール　摩訶不思議大冒険!!、ビックリマン　無縁ゾーンの秘宝、仮面ライダーBLACK　悪魔峠の怪人館（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕ラーメンマンは、陳老師の頼みでシューマイとともに水の都・蘇州へやってきた。そこは、黒色魔王と、その部下の四天王——刀鬼、叉焼鬼、槍鬼、棒鬼によって支配されていた。いまや、蘇州の民は笑うことを禁じられ暗い日々を送っていた。ラーメンマンは、黒色魔王たちに戦いを挑むが苦戦する。そこへ、かつてラーメンマンと戦ったライバルたち——バンボロ、ホーガン、ガダムが彼を助けるため駆けつけてきた。
〔解説〕テレビシリーズ「闘将!!拉麺男」の劇場公開版。原作は、かつて漫画とアニメで大ヒットした「キン肉マン」の人気キャラクターのラーメンマンを独立させた作品。今回の映画版は、映画「キン肉マン」と同様、キャラクター総登場。ただ、本編の時間はあまりに短く見ごたえのないものとなっている

原作／ゆでたまご　集英社「月刊フレッシュジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■企画／高見義雄、中谷孝浩（後者は、やや小さく表示される）■製作担当／佐伯雅久■脚本／山崎晴哉■監督／明比正行■助監督／山田　徹、志水淳児■キャラクターデザイン、作画監督／山口泰弘■原画／高橋英吉、森　利夫、白土　武、大河原晴男、菊池城二■動画チェッカー／山田真紀■動画／石橋　勉、石塚　誠、藤井孝博、福島伸一郎、三科和仁、上野千夏、桑原幸一、今成祐子、亀井　隆、長野信明、岩本良之、古沢英明、高島鉄雄、長森佳容、吉橋さち子、直原真治■美術監督／坂本信人■背景／市谷正夫、金川文美、中山恭子、小杉光芳、坂野文世、萩原正己、多田喜久子、原田謙一■美術進行／田村晴夫■撮影監督／白井敏雄■撮影／阪本生長、松田　昇、木元雅信、信宮啓一■編集／清水慎治■音楽／奥　慶一■ＯＰ「輝け！ラーメンマン」ＥＤ「希望への旅」作詞／さがらよしあき　作曲／小川哲夫　編曲／奥　義一　歌／織田純一郎　コロムビアレコード■録音／二宮健治■声の出演　ラーメンマン（森　功至）　シューマイ（松島みのり）キョンピー（田の中　勇）　陳老師（永井一郎）　マーボ（杉山佳寿子）　ラーニャ（山本百合子）　レイラ（鶴　ひろみ）　ガダム（屋良有作）　皇帝（江森浩子）　黒色魔王（小林清志）ほか　協力／青二プロダクション

NO.
432 ビックリマン 無縁ゾーンの秘宝

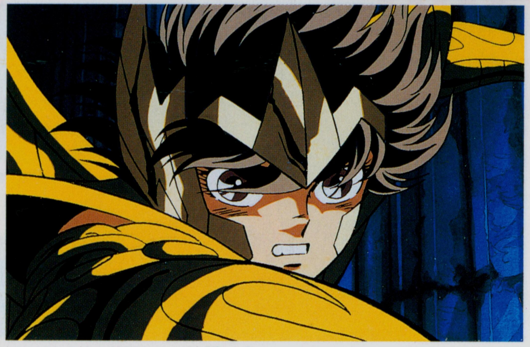


88年7月23日（土）東映系封切　45分
併映作品／DRAGON　BALL　ドラゴンボール　摩訶不思議大冒険!!、闘将!!拉麺男、仮面ライダーBLACK　悪魔峠の怪人館（東映まんがまつり）

〔あらすじ〕次界創造をめざし無縁ゾーンを旅するヘッドロココと６人の神帝は、空魔に襲われているお守りの少女・助士すいさいを助けたものの、気を失ってしまう。気がついたヤマト神帝は、そこがお守りたちだけが住む世界・天地球であることを助士すいさいに知らされる。そのころ、無縁ゾーンに住む予鬼たちが、天地球に侵入し天使のふりをして悪事を働いていた。ヤマト王子たちは、天地球の平和とそこに伝わるという秘宝を悪魔たちの手から守りきれるだろうか。
〔解説〕テレビシリーズ「ビックリマン」の劇場版第２作。今回は、テレビシリーズのサイドストーリーとして、天使、悪魔に次ぐ第３の存在・お守りたちの住む天地球を舞台にしている。天地球とは、表層界が天聖界と天魔界に分裂したとき、亀裂に落ちたお守りたちが作った世界である。前作に引き続きテレビシリーズで描かれなかったビックリマンワールドの一面を描いている。この作品で初登場した愛然かぐやは、シリーズでも重要なキャラクターとなる予定。

原案／反後四郎　連載・小学館　幼稚園・学習幼稚園、てれびくん■製作総指揮／今田智憲■企画／山口康男■製作担当／横井三郎■脚本／富田祐弘■監督／佐藤順一■監督助手／岩井隆央、和田裕一■作画監督／青山　充■原画／小和田良博、河野宏之、小幡公春、梨澤孝司、二宮常雄、尾鷲英俊、安藤正浩、三ツ井洋一、宮川喜代美、我妻　薫■美術監督／浦田又治■美術進行／杉本隆一■背景／谷口淳一、吉池隆司、佐藤美幸、行　信三、襟立智子、塚越幸江■特殊効果／河内正行■撮影監督／沖野雅英■撮影／小室正一、麓　雅一、石塚知義、藤倉直人、伊藤　誠、下栃棚伊奈子■編集／片桐公一■音楽／有澤孝紀■ＯＰ「ドリーミング・Ａ・ＧＯ・ＧＯ」ＥＤ「スーパー・ウォーズ」以上、作詞／吉元由美　作曲／タケカワユキヒデ　編曲／ＫＡＺＺ　ＴＯＹＡＭＡ　うた／小橋二郎、織田純一郎・Ａｍｍｙ（コロムビアレコード）■録音／池上信照■音響効果／伊藤道広■声の出演　ヤマト神帝（鈴木富子）　牛若神帝（草尾　毅）　神帝男ジャック（山本圭子）　神帝フッド（山田栄子）神帝ピーター（丸尾知子）　一本釣神帝（飛田展男）スーパーゼウス（八奈見乗児）　シャーマンカーン（永井一郎）　ヘッドロココ（高戸靖広）　サタンマリア（江森浩子）　スーパーデビル（青野　武）愛然かぐや（冨永みーな）ほか　協力／青二プロ

NO.
433 聖闘士星矢
真紅の少年伝説

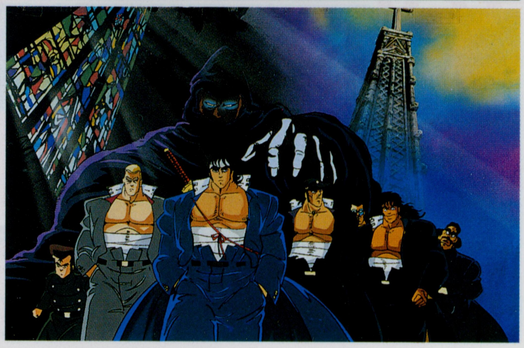


88年7月23日（土）東映株式会社配給　1時間15分
併映作品／魁!!男塾

【あらすじ】アテナの前に、兄と名乗る太陽神アベルが現れた。アトラス、ベレニケ、ジャオウの3人の聖闘士を従えたアベルは、汚れた地上を粛清しようとする。アテナは自らの命を賭してアベルを倒そうとするが、逆にアベルの手にかかる。刻々と死の世界へと歩むアテナを救うため、アベルの神殿のあるディグニティ・ヒルへ向かった星矢たちの前に、アベルの小宇宙によって復活したデスマスク、アフロディーテら黄金聖闘士が立ちふさがった。
【解説】「聖闘士星矢」3度目の映画化であるが、東映まんがまつりの1プログラムにすぎない短編であった前2作と違い、興業的に独立した長編として製作された。それだけに格調のある画面作りがなされており、人気キャラクターによる見せ場も多く、緊密に構成されている。美型キャラに定評ある荒木伸吾の面目躍如といったところ。死亡した黄金聖闘士を復活させるなどファンサービスも充実。神谷明のパワフルな演技による久々の技の名前の絶叫が爽快。

原作／車田正美　「週刊少年ジャンプ」連載■製作総指揮／今田智憲■企画／旗野義文、森下孝三■製作担当／武田　寛■脚本／菅　良幸■監督／山内重保■監督助手／藤瀬順一、富田明彦、今村隆寛■キャラクターデザイン／荒木伸吾、姫野美智■作画監督／荒木伸吾■原画／姫野美智、木下和栄、茅野京子、なかむらかつや、阿部順子、道井正博、稲葉仁、田中　穣、関　明美、鵜飼美樹、山木ひとみ、山田浩嗣、小沢俊幸、加藤直樹、太田貴士、中落功一ほか■美術監督／窪田忠雄、内川文広■美術助手／■撮影監督／白井敏雄、相磯嘉雄■編集／吉川泰弘■音楽／横山菁児　演奏／アンドロメダ・ハーモニック・オーケストラ　指揮／熊谷　弘　スキャット／川島上叢子■ED「YOU ARE MY REASON TO BE ～愛は瞳の中に～」作詞・作曲／Patrick T. Hunt　編曲／Steve Deutsch　歌／当山ひとみ、Orem Waters■録音／波多野　勲■（製作／東映（東映動画））■東映・東映動画提携作品■声の出演　星矢（古谷　徹）　紫龍（鈴置洋孝）　一輝（堀　秀行）　瞬（堀川　亮）　氷河（橋本晃一）　沙織（潘　恵子）　カミュ（納谷悟朗）　サガ（曽我部和恭）　シュラ（戸谷公次）　アフロディーテ（難波圭一）　デスマスク（田中亮一）　春麗（柴田由美子）　老師（矢田耕司）　アトラス（神谷　明）　ジャオウ（森　功至）　ベレニケ（古川登志夫）　アベル（広川太一郎）

NO.
434 魁!!男塾
（さきがけ）

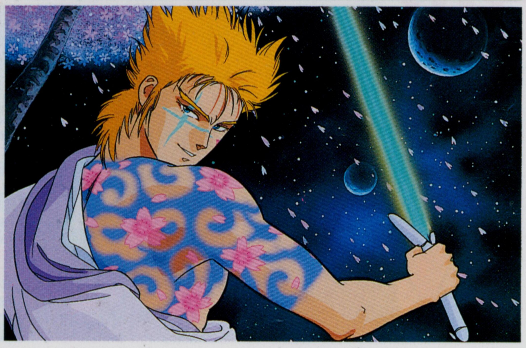


88年7月23日（土）東映株式会社配給　1時間11分
併映作品／聖闘士星矢　真紅の少年伝説

〔あらすじ〕数年に一度、アメリカを舞台に繰り広げられる世界格闘技選手権〈ビッグバトル・オーガスト〉。その招待状が前回の優勝チームである男塾に届いた。代表選手に選ばれた桃たち一号生は勇躍アメリカへと乗りこみ、ハワイ・ナイアガラ爆布・アラスカ・マンハッタンの難関を見事突破。だが、優勝決戦の場・監獄島で桃たちを待ち受けていたのは、最強の男B・J・ブルース率いる〈スリーS〉の猛者たちであった。
〔解説〕コミック雑誌少年ジャンプの創刊20周年記念企画として「聖闘士星矢真紅の少年伝説」と同時上映された。ストーリーは劇場用オリジナルだが、TVシリーズで未登場だった伊達、飛燕、月光ら関東剛学連組が登場しないため、いまいち華やかさに欠ける感がある。マンハッタンでのバイクシーンの原画を手がけたのは「北斗の拳」「男塾」のTVシリーズで作画監督をつとめた金子寛俊だが、完成を前にバイク事故で他界。遺作となった。

原作／宮下あきら（「週刊少年ジャンプ」連載）■製作総指揮／今田智憲■企画／高見義雄、東　伊里弥（後者は、やや小さく表示される）■製作担当／蕪木登喜司■製作担当補佐／堀川和政■脚本／戸田博史、清水　東■監督／今沢哲男■監督助手／小坂春女、雄谷将仁■キャラクターデザイン、作画監督／須田正己■原画／羽山淳一、木上益治、金子寛俊、森　利夫、増田信博、海谷真奈美、長崎重信、加藤茂、長縄宏美、長岡康史、田辺由憲、漆原智志、丸山政次、大倉雅彦、山崎展義、斉藤浩信、泉口　薫、青鉢芳信、山本福雄、加々美高浩、福田道生、為我井克美、星川信芳、須田正巳■美術監督／田中資幸■美術進行／御園　博■背景／佐貫利勝、大場ゆかり、伊藤雅人、橘田昌典、程塚真由美、松尾純次、森川裕美、飯島由樹子■ゼログラフ／高橋　章■撮影監督／玉川芳行■編集／花井正明■ネガ編集／岸真理■音楽／新田一郎■OP「COOL　EYES」作詞／白虎隊&小林正巳　作曲／山崎　稔　編曲、歌／白虎隊（COLUMBIA RECORDS）■録音／今関種吉■音響効果／伊藤道広■東映・東映動画　提携作品■声の出演　剣　桃太郎（堀　秀行）　富樫源次（山口　健）　ジェイ（銀河万丈）　虎丸龍次（屋良有作）　江田島平八（郷里大輔）　鬼ヒゲ（千葉　繁）　B・J・ブルース（田中秀幸）　ブロンコ・サンダース（池田　勝）　サー・ロイヤル三世（塩沢兼人）　謎のマイク音声（来宮良子）ほか

NO.
435 遠山桜宇宙帖
奴の名はゴールド

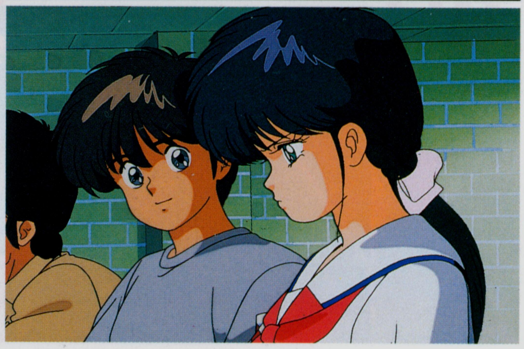


88年7月26日（火）新宿シアターアプル公開

［あらすじ］コンピュータEDOと、世襲制の執政官によって支配される未来世界。自称遊び人のゴールドは、実は執政官のひとり・レトクラードの息子。その父が、なに者かに重傷を負わされ、ゴールド自身もガールフレンドのミディと一緒にいるところを、オカマの大男がひきいる殺人アンドロイドに襲われる。父の言葉を手がかりに、父の前任地フェドバーへ赴いたゴールドは、勝手についてきたミディやいとこのリットとともに調査をはじめた。
［解説］原作の「まぼろし奉行」とは、時代劇でお馴染みの「遠山の金さん」のこと。つまり、この作品はSF版「金さん」なのである。プロデューサー・大久保唯男と監督・梅澤淳稔は、ともに時代劇の大ファンで、最初は「金さん」をそのまま時代劇でやりたかったとか。このふたりの話し合いから生まれた「ゴールド」をもとに、結城恭介が小説化したものが、直接の原作となっている。また、キャラデザインの北爪宏幸は、小説版の挿絵の担当者でもあった。

原作／陣出達朗　文／結城恭介（徳間書店刊）■製作／山下辰巳■企画／尾形英夫■プロデューサー／横尾道男、坪池義雄、佐々木　章、大久保唯男■制作担当／鳥本　武■制作進行／奥山　淳■脚本／酒井あきよし■監督／梅澤淳稔■助監督／寒竹清隆■キャラクターデザイン／北爪宏幸■作画監督／北爪宏幸、伊藤奈緒美■原画／北爪宏幸、加藤　茂、星川信芳、濱洲英喜、大倉雅彦、青野厚司、岡野幸男、高木信監、泉口　薫、梨澤孝司、白川忠志、長岡康史、本橋秀之、井坂純子、中矢　卓、福田道生、今川よしみ、加々美高浩、海谷真奈美、為我井克美、渡辺敏雄■動画チエッカー／川崎由美子、勘場昌章■美術進行／杉本隆一■美術監督／有川知子■仕上進行／小堺　浩■仕上検査／佐久間ヨシ子■特殊効果／中島正之■撮影監督／池上元秋■編集／福光伸一■音楽／羽田健太郎■音楽制作／徳間ジャパン■音楽ディレクター／渡辺隆史、荒巻義郎■OP「告白」作曲／羽場仁志　ED「刺青レイディ」作曲／柴矢俊彦　以上、作詞／枥内　淳　編曲／くりはらまさき　歌／藤井一子■録音／蔵本貞司■録音助手／加藤　剛■音響効果／伊藤道広■制作協力／東映動画■徳間書店作品　1988■声の出演　ゴールド（矢尾一樹）　ミディ（藤井一子）　イオン（森　功至）　レトクラード（阪　脩）　エポタ（池水通洋）　リット（塩屋　翼）　大男（屋良有作）ほか
協力・青二プロダクション

NO.
436 きまぐれオレンジ★ロード
あの日にかえりたい

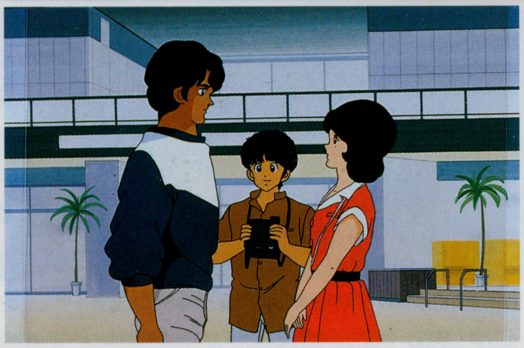


88年10月1日（土）東宝系封切
併映作品／陽あたり良好！　KA・SU・MI　夢の中に君がいた

【あらすじ】春日恭介はふたりのガールフレンド——鮎川まどかと檜山ひかる——の間で心を決めかねていた。恭介の本命はまどかなのだが、積極的にアタックしてくるのはひかるのほう。まどかは妹分のひかるに遠慮して、なかなか本心を見せてくれない。夏休みのある日、受験勉強に励む恭介を訪ねたひかるは、ついに恭介とキスしてしまう。それを知ったまどかは、はじめてあからさまに嫉妬を態度にだすのだった。はっきりさせようと思う恭介だが……。
【解説】TVシリーズのオープニングとエンディング、そして最終回を演出した望月智充を監督に迎え、テーマを3人の関係だけに絞って、その決着を生々しいまでのタッチで描いた作品。主人公たちの三角関係は、「きまぐれオレンジ★ロード」の人気の一因といえるもので、その清算はTVではやりにくいテーマだった。三角関係が崩壊したあとの現在をモノトーンで、過去の部分をカラーにした画面は、3人の過去をなつかしむ心情を表現して、印象的だった。

原作／まつもと　泉（集英社／ジャンプ・コミックス）■企画／藤原正道、布川ゆうじ■企画協力／堀越　徹■プロデューサー／河野秀雄、深草礼子■制作担当／朴谷直治■脚本／寺田憲史■監督／望月智充■絵コンテ／望月智充■キャラクターデザイン／高田明美■作画監督／後藤真砂子■原画／大西雅也、新留俊哉、練木正宏、中山勝一、橋本淳一、原博、斉藤卓也、船越英久、斉藤哲人、小川浩司、柳沢まさひで、貴志夫美子、後藤隆幸、武田一也■動画チェック／山田玲子■美術監督／三浦　智■背景／デザイン・オフィス・メカマン、村山得江、藤井祐子、田中直哉、斉藤久恵、千葉　薫、村井弘子、山田京子、あにまる屋、田村盛輝■カラーコーディネーター／勝沼まどか■撮影監督／金子　仁■撮影／東京アニメーションフィルム、角原幸枝、熊谷正弘、小松寿一、上原一郎、倉田佳美、木次美則、篠原博子、山田咬明■編集／掛須秀一■音楽プロデューサー／大場龍男■音楽／鷺巣詩郎■ED「あの空を抱きしめて」作詞、歌／和田加奈子　作曲／伊豆田洋之　編曲／白井良明　（東芝EMI）■音響監督／松浦典良■効果／伊藤克己■録音／大塚晴寿、小原吉男■製作／東宝株式会社、スタジオぴえろ■声の出演　春日恭介（古谷　徹）　鮎川まどか（鶴ひろみ）　檜山ひかる（原　えりこ）　春日　隆（富山　敬）　春日まなみ（富沢美智恵）　春日くるみ（本多知恵子）　ジンゴロ（緒方賢一）ほか

NO. 437 陽あたり良好！ KA・SU・MI 夢の中に君がいた



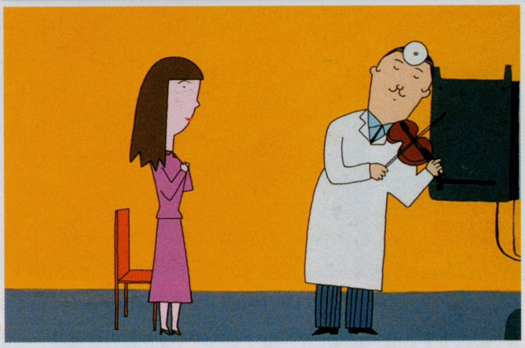
88年10月1日（土）東宝系封切
併映作品／きまぐれオレンジ★ロード　あの日にかえりたい

【あらすじ】岸本かすみは、叔母が経営する下宿〝陽だまり荘〟に住んでいる。同じ下宿に住む同級生・高杉勇作は、ちょっと気になる存在だ。高3の夏、叔母の親戚で、かすみの恋人（？）村木克彦がGPライダーとなって突然帰国した。かすみにプロポーズするために帰ってきたという克彦。かすみの心は克彦と勇作の間で揺らぐ。ところが、克彦はレース中の事故で重傷を負ってしまう。責任を感じたかすみは、克彦との結婚を決心する。

【解説】併映された「きまぐれオレンジ★ロードあの日にかえりたい」とともに、TVシリーズの後日談ふうの構成で、三角関係の決着を扱って話題になった。しかし、あだち充の原作からはかけ離れた展開となり、キャラクターの持つ魅力も生かせずに終わった感がある。TVシリーズでは総監督だった「タッチ」の杉井ギサブローは監修として参加。「源氏物語」で演出助手をつとめた小熊公晴の監督デビュー作。

原作／あだち　充　小学館「フラワーコミックス」刊■プロデューサー／藤原正道、対木重次、河野秀雄■制作担当／金　正廣、黒木健一■制作事務／小泉淑子■進行主任／中村晋也■監修／杉井ギサブロー■脚本／並木　敏、萩田寛子■監督／小熊公晴■絵コンテ／池田はやと■作画監督／前田　実■作画チーフ／河村佳江、清水恵子、辻　初樹■原画／アニメ・アール、寺田浩之、J・C・STAFF、山沢　実、鈴木美千代、鴨川　浩、田村俊也、エス・ユー・ラオホ、阿部　司、シャフト、長谷川　直、別所誠人、清水　明、スタジオ・ぎゃろっぷ、山内昇寿郎、松本小百合、田中　保■美術監督／金村勝義■背景チーフ／斎藤初枝■撮影監督／杉村重郎■編集／古川雅士■音楽プロデューサー／大場龍男（東宝音楽出版）■音楽／田中公平■OP「やさしくなんかできない」作詞／松尾由紀夫　ED「Remember　September」作詞／芦沢和則　以上、作曲／芦沢和則　編曲／村松邦男　歌／JAG－TOY　（ポニーキャニオン）■制作協力／J・C・STAFF、エス・ユー・ラオホ、シャフト、スタジオ・ぎゃろっぷ■音響監督／藤山房延■製作／東宝株式会社、グループ・タック■声の出演　かすみ（森尾由美）　勇作（三ツ矢雄二）　克彦（井上和彦）　伸（塩沢兼人）　有山（鈴木清信）　誠（松田辰也）　千草（小宮和枝）　圭子（鶴　ひろみ）　退助（千原江理子）　神父（増岡　弘）ほか

NO. 438 怪盗ジゴマ 音楽編



88年11月12日（土）東宝系封切
併映作品／快盗ルビイ

［あらすじ］舞台の幕があく。そこに立つのは街角のオルガン弾き。彼が歌うのはあの怪盗ジゴマのこと。ジゴマが盗んだいちばん新しい獲物とは……。再び幕があくと、そこにいるのは探偵とジゴマに歌を盗まれた歌姫。名医の診察によれば、盗まれたのはただ一曲〝心の歌〟のみ。でも肝心の〝心の歌〟を盗まれた歌姫は、ただの〝さみしい女〟になってしまった。歌を捜す探偵。しかしジゴマも途方に暮れていた。歌をどうやったら隠せるのだろうか……。

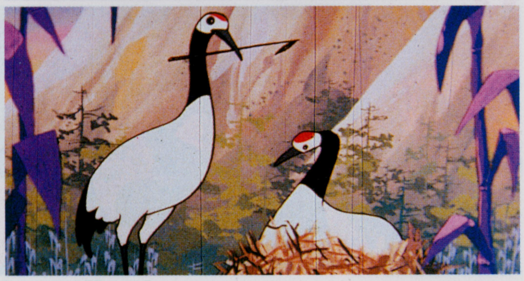
［解説］'87年の広島アニメ・フェスの招待作品として作られたミュージカル・アニメで、「殺人・マーダー」以来24年ぶりの和田誠の自主制作作品を、劇場公開のために動画・撮影を全面的にやりなおしたもの。和田の2回目の実写監督作品「快盗ルビイ」の併映として公開された。和田誠のディレッタントぶりがうかがえる好編。原作は'63年に寺山修司が書き下ろして、一度だけ上演された同名のミュージカルで、和田誠が作曲を担当している。

製作／和田　誠■制作マネージメント／高橋　渉■制作担当／高橋　徹■制作事務／村山由紀子、神宮寺詞子■制作進行／泉津井陽一、川村一仁■脚本・作詩／寺山修司■絵・監督／和田　誠■動画／堀口忠彦、金海由美子■仕上げ・トレス／粂　昌子■仕上げ・トレスペイント／猫プロダクション（金子登喜代、小峯久美子、有田紀半子、棚沢真理子、白田美恵、鵜沢栄子、山本つづ子）■仕上げ・ペイント／童夢舎■特殊効果／谷口久美子■画面効果／内藤彰子■効果素材作画／熊谷幸雄、長沢瑞恵、伊藤徳彦、井上博之■撮影／八巻　磐■スチール撮影／秋庭義秀、下田一貴■アニメーション撮影／佐々木康之、徳富厚雄、山本乃利子、中村俊彦、小林昭子、戸村美加、高橋プロダクション（高橋宏固、松寄泰三、斉藤善昭）■編集／中溝克之■現像／IMAGICA■スポッティング／三間雅文■音楽／八木正生■音楽制作助手／鈴木真樹■音楽事務／篠原美恵子■作曲／和田　誠■録音／アオイスタジオ、伊豫部富治、堀内戦治■アニメーション制作／アニメーションスタッフルーム■配給／東宝株式会社■声の出演　名医（斎藤俊夫）　ジゴマ（斎藤晴彦）　音楽商会の主人（伊達英二）　街頭歌手（中代圭吾）　探偵（山崎イサオ）　さみしい女（由紀さおり）
※本リストは、上映用資料をもとに作成した。

非劇場（ホール・公民館上映）作品

劇場アニメーション映画の中には、商業封切館で上映される作品以外に、各地の公民館、ホール、イベントなどでのみ上映される作品がある。これらは、公開日時も地域、場所によりバラバラで、統一した封切日も定めがたい。そこで、各地でホール上映用に製作された作品で、特に話題性が高いものなどを編集部側の判断により30作品選び、以下に掲載することにした。ただし選定にあたっては、別個に商業館で公開されているもの、過去にテレビスペシャルとして放映されたものなどは除き、それ以外を優先することにした。スタッフ、キャストのデータは、原則としてタイトルクレジットから拾ったが、フィルムを直接確認できなかったものに関しては宣伝用チラシなどの資料を参考にしてある。

NO. 1 つるのすごもり



71年9月1日　読売ホール公開　17分
併映作品／鬼剣舞

［内容・解説］ツルが群れをなして住む島。その巣のひとつで2羽のヒナがかえった。ある日、突然襲ってきたタカからヒナを守ろうと親ヅルは必死に抵抗するが倒されてしまう。それを見た仲間のツルは共同で両親の仇をうつ。島には平和が戻り、残されたヒナも仲間のツルの手で元気に育っていく。日本映画放送産業労組がアニメの自主製作を、東映動画などのアニメ労働者に呼びかけ、3年がかりで製作したもの。延べ人員にして80名が製作し関与した。演出、作画監督の斎藤和男は、芝山努のペンネームである。

原作／タカクラ・テル■製作進行／藤田　純■脚本、演出／篠原　茂、斎藤和男■作画監督／斎藤和男■撮影／八巻　磐■音楽／清瀬保二■製作／〝つるのすごもり〟を製作する会

NO. 2 ちびっこカムのぼうけん



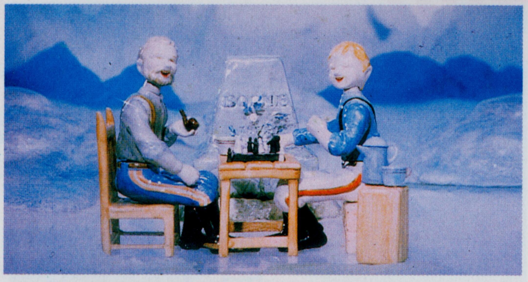
76年8月15日　完成　共同映画全国系列会議配給　1時間5分

［内容・解説］北国の少年カムは、母親の病気をなおそうと、火の山にイノチクサを求めて旅立つ。そこにはガムリィという大鬼が住んでおり、人間がくると、南や北の海へはじきとばして魚にかえてしまう力をもっていた。水を飲むと石や動物にかえられてしまう〝黒い湖〟の魔力を解き、その岸辺にあるイノチクサをとるためには、ガムリィの指輪が必要なのだが……。親子映画関東企画懇談会と、親子映画東京連絡会が企画した親子映画第11作。初めて国内向けに作られた長編人形アニメーション。

原作／神沢利子（理論社刊）■製作／河野秋和、野原嘉一郎■企画／親子映画関東企画懇談会、親子映画東京連絡会■脚本・監督／河野秋和■人形／佐々木　章■アニメーション／大町　繁、荒木靖一■美術／野呂真一、桜井勝義■撮影／高森菱児、安藤武雄■照明／渡辺勝二■編集／矢走直子■音楽／宮崎尚志■製作／ビデオ東京プロダクション、共同映画全国系列会議■声の出演協力／劇団仲間、劇団若草

NO. 3

野ばら



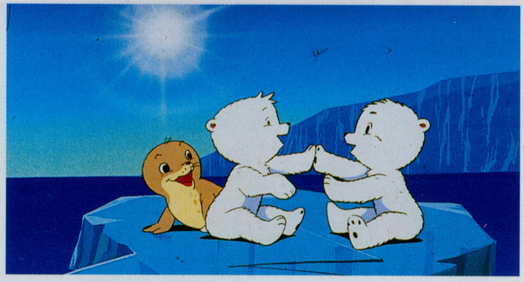
77年　教育映画配給社配給　日仏会館ホールほか公開　19分

［内容・解説］ 童話作家・小川未明の原作を陶器製の人形アニメによって映像化した作品。「野ばら」は小川未明の童話のなかでも名高い作品のひとつで、国を別にするふたりの兵士の友情が豊かな詩情で描かれている。主人公の人形はもちろん、小道具の机や食器、花びらの一枚一枚が陶器で作られ、不思議な魅力を作りだしている。1979年、ブルガリアで開催された赤十字国際映画祭において、レオニードモギー賞を受賞した。

原作／小川未明■製作／庄司　洵■企画／東京中央プロダクション■脚本、演出／高橋克雄■アニメ／高橋克雄■撮影、美術／高橋克雄■（美術・撮影・アニメーション）助手／孫　美娟、高橋豊一、福島孝江、岡田和子、吉川寿々子、渡辺智代実■映像／高橋克雄■音楽／林　千尋■録音／東中スタジオ■現像／東洋現像所■協力／岡上鈴江■製作／東京中央プロダクション■朗読（七尾伶子）

NO. 4

北極のムーシカミーシカ



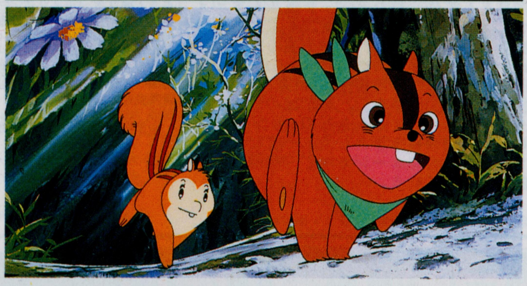
79年７月21日　にっかつ児童映画配給　1時間20分

［内容・解説］ 日活児童映画と虫プロダクションが共同で企画・製作した作品。現代創作児童文学を書き続ける、いぬいとみこの原作は、国際アンデルセン佳作賞に輝き、「ながいながいペンギンの話」と「ぼくらはカンガルー」をあわせて〝動物のふたご物語〟の３部作とよばれている。厳しい北極の自然を舞台に、ふたごの子熊が母親のもとを離れ、身体も心もたくましく成長する喜びと、大人になるための厳しい試練を描いた作品。

原作／いぬいとみこ（理論社刊）■プロデューサー／伊藤　叡、西口武郎■監修／手塚治虫■監督／勝井千賀雄■脚本／加藤　盟■キャラクターデザイン／辻　伸一■美術監督／宮本清司■音楽／小六禮次郎■撮影監督／吉坂研一■編集／尾形治敏■主題歌「北極のムーシカミーシカ」作詩／森　雪之丞　作曲／小六禮次郎　唄／チェリッシュ■録音／熊谷良平■企画・製作／虫プロダクション、日活児童映画株式会社■声の出演　ムーシカ（菅谷政子）　ミーシカ（野沢雅子）ほか

NO. 5

グリックの冒険



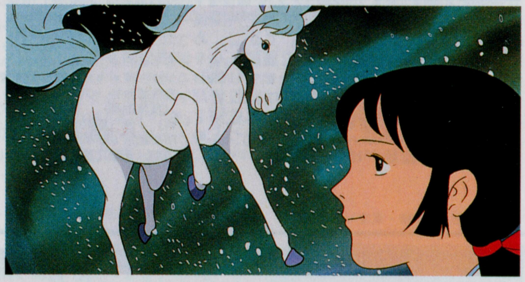
81年７月21日　共同映画全国系列会議配給　1時間22分

［内容・解説］ 都会のマンションに飼われていたシマリスのグリックは、仲間のすむ北の森への旅立ちを決意し、はじめて地上へととびだす。旅の途中でドブネズミのガンバとその仲間に出会い動物園にいた同じシマリスののんのんとともに、ついに北の森へたどりつくが、北の森はまっ白な雪におおわれていた。さいごの力をふりしぼって歩きはじめた２匹に仲間のよび声が聞こえてきた。日本児童文学者協会新人賞を受賞した斎藤惇夫の原作の映画化。

原作／斎藤惇夫（講談社文庫）■制作／野原嘉一郎、石田康實■企画／坂斎小一郎■脚本／田波靖男■監督／西牧秀夫■演出／藤　みねお■キャラクターレイアウト／椛島義夫■美術監督／なかちか東■作画監督／山崎　猛、葛岡　博■撮影監督／結束義博■編集／井上和夫■音楽／小六禮次郎■主題歌「自由の森へ」ほか　作詞／伊藤アキラ■製作／共同映画全国系列会議、（株）スタジオ古留美■声の出演　グリック（水島　裕）　のんのん（麻上洋子）　フラック（吉田理保子）ほか

NO. 6

ゆき



81年８月９日　にっかつ児童映画配給　読売ホールほか公開　1時間30分

［内容・解説］ 室町時代の末期、戦乱と重税に苦しむ農民たち。天の〝じんじい〟は、下界の大掃除をさせるために雪ん子のゆきを地上につかわす。ゆきは天界の白馬フブキにまたがり、村を襲う野盗を倒す。これをきっかけに村人も立ち上がり、自由の村を築く。最後の敵は人々の信仰と恐怖の根源〝神人様〟だ。ゆきはひとり神人と戦ってこれを滅ぼし、天へと帰ってゆく。ゆきの声を演じたのは、監督である今井正の「子育てごっこ」でデビューした牛原千恵。

原作／「ゆき」斎藤隆介■プロデューサー／伊藤　叡、渡辺三郎、西口武郎■脚本／宮崎　晃■監督／今井　正■絵コンテ・アニメ演出／辻　伸一■キャラクター・デザイン／ちばてつや■作画監督／辻　伸一■美術／内田好之■撮影／諫川　弘■編集／尾形治敏■音楽監督／チト河内■主題歌「ゆき」ほか　作詞／クニ河内　作曲／チト河内　歌／やまがたすみこ（ビクター）■企画・制作／にっかつ児童映画株式会社、虫プロダクション株式会社■声の出演　ゆき（牛原千恵）ほか

NO. 7

夏への扉



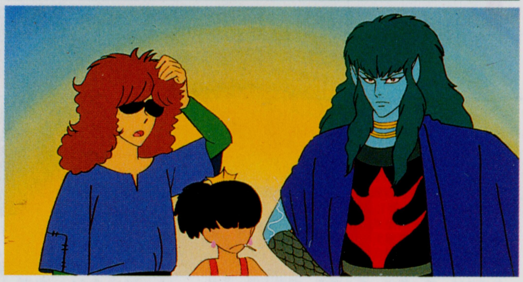
81年８月22日　59分
併映作品／悪魔と姫ぎみ

［内容・解説］ 20世紀初頭のフランスを舞台に、寄宿生活を送る少年マリオンと、彼を慕う市長の娘レダニア、同性ながらマリオンを愛する少年クロードらが織りなす人間模様を描く。少年愛、性への目覚めなど、アニメではタブー視されていた題材を扱いながらも、「なによりも青春映画でありたい」と心がけられた作品。メロディハウス等の音楽プロモーターが、オフシアターでの制作・配給ルートを開拓する意図で設立したスーパーハリウッドの第１回制作作品。

原作／竹宮恵子　掲載／「花とゆめコミックス」■プロデューサー／秋津ひろき■製作担当／おおだ靖夫■設定／丸山正雄■脚本／辻　真先■演出／真崎守■演出補佐／平田敏夫■画面設定／川尻善昭■作画監督／富沢和雄■美術監督／石川山子■撮影／相磯嘉雄、細田民男■編集／花井正明■音楽／羽田健太郎■主題歌「夏への扉」作曲／羽田健太郎■製作／東映動画■キャスト　マリオン（水島　裕）　ジャック（古谷　徹）　レダニア（潘　恵子）　サラ・ヴィーダ（武藤礼子）ほか

NO. 8

悪魔と姫ぎみ



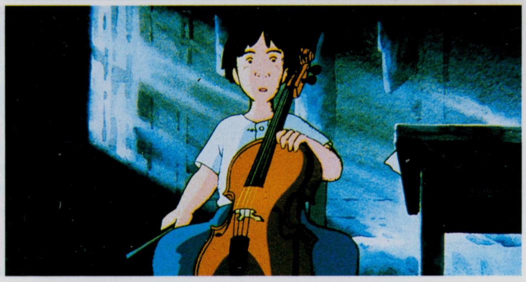
81年８月22日　32分
併映作品／夏への扉

［内容・解説］「あしたの城」の姫ぎみは18歳。美しいと評判だったが、昼間から酒をくらう性格の悪い女だった。それでも人並みに結婚がしたいと、にせの肖像画を描かせるが、この絵に悪魔が一目ぼれ。一方、姫は森の茶屋で肖像画にそっくりの美女スノーホワイトに会う。そこへ現われた悪魔は２人をさらっていく……。オフシアター上映に目を向けた東映が、スーパーウッドに協力して制作した高橋良輔第１回監督映画。音楽には近田春夫を起用。

原作／吉田秋生■プロデューサー／田宮　武■製作担当／菅原吉郎■脚本／雪室俊一■演出／高橋良輔■演出補佐／原田益次■キャラ・デザイン／山口泰弘■作画監督／山口泰弘■原画／山口泰弘■美術監督／明石貞一■撮影／池田重好、清水政夫■編集／花井正明■音楽／近田春夫■主題歌「夢みるカカオ」作詩／森　雪之丞　作曲／近田春夫　唄／青木美冴　発売／コロムビアレコード■録音／神原広己■製作／東映動画■キャスト　姫（木の葉のこ）　悪魔（富山　敬）ほか

NO. 9

セロ弾きのゴーシュ



82年１月23日　映画センター全国連絡会議配給　日仏会館公開　１時間３分

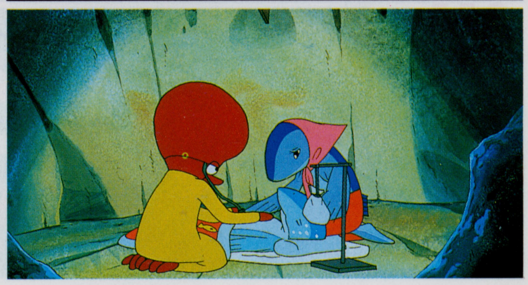
［内容・解説］ある地方都市。金星音楽団のセロ奏者ゴーシュは、演奏のつたなさを、いつも楽長に指摘されていた。ある晩ゴーシュは、「トロイメライ」を弾けという生意気な猫の訪問を受ける。次の晩にはかっこう、その次は子だぬき、そのまた次の夜は野ねずみと、次々と訪れて、ゴーシュはそのたびに夜を徹してセロを弾く。そして、演奏会の日……。宮沢賢治原作のアニメ化。過去にも、昭和24年にセルアニメ、昭和38年に人形アニメ化されている。

原作／宮沢賢治■製作／村田耕一■企画／小松原一男、米川功真■監修／宮沢清六、堀尾青史、天沢退二郎■監督／高畑　勲■キャラクターデザイン・原画／才田俊次■美術／椋尾　篁■撮影／岡芹利明、ティ・ニシムラ■編集／杉山圭子■音楽／間宮芳生■録音／浦上靖夫■インフォメーションプロデューサー／なみきたかし■（製作／オープロダクション）■声の出演　ゴーシュ（佐々木秀樹）　楽長（雨森雅司）　ねこ（白石冬美）　かっこう（肝付兼太）　狸の子（高橋和枝）ほか

©オープロダクション

NO. 10

トビウオのぼうやはびょうきです



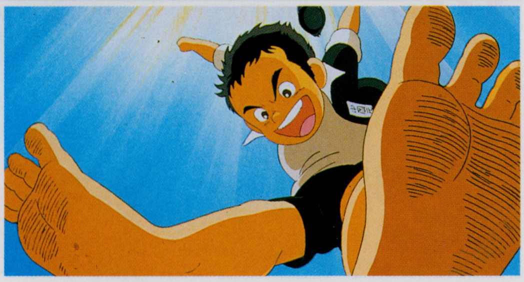
82年９月　共同映画全国系列会議配給　19分

［内容・解説］ある日、珊瑚礁の海上をトビウオの母親と子どもが仲よく飛んでいた。すると突然、大爆発が起きて、白い灰がいっぱい降ってきた。そして、その夜からトビウオの坊やは病気になってしまう……。1954年（昭和29）３月１日、ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験。そのときの模様を題材に書かれた、いぬいとみこの童話をアニメ化した作品。「核の恐ろしさ、平和の尊さを子供たちに！」をスローガンに、草の根上映方式で上映された。

原作／いぬいとみこ■企画・製作／山口逸郎■プロデューサー／伊藤　叡、林　大三郎■脚本／板谷紀之■監督／宮崎一哉、坂谷紀之■キャラクターデザイン／木下蓮三■作画監督／永木龍博■美術監督／下川忠海■撮影監督／吉坂研一■音楽／木下忠司■声の出演　トビウオのお母さん（丘　さとみ）　トビウオのぼうや（大原和彦）　ナレーション（日色ともゑ）

NO. 11

はだしのゲン



83年７月21日　共同映画全国系列会議配給　１時間25分

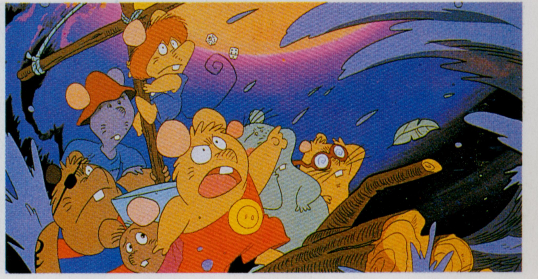
［内容・解説］原爆によって父と姉と弟を失った中岡ゲンは、目の前で焼死していった家族を見たショックで早産した母と、そのとき生まれた妹とともに焼け野原のなかでたくましく生きて行く。ゲンは弟とそっくりの孤児の隆太を家族に加え、原爆で全身にヤケドを負った青年・政二の世話をして金を稼ぐ。広島で被爆した自己の体験にもとづく中沢啓治の同名の劇画によるアニメ。これ以前にも1976年に劇映画化されている。

原作／中沢啓治「はだしのゲン」（汐文社刊）■製作／中沢啓治■プロデューサー／吉元尊則、岩瀬安輝■設定／丸山正雄■脚本／中沢啓治■監督／真崎守■キャラクター設計／富沢和雄■作画監督／富沢和雄■美術監督／男鹿和雄■撮影監督／石川欽一■音楽／羽田健太郎■主題歌「いますぐ愛がほしい」「どこからきて、どこへゆくのか」作詞／真崎　守　作曲／羽田健太郎　歌／ハーリー・木村■音響監督／明田川　進■（製作）／ゲンプロダクション　（協力）／マッドハウス

©ゲンプロ

NO. 12

冒険者たち ガンバと7匹のなかま



84年３月４日　共同映画全国系列会議配給　１時間40分

［内容・解説］テレビアニメ史上の名作「ガンバの冒険」を100分に再編集した作品。制作は、かつて同じ斎藤惇夫の児童文学「グリックの冒険」をアニメ映画化した共同映画。編集には「ガンバ」のC.D.出崎統が当った。全26話分を短時間内に収めるため、ノロイ退治の主筋を追うことに専念。なかでもテレビ版オリジナルの第10話「かじって別れた七つのイカダ」が、とりわけ長く入れられており、出崎の視点の所在がうかがえる。

原作／斎藤惇夫（岩波書店刊）■脚本／大和屋　竺ほか■監督／出崎　統■画面設定／芝山　努■作監／椛島義夫■美術／小林七郎■撮影／清水達正■編集／鶴渕允寿■音楽／山下毅雄■ＯＰ「ガンバのうた」歌／河原裕昌ＥＤ「冒険者たちのバラード」歌／すぎうらよしひろ　以上、作詞／東京ムービー企画部　作曲／山下毅雄■録音／加藤　敏■東京ムービー新社作品■声の出演　ガンバ（野沢雅子）　ボーボ（水城蘭子）　イカサマ（堀　絢子）　ノロイ（大塚周夫）ほか

©斉藤惇夫・ＴＭＳ

NO. 13

パパママバイバイ



84年７月８日　株式会社映像企画配給　１時間15分

［内容・解説］おてんばで気の強いかおりは、隣りに住むちょっとおとなしいコー君とヤス君兄弟ととても仲がよかった。ある日かおりが拾ってきた傷ついた鳩を、２人の兄弟は一所懸命に世話をする。かおりの学校が運動会の日のこと、米軍のファントム機が上空をすごい音を発しながら過ぎてゆき、２人の兄弟の家の近くに墜落した……。1977年、横浜市で実際に起きた米軍機墜落事件をもとにした原作をアニメ化。

原作／早乙女勝元（草土文化刊）■製作／草場和義■脚本／山形雄策■監督／設楽　博■作画監督、キャラクターデザイン／青嶋克己■美術監督／吉原一輔■撮影監督／片山幸男■編集／千蔵　豊■音楽／毛利蔵人■録音／二宮健治■製作協力／東映動画株式会社■企画・製作／株式会社映像企画■声の出演　ユー君（三田ゆう子）　ヤス君（永井秀男）　パパ（青野　武）　おばあちゃん（中西妙子）　かおりちゃん（冨永みーな）ほか　協力／青二プロ　ママ・朗読（日色ともゑ）

©映像企画

NO. 14

黒い雨に打たれて



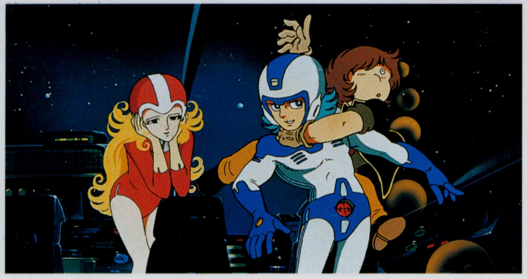
84年８月12日　全国配給委員会配給　１時間30分

［内容・解説］劇画「はだしのゲン」で有名な中沢啓治原作の反核アニメ。米兵に梅毒をうつすことでアメリカに復讐しようとする百合、ケロイドを見せることでヒロシマの生証人になろうとした友子、被爆者二世であるがゆえに子どもを産むべきかどうか迷う英子など、登場人物ひとりひとりが、被爆体験のある作者ならではの観点から生々しく描かれている。「私財を投げうってでもアニメで被爆体験を伝えたかった」という作者の執念が感じられる作品。

企画・原作・製作／中沢啓治■プロデューサー／原田一男■脚本／原　源一、中沢啓治、白土　武■監督／白土　武■総作画監督／宇田川一彦■美術監修／半藤克美■美術監督／天水　勝■撮影監督／高橋明彦■編集／岡安　肇■音楽プロデューサー／南里高世■音楽／喜多郎■音響監督／明田川　進■製作協力／土田プロダクション■声の出演　岩田武司（大森丈史）　石岡昭三（政宗一成）　本田英子（潘恵子）　滝村順二（西城秀樹）　滝村友子（島村佳江）　近藤百合（中西妙子）

©ゲンプロ

NO. 15 アレイの鏡

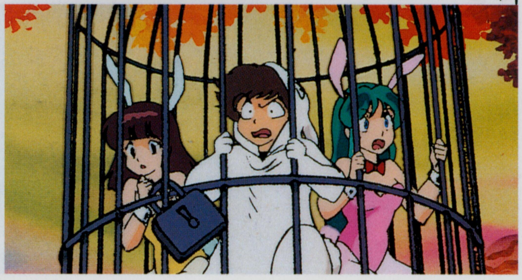


85年３月16日　つくば科学万博公開　25分

［内容・解説］宇宙の探検家・めぐると超光速飛行のパイロット・まゆの２人は、宇宙の果てにあるといわれる伝説の星・アレイを捜すため、航海を続けていた。途中、やはり同じ目的の密造機械人・ゼロに宇宙船を乗っとられるが、永い航海のうち不思議な連帯感が生まれる。ついにアレイにたどりついて宇宙全体のすべてのものの意志・総意に出会う３人。そこで総意に見せられたものは……。つくば科学博で上映された作品。

原作・設定・総監督／松本零士■ゼネラルプロデューサー／内藤敏夫■脚本／馬嶋　満、松本零士■監督／森下孝三■ハンド・アニメーション製作／東映動画株式会社　作画監督／小松原一男　美術監督／田中資幸　撮影監督／高梨洋一■音楽／西村ユリ■ＥＤ「We Will be one someday」作詞／冬杜花代子　作曲／西村ユリ　歌／下成佐登子■企画・製作／（財）国際科学博覧会協会、（財）ＮＨＫサービスセンター■声の出演　まゆ（麻上洋子）　めぐる（戸田恵子）ほか

NO. 16 「うる星やつら」ファンクラブ大会

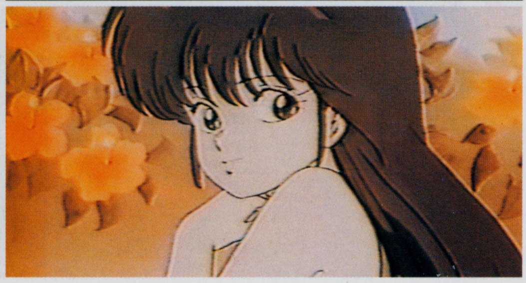


85年９月ほか

〔内容・解説〕キティ・フィルムの運営する〝うる星やつらファンクラブ〞は、テレビシリーズの名場面集に若干の新作を加えた「了子の９月のお茶会」を全国のイベントで上映。その後〝キティ・アニメーション・サークル〞と名称を変えた同団体は、「アイム・THE・終ちゃん」「うる星やつら'87夢の仕掛人・因幡くん登場！　ラムの未来はどうなるっちゃ!?」「渚のフィアンセ」「怒れ！　シャーベット」などを製作・上映、現在も活動中である。

〈了子の…〉監督／やまざきかずお　総作画監督／もりやまゆうじ　〈アイム…〉ディレクター／やまざきかずお　作画監督／やまざきかずお、遠藤麻未、森山ゆうじほか　〈夢の仕掛人…〉脚本／小出一己、今泉俊昭　監督／出崎　哲　作画監督／小林ゆかり　〈怒れ…〉監督／四分一節子　キャラクターデザイン、絵コンテ、作画監督／西島克彦　〈渚の…〉監督／四分一節子　キャラクターデザイン、絵コンテ、作画監督／四分一節子　以上、全て株式会社キティ・フィルム作品

NO. 17 少年ジャンプまつり

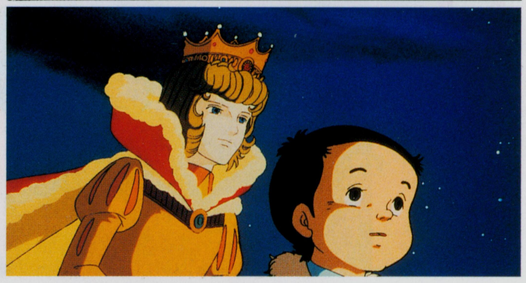


85年11月23日ほか

［内容・解説］一弥とひかるにせがまれて沖縄にやってきた恭介、まどかの一行。だが、オジャマ虫の勇作もついてきたりして、この夏も恋の混線模様か……。海辺でひかるのそばから離れない恭介に、まどかはいささか不機嫌ぎみ。恭介ひとりがいい目を見ていることに面白くない勇作は、一弥と共謀して恭介を陥れようとする。少年ジャンプまつりで上映された作品で、あわせて「こちら葛飾区亀有公園前派出所」もはじめてアニメ化され、上映された。

〈きまぐれ…〉原作／まつもと泉■脚本／伊藤和典■監督／望月智充■キャラクターデザイン／高田明美■作画監督／後藤真砂子■音楽／米本　亮■ＯＰ、ＥＤ作詩／松井五郎、岡田富美子作曲／山川恵津子唄／河内りえ■アニメーション制作／スタジオぴえろ■声の出演　恭介（水島　裕）ほか
〈こちら葛飾…〉原作／秋本　治■脚本／小山高男■監督／笹川ひろし■作画監督／二宮常雄■制作／竜の子プロダクション■声の出演　両津（内海賢二）ほか　以上、製作／集英社

NO. 18 雪国の王子さま

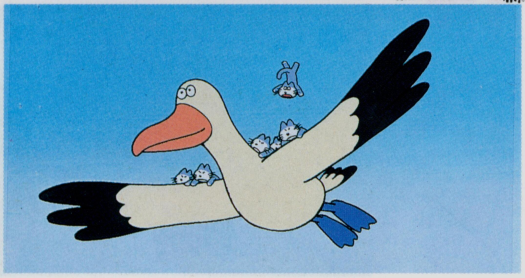


85年12月21日　株式会社信濃企画配給　１時間28分

［内容・解説］北国の少年・吾一と妹のユキ、ガキ大将のタケシは、シベリアから渡ってきたみなし子の白鳥〝ハナグロ〞と友だちになった。そのハナグロが野犬に襲われて大けがをしてしまう。そばに吾一がいたのだが、弱虫のために野犬を追い払うことができなかったのだ。しかし夢のなかにあらわれた雪国の王子さまの励ましによって、吾一はハナグロや白鳥たちを助ける勇気と、希望あふれる少年に成長していく。池田大作原作の長編アニメーション。

原作／池田大作■製作／吉成孝昌、萩野豊太郎■企画／吉成孝昌、湯澤正二■プロデューサー／荻野豊太郎■脚本／芹川有吾、島藤忠弘■監督／勝間田具治■キャラクターデザイン／香西隆男■作画監督／香西隆男■美術監督／内川文広■撮影／町田賢樹■編集／吉川泰弘■音楽／横山菁児■主題歌／「友よはばたけ」作詞／富士見やすお　作曲／横山菁児　歌／川島和子■録音／波多野　勲■製作／株式会社信濃企画　（協力）／東映動画■声の出演　吾一（伊倉一恵）ほか

NO. 19 11ぴきのねことあほうどり

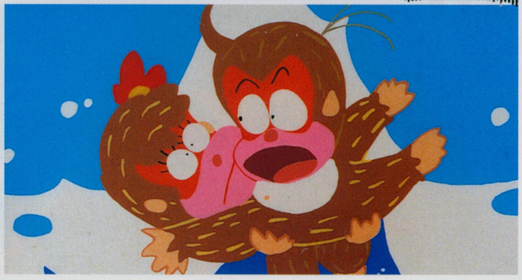


86年８月27日　ヘラルドエンタープライズ配給　地方公開　１時間30分

［内容・解説］猫の町のトラネコ大将と10匹の仲間がコロッケ屋を開店。大繁盛するが、すぐに飽きられて毎日自分たちでコロッケを食べるありさま。〝たまには鳥の丸焼きが食べたい〞と思ったそのとき、旅の途中のあほうどりが現れ、国にいる10羽の兄弟姉妹にコロッケを食べさせたいという。あわよくば、11匹の鳥の丸焼きにありつけると、11匹の猫は、あほうどりの国へコロッケ作りに向かう。馬場のぼるの人気絵本シリーズ「11ぴきのねこ」第２作のアニメ化。

原作／絵本「11ぴきのねことあほうどり」　馬場のぼる■製作／古川博三、田代敦巳　プロデューサー／伊藤正昭、対木重次　制作／藤田　健■脚本／鈴木良武■監督／小華和ためお■アニメイション／江口摩吏介■美術／青木　稔■撮影／ぎゃろっぷ■音楽／篠崎秀樹■挿入歌「キャッツ・ダンス」ほか作詞／大津あきら　作曲／西島三重子　歌／酒井雅子■音響／田代敦巳■製作／ヘラルド・エンタープライズ、グループ・タック■声の出演　トラネコ大将（古谷　徹）ほか

NO. 20 100ばんめのサル

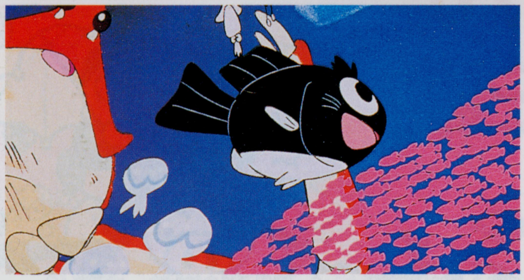


86年５月25日等　東京メディアコネクションほか配給　20分

［内容・解説］日本の南の島・幸島に住むサルたちは、いつもサツマイモの奪いあいをしている。ケンカのあとイモはいつも砂だらけ。あるとき１匹の猿が、偶然海でイモを洗って食べることをおぼえる。しだいに年寄りのサルまでその行為が浸透していき、100ばんめのサルがイモを洗うことをおぼえたとき、不思議なことに海を越えた他の島のサルも、いっせいにエサを洗うようになった。人間社会をサルたちの社会にたとえた反核アニメ。国際平和年記念作品。

原作／ケン・キース・ジュニア　〝The Hundredth Monkey〞■プロデュース／伊藤正昭、宇田川東樹■脚本／櫻井正明■構成・演出／安斉一夫■キャラクター・アニメーション監督／尾崎真吾■撮影／（株）ティ・ニシムラ、田村　実■編集／鵜飼邦彦■音楽／篁　ゆき■主題歌「遠い世界に」作詞・作曲／西岡たかし■音楽スタジオ／アバコクリエイティブスタジオ■音響監督／水本　完■製作／（株）シネマ・ワーク、東京メディアコネクションズ（株）■ナレーター（吉永小百合）

NO. 21 がんばれスイミー



86年８月10日　26分

［内容・解説］サザエさんごの周りで暮らす小さな赤い魚の兄弟たちのなかに、〝スイミー〟という名の真黒な魚がいた。ある日、マグロに追われて仲間たちとはぐれたスイミーは、海のきらわれ者の大ダコやウツボを、大きな群をつくって追い払ったイワシのすばらしい知恵と勇気に感動する。みんなのもとへ戻ったスイミーは、イワシのように群れをつくって泳ごうと提案する。原作は、小学２年生の教科書に採用され、優良図書として全国の図書館で読まれている。

参考／レオ＝レオニ作「スイミー」■制作／村田耕一■プロデューサー／米川功真■企画／ボビー企画■脚本／井口秀樹■演出、キャラクターデザイン、原画／尾鷲英俊■美術／椋尾　篁■音楽／佐藤秀夫（キングレコード）■主題歌・子守歌　作詞／名村宏　作曲／いけたけし　歌／子門真人　（スペース映像）■録音／関　和男（プランニング・ズウ）■制作／オープロダクション

NO. 22 お月さんももいろ

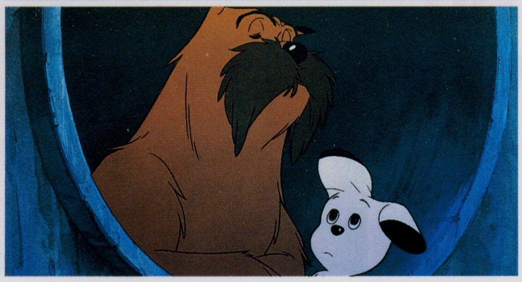


86年９月28日　24分

［内容・解説］昔、四国・土佐の月灘というところに、祖父とふたりで暮らしていた〝おりの〟という娘が、土佐藩の秘密とされている、ももいろ珊瑚をひろった。おりのは庄屋によびだされ、珊瑚を奉行に差しだせと命令される。しかし珊瑚は祖父の病気をなおすため、薬の代金として山の猟師・与吉にあげてしまって手もとにはなかった。思いあまった〝おりの〟は、海に潜って別の珊瑚をさがそうとする……。日本創作民話人形アニメシリーズの第２作。

原作／松谷みよ子（ポプラ社刊）■企画・制作／野原嘉一郎　河野秋和■制作／田川和生■脚本・監督／河野秋和■人形デザイン／小室一郎■アニメーター／荒木靖一、渡辺雅子■美術／野呂真一■撮影／田村　実■照明／上村栄喜■音楽／長沢勝俊■製作／共同映画株式会社・（株）ビデオ東京プロダクション■（声の出演）　おりの（志村直理）　おじい（平野修司）　与吉（三浦義則）　おばさん（栗山千栄）　浦のおじい（鹿島伸往）　語り（小栗由里子）　協力／劇団仲間

NO. 23 ほえろブンブン

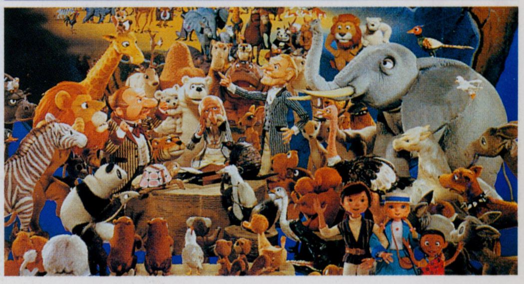


87年４月　１時間５分

［内容・解説］ブンブンはひとりぼっちの捨て犬。木箱に入れられて捨てられていたところを野良犬のノラおじさんと出会う。毎日のエサさがし、野良猫との闘いなど、都会で生きてゆく知恵を教わりながら成長するブンブン。出会いの喜びと驚き、助け合って生きることのすばらしさを描く動物物語。「どっぺんぱらり」「オサムとタエ」など、子どもたちに対する優しいまなざしを大切にする作家・村野守美の漫画が原作。

原作／村野守美（汐文社刊）■監督／平田敏夫■作画監督／兼森義則■美術／青木勝志■音楽／小森昭宏■主題歌「小さい犬」「ほえろブンブン」（コロムビアレコード）■音響監督／明田川　進■製作／マッドハウス、マジックカプセル

NO. 24 SOSこちら地球

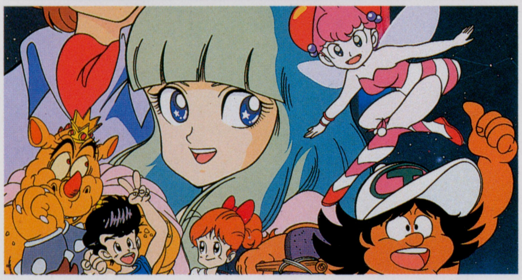


87年６月27日　共同映画全国系列会議配給　１時間８分

［内容・解説］199X年のある日、北極付近の海上で国籍不明の核ミサイルが爆発。世界中に非常事態宣言が発せられ、パリで世界首脳会議が開かれた。しかし対立する二大国は核の廃止をめぐってともにゆずらない。戦争のたびに被害を受けている動物たちは、パリにのりこんで動物会議を開き、世界主脳会議の人間たちに自然破壊をやめ、核兵器を廃絶して戦争を二度と行わないことを要求する。原案になったのは、エーリヒ・ケストナーの「どうぶつ会議」。

原作／エーリヒ・ケストナー「どうぶつ会議」岩波書店刊より■製作／野原嘉一郎■プロデューサー／田川和生■脚本／加藤　盟■監督／河野秋和■人形デザイン製作／小室一郎■アニメーター／田畑博司、荒木靖一■美術／野呂真一■撮影／伊丹邦彦■照明／上村栄喜■音楽／あかのたちお■録音／小林賢■製作／共同映画全国系列会議■声の出演　ゾウ（嶋　俊介）　ライオン（納谷六朗）　太郎（坂本千夏）　チャド（渕崎ゆう子）　博士（辻村真人）　レポーター（神谷　明）ほか

NO. 25 Bugってハニー メガロム少女舞4622

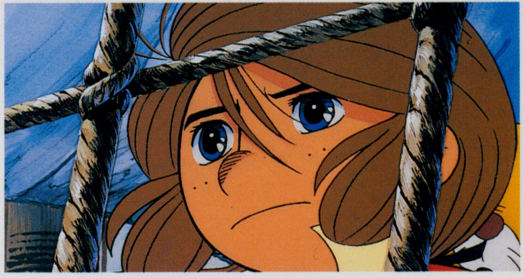


87年７月21日　株式会社ハドソン配給　48分

［内容・解説］ここはトイコンワールド。巨大鉛筆型コンピューター〝ハニコム〟によって平和が保たれ、住民はみな、メモリーを持つコンピューター人間である。リオは住民のメモリーの修理の仕事をしていたが、リオの恋人・メガロム少女マイのメモリーがダイキュラーに奪われてしまう。ダイキュラーは、マイのメモリーを自分のコンピューターD51に使い、マイをコントロールして高橋原人を倒そうとしていたのだ……。

製作／工藤裕司■プロデューサー／加藤俊三、植松逸雄■脚本／岡　かすみ■監督／永丘昭典■絵コンテ／奥脇雅晴■キャラクターデザイン／前田　実■美術／横山幸博■撮影／高橋宏固■音楽／筒井広志■主題歌「わたしと踊ってくれませんか」作詞／岡かすみ　作曲／小林亜星　歌／荘　真由美■製作／株式会社ハドソン、東京ムービー新社■キャストマイ（荘　真由美）　リオ（難波圭一）　高橋原人（水島　裕）　ハニー・ビー（神代智恵）　ワンナップ（三ツ矢雄二）ほか

NO. 26 宝島



87年５月９日　共同映画全国系列会議配給　１時間30分

［内容・解説］イギリスのとある小さな港町にある「ベンボー亭」を、母とふたりで守る少年・ジムの夢は、父のような立派な船乗りになること。ある日、ビリーという船乗りが宿に現れて住みつくが、謎めいた言葉を残して死んでしまう。男が残した衣類箱には古い羊の皮に描かれた地図があった。それこそ、大海賊フリントの宝の地図だった。この地図をもとに、ジムの船乗りとしての冒険の旅がはじまる。有名な海洋冒険物語のアニメ化。

原作／ロバート・ルイズ・スティーブンスン■脚本／山崎晴哉、篠崎　好■構成・監督／竹内啓雄■協力監督／出崎　統■作画監督／杉野昭夫■美術／小林七郎■撮影／高橋宏固■音楽／羽田健太郎■作詞／岩谷時子■録音／山田悦司■製作／東京ムービー新社■声の出演　ジム・ホーキンス（野沢雅子）　ジョン・シルバー（羽佐間道夫）　リブシー（家弓家正）　トレローニ（滝口順平）　グレー（中尾隆聖）　ビリー・ボーンズ（青野　武）　スモーレット（仲村秀生）ほか

NO. 27 かばのポトマス



88年月日不詳　25分

［内容・解説］ポトマスは、人間の言葉をしゃべる利口なカバ。マキとトシはポトマスがしゃべることを秘密にしていた。ある日、池に落ちた子どもを助けたポトマスは、思わず言葉をしゃべってしまう。ポトマスがしゃべるのを聞こうと、たくさんの人々がつめかけ、追いまわされたポトマスは病気になってしまう。動物と話したいという、子どもの永遠の夢をテーマに、ペットなどを粗末にあつかう世相に対し、チクリとした皮肉もこめられている。

原作／米川功真■脚本／横田与志■演出／杉山　卓■作画監督／才田俊次■美術監督／鈴木森繁■撮影／ティニシムラ■編集／井上和夫■主題歌　作詞／名村　宏　作曲／渡辺岳夫■音響監督／山田悦司■製作／オープロダクション■声の出演　ポトマス（水島　裕）　マキ（佐久間レイ）　マキの父（塚田正治）　トシ（野沢雅子）　ねこのトマト（中尾隆聖）　園長（鈴木清信）　獣医（辻村真人）　博士（北村弘一）　カツエ（吉田理保子）　記者（岡俊彦）

NO. 28 はれときどきブタ

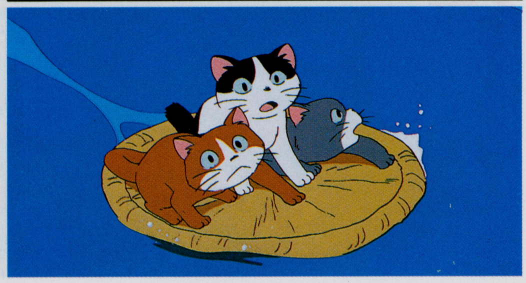


88年8月23日　映画センター全国連絡会議配給　1時間14分
併映／おばけうんどうかい

［内容・解説］主人公の畠山則安は、どこにでもいそうな小学3年生。彼のとりえは毎日欠かさず日記をつけていること。しかし、その日記をこっそり母親に読まれているのを知った即安は、デタラメの「あしたの日記」をつけて、びっくりさせることにした。ところが日記に書いたデタラメが現実になってしまう。金魚が空を飛んでアカンベーしたり、ぶたが空からふってきたり……。奇想天外なストーリーで、子どもたちに圧倒的人気を得た矢玉四郎の原作をアニメ化。

原作／矢玉四郎「はれときどきぶた」ほか（岩崎書店・刊）■製作／児玉敬一・村田耕一■企画／倉田幸雄・米川功真■プロデューサー／杉山　豊・浅利義美■脚本／竹内啓雄、高屋敷英夫■監督／平田敏夫■キャラクターデザイン・作画監督／小松原一男■美術監督／門野真理子■テーマソング「こころ宇宙」唄／ぶうびいぷう　ほか　作詞／矢玉四郎作・編曲／柳田ヒロ■音響監督／山田悦司■製作／株式会社学習研究会・オープロダクション■声の出演　畠山則安（浪川大輔）ほか

NO. 29 シーキャット

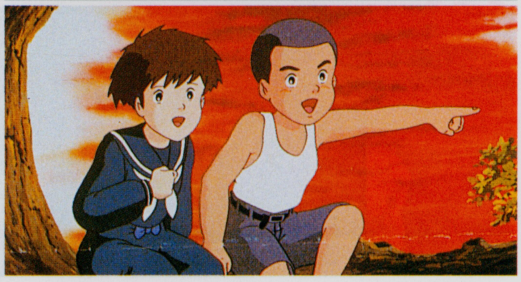


88年月日不詳　20分

［内容・解説］3匹の子ネコが川に流され、生き残った1匹の子ネコは海にでて、ラッコの母親に育てられる。すっかりラッコの習性を身につけた子ネコは、ラッコの子としてたくましく生きて行く。ところが世界戦争がはじまり、ラッコたちの楽園も戦争にまきこまれる。閃光が光り、海が沸騰する。と、どこからともなく円盤があらわれてネコの子を収容し、宇宙へと去っていった。動画製作にあたっては、趣旨に賛同する多くアニメーターの、1人1カット運動によって作られた。

原作・脚本／杉山　卓■製作／瀬戸義昭・村田耕一・杉山　卓■プロデューサー／米川功真■監督／杉山卓■キャラクターデザイン・原画／才田俊次■動画／オープロダクション、タクプロダクション、ドラゴンプロダクション■美術／椋尾　篁■背景／ムクオスタジオ■撮影監督／岡崎英夫■編集／岡安　肇■主題歌　作詞・作曲／TARAKO　唄／子門真人・TARAKO■音響／山田悦司■製作／有限会社スペース映像、株式会社オープロダクション、株式会社デック

NO. 30 火の雨が降る



88年9月15日　にっかつ児童映画配給　1時間20分

［内容・解説］太平洋戦争末期の昭和20年、日本の主要都市のほとんどは米軍の空襲を受けて焦土と化していた。6月19日午後11時――、米空軍のB29爆撃機230機が静かに眠る福岡市を襲った。親子の手をとって防空壕に飛びこんだ友次は、夜空に降りそそぐ焼夷弾を見て叫んだ。「火の雨だ……火の雨が降る！」福岡空襲を記録する会が、在福各新聞社記者有志の協力のもとに刊行した記録証言集「火の雨が降った」を原作に作られた反戦アニメ。

福岡空襲を記録する会編「火の雨が降った」より　企画原案／九州映画センター■企画製作／瀬戸義昭、西村豊治、伊藤　叡■脚本／今泉俊昭、有原誠治■監督／有原誠治■キャラクター原案／長谷川法世■作画／小野隆哉■美術／明石貞一■音響／明田川進■協力／福岡空襲を記録する会、博多祇園山笠振興会■製作協力／福島県中小企業家同友会■製作／有限会社スペース映像、にっかつ児童映画株式会社、虫プロダクション株式会社■声の出演　ナレーション（米倉斉加年）ほか

第三部

ブームが来るまで、そして…

――昭和20年代から今日までアニメに出会った時と場所――

岡田英美子

1. ニュース映画館

テレビ世代の人々がみんな不思議に思うのは、「テレビのない時代はどうやってアニメを見ていたのだろう？」

ということのようだ。なにしろ、テレビという機器は、日本での放送開始が昭和28年（1953）であり、各家庭に一応普及するのが昭和34年（1959・皇太子御成婚中継）から39年（1964・東京オリンピック中継）までの間である。そのあとで生まれた人は、テレビのない社会を想像しにくい。どうやってアニメを見ていたのだろう？

海外のアニメーションに魅せられて、「自分も絵を動かしてみたい！」と日本で最初にアニメに挑んだ人々の最大の悩みはまさに、その〈どうやって人に見せるか〉であった。技術の研究・開発の苦労は覚悟の上だったとしても、決して少なくない制作費を回収して次の作品の資金に当てるには、多くの人に見てもらい、観客の反応や批評を知り、お金を得なければならない。しかし、大部分が短編アニメの時代、よほどの話題性がなければロードショウされるはずもない。

昭和11年（1936）に〈ニュース映画館〉というシステムができた。これは、すでに制作がはじまっていた週ごとのニュース映画を数本まとめ、これに短編科学映画や記録映画、短編アニメなどを添えて一時間半程度の番組とし、小さな映画館で低料金で見せる、というシステムであった。これでアニメや記録映画の小プロダクションはようやく上映ルートを見つけ、息をついた。

その週の世界情勢や外地の戦況、オリンピックや高校野球の名勝負、好試合を目のあたりにし、内外を問わず著名な政治家や芸術家、スターの動向、ファッションなどが要領よくまとめられたニュース。それは当時の人々にとって、知識欲も野次馬ごころも満たされる楽しいひとときであった。併映の記録映画やアニメ、これらは、ひっくるめて〈文化映画〉と総称されたが、これももちろん喜ばれた。ニュース、教養、娯楽と並ぶところは、そのまま後のテレビ番組の編成形式の原型ともいえよう。〈ニュース映画館〉は歓迎され、その後長く…それこそテレビが普及して、このシステムに魅力がなくなる昭和30年代中盤まで存続した。私たち古いアニメ・ファンがディズニーの短編や「トムとジェリー」に会っていたのはここである。東京だけでも銀座、新宿、渋谷、池袋、神田、新橋、八重洲口などにあった。銀座は今のマリオンの地下、最後にＡＴＧシアターになった日劇の地下の〈日劇文化〉で、これが昭和11年のニュース映画館第１号。ずいぶん長いこと活躍したミニシアターであった。各館お正月には子供を狙ってアニメが増え、昭和32年ごろの元日に都内を一巡して24本のアニメをかせいだ思い出もある。大画面用のアニメを大画面で見られたのは幸せだった。

しかし困るのは、上映しているアニメの題名が行ってみないとわからない。電話で問い合せた場合のブアイソさ、不親切さ、無理解。現に上映中の作品の題名も知らない商売不熱心さも凄かった。「知りたければ来てみればいいだろう」という返事が返ってくるコヤがあり、名作の短編を「つまらんから」と勝手にオミットしてしまうコヤさえあった。アニメへの愛情なんて夢であった。

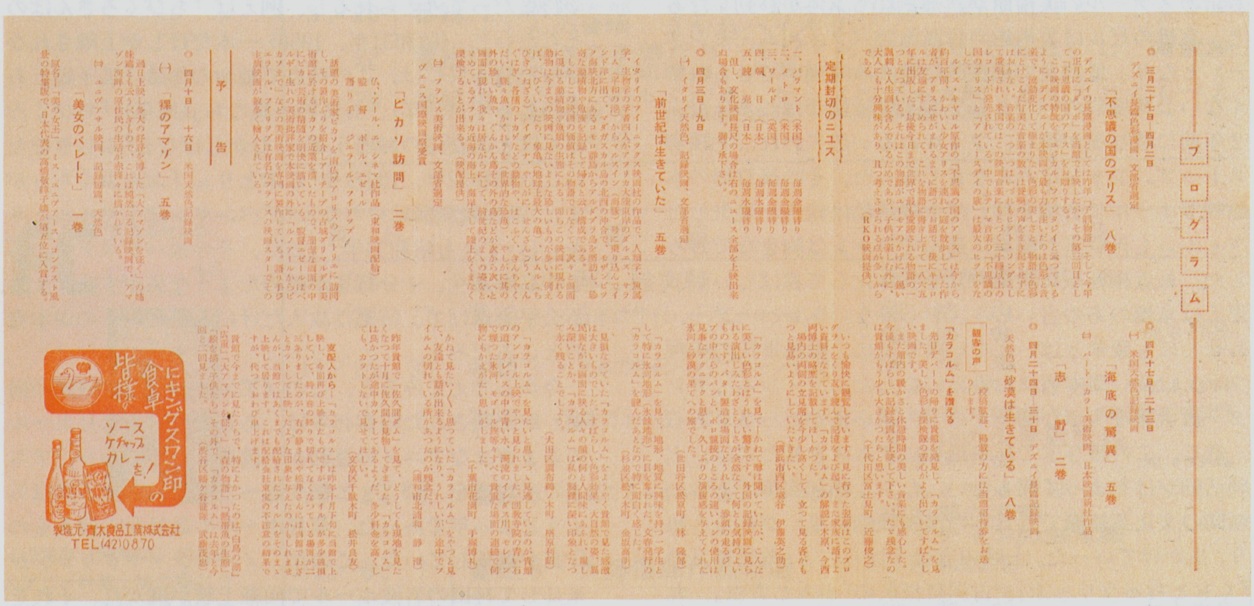
その中で、今ではポルノ映画館になってしまったが、東京駅八重洲口の観光文化ホール、ここは番組の選定も上映法も一級だった。ロードショウされた長編アニメや長編記録映画も上映したし、番組解説のリーフレットも充実していた。はっきりいって今のロードショー館にもこういうパンフがあれば、ピンボケのスチールと役にもたたないチョウチン批評なんかが載っている高いプログラムはいらない。しかも、このリーフレットはタダなのだ！　この劇場でどれほど勉強したか、はかりしれない。そしてここは、「ファンタジア」のスタンダード版上映という快挙をなしとげた東京唯一の映画館だ（昭和30年、日本初公開の「ファンタジア」がどれほど変なシステムで上映されたかは、現在話してもウソにしか聞こえまい）。観光文化ホールは、一ファンの声を受け止め、制作当時のままの姿の「ファンタジア」を上映してくれた。そういう支配人が当時存在したということを、私は語り伝える義務がある。なぜならその一ファンとは、私なのだから。

ただし、私たちが通いはじめてからのニュース映画館には日本のアニメは数えるほどしか現れなかった。それほど制作本数も少なく、大半が教育映画のルートで作られていたからであろう。視聴覚教育用、教材用の貸出フィルムの会社の在庫リストには、かなりの数のアニメが作者名も制作年度も不明のまま掲載されてはいたが、上映する場所も映写機も不十分なその時代では、少数ファンの自主上映会さえ、なかなかできなかったのである。



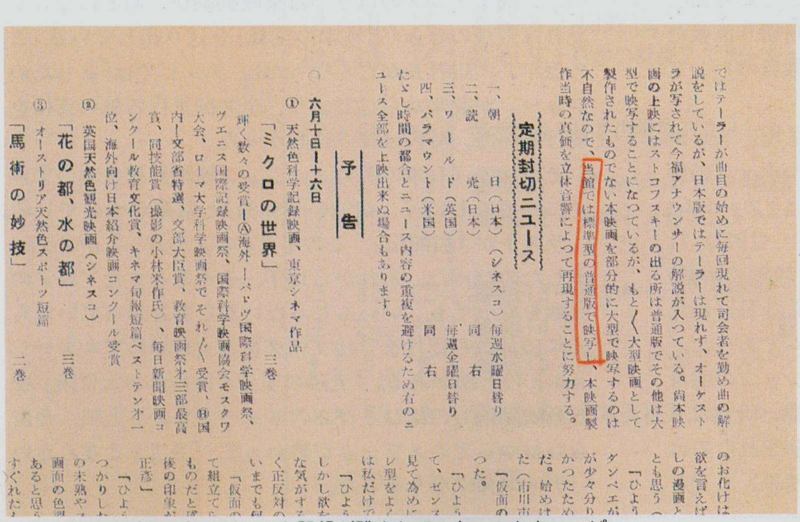
東京駅八重洲口の《観光文化ホーム》のプログラム

東京のニュース映画館のなかでも特に良心的で、作品選定がよかった観光文化ホール。こんなに中身の濃いチラシを作っていたのもここだけだった。この表紙のスチールは中国の民話に取材したソビエトのアニメ「三つの魔法」。ディズニーも東映動画も、長編は待っていれば必ずやってくれた。したがって「ダンボ」や「アリス」の表紙のチラシもあった。



三つ折りのプログラムを開くと、上映作品の解説や投書がぎっしり…

こういう内容のチラシを作っている映画館が現在でもないとはいわないが、少なくとも封切館では見られない。これがタダでもらえたら高いプログラムが売れなくなってしまうのは確かだ。だいたいプログラムというものは観賞の手引となり参考になるもののはずなのに、ちっとも役に立たず、しかも400円から500円もするプログラムが多すぎる。



いろんなことがあった。どこにも記録が残されていないこともいっぱい…

投書欄にはさまざまな人が熱心に上映作品の感想や意見を寄せており、そのためいつも観客が上映活動に参加している、という実感があった。休憩時間に投書を読みながら、自分と同じような意見の人がいると嬉しかった。自分の投書が採用されればなお嬉しい。たった一枚のチラシだが、その価値は大きかったのだ。アニメをめぐる思い出のなかで、この小さな映画館は静かに輝き続けている。

2. フィルム・センターの日々

東京中央区・京橋に国立近代美術館がオープンしたのは戦後7年目、ようやくさまざまな文化活動がさかんになってきた昭和27年(1952)であった。美術館の中には239席の映写室が設けられ、日本最初のフィルム・ライブラリーとして映画フィルム収集・上映活動の第一歩を踏み出した。昭和45年(1970)、千代田区北の丸公園・竹橋に数倍のスケールの美術館が新築されて本体が移動したあと、京橋のビルは美術館の付属施設〈フィルム・センター〉となり、低料金で系統的に映画の勉強ができる数すくない公共施設の一つとして本式に活動がはじまった。2年前に映写室が焼け、フィルムも一部失われ、上映もストップ。ファンはみんな青くなった。その後竹橋の本館映写ホールに会場を移して上映活動は続き、焼失したフィルムも再収集が順調に進んでファンは胸をなでおろした。最近相模原に新築の話も具体化して喜ばしいが、思えば京橋のあの古いビル、おっかないエレベーター、おせじにも豪華とはいえない映写室に、戦後世代の映画ファンは長い間本当にお世話になった。フィルム・センターは大事な大事な場所であり、思い出がどっさりある。

さて、この映写室で私が最初にアニメを見たのは、上映活動がはじまって間もない、たぶん昭和29年である。新聞の文化芸能欄で《日本の漫画映画特集》があると知り、出かけていった。上映内容はすばらしく、政岡憲三の「くもとちゅうりっぷ」、古沢日出夫の「小人と青虫」、丸山章治の「ムクの木の話」など、貴重な作品が並んでいた。「ムクの木」のスタッフ・タイトルに〈音楽・早坂文雄〉と出た瞬間の場内のどよめきは今も覚えている。ということは、やはり昭和29年、「七人の侍」封切り直後だったのだろう。残念なことに、この当時は独自のパンフもなく、資料が手許に何もない。

その後も適当なサイクルでアニメが登場した。ソビエト・アニメがずいぶん見られたし、カナダやチェコの作品もしばしばとりあげられた。最大の企画は〈フィルム・センター〉がスタートして間もない昭和46年(1971)11月から翌47年の2月までの《アニメーション映画の回顧》26プログラムと、昭和53年(1978)2月から3月にわたる《日本のアニメーション史》20プログラムであった。46年のオープニングに、わが国のアニメーションの前身である江戸の〈写し絵〉が、その保存と再現・研究の第一人者小林源次郎さんによって一日だけ実演されたのは楽しかった。この時は〈アニメーションの傍系〉として、竹田人形座の糸あやつり人形劇映画「明治はるあき」(監督・五所平之助)や大島渚が白土三平の劇画のコマを撮影した「忍者武芸帖」も上映されている。つまり、国産アニメの総本数が少なかったのだ。

46年の上映で特集が組まれた作家は亡くなって10年ほどたった大藤信郎だけであった。今から思うと政岡憲三の特集だって考えられるし、例えば「ちびくろさんぼのとらたいじ」(昭和31年、1956)一本だけしか上映されなかった持永只仁は、この時点で最初の作品「瓜子姫とあまのじゃく」(同年)、「五匹の子猿たち」(同年)、「ちびくろさんぼとふたごのおとうと」、むかしばなし「ふしぎなたいこ」(昭和32年、1957)や「こぶとり」、「ぶんぶくちゃがま」、南極観測開始にちなんだ「ペンギンぼうやルルとキキ」(いずれも昭和33年、1958)、その他バラエティのある作品があり、十分特集が組めたような気がする。まあ、不公平を避けて、特集は故人だけにしたというのが本当のところだろう。

今から考えてみると、この《アニメーション映画の回顧》が上映された昭和46年は、あとでのべる草月ホールのさまざまなアニメの運動が一段落した年であり、アニメの来た道を、「さて」と振り返って眺め、考えるにはちょうどよい年であった。草月ホールの歳月から何人もの作家が誕生していた。この年、ノーマン・マクラレンが来日して神田の岩波ホールで回顧上映が開かれ、それを見に集まった作家たちの語り合いの中から《日本アニメーション協会》が誕生し、すべてが活発に動きはじめていた。商業アニメのほうでは東映動画が、あとになって見れば最後の輝き「どうぶつ宝島」を送り出している(この翌年、大川社長が亡くなった)。テレビでは「あしたのジョー」が前年からはじまり、全共闘世代の熱い支持を受けていた。時代はまさに熱かった。

その次の《日本のアニメーション映画》は日本のアニメに内容をしぼり、〈1924－1958〉と副題がついている。

ラストが「白蛇伝」。この年《アニメージュ》がスタートしたのだった。あれから10年、そろそろまたアニメの回顧をやっても、いいんじゃないかなあと思っていたら、63年10月から12月まで40プログラム、《日本のアニメーション》の上映がある。「太陽の王子・ホルスの大冒険」など東映動画ものはひさびさのニュープリント上映。今度もいわゆるアニメブームが終わって、「さて」と考えるいいチャンスになりそうだ。



1971年（昭和46）のアニメーション特集の際のプログラム。表紙は久里洋二の作品とカナダのノーマン・マクラレンの「小鳥のファンタジー（つぐみ）」。いかにもその時代の感じだ。

月日	番組	作品
2／24	番組1	蟹満寺縁起　塩原多助　赤垣源蔵徳利の別れ　ノンキなトウサン竜宮参り　姥捨山　壷　病毒の伝播
2／27	番組2	蛸の骨　文福茶釜　魚の国　動物オリムピック　蛙は蛙太郎さんの汽車　ジラフの首はなぜ長い　四十人の盗賊
2／28	番組3	忠吉は帰った　二つの世界　おいらのスキー　おいらの野球　かふもり　猿正宗　黄金の花　難船ス物語・猿ヶ島
3／1	番組4	心の力　空の桃太郎　驢馬　タヌ吉のお話　レヴュー・春　狼は狼だ　豚平と猿吉　あひるの子　五一ぢいさん
3／2	番組5	兄弟こぐま　沼の大将　与七郎の敬礼　お猿の大漁　三公と蛸　のらくろ二等兵　動絵狐狸達引
3／3	番組6	絵本一九三六年　天狗退治　お猿三吉突撃隊の巻　元禄恋模様・三吉とおさよ　のらくろ一等兵　いなばの国の兎さん　月の宮の王女様　のらくろ伍長　ミー坊と狼
3／6	番組7	塙団右衛門化物退治の巻　忍術火の玉小僧・江戸の巻　凧さわぎ　新説カチカチ山
3／7	番組8	漫画のマン吉　マー坊の少年航空兵　マー坊の大陸秘境探検　空の荒鷲　新猿蟹合戦　べんけい対ウシワカ　あひる陸戦隊　三太と山賊
3／8	番組9	マー坊の鉄血陸戦隊　テク助物語・四十匹の狼　マリちゃん　お蝶夫人の幻想　ジャックと豆の木　動物防諜戦　スパイ撃滅
3／9	番組10	お猿三吉・僕等の海兵団　チュウ児の羽衣　なまけぎつね　かぐや姫　協力防空陣　敵機来らば
3／10	番組11	芋と兵隊　お山の総動員　マー坊の南海奮戦記　マー坊の落下傘部隊　桃太郎の海鷲　ニッポンバンザイ
3／13	番組12	くもとちゅうりっぷ　マレー沖海戦　お猿三吉闘ふ潜水艦　お猿三吉奮戦記　フクちゃんの潜水艦
3／14	番組13	蜘蛛の糸　森の鍛冶屋　狐とヒヨコ　マッチ売りの少女　すて猫トラちゃん　ムクの木の話
3／15	番組14	きつねとサーカス　きつねと子守唄　まさかりかついで　鶏になったポチ　トラちゃんと花嫁　ポッポやさん・のんき駅長
3／16	番組15	蛙と狐　ポッポやさん・のんき機関士　動物大野球戦　小人と青虫　トラちゃんのカンカン虫　ポン助腕くらべ　聖書幻想譜・アダムとイブ
3／17	番組16	魔法の靴　釈迦の生涯
3／20	番組17	浦島太郎　くじら　四十人の盗賊　ありとはと　トラちゃんの冒険　うかれバイオリン
3／22	番組18	五匹の子猿たち　ちびくろさんぼのとらたいじ　幽霊船　八岐の大蛇退治　大国主命といなばの兎
3／23	番組19	こねこのらくがき　かっぱのぱあ太郎　かもとりごんべえ　夢見童子　古事記物語・天孫降臨の巻
3／24	番組20	こうもり　白蛇伝



1978年（昭和53）の日本のアニメ特集上映の際のプログラム。表紙の作品は大藤信郎の「幽霊船」と東映動画の「白蛇伝」。

月日	番組	作品
11／25	番組1・写し絵実験	玉川文楽調布写し絵
11／26、27	番組2・日本のサイレントアニメーション(1)	姥捨山 蛸の骨　他6作品
11／29、30	番組3・日本のサイレントアニメーション(2)	猿が島 こありのいたずら　他4作品
12／1、2	番組4・日本のトーキーアニメーション(1)	証城寺の狸囃子、塙団右衛門 マー坊の少年航空兵 カチカチ山　他3作品
12／3、4	番組5・日本のトーキーアニメーション(2)	くもとちゅうりっぷ 桃太郎の海鷲 フクチャンの潜水艦
12／6、7	番組6・大藤信郎作品特選	こがねの花 くじら 幽霊船　他4作品
12／8、9	番組7・日本の戦後アニメーション(1)	狐とサーカス 小人と青虫 かっぱ川太郎　他5作品
12／10、11	番組8・白蛇伝	
12／13、14	番組9・日本の戦後アニメーション(2)	ひょうたんすずめ ねずみのよめいり プラス五万年　他2作品
12／15、16	番組10・日本の戦後アニメーション(3)	展覧会の絵 やさしいライオン　他3作品
12／17、18	番組11・アンデルセン物語	
12／20、21	番組12・影絵と人形アニメーション	お蝶夫人の幻想 ふしぎなくすり ビールむかしむかし　他5作品
12／22、23	番組13・アニメーションの傍系（人形劇）	明治はるあき
12／24、25	番組14・　〃　（劇画）	忍者武芸帳
1／5、6	番組15・テレビとCMアニメーション	鉄腕アトム テレビCM集
1／7、8	番組16・日本実験アニメーション(1)	人間動物園　― たばこと灰　他10作品
1／10、11	番組17・　〃　(2)	堅々嶽夫婦庭訓（カチカチヤマメオトノスジミチ） 幻影都市　他10作品

3. 朝日文化映画の会

話は少しもどる。太平洋戦争が昭和20年に終わり、米軍に占領された状況が続いた。また、徹底的に破壊された生産・経済体系の再建に時間がかかった。占領体制が終わり、すさまじいインフレがどうやら終息し、まだ日本中が貧しかったけれど、新しい建設や文化活動がやっとはじまろうとしていた。

キネマ旬報のベストテンに、短編映画の部が設けられるのが昭和29年(1954)。この年は映画そのものが急上昇のさなかで、「ゴジラ」と「七人の侍」が封切られた記念すべき年でもある。その時点で戦後最大の建設プロジェクトの記録映画「佐久間ダム」が大きな話題を呼び、これがキネ旬ベスト・テンに短編部門を作るキッカケになったと思われる。またこの年には第1回の教育映画祭が開かれ、教育用短編映画のコンクールや制作スタッフの表彰が行われ、入賞した優秀作の上映会が開かれた。これも人気を呼んだが、特別企画《国際短編映画祭》では世界各国の観光映画、美術映画、科学映画、PR映画などが上映された。それらはいわゆる教育映画のパターンに慣らされていた観客には新鮮な衝撃であった。中でも第2回に「算数あそび」で登場したノーマン・マクラレンのショックは最大のもので、この前に東和映画から公開されていた「線と色の即興詩」と並んでアニメファンの意識を大きくゆすった。アニメーションはそのイメージをこのあたりで大きく変えてゆくのだが、他方、日本の非商業短編アニメは、半分自動的に教育映画、従ってドキュメント、記録映画のジャンルに分類されて、長い間そのままになってしまう。

こうした文化映画・教育映画祭、国際短編映画祭などの上映が行われたのは、主として昭和28年に完成したピッカピカの銀座・ヤマハホールであった。楽器屋さんのホールだけあって今でも音響効果がいい。まして当時は抜群だった。そして、こうした文化映画の運動を常にバックアップしていたのは朝日新聞だった。朝日は昭和30年(1955)になると《朝日文化映画の会》をスタートさせる。毎月テーマを決めて選んだ作品を数本、時には長編も上映した。会場は新宿の伊勢丹デパートのホール。伊勢丹には現在ホール設備はないが、当時は7階の一部がシート約500の小ホールであった。最初は1時半・3時半の二回、やがて勤め人のために5時半の回が増えた。この回の終映後の出口は、デパートの閉店後のため非常階段であり、良い作品の感想を語りあう声があちこちから聞こえ、感動の余韻がただよう狭い階段をみんなで7階からぞろぞろ降りてゆくのはいい感じであった(しかし、5時半の会はのちに6時半に変わり、この回だけ有楽町・朝日講堂で上映された)。おかしなことに、12月になるとホールはお歳暮の商品倉庫に早変わりしてしまい、したがって会はお休みになった。

この会にはしばしばアニメが登場した。スタートして間もない第4回《幻想の世界へ》(昭和30年10月10日)はイギリスのデイヴィッド・ハンド(この人はディズニーの「白雪姫」の総監督)の「テームズ河」、ピーター・フォルデスの「原子狂時代」、大藤信郎の「くじら」、丸山章治の「ムクの木の話」、そしてチェコのカレル・ゼーマンの「水玉の幻想」ほかフランスの実写映像詩2本という豪華番組であった。

考えてみると日本の非商業アニメが、こんな場所で大勢の観客を前に上映されたのは戦後最初ではあるまいか。日本のアニメ作家たちは、生活のために大多数の人々が教育・教材映画に生きる道を求めたが、そのため教訓的ではあっても、しごくイマジネーションにとぼしい、アニメ・マインドから遠い作品が多く、授業ならともかく、大人の鑑賞にたえうる作品は数えるほどしかなかったのだ。ついに、この前後、鑑賞にたえる作品が登場してきた、というわけ。もっともこの会はマジメな人が多かったのか、アニメ上映には関心が薄く、たいがいどっと空席が増えるのが常だった。

持永只仁の「五匹の子猿」、飯沢匡の「ビールむかしむかし」などはこの会で見ることができた。昭和38年(1963)7月には第100回記念として、朝日講堂でトルンカの「真夏の夜の夢」(もちろんワイド版)が堂々と上映された。昭和41年(1966)3月の第132回には、ついに、《世界のアニメーション》というテーマが現れる。ポーランドの「小さなウェスターン」、カナダの「算数あそび」、中国の「おたまじゃくしがお母さんを探す」にまじって、日本は岡本忠成の「ふしぎなくすり」と東映動画の「わんぱく王子の大蛇退治」。ずいぶん豪華な番組なのに、やっぱりガラガラ。この会は昭和43年(1968)で終わる。しかし、このころから〈アニメーション〉という言葉はどうやらマスコミに認知され、〈漫画映画〉という言葉に代わって使われはじめるのである。

さすがに主催が新聞社だけあって、紙質も活字も段の組み方も母体の朝日新聞とまったく同じという会報。いま取りだしてみると当時の活字は小さかったなあ、と驚く。新聞の活字も時代とともに、だんだん変化しているのだ。会報はある時期から新聞用の紙をやめ、紙質を向上させた。以来、掲載される写真もぐっと鮮明になった。日本が豊かになってきたのである。



大藤信郎「くじら」を上映した日



「わんぱく王子の大蛇退治」登場



映画評論家・飯田心美氏の連載記事



氏はアニメ好きの評論家だった

当時は、アニメーションについての雑誌はもちろんのこと、資料らしい資料も参考になる本もほとんどない、という時代だった。そこでこうした記事はたいへん勉強になり、ありがたかった。もっとも書き手とこちらの感覚のギャップはかなりあったけれど……

第４回上映会　（テーマ～幻想の世界へ）		'55年10月11日
くじら	１巻	製作／千代紙映画社　作画・演出・撮影／大藤信郎
ムクの木の話	22分	製作／東宝教育映画部・湯原甫　脚本・演出／丸山章治　動画／若林敏郎・上野武雄

第20回上映会　（テーマ～原子力）		'56年９月１日
五匹の子猿たち	17分	製作／電通映画社・人形芸術プロダクション　脚色・演出／飯沢匡　人形製作／川本喜八郎　人形操作／持永只仁　セロファン影絵／大藤信郎

「黒の牝牛」と「文化映画」　特別鑑賞会		'57年７月14日
ちびくろさんぼのとらたいじ	18分	製作／電通映画社・人形映画製作所　脚本／村治夫　演出／持永只仁　人形製作／川本喜八郎

第47回上映会　（テーマ～自然を探る－気象と生活－）		'59年２月21日
日本の気象	18分	製作／日本視覚教材映画　演出／岡本昌雄　動画／村田映画社

第49回上映会　（テーマ～人形劇映画特集）		'59年４月21日
注文の多い料理店	18分	製作／学研映画部　脚本／神林伸一　演出／小野豪　人形／高山良策

第55回上映会　（テーマ～教育映画祭受賞作品）		'59年10月20日
ポロンギター	27分	製作／学研映画局　脚本・演出／小野豪　人形アニメーション／有馬征子、新免郁子、千原玲子

第68回上映会　（テーマ～教育映画祭受賞作品）		'60年11月15日
いなかねずみとまちねずみ	９分	製作／学研映画局　脚本・演出／渡辺和彦　作画／清水耕造
マリン・スノウ	１巻	製作／真鍋博　脚本／木島始　演出／真鍋博

第80回上映会　（テーマ～教育映画祭受賞作品）		'61年11月７日
かぐや姫	27分	製作／学研映画局　脚本・演出／渡辺和彦　美術構成／清水耕蔵

第91回上映会　（テーマ～美術の秋）		'62年10月16日
あっちはこっち	25分	製作／久里漫画実験工房　脚本・演出／久里洋二

第104回上映会　（テーマ～教育映画祭最高賞受賞作品）		'63年11月１日
セロひきのゴーシュ	19分	製作／学研映画局　脚本・演出／神保まつえ　人形アニメーション（ゴーシュ）飯田純子、（動物・楽長）和田京子

第119回上映会　（テーマ～くらしの手帖）		'65年２月18日
新しいガス源を求めて		製作／松山広昭　脚本／牧哀　監督／時枝俊江　アニメーション／真鍋博

第129回上映会　（テーマ～教育映画祭受賞作品鑑賞会）		'65年11月25日
つるのおんがえし	17分	製作／学研映画局　脚本／神保まつえ　演出／渡辺和彦　人形アニメーター／秋山純子、和田京子

第132回上映会　（テーマ～世界のアニメーション）		'66年３月22日
ふしぎなくすり	14分	製作／電通映画社　脚本／村治夫　演出／岡本忠成　人形アニメーション／岡本忠成、園哲太郎　真賀里文子
わんぱく王子の大蛇退治	85分	製作／東映動画　脚本／池田一朗・飯島敬　原画監督／森康二　原画／古沢日出夫、熊川正雄　森康二他

第133回上映会　（テーマ～科学の窓）		'66年４月15日
ふしぎなちから	26分	製作／理研映画株式会社　脚本・監督／岩堀喜久男　撮影／後関英男

第142回上映会　（テーマ～人間のあゆみ）		'67年１月25日
一寸法師	14分	製作／東京中央人形劇場　脚本・監督／高橋克雄　人形／上田悌三　アニメーション／那須誠代

4.《東映動画》のスタートによる変化

《東映動画》の発足は昭和31年（1956)。それまでにもアニメの企画や完成作品を大手映画会社に売りこんで興業ルートに乗せ、映画館で公開されたアニメの例は少なくないが、全国に封切り館を持つ映画の大会社自身がアニメ制作部を備え、毎年１本か２本、定期的に長編アニメを自主制作し、公開して行く、というのはまさに画期的なことであり、日本のアニメ史上の大事件であると同時に大きな曲がり角であった。日本のアニメ史はここから新世紀に入る。

東映は《日本動画》という会社を吸収し、これが《東映動画》の基礎となった。この会社の代表は日本のアニメのパイオニアの一人、山本早苗(のち改名して善次郎)であった。《日動》は東映教育映画用に短編「うかれバイオリン」を制作したところ好評で、次はひとつ長編を…という話が持ち上がり、それならばいっそ〈会社ぐるみ移動しましょう〉ということになって《日動》は大資本の東映にそっくり吸収され、経営の安定を得て、《東映動画》としてスタートした。当時の社員は23人だった。

発足時の傑作はモノクロの「こねこのらくがき」。森やすじのキャラクターによる子ネコのかわいらしさ、線画のらくがきが動きだすのは今見ても新鮮で楽しい。そして昭和33年（1958）10月、２年半がかりで完成した日本アニメ史上最初のカラー長編「白蛇伝」が発表される。これに先だつ同年４月、東映教育映画部からも、東映最初のカラー短編「夢見童子」が同じスタッフによって発表されている。これは抒情画家として一時代を築いた蕗谷虹児の絵を使い、蕗谷自身が演出にもタッチした記念すべき作品。天平時代の少年少女を主役とし、いじわるには悪夢を、やさしい子には美しい夢を贈るふしぎな童子の、ミュージカル風ファンタジーだった。

《東映動画》は、このあと長期にわたってコンスタントに長編アニメを制作・公開し続けた。当然、最初の《日動》スタッフでは足りるはずがなく、「白蛇伝」制作開始あたりから新人を募集、養成しながら制作スタッフに加え、これを繰り返して大所帯になっていった。現在の日本の商業アニメを支えるアニメスタッフの大半は、この時東映動画で育った人々である。

こうして《東映動画》は軌道にのり、長編アニメの新作を毎年封切って日本のアニメ史を大きく書き替え、華やかな軌跡を描いた。封切り館を持っているということがいかに大きいかは、《東映動画》以前からスタートしていた漫画家横山隆一の《おとぎプロダクション》が、話題こそ提供したものの、成果は不十分だったことを見てもわかる。作品の質と公開方法がマッチしないのに、従来のアニメプロとおなじように映画会社へ売りこむしか上映の道がない、また当時はそれしか考えられなかったという点が、《おとぎプロ》の悲劇であった。個性ゆたかな漫画家の独立プロが大資本の《東映動画》に対抗して進む道は、あとになって考えれば、もっと違うコースがあったような気がする。

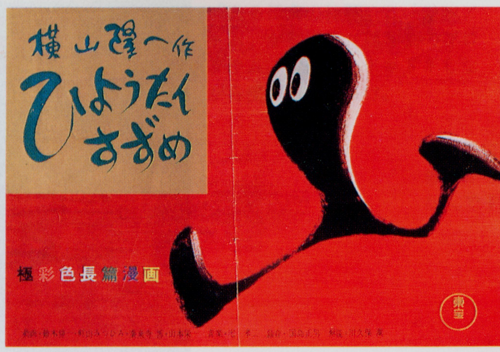
こちらは東宝の劇映画との２本立てであったが、あんまりいい作品と組み合わせてもらってはいない。東宝にとっては儲けにつながる映画ではなし、出資して制作路線に組み入れ、東映と張り合おうという意欲もなく、まあ、お荷物だったに違いない。アニメの独立プロの方法論が成り立つ時代は、もっとあとなのだった。結局、早すぎたのである。

《東映動画》のスタートによって起きた変化は、アニメーションを目指す人々を、まとまって受け入れる場所が作られたこと、ここで育っていった人々が、数年後に旧時代のアニメスタッフとまったく違う発想と感覚で新しいアニメを作りはじめ、それが結局日本のアニメそのものを変えていった、ということに尽きる。教育映画用アニメを作る以外にほとんど生きる道がなかった旧時代の人々、それだけに自主規制されていったギャグやアクション、育たなかった奔放な飛躍やファンタジー……。

これに対して、まずディズニーの「白雪姫」や「バンビ」、フライシャー兄弟の「ガリバー旅行記」、ソビエトの「せむしのこうま」などに魅了され、自分もこんな作品を生み出したい、作り上げる作業に参加したいと夢みてアニメを志した若者たちが、アニメそのものに対して抱いたイメージと意欲は、旧時代のそれとは根本的に違っていたはずである。その〈違い〉がついにはっきりと作品の形をとったのが「わんぱく王子の大蛇退治」であり、「わんわん忠臣蔵」であり、《東映動画》のテレビアニメ第一作「狼少年ケン」である。これらの作品が登場する昭和38年（1963)、つまり「鉄腕アトム」出現の年こそ、《東映動画》も含めた日本のアニメそのものの、次なる大転換期だったといえるだろう。そして、東映封切館で夏休み春休みに長編アニメを見て育った子供たちが、その次のアニメ世代を形成していくのである。



おとぎプロのプレスシート。頭でっかちな蛙の子の物語「ふくすけ」



おとぎプロ最初の長編「ひょうたんすずめ」のプレスシート。ひょうたんから出てくるオバケ。鈴木伸一の絵。



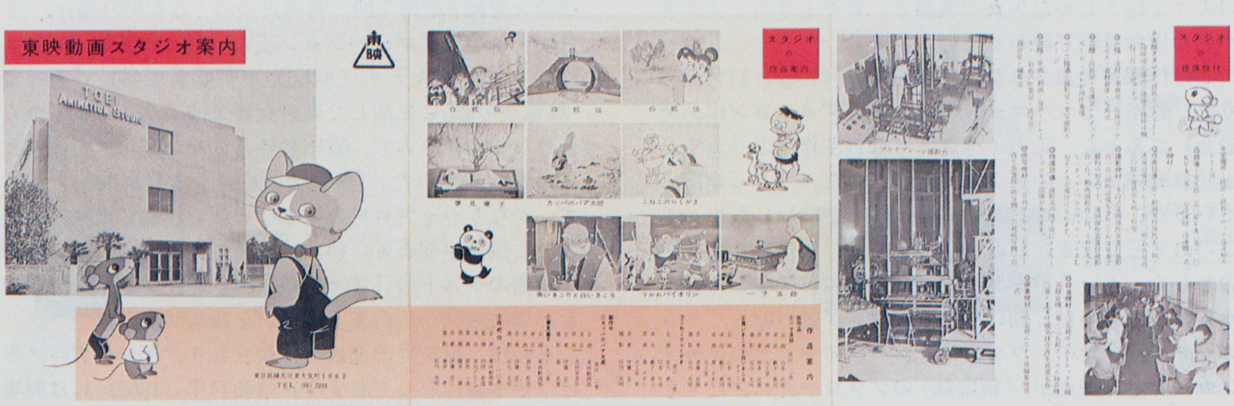
鈴木伸一作「プラス50000年」のプレスシート。超高齢社会への予兆が。

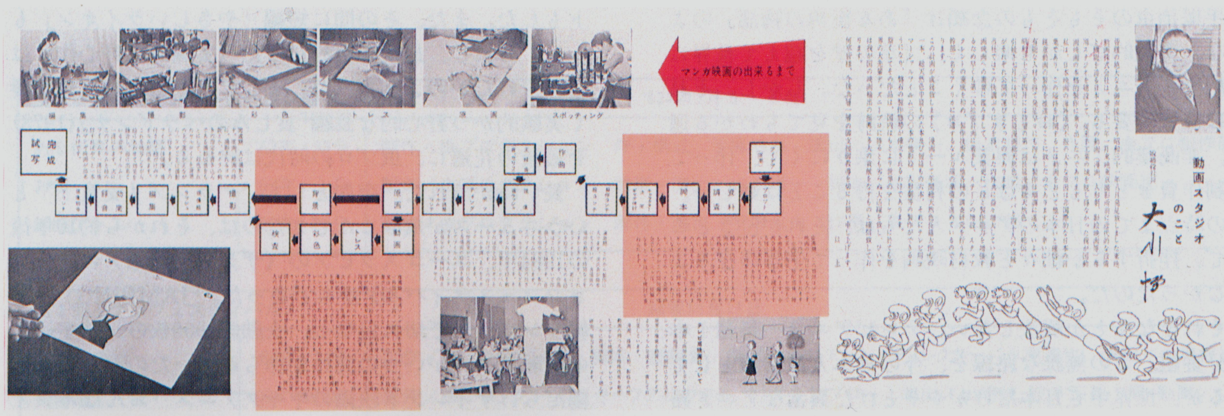


おとぎプロが年に数回出していた《おとぎニュース》。社長やスタッフの執筆、制作ニュースやスタジオのエピソードなどを集めた8ページほどのもの。

おとぎプロ作品リスト

おんぶおばけ	'55年25分	製作・脚本・作画・演出／横山隆一
ふくすけ	'57年18分	製作／おとぎプロダクション　原作・演出・撮影・編集／横山隆一　動画／町山充弘、鈴木伸一、秦泉寺博、前田一
ひょうたんすずめ	'59年55分	製作／おとぎプロダクション 原画・監督／横山隆一 動画／鈴木伸一、町山充弘、秦泉寺博、山本栄一、山田幸弘、永田敏郎、伊藤征史
おとぎの世界旅行	'62年96分	製作／おとぎプロダクション　監督／横山隆一　監督助手／鈴木伸一
プラス50000年	'61年9分	製作／おとぎプロダクション 構成・演出／鈴木伸一　動画／秦泉寺博、町山充弘　斎藤博、滝口明治、壬生理、鈴木伸一
地球村の出来事	'70年3分	製作／おとぎプロダクション　脚本・監督／横山隆一





出来たばかりの東映動画スタジオへ見学に行って、もらってきたパンフレット。「こねこのらくがき」や「白蛇伝」のキャラクターを使ったかわいいもの。制作過程を図解と写真で説明している。この当時アニメーションという言葉は、まだ誰も使わなかった。

5.《虫プロ》の冒険・手塚アニメの冒険

《東映動画》が時代を塗り変え、軌道に乗りはじめたころ、漫画家・手塚治虫も念願のアニメに接近しつつあった。自作の「西遊記」などの長編アニメ化に際し《東映動画》にスタッフ参加して映画の実際を学んだ手塚治虫は、昭和36年（1961）《虫プロダクション》を発足した。どんな作品を作るのだろうと、ファンはワクワクしながら待っていた。やがて「ある街角の物語」のシナリオができ、想像とまったく違う作品なのに驚きもし、感動もした。セリフがまったくないというのも気に入った。ただ、ラストに希望がなさすぎて、「これではあんまり悲しすぎます、なんとかしてください」と山本暎一監督に頼みこんだのを思い出す。そのせいでとまではウヌボレはしないが、ラストは現在見られる通り、ついにおもちゃのクマを抱きしめた少女の笑顔と、青々と芽吹くプラタナスの生命賛歌で終わっている。

この作品が発表されたのは昭和37年（1962）11月5・6日、銀座・ヤマハホールの《虫プロダクション作品発表会》であった。このイベントでは自主作品の「おす」と「鉄腕アトム」の第1回が上映された。今でもおぼえているが、「こんなに動画枚数をかけて動かしちゃって、このあとどうなるんだろう、毎週30分の新作なんて続くのかしら」という不安と、それを押しのけて噴きあげてくる喜びであった。動いた！　アトムが動いた！　ハムエッグが動いた！　ファーストシーンのトビオのオープンカーの全力疾走が、「新宝島」のプロローグにぴたりと重なって、手塚漫画一番最初からのファンは、もう声もなかったのだ。

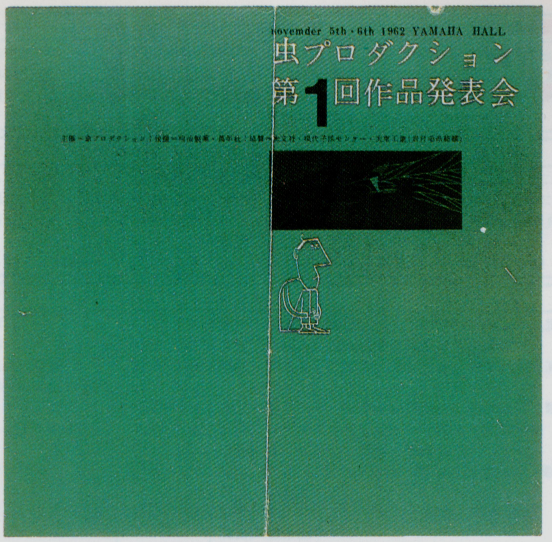
手塚治虫のそもそもの念願は「ある街角の物語」のような、実験的でしかも楽しく、言葉の壁を超えて世界に通用するアニメを作ってゆくことだった。しかし、それにはお金が要る。《おとぎプロ》の軌跡を見てもわかる通り、非商業的アニメは興業ルートに乗りにくく、作っても制作費をとりもどすほどの利益を得ることは難しい。この時点までの日本のアニメ人たちは、それが泣きどころで、挫折するか細々と教材映画を作って生きのびるよりなかったのだ。

それをなんとか解決したい。テレビアニメ…毎週1本、30分番組。この無謀な路線を、今の日本人は常識としているが、世界中で日本だけがやりとげた異常なアニメ路線なのだということは認識しておいていただきたい。しかし、その異常な路線の開拓こそ、定期的な収入を約束し、不安定きわまるアニメの制作を安定させる道だと、当時のスタッフは必死の思いで割り切り、前人未踏の領域へと踏み込んでいったのだ。しかしこれこそが日本の商業アニメを変え、同時に日本人にとってのアニメのイメージそのものを一変させた、新たな、そして重大な大転換であった。

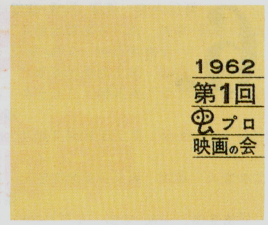
《虫プロ作品発表会》は、このあと昭和41年（1966）11月11日に《虫プロフェスティバル》としてもう一度、港区赤坂の日本都市センターホールで開かれた。手塚治虫自身は「メモリー」「人魚（マーメイド）」などの自主短編を草月ホールのアニメ・フェスティバルに出品している（「人魚（マーメイド）」はディズニーの劇映画「スプラッシュ」のモデルになったと想像される作品）。ここで発表されたのはやはり実験作、ムソルグスキーの名曲のアニメ化「展覧会の絵」と「悟空の大冒険」の第1回、月岡貞夫の「ある男の場合」（草月ホールの《アニメーション三人の会》の後身《アニメーションフェスティバル'66》で奨励賞受賞）であった。「展覧会の絵」に出演した東京交響楽団のライブまでつく豪華なプログラムで、富田勲の「ジャングル大帝組曲」などが演奏された。「展覧会の絵」もまた実験的アニメで、かなりハイブロウなおとなっぽい作品であり、一曲ごとに画調が変わる。総体に皮肉で乾いたタッチ、しかし組曲のラストの「キエフの大門」で、ようやく感動的な手塚漫画調が現れて、ファンを喜ばせた。

その後、虫プロの発表会はなくなり、テレビアニメのほうが本職になってしまう。昭和44年（1969）には劇場用長編「千夜一夜物語」が、45年（1970）にも長編「クレオパトラ」と制作が続いて話題性は凄かったし、ヒットもした。また、その間に短編「やさしいライオン」も……。けれど、最初の目的だった〈実験的な野心作〉は忘れられたかのようだった。そして、その意味では物凄く実験的かつ野心的な長編「哀しみのベラドンナ」(1973)を最後の花道に、虫プロの時代は終わる。

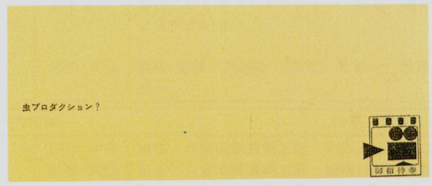
長い時が流れた。突如として〝グランプリ受賞！〞というニュースが飛びこんできたのは、それから約10年後の1984年、ユーゴスラビアの《ザグレブ国際アニメーションフェスティバル》からであった。「JAMPING」…全編ワンカットで切れ目なし、全動画4000枚の、文字通りの実験アニメがいつの間にか作られていたのだ。翌年は傷だらけサイレント映画のギャグアニメ「おんぼろフィルム」が《広島国際アニメフェス'85》でグランプリに輝いた。さらに長年の懸案「森の伝説」(1987) が完成…。そう、手塚治虫はやはり不死鳥〝火の鳥〞であった。



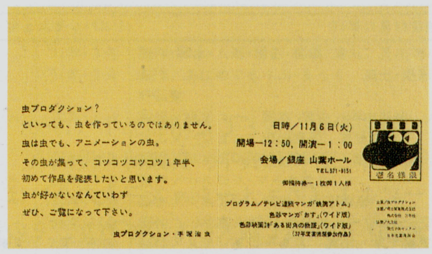
「ある街角の物語」と「鉄腕アトム」が登場した試写会のプログラム。ずいぶんドキドキしながら受けとったっけ。



これはその時の招待券。かなり凝ったものなんですよ。



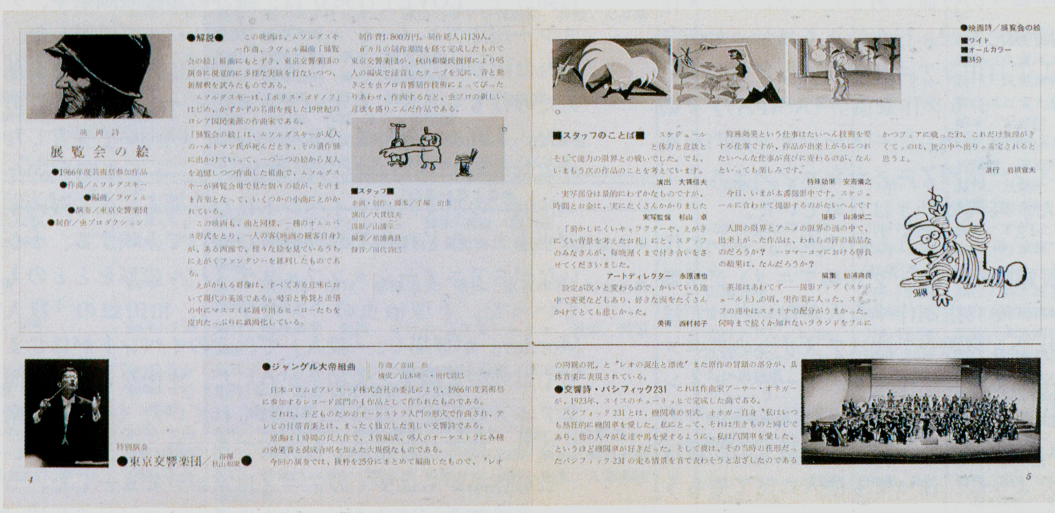
横に開くと、こういうデザイン。シンプルで意外性十分です。



次に下へ開くと、なかに上映作品などの情報が印刷されていました。



こちらは二回目の発表会のプログラム。これ、誰の指紋だったのかな



「展覧会の絵」と「悟空の大冒険」、その上オーケストラの生演奏までついて、ずいぶん豪華な上映会だった。プログラムには「リボンの騎士」の制作がスタートしたことも報告されている。なつかしいなあ。

虫プロダクション第一回作品発表会	'62年11月5・6日	
ある街角の物語	'62年・39分	製作／虫プロダクション　作・構成／手塚治虫　演出／山本暎一、坂本雄作　作画／虫プロ制作部
おす	'62年・3分	製作／虫プロダクション　原案・演出／山本暎一　脚本／紺野修司　作画／虫プロ映画部
鉄腕アトム	'62年・25分	製作／虫プロダクション　原作・演出／手塚治虫　作画／虫プロテレビ部

第2回虫プロフェスティバル	'66年11月11日	
展覧会の絵	'66年・34分	製作／虫プロダクション　脚本・総監督／手塚治虫　アート・ディレクター／永原達也　演出／大貫信夫
孫悟空	'66年・23分30秒	製作／虫プロダクション　チーフディレクター　杉井ギサブロー　演出／出崎統、波多正美　原・動画／山本繁
ある男の場合	'66年・3分	製作・監督・動画／月岡貞夫

6. 草月ホールのアニメ意識革命

時間を少しもどした昭和35年（1960）にはじまった、久里洋二、柳原良平、真鍋博ら漫画家、イラストレーターによる《アニメーション三人の会》は〈非商業アニメ運動〉の最初で最大のものであり、その後の日本のアニメ界を動かし、再形成した大きなイベントであった。ちょうどこの年、ヨーロッパでもそれまでのアニメの流れや映画の世界でのアニメの位置にあきたらないアニメ作家、スタッフ、評論家たちが、行き詰まりはじめた商業アニメに対して新しく自由なアニメの発展のために手を結ぼうと《国際アニメーション作家協会（ASIFA）》を結成し、同時にカンヌ映画祭からアニメーション部門を独立させて第1回アヌシー国際アニメーションフェスティバルを開催していた。時代は動きはじめていた。

それまでアニメーションというものはディズニーに代表される〈劇場用長編映画〉〈ギャグ短編アニメ〉が常識であり、自分でアニメを自主制作する人がないわけではなかったが、その場合も発想や手法はアメリカのアニメの亜流・模倣が大半であった。キャラクターのデザインひとつにしても〝漫画映画のキャラクターはこういう感じ〟と決めこんでいる人が多かった。また最大の問題はここまでにも述べたように、作っても他人に見てもらうチャンスがなく、費用の回収が困難、批評されることも新しい考え方が加わる機会もないという事情が、いよいよアニメの概念をせばめていた。それに対してこの《三人の会》は独自な絵やストーリー、演出による、おとなの風刺、おとなの詩情、おとなの感性を生かしたアニメ制作を奨励しようというもので、引き金となったのはカナダのマクラレン作品。マクラレンの斬新なショックがそれまでのアニメの〈常識〉や〈固定観念〉を、文字通り粉砕したのだった。

ディズニーおよびアメリカのアニメは娯楽として楽しいが、それに追随するのももうマンネリズム。個性を持ったアーチストが作るアニメはそれら商業アニメとは全く違う発想と表現をとろう。アニメの世界はもっと奥深いはずなのだから、何物にもとらわれることなく、新しい、自由なアニメを作って、デザイン芸術に新生面を開こう。新しく自由なアニメとはどんなものか、それは手探りしてゆくほかないが、とりあえず私たちが作った作品を見て、あなたがたも参加しませんか。発足時の《三人の会》の姿勢は、あらましそういうものであった。

昭和52年に新しく建て直した東京・青山の草月会館に現在立派なホールがあるが、その前の旧草月ホールはシネマテークや前衛演劇、ジャズ・フェスティバルなど、映画に演劇に音楽に、独自のイベントが数多く開かれており、《三人の会》もその一環として開催されたものだった。このイベントで発表された久里洋二の「人間動物園」（1962）と「LOVE」（1963）は、海外の短編映画祭や、アヌシー国際アニメーションフェスティバルで受賞した。これは画期的な快挙で、久里洋二自身に大きな自信を与えたのはもちろん、日本のアニメにとっても大事件であった。それまで海外まで名を知られ、映画祭で受賞した作家は大藤信郎だけだったのだから。そして昭和39年（1964）の第4回からイベントは形を変え、広く漫画家、デザイナーなどに作品参加を呼びかけて上映する、小さいながらアニメーションフェスティバルの形をととのえていった。手塚治虫の「メモリー」、和田誠の「殺人 Murder」が登場し、「殺人」で、このイベントがはじまって以来の大爆笑と大拍手がわいた。皮肉なことに、商業アニメの否定と同時に、忘れられていた〈笑い〉の楽しさを、観客が再認識した瞬間であった。

公募作品からは多くのアニメ作家がデビューした。ついに意識革命がはじまり、日本のアニメファンの視線が〈見るだけのサイド〉から〈作るサイド〉へと動きだしたのだ。古川タク、林静一、島村達雄、月岡貞夫、中島興、田名網敬一、福島治…現在の日本の自主アニメの世界を構成する国際的にも名を知られた重要な作家たちが、ほとんどこの時登場している。別の見方をすれば、草月ホールのアニメ・イベントがすべて終了した昭和46年（1971）以後、新しいアニメ作家が登場してくる数が激減したのも事実。いくら趣味とはいえ、他人に見てもらうアテも評価されるアテもないのに自主作品を作り続けるというのは、やはり容易ではないということだ。

草月ホールのアニメ・イベントは日本の作品だけでなく、アメリカの商業アニメとは全く味わいの違うカナダやヨーロッパのアニメを多数招待上映した。これもアニメファンを感動させ、同時に洗脳する大きな効果があった。草月ホールの約10年の歳月が日本のアニメファンと作家に残したものの大きさは計り知れない。意識を変えられた観客たちは、新しい動きを示しはじめる。

"アニメーション三人の会" 第1回発表会		'60年11月26日
二匹のサンマ	'60年・20分	製作/久里実験漫画工房　原作・動画・撮影・演出/久里洋二
切手の幻想	'60年・7分	製作/久里実験漫画工房　作画・撮影・演出/久里洋二
海戦	'60年・20分	製作/柳原良平　動画/大西清　演出/柳原良平
マリン・スノー	'60年・　分	製作/真鍋博　脚本/木島始　演出/真鍋博

"アニメーション三人の会" 第2回発表回		'62年1月19日
あっちはこっち	'61年・25分	製作/久里実験漫画工房　脚本・演出/久里洋二
人間動物園	'61年・2分	製作/久里実験漫画工房　作画・演出/久里洋二
池田屋騒動	'61年・不詳	製作/柳原良平　脚本/酒井睦雄　演出/柳原良平 動画/大西清、下津邦子
シネポエム作品No.1	'61年・7分	製作/真鍋博　出演/槇真理　演出/東松照明

"アニメーション三人の会" 第3回発表会		'63年4月3日
LOVE	'63年・4分	製作/久里実験漫画工房　動画・撮影・演出/久里洋二
軌跡	'63年・3分	製作/久里実験漫画工房　演出/久里洋二
両人侍誉皮切 (ふたりざむらいほまれのかわきり)	'63年・7分	製作/柳原良平　脚本/酒井睦雄　動画/大西清
ヴァイキング	'63年・7分	製作/柳原良平　脚本/柳原良平、亀井武彦　動画/亀井武彦
ほらふき十兵衛	'63年・1巻	製作/ビデオプロモーション　脚本/野坂昭如　動画/大西清、西島行雄、野島進　演出/柳原良平
虫のはなし	'63年・6分	製作/TCJプロダクション　脚本/酒井睦雄　動画/西島行雄 演出/柳原良平
飛ばないジュータン	'63年・6分	製作/TCJプロダクション　脚本/酒井睦雄　動画/大西清 演出/柳原良平
MARCH	'63年・2分	製作/真鍋博　動画/西島行雄
時間	'63年・7分	製作/真鍋博　原案/都築道夫　動画/西島行雄、岡良、山田園子　タイトル/中沢順吉

アニメーション・フェスティバル		'64年9月21日他
ザ・ボタン	'64年・3分	製作/久里実験漫画工房　動画・撮影・演出/久里洋二
男と女と犬	'64年・3分	製作/久里実験漫画工房　作画・撮影・演出/久里洋二
リング・リング・ボーイ	'64年・4分30秒	製作/久里実験漫画工房　作画・演出/久里洋二
アオス	'64年・9分	製作/久里実験漫画工房　イラストレーション/井上洋介「箱型図鑑」より　演出/久里洋二　動画/古川肇郁、林政道
女ー余の助異聞	'64年・7分	製作/ビデオ・プロモーション　演出/柳原良平　脚本/酒井睦雄　動画/大西清
月のはなし	'64年・3分	製作/ビデオ・プロモーション　脚本/柳原良平　脚本/酒井睦雄　動画/亀井武彦
潜水艦カシオペア	'64年・3分	製作/真鍋博　演出/真鍋博
メモリー	'64年・5分	製作/虫プロダクション　演出/手塚治虫　原画/山本繁　動画/沼本清美
人魚	'64年・4分	製作/虫プロダクション　演出/虫プロ演出部　原画/山本繁 動画/沼本清美
アンソロジーNo.1	'64年・7分	製作/横尾忠則　演出/横尾忠則
KISS KISS KISS	'64年・2分30秒	製作/横尾忠則　演出/横尾忠則
白い祭り	'64年・7分	製作/倉橋清、丸茂孝　動画・演出/宇野亜喜良
殺人MURDER	'64年・9分	製作/和田誠　作画・演出/和田誠
ZURAW	'64年・2分30秒	製作/久里実験漫画工房　作画・演出・撮影/古川肇郁
BON PON BON	'64年・2分20秒	製作/久里実験漫画工房　作画・演出・撮影/林政道

アニメーション・フェスティバル'65		'65年10月1日他
道徳的な皺	'64年・5分	製作/シバ・プロダクション　脚本・演出/飯沢匡
隣りの野郎	'64年・9分	製作/久里実験漫画工房 演出/久里洋二 動画/林政道、古川肇郁
宇宙鳥	'64年・5分	製作/真鍋博　原作/都築道夫　演出/富沢幸男　杉山正美 動画/福島治次
チャンダ号	'64年・8分	製作/柳原良平　動画/ビデオ・プロモーション　演出/柳原良平
タバコと灰	'64年・5分	製作/虫プロダクション　脚本・演出・動画/月岡貞夫
精造器	'64年・4分	製作・脚本・演出・撮影・動画/中島興
ひとり	不詳	藤井秀喜
仮面のマリオネットたち	'64年・5分	製作/田名網敬一　動画・撮影/久里洋二　演出/田名網敬一
ギョーム	'64年・4分30秒	製作/勝井三雄　作画/久里洋二、勝井三雄　演出/勝井三雄
死せる兵士のバラード	'64年・6分	製作/朝倉摂　演出/朝倉摂、杉原せつ　撮影・動画/久里実験漫画工房
お前と私	'64年・10分	製作/宇野亜喜良　飾画・演出/宇野亜喜良
サムライ	'64年・8分	製作/久里実験漫画工房　動画・演出/久里洋二
窓	'64年・5分	製作/久里実験漫画工房　動画・演出/久里洋二
怪物	'64年・3分	製作/中原収一、田中邦彦、後藤田純生　動画・演出・撮影/中原収一、田中邦彦、後藤田純生
穴	'64年・5分	製作/柳原良平　脚本/酒井睦雄　動画/亀井武彦　演出/柳原良平
堅々獄夫婦庭教訓 (かちかちやまめおとすじみち)	'64年・6分	製作/東京パブリシティーセンター　原作・作詩・歌 (御詠歌) /高橋睦郎　脚色・演出・作画/横尾忠則
しずく	'64年・2分30秒	製作/虫プロダクション　動画・演出/手塚治虫

アニメーション・フェスティバル'66		'66年10月21日
月夜とめがね	'66年・8分	製作/学研映画局　演出/島村達雄　動画/島村達雄、学研動画スタッフ
ある男の場合	'66年・3分	製作/月岡貞夫　動画・演出/月岡貞夫
幻笑	'66年・2分	製作・脚本・動画・演出/亀井武彦
F	'66年・6分	製作/多摩美術大学アニメーション・クラブ　演出/大井文雄 脚本/安部川寿美子　動画/多摩美術大学アニメーション・クラブ
オンコロ号	'66年・4分30秒	製作/山田幸弘　脚本/山田幸弘　田中資顕　演出/山田幸弘 動画/今井由紀子、鈴木ゆたか、線画/三神あけ美
けむり	'66年・2分	製作・脚本・動画・演出/上田雅一
taberu (たべる)	'66年・3分20秒	製作・脚本・動画・撮影/森脇祥子
国旗	'66年・3分	製作/横山隆一　脚本・演出/今井和也 動画/今中久夫、今井由紀子
草野心平詩集	'66年・5分	製作/西宮正明　演出/西宮正明、山口克己　脚本/和田勝美 挿画/山口克己
遠くまで見える日	'66年・5分	製作/勝井三雄　演出/勝井三男
スマイル	'66年・3分	製作/光延博愛　(カリカチュア) ナガサワ・マコト (デザイン) オガワ・カヅエ　動画・演出/光延博愛　撮影/高橋ヒロカタ
モストン星の話	'66年・2分20秒	製作・監督・脚本・動画/福島治次
うるさい	'66年・2分	製作・監督・動画・撮影/田中邦彦
赤とんぼ	'66年・9分	製作/久里実験漫画工房　脚本・動画・演出/古川肇
午砲〈どん〉	'66・年7分	製作・監督・飾画/宇野亜喜良
サドの卵	'66年・10分	製作/久里実験漫画工房　監督/久里洋二 原画/井上洋介 (漫画集「サドの卵より」)　動画/久里洋二、古川肇
小さな囁き	'66年・10分	製作/久里実験漫画工房　動画・演出/久里洋二　原画/栗原京子
殺人狂時代(AUFOU!)	'66年・15分	製作/久里実験漫画工房　監督/久里洋二　動画/久里洋二、古川肇
ばいかる丸	'66年・15分	製作/サン・アド　脚本・演出/柳原良平
ある街角の物語	'62年・39分	製作/虫プロダクション　構成/手塚治虫　演出/山本暎一 坂本雄作
おんな	'66年・8分	製作・監督/田名網敬一、沢田重隆　動画/久里実験漫画工房
5万匹 (「口鍵」、「見えない壁」「河馬ぞ行く」)	'66年・各4分	製作/おとぎプロダクション　監督/横山隆一　動画/おとぎプロダクション
追跡	'66年・2分	製作・監督/真鍋博　原案/星新一　写真/浅野明　動画/関園子

アニメーションへの招待		'67年9月18日他
フル・フル	'67年・4分	製作/久里実験漫画工房　動画/久里洋二　演出/岡聡
花	'67年・50秒	製作/久里実験漫画工房　動画・演出・撮影/久里洋二
部屋	'67年・5分	製作/久里実験漫画工房　動画・撮影・演出/久里洋二
殺人狂時代	'66年・15分	製作/久里実験漫画工房　監督/久里洋二 動画/久里洋二、古川肇
あなたは何を考えているの?	'67年・10分	製作/久里実験漫画工房　動画・撮影・演出/久里洋二

アニメーション・フェスティバル'71		'71年11月15日他
石	'71年・3分	製作・脚本・人形・撮影・編集・演出/及川功一
'71、夏さっぽろ	'71年・3分	製作/あにめぐるうぷ・まっく　演出・撮影/大山透　動画/日野弘章
ホーム・マイホーム	'70年・4分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　人形/保坂純子 アニメーション/田畑博司　真賀里文子
花	'67年・10分	製作/ALand CLARIRE GUEST　脚本・動画・演出/亀井武彦
クランチ・クランチ・クランチ	'69年・7分	製作/カルロス・マルキオリ
ワッブル	'71年・4分	製作/川口芳宏　演出/大石勝彦
花折り	'68年・14分	製作/川本喜八郎 人形アニメーション/川本喜八郎、及川功一
いったい奴は何者だ	'71年・3分30秒	製作/スタジオロータス　演出/木下蓮三　脚本/木下小夜子 動画/原田かおる
シー・ルック・スクリーン	'71年・6分30秒	製作/木村裕一、神林光二　演出　木村裕一、神林光二
因果律第一楽章	'71年・1分30秒	製作/日下部昭夫　脚本・動画・演出/日下部昭夫
タワシ	'69年・1分	製作/久里実験漫画工房　脚本・動画・撮影・美術・編集/井上敏子
G線上の悲劇	'68年・11分	製作/久里実験漫画工房　動画・脚本・撮影・演出・美術・編集・録音/久里洋二
ザ・オーケストラ	'71年・2分	製作/久里実験漫画工房
てんまのとらやん	'71年・17分	製作/ビデオ東京、アニメーションによる表現の会 脚本/加藤盟　コンテ構成/田中徹　人形アニメーション/中村武雄、高橋千里　人形製作/小室一郎、仲沢照江　演出/中村武雄、河野秋和
ベロ出しチョンマ	'71年・5分	製作/三乗明　原作/斉藤隆介　脚本/山田正弘 動画/三乗明、前田昭
100年、2000万分の1	'71年・7分30秒	製作/すぎもとスタジオ　原作・脚本・作画・撮影・演出/杉本五郎
いいじゃないのさ	'71年・3分	製作/杉本卓
点	'71年・5分	製作/スタジオ・ゼロ　脚本・動画・美術・演出/鈴木伸一
田園調布	'71年・1分30秒	製作/鈴木康彦　動画・撮影・演出/鈴木康彦
笠・かさ・カサ・UNBRELLA	'69年・3分	製作/高橋良輔　脚本・動画・美術・演出/高橋良輔
サヨナラ・マリリン・モンロー	'71年・4分25秒	製作/田名網敬一プロダクション　動画・演出/田名網敬一
広場ーアニメーションへの提案	'71年・10分	製作/田中邦彦　動画・演出/田中邦彦
フォー・ユー	'70年・3分	製作/谷本満由美　脚本・動画・録音・演出/谷本満由美
新・天地創造	'70年・1分	製作/月岡貞夫　動画・撮影・演出/月岡貞夫
あのひとは行ってしまった	'71年・4分	製作/辻伸一　動画・美術・演出/辻伸一
いやな奴	'69年・7分	製作/山下宏　脚本・演出/山下宏・中村武雄　人形/小室一郎
おじいちゃんが海賊だったころ	'68年・4分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　人形アニメーション/及川功一、岡本忠成　人形/田畑精一、保坂純子
カラクリ街道	'69年・3分30秒	製作/久里実験漫画工房　脚本・動画・美術・編集・演出/表賢次郎
小さな私	'71年・2分30秒	製作/久里実験漫画工房　脚本・動画・撮影・美術・編集・演出/石川真知子
サヨナラ・プレスリー・アメリカ	'71年・7分	製作/田名網敬一プロダクション　動画・演出/田名網敬一
ラヴリー・ウーマン	'71年・3分	製作/伴野孝司　動画・撮影・録音・演出/伴野孝司
生物学的サイクル	'70年・6分	製作/中村興　演出/中島興
鬼恋歌	'71年・4分	製作/林静一　脚本・動画・演出/林静一
コスモス	'69年・1分30秒	製作/福島治次　脚本・動画・演出/福島治次
ヘッド・スプーン	'71年・5分30秒	製作/古川タク　演出・美術・動画/古川タク
革命の幻想	'69年・7分	製作/矢崎勝美　脚本・動画・演出/矢崎勝美
ラスト・ワーク	'71年・9分	製作/山下宏　脚本・演出/山下宏、中村武雄　人形製作/小室一郎
ノンリニア	'71年・1分	製作/山田学　演出/山田学
シグナル	'71年・6分	製作/Tokyo Tec. Art　脚本・演出/亀井武彦　動画/福島治次
作品L	'71年・3分	製作/山本繁　動画・演出/山本繁
ザ・バスルーム	'71年・10分	製作/久里実験漫画工房　演出/久里洋二
犬儒戯画	'71年・8分	製作/川本喜八郎　動画・美術・演出/川本喜八郎
POP	'71年・3分	製作/久里実験漫画工房　演出/久里洋二
バラの花咲く時	'69年・3分	製作/久里実験漫画工房　脚本・動画・撮影・美術・編集 演出/猪狩捷子
グリーン・レッド	'71年・12分	製作/田名網敬一、村田定之　演出/田名網敬一、村田定之
林檎	'71年・2分	製作/谷本満由美　脚本・動画・美術・演出/谷本満由美
沙羅双樹の花の色	'71年・3分	製作・動画・美術・撮影・編集・演出/月岡貞夫
水平線はふとりぎみ	'71年・3分	製作・演出/中島興
とびら	'71年・5分	製作・脚本・動画・演出/福島治次
ニューヨーク・トリップ	'70年・5分30秒	製作・動画・美術・演出/古川タク
泉	'71年・2分	製作/山下宏　脚本・演出/山下宏、中村武雄　人形/小室一郎
CMパロディ	'71年・10分	製作/久里実験漫画工房　脚本・動画・撮影・美術・編集・録音・演出/久里洋二
The Room of Yoji Kuri	'71年・15分	製作/久里実験漫画工房　演出/久里洋二

7. パペットアニメーショウ

草月ホールのさまざまなアニメ・イベントが一段落した昭和46年（1971）、銀座・ヤマハホール他で《岡本忠成作品集》の上映会が開かれた。個人作家、独立プロなどの作品だけで、ある程度の時間のプログラムを組み、観客を飽かせないバラエティ性を保証するのはむずかしい。しかし《岡本忠成作品集》の場合は、その時点ですでに大藤賞受賞の「ふしぎなくすり」をはじめ、短編が７本完成しており、これに小室等と《六文銭》の演奏がつく、なかなか楽しい上映会だった。

似た傾向の作品、似た技法の作品がほとんどない。これには心底感心した。総じて個性的な作家の場合（個性のない作家ならなおさら）まとめて鑑賞すると、手の内が見えて興ざめするケースが少なくない。《岡本忠成作品集》は、その点でも見事であった。人形、切り紙、ペーパークラフト、セル、人形にしても作品ごとに内容に合わせて美術デザインぐるみガラッと変わるから、いつも新鮮である。この特徴は現在も同じで、常に〈型にはまらないこと〉を心がけて企画や様式に工夫を凝らすのだということだった。

川本喜八郎アニメに出会ったのは昭和43年（1968）５月10日、新宿のアートシアター新宿文化の地下にあった蝎座。チェコの人形アニメの巨人トルンカに教えを受けて帰国し、自主制作した処女作「花折り」の完成試写会でだった。のちの作品とはかなり違う、はなやかな桜の下のユーモラスな狂言もの。そして昭和47年（1972）、このまったく持ち味の違う二人がジョイント・ショウを開く。川本独自の不条理の美学がいよいよ花開いた「鬼」が登場したショウ、これがその後６回、昭和55年（1980）まで続く《川本・岡本パペットアニメーショウ》である。この期間の二人の新作は、みんなこの会で発表された。

〈パペットアニメーショウ〉とは耳慣れない造語のため、マスコミではしょっちゅう〈パペットアニメーション〉と誤記された。Puppetとは人形のことだ。Dollがじっと静止している、または抱いて遊ぶ、鑑賞用玩具の人形であるのに対し、Puppetは操るなりアニメートするなり、とにかく命を吹きこむことができ、キャラクターとして動いて活躍する人形をいう。このジョイント・ショウの場合、人形アニメだけでなく人形劇のパートもあり、これが大変楽しかったのだ。〈パペットアニメーション＋パペットショウ〉だから〈パペットアニメーショウ〉だったのである。

このパペットショウ、つまり人形劇もユニークで、外国映画の主題曲をバックに現代社会風俗を皮肉ったショウなどは、解説役に映画評論家の淀川長治人形まで登場する凝りかたで、大いに客席を沸かせた。アニメのバックに義太夫を使うというのも、この二人のアイディアだが、岡本の「モチモチの木」に出演した文楽の鶴沢清治・豊竹呂大夫コンビが現代ものの人形劇にも出演して、嫁と姑の神経戦だの鄙びたいオジサンの夢だのを語るのがなんともおもしろかった。人形劇を受けもった川本は、かつて《指座》という人形劇団を組織したこともあり、人形劇と人形アニメそれぞれの魅力をちゃんと心得て使い分け、楽しんでいた。人形劇のほうは、どちらかというとお師匠さんである飯沢匡好みの少々意地の悪いストーリーが多かったような気がする。

江戸っ子の川本、大阪っ子の岡本、気質も体格もまるっきり違い、人形とアニメの魅力の抜群の理解者であるという点を除けば正反対。いずれおとらぬ個性のすばらしさ、その二人のジョイントの魅力は、これまでの日本のアニメ世界にない楽しさで、おなじ好みの――人形の魅力を理解し愛する――ファンをとらえたのだった。

この二人の作品上映はそれぞれ単独でも開催され、また二人のアニメ作品だけのジョイント上映会も「新しいアニメーションの世界」などのタイトルで繰り返し行われ、《パペットアニメーショウ》ともども名古屋、京都、大阪などでも開催された。

人形アニメはセルアニメなどのように量産がきかない。また、劇映画に近い共同作業によって制作されるため、スタッフには美的センスや根気とともに協調性も必要。終日動画を描き、耳にはレシーバー、会話なし、という環境が大好きなタイプの人には勤まらない。川本作品・岡本作品の制作スタッフはほとんど共通している。ここから次の世代の作家がそろそろ出てもいいころだ。

そのほか個人作家では政岡憲三、月岡貞夫、鈴木伸一、相原信洋、古川タク、和田誠などの作品集が上映されている（こうした上映会は途中から各地のアニメサークルの主催・協力が増えていく）が、長期にわたり定期的に続けたのは《川本・岡本パペットアニメーショウ》だけであった。通い続けたファンたちは、みんなどうしているだろう。いわゆるアニメマニアよりは、楽しそうな親子づれが多かったような記憶があるのだが。

岡本忠成　〈アニメーション映画作品集〉	'71年10月16日他	
ふしぎなくすり	'65年14分	製作/電通映画社　脚本/村治夫　演出/岡本忠成　人形アニメーション/岡本忠成、園哲太郎、マガリ文子
キツツキ計画	'66年14分	製作/電通映画社　脚本/村治夫　演出/岡本忠成　アニメーション/岡本忠成、及川功一
おじいちゃんが海賊だったころ	'68年４分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　人形アニメーション/及川功一、岡本忠成
10人の小さなインディアン	'68年２分	製作/電通映画研究所、KKエコー　演出/岡本忠成　人形アニメーション/岡本忠成、及川功一、上原隆蔵、見米豊
ホーム・マイホーム	'70年４分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　人形/保坂純子　アニメーション/田畑博司、真賀里文子
花ともぐら	'70年14分	製作/学研AV局　演出/岡本忠成　脚本/岡本忠成、坂間雅子、来道子　人形アニメーション/見米豊、真賀里文子、及川功一
チコタン・ぼくのおよめさん	'71年10分	製作/学研AV局　脚本/岡本忠成、坂間道子、来道子、田村実　演出/岡本忠成　アニメーション/真賀里文子、秦泉寺博、及川功一
花折り	'68年15分	製作/川本喜八郎　演出/川本喜八郎　人形アニメーション/川本喜八郎、及川功一
小さな騎士たち	'68年12分	久里洋二
花	'68年10分	製作/AL and CLAIRE GUEST　脚本・動画・演出/亀井武彦

川本＋岡本パペットアニメーショウ	'72年10月18日他	
鬼	'72年８分	製作・脚本・演出・人形アニメーション/川本喜八郎
チコタン・ぼくのおよめさん	'71年12分	製作/学研AV局　脚本/岡本忠成、坂間雅子、来道子、田村実　演出/岡本忠成
日本むかしばなし・さるかに	'72年19分	製作/学研AV局　脚本・演出/岡本忠成　人形アニメーション/真賀里文子、見米豊
モチモチの木	'72年18分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　アニメーション/藤森誠代、尾崎良、岡本忠成

第２回川本＋岡本パペットアニメーショウ	'73年10月15日他	
旅	'73年14分	製作・脚本・演出/川本喜八郎　アニメーション/見米豊、荒木靖一、川本喜八郎
旅は道連れ世は情け	'73年２分	製作/KKエコー　原作・演出/岡本忠成　アニメーション・デザイン/秦泉寺博、荒木靖一　作画/小前隆、徳山正美
南無一病息災	'73年18分	製作/KKエコー　アニメーション/荒木靖一、藤森誠代、秦泉寺博　人形/保坂純子、数藤雅三、若佐ひろみ　脚本・演出/岡本忠成
オムニバス・バッハ	'73年１巻	製作/若佐ひろみ、秦泉寺博

第３回川本＋岡本パペットアニメーショウ	'74年10月15日他	
羊の唄	'74年３分	製作・演出/若佐ひろみ
愛こそすべて	'74年２分	製作・演出/吉田悟
GET OFF	'74年３分	製作・動画・演出/シノギノボル
詩人の生涯	'74年20分	製作・演出/川本喜八郎　アニメーション/川本喜八郎、見米豊、石川隆男
12月の歌	'71年２分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　動画/秦泉寺博
小さな５つのお話	'74年20分	製作/KKエコー　演出/岡本忠成　アニメーション/秦泉寺博、尾崎良、吉良敬三、岡本忠成

第４回川本＋岡本パペットアニメーショウ	'75年10月13日他	
ストライプ	'75年２分	製作・演出・動画/若佐ひろみ
大阪のおじょうさん	'75年２分	製作・演出・動画/峰岸裕和
三つのお話	不詳４分	製作/木村浩、椎原保、高橋忠和
花折り	'68年14分	製作/川本喜八郎　人形アニメーション/川本喜八郎、及川功一　美術/壬生露彦、中川涼　演出/川本喜八郎
うらめしでんわ	'75年２分	製作/KKエコー　原作・演出/岡本忠成　アニメーション・デザイン/秦泉寺博
水のたね	'75年18分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　アニメーション/藤森誠代、尾崎良、秦泉寺博、荒木靖一、吉田悟、峰岸裕和、大向とき子

第５回川本＋岡本パペットアニメーショウ	'76年10月13日他	
さくらより愛をのせて	'76年３分	製作/KKエコー　原作・演出/岡本忠成　アニメーション・デザイン/吉田悟　作画/東洋子
ちからばし	'76年10分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　人形アニメーション/尾崎良、峰岸裕和、大向とき子　人形/保坂純子
道成寺	'76年19分	製作・脚本・演出/川本喜八郎　美術/壬生露彦、中川涼　人形アニメーション/川本喜八郎、尾崎良、峰岸裕和、大向とき子
あれはだれ？	'76年21分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　アニメーション/尾崎良、藤森誠代、吉田悟、峰岸裕和、大向とき子

川本＋岡本パペットアニメーショウ　ラフォーレ原宿特別公演	'7610月５日他	
ちからばし	'76年10分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　人形アニメーション/尾崎良、峰岸裕和、大向とき子
人間いじめシリーズ		製作／KKエコー　原作・演出／岡本忠成
道成寺	'76年19分	製作・脚本・演出/川本喜八郎　人形アニメーション/川本喜八郎、尾崎良、峰岸裕和、大向とき子
あれはだれ？	'76年21分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　アニメーション/尾崎良、藤森誠代、吉田悟、峰岸裕和、大向とき子　人形/保坂純子
チコタン・ぼくのおよめさん	'71年12分	製作/学研AV局　脚本/岡本忠成、坂間雅子、来道子、田村実　演出/岡本忠成

川本喜八郎の世界	'82年１月11日他	
鬼	'72年８分	製作・脚本・演出/川本喜八郎　美術/壬生露彦、中川涼　人形アニメーション/川本喜八郎
花折り	'68年14分	製作/川本喜八郎　人形アニメーション/川本喜八郎、及川功一　演出/川本喜八郎
火宅	'79年19分	製作/川本プロダクション　演出/川本喜八郎
詩人の生涯	'74年19分	製作・演出/川本喜八郎　アニメーション/川本喜八郎、見米豊、石川隆男
犬儒戯画	'70年８分	製作・動画・美術・演出/川本喜八郎
道成寺	'76年19分	製作・脚本・演出/川本喜八郎　美術/壬生露彦、中川涼　人形アニメーション/川本喜八郎、尾崎良、峰岸裕和、大向とき子
旅	'73年12分	製作・脚本・演出/川本喜八郎　アニメーション/見米豊、荒木靖一、川本喜八郎
蓮如とその母	'81年92分	製作/「蓮如とその母」製作推進委員会　演出/川本喜八郎

岡本忠成の世界	'83年５月30日他	
モチモチの木	'72年18分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　アニメーション/藤森誠代、尾崎良、岡本忠成
ふしぎなくすり	'65年14分	製作/電通映画社　脚本/村治夫　演出/岡本忠成　人形アニメーション/岡本忠成、園哲太郎、マガリ文子
小さな５つのお話	'74年20分	製作/KKエコー　演出/岡本忠成　アニメーション/秦泉寺博、尾崎良、吉良敬三、岡本忠成
チコタン・ぼくのおよめさん	'71年12分	製作/学研AV局　脚本/岡本忠成、坂間雅子、来道子、田村実　演出/岡本忠成
花ともぐら	'70年15分	製作/学研AV局　画/和田誠〝花とひみつ〟より　演出/岡本忠成　脚色/岡本忠成、坂間雅子、来道子　人形/田畑精一、保坂純子、斎藤堅
水のたね	'75年19分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　アニメーション/藤森誠代、尾崎良、秦泉寺博、荒木靖一、吉田悟、峰岸裕和、大向とき子
あれはだれ？	'76年21分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　アニメーション/尾崎良、藤森誠代、吉田悟、峰岸裕和、大向とき子
南無一病息災	'73年18分	製作/KKエコー　アニメーション/荒木靖一、藤森誠代、秦泉寺博　脚本・演出/岡本忠成
ちからばし	'76年10分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　人形アニメーション/尾崎良、峰岸裕和、大向とき子
日本むかしばなし・さるかに	'72年19分	製作/学研AV局　脚本・演出/岡本忠成　人形アニメーション/真賀里文子、見米豊　人形/田畑精一、保坂純子、数藤雅三
りすのパナシ	'79年21分	製作/電通、電通映画社、KKエコー　演出/岡本忠成
おじいちゃんが海賊だったころ	'68年４分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　人形アニメーション/及川功一、岡本忠成
10人の小さなインディアン	'68年２分	製作/電通映画研究所、KKエコー　演出/岡本忠成　人形アニメーション/岡本忠成、及川功一、上原隆蔵、見米豊
ホーム・マイホーム	'70年４分	製作/KKエコー　脚本・演出/岡本忠成　人形/保坂純子　アニメーション/田畑博司、真賀里文子
旅は道連れ世は情け	'73年２分	製作/KKエコー　原作・演出/岡本忠成　アニメーション・デザイン/秦泉寺博、荒木靖一
うらめし電話	'75年２分	製作/KKエコー　原作・演出/岡本忠成　作画/小前隆、吉田悟、指田英二、槇板千鶴子　アニメーションデザイン/秦泉寺博
さくらより愛をのせて	'76年３分	製作/KKエコー　原作・演出/岡本忠成　アニメーションデザイン/吉田悟　作画/東川洋子
お静かに		
白い象	'81年22分	製作/東映教育映画部、KKエコー　演出/岡本忠成
忘れられた人形	'81年14分	製作/日本記録映画研究所　演出/岡本忠成
ようこそ宇宙人	'66年14分	製作/電通映画社　脚本/村治夫　演出/岡本忠成
キツツキ計画	'66年14分	製作/電通映画社　脚本/村治夫　演出/岡本忠成　アニメーション/岡本忠成、及川功一　人形造形/田畑精一、保坂純子
虹に向かって	'77年18分	製作/電通、電通映画社/KKエコー　演出/岡本忠成
ふらいぱんじいさん	'81年21分	製作/電通、電通映画社/KKエコー　演出/岡本忠成
おこんじょうるり	'82年25分	製作/桜映画、KKエコー　演出/岡本忠成

※上記のリストは、各回の上映パンフレットをもとにしたため、作品分数が必ずしも一定していません。

8. サークル・杉本コレクション・《ぴあ》

《三人の会》とそれに続くイベントがファンの意識を変え、アニメに対する新しい目を開きはじめていくと同時に、自主的な動きがファンの間に発生しはじめた。各地のアニメファンのサークルの誕生である。最初が名古屋の《TAC》(東海アニメーションサークル・昭和41年=1966スタート)。続いて東京の《アニドウ》(アニメーション同好会・昭和42年=1967)、大阪の《AFG》(アニメ・フィルム・グループ、この当時は前身《KAC》同年)。静岡の《しあにむ》(くしずおか〉と〈あにめ〉の合成語・昭和43年=1968)、神戸の《HAG》(阪神アニメーション・グループ・昭和51年=1976)などが結成された。これらの会の活動は、まず自主上映会であり、アニメーションの研究であり、アニメの自主制作であった。それぞれの会が独自の好みで企画を立て、貸出フィルムや大使館フィルム、各制作プロの保存プリントなど借りて上映会を開く。このころには映写機を備えた貸しホールや会議室が、昭和30年代とは比べものにならないほど多くなっていた。

これらのサークルの上映を支えた恩人は、フィルム・コレクターの故・杉本五郎。杉本は映画好きからコレクションをはじめ、日本のフィルム・ライブラリーの不備を憂い、貴重なドキュメントフィルムを中心に収集保存する個人組織へと進んだ。収集したフィルムを映画会社やテレビ局に貸し出して、そのお金でまたフィルムを買う。映画全般に対しての豊富な知識と愛情、とりわけアニメや特撮が大好き。骨身をけずる思いで集めた膨大なアニメの所蔵品を、杉本は各地のアニメ・サークルに、こころよく損得抜きで貸し、自ら重いフィルムをかついで各地のサークルへ出張したこともたびたび。各地サークルが昭和45年(1970)から回り持ちで開く《アニメ総会》にも参加して、映写機を操作し、マラソン上映し、合間には上映作品についての解説、技術論などをあきずに語って、若いアニメファンたちと夜を明かす。それは真にアニメを愛する永遠の青年が、同じ思いの若者と共にアニメを見、語り合うのが楽しく、それだけのために、好意を寄せてくれたように思えた。また、各地サークルもその理解と愛情に応えて、ただの一度も貴重なフィルムに傷をつけるなどのトラブルを起こさなかった。すばらしい信頼関係であった。各地のサークルはみんな杉本をアテにし、支えにして、活動を続けてきた。悲しいことに杉本五郎は昭和62年に再生不良性貧血という難病で、あっけなくこの世を去った。杉本の存在の意味と大きさが、各サークルにひとしお重かった。

名古屋、東京、静岡、京阪神地区それぞれのアニメ・サークルは、こうした上映・鑑賞活動と並行して、それぞれのサークル独自の会報、アニメ研究誌を発行している。8ミリによる自主制作は各地とも娯楽本位で楽しい作品が多い。草月ホールへの応募作品に実験映画的な作風が多く、そんな風潮への反発があったのだと思うが、TACの「太陽と小さな親切」「グロテスク」(神田吉男、加藤高範1968・1969)以来、各地で商業アニメとはまったく違う楽しい作品が数多く作られていった。この動きが後に《PAF》(プライベート・アニメーション・フェスティバル)へと結実するのである。その後サークルは四国、九州ほか各地に増え、大学のアニメ研究会も急増した。東京にはこれら若者アニメサークルとは別に、《アマチュア・アニメーション協会》という社会人の8ミリグループがあり、昭和43年(1968)以来毎年8ミリアニメの新作発表会を開いている。こうしたアマチュアの自主アニメ制作の活発化の背景には、カメラや映写機、フィルムなど8ミリ機材の性能の急速な向上、テレビアニメの大発展によるアニメ用具や画材の普及(セルが大手の画材屋で買えるようになる)、上映会つまり見てもらえる機会の増加、などがあることを忘れてはならない。

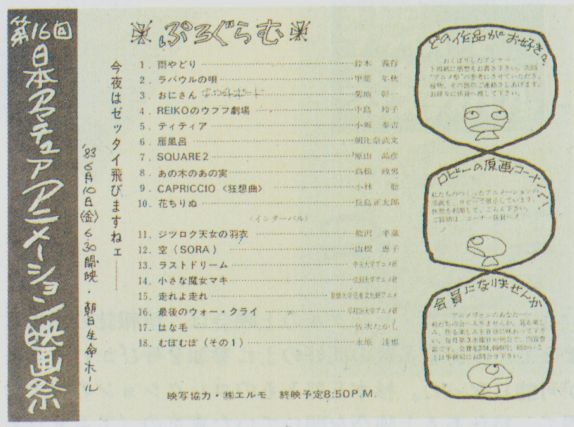
その〈見てもらえる機会〉作りに大きな力を発揮したのが首都圏で昭和47年(1972)にスタートした映画・イベント情報誌《ぴあ》である。興業ルートだけでなく自主上映情報のページがあり、フィルム・センターの特集、上映、ファンクラブや映画サークルの上映会、地域図書館や文化センターなどのアニメの会などまでくわしく掲載されるようになった。たんねんに読みさえすれば、珍しい上映、貴重なチャンスを見逃さずにフォローできる。まさに大転換である。大都会は、どれほど小数派向けの企画といえど、そこそこの動員が期待できる場所なのだ。こうした情報誌の記事による宣伝を頼りに、各種のイベントや自主上映会は、その後いっそう数を増したように思う。後述する《グループえびせん》などの8ミリアニメ自主制作サークルの現在まで10年にわたる上映会持続にも、メンバーの努力プラス情報誌の力が否定できない。《ぴあ》は確実に歴史を塗り変えたのである。



東京《アニドウ》の機関誌 Film 1/24。この号のころの編集長は富沢洋子。杉本五郎はここに「映画フィルムはなぜ？」という、なかなかユニークなエッセイを連載していた。それももう読めない。



アマチュアアニメーション映画祭はいちばん歴史が古い。



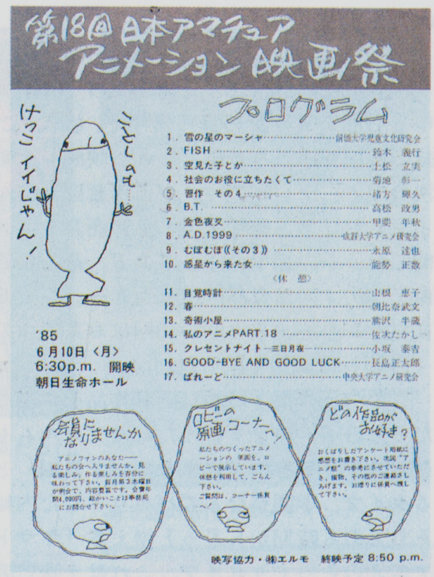
この会は毎年６月に定期的に新作による上映会を開いている。



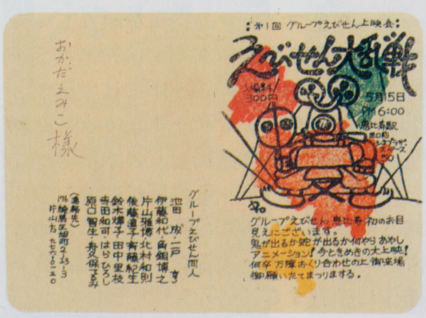
関西ではバツ印のことをペケという。アニメのメの字をペケとしたTACの会報



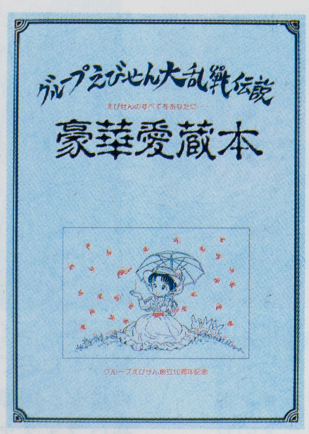
毎年各地のサークルが回りもちする全国アニメ総会のプログラム。



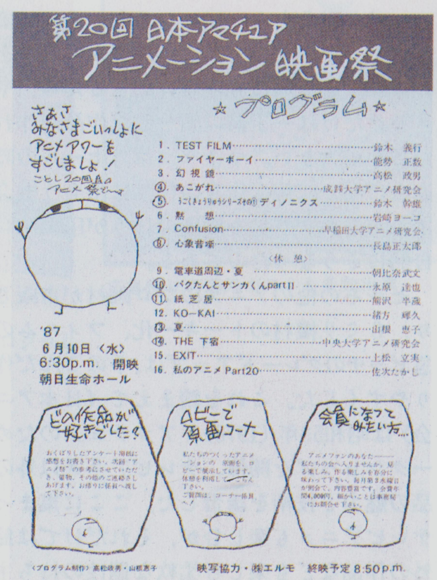
学生会員もいるが古い会員の作品が実に若々しい



アニメ自主制作サークルはたくさんあるが、首都圏でもユニークな《グループえびせん》の招待状



《グループえびせん》上映活動10周年記念の立派なカタログ。表紙は同人の漫画家ふくやまけいこ作。



アニメブームの盛衰とともに観客が増減している

9. フェスティバルがはじまる

こうしてアニメサークルの上映会は、情報誌の活用によって、不特定多数の同好の士に参加を呼びかけることが可能になった。杉本五郎とそのコレクションの協力を得て、特色ある上映会を開いていた東京の《アニドウ》は、レベルアップしてきたアマチュア・アニメに新しい刺激と発表の場をと、昭和50年（1975）6月、第1回《PAF》(プライベート・アニメーション・フェスティバル)を開催した。8ミリを主体とする映画祭である。いわゆる石油ショックの真っ最中で、ものすごいインフレで紙の値段がみるみる倍になり、映画もテレビもどん底状況の中で、テレビアニメが孤軍奮闘。「アルプスの少女ハイジ」と「宇宙戦艦ヤマト」が商業アニメの新生面を展開した、その翌年のことである。最初は杉並の高円寺会館、3・4回は豊島区民センター、5・6・7回が中野文化センター、8・9・10回はお茶の水の日仏会館と、《PAF》は計10年続いた。

このフェスティバルは応募作品をすべて上映する形式だったので、かなり甘ったれたフィルムもあった。撮りかけのカットをつぎはぎして〈予告編〉と称して参加するタイプ、学園祭などでバカウケした内輪ネタのタイプ。そしてある時期からどっと増える「ヤマト」やロボットアニメのそっくりタイプ。これはテレビアニメのパワーが上ってきてアニメ・ブームを迎えたため、アニメ作りのハヤリがそちらへ振れたこと、さらにこのころからビデオデッキが普及しはじめ、好みの番組を録画し、任意のカットを克明に分解研究できるため、やすやすとテクニックだけは一丁前の顔をした作品が作れるようになったことが大きい。つまり〈草月ホールの時代〉が次第に過去になり、個人作家の作品に出会う機会より、テレビアニメをタダで見る頻度のほうが圧倒的になった結果、自然にそうなったのである。

セルその他のアニメのプロ画材が市販されるようになり、8ミリ機材のトーキー化、フィルムの高品質化など急ピッチのグレードアップは、手のこんだ作品をさらに作りやすくした。これを踏まえて《日本アニメーション協会》は昭和53年（1978）、アマチュアのためにアニメのワークショップを開催、テレビアニメ以外のさまざまな作品の魅力と技術を講習した。ここに集まった若い人々はテレビアニメも楽しむが、それだけでは飽きたらず、海外の作品なども楽しむ柔軟な個性の持ち主たちであった。講習会終了後、受講者たちは思い思いにグループを結成、作品発表会を開き、さらにそのグループ単位で《PAF》に登場してきた。テレビアニメの芸のないそっくり作品を粉砕する自由さ、おもしろさで呼び物となった《グループえびせん》は、その後独自の上映会を今日まで続け、結成10周年を祝っている。思えば、このグループが登場した《PAF 5》(1979)、《PAF 6》(1980) のころが、このフェスティバルの最も高潮した時代であった。突如、山口県から現れた《グループSHADO》の達者さに驚いていたら、彼らはのちに「オネアミスの翼」の主力スタッフとなった。現在かなりのプロ人材が《PAF》出身である。

さて、この《PAF》に続いて昭和52年（1977）から情報誌《ぴあ》も《アニメーション・サマーフェスティバル》を発足させた。ここではプロとアマ両方の個人作家たちの作品（《PAF》出品作も含め）を招待上映し、海外の作品も特別上映した。つまりかつての草月ホールのイベントにかなり近いスタイルである。《ぴあ・サマーフェス》でデビューした作家も多い。皮肉なことに、この時代になるとアマチュア作品のパワーが、圧倒的にプロ(かつての草月組）の新作を上回った。やはり時代は少しずつ動いているのだ。

《ぴあ・サマーフェス》は第4回（昭和55年・1980）に早くもコンピュータ・グラフィックの特集を組んでいる。インド生まれでカナダ在住の異色作家イシュー・パテルの作品を紹介し、第10回（昭和61年・1986）にはカナダ・アニメの大特集とパテル自身によるワークショップを開いた。この年、《PAF》が開かれず、かなりの水準作がこちらに集まった。出品作へのパテルの講評が作者たちには思いもかけぬ贈り物となった。この時パテルに評価された作品が何本も、あるいは第一次審査を突破、あるいは紙一重の選外佳作に相当する〈パノラマ〉として、《広島国際アニメーションフェスティバル》の国際コンペに登場したのである。世界に通じるアニメ作家を育てるためにも、国際アニメフェスの登竜門としても、レベルの高いフェスティバルは続いてほしい。しかし……アニメブームが峠を越し、アマチュア作品の熱気が薄れ、そしてついに8ミリがホームビデオにとって変わられて、アマチュア・アニメは現在追い詰められている。これからの展開はどうなるのだろうか。

この会もテレビアニメの盛衰に相当ふり回された。ひところ学園祭でテレビアニメ風アニメを制作上映するのが大流行し、学内でウケた作品をそのまま送ってきた。送られた作品は、すべて上映するのがタテマエなので、この手の、上映時間までテレビなみの作品群には閉口した。



最初のうちは応募本数も少なく、プログラムも一枚ものだった。アニメブームと重なって応募数と観客が急増した７回以後のチラシやプロカットは《えびせん》の片山雅博作。



情報誌《ぴあ》のアニメーション・サマーフェスティバルは毎年あちこち会場を動かしながら続いていた。こちらはプロも出品する。ひところ、アマチュアの作品のほうが元気がよくて、なかなか楽しかった。この会でデビューし、大きくはばたいていった作家もいる。最大の功績は《カナダ・アニメの特集》とイシュー・パテルの招待、彼の講義とワークショップだったといえるだろう。また再開してほしいが、このときのような独自の姿勢がほしい。ここが国際アニメーションフェスティバルへの登竜門になれば最高だと思う。



《ぴあ》の表紙の及川正道チラシ



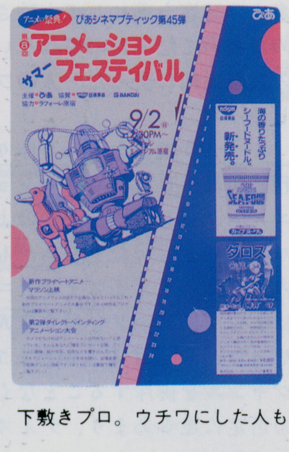
人形アニメとＣＧの特集だった。



第５回の新作アニメラインナップ



ルネ・ラルーの長編特別上映



下敷きプロ。ウチワにした人も



カナダ特集の豪華版プログラム



広島帰りの海外ゲストも多数出演

10. HIROSHIMA, そして…

昭和60年(1985)、アジア地区ではじめての国際アニメーションフェスティバルが広島市で開催され、大きな成功を収めた。それまで誰の文章を読んでも話を聞いても、てんで実感がわかず、見えてもこなかった国際アニメフェスの形がようやく納得できた。まず大きく分けて三つのパートがある。世界中から作品を公募する〈国際コンペティション〉、そのコンペ審査委員に選ばれたアニメ作家たちの〈代表作品集上映〉、そして〈各映画祭独自の企画による特集プログラム上映〉、これらが三本柱になる。何よりの魅力は、大会名誉会長や審査委員には国際的なアニメ作家が選ばれ、その人々の代表作が上映されること。会場で作者本人に会えるのはもちろん、質問をしたり、ファンの感動を直接伝えることさえできる点である。ミーハーといわばいえ、ファンにとってはこれが最大のポイントであるはずなのだが、従来この点が明確に伝わっていたとはいえない。私自身広島で大好きなチェコの作家、ブジェティスラフ・ポヤール本人の姿を見た時はほんとうに驚いた。〈名誉会長と審査委員の作品は特集上映され、かつ本人が大会に出席する〉というルールが紹介されていれば期待も高まったのに……

〈草月ホールの時代〉から長い時が過ぎ、その間にさまざまな流れがあった。商業アニメは、沈滞する日本映画界にひとり気を吐き、ブームを巻き起こし、映画史に残る長編や作者を登場させ、約10年の天下を誇った。今回創刊10周年を祝う《アニメージュ》もまた、そのブームを前提として生まれた。若者向けの映画、良質のエンターテインメントが衰退しきった日本映画界に、アニメが劇映画に代って咲かせたスペクタクルとアクションとロマンの大輪の変種の花たちは、たしかに類いまれな輝きと芳香を放って咲き誇った。その主力は東映動画や虫プロから出発した人々だった。一時期はどんな作品でもヒットしたし、まったく映画に無縁の企業もアニメ制作に乗り出し、日本のアニメ史は大きな変転をとげた。熱気ある日々だった。

《アニメージュ》登場の最大の意義は、従来ほとんど番組宣伝の方法がなかったテレビアニメに、はじめてアニメ誌による総合PRの道が開かれたという点である。これは《ぴあ》の出現と同じように重要であった。ファンは《アニメージュ》および一時期7誌もあった同類誌からアニメ情報をふんだんに得た。ただし、あくまで日本の商業アニメ情報だけ。テレビアニメの熱気が凄く、アニメ誌もファンも、それ以外のアニメがあるとも思わないらしい時代が長かった。アニメを文学にたとえれば、SFと冒険、ロマンスものだけに目がいって、詩や俳句や風刺小説の存在そのものを黙殺するのに似ていた。

さて、話を広島のフェスティバルに戻すと、第1回でグランプリ（手塚治虫の「おんぼろフィルム」）とデビュー賞（高校生・篠塚勉の「風・1分40秒」）を日本が受賞した2年後のHIROSHIMA'87、つまり第2回に、《日本アニメーション映画史》という特集を組んだ。海外のゲストたちにはもちろん、日本のアニメファンもよく知らない日本のアニメ史回顧上映である。現存する作品からバラエティあるプログラムを作るのにスタッフは苦労した。3時間半、合計20本。日本のアニメの歩いて来た道の一部分なりと知ってもらえれば、という企画意図だった。ASIFA（国際アニメーション協会）名誉会長のジョン・ハラスが「日本のアニメの水準に追いつくには500年かかるだろう」と語ったのは、おせじ半分としても、作品の多様性は十分伝わったようだ。和田誠の「怪盗ジゴマ」の初公開もあり（ただし歌詞のまったくわからない外国の人々には理解は無理だった）、閉会式では大藤信郎の「幽霊船」が上映された。晩年不遇だった日本のアニメのパイオニア・大藤信郎の最後の傑作が国内でこれほど多くの観客を前にして上映され、大きな拍手を贈られたのは初めてだったのではないか。私事にわたるが、晩年の大藤信郎に会った一人のファンとして、私は心から嬉しかった。

こういう機会をもっと作りたいし、《アニメージュ》創刊寸前に、日本アニメーション協会が主催した《新宿アニメーション・ランド》のような商業・非商業のジャンルをとっぱらった上映会がもっと開かれていい。そして、内外を問わずさまざまなアニメーションに出会い、型にはまらずにアニメを愛する人（広島大会の観客こそそれだった）、創造する人が増えてほしい。いちがいに特定のジャンルを排斥することなく（かつて一時期、古きものの否定に走るあまり、ディズニーの悪口がオシャレだった時代がある）自分の好みと視点は大切にしたいが、流行で何かを過剰に持ち上げたりおとしめたりすのはやめたい。奥深く楽しいアニメーションの世界を自由な心で愛し続ける人がさらに増えてほしい。私はずっとそうしてきたし、これからもそうするつもりでいる。

'87年広島大会の公式ガイドブック



ガイドブックの表紙、ポスター、チケット、Tシャツその他、全部和田誠さんデザインで統一。白地が多くてスッキリしていた。



日本のアニメーション史もプログラムに…

おそらく、これだけまとまった数の日本アニメ作品を海外のアニメーション関係者に見てもらえたのは空前のことだったはず。いちばん熱心に見ていたのがアニメの研究家でもあるイギリスアニメ界の長老ジョン・ハラスだった。



パイオニアの名作も、パリパリの新作も…

和田誠原画・作曲の「怪盗ジゴマ」は寺山修司ミュージカル。でもこの楽しさは日本人だけのものかも…大藤信郎の「幽霊船」が、こんなに多数の観客の前で上映されたのは、多分最初ではなかっただろうか。



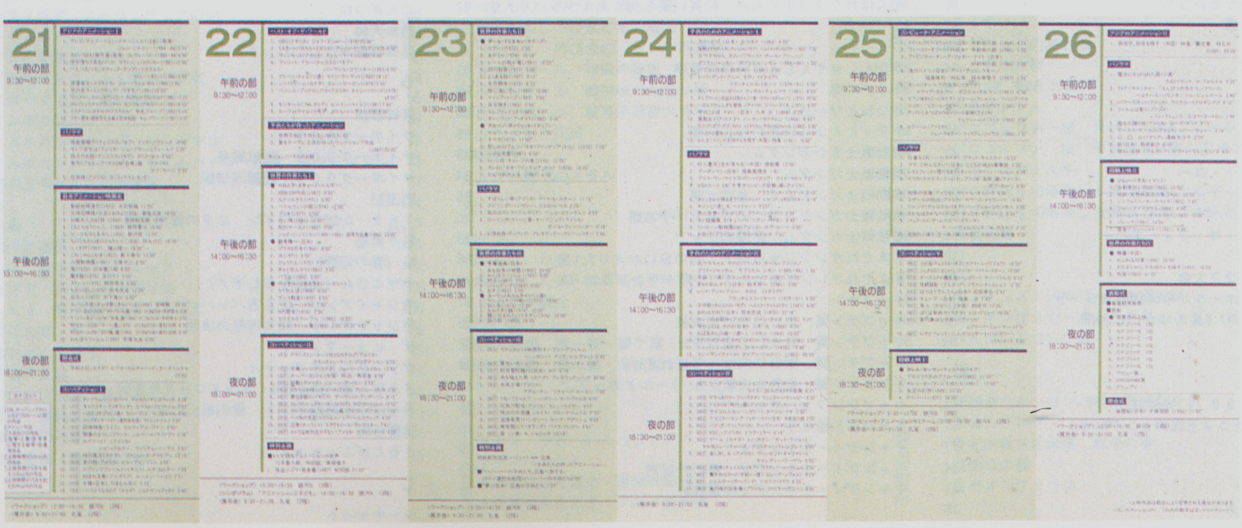
広島大会の会場とフェスティバルアーチ

会場は広島厚生年金会館。2000人入れる新しい立派なホールで、ホテルが付属している。海外のゲスト、特に高齢のカレル・ゼマンのような人には親切な会場だった。



簡易タイプのプログラムも作った

ガイドブック以外にも、プログラムや上映作品の題名、作者、国別がわかる一枚ものの折りたたみ式プログラムを作って入場者全員に配った。裏側は英文。この編集作業もタイヘンだった。



6日間、アニメで明け暮れた広島の日々。こうやって見ると、ずいぶんいい作品と作者が集まってくれたんたなあ、と感慨もひとしお。

索引

劇場アニメ70年史

THE ART OF JAPANESE ANIMATION II
70 YEARS OF THEATRICAL FILMS

〈スタッフ〉
原口正宏／小黒祐一郎／道原蕉子
〈執筆〉
渡辺泰（第一部）
岡田英美子（第三部）
〈執筆協力〉（第二部）
吉成寛／五味洋子／黒トレス／小川雅久／福士光男／寺田欣司／服部清書／永島收／常木健一／沢田史信／荒木和彦／高野正章／弦本英一／小林和彦／野村広／平間徳久／寺田衣里／武富由香子／小笠原勝／町田知之／亀岡修／高見知秀／前田毅一／石坂郁夫／堀内正規／千葉浩通／木村光伸／三浦忠夫

〈資料協力〉
東映動画／東映／日本アニメーション／グループ・タック／虫プロダクション／サンライズ／東京ムービー新社／シンエイ動画／スタジオコメット／手塚プロダクション／ナック／博報堂／エイケン／ビデオ東京プロダクション／シュンマオ／スタジオコメット／イルカオフィス／おとぎプロ／創映新社／愛企画センター／スタッフ21／ウェストケープコーポレーション／学研／東宝／キティ・フィルム／博報堂／小学館／岩波映像販売／サンリオ／日本ヘラルド映画／ＯＨ！プロダクション／新潮社／共同映画／シナノ企画／フィルムリンク／東京中央プロ／日本動画ＫＫ／カマクラスーパーステーション／少年画報社／プラネット映画資料図書館／マジックバス／東宝ビデオ事業部／白根基万／山口且訓／南佳彦／前田毅一／沢田史信／石坂郁夫／弦本英一／高野正章／高橋忍／大塚芳行／岩村達郎／小室穂高／石井啓之／鹿島達也／庄司和彦／平出文己男（順不同）

〈編集協力〉
山口裕幸／松野本和弘
（株）パンアート
〈デザイン〉
真野薫／及川広樹（テン・グラフィス）　武井明（武井デザインルーム）
〈写植・版下〉㈱パンアート

—参考文献—

活動之世界（大正６年７、９月号、大正７年10月号）、キネマ旬報（戦前、戦後版）、キネマ旬報別冊・日本映画作品大鑑①～⑥、映画旬報（戦中版）、映画評論（戦前、戦後版）、映画教育、活映（戦前版）、視聴覚教育、松竹六十年史、東映十年史、東和の40年、映画年鑑、ユニ通信、日本映画発達史①～⑤（田中純一郎著、昭和51年刊、中公文庫版）、日本教育映画発達史（田中純一郎著、昭和54年蝸牛社刊）、アニメーション入門（森卓也著、昭和41年美術出版社刊）、日本アニメーション映画史（山口且訓・渡辺泰共著、昭和52年有文社刊）、THIS IS ANIMATION　アニメーション年鑑1983、同1984（小学館）、アニメ青春グラフィティ（集英社文庫）、朝日新聞縮刷版、文藝春秋デラックス「アニメーションの本」（文藝春秋）、リスト'84　（リスト制作委員会）、日本アニメーション映画ポスター史（上、下）（徳間書店）他

■データその他について万全を期したつもりですが、万一お気づきの点がありましたら、編集部までご一報下さい。

発行者　尾形英夫／発行所　株式会社徳間書店／東京都港区新橋4-10-1〒105-55　電話東京（03）433-6231振替口座東京4-44392
編集　アニメージュ編集部／印刷・製本　大日本印刷株式会社／Ⓑ　Printed in Japan

THE ART OF JAPANESE ANIMATION II

劇場アニメ70年史

──ジ・アート・シリーズ15──

定価2680円

1989年1月1日　第1刷発行

表紙デザイン　TEN☆G
編　　集　アニメージュ編集部
発 行 者　尾形英夫
発 行 所　株式会社徳間書店
東京都港区新橋4-10-1 〒105-55
電話東京03(433)6231
振替口座東京4-44392

印 刷 所
製 本 所　大日本印刷株式会社

Printed in Japan

定価 2,680円

雑誌65297-15